R291.033
N77
(4)

始

33 5.28

721

R291.133
N 77
(4)

日本地名大辭典

第四卷

サ—チ

發行 發賣
日本書房・平凡社

日本地名大辭典

第四卷

740
9

サ

サ　左面　朝鮮黄海道金川郡の北部。東は西泉面、北は新溪郡美水面、西に好賢面、南は白馬面及び口耳面に各々相接す。東北境に鬼峰（三二一米）の聳立する外は概しきものなく、一般に花崗岩性丘陵地帯を成し、其中部を縫流江支流の九龍川西方に流れ、沿岸に耕地連なるも灌漑不便なりしが、大部分畑作農業行はれ、大豆・大豆の生産を主とし米に比較的少なく、其他、粟・稗・稷の飼育行はれ又薪炭・人蔘等の産あり。道路は四方總督府設置京義線南川驛より二等道路を通じ、郡の中央を横断して東方甘潭に通じ乘合自動車の便あり。聚落は多く河岸に分布し、其主なるものは上流より龜城里・高山里・松洞里・塔峴里・白花里等ありて面事務所を龜城里に置く。

サ　佐島　愛媛縣越智郡弓削村の屬島。東北に弓削島、西北に赤穂根島・岩城島・生名島等浮ぶ。島形南北に長く、東西に狭し、南北約三・五粁、周圍約一一・七粁。西海岸に稍々低平なるも他は概ね高く樹木繁茂す。西北海岸に佐島・粟手、東北海岸に江尻の聚落あり。東北端より弓削島に、粟手より生名島に渡船の便あり。

サ——サイ

サアイ　佐合島　山口縣熊毛郡にある島。同郡佐賀村に屬す。南北約二粁、東西約一粁のやや西北—東南に偏するも、南北に長方形をなす。西北方に馬島、西方に生島あり、南方長島との間に幾石瀬戸を挾む。島内は一〇〇米内外の丘陵連りて最高一二二米。東岸中部に聚落發達す。

サイ　西院　京都の古地名。其地はもと京都府葛野郡の村にしてサイヰンと稱せしが、大正六年京都市に編入、いま右京區に屬し、西院を冠する町名にその名殘り、西院三蔵町には京阪電鐵の西院驛（昭和三年設置）あり。西院の名稱は平安京右京の西洞院大路をまた道祖大路即ちさるの大路と稱せしに始まり、後これを西院にも作る。淳和天皇の仙洞ここにあり、依りて淳和天皇をまた西院帝とも申し奉る。

サイ　佐比里　山城國（京都府）の古地名。三代實錄貞觀十三年八月、山城國紀伊郡石原西外里と共に百姓菲逸放牧の地と定められる。即ち平安京の右京の佐比大路の末にして、桂川の左岸の河原に當り、凡そ今の京都市下京區吉祥院石原町の邊をいふ。

サイ　佐井・佐尉・佐位　【佐井村】　青森縣陸奥國下北郡の西部。津軽海峡に面し、西に津軽半島を眺め、北に渡島の山々を望み函館山は指呼の間にあり。郡の中央の田名部町に五八軒、海路函館市に四五粁、青森市に八二粁なり。地質は凡そ第三紀層にして、南北に狹長なる地形をなす。背後は大荒川山・福浦山・佐渡平山が山系をなし、海岸に迫りては險崖絶壁をなす。間して點々と散在する入江に部落發達す。主なる産物は鮑・昆布・車胡・鰯・木材・木炭等にして、住民の六割は漁業を以て生業とす。縣道は此地を基點にして、北岸大間を經て田名部に至る。西岸に浴ひ矣越・磯谷・長後・福浦・牛滝の各部落に通ずる陸路あれど、頗る險坂なれば概ね舟便を利して交通す。當村より湯ノ川越の山道を經て川内に通ずる道あり。海路の青森・函館には定期汽船の便あり。また函館に通ずる海底電信接續所ありて、沿岸中の小繁盛地たり。齊明天皇四年、阿倍比羅夫東征の際蝦夷振鉏の蝦夷二十人を招き饗宴すとある鉏は即ちこの佐井の夷ならんとの説あり。また天喜五年源頼義はこの地の蝦夷を徴發し前九年の役に安倍頼時を誅せりと陸奥話記の中に見ゆ。藩政時代は南部藩の所領となり田名部代官所の支配をうく。明治二十二年町村制施行の折、長後及び佐井を以て佐井村となし現在に至る。（八幡宮）大字佐井に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊。社傳によれば貴永二年藤盛岡藩主南部大膳大夫重信の勸請に成るといひ、一に康平五年源頼義の勸請ともいふ。例祭、八月十五日。

〔佛ヶ浦〕　大間崎より半島の西岸、南牛首崎に至る間は第三紀層又は火山岩の險崖にして一部分は古生層露出し、中にも佛ヶ浦の奇岩は有名なり。凝灰岩の浸蝕されたる種々の奇岩は名づけて親子岩・十三佛・[illegible]・那須の四[illegible]・五百羅漢と呼び、春より初秋にかけて探勝するもの多し。

【佐位・佐井（郡）】　上野國（群馬縣）にありし舊郡名。續日本紀・神護景雲元年紀に郡名見え、延喜民部省式及び伊呂波字類抄・和名抄に佐位に作り、和名抄は名橋・岸新・反治・佐位・潤名・雀部・美侶の七郷を置く。また拾芥抄は佐井に作る。明治二十九年那波郡と合併して佐波郡を建つ。

【佐井・佐位】　上野國（群馬縣）の古地名。和名抄、佐位郡に佐井郷あり、蓋し郡家のありし地なるべく、延喜兵部省式に上野國佐位驛馬十疋、傳馬五疋とあり、郡家が驛傳を兼ねたるものなるべし。中世に秀郷流の氏族、林氏の一流に佐井氏あり、郷名を負へるものならん。その地いま詳かならざるも、佐波郡東村の邊に當るか。

【佐井・佐尉】　因幡國（鳥取縣）の古地名。和名抄、八上郡に佐井郷あり、その地今の八頭郡河原町の邊に當るか。因幡志に延喜兵部省式に因幡國佐尉驛馬八疋とあるは、佐井郷の地なりといふも詳かならず。一に氣多郡（今の氣高郡）の内なるべしとも云ふ。

【佐賀】 筑前國（福岡縣）の古地名。延喜式に佐賀驛馬五疋と見ゆ。蓋し筑前に入る首驛にして凡そ今の福岡縣糸島郡福吉村大字鹿家の地ならんといふ。

【佐井・佐賀】 豐後國（大分縣）の古地名。和名抄、海部郡に佐井郷あり、その地は今の北海部郡川添村・丹生村・大在村・小佐井村の邊に當る。風土記、海部郡「佐賀郷・在二郡東一、此郷有名酒井、今謂佐賀郷・者訛也」とある佐賀郷も此の地なるべし。

サイ　佐爲　佐渡國にありし古地名。和名抄、賀茂郡に佐爲郷あり、その地は今の新潟縣佐渡郡吉井村の邊なるべし。

サイ　西

【西ノ湖】 栃木縣上都賀郡日光町にある湖。中禪寺湖の西、千手原の西南方、黒髪山（一九四五米）・宿堂坊山（一九六八米）の山麓にある小湖。海拔一三〇五米、面積〇・七方粁。西方より二三の溪流が注ぎ東に排水す。冬期は地下より湧水し水位七米餘も低下し、湖面も二分の一以下に減ず。南半が深く最高水位の時に於ては水深一九米餘に達す。水色は綠・淺明度四—七米。水温は夏期に於て表面二〇度底部六度、冬期に於ては表面一・六度底部三度。水は中性、溶解性酸素は夏期は底部零となり冬期にてもかなり不足す。沿岸植物なく湖内浮游生物に乏しく既棲動物は Chironomus plumosus 代表的にて、正貧榮養湖に屬す。現在鱒放養さる。

【西湖】 →西湖村（山梨縣）

サイ　犀川　→犀川（サイガワ）

サイイン　西院　→西院（京都府）

サイウン　彩雲面　朝鮮忠清南道論山郡の西南端。東は恩津面、北東は城東面、西は江景邑、南は全羅北道益山郡望城面に各々隣接す。錦江とその支流論山川との合流點に近く、所謂江景平野の一部を成し全域錦江及び論山川の洪滴地にして土地極て低平なる沃野を成し、米穀の生産は本道第一の稱あり。氣候は比較的温和にして内地の中部地方甲府・松本と大差なく、厳冬は兩地方に比し稍氣温の低下を見る。主産物は米・大麥、其他雜穀・蔬菜・煙・棉等を主とす。總督府鐵道湖南線は中央部を東北より西南に斜斷し、東方に論山驛、西方に江景驛（共に明治四十四年設置）あり。兩驛より各乘合自動車を通じ、道路よく改修され、江景邑を起點として東南礪山に通ずるもの、東方恩津に通ずるもの、論山—江景間を結ぶもの各城内の主要部を通過し、交通極めて便なり。集落は城内に密過的に分布し、中里・下里・上里・三互里・山陽里・堤内里・花亭里等その主なるものにして、面事務所を上里に置く。

サイエン　西遠鐵道　私設鐵道。静岡縣にあり。濱名郡北濱村の貴布彌驛より起り引佐郡龍玉村の宮口驛に至る。全長四・二粁。大正十三年に開通。軌間〇・七六二米、省線と連帶せず。

ザイエン　在遠島　朝鮮全羅南道西海岸の島。務安郡荏子面に屬し、東は在遠東水道を隔てて面の主島たる荏子島に、西は在遠西水道を隔て大老鹿島に對し、南北の長さ三粁餘。島頂は海拔二三二米、三角塔形を呈し航行船舶の好目標なる。島岸は中部の東西兩側に小沙濱ある他は概れ險峻なるも、島の北端と大蒙耳島の北西端の中央は偏北風の際以外大形船舶も泊し得べし。集落に在遠里あり。前記兩水道は何れも深水無碍なるを以て北方より木浦に至る船舶の必要航路たり。

サイガ　雑賀　和歌山市の地名。もと雑賀村と云ひ海草郡の村なりしが、昭和二年和歌山市に編入す。同じく同市に編入せし雑賀崎村と共に中世は雑賀庄と稱す。萬葉集に寄日高浦・左日鹿野と見ゆるも此地に當る。足利氏の末、浪人の潜伏せる者多くまた雑賀衆の本據とす。天正五年織田信長石山本願寺攻撃の際、鈴木孫市・土橋平之丈等ここに一揆を起し信長に抗す。即ち信長は海陸兼進より雑賀を攻めしむ。鈴木孫市なる[illegible]に富み能く之を守りしも、神[illegible]撃に支ふる能はず、爾来本願寺を援助せざることを約して降る。同も後本願寺を助くること常とす。同八年本願寺の顛如、石山を退去して此地に來る、同十三年三月豐臣秀吉大軍してこれを攻む。一揆は國造忠輝を主とし小雑賀の大田村に據りて抗爭す。よりて紀ノ川を溯ぎて水攻とす。一揆降るや土民を許し、見懲の徒五十餘人を斬り、中村一氏をして之を守らしむ。

サイカイ　西海

【西海村】 石川縣能登國羽咋郡の西北部。富來町の西方約四粁、南方日本海に突出する半島の先端にして北は西浦村、東北は西帽穩村に續き、東南は富來町との間に富來灣を抱く。面積四・二七方粁、風至山地の西端にて高さ一〇〇米内外の臺地をなして海に迫り山林多く田畑少し。米藏を產するもその類多からず。南岸に高岩鼻突出して西に千浦、東に風無の小漁地あり。冬季の西北風を避ぎり漁船の投錨地となりて附近水產多し、道路は海岸に沿ひて通ずるも陸上の交通なほ便利ならず。村内に風無船留燈臺あり、昭和八年の設置にして、燈質は不動白光、光達距離は八浬とす。

【西海道】 我國八道の一。今の九州地方の稱。いま筑前・筑後・豐前・豐後・肥前・肥後・日向・大隅・薩摩・壱岐・対馬・沖縄の八縣[illegible]古史の所謂筑紫の地にて、初め之を分ちて筑紫・豐・火及び日向の四國とす。西海道の史に見えたる最初は續日本紀文武天皇の大寶元年の條なり。而してのち筑紫・豐・火の三國は各々筑前・筑後・豐前・豐後・肥前・肥後の六國となり、之に日向を加へ七國となし、更に壱岐・対馬二島を加ふ。其後、薩摩及び多禰島設かれて八國三島となりしも、和銅六年に大隅國を置き九國三島となる。平安時代の初め、天長元年に至り多禰島を大隅國に編入せしより九國二島となり、明治に至り琉球の我が版圖に入るに及び、これも西海道に入れ以て今日に至る。古來、西海道は我國の西邊に位せるを以て、外國との交渉常に此の地方より始まる。されば往昔は太宰府を置き、重臣を派し外交に關する事務を掌らしめたり。

サイガサキ　雑賀崎　和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年和歌山市に編入す。※鈴賀

サイガタ　犀潟　信越本線の一驛（明治三十年設置）。新潟縣中頸城郡潟町村にあり。

サイカトン　崔家屯會　關東州旅子廳民政署管内の東北部。東は城子疃會、南は爽心子會、西は貴子河會に隣り、北に滿洲國奉天省復縣と界す。北境に丘陵性山地ありてその支脈中部を南方に延び會内を東西の二低地に分つ。東部は爽心子河、西部は貴子河の流域にて土地平坦にして耕地あり。高粱・大豆・粟等の農產を出す。道路は中部を横に貫くも交通なほ便利ならず。

サイガネ　西金　水郡線の一驛（大正十五年設置）。茨城縣久慈郡下小川村盛金にあり。

サイカワ　犀川

【犀川】 石川縣石川郡にあり。富山縣との境界なる大門山・奈良岳（一六四四米）の北斜面に發源す。二又川・倉谷川は犀川村大字二又の地にて合流西北流して字駒歸に至る。それより富樫斷層線に至り金澤平野に流出し金石町にて日本海に注ぐ。駒歸より上流は河岸平野の發達なく森林地域にして杉・扁柏・赤松・黒松・櫻等の植林行はる。駒歸より下流には河岸段丘發達し、水田及び集落點在す。金澤平野と山間谷間との境には加賀百萬石の舊城下金澤市あり。川は金澤市の南部を貫流し、河岸はもと士族屋敷町たり。金澤市と河口金石港間約一〇粁は平野を緩流し、和船時代加賀藩の貨物運搬の動脈をなす。全長約五六粁。

【犀川村】 石川縣加賀國石川郡の中部。犀川上流一帶の地を占め、地東南より西北に延び、東南は富山縣東礪波郡上平村及び西礪波郡太美山村に界し、東北は湯涌谷村、北は河北郡淺川村及び金澤市の東南邊に接し、西は内川村、西南は河内村に隣す。自山火山群の北より石川・富山兩縣界を北に連亘する大門山脈とその支脈のなす山地にして、東境にはその主峯大門山（一五七二米）をはじめ、月ケ原山・大倉山・高尾山等、西境には奈良岳（一六四四米）より奥三方山・口三方山・三輪山・兜山等となる支脈北方に連り全村殆ど山地をなし、二又川・倉谷川に南境に發源して北流し、やがて合して犀川となり、東西兩境の山地の中間を西北に下りて細き谷を作り金澤市に出づ。山林多きも北部犀川に沿ひて幅狹き平地ありて水田をなし米產あり、また鹽を出す。

〔倉谷鐵山〕 金銀鉛山。鐵石は第三紀の凝灰岩と石英粗面岩との接觸面に胚胎して、方鉛鐵を主とし、これに閃亞鉛鐵・黄鐵鐵を隨伴す。天正年間の開鑿と傳へらる。

【犀川】 長野縣にあり。信濃川の上流なる千曲川の一支。上流は奈良井川と梓川とに分る。梓川は日本アルプスの鉛ケ嶽（三一八〇米）・穂高嶽（三一〇三米）・常念嶽（二七五七米）の山中に發源して南流し、高原避暑地として有名なる上高地をすぎて東南流し、南安曇郡安曇村の南境にて東北流し來る奈川を容れ、更に山地を切り峡谷をなして東北に流れ、松本盆地に出づ。盆地中は稍々伏流性を帶び分流をなして南安曇・東筑摩の兩郡境を東北流す。松本市の西北方盆地の東縁山地の麓下にて、鳥居峠東南方より發し盆地の南部の水を集め來る奈良井川に入り、それより犀川の名を以て呼ばれ、松本盆地を北流し、青木湖・木崎湖等より發し松本盆地の東北縁を南流し來る高瀬川を南・北安曇・東筑摩の三郡の交界附近にて合せて北東方に流れ、第三紀層の山中に入り、曲流をなして更級・上水内兩郡境を流れ、長野市の西南部川中島村（更級郡）にて善光寺平に出で、ほゞ東流し、上高井郡川田村にて千曲川に合す。流程約一三二粁。本川—古來水害の多き川にしてその改修計畫漸々進捗す。これは主として下流地域に多く上水内郡小田切村より千曲川との合流點までの間にして近年政府事業として完成す。

【犀川村】 福岡縣豐前國京都郡の西部。今川の中流に跨り行橋町の西南方。北は久保村・稗田村・今川村に、東南は豐津村・節丸村・城井村・伊良原村に界し、西は田川郡赤村・勾金村に隣りす。西北境に嶋知山塊の一峯飯嶽（一名大坂山、五七三米）聳立して、それより東に山嶺延びて北境を限り、また西境及び南境には高度五六百米程度の山地起伏して東及び東北方へ緩く傾斜す。今川中部を西南より東北に流れ、それに沿ひて耕地よく拓け豐前米を主とし麥・繭等の產あり。行橋町にて省線日豐本線より分岐する田川線は今川に沿ひて通ず。犀川驛（明治三十年設置）を置く。此地は和名抄、仲津郡高屋郷の地とす。いま大字高屋・下高屋として其名殘る。もと東犀川・西犀川・南犀川の三村なりしが、明治三十八年二月合して犀川村と稱す。「生立八幡神社」大字木山に祭座。鳥社。祭神、應神天皇・神功皇后・比咩大神。創立年代不詳。口

神に依れば、神功皇后三韓征伐より飄旋ありて筑紫蚊田にて誉田の皇子を產み給ひ、のち此地に來り給ひしが、皇子は石と御母の御膝とに倚り添ひて始めて起ち給ふ。故に右三柱を祭り生立八幡宮と號すといふ。例祭、五月十日・九月一日。〔藏持山神社〕大字上高屋に鎭座。郷社。天忍穗耳命・伊弉諾命・伊弉冉命等を合祀す。創建年代不詳なるも、社傳によれば推古天皇御宇の創立なりといふ。例祭五月一日。

サイカワ　齋川村　宮城縣栗城郡刈田郡の東南部。北は白石町との間に大平村を挾み、東南の一部は伊具郡群野村に界す。西部及び東南部は一帶に山地にして、北方及び中央部は二三の小丘あれども概ね平坦なり。小原山嶺は本村の西方を念傾斜にて南北に走り、最高嶺を櫻現堂山と稱す。東壇山地は緩傾斜にて南北に走り毛無山（三一五米）最も高し。齋川は曲折して本村の中央部を流る。本村に二箇の沼あり、一は馬牛沼、他は鹿子沼と稱し、共に灌漑・養魚の利あり。東北本線及び國道陸羽街道は齋川に沿うて中部をほゞ南北に貫通し、越河驛（南隣越河村にあり）に最も近く、白石町より八キロの便あり。孫太郎虫は往古より全國的に名聲を博し年產額約一萬圓、その他修技・蛙屋柿は最近品種の改正と販路の擴張とを計りたる結果、關東及び大阪方面の需要激增し年產額二萬圓を超え、凍豆腐も農家冬季の副業にして年產四五千圓を超ゆ（以上數字は何れも昭和十二年現在）。桓武帝の御代坂上田村麿東北の蝦夷征伐の折、當村にて兇賊を退治せられたるが、其際この地に於て齋戒沐浴せられしにより齋川の地名を生ずといふ。馬牛沼はその形馬と牛の臥せるに似たるによりこの名ありといふ、年二度の沼干しに遠近の客來り賑ふ。この沼に產する鯉は美味なり。〔孫太郎虫〕齋川村の名產。「奥州齋川名產孫太郎」なる行商のふれ聲は古來小兒の疳の妙藥として喧傳せらるる。本虫は昆虫類脈翅類蛇蛉科に屬せる（ピトンボの幼虫にして學名をNeuronius grandis と稱し、之を竹串にさして燒きて藥用に供す。體長約五〇粍、黑褐色にて頭部には一對の觸角及び一對の棄眼（六箇より成る）を有し、胸部は前・中・後の三節より成り前胸最も大なり。腹部は九節より成り、各節に一對の葉狀物及びその基部に存せる總狀の氣管鰓を有す。〔甲冑堂〕高福寺中の小堂。佐藤權信の妻及び忠信の妻が各々亡夫の甲冑を著し、その姿を甚似て母を慰めし甲冑姿な木像にして安置す。明治八年火災に罹りしも昭和に至り再建す。一に故將堂ともいひ越王堂・小鹽堂にも作る。〔大儀寺〕臨濟宗妙心寺派僧山寺來。慈雲山と號す。草創年次不詳。松岩の中興なり。本尊聖觀世音像は行基の作と傳ふ。此像初め源頼義の念持佛たりしが頼義東征の際に一宇を創して之を安置せしが、其堂幾亡ぜしに依り當寺に遷すといふ。

サイキチ　西吉嶼　臺灣澎湖列島の一島。セイキチとも云ひ行政上澎湖廳望安庄の一大字たり。澎湖本島の南を去ること遠く、東吉嶼の西方約二浬半にして、東吉嶼との間に俗「辭驟灘」と稱する急潮あり、加ふるに東北又は南西信風の猛威を逆うするありて海路最も險難の處なりとす。小島にして島頂は海拔約三〇米、飲料水を得ること不便なり。部落は西吉嶼鄕と稱し大正四年には人口三三一人、昭和十一年には三九一人。住民は全部臺灣本島人とす。

サイキョー　西京　東京に對する京都の稱。明治初年には京都を呼ぶに主として西京の語を用ひたり。

サイキョートー　柴橋頭　↓集集庄

サイキョーリ　細橋里　朝鮮總督府鐵道龍山線の一驛（昭和四年設置）。朝鮮京城府東橋町にあり。

サイキョーリ　在京里面　朝鮮平安南道大同郡の西北端。平壤府の西北約一五粁、東は西川面及び斧山面、北は平原郡兩花面及び鶯池面、西は同德山面に、南は南兄弟山面に各々隣接す。妙香山脈の餘脈城內に及び、北境に月明山（一八五米）屹立するも其他は一般に丘陵性にして耕地よく發達し、大同江の支流普通江域內を灌漑し農業盛なり。住民は勤勉にして主として農に從事し米穀の他煙草・裙・甜菜等の栽培盛に行はれ、また果・柞蠶繭・煉瓦・石灰石・陶土等の產あり。總督府鐵道京義線東境を北走するも域內に停車場なく、面の北方は順安驛に、東南方は西浦驛に近し。面邑下石花里は面の西部丘陵上に位置し、他の聚落も各丘陵上に位置せるか其特色とす。

サイクー　齋宮村　三重縣伊勢國多氣郡の東北部。伊勢平野の南部を占め宇治山田市の西北約九粁。北は上御糸村に接し、東南は明星村と度會郡有田村に隣り、西南は西外城田村及び相可町に接し、西北は飯南郡櫛代村に界す。西南部に高度百米程度の丘陵起伏する外は平坦なる櫛田川の沖積低地を占め、櫛田川の分流祓川が西北境を流れて約八粁にして伊勢海に注ぐ。主生業は農蠶業にて米・麥・菜種・繭を產し、特產物には大根漬・瓦等あり。交通よく開け參宮道北部を東西に通過して西北方松坂市より東南方宇治山田市へ續き、その北には參宮急行電鐵道じて齋宮驛（昭和五年設置）を置き、南にはその伊勢線走りて南齋宮驛（昭和五年設置）ありて交通便利なり。古くは多氣郷と稱し、齋宮寮の置かれし地。その址は大字竹川にあり、方數町に亘り、祓川その西を過ぐ。寮の設置年代不詳なるも、垂仁天皇の朝、始めて伊勢國度會に齋宮を建て、其後、齋王の居所は別に此地に置きしが、大神宮と遠隔し奉祀に不便なるを以て、天長九年、度會の離宮を齋宮とせしも、承和九年十一月、火災に罹り再び多氣郡に復す。然るに吉野朝爭亂の際に齋王絕え、後世はただ村名に傳ふるのみ。また俗馬樂「竹河」に「竹河の橋のつめなるや橋のつめなる井閭に」と謠はれし竹河の橋は大字竹川にありしもの。〔齋宮村花菖蒲群落〕指定天然記念物。田圃の間にありて、紫色及び紅紫色の花を開く。俗にドンドバナと云ふ。昔時この地方一帶の湿原に發生せる花菖蒲の大群落の一部僅に今日に遺れるものなり。〔明治天皇齋宮御小休所〕明治二年三月十一日、伊勢行幸及び同十三年七月七日三重行幸の兩度、御小休あらせられし處。舊規よく保存さる。〔竹神社〕大字竹川に鎭座。郷社。祭神、長白羽神。式內社たり。一名竹上神社。社傳によれば、垂仁天皇の御宇、多氣連の祖宇加乃日子の子吉日子、皇大神の行幸に供奉して此地に留り、子孫世々郡領に任じ、その始祖を祀れるものなりといふ。例祭、四月三日。

サイクサ　三枝　【三枝】下總國（千葉縣）の古地名。和名抄に千葉郡三枝郷あり、國書は調み闕くも、飛騨の三枝郷の例により佐以久佐と調むべし。その地は昭和十二年千葉市に編入せられし都賀村の地に當る。姓氏錄によれば三枝部連は天津彦根命の子明立御影命の後とあり、蓋し各地の三枝郷はその裔の來り拓きし地ならん。【三枝】加賀國（石川縣）の古地名。和名抄、江沼郡に三枝郷あり、佐伊久佐と調ず。其地いま詳かならざるも諸郷の位置より推せば分校村・鄕谷村・勅使村等に當るか。一に西谷村・東谷奥村の邊なりともいふ。【三枝】飛騨國（岐阜縣）の古地名。和名抄、大野郡に三枝郷あり、佐以久佐と調ず。其地は今の大野郡上枝村・清見村の邊に當る。

サイグン　西郡村　岐阜縣美濃國揖斐郡の中部。東は大野町、西は揖斐町に接す。美濃山地の二百米內外の壯年期山地が西及び北に迫り、西部には櫻現山聳立す。其他の大部分は土地低平、濃尾平野に屬す。平野は地味肥え灌漑の便ありて田多く米に次いで麥を產す。南部には東隣大野町より揖斐街道通じ、之と並行に名古屋電鐵揖斐線通過す。此地は和名抄大野郡三桑郷の地ならん。大字牛洞は室町時代には牛洞郷と稱せし地なり。小字澤は中世に清水莊と云ひ、辻は澤の北にありて中世に志名庄と云ふ。また大字松山の西山上には妙見堂あり。堂は天明年中多藝郡高田の了運なるもの、野瀨の本尊を宮し尊像を守護し此地に來り堂宇を建てしものと傳へらる。なほ本村平野部には古へ條里制を布き班田收授の行はれし地にして、松山上より東方を見れば古の條里整然たるを見る。牛洞の山腹より巨石を組み長方形に築きし石室を存す。石室中には木棺を用ひて葬り、棺の周圍には副葬品を納む。現今出土せるものに、齋瓦・鍍・直刀・矢の根・馬具・金環・銀環・勾玉・管玉・高杯・脚付壺・切子玉等あり。松山の中、志名の西郡神社の傍の山腹には奥行四・五米餘、幅一米餘、高さ二米餘の石室ありて穴居の跡と思はる。また中之元は幕末時代陣屋の在りし地。揖斐西尾出雲守は元和九年病死し嗣子なきを以て封除せられ、其旗主水氏數に五千石を賜る。爾來此地に陣屋を構へて領地を支配し明治維新に至る。牛洞にも戸田相模守の陣屋ありき。卽ち寛延二年深坂より引移りて三千五百石の地を支配し、明治三年大垣藩へ引繼ぎて廢る。〔八幡神社〕大字志名に鎭座。郷社。祭神、應神天皇。口碑によれば元慶以前の草創といふ。例祭、四月十五日。

サイケツカ　在家塚村　山梨縣甲斐國中巨摩郡の中部。甲府市の西方凡そ一一粁に位置す。北は百田村、東は西野村、南は櫻村、西は飯野村に界す。面積一・六二方粁の小村なり。甲府盆地の西部を占め、桑園多く全戸數の約六割は養蠶を主生業とし繭（昭和十二年に約十四萬圓）の產多く、その他メロン・櫻桃等の特產あり。甲府市より鰍澤町に至る社線山梨電鐵通じて在家塚驛を置き、また韮崎—鰍澤間の甍道に近く、交通不便なり。本村はいま西野村・今諏訪村と共に組合町村なるして、役場を西野村に置く。村內に金山權現を勸請せしといふ小祠あり、普通の民家（在家）の屋數遠にありて疎二三疎數位の磐石の重なり立つ、偖に在家塚と呼ぶ。村名は卽ちこの塚に因めるもの。

サイゲン　濟原面　朝鮮全羅北道錦山郡の東端。東は忠淸北道永同郡鵲山面及び陽山面に、北及び西は郡北面、南は富利面に各相隣接す。小白山脈の餘脈城內に及び北境に國師峰（六五六米）・鐵馬山（四六九米）等聳え、珠に北半部は山地帶を成せど、南部錦江流域及び其支谷なる鳳凰川の合流地點は比較的低平にして稍耕地の發達を見る。住民は專ら農業に從事し概ね質朴勤勉なるを以て山村地域としては比較的富裕なり。產物には米・大麥・大豆・綿花等にして、珠に白蔘は古來著名の產地なるなり。郡邑錦山に隣接し之より東方忠淸北道永同邑に通ずる二等道路城內を東西に橫斷し自動車の便あるも、其他の等外路線は途上急坂多く交通便ならず。面邑濟源里は海拔一三一米、鳳凰川左岸に位置し農產物の集散行はる。聚落は殆ど南半部に偏在し、その主要なるものに桐谷里・大山里・九億里・明谷里・水塔里・鳴嶺里等あり。

サイコ　西湖村　山梨縣甲斐國南都留郡の西北隅。富士五湖の一たる西湖の

四周一帶の地にして富士國立公園の内とす。東北は大石村、東は大嵐村、南は鳴澤村、西は西八代郡上九一色村、北は東八代郡豐富村・中芦川の兩村に界す。村のほぼ中央に西湖を湛へ、北境御坂山脈の一部なる王岳（一六二三米）・鬼ヶ岳は村内に急傾斜して湖畔に迫り、南岸には富士裾野の北邊をなす大田和山（一三五五米）・紅葉臺の隆起あり、西南部は青木ヶ原の鬱かなる傾斜地の一端をなす。山地は概れ森林にて木炭の產あり、また西湖より鯉・鮒を產す。聚落は主に西湖の東北岸にあり。西湖の北岸には河口湖畔より精進湖畔に至る大正道路あり、更に之に直交して南隣鳴澤村へ通ずる山道あり。村名は湖名より出づ。湖名は河口湖の西に位するより起りしものと云はる。長濱村と組合村をなし役場を長濱村に置く。（西湖）富士五湖の一。東西三五〇〇米、南北約八〇〇米、水面海拔九二一米、最深點は七七米に及び五湖中最深湖とす。水色明綺にして、河口湖畔の船津にてはこの湖水を導き飲料水とす。遊覽モーターボートあり。（西湖蝙蝠穴及び蝙蝠）指定天然記念物。洞穴は富士熔岩隧道の一にして、西湖の西岸を距る約六〇〇米、謂はゆる青木原樹海中にあり。この洞穴の特色は形狀極めて不規則なること及び比較的大なる支洞を有する事とす。幹洞は入口より北向に僅に傾きつつ延長約一〇五米に及び、支洞は幹洞よりも長く延長二三五米餘に及ぶ。入口の前面には溶岩隧道の天井が落下して出來し熔岩溝が一一〇米ほど長く續き、この部をも加ふれば洞穴の總延長四五〇米に達し、富士熔岩隧道中最も長し。洞穴内の幅最小一米弱より最大二一米餘に及び高さは最小一・五米より最大五米に及ぶ。洞内の温度は他の多くの熔岩隧道と異り夏時も餘り寒冷なも覺えず、冬季は寧ろ洞外より温暖にして結氷せず。これがため多數の蝙蝠集り來りて冬眠の場所となす。これ蝙蝠穴の名ある所以とす。それらの蝙蝠はサトカウモリ（アブラムシ）・ウサギカウモリ・キクガシラカウモリの三種にして、そのうちキクガシラカウモリは最も珍とさる。この蝙蝠は體の長さ約七・五糎、翼を張れば約二四—二七糎に達し、淡褐色にて顏面に菊形の襞を有す。ウサギカウモリはキクガシラカウモリより小さく、耳朶が長くて約三・七糎に達す。その數多からず。サトカウモリは最も普通の種類とす。（龍宮風穴）指定天然記念物。鳴澤村の西端雲雀ヶ岡より紅葉臺の下を經て根場及び精進に通ずる里道の傍にあり。この洞穴は古來富士道者巡拜の靈場にして青木ヶ原熔岩流中に於ける他の熔岩隧道に比して著名なる割合に洞内崩壞甚だしく、天井・洞底等殆ど原形を存せず、洞外より見るに、先づ熔岩溝南北に走りて其延長約四五米、東北の幅約一六米、南北兩端に穴を存し南端に神祠を祀る。洞穴はこの熔岩溝の中央東側にあり、入口は高さ及び幅各々約一・五米、斜下凡そ四米にして稍々平坦なるも、天井の碎落岩塊洞底一面に散在して行く手を遮り、洞内の形狀も間つて不定にして歩行困難なり。洞の方向は大體北に進み幅は廣き處は約四・五米、狹き處は約一米に過ぎず、延長三〇米餘にして洞内やや廣く、西北に向ふ支洞あり。この支洞は西北に約一米進み更に北に向ひて細くなり、九米餘にして盡く。本洞はこの紋點よりやや東に偏して約二六米にして盡く。

サイゴー　西郷（さいごう）

【西郷村】茨城縣常陸國東茨城郡の北部。東は石塚町・小松村、北は岩船村、東南は山根村に隣り、西は西茨城郡七會村、西南は同郡大池田村と界す。八溝山脈南部の一支脈の東端に當り、東隣石塚町を隔てて那珂川に近し。村の西境には高田山（二五五米）、南境には淺房山（二〇一米）の低き峯あり。村内概れ高度一〇〇米程度の丘陵性臺地なし、中部と東部に幅狹き低地ありて田地及び畑地をなし米・麥等の農產を出す。山地には森林多し。水戸より栃木縣芳賀郡茂木町への縣道は東西に、石塚・笠間間の縣道は略南北に通じ、後者にはバスの便ありて省線水戸線の笠間驛と社線茨城鐵道の石塚驛に連絡し交通便利なり。古くは和名抄、那珂郡恵島郷に屬せるものの如し。大字上下の古内にもと茶の名產地にて、文明八年、江戸城主太田道灌軒端序に「當ノ茶」とあるは此地の產なりと。上古内に臨濟宗の名刹清音寺あり。また義木勤王の志士、櫻田門外の義擧に死せし鯉淵要人（贈正五位）は此地の人なり。（清音寺）大字上古内にあり。臨濟宗南禪寺派。太古山と號す。貞和年中に復庵の創建。復庵は延慶年中に元に赴きて天目山の中峯に學び、歸朝するや當國佐竹氏及び下總二階堂氏の歸依を受け本寺及び法雲・禪源・華嚴寺等の諸寺を開創す。後年德川氏より朱印百五十石を附せられ、往昔は有數の名刹なりしも近世甚だ退轉す。

【西郷】福井縣嶺方郡にありし村。明治三十一年南西郷・北西郷の二村に分つ。

【西郷村】岐阜縣美濃國本巢郡の東部。北は文殊村、東は稻葉郡黑野村、南は七郷村、西は席田村に接す。真根尾川の沖積扇狀地の地域を占め、西部船來山（一一七米）は壯年期山地の濃尾平野に沈降せし殘丘とす。南部は東南方に向け板屋川が流れ、扇狀地面に水田に利用され、また桑山の傾斜面及び集落附近には柿の栽培盛んにして富有柿の名產地をなす。街道は西部をほぼ南北に通じ南方岐阜市に至る。此地は和名抄の方縣郡大唐郷の地なるべし、百濟よりの歸化人を置きし所か。齊明紀には片縣に百濟の俘虜を置くと記す。また今昔物語に方縣郡の唐郷の稍とあり、之を諸越と讀めりと。東部の大字小野は和名抄方縣郡鵜愛郷の西部に屬す。村名は此地川の西にあり西の江なる意より西江と稱し、のち西郷となるといふ。關白ノ社は正法寺の門前、田の中の藪中にあり。文明六年九月一條兼良東下りの砌、此地に數箇月滯在す。時に土岐成頼及びその執權齋藤利藤等が兼良に奉侍したる緣によりて、兼良は其女伊姫を利藤が子利國に與ふ。かくて利國は明應五年戰死せしを以て伊豫に此地に隱棲し松隱老雄清利貞尼と稱し、のち武儀郡東武藝村大字谷口に移り父君の死後、尼公この社を創建すといふ。（玉ノ井神社）大字小野に鎮座。郷社。祭神、荒火出見命。社傳に、足利氏の季世に齋藤利國社殿を再營すといふ。例祭、八月一日。（物部神社）大字中西郷に鎮座。郷社。祭神、宇摩志間手命。例祭、二月九日。（正法寺）眞言宗高野派。醫王山蓮華院と號す。寛正六年土岐美濃守成頼の創建に係る。のち天文・永保の兩度兵火に罹りて廢滅せしを、慶長中に黑野城主加藤左衞門尉貞泰再興し、もと臨濟宗たりしを現宗に改む。

【西郷村】靜岡縣遠江國小笠郡の西部。掛川町の北に隣り東は倉沢村に界す。安倍山脈の末端地域に當り二百米内外の山地ありて村境をなし、逆川の支流は中南部を南流し流域には稍々廣大なる低地ありて水田よく拓け、米・蕎・茶の產あり。街道は中部低地を南北に走り掛川町にバスの便あり。此地は和名抄、佐野郡白根郷の内なるべし。村名西郷は小高御廚の西郷の義ならんといふ。中世世藤原南家二階堂氏の一族この地に居して西郷氏を稱す。村内の天王山は掛川城の東北にありて一要害たり。永祿十年、家康掛川の今川氏眞を攻むるの際この山に陣す。

【西郷】愛知縣八名郡にありし村。明治三十九年木村外四箇村を廢し新たに石巻村を設く。

【西郷】大阪府豐能郡にありし村。昭和六年根雨村と合併して昭和村となり、昭和七年更に西能勢村と改稱す。

【西郷】兵庫縣武庫郡にありし町。もと都賀瀧村と云ひしが、大正三年西郷町と改稱。昭和四年神戸市に編入す。

【西郷村】鳥取縣因幡國八頭郡の西北隅。東は八上村・敷味村に、南は佐治村に、北は氣高郡神戸村・明治村・小鷲河村に界す。中國山脈の支脈南北二境を西より東に連り、南境に高鉢山、北界に高山等約一〇〇〇米の高峯を起し、東するに從ひて低下す。中部東西に谷地あり、西境に發する千代川の一支之が東流し八上村に出でて本流に合す。原野・山林農く全耕地の六八%に上り、中部の谷地に耕地あるも僅に二八%に過ぎず。農業行はれて米・蕎等を產し、谷の周圍の丘は牧場をなし牛馬の飼育行はれ、山地よりは木炭・木材等を出す。大字河原烟より東隣八上村を經て千代川左岸の河原町へバスの便あるも交通なほ便ならず。本村は大正四年に玉鶴・明治の二村合併したるもの。（清徳寺）大字小畑にあり。眞言宗高野派。婆ヶ城主小松氏の祈願所。本尊は三體の阿彌陀如來にて飛騨の木匠の作といふ。境内に小松氏累世の墓あり。

【西郷村】鳥取縣伯耆國東伯郡の東部。天神川の右岸にて、川を隔てて倉吉町に界す。東部及び南部には高さ二〇〇—三〇〇米の山地連りて西方及び北方に緩傾斜をなし、山林・原野多く、西部及び北部は天神川流域の沖積地の一部を占め土地低平にして耕地拓く。農產に米・麥・馬鈴薯等を出し養蠶また行はれ、古より絹織物を產す。最近は西隣の倉吉町を中心に附近一帶に絹糸紡績及び絹織物の工業勃興し本村もその影響をうけて活況を呈す。省線山陰本線は村の東北隅を掠めて西走し、北隅日下村に上井驛を置き、それより分岐する倉吉線は村の西北部を斜走して倉吉町に至る。道路は天神川の東側を南に通じ南隣三朝村の三朝温泉及び倉吉町へバスの便あり。村名は東郷村の轉稱なるべし。地に天高神社あり、三代實錄に元慶七年授位の神なりと。また大原廢寺址あり。（大原廢寺塔址）指定史蹟。字龜井谷口の畑地にあり。塔心礎は長徑約三米短徑約二・七米の安山岩の表面を削平したるものにして、中央に直徑約六六糎深さ約五糎の圓柱孔あり。其周圍に方約五・五米の土壇を推定し得べき石垣の跡あり。附近より奈良朝の樣式を示せる古瓦を發見せり。

【西郷町】島根縣隱岐國島後の周吉郡の東南端。東南は日本海に面し、それより中部に彎入する西郷灣を抱く。西郷灣口の左岸には愛宕山（一五一米）、右岸には金峰山（一九九米）峙ちて、幅僅に〇・五粁内外なれども、灣内は東西七粁、南北一粁餘、屈曲に富める溺谷にして水深も三米に達し、灣奥の西郷港は裏日本に於ける屈指の良港たり。東部を東郷灣、西部を西田灣ともいふ。市街なこの灣の中部、北岸に注ぐ八尾川口に跨り左岸の西町は古くより開かれて商業區をなし、右岸の指向は明治十三年以來の移住漁民によりて發展せる處なり。產業は水產業を主とし、鮮魚・隱岐鰯等の漁獲物と鹽詰・鹽魚・乾魚等の加工場あり。また製鹽行はれて藺・生糸を出し、林產に木材・木炭等あり。これ等は多く島外に移出され、米・酒・石炭等を移入す。また町の名產に黑瑪石細工あり。本陸の美保關・境港・松江市へ定期船を通ず。町は人口五千有餘の小都會に過ぎざるも、隱岐第一の市街にして、島後全島の大門戸に當り、政治・經濟の中心地たり。隱岐支廳を始め稅務署・區裁判所・縣立高等女學校あり。（西郷岬）西郷町の南端にあり。一〇〇米餘の山は直ちに海波に洗はれて海崖をなす。岬端に西郷岬燈臺（大正十年設置）

あり、體質は達閃白光にして光達距離二七浬。〔水縄神社〕西町に鎮座。郷社。祭神不詳なるも、合殿は天滿宮、配祀は菅原道眞。創建年代不詳なるも式内の古社たり。棟札に天文二十三年の再建とあり。往古は國主の造營にして、寛文以後は周吉・穿地二郡の造營にかかる。例祭七月二十六日。〔鐸鈴・倉印〕何れも松平定信の名著集古十種に收載せられたる名品たり。鐸鈴は銅製八稜形にて高さ約八・五糎、腹背に「鐸」及び「鈴」の文字を各々鑄出し清韻最も朗かなり。大化二年諸國に鐸馬・傳馬を置き、大寶元年鐸鈴の制定められしが、この遺品は恐らく永和・貞觀頃の製作に係るものならん。倉印は銅製にて「隱岐倉印」の四字を篆書にて鑄出せるもの、字面約八糎四方とす。もと何れも玉若酢命神社の祠官儀伎國造家累代の什寶たり。嚆に內裏炎上したるが、寛政二年十一月光格天皇は聖護院の假皇居より新內裏に御還幸の際、國造家より鐸鈴を奉らしめ齋籌の行列に加へさせられ、のち國造家に返さしめ給ひしが、其際添へて賜はりし唐櫃も鐸鈴と共に現存し、鐸鈴・唐櫃・倉印ともに隱岐支廳にて保存せらる。〔飯ノ山横穴〕西田灣の南麓に流入する溪流の左岩は相對して丘陵をなせるが、その西丘を俗に飯ノ山といふ。大正七年荏藻土採掘の際横穴を發見す。總數五十餘箇を算へ出土品として勾玉・齊瓮・直刀等あり。横穴群の中央部なる一穴は、奥壁と右壁とに線畫を存す。畫題は漁村の風景にて草小屋・海獸の如きもの及び樓體の女等にて、上古の風俗畫として貴重なる資料とす。

【西郷郷】→西郷町

【西郷灣】→西郷町

【西郷村】佐賀縣肥前國神崎郡中部の西偏。佐賀市の東北約六粁の地點にあり、東は神崎町・仁比山村、南は城田村及び境野村、北は脊振村に接し、西は佐賀郡久保泉村・兵庫村に界す。北境には脊振山南麓の末端に當る高き五〇〇米程度の山地あるも、その他の大部分は筑紫平野の一部にて土地極めて平坦にして東境に筑後川の支流南流し田地廣く拓く。農を主產業とし米・麥・菜種等を產し又養蠶も行はれ繭を出す。特產には尾崎燒あり。長崎街道が南部を東北より西南の方向に通じ、西方小城町への街道その北を東西に通じ、省線長崎本線はその間を東北より西南に走り、神崎驛（神崎町內）・伊賀屋驛（兵庫村內）にも近く、交通不便ならず。此地古くは和名抄、神崎郡三根郷の內に屬せしもの如く、中世は神崎莊の內にして、村名は蓋し神崎莊西郷の訛なり。殊章記に河野通有弘安四年の恩賞として神崎莊の內小崎郷・同加納下東郷を賜はり、のち更に同莊餘殘同藪野を賜ふと見え、武雄文書にも蒙古合戰勳功賞として後藤定明父子に神崎莊田地三町、西郷町乙南里を賜ふ由載せ、また松浦山代文書に山代榮に神崎莊田地拾町、竹村郷利田里屋敷、上條郷岩田村並に松崎里を賜ふとあり。是等の地は何れも本村に屬するものならん。大字尾崎に、伊賀國住人河野通有の領地にして元寇役に打取りし蒙古兵の首級をここにて檢むといへる蒙古屋敷址あり。〔えひめあやめ自生南限地帶〕指定天然記念物。本村大字尾崎字日ノ隈及び佐賀郡久保泉村大字川久保字蜂谷に自生す。えひめあやめは鳶尾科に屬し、陽氣性植物にして、群落をなすも稀は密生せず、四月中旬紫紫色の花を開く。朝鮮滿洲地方には多く見るも、本邦にては古來愛媛縣屋折山に多く見るを以て此名あり。大分・佐賀・山口の三縣下にも產す。これに依りて日本西南部と東亞大陸との植物區の系統的關係證明さるゝ。〔砲術練習場址〕大字尾崎字日ノ隈にあり。藩政の昔、鍋島勝茂は毛利家の浪人にして圓練流砲術の達人たる原次郎兵衛就康を抱へて砲術の指導を命じ、日ノ隈山に射撃場を設け士卒に練習せしめ始めにて、以後の藩主も悉これを學ぶ。開國の時に至りて西洋砲術の輸入と共に態々隆盛となり、天保八年四月、日ノ隈練習場（當時岩田と云ふ）に於て最初の大砲發射試驗を行ふ。射撃場日ノ隈山南方平坦地に八町・十二町・三十六町の場所に各々臺場を築き矢道と稱す。南麓唐香原に砲門・火藥倉庫等を設く、之が臺場屋敷といふ。天保十一年九月六日、開國は武雄邑主鍋島茂義の高島秋帆より傳習せる西洋砲術を岩田練兵場に於て檢閲せしが、これ佐賀に西洋砲術の表面的實現の最初なり。のち安政元年正月十五日幕府は長崎新砲臺に於て佐賀藩の實彈發射を視察し、成績頗る良好たり。

【西郷村】長崎縣肥前國南高來郡（島原半島）の北部。雲仙火山群香妻山（八六八米）の北斜面を占め南北に細長く、東は神代村、南は千々岩町、西は大正村に隣り、北は有明海に面す。土地南昇より北方へ緩く傾斜し北部海岸には小平坦地あり、この低地には耕地よく拓く。農產に米・麥・繭・大豆等あり。諫早・島原間の縣道と、社線島原鐵道は北岸に沿ひて走り、後者は大字畑田に西郷驛（大正元年開業）を置き交通便利なり。此地古くは和名抄、高來郡神代郷に屬し、村名は蓋し神代西郷の遺稱とす。中世に菊池氏の族この地に來住し西郷氏を稱す。いま村の一部は雲仙國立公園の內に屬す。

【西郷村】宮崎縣日向國東臼杵郡の西部。美々津川（耳川）中流の地方占め、東北は北郷村、東南は東郷村、西南は南郷村に接し、西北は西臼杵郡椎葉村及び諸塚村に界す。面積一五二・二方粁。九州山脈東肢の山地に位し、西境には笹ノ峠（一三四〇米）・清水岳（一二〇五米）、南界には高峰（一一〇七米）・日隈山・珍神山（八二三米）等ありてその山脚村內に延出し到る處山地をなす。美々津川北境山脊を截りて東流し、やがて東南に折れて村の東部の中央を曲折東南流して東郷村に出づ。集落は川筋と山地の谷合に點在し村民の多くは林業に從事す。主產物に木炭・椎茸・栗・茶等あり、川より鮎を產す。郡の東岸なる富島町より省線日豐本線の富高驛まで約三〇粁間のバスを通ずるも交通なほ便利ならず。いま田代・山三箇・小原・立石の四大字に分る。大字田代の地に上野城址あり。その城主は詳ならざるも土人の傳ふる所に據れば田代太郎なる者居城すといふ。山岡の嶺に據て築く。今は林岡となれるも僅に遺陰あり。また村內に昭和七年に設けられたる發電所あり。耳川を利用したるもの、出力は三、二〇〇キロワット（最大出力一三、〇〇〇キロワット）とす。

サイコーシ　西港仔堡（さいかぼ）　臺灣臺南州北門郡の古地名。西港庄全部及び七股庄の內、大寮・三股子・樹子脚・竹子港・七十二分・十分塭・青草崙・土城子の八大字を含したるものに相當する海岸地帶の區域。明末鄭氏の時に定めし永定里の一部なり、清領の當初には安定里と云ひ、康熙六十年代に分立したち安定里西堡の地とし、後に西港仔堡と改稱せられ、我が領臺後依然存置し、大正九年地方制度改正に當らや、堡を廢せられその舊區域內の地は前記二庄に分屬することとなる。往時當地方一帯は大部分海埔地にして、西港仔庄（いま西港庄西港）の如き、實に潟海の沒港なりしこと、乾隆二十九年に成りし臺灣府志（續修）に、「西港仔街、瀕海民蕃貿易」と記すに徴して明かなり。その東北なる後壁庄（いま西港庄後壁）は明末鄭氏の時鎮營を置きたる所なれば、本堡の早き拓殖區域は東北部に隅られ、其他は乾隆・嘉慶年代以後に於ける此の地方一帯の浮復と共に漸次開拓の禮に就きたるものなり。

サイコク　西國　東國に對して漠然と西方の諸國をいふ稱。もと九州をその方位より西州・西偏・西道などと稱し、のち汎稱して京都以西の國の義とし、中國・西國をも含ましむるに至る。また近江以西の近畿の諸國をいひ、例へば西國巡禮三十三箇所の觀音の札所の如し。併しこれには例外に美濃國を入る。

サイサイジョー　西西條（さいさいじょう）**（郡）**　朝鮮慶尙北道奉化郡の東南端。北は小川面及び法田面、西は明湖面、南は安東郡禮安面及び英陽郡の青杞・日月兩面に、東は同首比面に各相隣接す。大白山脈中に位置するを以て土地頗る高峻にして、殊に北境には燕巢峰（九二一米）・將軍峰（一一三六米）、東南境には日月山（一二一九米）等相連なり、西境には清涼山（八七〇米）等聳立して域內山岳重巒し、洛東江の支谷なる才山川西部を北流し沿岸河成段丘の發達を見、耕地は段丘面及び山腹に點在す。產物は雑穀・煙草・蜂蜜等を主とし、鐵物に金・銀・銅・砂金等の埋藏あるも稼行中のものは砂金採集に過ぎず。位置僻遠なるを以て道路の改修未だ行はれず坂路多く交通不便なり。面邑才山は面の西部に位し、西港仔庄（いま西港庄西港）の如き、實に潟海の沒港なりしこと、乾隆二十九年に成りし臺灣府志（續修）に、「西港仔街、瀕海民蕃貿易」と記すに徴して明かなり。その東北なる後壁庄（いま西港庄後壁）は明末鄭氏の時鎮營を置きたる所なれば、本堡の早き拓殖區域は東北部に隅られ、其他は乾隆・嘉慶年代以後に於ける此の地方一帯の浮復と共に漸次開拓の禮に就きたるものなり。

サイコク　西國　東國に對して漠然と西方の諸國をいふ稱。もと九州をその方位より西州・西偏・西道などと稱し、のち汎稱して京都以西の國の義とし、中國・西國をも含ましむるに至る。また近江以西の近畿の諸國をいひ、例へば西國巡禮三十三箇所の觀音の札所の如し。併しこれには例外に美濃國を入る。

サイサイジョー　西西條（さいさいじょう）**（郡）**　朝鮮慶尙北道奉化郡の東南端。北は小川面及び法田面、西は明湖面、南は安東郡禮安面及び英陽郡の青杞・日月兩面に、東は同首比面に各相隣接す。大白山脈中に位置するを以て土地頗る高峻にして、殊に北境には燕巢峰（九二一米）・將軍峰（一一三六米）、東南境には日月山（一二一九米）等相連なり、西境には清涼山（八七〇米）等聳立して域內山岳重巒し、洛東江の支谷なる才山川西部を北流し沿岸河成段丘の發達を見、耕地は段丘面及び山腹に點在す。產物は雑穀・煙草・蜂蜜等を主とし、鐵物に金・銀・銅・砂金等の埋藏あるも稼行中のものは砂金採集に過ぎず。位置僻遠なるを以て道路の改修未だ行はれず坂路多く交通不便なり。面邑才山は面の西部

サイザキ　幸崎町　廣島縣備後國豐田郡の南部。瀬戸內海に沿ひ、東は三原市の西南部に、西は忠海町に接し、北は沼田東村に界す。北境に高度二百乃至三百米の山地東西に連り、中部にも亦高さ二〇〇米程度の丘陵東西につづき、その間の谷地と海岸沿ひに小低地あり。村內山林多きも畑地・田地も少からず、農產に米・麥・菜煙草等あり、また特產物には柑橘・除蟲菊を出す。沿海には鯛・蛸等の漁獲あり。大字幸崎・能地はその漁港たり。町は地方の商工業地にて、南方に高根島・大三島等を望みて風景に富む。省線呉線ほぼ東西に通じ、安芸幸崎驛（昭和六年設置）を置き、また三原市・忠ノ海方面への道路はバスの來往ありて交通便利なり。古くは和名抄、沼田郡安直郷の一部にして、三原より忠ノ海に至る海陸の驛をなせり。はじめ能地・渡瀬・久和寨の諸村を合して佐江崎村と云ひしが昭和四年町制施行の際幸崎町と改めサイザキと稱す。大字能地の近海を俗に能地の淺海といひ、學術上これを能地堆といふ。この海面に毎年三月中旬四十八夜より五月初旬八十八夜に至る間、鯛が浮び出づ、殊に桃の節句大潮の中潮より滿潮までを最盛時とす。產卵の爲瀬戸內海に移動し來る鯛の一部は豐後水道・伊豫灘を經て安芸灘に入り、青木迫門即ち本土と高根島・大三島により圍まれし海面を西より東に進み盛潮に至る際、本土・大三島間に在る大久野島のため二隊に分れ、本土と大久野島の間を通る一隊は大久野島・有龍島間にある約四粁の能地堆を横斷するに當り、潮流のため深海より急騰にこの堆上に押上げられ、水壓の減減により鯛の體は俄然膨大し轉倒し腹部を上にして海面に浮ぶ。日本書紀に見ゆる沙田門（さたべ）は青木迫門を指さゼるものにして、神功皇后の故事はこの浮鯛を云へるものなるべし。伸哀紀・二年六月「天皇泊二于豐浦津一、且皇后從二角鹿一發西行之、到二沙田門一、食二於船上一、時海鮮魚多衆、船檥、皇后以ゝ酒灑二海鮮魚一、海鮮魚即帶而浮之、時海人多獲二其魚一、而歎曰、聖王所ゝ賞之魚焉、故其處之魚、至二于六月一常倒浮如ゝ群、其是之緣也」（なめくぢうを棲息地）ナメタヅウヲは脊椎動物の祖先形を代表するものとし、動物學上頗る興味深き動物なるが、能地堆はその最も多き棲息地として天然記念物に指定せらる。

サイサン　才山面　朝鮮慶尙北道奉化郡の東南端。北は小川面及び法田面、西は明湖面、南は安東郡禮安面及び英陽郡の青杞・日月兩面に、東は同首比面に各相隣接す。大白山脈中に位置するを以て土地頗る高峻にして、殊に北境には燕巢峰（九二一米）・將軍峰（一一三六米）、東南境には日月山（一二一九米）等相連なり、西境には清涼山（八七〇米）等聳立して域內山岳重巒し、洛東江の支谷なる才山川西部を北流し沿岸河成段丘の發達を見、耕地は段丘面及び山腹に點在す。產物は雑穀・煙草・蜂蜜等を主とし、鐵物に金・銀・銅・砂金等の埋藏あるも稼行中のものは砂金採集に過ぎず。位置僻遠なるを以て道路の改修未だ行はれず坂路多く交通不便なり。面邑才山は面の西部

才山川の左岸段丘上に位置し、警察官駐在所・陸勝四・九の日に開かるる市場あり。産炭・蜂蜜・日用品・穀類の取引行はる。才山を除いては集村殆どなく、特色ある散村形態を成す。

サイシ　細枝面　朝鮮全羅南道羅州郡の南端。東は鳳凰面、北は榮山面、西は旺谷面及び靈巖郡新北面に、南は同金井面に各相隣接す。南北に狹長なる地域をなし、東境及び西境には丘陵南北に縺走して他と境を劃し、中央は南北に細長き低地を成し、榮山江の支流これを貫流す。低地は謂はゆる羅州平野の一部を成し地味肥沃にして氣候温和農耕に適し產物に富む。農產物には米麥を主とし、豆類・綿花・梨・桃等の果物を產する外、紬布、麻々の竹細工等あり。道路は北方羅州より榮山浦を經て南方靈巖に通ずる二等道路及び榮山浦より長興に通ずる三等道路域内を平行して縱走し、前者には湖南線榮山浦驛(舊新面)より乘合自動車を通じ交通便利なり。面邑西村は面の略中央に位置し、其他、主要聚落に北より東谷里・内亭里・竹洞里・大山里・松堤里・五峰里・碧山里・機山里等あり。

サイシュー　濟州（しさい）

【濟州島】木浦の南方約一〇〇浬の絶海中に浮ぶ火山島。行政上、朝鮮全羅南道に屬す。本島は古くは耽羅（たんら）島と稱す。東方約一〇〇浬を隔てて五島群島に對し、西南は支那海及び太平洋に面す。面積一八四六平方粁、朝鮮第一の大島にして對馬・隠岐・佐渡の諸島を合ぜたるものに匹敵し香川縣の面積にほぼ等し。東西に長軸を有する楕圓形をなし周圍二四〇粁、中央部より稍々西南に偏して屹立せる秀峯漢拏山(一九五〇米)は四圍に綿亟たる裾野を曳きアスピーテ型の火山をなし、その山麓は二度乃至一度の緩傾斜をなし中腹より海岸にかけて鐘のいぼの如く三百有餘の寄生火山隆起し特色ある景觀を呈す。分水嶺は東西に走る島軸上に噴出せる漢拏山・城板山・御乘生岳等によりて南北の二斜面を決定し、河川は水量極めて少きも、南北比較するに概して南の斜面に多し。北流するは別刀川・山地川・郡近川等にて、南流するものに川尾川・松川・孝敦川・潤外川・江汀川・塞達川・柑山川等あるも水量極めて少く、多くは溜湯流にして所謂水無川を成す。河身は何れも短小にて幼年期の浸蝕谷をなし、南斜面には急傾斜のため所々に瀑瀑あり。河水の伏流せるものは海岸に於ける熔岩の末端に泉となりて湧出す。海岸線極めて單調にして屈曲殆どなきのみならず、時に玄武岩礁斷崖をなし良港灣を缺く。されど海岸の黑色玄武岩に配するに貝殼の白砂より成れる砂丘を以てしたる景觀は本島のもつ獨自の美觀とす。その著しきものは北岸には金寧里・咸德里・金陵里等、南岸にては表善里の貝砂丘最も特色あり。氣候は北斜面と南斜面とに於て著しき相違あるも、概して温和にて內地の長崎地方に酷似す。北濟州の一月平均は五・二度、最低零下二・九度、八月平均二七度內外にして最高三五度以上に昇ること稀なり。南濟州西歸浦にては一月の氣温最低零下に降ることなく、その頃菜の花盛りなり。降水量は一三七七粍にて、六・七・八・九月に多く、また北斜面より南斜面に多し。これは風向と山脈との關係及び黑潮の影響に因るものの如し。本島の土地利用は地形その他の自然的條件によりて統制せられ、楕圓形環狀帶の土地利用景を示す。卽ち森林地帶・放牧地帶・耕地帶に分つことを得。森林地帶は約六〇〇米以上にして、約二・七萬ヘクタールの森林を有し檜・松・黑松・椶等の喬木繁茂し、南部斜面六〇〇米附近に於ける椎茸の栽培盛んに行はれ、年產二〇萬圓に達す。一四〇〇米以上は濃木にて火山岩屑・礫等磊々す。放牧地帶は二〇〇米以上にて、此地帶を更に三〇〇米を境とし山間地帶と中間地帶に二分す。三〇〇米以上は李朝時代の國立大牧場の址にて山場と稱し、國馬の放牧場にて、火山礫多き草地約四・五萬ヘクタールに達し、放牧と茅の採取行はれ此地域內にては十年一耕乃至二耕位にて、稗・大豆・燃草等の栽培行はる。中間地帶は二〇〇米以上の緩傾斜にて其面積約三萬ヘクタール、草地牛ば以上を占め牛馬の放牧行はれ、その間牛馬の侵入を防ぐため石垣にて區切られし耕地あり。五年に二耕乃至三耕の農業行はれ燕麥・稗・粟・大豆・陸稻等栽培さる。耕地帶は二〇〇米以下の海岸地帶にて田約九百ヘクタール、畑約六・九萬ヘクタールあり、最も集約的に農業行はれ水稻・陸稻・大麥・粟・甘藷・棉・薄荷・除蟲菊・蔬菜・柑橘等栽培せられ、なほ牧畜・養雞・養蜂等行はる。近海より鯛・鮑・黑鯛・鯨・鮎・鰒・石首魚・太刀魚・鮪等を產し、漁期には內地より出漁するもの多し。人家は飲料水の關係にて耕地帶より上部に殆どなく、海岸地帶の聚落は集村形態を成し、僅かに存する山間地帶聚落は概して散村形態を構成す。その主なるものは北部斜面海岸地帶にて、烏邑所在地「濟州城內を始め金寧・朝天・涯月・翰林等、南部斜面にては、新興の內地人多く居住し且つ烏支廳の所在する西歸浦及び摹瑟浦等なり。昭和十年の人口總計二〇七、二一九人のうち女子一一〇、八九四人にして其數男子より遙かに多く、殊に婦女子が勞働の主體となり經濟力の支持者たる點を特徵とす。なほ臨海聚落の婦女子は大部分海女漁業に從事し、其活躍は啻に島內に止まらず半島沿岸地方は勿論內地の遠く青森地方にまで出稼を見、巡金額年に十萬圓に達す。また出稼の風盛にして阪神地方を始め內地諸府縣に出稼ぎせる者實に五萬人に達し、人口移動上特色ある地域性を見る。

【濟州邑】朝鮮全羅南道濟州島の北岸中央部。東は朝天面、北は濟州海峽に臨み西は涯月面、南は南元・西歸の兩面及び中文面に各相隣接す。南境には朝鮮第二の高峰漢拏火山(一九五〇米)屹立し、面內全域はこの噴出による玄武岩を母岩とし地表は突兀たる黑色火山岩及び磊々たる石礫並に熔岩の風化による火山灰に覆はれて緩傾斜を成して海に沒す。城內隙る寄生火山に富み特色ある景觀を呈す。其主なるものに上方より御乘生岳(一一七六米)・石岳・土赤岳・三義讓岳(五七五米)・鶴岳(六一五米)・悅安止岳(五八五米)・琴岳(四三八米)・木浦岳(二九六米)・米岳(二五二米)・犬月岳(七五〇米)等あり。海岸に沿ひ元堂峰(一七〇米)・別刀峰(一三六米)・鈴麗峰(一四八米)・道風峰(六五米)等隆起す。之等は多くコニーデ型火山にして、頂上に火口の遺跡を存す。土地利用は高度に從ひ整然たる三帶をなす。卽ち頂上より六〇〇米附近は森林地帶を成し、六〇〇米以下三〇〇米前後の地帶は草原帶を成して共同放牧場を成し、以下海岸までは耕地帶を成す。耕地は地形地質の關係上大部分刈地を成し、水田は僅かに外都里及び龍潭洞附近に見るに過ぎず。耕地は牛馬放牧の慣行上悉く石垣を以て圍繞し特色ある景觀を呈す。產物には陸稻・粟・大麥・大豆・甘藷等にして、水產物には鯖・鰒・鰹・鮑・鯉線等また燒酎の特產あり。

サイシ——サイシ

島內を一周する環狀三等道路は本邑を基點として、東廻沙及び西廻り道路を大正二年竣成し、最近橫斷道路の開通を見、各路線に乘合自動車を通じ、海は山地港を門戶として木浦・麗水・釜山・大阪等と定期汽航の來往ありて交通便なり。聚落は主として海岸地帶に集り、主邑濟州市街は城郭郡市にして今なほ南半部に遺存す。邑內には島廳・警察署・光州地方法院・濟州支廳・道立濟州醫院・測候所・郵便局・無線電信局・水產製品檢査所・釜山稅關出張所・公立農業學校・尋常高等小學校・金融組合等あり。また舊調練所觀德亭を始め、本島の開祖三神人を奉祀せる三姓穴・朴泳孝流謫の遺跡等あり。觀德前廣場は市場を成し陸屬二・七の日に開き、農產物・水產物・織物・畜產品・日用品等の取引行はれ、年額二〇萬圓に達す。〔山地（さんち）〕濟州邑街の東部。山地川下流一帶の地區を占め、邑中最も飲料水に惠まれたる地域にて、清冽なる水熔岩末端部より湧出し人家最も稠密なる一區を成す。河口を山地港と稱し本島諸港中乘降貨客の大部分占むるも、元來港灣としての諸條件に惠まれず澁浪に直面し、常に達絡杜絕に脅威せらるるの狀態なり。故に大正十五年來これが改善を企畫し多大の努力を傾注し、昭和四年三月第一期工事を終へ引續き同六年第二期工事を起し、同九年三月竣工するに至れり。繼工我前後を通じ五十七萬圓の巨額を要せり。此工事により西側に防波堤延長五三〇米、東側に一五〇米を築造し、港內の面積二四四、五二六平方粁を有するに至れるも、港內水深六米以下に止まり且つ年々土砂堆積し水深を減ずるの缺點を有し、港內僅に三—四百噸級の船舶を入るるに過ぎず。兩も小型船舶と雖も絕對安全投錨は期待し得ざる狀態にあり。本港は半島部の木浦間との隔日定期航路を始め大阪・山地を結ぶ尼崎汽船會社の阪濟航路船第二君が代丸（九一九噸）は四の日に月三回山地港に入港し、同正生丸（一、〇〇〇噸）は九・一九の二回寄航して群山・仁川の諸港を結び、釜濟線・麗濟線の各定期航路あり。一方本島一周航路の起點を成す。東方鈔麗峽（ちょうれい）（一四八米）、北麓に白堊の山地燈臺（大正五年設置）あり。燈質は四白光、光達距離一二浬。なほ山地港の防波堤の突端に山地燈標（昭和四年設置）あり。燈質は明暗紅光、光達距離五浬。

【濟州海峽】朝鮮全羅南道の南部と濟州島との間にある海峽。その北岸は水深比較的大なら ず、朝鮮叢島の諸島散在するも中央以南は水深一〇〇米以上に及ぶ。大速・青島方面と門司・長崎方面間の航海船はこの海峽を通過す。

サイショ　西嶼庄　臺灣澎湖廳一街四庄中の一。澎湖本島の西に並行して横たはる西嶼波は漁翁島と稱する南北に細長き一島、及び其北に位置する小門島を合して本庄の區域とす。面積狹小にして河川と稱するものなし。此地は一年の內約半歲に亘りて猛烈なる季節風に襲はれ、爲に表土は吹飛されて、礁角の地多し。されど近來當局の熱心なる指導により防風林の育成に盡力しつつあれば、庄內一帶の緑化さるるは近き將來にあるべし。大池角・小池角には一池あり、淡水にして全面に水草を生じ、爲に庄內は他に比し淡水に惠まるること多し。本庄は漁翁島の名ある如く漁業は住民の主なる生業にして、近來は漁艙・漁具の改良に伴はれ、追々遠洋漁業に進出しつつある狀態を示す。隨つて最近頓に其漁獲高を增加す。小池角・內埡には漁業組合ありて斯業の發展に寄與する所大なり。農業に於ても住民の自覺と相俟つて、地の磽确なるにも拘らず庄內は最早開拓の餘地なき迄に開墾され、高粱・粟・落花生・甘藷等は其主產物なり。農に附隨して畜產行はれ、山羊・豚・家禽等の飼養盛なり。庄役場は小池角に位置し庄下の一要衝をなす。庄下に公學校一、分教場二あり。漁翁島燈臺は庄の西南突角に在り、往時は臺灣・厦門間を航行する船舶の目標たり。清の乾隆三十四年、時の臺灣知府蔣元樞が高さ七尺の標識を設けしを初めとし、光緒元年洋式の燈臺とせしも袋が領臺後更に改修して立派なる燈臺となる。本島は往時より臺灣・支那間の中繼地として知られ、或は海賊の巢窟となり、或

は和蘭人に占領せられし事ありて、蘭人に Vessere Eyl. の名を以て知られたり。明治二十八年我帝國の版圖に歸するや、當初は軍政布かれたれども、臺灣本島各地の如く匪賊の蜂起せし事なく、同二十九年六月西螺神務署の置かれし後、幾度かその名稱或は其管轄を改められしも、大正九年十月全面的地方制度の改正と共に澎湖廳は澎湖郡となり高雄州の管轄に屬せしめらる。隨つて改正前本庄の名稱たる西螺灣は西螺庄と改められ、西螺灣下の小池角・大池角・二崁・竹篙灣・横溝・合昇厝・糠馬灣・內埤・外埤の各郷は西螺庄下の大字名として其名を存續す。大正十五年七月一日郡制廢止と共に再び廳を置かれしかば、西螺庄は再び澎湖廳下の一庄となり現在に到る。澎湖廳下の中心地たる馬公との間に毎日二回定期汽船の往復あり。本島は上記の如く其沿革古ければ古廟宇多く、其內、關帝廟（舊正十年開基）・大義宮（同十三年開基）等は其開基の年も遠く住民の信仰厚きものなり。竹篙灣には乾隆年間清朝政府の建築に係ると云ふ保壘の殘址あり。

サイジョ　妻女山　→清野村（長野縣）

サイシ　在所村　高知縣土佐國香美郡の中部。物部川中流沿岸の地にして北は長岡郡東豐永村に界す。鰐山山脈南斜面の山地にて、東境には神寶山（八一〇七一米）、中央部には五在所山（八一〇八〇米）等聳居し、その山脚は村の南部を西南流する物部川の谷に急斜す。山地は太平洋の溫暖多雨の氣候的影響を受けて森林繁茂し美林地をなし林產少からず。物部川の谷には幅狹き低地ありて田畑拓け、西南部の山麓地と共に耕作行はれ米・麥を產し、また養蠶榮えて繭・生糸の產多く、西北部の松尾村落附近には三椏・楮等の栽培行はる。隣村の上韮生村・槻山村の森林伐採及び木材運搬のため、縣道物部川の南に沿ひて通じバスの運轉行はれ交通不便ならず。本村は明治二十二年韮生郷上分・下分の中十七箇村を合して置きしもの。大字白石に「ばくちのき」あり、地上一・三米の周圍が二・六米、樹高一七米、推定樹齢は三百五十餘年。また大字猪野々字楠ノ木の村社仁井田神社境內に椋樹あり、地上一・三米の周圍が七・一米、樹高二五米、推定樹齢は三百餘年。〔森ノ瀧〕大字猪野々字楠ノ木に在りて三段に分る。上段約二二米、中段二四米、下段三〇米。兩して最下段の瀧壺の邊に瓦岩あり、昔より鯖地石と稱さる。また瀧頭に森神社あり。〔井口大岩碑〕五在所山の頂上に近く、井溝の口に天然の一大瓦岩あり、慶安五壬三月十五日、今多甚太夫勝俊の銘を刻す。水餘のため文字不明の箇所あるも、之に依り井溝の築造ぜられしこと推察さる。慶安の初め今多權之丞定俊なるもの、猪野々（今の大字猪野々）に於て荒蕪三百石を給ぜられしが、水田となすべき灌漑用水なきを以て溝の許可を得、瀧水を利用して溝を築造し灌漑を計る。定俊の子勝俊は後世に之を傳ふるため彫刻せしものなり。もと猪野々の隣村たりし清瓜（今の大字清瓜）もこの井溝より分水す。明治九年旱魃の際兩村の水爭ありて訴訟を起したるが、この岩碑により猪野々灌漑の永に清瓜に及ぼすべしと判決す。

サイショー　宰相山　鶴田山（大阪府）の別稱。

サイショー　西城町　廣島縣備後國比婆郡の略中央部。北は美古登村に、東は八幡村・帝釋村に、南は本村に、西南は高村に、西は山內北村に界す。東西兩境には海拔五〇〇—六〇〇米の山地連亘し山地廣きも中部には低地ありて、江ノ川の上支なる西城川はこれを西南に流れて流域に耕地拓けて田畑少からず。農產に米麥等ありて、附近の丘陵は良牛の產地をなす。廣島市より三次・庄原を經て鳥取縣日野郡に出づる伯耆街道西城川に沿ひて通じ、また東方東城町に達する縣道の分岐點をなし、何れにもバスの往來あり。省線藝備線また伯耆街道に沿ひて走り、備後北部の交通上の要點をなす。大字西城に郷社彌比都比賣神社あり、境山毘賣命を祀る（例祭四月二十日）。當町は明治三十一年町制を施行したるものなるが、古くは奴可郡荊都郷（和名抄）の內にて大字入江字小坂は其遺稱ならんかといふ。入江の大宮山に西城城址あり。西城はもと西條に作り之を西城に改めたるは寛永の頃とす。西城は近世大宮莊とも稱す。西城城は宮氏の居城にして天文年中毛利氏に屬せしも、宮氏の勢力一時は備中・伯耆にまで及びしといふ。左衛門尉高尙に至り雲州巡谷に移り、かくて西城城廢ぜらる。いま村內にある曹洞宗三峰山淨久寺は實に永祿十年城主宮上總守高盛の創建にして、爾來宮氏累代の菩提所たり、その墓今に存す。

サイジョー　西條　【西條村】千葉縣安房郡安房郡の東北部。鴨川町の北に隣り、北は君津郡鳥山村に界す。土地南北に長く村の北部より中部にかけては、北境に近き元清澄山（三四四米）の山脚延びて山地をなし、その南麓は急傾斜して村の南部の平地に臨む。山地一帶には森林よく繁り、南部は加茂川流域平地の一部を占め田畑よく拓く。養蠶・養雞行はれて繭・雞卵の產少からず、また米・麥等の農產を出す。西方保田町より來る縣道南部を東西に貫きてバスの便あり。また省線房總西線の安房鴨川驛に近く交通便利なり。古くは和名抄長狹郡伊部郷の地なるべく、中世に東條氏此地を領し、のち里見氏の有となり、近世は西尾氏の所領たり。大字打墨に金山城址あり、東條氏の居城なりしが、文安二年六月、七郎左衛門當政の時に里見義實に攻落され廢城となる。大字花房は

花房落、西尾氏の落城のありし所。落校修道館（舊學問所）は西尾忠篤の創立にして、明治三年に修道館と改稱す。また花房には文永元年、日蓮上人が小松原の法難卽ち東條左衛門景信に襲撃ぜられて、疵を蒙りし時、その疵を洗ひしと傳ふる創洗井あり。〔花房落〕昭治元年九月遠江横須賀に居りし西尾氏花房の地に封ぜられ三萬五千石を領す。明治四年廢ぜられて花房縣となり、同年更に廢して木更津縣に入る。

【西條村】山梨縣甲斐國中巨摩郡の東部。甲府市の西南に接す。面積五・七七方粁に過ぎざるも、甲府盆地の略々中央に位し、鎌田川の流域は土地平坦にして耕地よく拓け、田地最も多く、畑地これにつぎ、米を主產し、繭・麥等を出す。甲府より鰍澤町方面へむかふ鰍州街道と社線富士身延鐵道は村の南部を東北より西南に横切り、後者の國母驛（昭和三年開業）ありて交通便利なり。本村は、西隣の常永村と共に組合村を組織し、役場を本村に置く。（鎌田川源氏蛍發生地）指定天然記念物。古來著名にして六月初旬その羽化最盛期に達し夕刻八時前後に飛び交し一美觀なり。幼虫は縣下地方症の桐原住血吸蟲の中間宿主たる「かたやまがひ」を食ずと云はる。〔本妙寺〕大字押越にあり。本門宗北山本門寺末。中央山と號す。天正十年の創建にして、本山十世日殿上人の草創に係る。〔正法寺〕大字押越にあり。本門宗北山本門寺末。蓮華山と稱し小本寺格にして本山九世日出上人の草創に係る。

【西條町】廣島縣安藝國賀茂郡の略中央部。面積僅に一・四五方粁。町は瀨戸內海に注ぐ黑瀨川の上流にある西條盆地の中心に位す。夙く中國街道に沿ふ宿驛にて、廣島を去る東方約三二粁、東南は竹原、南は三津、西南は廣村を經て呉、北は志和堀・竹仁方面への縣道の起點をなし、いづれもバスの便あり、また省線山陽本線の西條驛（明治二十七年設置）置かれて交通上の要點に當り、醸造・精米・農具製造等の工業行はれ、特に清酒賀茂鶴の產地として著はれ、商業も榮ゆ。特產物は酒の他に柿・松茸等を擧ぐべし。町は郡の主邑にして、もと郡役所のありし處、いま警察署・營林署・稅務署・縣農事試驗場及び縣立西條農學校・育英學校・縣實業補習學校教員養成所あり。古くは隣村吉土實村と共に和名抄、賀茂郡賀茂郷の地なり。賀茂郷は郡家のありし處にて、郡家は恐らく本町の內にありしなるべし。國分寺は賀茂郷の內、いまの吉土實村の地籍にあり。當町の邊は古へより郡の中心地なりしを知るべし。後世東條郷・西條郷に分れ賀茂郡の名亡び其後また東條の名亡び、附近一帶を西條庄と云ひ、また一に西條郡とも呼べり。大內義隆記に「大永七年八月尼子伊豫守安藝國西條郡鏡山を切取て云々」とあり。鏡山（御園宇村）に西條城ありたり。東條はのち四日市（今の西條町）となり、而して西條の名は西北隣の寺西村の大字に遷る。四日市は江戸時代には山陽道の宿場にして駄馬十五疋を置かる。のち四日市次郎丸村といふ。明治維新より町村制施行までは四日市次郎丸村及び吉行・土與丸・助實の三村を合して聚合戸長役場を置きしが、明治二十二年分離し、四日市次郎丸村を獨立せしめ、翌二十三年町制施行に際し往昔の庄名を取りて西條町と改稱し以て今日に至り、而して吉行・土與丸・助實の三村は合して吉土實村となる。〔彌比都比賣神社〕大字西城に鎭座。郷社。祭神、彌比都比賣命（明細帳には埴山毘賣命外二柱とす）。創立年代不詳なれども式內の古社たり。例祭三月二十日。〔教善寺〕字次郎丸にあり。淨宗本願寺派。武田光明出家して淨圓と號し玆に庵を結ぶ。天文年中、佐々木六角彈正山科本願寺を攻めし時、淨圓隱せて本山を援く。歸るに及んで本寺を創し光明坊と號せしを、慶長十年了光法師の時に教善寺と改稱す。

【西條（郡）】→西條町（廣島縣賀茂郡）

【西條町】愛媛縣伊豫國新居郡の西北部。東北は新居濱市に接し、北は燧灘に臨む。東北部新居濱市との境界部には讃岐山脈の西端部に當る高さ約二〇〇米の丘陵ありて東西に延び、南部には石鎚山脈の裾ケ森山の山麓の末端部なる高さ二〇〇米の丘陵あるの外は、石鎚山脈隣屋の北側崖下に室川・加茂川・中山川等の作りし東西に帶狀をなす沖積平野の一部にて土地平坦低卑、田畑よく拓け、全有耕地の七五%を超え、農產に米の產額も多く、麥・繭・甘藷・雞卵を出す。また綿布・和紙（チリ紙）等の工業も榮え、沿海には鯛・鰯等の漁獲も多し。町は松平氏三萬石の舊城下にて現在は東隣地方の商工業の一中心地をなし、大阪・若松間の內海航路一汽船の寄航地たり。道路には讃岐街道は町の南方を東西に走り、今治街道はこれより岐れて西北方に向ひ、鐵道には省線豫讃本線また東西に通じて大町に伊豫西條驛（大正十年設置）を設け交通上にも一中心をなす。また石鎚山登山口の一つに當り大町にその拜殿あり。此地古くは和名抄、新居郡神戸郷の地。（但し烏山の邊は烏山郷の內ならん）中世、新居西條庄に屬せしより町名起る。而して其名の起原は大化改新の班田收授の法の條里制に基き、新居郡東部を東條と云ひ西部を西條と云ひしに因むと云ひ、今に條里の跡を存す。西條城址あり、鎌倉時代河野氏ここに館し、河野氏衰へて後、寛永十三年一柳直重ここに居城し三萬石を領す。寛文五年紀伊德川頼宣の次男松平頼純この地に封ぜられ子孫相承け明治維新に至る。明治四年廢藩置縣に際し西條縣を置きのち愛媛縣に入る。大正十四年國津村・大町村・神拜村を合し町制を布く。

かく本町は城下町として發達せしが、瀬戸内海航路及び陸上交通の便利を以て、近年特殊的發達をなせし新居濱より古く郡内の中心邑をなせし所にして、もと郡役所の所在地。いま區裁判所・警察署・稅務署・營林署・縣立中學校・農業學校・高等女學校等あり。八堂山の麓、加茂川の清流に臨みて武夫樓の名所あり、京都嵐山の風光に似たるを以て東豫の小嵐山の稱あり。〔西條城〕本城はもと伊豫の豪族河野氏の居城たりしものの如く、豫章記に、源頼朝に從ひ功ありし河野通信その末功に依りて伊豫の守護職となり、新居西條莊を賜はるとあるは、恐らく通信當城を居館となせし始めならん。愛媛面影に、河野益男、その子貴勝、新居西條を居館とし西條御館と稱すとあり。のち河野氏衰へ、美濃に來りて守護土岐氏に仕へ一柳氏を稱ふ。一柳監物直盛、慶長五年關ヶ原の役、家康に從ひて功あり伊勢神戸城を賜ふ。寛永十三年その子直重西條城三萬石を與へられしが、その子直興に至り故ありて領地を召上げられ、寛文中紀伊徳川頼宣の次男松平頼純來り治し、子孫相傳へて明治維新に至る。〔西條神社〕大町に鎮座。縣社。祭神、西條藩主松平家代々神靈・徳川家康。もと石槌神社(縣社、同郡大保木村)の傍に鎮座せしが、天保年間に至りて同社の向ひ山に遷り、明治五年更に現社地に遷座す。もと東照神社と稱せしが明治十八年現稱に改む。社寶中、太刀二點は國寶に指定せらる。例祭四月十七日。〔飯積神社〕大字玉津に鎮座。郷社。祭神、倉稲魂命・國魂愛比賣・氣長足姫命・足仲彦天皇・十城別王。天正の兵火に罹りて殿宇・舊記等烏有に歸し創立沿革等の明を缺く。例祭、九月十六日。

サイズ　西豆村　静岡縣伊豆國田方郡の西南端。西と北は駿河灣に臨みて、東に土肥町、南は賀茂郡字久須村に界し、南境は猫越火山の西北端に當り海拔五〇〇米内外を示し、西北に向ひて次第に傾斜す。西南海岸は崖をなすも北海岸に多少の低地あり。村内は山林・原野廣きも西南部と西北部には畑地・田地あり。また大字小下田よりは安山岩質石材采掘を産す。海岸に沿ふ一條の縣道により、北方は田子・松崎を過ぎて修善寺町へ、南方は田子・戸田を經て修善寺町へ出づるを得。本村は戸田村・土肥村と共に和名抄、那賀郡井田郷の地とす。いま八木澤・小下田の二大字より成る。

サイセー　西勢　臺灣總督府鐵道潮州線の一驛(大正八年設置)。臺灣高雄州潮州郡竹田庄西勢にあり。

サイソク　柴足面　朝鮮平安南道大同郡の東北部。東は江東郡元灘面、北は龍岳面、西は斧山面及び林原面、南は大同江を隔てて秋乙美面に相對す。妙香山脈の餘脈域内に及び北境には國士峰(四六米)、西甫塢には大聖山(二七四米)等聳え、なほ北部中央には青雲山(五六四米)蟠居し山地帶を成せども、南半部は土地頗る低平にして地味肥え農業に適す。産物は大豆・米、其他に雜穀・煙草・棉花・楮皮・柞蠶繭・牛・陶土等あり。西方平壌より東方元山府に至る一等道路は面のほぼ中央を南北に横斷し乘合自動車の便あり。北部山間地帶の道路は未だ改修を見ず坂路多く交通便ならず。面事務所を魯山里に置く。

サイタ　財田

【財田川】　香川縣にあり。伸多度郡七箇村大字鹽入に發源、三豐郡の中央を東西に貫流し凝灰に注ぐ。流程約二八粁。岡堀に聳ゆる若狭峰(七八七米)に發し、北流し上名・下名を經て西に折れ、大字久保の中央を西流、十郷村を貫流、三豐郡に入り大曲折をなし財田村を貫流し、東南より來る歸來川(十郷村大字十郷發源、流程約四粁)・谷道川(大字財田上字南谷發源、流程約六粁)・本篠川(財田村大字財田中字登り尾發源、流程約四粁)・長野川(大字財田中字鍋倉發源、流程約三粁)等を合せ、ここにて財田村の盆地を形成し、丘陵を破りて財田大野村に出で東北なる神田村の中央を縫貫する神田川(神田村字立石發源、流程約六粁、並に南より來る河内川(河内村字長野發源、流程約六粁)を合せて、知行寺山(一六三米)丘陵の麓を洗ひ、三豐平野を西北流して、本山村・一ノ谷村の境をなし、本山集落邊にて東南より來る宮川(二ノ宮村大字羽方字奥發源、流程約七粁)を合せ、桑山村・雷幣村の一角を過り、漸く西南に曲り、高室村の南部を過ぎ、觀音寺町に入りて海に注ぐ。土器川・香東川に次ぎ縣内第三の長流をなす。此川も讃岐河川の特徴を脱せず、聳立せる讃岐山脈より發し、詰はゆる梨鞴式水系を以て瀬戸内海に急射し、天井川の性を呈し、平時は水流至つて少く砂礫河原をなし、灌漑の利少し。河口は一帯の遠淺をなし白砂青松、有明濱と稱して、琴弾公園として、海水浴場として賑ふ。河口は土砂の堆積多き缺點ありと雖も、近時築港成り、觀音寺港として利用せらる。觀音寺町邊にては觀音寺川と云ひ、また梁川とも稱す。

【財田村】　香川縣讃岐國三豐郡の最東南端。北は神田村に、西は河内・財田・大野兩村に、東は伸多度郡十郷村に隣り、南は狭田峯・中蓮寺峰等の連山を以て徳島縣三好郡に界す。土地概ね山岳性なれど財田川の上流に當り、大屈曲を以て村の中央を略東西に貫流し、沿岸平地を有す。地質は南部は和泉砂岩質なれど、河畔は洪積地、北部丘陵地は花崗岩質又は洪積層より成り、地味肥沃、農耕に適し、また域内は讃岐山脈より支出する丘陵多し。果樹栽培に適し、殊に柿・葡萄・柑橘・桃・林檎に好適、また竹林に適す。

珠に發に深山を控へ水利に富むを以て美田を有し、古來財田の稱あり。大正天皇御大典には主基地方の風俗繪として、特に本村の秋の垂穂を描かれ、御歌所長入江爲守の風俗歌に、當加良堂能邪津可乃多里保閑利都美天、太三豊古々路毛遊多加奈流麻武とあり。なほ本地方は地勢上古來阿波との交通路に當り、雲辺越・西山越として知られ、阿波澁田より箒藏越により本村石野に出で、又は西山越により西山より本村の入日・下條に出でたり。今は土讃線開通し讃岐財田驛(大正十二年設置)あり交通便利となる。財田の名稱に就て諸説あり、或は萬治年間將軍家綱の命名とも云ひ、或は大同年間弘法大師本村に萬福寺を建立、次で弘仁年間大旱に際し、今の財田川を遡り水源を求めし當時、本村地方は既に美田を有し、其稻を上に獻ず、卽ち勅ありて萬福寺の建立となり、又此勅により中の村・上の村・西の村を財田と命名、財田三郷と稱せりとも云ふ。藩制時代に既に財田上・財田中に分れ、財田上に多度津藩、財田中は丸亀藩に屬せしが、明治に入り區分制を布き、本地方は七十區となり、明治廿三年町村制實施に爾村を合併し財田村と改稱す。從て本村は開發古きが如く、石器時代の遺跡を始め、古墳時代遺跡をも之を認む(今取除く)。史蹟に富み、神社には郷社鉾八幡社並に村社雨之宮社あり。寺院には禪宗の品頭寺(敎國山、元和頃創建)・正善寺(金頭山)・善敎寺(九法山、香西伊賀守の弟了圓草創)・寶光寺(鉾島山、永正中鉾島神主佐長伊豆守道雅草創)を始め、眞言の伊舍那院並に末寺の珠勝山芳福寺あり。珠に伊舍那院は北田山如意輪寺と號し、聖德太子の開基にして、本村の開發も早きを察せらむ。附近に財田橋城主大平伊賀守の城址あり。

サイタ　齋田　↓撫養町　徳島縣板野郡

サイダイジ　西大寺

【西大寺町】　岡山縣備前國上道郡の東部。吉井川下流の右岸にあり。東北は雄神村に、北及び西は芳野村に、西南は金田村に界し、東は吉井川を隔てて邑久郡豐村に對す。面積一・六五方粁。町は吉井川の沖積デルタの一部を占め、殆んど田畑となし、農業盛んにして備前米をはじめ麥を産す。また紡績・綿布等の工業行はれ、綿糸・綿布・酒類等工産多し。町は吉井川にのぞみ古く河港として商業の榮えし所。岡山市とは社線西大寺鐵道及び縣道により連絡され、東北方伊部・和氣へも縣道通じいづれもバスの便あり。天平年間創建の西大寺あるを以て名高く町名もそれより出づ。此地古くは金岡庄と稱せり。當町は寶龜年間安隆上人の草創になる瓦剳西大寺を繞りて形成せられ商業地にして吉井川に依り外國貿易も行はれたるものの如し。寺の門前には川を渡る船船が繫留されしを以て鎌倉時代には寺の支配の下に數多の商業の座設けられたり。當ては郡役所の所在地たり。明治二十九年町制を布き、昭和十二年金岡村を編入す。吉井川磧に鎭馬場あり。春秋二回鎭馬行はれ中國・近畿・四國・九州よりの出馬多し。〔雄神川神社〕宇原町に鎭座。郷社。祭神、神日本磐余彦命・天照大神・豐受大神外六柱。明治十二年十一月創立。郷社に列す。例祭十月七日。〔西大寺〕古義眞言宗。金陵山と號し、僧に觀音院の名を以て著る。現に高野末たり。天平勝寶三年、周防國玖珂庄藤原泰明の女皆足の開創にして、開山を安隆上人とす。永正中直阿中興す。爾來寺門隆盛を極め國司の崇敬厚く、殊に宇喜多直家深く歸依して其菩提所となし寺領若干を附す。諸堂宇整備し、輪奐宏壯を極め國西加指の巨刹たり。寺寶中、銅鐘一口は朝鮮鎚にて高麗朝初期の作たるべく現に國寶たり。また當寺に行はるる會陽の秘法は古來甚だ有名なり。この法會は招福・避難の大祈禱會にして、正しくは修正會と號し、毎年陰曆一月元日より二七日の間これを修す。その結願の日には寶前の午王、御福ともいふを參詣者の間に授与る習慣あり。初めはこれを講頭または年長者に授くる例なりしが、次第にこれを望むもの增すに至りて授与へることとなる。爲にこれをのぞむ者は自ら取りよくするために裸體の風を馴致するに至り、のちには轉じて午王を取らんとするもの寒中寺側の吉井川にて身を洗ひ清めて場に臨む風習を作る。〔宇喜多茶屋屋敷址〕往昔、宇喜多和泉守直家の別墅を營みし所なり。其地はもと西大寺中の、圓藏坊の所在地たりしかば、直家ここに別墅をここに築造するに當り、圓藏坊に對し特にその寺領二石を寄進せり。家臣宇喜多太右衛門より寺に寄せし寄進狀は、今なほ西大寺に保存せらるといふ。

【西大寺】　山陽本線の一驛(明治二十四年設置)にして西大寺鐵道の接合點。岡山縣上道郡財田村にあり。

【西大寺鐵道線】　私設鐵道。岡山縣にあり。岡山市西川原の後樂園驛より上道郡芳野村の西大寺町驛に至る。全長一一・四粁。軌間〇・九一四米、省線と連帶運輸す。

サイタオーノ　財田大野村　香川縣三豐郡三豐平野の東部に位す。財田川並にその支流の平地に出でし處に當り、略東西に長く擴がる。東は神田、東南は財田、南は河内、西は辻並に本山、北は上高野並に二宮村に界す。北東部並に東南部は丘陵地ななし、花崗岩質より成れど、其他は洪積地にして平坦、三豐平野の一部をなす。財田川は村の中央を略東西に貫流し、支流神田川・河内川ここに合流す。土地肥沃　農業地をなし、農業者は七三%を占む。米(五千石)約十六萬圓、麥(小麥・裸麥各約二千石)を

始め、果實(柿・柑橘)を產し、副業として養蠶・養鷄・蓙製品製造(叺)行はれ、繭・甲各一萬八千圓、叺二萬七千圓の產額を示す。縣道觀音寺・池田線は村の中央を東西に、縣道財田西・詫間線は東より北西に貫通し、又縣道琴平・豐濱線は南より東に通じ、昭和十一年三月より觀音寺・琴平間省營自動車開通、大字財田西に財田大野鐵道設置、同年十一月豐濱・財田大野間に省營自動車も開通、交通便となる。本村にもと大野郷に屬す、廣大なる原野地なりしため此稱を生ぜしものと云ひ、古來大野家の族の居住地なりし事は姓氏錄に大野朝臣と記し、續日本紀靈龜元年の條に大野朝臣東人の名出で、天平十九年の條に從八位上御方大野、正四位下大野廣淵の名出づるに依りて知らる。早く本大村・大野村・財田西ノ村の三村幕合し、明治十八年一月大野村に同村外二箇村戸長役場を設き、同廿三年、町村制實施の際、財田西ノ村・大野村の二村を合併し財田大野村と改稱、大野・西ノ村の二大字に分る。此地方は河畔の地として早く開け、丘陵地に先史時代及び原史時代の遺跡甚だ多く、河東なる知行寺山の如き古墳群地をなし、平地には條里制よく保存さる。(八幡神社)大字大野に鎭座。郷社。祭神、品陀別命・息長帶姫命・仲哀天皇。創建年代不詳なるも、今を去る凡そ九百年前に大野郷と稱せし以前より此郷の產土神として崇敬せられしといふ。例祭、十月一日・二日。

サイタマ　埼玉

【埼玉縣】　關東地方一府六縣の一。關東地方中部の西半を占め、西は關東山脈によりて山梨・長野の二縣に、北は利根川の本流とその支流神流川・烏川によりて群馬縣に、利根川の分流江戸川を隔りとして茨城縣・千葉縣に境し、南は東京府に接す。武藏國の過半部に當り、川越・熊谷・川口・浦和の四市と北足立・入間・比企・秩父・兒玉・大里・北埼玉・南埼玉・北葛飾の九郡を含む。面積三、八〇二平方粁餘。內地道府縣中、第三十九位に居るも、人口は一、五二八、八五四人(昭和十年國勢調査)(昭和十一年十月推計人口は一、五四三、四〇〇)にして、一平方粁平均四〇二人に當り、その稠密度は東京・大阪・神奈川・福岡・愛知・香川の諸府縣に次ぎ第七位を占む。(地形)地形上自ら西部の秩父山地と東部平野の二部に分かる。秩父山地は關東山脈の東北部に當り、主として秩父古生層・御荷鉾層・三波川層及び白堊期岩層より成り、西境には三國山(二、一八二米)・甲武信岳(二、四八三米)、南部に古礼山(二、一一二米)・白石山(二、〇三六米)・三峯山・白岩山、一九二二米)・天目山(一、七一八米)・大平山(一、六〇三米)等、北部には兩神山(一、七二四米)・二子山(一、一六六米)・父不見山(一、〇六六米)・城峯山(一、〇三八米)等、東部には有間山(一、二一四米)・武甲山(一、三三六米)・丸山(九六〇米)・堂平山(八七六米)・大霧山(七六七米)等の山塊連立し、荒川は南部に、赤平川は北部に發源し、共に東北に流れて謂はゆる秩父盆地を潤し、後相合してこの山地の東北部を截りて東部の平野に出つ。東部の平野は卽ち廣義の武藏野の過半部とその東北を縁どる利根川・江戸川沿岸の低平地より成る。武藏野は秩父山地の東邊に接する第三紀層の丘陵の外側に續く洪積層の臺地にて四〇　五〇米以下の平坦面をなし、秩父盆地より出づる荒川南流してこの臺地を東西に兩分し、左右沿岸に沖積層の低地を作り東京市を經て東京灣に注ぐ。この洪積層の臺地の東と北には利根川・江戸川の堆土により成れる廣大なる沖積平地あり、前者と共に縣下主要農產地區をなす。卽ち縣の統計によれば、山林は十二萬餘町歩(三五%)にして主として秩父山地にあり、畑の九萬四千餘町歩(二八%)と田の六萬八千餘町歩(二〇%)は主として東部平野の地に發達せるを見る。(氣象)縣內概して溫和にして寒暑共に烈しからず。熊谷市に就て見れば、平均氣溫は年一三・四度、六月上旬より九月上旬に至る間は最も高く、八月は二五・二度、一月より三月上旬に至る間は最も低く、一月は二・四度を示し、降水量は年一、三五六粍餘、晩夏より初秋にかけて最も多く、冬季に於て最も少し。快晴日數は六八日餘、降水日數は一四六日を計る。風は夏は南或は東南風多く、冬は北又は北西風多く、北部群馬縣に接する地方は「赤城下し」と呼ばるる寒風吹荒むことあり。以上熊谷市の氣象は大體に於て縣の東部平坦部を代表するものなり。ただ西部秩父山地は東部平坦部に比すれば氣溫概して低く、降雪期も早く、また秩父下しと呼ばるる寒風吹くを常とす。(交通)中世相模・武藏の國府より上州地方に出づる官道は多摩郡(今の東京府北多摩郡)より川越に出で、比企・兒玉兩郡を經たれば陸路の夙く開けたる處とす。今も中仙道は縣の平坦部の中部を東南より西北に貫き、川口・浦和・大宮・上尾・桶川・鴻ノ巢・深谷・本庄等を過ぎて群馬縣南部に入り、陸羽街道(奥州街道)は縣の東部を南北に通じ、草加・越ケ谷・杉戸・幸手・栗橋を經て茨城縣に入る外、東京より川越に至る川越道、浦和より川越・豐岡を經て北多摩郡に入る山梨道、川口・鳩ケ谷・大門・岩槻を連れて北に向ふ鷲日光街道、浦和より岩槻・粕壁を過ぎて千葉縣に入る水戸道等を始め縣道縱橫に連絡して、その多くはバスの往來あり。又鐵道には省線東北本線は縣の東部平野の中部を北走し茨城縣に入り、高崎線は前者の大宮驛に起り中仙道に沿ひて群馬縣に入り、八高線は八王子驛(東京府八王子市)より來りて入間・比企二郡を貫き兒玉町を經て群馬縣に入り、高崎線に連り北越東武鐵道(電車)伊勢崎線はほぼ陸羽街道と並行北上し粕壁より西北に向ひ久喜・加須・羽生を經て群馬縣に出で、その日光線は伊勢崎線の杉戸驛より岐れて陸羽街道に沿ひて茨城縣に出で、總武鐵道は東北本線大宮驛に起り、東方に向ひ岩槻・粕壁を經て千葉縣に出で、西武鐵道(電車)の川越東線にまた大宮驛より西方川越に至り、また西武鐵道本線は川越と省線中央本線の國分寺驛を繫ぎ、東武鐵道(電車)東上線は省線山手線池袋驛(東京市)より來り川越市を過ぎ坂戸・松山・小川を經て寄居町に至り、武藏野鐵道(電車)また池袋驛に起り西所澤・飯能を經て西野に至り、秩父鐵道(電車)北埼玉郡羽生町より西して熊谷・寄居を經て秩父の三峯口に達し、其他蓮田・武州大門間の武州鐵道あり。また荒川・利根川・江戸川等は皆舟運の便ありて縣內の交通甚だ便利なり。(產業)秩父山地を除けば到る處土地平坦、地味亦肥沃にして耕地よく拓け、農蠶の業榮え、縣民の六割以上は之に從事す。農產價額は生產總額の約三分の一を前後し、米(四、四〇八萬圓)・繭(二、四一八萬圓)・麥類(二、九三八萬圓)等を最主要品とし、甘藷・馬鈴薯・里芋・生大根は何れも百萬圓を超え、大豆・濱菜・牛蒡・葱・茄子に皆五十萬圓以上を產す。養蠶に到る處に行はるるも特に大里・入間・北埼玉・兒玉郡等に盛なり。工業は織物・鑄物・陰造・染色・製糸等を主とし、漸次機械工業に進りつつあるもなほ家內工業の域を脫せざるもの多く、工場數一、六六九、從業員四六、〇〇〇人に近し。工產額は縣下生產總額の六三%に至んとす。卽ち金屬製品(二、六四九萬圓)・蠶糸(二、五七〇萬圓)・機物(二、四九三萬圓)・足袋(二、六〇〇萬圓)を最重要品とし、機械類・酒類・毛絲紡績・セメント・小麥粉等は何れも五百萬圓以上を產し、木製品・絹糸紡績・

生產價額

	昭和十年	昭和八年	昭和六年
農產	八六、四三〇千圓	八三、〇八〇千圓	五八、〇〇〇千圓
畜產	八、一七〇	七、八三五	五、五〇〇
林產	二、八五六	二、三五〇	一、七五〇
礦產	一、六四八	一、〇一〇	七二七
水產	一四四	一八四	一八〇
工產	一六八、一四八	一三二、二三六	九一、〇四二
總額	三六七、八三三	三三五、九二六	一五七、三五六
一人當り	一、三四四圓	一、四四四圓	一〇七圓
一戸當り	九六五	八一八	五九五
比分百 農產	三三、三四	三八、四八	三六、八八
比分百 工產	六二、八八	五六、六一	五七、八二
比分百 其他	四、六二	四、八一	五、三二

レース・洋(沿革)本[illegible]國に置きし[illegible]し改稱した[illegible]落・忍郷藩を[illegible]を同年十一月[illegible]したるものに[illegible]國埼玉郡及び[illegible]す。明治九年[illegible]かれたる熊谷[illegible]管の中なる武[illegible]父・男衾・大里・[illegible]座・那賀・兒玉・[illegible]の一部と寄入間[illegible]間縣に明治四年[illegible]れたる川越藩を[illegible]のにして、同六年[illegible]崎に置かれたる群[illegible]稱せしを、同九年[illegible]らるに當り、舊入間[illegible]移管したるものなり[illegible]下野・武藏の國界に[illegible]同十三年五月葛飾郡[illegible]葛飾二郡を分ち、埼玉[illegible]玉の二郡に分け、足[illegible]郡を分つ。同二十九年[illegible]飾郡を北葛飾郡に併せ[illegible]郡に合し、高麗郡と比[illegible]間郡に編入し、横見郡[illegible]賀美・那珂二郡を兒玉郡[illegible]郡・男衾三郡を大里郡に

上杉謙信が忍城に押し寄せ長野村に放火し、埼玉村に赴き丸墓山地蔵堂に登り忍城を見下し、この城のたやすく落ちざるを見て近村を焼拂ふと見えし山にして、大字渡柳も此時の放火に遇ひしといふ。歌枕として知らるる小埼沼（埼玉津・埼玉沼ともいふ）は、村の北部にありき。萬葉・九、武蔵の小埼の沼に鴨ぞ翼きる己が一首、埼玉の小埼の沼に鴨ぞ翼きる己が尾に零り置ける霜を掃ふとならし」（前玉神社）大字埼玉に鎮座。郷社。祭神、前玉姫命。養老年間の創建と傳ふるも、寶暦年中、別當延命寺炎上の際に古文書すべて失はれて、その詳細を知り難し。傳へて式内社とす。中世に淺間宮を當社内に勧請せるに大いに隆盛をきたし、自ら當社も淺間神社または富士權現と稱するに至る。古くより埼玉一郎の總鎮守として士民の尊崇篤し。明治六年郷社に列し、淺間宮を境内社とし舊社號の現稱に復す。社地二千九百餘坪、反松老杉多くして幽邃なり。例祭、四月二十八日。

サイツ　佐伊津村　熊本縣肥後國天草郡天草下島の東北海岸。東は鳥原海灣に臨み、北は御領村に接し西は城河原村に隣り南は本渡町に界す。面積六・七九方粁。北・西及び南の三境には高さ七〇—八〇米の丘陵あり中部に向ひて極めて緩く傾斜し、中央部より東にかけて低地を畳り、海岸は平直にして遠浸をなす。佐伊津の聚落は海岸に沿ひて街村型をなす。主産業は農・漁にて農産物には米・麥・小麦多し）。ゲリーンピース・蕪等あり、信用組合の援にて出荷す。漁業は發動機船にて朝鮮・北海・玄海・黄海等まで出漁す。郡内有數の遠洋漁業村にて村内婦女子の鮮魚・乾魚の行商は古来有名なり。縣道は東部を南北に通じバスの便あり。村名の起原は不詳なるも土俗の傳ふる所によれば、往古此地は海中に浮ぶ三箇の洲なりしが地殻の隆起運動により現狀となれるものにて、古へは三洲と云ひのち轉訛して「サイツ」と呼び、佐伊津の字を宛つるに至りしものなりと云ふも如何にや。いま村内に金瀧城址と呼ぶものあり、鎌倉時代、才津三郎なるもの之を築きしもの、その後の變遷詳かならざるも大阪陣の頃までは居城したりと。阿彌陀寺は室町時代の創建と傳ふ。また村内所々の墓に百數十基のキリシタン墓碑散在す。

サイツ　齋津　徳島縣名東郡にありし村。大正十五年徳島市に編入さる。

サイデン　財田村　岡山縣備前國上道郡の北部。岡山市の東方約五粁、北及び東は古都村に、南は可知村に、西は幡多・高島の二村に隣り、西北の一小部分は旭川を隔てて柳津郡牧石村に對す。面積六・九九方粁。北部には高さ二〇〇米に滿たざる丘陵起伏するも、南部は岡山平野の東北部に當り土地低平にして田畑よく開り、備前米を主とし麥を產し、また葡萄の栽培、養蠶行はる。く人口稠密にして一方粁に〇ふ。省線山陽本線は村の中央り西大寺駅（明治二十四年設また岡山市と西大寺町をつ寺鐵道は長利・財田の二驛四年開業）を設け、また村の南部を横きりてバスの交通は便利なり。此地上道郡財田郷の地とす。は吉富庄と稱せらる。萬燈會と稱する年中行舊暦七月十四・五の頃、土田（財田村の部落）に集ぐる慣例なり。町天皇天正二年より當て足利十五代將と構へ、敗れて西毛利氏に倚るや、輝元と講和し共に明禪寺の役に於けの士は皆これ忠ば實に惡むべき め祟祭の典を畢 迫等の部落に命じ しむるに至るとい 四御神に鎮座。郷 少彥名命・三穂津 建年代詳かならざ もと現社地を距る

拓けて米・麥その他の農產を出す。縣道と社線小倉鐵道は甲部の低地を南北に走り、鐵道は小倉市と彦山口を繋ぎ、村内に五反田・採銅所・宮原の三驛（前者と後者は昭和八年、中者は大正〇年開業）を設け、村内交通便利なり。村名は往古採銅の所なりしより起りしものなるべく、北境の金部峠等も出銅に因める名なりと。此地は香春町と共に和名抄田河郡香春郷の地ならんも、その以前は企救郡に屬したること、三代實録元慶二年三月五日辛丑の條に「詔令太宰府採豐前國規矩郡銅、寇波郡銅矢百人、爲採銅鑄作、先遣清豐或中奏八幡大菩薩宮」とあるを以ても明かなり。また同書仁和元年三月十日乙丑の條に「太政官處分、下知長門國、送銅手一人幅穴手一人於豐前國採銅使許、只豐前國民未習其術也」と見ゆるも此地の採銅ないへるものなり。また聖武天皇天平十六年、宇佐宮に放生會の式始まれる時に勅使下向ありて、その路この地に來り寶殿を鑄奉り神宮に献ずといふ。

サイトク　戒德　朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛（昭和八年設置）。朝鮮咸鏡北道吉州郡鳴社面にあり。

サイトザキ　西戸崎　→志賀島村（福岡縣糟屋郡）

サイトバル　西都原　→上穂北村（宮崎縣兒湯郡）

サイトン　西屯庄　臺灣臺中州大屯郡の西北隅。臺中市の西北方に位し、東は北屯庄に接し、西は大肚山脈分水嶺を以て大甲郡下龍井・浅鹿二庄に界し、南は南屯庄に、北は豐原郡大雅庄に夫々隣接す。廣袤東西二里十一町、南北一里二十二町、總面積二・五七八五方里。西部に大肚山脈の低き丘阜連る以外は概ね平坦にして、大肚溪の一分流は北隣大雅庄（豐原郡）より南下し、管内の略中央部を北より南に貫流して南隣南屯庄に入る。即ち本庄は臺中平野、もと大墩平野と稱せり）の一部にして、西部山地及び其の附近は畑として開墾せられ、其他は全部水田を爲す。隨つて耕地面積廣く、田二千二百餘甲、畑一千百餘甲、合計三千四百餘甲に上り、水田は湧出水を以て灌漑する泉水田及び埤塘水を以て灌漑する埤塘水田に分る。前者は西屏千七百年頃南屯地方より玉成楚外百七十名來りて湧田水路を開き、西屯の一部及び潮津・馬龍潭・永堀頭・惠來厝の各大字方面の土地を拓きて水田と爲したる後、政府に申告して其の當時一般に行はれたる大租なるものを納めず、地租を納めたるに依り、一名官莊田の稱あり。後者は現住民（本島人）の祖先、支那より移住し來りて後、西屏千七百三十五年頃土蕃の熱蕃等と共同して割據墾埤を開鑿し、上石碑・下石碑・上牛埔子・港尾子・八張犁・林厝・何厝の各大字方面の草原を開拓して水田と爲し、其後移住民の增加に從ひ土地は益々開墾せられ、漸次發達し來りたるものなり。割據墾埤は現在庄内延長約一千合計十四里十九町、庄内灌漑面積約一千一百甲に及ぶ。人口一萬五千六百餘。住民は主に張姓及び廖姓にして、張姓は西屏千七百年頃福建省漳州府漳浦縣より、廖姓も亦同年代頃同省同府詔安縣より移住し來れるものなり。地勢上天惠に浴すること多きに加へて、水利亦よく備はれる關係上、農業よく發達し、住民は農耕を生業と爲すもの大部分を占め、殆ど純農村を形成す。主要農產物は米・甘藷・甘蔗・麻類・黄麻・落花生・葉煙草等にして、農業に依る年生產額甚だ莫大なり。農家の副業は家畜・家禽の飼育、殊に養豚・養鶏また盛にして、此等の年生產亦相當の巨額に上る。教育狀況を見るに、公學校一、同分教場一ありて、本島人兒童の就學歩合は比較的高く、男女平均五〇・八九%にして郡下七庄中の第二位に在り。國語普及强勢甚だ盛にして、部落民の國語學習熱の高潮と共に、普及成績は逐年驚異的の進展振りを示し、昭和十一年五月に於ける國語解者歩合は、既に州下平均歩合の三三%を突破して三六・八四%を示し、同十二年五月に於ては四三・六八%に躍進し、十三年五月までには六〇%の解者を得ることの困難ならざるを豫想せらる。即ち國語專修學校五、主婦國語講習所一四、簡易國語講習所一二、公民國語講習所一二の設置を見、講習生合計實に三千八百餘名の多きに上る盛況なり。其他青年團二、部落振興會一二、圖書館一を設置し、共に民心の啓發、民度の向上、本島人の皇民化、日本精神の涵養等に寄與する所大なり。西屯信用販賣購買利用組合（出資金三〇、六〇〇圓）は大正七年設立以來、唯一の庶民金融機關として、よくその機能を發揮し、地方產業の發達に貢獻する所甚大なり。庄の昭和十二年度豫算額六三、四九五圓にして、住民中には富豪多く、五萬圓以上の者五、十萬圓以上の者七、二十萬圓以上の者一あり。交通比較的便利にして、臺中沙鹿道路は臺中市を起點とし本庄管内何厝・惠來厝・上石碑・西屯・水堀頭の各大字を經て、西隣大甲郡下に入る。該道路には臺灣軌道株式會社經營の乘合自動車を運行し、本庄交通網の主動脈を爲す。其他臺中大雅道路・南屯大雅道路・下七張犁林厝道路・西屯四張犁道路・馬龍潭下石碑道路・上石碑下石碑道路・上石碑上牛埔子道路・八張犁港尾子道路等の重要道路四通八達して、庄内及び近隣各主要地を結び、地方產業經濟の開發に貢獻する所大なり。本庄は南隣南屯庄と共にもと揀東下堡（康熙六十年代には同上堡と合して猫霧揀堡と稱せしが、雍正十二年分ちて猫霧東堡と云ひ、次で乾隆年間揀東下堡と改む）に包括せられ、管内にて最も早く開拓せられたるは馬龍潭・水堀頭附近にして、康熙の末

年頃の事に屬す。次いで道光年間に至り地方の發達に伴ひ、現庄役場所在地西屯（現臺中市の前身、大墩街の西方に在りしを以て、もと西大墩街と稱せり）の街肆を建てられたり。行政上帝國領臺前までは臺灣府（臺中）・臺灣縣（臺中）の管下に屬し、明治三十八年我が領有となるや、假地方官官制に依り、臺灣縣（後に臺中縣と改稱）の直轄となる。同三十年六月制度改正に依り臺中縣黎頭店辨務署（南屯）の所轄となり、翌三十一年同縣臺中辨務署の管轄に移り、同三十四年廢縣置廳の結果、臺中廳の直轄となる。大正九年地方制度の大變革に依り從來撤廢せられ、本庄ほもと揀東下堡の內、西大墩街（西屯と改稱）・上牛埔仔（仔を子に改む）・八張犁・林厝・水堀頭・潮洋・惠來厝・下石碑・上石碑・港尾仔（仔を子に改む）・下七張犁・馬龍潭・何厝の一街一二庄を計一三大字に改め、之を一括して西屯庄と稱し、庄役場を大字西屯に置く。

サイトン　柴芒面　朝鮮京畿道楊州郡の西北部。京城府の北方約四五粁。東は別內面、北東は抱川郡蘇屹面、北は州內面、西は長興面、南は廣海面に各隣接す。天寶山の餘脈延びて北境を劃し、東境には蘇利峠（五三七米）、東南境に道峰山（七一七米）等聳え、中部は低平にして盆地狀を成し、四圍の山地に發源せる諸川は盆地の中央に於て合流し漢川と成りて南流し京城府の東南に於て漢江に合流す。住民の大部分は農業に從事し米・麥・大豆及び小豆等を產し副業として養蠶・飼畜等盛なり。林產に薪炭の他栗の產額は年產二〇〇〇石を越え全道第一位にあり。面邑議政府は面の略中央に位置し、京元線は議政府驛（明治四十四年設置）を置き、此地を基點として道路四通發達し、殊に京城府より元山村に通ずる一等道路の金城街道は城內を南北に縱貫し、議政府に於て平壤街道を岐ち何れも乘合自動車を通じ交通便なり。議政府は面政の中心たるのみならず、楊州郡廳・警察署・郵便局・地方法院出張所・金融組合・公立小學校等あり。面の西境道峰山麓に回龍寺あり、李朝末期、その諸王子兄弟と政權を爭ひし時、此寺に入りて王政を執らざること二年、而して當時文武官を此地に置きしにより議政府の名起れり。

サイネー　載寧（さいねい）　【載寧平野】　朝鮮第二の大平野。一に棘城平野ともいふ。黃海道の略中部を東西に走る滅惡山脈の中部に發して西北流し東方より來る銀波川・瑞興江、西方を北流する西江等を併せ大同江の下流に合する載寧江と、以上各支流の流域なる平野にして面積約四五〇平方粁。水田よく拓け、良質米を產す。もと耕水不便の地なりしが三百年前、李朝仁宗の時、金子點その開拓に盡し驚くべき成績を擧げ、近時は水利組合により貯水堤堰を設け水路を築造し、農耕頗る盛となれり。古く王室に供米を獻じ、今も北栗面無砂米の名高し。平野の西邊に安岳・文化・信川・載寧、載寧江・瑞興江の右岸には黃州・鳳山・瑞興・平山あり、謂ばゆる野中八邑と稱せらる。

【載寧江】　朝鮮黃海道に於ける二大江の一。本道の中央を東西に橫斷する滅惡山脈中の指南山（海州郡麗德面）中に發源し道のほぼ中央部を北流し、東方の滅惡山中に發する銀波川、瑞興郡內に發源する瑞興江、西方信川郡の九月山に發源し西北流する西江等を合し、下流の鐵島附近に於て大同江と合流して黃海に朝す。本流の流路延長一三三粁、その流域面積三六六〇平方粁餘に及び、朝鮮第二の大平野たる載寧平野を成し、江岸に謂ばゆる野中八邑あり。江は水量豐にして航行の便を有する區間三八粁あり。また支流西江は流路延長五二粁、載寧郡新興浦附近まで舟楫の便あり。載寧江は從前毎年洪水氾濫し被害少からざりしが本府に於て治水改修工事を施行し、大正十四年に着工、昭和十二年に至り工事完了せり。

【載寧郡】　朝鮮黃海道中部の郡。道管內一七郡の一。東は鳳山・平山の二郡、西は安岳・信川の二郡、南は海州郡に各相隣接す。面積七四五平方粁餘にて南北に狹長なり。地勢、本道の中央を東西に橫斷する滅惡山脈及び慈悲山脈、本郡の南部を西走するために、長壽山・雲達山（六〇〇米）・白樂山（五四七米）・相嶽峠（四六二米）其他の山岳丘陵起伏す。長壽山は白色祥岩より成り、黃海金剛と呼ばれ朝鮮八景の一たり。中部以北は低平にして謂ばゆる載寧平野なり。南方海州郡の指南山に發する載寧江は蛇曲流して東部を北に流れ、河口に近く西江を併せ、流域に廣大なる沃野を拓き、特に載寧平野（棘城平野）は耕地面積四萬ヘクタールに達す。近年水利組合發達し、その著名なるものを南部の安寧水利組合及び西境の載信水利組合とし、その灌利面積は、前者は一〇三〇〇ヘクタール餘にして本郡の五面と安岳郡の四面に亘り、後者は三八〇〇ヘクタールにして、本郡及び信川郡の四面に亘り、藩溉並に排水を利し水害豫防に資す。ところ勝から寧。而して此工事により從前に比し數の反當收量約二石を增して三・二石となり、總量に於ては前者一九・三萬石、後者七・六萬石の增收を見るに至れり。住民の約七割が農業に從事し、耕地面積水田八八六七ヘクタール、畑二一三〇六ヘクタールに達し三井・東拓・齋藤等の大農場多し。主產は米にて年產一五・六萬石、良質を以て聞こえ、嘗て王室の供米も此地方より獻ぜられたり。其他、小麥（四・六萬石）・小豆（二・一萬石）・大豆（〇・九萬石）・綠豆（〇・七萬石）・粟（四・八萬石）及び白菜・馬鈴薯・甜瓜等の蔬菜を主產し、特用作物には棉（在來棉、一〇一萬斤）・菸草・青麻・煙草・薄荷等多く、特に煙草は載寧葉と稱し、耕作面積四二〇ヘクタール餘、產額一九萬圓を超え道中の首位たり。苹果栽培も盛なり。副業に改良叺・莚・繩等の製造行はれ、特に叺は八〇萬枚を產し其他に養蠶・養豚・養鶏も盛に行はれ、南部山地には木炭の產多し。工產には前記蓆工品の他に酒類・絹織物あり。鑛產は載寧・銀龍・下聖の各面より鐵を、上聖面より硅石を、他に亞鉛・螢石等をも出し、特に載寧鐵山・三菱平聖鐵山は著名なり。

朝鮮鐵道會社線黃海線は京義本線沙里院驛より分岐して本郡中北部を東西に貫き上海・金山・載寧の各驛を設け、上海驛より分岐する線は南走して、昌里・末力・新院里等を連れ、南方海州に通じ、その花山驛より內土へ、また新院驛より下聖へ各支線を出す。道路は二等道路、安岳・海州線の西部を南北に貫くほか載寧より東北沙里院にも通じ、其の他道路網發達して多くは自動車を通じ、また載寧江には河口より約四〇粁まで舟楫を通じて交通は便なり。行政上、載寧面ほか一一面に分ち、郡廳を載寧面日新里に置く。沿革。本郡はもと高麗の息城郡にして、淡城・乃忽または淺忽と稱し、新羅景德王のとき重盤と改め、高麗の初め安州と稱し一時防禦使を置き、また都護府に屬せしめしが、高宗のとき安陵と改稱し縣令を置く。李朝に至り豐州（長壽面附近）・任內（銀龍面附近）・三友（三江面附近）の三縣來屬す。中宗十四年舊邑（下聖面大廳里）に癘疫多く、爲に邑を今の地に移して載寧と稱し、のち幾許もなく郡守を置く。大正三年安岳郡・信州郡の一部を本郡に編入、また本郡の南栗面の一部その他を信川郡に讓り、昭和五年一月、鳳山郡西鍾面の一部を本郡に編入し、以て今日に至る。

【載寧邑】　朝鮮黃海道載寧郡の西北部。西方一部を除く外は廣闊なる棘城（載寧）平野を控へ、地方交通・商業・政治の中心を成す。社線鐵道黃海線は邑內を橫貫し、一等乃至二等道路本邑を起點に四通八達す。卽ち南方海州邑へ四八粁、東北方沙里院へ二〇粁、西方安岳へ一九粁、西南信川へ一五粁、各自動車を通じ物資の集散盛に行はれ、滿洲國人・中華民國人等の商賈、歐米宣教師等も多く居住し頗る殷賑を極む。市場は陰曆二・七の日に開き商況頗る活潑にして年取引額一五萬餘圓に上り、外に生牛市場・薪炭市場あり、之等を合すれば年額二〇萬圓に達す。載寧郡廳・警察署・郵便局・地方金融組合・學校組合・公立小學校等あり。邑の東部は有名なる載寧鐵山鑛區に屬す。

【載寧鐵山】　朝鮮黃海道載寧郡にある鐵山。鐵區は載寧邑及び三江面に跨りその面積約四百ヘクタール。古來水鐵・石鐵の名を以て知らるる褐鐵鑛を產す。鑛床は上部大同層（白堊紀）に屬する凝灰岩及び凝灰質砂岩、之に被はれし朝鮮系火石灰岩が上昇含金鑛液のため交替作用を受け生成せるものにして、褐鐵鑛を主とし赤鐵鑛を混有す。明治三十九年國營を以て採掘せるに始まり、今は日本製鐵に屬し、鑛石は載寧江岸の貯鑛所まで約四粁は二條の軌道により運搬し、更に水路鎭二浦及び九州八幡に送らる。年產一一萬噸、鑛夫一〇四五人（昭和十一年）。

サイノカワラ　賽の河原（さいのかはら）　相模の箱根、信濃の和田峠の麓、其他全國所々にある地名。宗教的說話の賽河原に因みて名づけられしもの。いづれも地藏の石像などを建て小石數多く積み累ねたり。

【賽河原】　京都市鴨川と桂川との合流點桂河原の邊の一稱。また佐比河原・細井河原にも作る。平安京佐比大路の末に當り、平安京の市民のために設けられし埋葬地の一。市民は屍體を河畔に埋葬し、河原の石を重ねて塔婆に擬し死者の菩提を弔ひたり。佐比寺あり、佐比河原の地藏を安置せしところといふ。

サイハラ　西原村　山梨縣甲斐國北都留郡の東部。猿橋町の北方山中に位し東南に桐原村・甲東村、西南は七保村、西北は小菅村に接し、東北は東京府西多摩郡檜原村と界す。國東山脈の山地にして三頭山（一五二七米）の脈は東北境に連り、羅現山（一三一二米）の山嶺は西南境に延び、村の中部には猿合谷をつくり桂川の支流東南流して桐原村に出づ。殆んど山林にて、耕地少く、主として養蠶行はれて繭を出し、他に麥を產す。中部の谷地に散ひ一條の村道通ずるも交通不便なり。此地は往古羽黃庄ともいひ、後に西原村と稱す。舊記に才ヶ原とも見ゆ。

〔一宮神社〕　宇宮原に鎭座。郷社。祭神木花咲耶姫命。康永二年武田氏の創建勸請に係る。例祭、七月十七日。

サイパン——島（ひとしま）　【サイパン支廳】　南洋マリアナ群島南部の主島。サイパン支廳に屬す。廳舍は本島の主邑ガラパン町にあり。本島はグアム島の北北東二〇粁に位し、北北東より南南西に向ひて長く延び面積約一八五方粁。全島殆ど珊瑚石灰岩を以て蔽はれ、南東及び北東部の低地に基岩たる輝石安山岩僅かに露出す。島の東岸ラウラウ灣（マクシン灣）その他彎入多きも海岸一帶峭壁をなす。これに對し西岸は單調なる海岸線をなし、その前面に珊瑚礁發達して外洋の波濤を防ぎ、ガラパンの投錨地を提供す。島の中央には椰樹に覆はれたるタッポウチャウ山（四七〇米）聳え、山頂に至るまで、土地の隆起を語る數段の海蝕段丘發達す。その山麓には海拔一〇〇米內外の段丘續かり、西岸にては更に低き海岸平野展開す。氣候は熱帶海洋性にて雨量に富み、年平均氣溫二五・五度、年較差は僅かに二・五度に過ぎず。殆ど毎日數回の大驟雨スコールに到りて極熱を和らげ、不健康地ならざるも、時々颶風襲ひて住民に

大損害を與ふ。土地は概して肥沃にして甘蔗の栽培に適す。また南洋興發會社の開發によりて今や南洋第一の砂糖產地となり、本島に隣るテニヤン島にて大規模に製糖さる。其他、煙草・珈琲・ココア・玉蜀黍・椰子等も少なからず。

サイヒョー　細坪面　朝鮮黃海道瑞興郡の西北端。東は道面、南は所沙面、西は黃州郡龜浦面・仁橋面、北は仁橋面の一部及び平安南道中和郡鮮培和面等に接す。北境に琫經山、南境に金剛山相對峙し、餘勢域內に及び丘陵起伏するも、土地比較的寬平にして耕地の發達を見る。產物に大麥・大豆・粟・馬鈴薯・人蔘等あり。其他工產品に紬織を產す。總督府線京義線黃海黃州驛より約二五粁、乘合自動車の便あり。幹線道路の外は改修未だ行はれず、何れも等外路線にして交通便ならず。面邑芝山里は南部低地の中央に位置し、面事務所・警察署及び陸軍二・七の目に開市を見る市場あり。衆落密度極めて小にして長坪里・龜龍里・尼山里等その主なるものとす。

サイフ　西武鐵道　社線電氣鐵道。省線山手線高田馬場驛より東京府北多摩郡東村山村の村山貯水池前驛に至る全長二六・八粁及び中央本線國分寺驛（北多摩郡國分寺村）より幹線の東村山驛を過り、埼玉縣川越市の川越驛に至る全長二九・五粁（南大塚驛（埼玉縣入間郡太田村）より微ヶ岡村の安比奈驛に至る三・二粁の貨物線を分岐す）、中央本線武藏境驛（北多摩郡武藏野町）より同郡多摩村の是政驛に至る全長八粁、東北本線大宮驛（埼玉縣北足立郡大宮町）より川越市川越久保町驛に至る一三・九粁の總稱。東京市山手線以外の環狀線の一部をなす。

サイフ　西部　攝津國（大阪府）の古地名。和名抄、百濟郡に西部鄕あり、その地は今の大阪市東成區舍利寺町の邊に當る。

サイフツホ　西浦　朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛（明治四十一年設置）にて平元西部線の接續點。朝鮮平安南道大同郡西川面にあり。

サイホクジョー　西北條（郡）　美作國（岡山縣）の古郡名。古の苫田郡の西部なる苫田郡を中世に苫南・苫西の二郡に分ちのち苫南郡を西北條郡といふ。嘉永東南條郡に對してかくいふ。明治三十三年苫田郡の中部に當り、一宮・田邑・香香美南・香香美北の諸村を含む。

サイミョージ　西明寺　【西明寺村】秋田縣羽後國仙北郡の北部。田澤湖の西岸、北は檜木內村に、南は中川・神代二村に、西は河邊郡船岡村に接す。西境に大石嶽（一〇五九米）・梅森（八八七米）等あり、東部に四〇〇—五〇〇米の山地連り田澤湖に臨みなして臨む。西・東部の中間を檜物川の一支檜木內川は南流し、湯尻川は田澤湖の排水流路となりて西部中央を西流し檜木內川に合す。村內は縱れ山地なるも南部檜木內川流域に稍々廣き低地ありて南方の角館盆地に續き、米を主產し栗・木炭の特產あり。縣道は湯尻川・檜木內川に沿うて角館町に通じバスの便あり。此地に古く弘長二年最明寺北條時賴來たり、今の大字西明寺字堂村の光明寺（後の西明寺）にて愛養唐糸姫の法要を營むと傳說す、依りて明治二十二年町村制實施に際し西明寺・小山田・門屋・上荒井・西荒井・小淵野の六大字を合し村名を西明寺と稱すと云ふ。古くは最明寺とも書く。

【西明寺】→五位山村（富山縣）

サイモク　西牧村　群馬縣上野國北甘樂郡の西北隅。東に下仁田町との間に小坂町を隔て、南は磐戸村・月形村・尾澤村、北は碓氷郡臼井町・坂本町・長野縣北佐久郡西長倉村に、西は同郡三井村・志賀村・南佐久郡內山村に隣す。面積八八・七六平方粁の大村なり。東北方の姉義、西南界の荒船二火山の間に位し、西部長野縣境には北より八風山（一三一五米）・物見山（一三七五米）・熊倉峯（一二三四米）・千駄木山（九九七米）等聳え、山地の褶合を開析する谷の諸水は、村の東端にて合流し西牧川となる。山地には森林多くまた物見山の東斜面は草地ありて神津牧場をなす。物產には多少の麥・米を產する外に、烏賊の蒟蒻芋、下仁田葱と呼ばるる葱、他に繭等あり。縣道は東方約七粁の下仁田町より來り村の東部にて二分し、いづれも西牧川の本支流に沿ひ、一は西北隅の和美峠（九八四米）を經て長野縣軽井澤町に通じ、一は西走して西南境の內山峠を經て長野縣に入り、中込町に通ずる富岡街道となる。此地は下仁田町より信州に通ずる別路に當り、戰國の頃、武田信玄上野に出づる途次、多く此道を取り、此地に壘を設け小幡氏をして守らしむ。のち小幡氏は北條氏に屬せしが、小田原の役に藤田康國に攻略せらる。

ザイモク　材木坂　富山縣中新川郡立山村にある驛路。立山登山道の一なる彌陀ヶ原道に當り、藤橋より弘法小屋に至る中間に位す。傳說に依れば、立山は女人禁制の山なりしが、有坂左衛門の妻女、夫の跡を追ひ山中に入り、この坂路にありし社殿用木材を跨ぎしに、怒り罰を蒙り、また木材は化して石となりと云ふ。

ザイモクザ　材木座　→鎌倉町（神奈川縣）

サウカワ　左右川　愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、六輪村と共に廢せられ、その區域及び三宅村の大字三宅・東城と井長谷村の大字須ヶ谷を以て平和村を置く。

サエー　左營庄　臺灣高雄州岡山郡の一庄。東は鳳山郡鳥松庄・仁武庄に界し、西は海に臨み、南は高雄市に連り、北は楠梓庄に接す。中南の半屏山・龜山の小丘を除き概して土地平坦なり。河川は覆鼎金溪（槽子頭港溪）・楠梓坑溪（上流大路港溪、下流援中港溪）・萬丹港溪等流入するも、常に涸渴して灌漑の便に乏しく、雨期に際しては氾濫し排水困難となる。沼澤には半屏山の南麓に蓮池潭、覆鼎金の東に覆鼎金埤ありて、何れも曹公圳の埤地として灌漑に利用さる。海岸線は單調にて砂丘を以て波浪を防ぎ船舶は勿論、漁舟さへ假泊すべき港灣なし。面積三八・二平方粁。產業に農業を宗とし、米・甘藷・甘蔗・蔬菜類・落花生・果實等を產す、產額約百三十萬圓。畜產は牛・豚、特に養豚業は飼料豐富なるを以て良好なり。水產業は沿岸一帶黑潮の流域に位し、また支那海低溫度流の影響により鰹・鰯・鮪等を產し、沼澤にはサバヒー・鯉魚・草魚・鯽・鯉等の養殖行はる。產額約十二萬五千圓。此地は鄭氏時代より漢民族の移住し南路の要地として萬年縣を置かれしが、清朝に入りて康熙二十三年（一六八四年）鳳山縣を置き興隆莊と稱せり。道光年間改めて興隆里とし、光緒十四年（一八八八年）更に內外二里に分つに及び興隆外里・興隆內里なる。領臺後、明治二十九年十一月鳳山縣下に埤仔頭區設置され興隆外里なる左營・店仔頂・崛後・菜公・山脚・洲仔・竹仔脚・埤仔頭の八庄、興隆內里なる桃仔園・山頂・前塞尾・大道公・內惟・龍水・凹仔底・龍目井・崎仔脚・東鞍寮・覆鼎金・新庄仔・田尾の十三庄、計二十一庄を總轄し事務所を埤仔頭庄に置く。次で同三十年十二月、鳳山縣下に左營庄長事務所を左營に設置され、更に翌年七月臺南廳鳳山辨務署打狗支署管轄下に右沖區（半屏里なる苦瓜寮・右沖二庄）設置され、事務所を右沖庄に設けしが、同三十二年十一月、右沖區を廢し、後勁區に合併（區域は半屏里・右沖・苦瓜寮・後勁・五塊厝・樓仔林・大潭）、事務所を右沖庄に置き、同三十四年十一月廢縣置廳となり三區とも鳳山廳打狗支廳の管轄となる。同三十六年四月興隆外里埤仔頭庄長事務所に屬せる桃子園・山頂を桃子園庄に、同じく前塞尾・大道公を前塞尾庄に、內惟・龍水・凹仔底・龍目井・崎仔脚・東鞍寮を內惟庄に、覆鼎金・新庄仔・田尾を覆鼎金庄に、興隆外里左營庄長事務所に屬せる左營・洲仔・店仔頂を左營庄に、半屏里後勁庄長事務所に屬せる右沖・苦瓜寮を右沖庄にそれぞれ合併し、なほ埤仔頭庄長事務所に屬せる興隆外里中庄仔・塩埕頭・竹仔脚を合併し竹仔脚庄と稱し、同時に左營庄長事務所所轄に屬せり。同四十二年十月鳳山廳廢止され、臺南廳に合併したるを以て臺南廳打狗支廳の所屬となる。同四十三年一月庄長事務所を區長役場と改稱、左營庄區役場（興隆外里左營・崛後・菜公・竹仔脚）・埤仔頭庄區長役場（興隆外里・埤仔頭・興隆內里前塞尾・桃仔園・內惟・覆鼎金）・後勁庄區長役場（半屏里右沖・後勁・五塊厝・八卦寮・大潭）となる。大正九年十月、左營區管內より菜公・左營・崛後・竹仔脚を、埤仔頭區管內より埤仔頭・前塞尾・桃子園・覆鼎金を、後勁區管內よりは右沖を、仕隆區管內よりは下鹽田・授中港の十一大字を以て左營庄と制定せられ、事務所を左營に置く。同時に埤子頭區管內內惟庄は高雄市に、後勁區管內後勁は楠梓庄に、五塊厝・八卦寮・大潭は鳳山郡仁武庄に各編入さる。同十一年十二月埤子頭に役場を新築したるにより翌年一月移轉し、同十三年十二月行政區域改正により岡山郡に編入、昭和七年十一月、前塞尾・桃子園二字を高雄市に歸屬せしめ、彌陀庄飼子寮一部を當庄內に加へ、以て今日に及ぶ。公學校二、國語講習所當設七、短期二、農事實行組合十一、部落振興會三、青年團三、少年團一、簡易圖書館一、公民講習所二、小賣市場三、信用組合一、漁業組合一（昭和十一年末現在）等の施設あり。（孔子廟）大字左營にあり。康熙二十三年（一六八四年）鳳山最初の知縣楊芳聲の創建に係る。當時、官吏は當地方の風土惡しきを名とし、任地に赴かざりしも以て、堂宇自然に荒廢に歸し、一旦倒壞せしが、康熙四十三年知縣宋永清復築し、同五十八年知縣李丕煜修築し、更に乾隆十七年（一七五二年）知縣吳七元は大修復を施し、中央を大成殿とし、東西兩廡を連れ、前に大成門・儒生門、兩側に義路禮門を設け、坊殿の後を崇聖祠とせる一大文廟となせり。領臺後、明治三十三年四月公學校の開設せらるるや、適當の校舍なきを以て、文廟の一部を之に當て授業を開始し、大正三年に至り新築校舍の必要上、東西兩廡及び大成門を取拂ひ、大正六年、大成殿・義路禮門の蟻害甚しきを以て取毀ち、神位は臺南市文昌祠に奉遷し、其他は殆ど散佚に歸せしが、昭和六年臺南市文昌祠重建のため神位遷遷の通知あり、住民また永く祭事を怠りしを憾みとし、再び迎祠するに決し、同年九月十九日、神位を崇聖祠に再祀して今日に及ぶ。いま崇聖祠前の左營公學校校庭に雍正帝上諭（雍正元年）・明倫堂碑記（乾隆十二年）・新建學署碑記（乾隆三十五年）・武廟碑記（乾隆二十八年）・臥碑（嘉慶二十五年）・樂局溫馭（光緒八年）等々の石碑を蒐集し碑林を設置す。

〔蓮池潭〕　大字埤子頭にあり。公學校前面の一大沼澤にて周圍約二里、面積六—七町歩、往時は數百町歩ありしと傳ふるも、漸次浮覆して田園に化す。康熙四十四年（一七〇五年）鳳山知縣宋永清、文廟の泮池として開鑿し、道光二十二年（一八四二年）知縣曾瑾は紳士鄭鵬等に命じ潭水を引き新圳を開きて灌漑用に供せり。いま尙曹公圳埤池として重視され、菱を栽培し、魚族を養殖して年產一萬圓を下

らすと云ふ。その蓮池と云ふは蓮池潭、多蓮花故名(臺灣府志)にして、蓮池潭、毎逢荷花盛開、香聞數里、昔人目爲八景之一、泮水荷香卽此(鳳山縣采訪冊)となす。(龜山)舊城内にある小丘。頂上は龜峰巖と云はれ、環珊石灰岩の奇勝にして天后宮を祀る。康熙二十二年(一六八三年)の創建に係り、久しく荒廢に歸せしが、乾隆年間、鳳山知縣王瑛會これを修築す。この燈火は往時より航海者による目標なりしと傳ふ。(觀音亭)龜山山麓塊子頭にあり。一名興隆寺と云ふ。亭後に石塊ありて天后宮に通ず。康熙五十八年(一七一九年)鳳山知縣李丕煜の創建に係り、觀音像を祀る。(牛屏山)舊城城外東北にある丘陵。海拔二二一米。高雄壽山、舊城の龜山より大岡山・小岡山に連る一連の小丘にして、東側は平滑なる傾斜をなし、西半は巉岩削立し、削り去りし屏風に似たるを以て牛屏山と命名さる。全山珊瑚石灰岩より成り、雜木・茅萱叢生し、羌仔・野猪棲息す。古來鳳山八景の一とし翠屏の夕照と稱せらる。また山腹に巨大なる洞窟あり、その處を極めたる者なしと云ふ。

サエキ　佐伯

【佐伯】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄、弊船郡に佐伯郷あり、その地今の岩船郡山邊里村・鹽野町村等の邊ならん。蓋しサベリは佐伯里の轉訛か。

【佐伯】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄、多藝郡に佐伯郷あり、その地今の養老郡多良谷の邊ならんか。一に牧田村・養老村の邊に當るともいふ。

【佐伯】丹波國(京都府)の古地名。和名抄、桑田郡に佐伯郷あり、その地今の南桑田郡吉川村・粟田野村等に當る。姓氏錄に「左京天孫、佐伯連、末裔乃命男、丹波ノ太玉之後也」と見ゆるは、此地に住し佐伯氏を稱せしものなるべし。東寺正中二年の文書に最勝院領丹波國佐伯莊とあり、醍醐三寶院建武三年の文書にも篠村八幡宮領丹波佐伯莊とあるは此地なり。

【佐伯山】大阪府豐能郡池田町の北方の山。一に五月山ともいふ。古來和歌の名所。萬葉・七「佐伯山卯の花持ちしかなしきが手なし取りてば花は散るとも」

【佐伯郡】廣島縣五市一六郡の一。安藝國に屬し、縣の西南端を占む。北は山縣郡、東北は安佐郡及び廣島市に接し、東南は廣島灣に臨み、その中部に近き海上に厳島あり、それと幅狹き大野瀬戸を隔てて、西南は山口縣玖珂郡に、西北は島根縣美濃郡に界す。面積八五三平方粁餘。比婆・山縣二郡に吹ぎて諸郡中の第三位。人口密度は一平方粁に一二五人にて諸郡中の第八位(昭和十年調査)。地質は概ね花崗岩より成り、西北郡には東北塊に十方山(一三一九米)、西南界に冠山(一三三九米)ありて、美濃郡の東南郡に貫る山地をなし、その東南には、東北塊の天上山(九七三米)、西南界の鬼ヶ城山(一〇三一米)あり、その中間の諸所に一千米以上の高處ありて、第二の山地をなし、更に郡の中部には、東北塊に東郷山(九七七米)、中央部に大峰山(一〇四〇米)、西南部に三倉岳(七〇二米)ありて第三の山地をなし、またその東南、卽ち廣島灣岸との間には東北塊に窓山、七一二米)、南西部に經小屋山・高鉢山等ありて第四の山地をなす。第一・第二山地間の水は東北に流れ山縣郡に出でて太田川の一上支となり、第二・第三の山地間の水は一は水内川となり東北流して太田川に合し、他に木野川となり西南流し、次で郡の西南界をなして廣島灣に注ぎ、第三・第四兩山地間の水は一は八幡川となり、始め東北流のち東南に折れてまた廣島灣に入り、一は玖島川となり西南流して木野川に合す。かく郡内到る處山地多く、それら山地の間を流るる諸小川に浩びて小低地また所々に存するのみ。農産は米を第一とし、麥・大小豆・粟・黍・蕎麥・甘藷・野菜等、林産に薪炭・木材、水産に鯛・鰯・鮪・蝦・鯔等、工産に和紙・綿織物あり。交通には山陽道(中國街道)と省線山陽本線は海岸に浩びて走り、社線廣島瓦斯電軌また廣島・宮島間に通じ、海岸地方は交通便利なるも、内部には廿日市町より八幡川・水内川の谷を傳ひて山縣郡加計町方面に至るもの、地御前村より西して玖島川・木野川上流の低地を經て山口縣玖珂郡北部に出づるものあるのみにて交通なほ便利ならず。上古は佐伯郡の居りし處。豊行五十一年紀に日本武尊獻ずる所の蝦夷、喧譁にして禮を缺くこれを神宮の近くに置く可からず、よつて之を分ちて播磨・讃岐・伊豫・安藝・阿波の五國に置く、これ佐伯部の祖なりとあり。日本後紀弘仁二年の條に佐伯部名見え、和名抄は、佐倍木と訓じ、美我・種篠・綠井・若佐・伊福・桑原・海部・呰濃・淳音・羅家・大町・土茂の十二郷あり。中世私に佐東郡・佐西郡に分ちしが、寛文年中、佐東郡を沼田郡とし、佐西郡を佐伯郡と改め以て今日に至る。

【佐伯灣】大分縣南海部郡東部の彎入。豊後水道の西邊に當り、蒲戸崎と大島とを以て灣門を成し其幅約二〇粁。彎入約二八粁。灣頭に佐伯町ありて良港佐伯港を擁す外幾多の小港あり。また島嶼灣内諸處に點在し其大なるを大入島といひ、また佐伯町に近く長島・女島あり。この二島の邊に番匠川及び堅田川注ぐ。

【佐伯町】大分縣豊後國南海部郡の略中部。東北は佐伯灣の西南隅に浩び、前方の大入島に對し、土地、東北より西南に長く、東南は西中浦・木立・下堅田・青山の四村に、西北は八幡・上野・切畑・直見の四村に、西南は川原木村に隣り、面積五六・二五方粁。青山村に發する堅田川は略東南部を、因尾村に出でし因尾川北部を東流し、町の東北部に於て相通じ番匠川・中江川・長島川等に分流して

佐伯灣に注ぎ三角洲をつくり、佐伯の市街地その平地に發達す。町の西南部は塲原山塊北面の山地に屬し森林をなす。堅田川・因尾川の下流より灣岸の三角洲にかけては土地低平にして耕地よく拓く。省線日豊本線は佐伯灣岸に浩ひて南下し因尾川下流に浩ひて西し、佐伯驛(大正五年設置)・上岡驛(大正九年設置)を設く。また大阪商船會社の大阪・細島線汽船の寄航地なり。豊後海峡の第一線に立つ袋灣として、また海軍航空隊の所在地として軍事上の重要地區をなす。産業は、海岸は水産業、陸内は林業が最も主業にして、佐賀關・白杵と共に水産物の集散地にして、且つ加工地なり。佐伯灣浩岸の漁獲高は年五十萬圓に達し北海部郡(白杵・佐賀關方面)と共に本縣第一の水産地帶なり。水産製造物も鰹節・鰯等を初め十萬圓を算す。後背の山地は林業を生命とし、松・杉その他の木材約百萬圓を算す。從つて製材業は佐伯の工業上第一位に位し十餘の工場、約五十萬圓の産額を示す。木炭・椎茸等の林産物の集散も木材・水産物と共に見逃し難きものにして木炭は四十萬俵(六〇七十萬圓)、椎茸は五十萬圓内外(前者は全縣の三〇%、後者は一〇%)を大阪其他へ移出す。然し當町が最近非常なる活況を呈せる理由は、また新たに軍事的要素を加へし點なり。從來海軍の練習地として貯炭場等設けられありしも、昭和九年海軍航空隊が新設せられてより軍事的色彩愈々濃厚となれり。航空隊は長島及び女島の北部より埋立地、航空隊の新設により埋立てらるる)に設けらる。町名佐伯は古く院莊號に呼ばれ、また佐伯院の名は本朝世記に見ゆ。また弘安國目帳に佐伯本莊百二十町、佐伯彌四郎政直とあり、佐伯氏の先は此地在住の豪族なりしものならん。慶長六年毛利高政の日田の陥城より移封せられ鼓に築城してより佐伯の街は發展し來れるものなり。毛利氏以前にも西方の鶴岡村(いま當町の内)に佐伯氏十餘代の根據地として櫛笥城ありしも、山城にして両も文祿以前の事なりしを以て近世に於ける城下町の發達は見られざりき。毛利氏は二萬石の小藩なりしが、臼杵と同じ地形(沈降海岸)にして、開放的海岸城下町として代表的のものなり。慶濤後の佐伯は他の城下町と同じく一時は政治的要素を失ひ衰微せしも、地形上背落内(南海部郡、北海部郡一部)の他、大野郡宇目郷を完全に自己の經濟圏にもち、對岸西四國の宇和島に近きため南豊に於ける經濟中心都市として復興す。鐵道は大正五年に大分方面より通じ、九年十一月迄は豊州線(今の日豊線)の終點として重要なる位置を占めたり。その後漸次延長され日豊線大正十二年に全通せしも、九州山脈横斷の北筋驛として、また豊後水道沿岸文化地帶の南終點として依然重要なる位置を占む。かく漸次發展し昭和十二年佐伯町・鶴岡村・上野田村を廢し其區域を以て佐伯町を置くに至る。佐伯港は明治十六年天然の溺谷を利用して開築せしものにて水深は干潮時も三米あり、前面に大入島其他幾多の島嶼を抱き風波も靜かなれども汽船の碇泊、荷役並びに鐵道との關係上、昭和三年に町の北方(鶴)に築港し、防波堤、繫船岸壁等を作り、一萬五千坪の浚渫、八千五百坪の埋立等を工費十萬圓を投じて行ひしが航空隊の設置及び町勢の發展に伴ひ昭和九年以後三箇年計畫にて世一萬圓の工費を以て再び築港す。いま内務省指定港灣にして伊豫經由大阪細島急行線・大阪日向直航線・豊豫線(宇和島—八幡浜)等の主要航路の外、近距離の地には小蒸汽船一日一回乃至數回往復す。(佐伯城)慶長六年毛利高政佐伯二萬石を給せられて城き、櫛笥城内の市街を移し子孫相承けて明治維新に至る。天主閣(三重)は町の西部丘陵(城山)に設けられ絶壁を以て番匠川・堅田川の作りし洲の中に孤立す。今の小學校及び裁判所より三ノ丸、鶴谷女學校に至る地域は所謂城内にして今は官公衙の大部分を占む。士屋敷は本町以北の山寄りの低地に、町人町は本町以南の海寄りの地を占め區劃も直交式なり、今日も前者は住宅地に、後者は商業町となり昔の俤を偲ぶに足る。(四教堂)舊佐伯藩の學校。藩主毛利高慶儒學を崇び、寶永元年學習所を設け、次で安永六年大命を新築し四教堂と稱し學問稽古場を建て、また文化年間、直心影流の稽古場を建設す。明治四年に至り封土奉還に付き閉校す。(五所社)縣社。祭神、酒解神・底筒男神・別雷神・健御雷神・宇迦之魂神。大同二年の創建と云へど、其後の沿革詳かならず。社記に據れば、慶長六年毛利氏の祖なる伊勢守高政、日田より佐伯に轉住の後に當社を以て領内の鎮守と定めたりと云ふ。例祭、四月十五日。(八幡社)大字長谷に鎮座。郷社、祭神、誉田別命・足仲彦命・息長足姫命。社傳によれば、稱光天皇應永年中の創立といふ。例祭、四月三日。(若宮八幡宮)大字鶴望宇白潟に鎮座。郷社。仲哀天皇・應神天皇・神功皇后・菅原道眞・保食神を合祀す。境内神社として山王神社・惠比須神社・稻荷社あり。例祭、九月十五日。(善教寺)眞宗大谷派。法輪山と號す。もと同郡古市村にありしが、慶長七年、領主毛利高政、佐伯城建築の際、これを現地に移すといふ。(大日寺)船頭町にあり。眞言宗御室派。東光山と號し、慶長十三年領主毛利伊勢守高政の開基にて秀乗律師を開山とす。安政十年炎上せしが、毛利氏銀一貫目を寄せて之を再建す。本尊觀世音は行基作と傳へ、別に安阿彌作の藥師佛・藥髮大師作の地藏尊・湛慶作の藥師佛等を安置せり。(潮谷寺)新道にあり。淨土宗。蟠雲山と號す。永禄年間國主大友義鎮の

開基に係り、昌譽上人を開山とす。天正年中兵火に罹りて炎上せしが、慶長十八年再興せらる。本尊阿彌陀如來は定朝作と傳ふ。〔愛賢寺〕臨濟宗妙心寺派。龍昌山と號す。慶長七年佐伯城主毛利民部大輔高政の創建、その菩提所とす。

サエギ 佐依木（さえぎ） 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年、八幡村と共に廢せられ新たに佐屋村を置く。

サエキカミ 佐伯上村（さえき かみ） 岡山縣備前國赤磐郡の東部。北は佐伯北村に、東は佐伯本村に、南は小野田村に界し、西北牛窪郡和氣郷の内なり。東鑑文治五年池大納言室家領の一に備前佐伯庄とあり。いま佐伯上・佐伯北・佐伯本の三村に分つ。

サエキキタ 佐伯北村（さえき きたむら） 岡山縣備前國赤磐郡の東北部。北は周匝村・山方村に、西は仁堀村に、西南は笹岡村に、南は佐伯上村・佐伯本村に界し、東は吉井川を隔てて和氣郡豊田村に對す。一般に高き二〇〇—三〇〇米の山地なし、山林・原野鬱く、西部の中央より北邊にかけて輻狹き低地あり吉井川岸に達し、ここに田畑開く。農産に米・蕪・麥等を產し、薄荷・生姜等の特產あり。山地よりは木炭を出し、原野には牛を飼ふ。南方岡山市より勝田郡に入る縣道北境に沿ひて東西に通過しバスの便あり、光本・高田等の聚落これに沿ひ、交通不便ならず。舊佐伯莊三村中最も人口稀薄の地なり。もと佐伯上・佐伯北の二村と共に佐伯と汎稱せし處。佐伯は蓋し上古佐伯部の居りし處なるべし。古くは和名抄、磐梨郡和氣郷の地にて、東鑑文治五年の條に池大納言室家領の一に備前佐伯庄とあるも之に同じ。

サエキホン 佐伯本村（さえき ほんむら） 岡山縣備前國赤磐郡の東部。吉井川中流の右岸に沿ひ、北は佐伯北村、西は佐伯上村、西南は小野田村、南は豊田村、東南は石生村に接し、東は吉井川を隔てて和氣郡山田村に對す。本村は南北に長く九粁餘あり、東西の廣き處も四粁に滿たず、中部の最狹部は一・五粁に縊れ瓢形をなす。南・北兩部は何れも高き二〇〇—三〇〇米餘の傾斜緩やかなる山地をなし山林廣く、中央部には西隣佐伯上村の中央部につづく低地ありて田畑よく拓く。農產に米麥あり、養蠶行はれて繭を出し、また薄荷・生姜の特產あり。もと佐伯北・佐伯上村と共に佐伯と汎稱せし處。佐伯は蓋し上古佐伯部の居りし處なるべし。古くは和名抄、磐梨郡和氣郷の地にて、東鑑文治五年の條に池大納言室家領の一に備前佐伯庄とあるは之に同じ。本村大字米澤と佐伯上村大字矢田部との境上に時見峠あり、傳へいふ、往時時報の鐘樓を設けし所なり、故に此名ありと。その近傍知原山背に鐘鑄場と稱する所あり。これその時報の鐘を鑄造せし所なりといふ。〔宇佐八幡宮〕大字米澤に鎮座。郷社。天地生國魂主皇大御神・宇佐座道主貴命・息長足姫命等を祭祀。社傳に光仁天皇寶龜二年和氣清麿勅を奉じて豐前國宇佐神宮を勸請し、神輿船にて犬鳥に著し假に座すること三年、遂に現地を選びて社殿を造營奉祭すと。例祭、十月六日。

サオー 佐保（さほ） →佐保（奈良縣）

ザオー 藏王（ざおう）

【藏王山】那須火山脈の名峯。山形縣南村山郡東澤・中川・東の三村、宮城縣柴田郡川崎村・刈田郡宮村・七ヶ宿村・福岡村の七箇村に跨る。山名は山頂に藏王權現を祀るに因む。古へより靈山として、その名高し。二重式活火山にして、山體は複輝石安山岩及び橄欖石複輝石安山岩より成る。外輪山南西壁は東向なる馬蹄形火口を圍み、火口の北西に當る餓野岳（最高峯にして、一八四一米）より弧線を描き、馬の脊を經て南東方の刈田岳（一七五九米）に至り、北東壁は全く缺損す。右の外輪山の東側は直に火口に臨み絶壁をなせども、西側は傾斜緩かにして數箇の爆裂火口を有す。北西側にあるものを高湯爆裂火口と云ひ、西側に位するものを硫黄岳爆裂火口と稱す。後者には硫黄噴氣孔ありて、硫黄谷溪流の源泉をなす。この南方に小寄生丘なる中丸山（一五五七米）あり。刈田岳の南側にも熊場火口あり、これより發する溪流は横川となりて白石川に合す。中央火口丘五色岳（一六七四米）は火山灰・砂・礫の互層より成る錐狀火山にて硫氣のため岩石赤・綠・白等多種の色彩を呈す、因りて山名あり。西麓には御釜（藏王沼）と稱する爆裂火口湖を湛ふ。この火山は明治以前、寛永元年にも活動せし記錄殘れども、明治二十七・八年に至り、再三鳴動噴煙し、泥土を吐出せり。最近に於ては大正七年より十二年に亘り小爆發あり。現今は靜穩なり。昭和二年の調査に依れば瓦斯は只、舊所より噴出す。火口瀦は御釜の南端より發して東流し、上部は所謂御澤にして下部は濁川、下流は松川となりて白石川に注ぐ。藏王山麓には山形縣側（西麓）に於ても宮城縣側（東麓）に於ても一大溫泉郷形成せられ、前者には赤湯・上ノ山・藏王高湯等の溫泉湧き、後者には遠刈田・青根・新關・鎌先・秋保・蕨々等の溫泉あり。また山麓一帶は好スキー場として喜ばれ、雪質よく、十二月下旬より二月下旬までは特に山岳スキーの練習に適す。蕨々溫泉を根據として藏王山へのスキー登山最も興味多く、刈田岳より西方二二・五粁にていづれも遠刈田溫泉に達す。溫泉より刈田岳頂上迄三粁。登高極めて安易なり。賽ノ河原（積ノ後見坂）・三途川・大黒樣等を經て達頂す。刈田岳より餓野岳までは約一粁にして、やや平坦なる道路通ず。刈田岳頂上には刈田嶺神社鎭座し、熊野岳頂上には石室あり。〔山形・金井口〕山形驛より南東方一六粁、金井驛より南東方一一粁。いづれも先づ藏王高湯溫泉に達し、高湯より熊野岳まで七粁なり。〔上ノ山口〕上ノ山溫泉より刈田岳まで二一粁、途中九粁なる永野迄自動車の便あり。以上は所謂藏王ブロパーとも云ふべき北藏王岳に就きて記せしが、この南方に南藏王火山續く。この火山は北藏王よりはその成立古く、高度はやや低き二重火山なり。東方に開く馬蹄形火口を圍み、北壁には前鳥帽子岳・後鳥帽子岳（一六六六米）東西に列し、西壁に屏風岳（一八一七米）、南壁に御前岳（不忘山とも云ひ、一七〇五米）聳立す。中央に馬ノ神火口丘あり。

【藏王沼】宮城縣柴田郡川崎村にあり。本縣及び山形縣との境に聳ゆる藏王山頂の火口（御釜）の中に湛へられし火口湖にして、海拔一五七〇米、直徑四一六米、面積〇・〇八平方粁。大正年間以前は盛んに水中より噴煙を吐き、水位年により著しき昇降あり、湖底より硫黄を採集せり。昭和二年に至りてただ一箇所のみより瓦斯を噴出し、深度四二米にして瓦斯噴出孔の深さ六一米。水は白濁し、水溫上下とも二一度内外なりしが、昭和六年夏最大深度四三米、清澄なる水となり、透明度五・八米、水溫は表面部に於て一七・五度、八乃至一二米の邊に躍層あり、二〇米以下は四度にて普通の湖と同樣となる。現在は湖岸の急崖の崩壞により湖底益浸くなり深さ三、四米に過ぎず。水は強酸性（PH＝2.5）にして硫酸石灰に富み鐵の含有量も多く、總固形物一立中一瓦以上なり。昭和九年頃迄は無生物なりしも十二年頃より微生物發生せり。本湖は無機酸骨美型（鐵骨美相）に屬す。

【藏王峠】宮城縣山脈を橫斷する峠。大阪府南河内郡高向村と和歌山縣伊都郡妙寺町との境にあり、最高點五五五米。最高點よりは南下に西流する紀ノ川を望み、その彼方に高野山始め紀州の山々の起伏するを眺む。この峠より五辻ノ峠方面及び三國山方面へは尾根鑑定行はる。この峠附近は吉野時代の頃、赤坂落城後護良親王及び楠氏の將卒のしばし隱棲せし所と傳ふ。

サオカ 佐岡村（さおか むら） 高知縣土佐國香美郡の西南。北及び東は嶺霞村に、南は物部川を隔てて片地村に隣り、西南は山田町との間に大楠植村を隔て、西北は長岡郡新改村に界す。鰹山脈支脈の南斜面の末端に屬する山地を占め、北東境の赤津々森（八五〇米）より西南方に傾斜して物部川の谷に迫り、緩れ山地をなす。

サオー——サオリ

サオトメ 早乙女岳（さおとめ だけ） 日本北アルプス立山群峯中の一峯。富山縣中新川郡白萩村と立山村との境に峙つ。標高二〇二五米。山體輝石安山岩より形成せらる。南東麓は大日岳（二四九八米）・奥大日岳（二六〇六米）に連り、北西方は大熊山（一六二九米）に續く。北斜面より早月川の一水源、南斜面より稱名川の一水源發源す。東南方は緩傾斜に開けたる高原・大日平をなし、露岩・草地・山草美し。更に南方は稱名川を隔てて彌陀ヶ原に續く。山中に白樺・楢・七竈等の豪壯なる森林あり。登山は多く芦峅寺・藤橋を經、稱名川を遡りて行はる。

サオリ 佐織村（さおり むら） 愛知縣尾張國海部郡の北端。北は八開村・中島郡平和村・千代田村に、東は神守村に、南は津島町に、西は立田村に相隣る。濃尾平野の南部を占め、日光川中部を南流し、また西部に

木曾川の舊流路と思はるる河跡あり。この平野部には水田著く分布し、その間に桑畑散在す。米の產多く、養蠶亦盛んなり。交通も平野中なれば四通八達の字句に背かず、南部には東方より津島街道過し、北方よりは巡見街道南下す。鐵道は名古屋鐵道通じ、一は津島より一宮に至るものと、他は枇杷島より津島に至るものにて、後者には勝幡・藤浪(共に大正三年設置)の二驛を置く。和名抄の海部郡島田郷の地は地形上、此地なるべし。永正年中尾張國守護斯波氏の目代織田信定、大字勝幡の地に居り、其子信秀の時愛智郡古渡村(いま名古屋市內)へ移る。勝幡には方百間許りの勝幡城址あり、これ即ち信秀の築城なり。佐織は佐折又は海東郡左折郷と見え、昔より編木綿を織る家多く、これが地名に轉ぜしもの。明治三十九年七月勝幡村・藤浪村・清古村・草場村・川淵村の五負村を廢して本村を置く。

サカ　佐加　豐後國、大分縣の古地名。和名抄海部郡に佐加郷あり、その地今の北海部郡坂ノ市町・一尺屋村・神崎村等の邊に當る。弘安國田帳に「海部郡佐加郷田百五十町國領」とあるは此地なり。

サカ　佐香　【佐香村】島根縣出雲國簸川郡の東北端。日本海に臨む所にあり、西は北濱村、南は久多美村・檜山村・東南に東村に界し、東北の小部分は八東郡の伊野村に隣す。面積九・六六方粁。東西に走る鳥根半島西部の北斜面に位し、南境の分水嶺に當る所は平均四〇〇米の高距を有して西北海岸に急斜し、海岸は斷崖をなす。村內殆ど林野にて、畑地・田地は林野の六分の一餘に過ぎず。水產業を主業とし、東方の坂浦、中央の小伊津、西方の三浦の三漁港ありて、柔魚・鰯等の漁獲多く、またその加工業行はれ、農產に米・粟等あるもその類多からず。村道南隣の東村に通ずるも交通なほ便利ならず。此の地は東村と共に和名抄、稻籠郡佐香郷の地にして村名は郷の遺稱なるべし。大字坂浦に式內佐香神社あり、いま九所明神といふ。出雲風土記・稻籠郡「佐香郷、郡家正東四里一百六十步。佐香河內百八十神等集坐、御宿立給而、令醸酒給之。即百八十日宮造所聞散坐。故云佐香」

【佐香川】出雲風土記、稻籠郡の條に見ゆる河。風土記に「源出郡家東北所謂神名備山、東南流入于海」とあり。古への佐香郷のうち、即ち今の鳥根縣簸川郡佐香・東の兩村の地を貫流して東村の大字小境字瀧にて宍道湖に注ぐ川を云ひしものなるべし。

【佐香濱】出雲風土記・稻籠郡の條に見ゆる濱。風土記に「佐香濱、廣五十步」とあり、今の鳥根縣簸川郡佐香村の沿岸の稱呼と思はる。

サカ　佐嘉　【佐嘉】→佐賀郡(佐賀縣)

【佐嘉】肥前國(佐賀縣)の古地名。延喜兵部省式に佐嘉(原本意に作る)驛馬五疋と見ゆ。風土記には佐嘉郡一所か管すと見え、當時佐嘉郷ありてここに郡家を置き、驛傳なも兼掌せしものならん。中世は庄名にも呼ばれ、上庄の名見ゆれば下庄もありしものの如し。最鎮記文に、肥前國佐嘉庄田四十三町、永保二年、白河帝所寄と見ゆ。その地は凡そ今の佐賀郡嘉瀬村・本庄村・東與賀村・北川副村・巨勢村・鍋島村・高木瀬村等に亘るものの如し。

【佐嘉川】肥前風土記に見ゆる川。今の佐賀縣佐賀郡の北隅に發し南流して有明海に注ぐ嘉瀬川(上流は川上川)の舊稱。佐賀・小城兩郡界をなす。風土記・佐嘉郡「郡西有ㇾ川、名曰佐嘉川、年魚有ㇾ之、其源出郡北山、南流入ㇾ海」

サカ　沙下面　朝鮮慶尙南道東萊郡の西南端。釜山府の西方に突出せる半島部を占め、東は釜山府、北は沙上面に隣接し、西は洛東江河口に臨し、東南境近く蓉ゆる龜峯山の餘脈展びて城內殆ど山地を成し、その末梢部は海中に延びて木島・兄弟島・孤島等となる。西海岸は洛東江の排出する土砂の爲に淺堆を成すも、他は總て岩石海岸にして灣入に富む。住民は農及び漁業に從事し、農產物には米・大豆・粟等あるも自給自足に至らず、これ等は隣接の釜山府より移入す。水產物には鹽・鯛・鰯・鰒・鯛等あり。また鮑・蠑螺の產多く、濟州海女の入漁により其漁利を專ら にしつつあり。東方の釜山府より來る二等道路は面の中央を東西に横斷し、西方金海郡の鳴旨面とは渡船により連絡す。海岸には多大里・舊平里・嶺南里等の聚落發達し互に水運の便あり。

サカ　坂　【坂村】廣島縣安藝國安藝郡の中部。吳市の北方に近くその間に大屋村を隔て、東北は矢野町、東南は昭和村に接し、西は一帶に廣島灣に面し、前面に金輪島・似ノ島・江田島の北部を望む。面積一四方粁餘。準平原化をうけたる安芸山地の斷層運動によりて沈水せんとする西端部にあり、村內は首米程度の丘陵地をなし、その麓下海に沿ひて幅狹き平地を有す。畑地・田地に拓かれし處多く、農產は甘藷を主とし、米・麥・野菜類あり、毎月三回農產の市を立つ。また農家の副業として養蠶行はる。西北部の陸繫島の南岸には横瀬の漁港あり、沿海は牡蠣・海苔の養殖行はれ、鰮の加工業榮ゆ。また吳・海田市・向洋・金尾等の工場工員として外勤するもの多し。省線吳線は海に沿ひて南北に通じ、小屋浦驛(大正三年設置)・坂驛(明治三十六年設置)を置き、交通便利なり。村內には廣島電氣會社坂發電所(出力二五〇〇キロワット)あり。此地は和名抄、安藝郡賀陽郷の內にして、野間城址・坂ノ城・倉賀野城・猿ヶ城・小屋浦

海水浴場・横濱海水浴場・蟲石島海水浴場等の名勝あり。坂ノ城は古野朝時代、吉川經秋これを領せしが、正平九年官軍一時これを奪取せしこと、南山巡狩錄に見ゆ。

【灰(村)】廣島縣高田郡にありし村。昭和四年長田村・戸島村と共に廢せられ、その區域を以て向原村を置き、更に同十二年町制施行。

サカ　酒山　播磨風土記に見ゆる古山名。上古の含藍里々內、兵庫縣印南郡內ならんも、今この名亡びて所在未詳。風土記・印南郡「有ㇾ酒山、大帶日子(景行)天皇御世酒泉湧出、故曰ㇾ酒山、百姓飲者即醉相鬪相亂、故令ㇾ理祭、後庚午年(天智朝)有ㇾ人掘出、于ㇾ今猶有ㇾ酒氣」

サカ　佐我　備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に品治郡佐我郷あり。今その地詳かならざるも、廣島郡福相村・宮山村の邊なるべし。いま福相村の大字に相方あり、郷名の轉訛にはあらざるか。

サガ　佐賀　【佐賀村】茨城縣常陸國新治郡の東南端。霞浦に突出せる半島部の東南端を占む。北は安飾村、西は志士庫村・美並村・牛渡村と隣し、東と南とは霞浦に面す。村內大部分は低き丘陵臺地をなすも、霞浦沿岸には低地ありて田地及び畑地をなし、米・小麥・大麥等を產し、その他に繭の產も多し。農を生業とするもの約五百戸あり。又漁業に從事するもの六十餘戸、ワカサギ・白魚の漁獲物あり。丘陵地の麓に沿びて村道あるのみにて陸上交通便ならず、多くは湖上の水運による。和名抄に茨城郡の條に見ゆる佐賀郷は今詳かならざるも、本村及び牛渡村・美並村等の邊なるべく、或は安飾村もその郷域に入るか。桓武平氏・相馬氏の族、此地に佐賀氏を稱せり。大字田伏は天正の頃、田伏次郎太夫なるもの此處に居り、佐竹義重、豐臣秀吉の命を受け田伏氏を滅す、之を小坂陣と稱す。鹿見崎は霞浦に斗出し、觀世音を安置す。老松古杉藝倉として幽趣掬すべく眺望絶佳なり。

【佐賀村】京都府丹波國何鹿郡の西端。由良川の北岸に沿ひ、西南は福知山市、東北は小畑村、東南は以久田村に接し、西北は加佐郡河東村に界す。西隅に鳥岳(五三六米)ありて東に緩く傾斜し、東北境に高さ三〇〇米程の山地西北より東南の方面に連り、東西兩山地の間に西北より東南の方向に谷を造り愛に由良川支流流れ南部を西流する本流には耕地拓け農產に米を主とし麥・茶あり、養蠶行はれて繭の產多く、山地よりは薪炭材・木炭を出し、また筍を產す。南隣中筋村の省線山陰本線の石原驛に近く交通不便ならず。この地は和名抄、何鹿郡部郷の地にして、大字私市は郷名の遺稱なり。私市に延喜式佐須賀神社あり。村名は蓋しこの社名より出でしもの。「佐須賀神社」大字私市に鎮座。郷社。祭神、武速須佐之男命・稻田宮主老公神・稻田宮主老婆命。延喜の制、當郡十二座の一として國幣小社に列せらる。應仁の頃より社運衰退す といふ。例祭、十月八日。

【佐賀村】山口縣周防國熊毛郡の東南部にある農漁村。熊毛半島の尖端西部を占む。周圍は麻里府・麻郷・曾根・阿月の四村に包まれ、南の一面は周防灘に臨む。東境は熊毛半島脊梁山脈遠り東北境に大星山(四三一米)聳立し、山脚海に迫りて平地に乏し。產業は農・漁を主とし、漁獲品には鳥貝・海鼠・海老・鰯等多く、從つて乾鰯・煮干鰯の如き水產加工品また少からず。尙ほ山地も少からぬ爲め、多少の林產を出しつつあり。縣道は海岸に沿うて通ず平生町に自動車の便あり。尾國・佐合島・小郡・佐賀の四大字あり、村役場は佐賀にあり。本村は、もと佐賀・尾國(小國とも書す)・小郡・佐合(古くは佐河とも書す)の四村なりしが、明治二十二年四月一日町村制實施以來一村となりしものにて、其內、佐合島は往時大島郡所屬の一島なりしが、明治九年に至りて熊毛郡に移管せしものと云ふ。(夫婦松)指定天然記念物。字名切にあり。東西二株の黑松が密着せるものにして、相距ること僅かに〇・三米、目通の周圍東株は四米、西株は二・四三米あり。東株より西に伸びし枝は西株の枝の二分せる間隙に歸入融合して甚だ畸形を呈す。西株は一株の如くなるも實は黑松が赤松を取卷きしものの如く、よりて里人夫婦松と名づく。(賀茂神社)祭神、賀茂御祖大神・別雷神。創建年代は判明せざれども、京都の上下賀茂兩神社より勸請せしものといはる。御神體畫裏に弘長三年の年號見えたり。(白鳥神社)郷社。祭神、日本武尊・宮簀姫尊。創建年時は明かならざれども、往古河內國大鳥神社より勸請せしものとの傳說あり。尙ほ、元暦元年、平家西海落の途、暴風に遭ひ、三位中將なるものの乘船、當社に船・弓・矢を奉納して天祭の和らがんことを祈願せりとも傳へられ、現に當村には中將上陸の場所といはるる船崎(立崎)、その休憩せりと傳へらるる中將坂なる故跡を存す。例祭、九月九日。(古墳)白鳥神社の社地にあり。前方後圓の大墳にて、前方部は北面し、高さ五間五尺、東西三十七間、南北五十五間、後圓部は高さ六間を有す。寛延二年十二月社殿再建の際、後圓部より古鏡二・碧玉一・二・優器巴形銅器五並に埴輪土器などを發掘せり。附近に陪塚も存し、漆の痕跡もあり。

【佐賀村】高知縣土佐國幡多郡の東北端。西は大正村に、西南は白田川村に、北は高岡郡窪川町に、東北は同郡東又村・與津村に界し、東南は土佐灣に臨む。幡多山地の東斜面の末端が海に迫る所にありて高さ三〇〇—四〇〇米の山地より成りて低地殆どなし。北境に五在所ノ峯(六

五八米）あり、その南麓より出づる伊與川は中央部を南流し、その支谷と下流兩岸に少しの平地を拓く。林産を第一とし農産に米・麻・麥等あり、畜産に牛・馬あり沿海水産少からず。縣道は伊與木川に沿ひて下り川口の佐賀より海岸に沿ひ、中村町を經て宿毛方面に向ひ、バスの便あり。大字佐賀は主邑にて小藩地をなし漁船の出入少からず。此地は慶安年間野中兼山が、尾張人尾池正次を鹿島に招き初めて捕鯨を試みし地。今なほこの島の鹿島神社に尾池氏の奉納せし鯨口あり。鹿島は佐賀川口海岸の小島にて樹木密林をなし、周圍は巖礁相連りて風光絶佳たり。なほ本島に蒔草科植物キダウスヤ自生す。（篤野神社）大字伊能木に鎮座。郷社。祭神、伊邪那岐命・速玉男之命・事解男之命。創建年代不詳。例祭、七月二十八日、十月二十四日。

【佐賀縣】　九州島の西北部に位し、東は福岡縣、西は長崎縣と境し、北は玄界灘に臨み、南は有明海の灣入ありて肥前半島の基部を占む。肥前國の東半を管轄し東西七三粁、南北七四粁餘、面積二、四四九方粁餘にて本邦屈指の小縣なれど、人口六八六、一一七人に上り、一方粁の密度は二八〇人に達して全國の平均一八一人を悉に超ゆ。（昭和十年國勢調査）行政上佐賀・唐津の二市及び佐賀・神埼・三養基・小城・東松浦・西松浦・杵島・藤津の八郡に分つ。（地勢）本縣は地勢上北部山地・西部丘陵地及び南部平地の三部に大別せらる。北部山地とは福岡縣境の北半たる筑前との境界部を指し、筑紫山門の一大斷層線によりて中斷せられたる筑紫山脈が本縣東端の基山に再び現れ、西南に進みて九千部山（八四八米）を起し、十曲峠を經れば方向を西北に急轉し、北に凸面せる弧狀を描きつつ背振山（一〇二五米）を初め金山・雷山・羽金山・浮岳山等七〇〇乃至一、〇〇〇米の標高を有する諸峯を連れて唐津灣の東岸に達す。この部分は筑紫山脈の中部區域に當り、その主峰に因みて背振山脈と稱せらる。その西南には天山（一〇四六米）を主峰とする小山塊ありて東西に走り、前者とほぼ並行す。この兩山塊は共に悉く花崗岩より成り、開析よく進み、特に兩者の中間部は陥没と浸蝕とにより準平原の特相を具ふ。松浦川の堺裂線を隔つる東松浦半島は前者の末端部に當り、花崗岩及び玄武岩より成るも、概れ平坦なる低山性を示して著しき山嶽を見ず。鐵道唐津線を東境とし、有明海に注ぐ嬰田川及び大村灣に注ぐ彼杵川以北の佐賀・長崎兩縣の交會地一帯は水平的段節の最も復雑せる筑紫山脈の西部區域に屬するも、その基盤は淺海に堆積せる古期第三紀層にして極めて低く、處々に石炭層を含み、本縣にありては唐津炭田・杵島炭田等を作る。その稍高き部分は何れも玄武岩を蔽ける熔岩臺地にて、縣境西北部に連る國見岳・烏帽子岳・西岳等は六〇〇米を超ゆるも、他は概れ三〇〇米内外の比較的單調なる丘陵地をなし、両も斷層と浸蝕とにより幾多の低平なる構造谷を形成す。殊に伊萬里・早岐間の低地は縣境を南北に横斷し、分水嶺中最も低く、伊萬里・佐世保の兩線の通路たり。西部縣境の南半には阿蘇火山帯に屬する多良嶽（九八三米）噴起し、その最高所經ヶ岳（一〇七六米）は本縣の最高峰にして、その裾野は急勾配を保ちて有明海に達す。かくて北及び西に山を負へる本縣の河川は福岡縣境の南半を割する筑後川の本支流をはじめ嘉瀬川・牛津川・六角川・鹽田川等の如く何れも南または東に緩流すれど、水源の浸きため筑後川本流を除けば大河とてはなく、舟運の便に惠まれざるも、背振山塊を構成せる花崗岩の崩壊せる土砂は年と共に下流に沖積して、ここに廣大なる肥前平野（一名佐賀平野）の發達を見る。この平野は九州地方にては稀有の新開地にして、長崎本線以南の地域は殆ど悉く標高五米に滿たず、排水溝は縱横に網狀をなして走り、河道もまた屢々變じたるものの如く、特に筑後川の舊河道は本縣内に深く彎入するところ四處に及び、元和・寛永の頃治水に奔走せる成富兵庫茂安の築ける千栗土井を初め、古堤の今に遺れるもの少からず。これら諸川の注ぐ有明海岸一帯は砂泥の堆積夥しく極めて遠淺となり、干潮の差著しく、干潮時には砂洲の延長五粁に達するところすらあり。これに反し北流する松浦川及び有田川の沖積作用は頗る緩慢にして、平地の見るべき前者の河口に存する唐津平野あるのみにて、その經濟的價値は小なれど、海岸に發達せる砂丘上には虹の松原長く連り、西松浦半島の北端にある七ツ釜の玄武岩洞と共に北岸特有の對照的勝景をなす。また多良火山の北麓には藤野・武場の兩温泉湧出し、北部山地の古湯温泉と共に知らる。（産業）肥沃なる沖積平原に惠まるること九州隨一の本縣は、稍々内陸的氣候の特色たる夏季の高温及び灌漑水の豐富と相俟つて夙に米産縣として知られ、耕地の七七%は田地にして、昭和七乃至十一年の五箇年間の平均米産額は一三八萬石に達し、その半額は肥前米の名を以て西隣の長崎縣を始め、遠く阪神地方までも移出せらる。殊に一段歩當の五箇年平均收穫高は二・五二石を超えて全國に冠絶し、農家六萬七千戸の八四%が農を以て本業とせることは、他に餘り類を見ざる農業縣佐賀の一特色たり。両して米作の最も盛なるは筑後川下流に沿ふ佐賀・神埼の兩郡にして、有明海沿岸の杵島・藤津の兩郡これに次ぐ。米を偏重せる本縣農産中には他に特筆さるべきもの少く、小麥・馬鈴薯・豆（全國にて第二位）等を有するのみなれども、筑紫平野の秋を彩る稻と柿とは縣下一圓に生ひ繁り、稻實は福岡・愛媛の南縣に次ぎ、干柿は長野・廣島の兩縣に次ぎ、何れも全國にて第三位を占む。また藤野町を中心とせる西部丘陵地には製茶盛なり。深山・高原を有せざる本縣にては林業及び牧畜は共に振はず、水産業もまた敢て盛なりとは云ひ難きも、北方玄界灘に突出せる東松浦郡の沿岸にては鰯・鮪・鰹等を漁獲し、南方の有明海沿岸の佐賀・藤津の兩郡には牡蠣及び海苔の養殖行はる。鑛産は專ら石炭にして杵島・岩屋等七炭坑の採炭量は何れも昭和七年以來漸増して同十一年には一一〇萬瓩（八四〇萬圓）に達し、唐津・住ノ江の兩港より各地へ送らる。本縣を代表すべき工業製品の大宗は有田燒にして、朝鮮征伐の際、陶化鮮人の李參平が有田町に陶土を發見したるに創まり、爾來名工輩有り鍋門以下が工夫を重ね、今やその白磁の藝燒は美術品としてその名を海外にまで知らるるに至り、年産三〇〇萬圓に上る。土着工業としてやや著れたる製品には清酒・麦粉・麦藁・和紙・木蠟・搾腦油等があり。近代工業としては佐賀市の絹糸紡績特筆せらる。（交通）本縣の東端を南北に掠むる鹿兒島本線の鳥栖驛に起る長崎本線は南部平地の中央を東西に走り、神埼町・佐賀市・牛津町を經、肥前山口驛にて佐世保線を分ち、南に轉じて鹿島町・濱町を經、多良山麓の有明海岸を迂回して長崎市に至る。故に肥前山口以南の本線は一に有明平坦線とも稱せらる。舊長崎本線たりし佐世保線は武雄町を過ぐれば有田町附近の丘陵地を紆曲して軍港佐世保市に達す。有田驛より分岐せる伊萬里線は伊萬里町・山代町を經て長崎縣平戸口に及ぶも、近く松浦線の全通を見れば佐世保市に尚づべし。長崎本線の久保田驛より分るる唐津線は小城町を經、炭坑地方を貫きて唐津市に至り、佐賀市より南する佐賀線は筑後川を渡り福岡縣矢部川驛において鹿兒島本線と連絡す。また別に福岡市に起る肥筑線（舊北九州鐵道）は唐津灣岸に沿ひて本縣に入り、濱崎を經て唐津市と伊萬里町とを結ぶ。國道幹線もまた縣の東端田代町に起り、長崎・佐世保兩線に沿ひて西し、武雄町にて二分し、一は佐世保市に、他は藤野町を經、大村灣岸を迂回して長崎市に通ず。古來朝鮮及び支那と關係深き日本海岸には良港灣多く、唐津・伊萬里の兩港は沿岸航路の船舶の寄港多く、呼子港は漁港として知られ且つ壱岐島との間に定期航路開かる。有明海岸には閑港住ノ江の他に河港諸富あり。（沿革）本縣の地はもと鹿島一族四藩（佐賀・鹿島・小城・蓮池）及び小笠原藩（唐津）の五藩に分たれたりしが、明治四年七月藩を廢して同名五縣を置き、更に同年九月上記五縣及び厳原縣（對馬）を以て伊萬里縣を立てて縣廳を松浦郡伊萬里に置かる。翌五年五月伊萬里縣廳を佐賀に移し、佐賀縣と改稱せらる。同九年には佐賀縣を三潴縣に合せ、杵島・松浦・藤津の三郡を長崎縣に屬せしむ。然るに同十三年五月松浦郡を東西南北の四郡に分ち、同十六年五月には肥前國のうち佐賀・神埼・基肄・養父・三根・小城・東松浦・西松浦・杵島・藤津の十郡を以て佐賀縣を佐賀に再置せられ、さしも分合改廢の繁かりし本縣の區劃も漸く定まる。その後の變改は明治二十九年三月基肄・養父・三根の三郡を合併して三養基郡となしたると、佐賀・唐津の兩地に市制を布きたるのみにて現在に至る。

【佐賀郡】　佐賀縣（肥前國の一郡）二市六郡の一。縣の東南部に位し、土地南北に長く、約三〇粁あるも東西は南部の最も廣き處にて約一四粁、北部の最狹部は四粁に滿たず。東は神埼郡、西は小城郡に接し、南は有明海に面し、南部の中央に佐賀市を包む。面積二六六平方粁餘。諸郡中の第六位に居り、神埼郡・三養基郡に優るのみ。地勢上自ら南北の二部に分かる。北部は神埼・小城二郡の北部と共に一地域をなし俗に山北と稱せらるる山地にして、その南端には古生層より成る金立山（五〇二米）・高取山（四六二米）等あり、北の大部分は花崗岩より成る背振山塊の一部にて樓現山（五八六米）等を、地味磽确にして農耕に適する地少し。南部は筑紫平野の中部に當り、平坦にして地味肥え、北部山地より南流する川上川これを灌漑し、一望無涯の耕地拓く。農産物に米麥の産多く、その他大豆・小豆・菜・菜種・大根・青芋・蜜柑・檜實等あり、また養蠶行はれて繭を出し、沿海漁獲物あり、魚介養殖行はる。工産にセメント・清酒・索麺・干饅頭・麥粉等あり。省線長崎本線は鹿兒島本線鳥栖驛より分岐して郡の東南に來り、佐賀市を過ぎて西方に走り、佐賀線また郡の東南部を横ぎりて鹿兒島本線矢部川驛と佐賀驛とを連ね、社線佐賀電軌また佐賀驛に起り北方山地の肥前川上驛に達し、道路また佐賀市を中心として四方に通じその多くは乗合自動車運轉せられて交通便利なり。肥前國風土記に「佐嘉郡……昔者檪樹一株生ニ於此村一幹枝秀高葉繁茂朝日之影蔽ニ杵島郡蒲川山一暮日之影蔽ニ養父郡草横山一也、日本武尊巡幸之時覽ニ檪茂榮一曰此國可レ謂ニ榮國一因曰ニ榮郡一、後改號ニ佐嘉郡一」と見え、和名抄また佐嘉郡に作り城埼・巨勢・深溝・小津・山田の五郷を皆す。日本靈異記に肥前國佐賀郡大領佐賀君兒公と見ゆるも、佐賀君の名は姓氏錄に見えず。延喜兵部省式は佐意に作り、伊呂波字類抄は佐賀に作れるも何れも誤りしものなゆん。元祿地圖には佐賀に作り、寛文年中また佐嘉となり、明治の初め佐賀と改定し以て今日に至る。

【佐賀市】　佐賀縣の東南隅に偏するも、佐賀平野の略中央に位し、長崎本線に沿ふ唯一の都市にして、門司・長崎兩間の中點に當り、何れにも約三時間行程

にあり。地勢低平にして海拔四米を算するに過ぎず。東は巨勢・北川副、西は嘉瀨、南は本庄・西與賀、北は高木瀨・兵庫・鍋島の佐賀郡八村に圍繞せられ、東西約四粁、南北約三・八粁、面積九・一方粁にして人口五〇、一五四人。(昭和十年國勢調査)筑紫山脈に發源せる川上川の一分派多布施川は北方より本市に及びて更に數多の分流を派し、各水脈互に相連絡して水路網は道路網よりも遙に繁く宛ら水鄕の感あれば、灌漑にも頗る便にして農業縣の首都に應はしき農業都市の特相自ら具はる。また肥前風土記佐嘉郡の條に「昔者樟樹一株、生於此村、幹枝秀高、莖葉茂…日本武尊巡幸之時、御覽樟茂榮曰、此國可謂榮國、因曰榮郡、後改號佐嘉郡」とあり。佐賀郡名の起原ここにありとすれば、そのまま移し以て佐賀市名の起原ともなすべく、水路網の衝なると市內隨處に亭々と聳ゆる老樟の多きことは本市の表徵となし得べし。かくて氣候溫和、五穀豐饒の水鶴江(佐賀市の古名、いま水ヶ江町あり)の地は夙に龍造寺家兼の築くところとなり、その裔五州の太守隆信に至りて街巷漸く整ひ、居城また大いに擴張せられ、爾來鍋島氏の移り住むこと十三代、三十五萬七千石の大藩の城下町として榮え、明治四年七月佐賀縣廳を佐賀城本丸址に置かれてより、たとへ數次の改廢を經たりと雖も縣治の中樞となり、同廿二年四月市町村制の施行せらるるや卒先し市制を布き、越えて二十四年鐵道長崎線の開通を見、同四十一年には北郊高木瀨村に步兵第五十五聯隊の營舍が設置せられ、大正九年には南郊本庄村に佐賀高等學校が設置さるるに及び、市勢頓に活況を呈し來り、同十一年十月北隣の神野村を併合して全市を三十七箇町五十五區に分ち、昭和二年九月以來本市を中心として隣接各村の一部を含めて都市計畫に着手し、既に市內貫通道路の竣工を見るに至れり。これと相前後して昭和十年五月には佐賀・矢部川間の省線佐賀線開通し、今や馬車鐵道の存在せし往時とは全く面目を一新せり。本市發達の胚子たる佐賀城址は市の南部赤松町にあり。周圍八粁に亘る濠塁を繞らせる巨城も明治七年佐賀の亂の兵燹に罹り、本丸・二の丸・三の丸等悉く灰燼に歸し、今は城門(鯱門)及び書院を殘すのみにして、その故址には縣廳を始め縣會議事堂・赤十字社支部・武德殿・測候所・男子及び女子師範學校・中學校・商業學校・高等女學校等の官衙及び學校建ち並ぶ。城址北面の濠を隔てて東西に走る新裝の貫通道路には市役所及び商工獎勵館・縣廳と相對す。その東には市內隨一の遊園地あり。園內には幕末の名藩主鍋島直正(閑叟)公の銅像あるを以て一名銅像園と稱せられ、公會堂・圖書館・徵古館等もその內に設けらる。同園の東端を劃して昭和八年造營せる佐嘉神社は同じく閑叟公を祀り、別格官幣社に列せらる。同社に東隣する縣社松原神社は鍋島直茂以下列祖を合祀し、市民の產土神たり。この他市內には藩主鍋島氏一族に因める勝地少からず。殊に市內西神野町の神野公園は閑叟公の別莊たりしところにして神野お茶屋とも稱せられ、多布施川の清流を湛へ、林泉頗る雅致に富む。また大隈重信・大木喬任・江藤新平等鄕土の生める維新の功臣、偉傑の誕生地、舊邸その他も多く保存せらる。貫通道路以北の松原町・呉服町・元町・白山町の一帶及び南北の幹線街路唐人町は市の中樞商業區域にして、上記諸官衙のほか、商工會議所・米穀取引所・稅務署・電話局を始め、主なる銀行・會社・劇場・映畫館等は何れもここに集り、百貨店・老舖軒を連ねて繁華を極む。之に反し市の北半は舊神野村の新市街地にて、紡績・製絲・瓦斯・電機等の諸工場及び農事試驗場・青物市場・競馬場等散在す。省線長崎本線はこの地域を東西に貫き、その中央に佐賀驛を置く。水運の便を有せざる本市の交通系統は悉くこの一驛に集中し、佐賀線は當驛より分れ、市域の東端を掠めて東南郊に南佐賀驛を置き、唐津線の各列車また何れも當驛を發着の起點とす。佐賀電氣軌道も當驛構內より發して北方八粁の景勝地肥前川上に至る。當驛を起點とせる乘合自動車線も十指に近く、東は久留米市、西に唐津市、北は古湯溫泉、南は早津江に通じ、市內には市營バス運行を見、交通至便なれど、農產物の集散を司る行政都市の常として本市の工業は餘り盛ならず。從つて米のほかには纔に綿布・鐵器を出すかたはら石炭・肥料等を配給するのみにて、爲に商況不振にして市勢の發展も遲々たるを免れず。なほ水鄕佐賀市は久しく飲料水の水質不良に惱まされしも、現在にては本邦最初の鑿井式上水道の完成に依りてその難を脫するを得たり。〔佐賀城〕市の東南部赤松町に其址あり。別名を榮城といひ又龜甲城・赤松城ともいふ。舊佐賀藩三十五萬七千石の領主鍋島氏代々の居城、今の舊城內南半部は卽ち其址たり。初め龍造寺氏居り、御屋敷構の城なりしが、龍造寺隆信五州の大守となり近國に猛威を振ふに及び諸侍居館を構へ、天正四年に外郭を經營し、同十二年政家これを修復せしが、高房を經て鍋島直茂その遺領を繼ぎ、慶長十三年總普請を行ひて櫓樓を築き壁段を掘り、同十四年完成、天主は同十八年に至りて漸く落成せり。天主の石臺は高さ約一五米、石材はすべて川上產にしてそこに五層樓の天主閣聳え、頗る雄大なるものなりき。城郭の繩張は、初め福岡城主黑田長政に依賴し、直茂之を今の城址の如くに改めしものなり。享保十一年火災のため本丸・二の丸・天主を併せて燒失し、本丸・天守を除き悉く修築せしが、更に天保六年二の丸燒

失、のち本丸と共に修築して明治維新に及ぶ。明治七年の亂に本丸の一部を殘して悉く燒失し、今は僅に彈痕點々たる牙城の一部、城門の面影を留むるのみ。いま城門內に赤松尋常小學校及び縣立佐賀商業學校あり。幕末に名君の聞え高かりし鍋島閑叟の書院はいま赤松校の一部に使用せられ、その居間は今なほ保存せらる。〔弘道館〕北堀端銅像園の西部より佐賀高等小學校までの一帶の地を館址とす。佐賀圖書館前に大正十二年の建立に係る弘道館記念碑あり。弘道館は天明元年藩主治茂の設立にして日本三弘道館の一たりき。初め松原小路(今の松原町)に建て中に內生寮(寄宿所)・擴充局(長年通學所)・蒙養舍(少年通學所)等あり、生徒の通學或は寄宿に便じ、また武技閲覽所ありて規模頗る壯大なりき。而して名儒古賀精里を敎授とし、石井鶴山・長尾忠三郎を助敎として生徒を敎養せしが、漸次入學者を增して室の狹隘を告ぐるに及び、寬政元年館地を東隣に擴張、天明年間、片田江堅小路に通學所を新設、天保十年閑叟の時、更に之を北堀端に移し、大いに擴張し、翌十年落成す。館內の設備至らざるなく、學課の規定、校法の巨細總て精密を極め、壯年の士は常に館內に寄宿し晝夜の別なく文武を研修し、嘉永四年には外生寮生徒實に六百餘人に及び、更に數棟を增設するに至る。安政の初年頃は正に弘道館の全盛時代なりき。學課また萬般に亘り、弘化年間に至りて洋式調練をも加へ、維新前後に於ける本館の兵式敎練は當時最も進步せるものなり。天明より明治初年までの八十餘年間文質彬々として濟々たる多士本館より輩出し佐賀藩文化の淵叢となり、その他醫學校・海軍學校等、名君閑叟の施設奬勵大いに功あり、實に此地は西洋文明輸入の門戶をなせり。副島種臣・大木喬任・佐野常民・大隈重信・江藤新平・中牟田倉之助・眞木長義・鍋島幹・楠田英世・相浦紀道等は維新の大業を翼贊し、或は帝國海軍の基礎を固うせし幾多の名士ここに薰陶を受く。館は明治四年學制變革により廢止さる。今の勸興小學校はその後身なり。〔鬼丸聚堂〕赤松町字鬼丸に其址あり。元祿四年藩主鍋島綱茂は城內の二の丸に聚堂を創設し、同十三年諸人の詣拜に便する爲めに鬼丸西御屋敷に移し、寶永五年八月初めて釋奠を行ふ。而して儒者實松元琳に聚堂心遣人才取立等を命じ、堂內に講堂を併設して天縱殿と稱し藩主の學問所となす。これ佐賀藩學制の始めにて、享保十七年に至り開放して百姓町人の聽聞を許せり。降つて天明元年弘道館の創設と共に之と合併し、弘化三年三月鬼丸聚堂を廢す。その跡は寶琳院の北にて、いま田地となる。〔精煉所〕神野町字高柳にありし舊藩時代に於ける化學試驗場。鍋島閑叟は夙に西洋文明を輸入し種々なる新施設を行ひしが、この精煉所もその主なるものの一にして嘉永五年十一月始めて國產方の內に精煉方を置き、硝石雷粉等の火術原料品の試驗を行ひ、其他、化學工藝用の藥劑及び諸機械の製造に當らしむ。安政二年電信機の研究試驗を命じ、その製作に成功せしため、同四年これを薩摩島津齊彬に贈りし事ありき。當時は宛ら工學校の觀ありき。明治二年試驗の結果藩紙の製法を發明し、藩紙紙幣を作りて太政官札と交換し大いに財界の信用を博せり。〔中折調練場〕上多布施町字中折にありし舊藩時代士卒の洋式調練を行ひし所なり。嘉永四年鍋島閑叟、鬼丸の調練場狹隘なるため、新たに此地に約四〇〇米四方の調練場を設け、十五御茶屋にありし火術方をも此所に移し大砲鑄造を始む。次で安政三年新式銃陣の調練を開始す。これ他藩に率先せし整頓せる洋式調練にして、幕府の講武所設置もこの中折調練に倣ひしものと稱せらる。〔閑叟公銅像園〕松原神社神苑の西に連る。鍋島閑叟公銅像に因みし名にて、境域廣く市內唯一の遊園地たり。上水道を引きし噴水あり、夏の夜は特に涼を趁うて集ふ者多し。銅像の高さ約四・三米、衣冠束帶の颯爽たる立像にて、設計者は岡田信一郞氏、摸型製作者は武石弘三郞氏なり。大正二年鍋島直大侯一族を始め、大隈重信侯・大木遠吉伯等參列し盛大なる式を擧ぐ。背後に殉死者古川松根の銅像、前に閑叟公忠勤の碑あり。〔多布施反射爐〕多布施町字十間堀に其址あり。嘉永六年八月十五日、幕府より鐵製三十六ポンドカノン二十五挺・同二十四ポンドカノン二十五挺計五十挺、車臺共鑄造方を佐賀藩に囑託し來たりし爲、築地反射爐の外に枠川町北裏に、新たに大反射爐を築造し「公儀御用石火矢鑄立方」の標札を掲げて之を鑄造し、翌安政元年納附す。新設の品川砲臺に備付けられしもの卽ち是れなり。いま閑叟公銅像前に置かるる大砲はここにて鑄造し、品川砲臺に据付けしものなり。〔築地大砲鑄造場〕上多布施町にその址あり。卽ち日新尋常小學校所在地なり。嘉永三年鍋島閑叟、長崎砲臺獨力增築を幕府に請ひて許されしものにて、本島藤太夫をして伊豆韮山の江川英龍、江戶の佐久間修理に就て築備のことを問はしめ、同年九月四郞島砲臺築造に着手すると共に、十月更に城北築地に大砲鑄造場を設け、防備用の大砲を鑄造せしむ。幾度か失敗を重ねしが、苦心慘憺つひに翌四年の秋に至り完成す。かくて長崎伊王島・神ノ島の兩砲臺とも竣功し、鑄造場にては鑄砲・鐵砲共に自由に製造せらるるに至り、嘉永五年秋、神ノ島に二十八門、伊王島に二十六門の大砲を据ゑつく。同八月幕府より佐賀藩に對し、阿部閣老の名を以て公式に大砲鑄造を囑託し來る、以て當時佐賀藩の大砲鑄造場の如何に有名なりしかを知り得べし。〔神野

公園〕神野町字西神野にあり。舊佐賀藩主鍋島閑叟保興の別莊として、弘化三年二月起工、同十月竣工せるものにて、閑叟政務の餘暇を以て屋々此處に悠遊す。園内に多布施川の清流を引きて池水を湛へ、小高き丘に老松古梅雅致を添へ、樓あり、藤あり、菖蒲あり、月に雪に四季なりをりの情趣を集む。殊に近來は櫻の名所として知らる。北に背振遠山の翠綠を控へ、西に天山の高峰を望み、西南筑紫の間遙かに多良山脈の重疊を眺むるに良し。大正十二年四月鍋島直映侯、爵位返還のため下縣の時、これを佐賀市に寄附し、市に於ては年を追うて種々なる設備を施す。〔松原神社〕松原町にあり。縣社に列し社殿三宇より成る。祭神、龍造寺隆信・同政家・同高房(北殿)、鍋島清久・同直茂・同直茂室彦鶴姫・同勝茂(中殿)、鍋島直正・同直大(南殿)。初め安永元年佐賀藩主鍋島家の始祖直茂を祀りしに起り、文化十四年直茂の祖父清久及び直茂の室彦鶴姫を配祀し松原神社と稱し、明治五年直茂の子勝茂を合祀す。これ中殿四座の祭神とす。同六年、中殿の北隣に社殿を新造して數山社(龍造寺家の祭神)を遷祀す。これ北殿三座の祭神とす。ついで同年、中殿の南隣に新殿を創建し鍋島直正の靈を祀り、大正十二年同直大を合祀す。境内老梅霽蒼として園池・假山・泉石の妙趣に富む。社寶中、太刀一口〔銘、來國光、附、鍋島直映寄進狀一通、狀一通〕・脇差〔銘、國廣鎌倉住人文保二年二月日、附、鍋島直映寄進狀一通〕一口は國寶たり。例祭、十月十一日。〔與賀神社〕與賀町に鎮座。縣社。祭神、彦火々出見命・應神天皇・市杵島姫命外四柱。肥陽古迹記に據れば、欽明天皇御宇、造立の宣旨ありし五社靈場の一なりと云ふ。のち天武天皇の三年社殿の造營あり。寛元三年には時の執權北條經時、祭祀の儀を定めて九月二十九日を以て例祭日となし、爾來奉幣使發遣をその例とせり。のち戰亂の爲この事廢みしも、江戸時代藩主鍋島家累代の新願所たり。社殿中・樓門(三間一戸樓門、屋根入母屋造、銅板葺)は室町時代の遺構を傳ふるものとして國寶建造物に指定さる。なほ太刀〔銘、康□〔傳康光〕〕一口も國寶たり。例祭、十月二十九日。〔八幡神社〕松原町に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命・應神天皇・表筒男命。社傳に後鳥羽天皇建久年間、舊藩主の祖先龍造寺季益、鎌倉八幡宮を其域内に祭祀すといふ。例祭、十一月十五日。〔宗智寺〕多布施町にあり。曹洞宗。日峰山と號す。本尊釋迦如來、脇士文殊・普賢兩菩薩〔林長右衛門尉國永作、白檀の靈像〕。佐賀八僧寺の一にして近郷の名刹たり。承應四年鍋島加賀守直茂の創建、開山は不誠慶門和尚たり。山寺號は直茂の法號日峰宗智に因む。〔本行寺〕西田代町にあり。日蓮宗。永正十五年龍造寺鳥家の開基にして日政上人を開山とす。境内に江藤新平の墓あり。寺域に市内有數の勝地なり。〔佐賀の亂〕明治七年春、江藤新平・島義勇等が政府の施設に不滿を懷きて佐賀に反旗を翻せしないふ。當時、佐賀には征韓・憂國の二黨あり、前者は韓國が我國との修交を拒絶する事に對して强硬意見を主張し、兵力を以て問罪すべしとするもの、後者は封建擯夷の再興を目的とするもの、共に政府の方針に反對する點に於て一致し、明治七年一月遂に合して一團となり、同志の徒を合して總數二千五百餘人、戰備を整へ不穏の形勢に出づるに至る。恰も前參議司法卿の江藤新平は征韓論廟堂分裂以後、東京にありて怏々樂しまざりしが、歸縣してその首領となり、前開拓使判官の島義勇また守舊派の故を以て歸縣推戴せらる。同年二月初旬、佐賀の變報に接したる政府は、在縣徒らに經過する時は近縣のこれに呼應せんを憂慮し、傍近の鎮臺兵を鎮壓のため派遣せしが、更に十日參議兼内務卿大久保利通に兵馬の權を授けて出張鎮定に當らしめたり。十五日江藤等は佐賀城を圍みて縣令岩村高俊以下を走らせしが、十九日大久保は福岡に着し、陸軍少將野津鎮雄の征討軍また到るに及び次第に敗れ、江藤・島等は早くも逃遁し、三月一日官軍佐賀城に入る。これより先、朝廷は兵亂の各所に波及するを憂へて、東伏見宮嘉彰親王を征討總督、陸軍中將山縣有朋・海軍少將伊藤祐麿を參軍に任ぜしが、未だその到らざるに亂は全く平定せり。而も巨魁たる江藤等は容易に逮捕せられず、蓋し潛かに鹿兒島に走り西郷隆盛の援助を求めて拒絶せられ、島義勇また捕縛されしが、江藤は更に日向より土佐に逃れ、林有造に頼りてまた拒絶に會ひ、三月二十九日甲ノ浦にて捕縛、佐賀に護送せられたり。政府は同地に臨時裁判所を開き、大判事河野敏鎌を裁判長として審問せしめ、四月十三日江藤・島を梟し、その他を斬罪・懲役に處し、二十四日總督宮始め大久保等歸京せり。この役に於て官軍の戰死者百九十人、傷者二百人、財を費すこと百萬圓に達せり。

【佐賀線】省線長崎線の一。長崎本線佐賀驛(佐賀市)と廣岡驛山門郡瀬高町の鹿兒島本線矢部川驛とを結ぶ。全長二四粁。

【佐賀電氣軌道】私設軌道。佐賀市の北部、省線長崎本線佐賀驛(佐賀市)前より起りて北方の佐賀郡巷目村に通ず。全長三二粁。軌間〇・九一四米。

【佐賀】大分縣北海部郡にありし村。明治四年六月市村と合して佐賀市村と改稱し、大正八年更に坂ノ市町と改む。

サガ

嵯峨【嵯峨】京都洛西の勝區。もと葛野郡の町名なりしが、いま京都市右京區に入る。太秦及び宇多野の西に位する桂川以北をいふ。此地は北及び西に山を帶び、地勢南及び東に開け、古來貴紳の山莊の

ありし所、故に名勝舊蹟に富む。大覺寺は嵯峨天皇の離宮の地にして、その後、後嵯峨・龜山・後宇多の三上皇の仙洞となりしが、いま眞言宗に屬す。清涼寺はまた釋迦堂ともいひ大覺寺の南にあり、初は源融の山莊の地、のち寺となる。當堂が宋より持ち來れる三國傳來の釋迦像を藏す。二尊院には小倉山の麓にあり、釋迦・阿彌陀の二尊を安んず。厭離庵は藤原定家の閑居せし小倉山莊の址なり。天龍寺は龜山法皇の離宮の地にして、足利尊氏は後醍醐天皇追福の爲に夢窓國師を開山として建てし寺なり。寺内より大堰川を距てて對峙なる嵐山を眺むる景色最も佳なり。かの高倉天皇の寵姫小督局の平清盛に忌まれ、御所を出でて隱れ栖みたるも此邊とす。いま山陰線此地を過ぎ保津川の谿谷に入り、嵐山電氣鐵道・愛宕山鐵道等あり、四時遊覽の客絶えず。また此地附近一帶の野原を嵯峨野といひて古來多く詩藻に入る。夫木・野、あはれなり秋ぼさがののみささ原いかなるふしに露こぼるらん　爲家」

【嵯峨山】愛宕山(京都府)の別稱。

サカアイ　阪合村　奈良縣大和國高市郡の中部。奈良市南方二〇粁。北は畝傷町・飛鳥村に、東は高市村に、南は高取町に、西は越智岡村に接す。此地は傾斜地塊なる龍門山塊の背面に當り、緩傾斜をなす低高性(三〇〇米以下)の丘陵起伏し、奈良盆地との境界に屈曲をなす。この丘陵地域は片狀花崗岩・花崗片麻岩より成る。丘陵には水田見られ、交通としては、吉野電鐵南北に走り、また大阪電氣鐵道は橫斷驛(昭和三年設置)を置く。此地は和名抄の高市郡檜前郷の地にして坂合陵ある故に坂合村と改む。上古は奈良盆地の如き低地には宮城は營まれず、また御陵も同樣にて、當地の如き丘陵地帶に營まれたり。廬入野宮は檜前五百野宮とも云はれ、宮址は卽ち檜隈寺ならん。上古は歸化人種たる檜前氏住すとも云ふ。大字栗原は吳原とも書き、もと吳人の歸住せる地にて書紀には檜隈野と記せり。古事記には「吳人參渡來、其吳人安ニ置於吳原一、故號ニ其地一謂ニ吳原一也」とあり。また栗原に安古岡陵あり。大字平田には阪合陵あり、嬢子山または梅山と呼ぶと。大字舊弓は纒紀には檀山と見え、檀弓岡墓は茅渟王紀古備姫の墓なり。大字越には古墳を存し、石室を發掘せり。〔檜隈坂合御陵〕大字平田にあり。欽明天皇の御陵。陵形は前方後圓にして西面せり。陵上松樹繁茂しもと石山と呼ばる。陵號は日本書紀に檜隈坂合陵とあり、其他、檜隈陵または檜隈大陵に作る。延喜諸陵式には檜隈坂合陵となし檜隈墓の條には檜隈陵となす。式の制に「兆域東西四町、南北四町、陵戸五烟」と揚げ遠陵に班ず。また扶桑略記には高四丈、方四町とあり。書紀に推古天皇の二十年二月二十日欽明天皇紀皇大夫堅鹽媛を改葬し奉り、この陵に合葬す。同二十八年十月、陵上に砂礫を葺き城外に土を積みて山となすと傳ふ。いま陵上に厚き葺石層のあるはこの爲にて、石山の稱もこれより起りしならん。今昔物語にこの陵に鬼形の人形あるを傳ふ。石人はいま收めて陵前の檜隈墓域にあり。中世、陵の所在不明に歸し、元祿の檢討に於ても未だその所在を發見するに至らず、名所圖會・山陵志に現在の所を推し、幕末修陵の際、これにつき大いに修補を加ふ。〔檜隈墓〕大字平田にあり。敏達天皇皇孫茅渟王紀古備姫王の御墓。墓形は圓丘なり。皇極天皇二年九月十一日薨去、同十九日檀弓岡に葬れる由を日本書紀に記せるも、のち改葬せしものか。延喜諸陵式に、在ニ大和國高市郡檜隈陵域内一無ニ守戸一ことし、遠陵に列す、卽ちもと欽明天皇陵の兆域内に屬せしものなり。御墓その後所在不明に歸せしも、明治九年十月御治定となる。墓前に異形の石人四箇あり。元祿年間、欽明天皇陵南の池田より發見し、陵上に安置せるのち墓前に移す。山王、掘出の山王權現または猿石と稱す。今昔物語に云ふ石の鬼形ならん。〔檜隈安古岡上陵〕大字栗原にあり。文武天皇の御陵。陵形は圓丘。慶雲四年六月十五日崩御、十一月十二日飛鳥岡に火葬し、二十日奉葬。御陵名は續日本紀に檜隈安古山陵とあり、延喜式諸陵式には檜前安古岡上陵となし、扶桑略記には山陵大和國高市郡檜前安古岡上(高三丈、方三町)とあり。式の制に、兆域東西三町、南北三町、陵戸五烟」と揚げ、遠陵に列す。中世、山陵の所在不明に歸し、元祿以來檢討行はれ、大和志は平田村高松塚に擬し、元祿の周垣これに依つて行はれ打墨縄は野口村王ノ墓を擬す。谷森善臣の山陵考に初めて現陵の塚穴と稱する地を考定せるも未だ定說とならず。明治四年十月一度王ノ墓(現在の天武、持統陵に御治定となりしが、更に同十四年二月一日、遂に山陵考の說を採り現陵に御改定となり、大修補を加ふ。〔牽牛子塚古墳〕指定史蹟。大字越字塚前にあり。御前塚とも呼ばれ越部落の西部丘陵に造られしものにて、封土は圓形、高約五米、徑約一三米、石室は一箇の瓦大なる凝灰岩切石を刳り抜きて造らる。短き羨道を玄室に入れば、内部は中壁を以て左右等しき二室に別たれ、天井穹窿形を呈し、底面には何れも長方形の棺座を造出せり。その上より乾漆製棺の破片・七寶飾具・勾玉・小玉等と共に遺骨を發見す。また入口の封鎖に用ひし石扉の破片及びその外部を蔽へる瓦大なる蓋石を現場に遺存す。此等の出土遺物はいま畝傷考古館に出陳さる。尙附近に岩屋山古墳あり。文殊院西古墳に類似の石室を有する古墳なり。詳細分明ならず。〔中尾山古墳〕指定史蹟。字平田中尾山上にあり。牽牛子塚の東。圓形古墳にて、封土の高さ約四

米、底径約二〇米、頂上は登掘せられ石室露出す。石室は花崗岩を磨ぎ加工せる切石四枚を用ひ、内法の大き幅九一糎、高さ八九糎、平滑に磨せる表面に朱塗を施せる精巧特異なる構造なり。恐らく火葬の遺骨を收藏せる初期の火葬墳墓ならん。〔於美阿志神社〕大字楠前に鎮座。村社。阿美使主神を祭祀す。式内社に充てらるる地方の名社。社蔵石塔婆ほもと十三層なりしが、いま十層なる存す。流紋岩質の凝灰岩にして、初層軸部の方石に圓郭内に四佛の種子を平彫にす。平安時代の建造に係り國寶たり。本社は楠前氏の氏神なりといひ、塔婆は氏寺と思はるる廢楠禁寺の塔址にあり、此地に土壇・礎石等遺存す。〔吳津孫神社〕大字栗原に鎮座。村社。祭神、木花咲夜比賣命。一説に吳人飛鳥衣縫部等の祖たる吳公を祀るといふ。創立年代詳かならねど式内の古社なり。例祭、十月十七日。

サカイ 界村 栃木縣下野國安蘇郡の南東隅。佐野町の東南にて、渡良瀬川の北岸にあり。北は犬伏町、西は植野村、東は下都賀郡三鴨村、南は渡良瀬川を隔てて群馬縣邑樂郡西谷田村と隣る。東北隅に越名沼あり。また渡良瀬川の支流秋山川、南部を東流して越名沼の餘水と合し村の東南隅にて本流に合す。全村殆ど低平にて畑地多く、南部は卑湿にて水田をなす。農産に藺・米・麥等を出し、また織物業行はる。佐野町と下都賀郡藤岡町を繋ぐ縣道に當りバスの便あり、佐野町にある省線兩毛線佐野驛、西隣植野村にある社線東武鐵道佐野線の佐野町驛にも遠からず、交通の便よし。此地古くは和名抄、安蘇郡意部郷に屬せしものなるべし。古の官道にして佐野氏の北條氏と爭ふや、此地は常に其戰場となりしといふ。明治初年の際には、馬門村は舊旗本横田氏、越名村は井伊公並びに舊旗本能勢・森川の兩氏、高山村は舊旗本朝日奈・鳥井・根岸・諏訪・小笠原の五氏、高萩村は佐野町總宗寺、飯田村は舊旗本堀田氏、以上十一氏の領有にして明治元年より順次奉還、同三年日光縣の管轄となる。同五年栃木縣と改め、各村へ名主または戸長を置き、同九年四月馬門村・越名・高山・高萩・飯田の五箇村聯合して事務所を馬門村に設置し、同十二年七月各村へ民選戸長を置く、更に同十六年二月前制を廢し、各村を聯合して一事務所官選戸長一名に改む。同二十二年町村制施行の際、馬門・越名・高山・高萩の四箇村を合して界村と稱す。

サカイ 堺 【堺村】 東京府武蔵國南多摩郡の南部。八王子市を去る南方約六粁。同市との間に横山村・由井村を挾み、西は淺川町、東北は由木村、東は忠生村に接し、南は境川を境として神奈川縣高座郡相原村および津久井郡川尻村と隣りす。多摩丘陵の南縁部に當り、東西約一二粁に達するも、南北は廣き部分も約一・五粁に過ぎず。丘陵の最高處は中央部のやや西なる七國峠の邊にて海拔二二四米を示す。南部はこの丘陵の麓にて、相模野臺地の北端に當り、境川は南境を東流し、土地概ね平坦、西部には田地あるも他は概れ畑地にして桑畑廣し。農産に米・麥・甘藷等あり、養蠶榮えて繭の産多し。府道は丘陵の根元に沿ひて東西に貫き、又中央を北走して八王子市に通ずるものあり。後者にはバスを通ず。省線横須賀線中部を貫き相原驛（明治四十一年設置）あり、交通の便あしからず。當村は近世多摩郡椚木領の内にして相原郷横山庄に屬し、小山村・上相原村・中相原村・下相原村に分れしが、上中下相原はのち合併して相原村と名づく。江戸時代には高井但馬守常房・神保寛内長通・松平龜五郎善寶・建部六右衛門・久松忠治郎等の知行所入り、交りし地にして、中世に宮化帝の裔、丹黨の族と稱する相原氏の居りし所。

【堺村】 編井縣越前國南條郡の南部。北は宅良村・今莊村、西北は鹿蒜村、西南は敦賀郡東郷村に隣り、南は敦賀郡伊香郡片岡村・丹生村に、東は岐阜縣揖斐郡坂内村・德山村に界す。面積一一七・四四方粁の廣きに亘るも、濃越山地の西端部に當り、事境には怪々峠（二二八四米）・美濃俣丸（一二五四米）・三周ヶ嶽（一二九二米）、南界上には上谷山（一一九七米）・樣ノ木峠（五三七米）、北境に田畑山（六四九米）等の山峯聳えて山林廣く、九頭龍川の支流目野川は村の東南隅の谷に發源し、村の中部を西北流し、その谷に沿ひて狹長の低地ありて耕地拓くるも田畑は全有租地の約一〇%に過ぎず、農産に繭・米、林産に木炭その他、工産に網織物等あり。北陸道西南境の樣ノ木峠を越え西部を北に通じ、村道これより分れて目野川に沿ひて上り三周ヶ岳の北を除えて岐阜縣に入るも交通なほ便ならず。此地古くは和名抄敦賀郡鹿蒜郷の内とす。もと鹿見村と稱せしが、明治二十三年現村名に改稱す。大字板取は虎杖にも作り今庄驛の南二里、木目峠の下なる北國街道の小驛なり。

【堺村】 長野縣信濃國下高井郡の北部。千曲川の南岸に沿ひ、新潟縣中魚沼郡に界す。面積二二九・一二方粁の大村。全村山がちにして東南境の山脈最も高く、白砂山（二一四〇米）・佐武流山（二一九二米）・苗場山（二一四五米）等著し。また中部には鳥甲山（二〇三八米）を始め千四五百米の山々連り、何れも西南に傾斜し、志久見川・北野川・中津川等、千曲川の支流及び本流の谷となり、田畑ありて米・繭を産す。山地は何れも森林にして林業を主とし、薪炭を産す。交通は谷より谷に至る數條の山道によるのみにて不便なり。本村は旧新前は飯山領に屬し、明治元年御尾所取締所に屬し、同四年より長野縣の管轄となり、從來獨立村なりし箕作村・志久見村を合し本村を置く。志久見川の水源に笠法師山あり、此の山の東に中津川の幽谷あり、俗に秋山と稱し、散策する者多し。大字秋山は自然的景觀越後に類似し隔絶したる一部落をなし、住民は今もなほ原始的生活をなす。

【堺市】 〔地勢〕 大阪府の中央、和泉國の北端に位す。東は一帯に丘陵をなし河内平野を隔てて東方遙かに金剛・葛城の連峰を望み、西は平坦なる市街地をなし大阪灣を隔てて西方遙かに淡路の翠巒を望む。北方は大和川を境として大阪市住吉區と相對す。本市の地質は大體第四紀層にして、東部丘陵地帶は洪積層に、西部は沖積層に屬し、第三紀層の地表に露出するもの殆んど之なし。而してかの沖積層が陸地に近き瀕海性の沈澱層なることは、地層中より發見せらるる海産化石類によりて證せらる。〔氣象〕 當市の氣象は第三區即ち所謂瀕戸内海區に屬し本邦中最も惠まれたる地の一とす。氣温最高三五度、最低氷點下一度、平均一六・二度。雨量は全國平均よりも遙かに少く一箇年平均一一〇・八粍、冬季に於ては降霜雪の日數少く積雪ふ見ることは頗る稀なり。氣壓は變化少きを以て特長とす。各日に就て云へば大體午前と午後との九時乃至十時頃最も高く、三時乃至四時頃最も低し。季節的に云へば冬季に高く夏季に低し。即ち一月平均七六・〇・二八粍、八月平均七四五・四八粍とす。なほ當市附近の卓越風は東北風・西風・西北風にして南風は殆んど之なし。こは當市の南方に紀伊・和泉の諸山脈あること及び當市附近の水陸配布に因る。序に當市に生育する植物を概覽すれば、クロマツ・イブキ・マキ・ジャリンシバイ・ウハブキ等日本中部以南の海濱に一般的に見らるる植物の外にツチグ・イヌヤマモモ（一名ホルトノキ）・クス等比較的南方な原産地とする植物を見る。時にコノテガシハ・ホダイジュを見るは往時移植の遺物にして海外貿易港時代の名殘とす。〔交通〕 舊國道は大阪市より來り當市の中央稍〻東寄りを南北に貫き、新國道また大阪市より來り當市の西部海岸寄りに南北に走る。幅員二八米の坦々たる此國道は伸びて泉北郡濱寺町・大津町・岸和田市を通り和歌山市方面に至る。府道の五線は東及び南へ放射狀に走り、就中天王寺線線は大阪市阿部野橋に發し當市の東郊を南に貫通す。こは幅員二三米の最新式鋪裝道路にして大阪方面との重要なる交通路たり。南海鐵道本線は大阪市より來り略新國道と並行して和歌山市方面に向ふ。同鐵道の高野線また大阪市より來り當市の西部を通りて高野に向ふ。同鐵道の軌道線（阪堺線）は大阪市恵美須町より發し當市の中央を貫きて濱寺公園に向ひ、その宿院より分岐せるものは當市の大濱公園に至る。阪堺電鐵は大阪市芦原橋に發し當市の西部を貫きて濱寺公園に達し、阪和電鐵は大阪市阿部野橋を發し當市の東郊を經て和歌山市に至る。なほ當市を基點とする昭和・大鐵・堺の三乗合自動車は當市と河内・和泉の諸地とを結ぶ。〔面積・人口〕 明治廿二年市制施行以來先づ廿七年に大鳥郡向井村大字七道を當市に編入し、大正九年泉北郡向井町及び濱町を、また同十四年泉北郡鶴松村を、同十五年泉北郡三寶村を各々編入して、その市域は約一五平方粁に及び以て今日に至る。最近の人口は左表に示せる如く

人口表

大正十年	九二・九九三	人
同十四年	一〇九・一〇六	
昭和五年	一二〇・六四八	
同六年	一二四・二六八	
同七年	一二五・二一〇	
同八年	一二六・八二四	
同九年	一二六・九二四	
同十年	一二六・八三二	

なるが、昭和十年に於て俄然戸數三萬一千餘戸、人口十三萬八千餘人となりて一萬人に近き増加を見たるは主として染織工業・機械器具工業・化學工業の著しき發展に因るも、また當市の東部が大阪の郊外化したる點も見逃すべからず。なほ昭和十年現在にて一戸當り現住人口は四人半とす（人口表中昭和五年までの分は國勢調査の人口、それ以後のものは現住人口とす。又大正九年及び同十四年の人口は、當時の堺市の人口に、其後合併されたる地域の當時の人口を加へたるもの、即ち表は同一面積上に於ける人口を表せるものとす。）〔産業〕 當市の全生産物は凡そ表の如くなるが、その約九割八分までは工産物とす。工産物中主なるもの左の如し。（以下數字は總て昭和十年）

生産物總價額表

	工産物	水産物	農産物	畜産物	計
	圓	圓	圓	圓	圓
昭和6年	43,124,578	545,216	401,429	105,376	44,176,599
7年	46,148,293	565,688	540,623	106,214	47,360,818
8年	62,823,965	663,950	496,621	96,655	64,081,191
9年	72,508,802	648,692	403,137	94,087	73,954,718
10年	85,317,931	554,576	602,434	118,469	86,593,410

機械器具	一九六八萬圓	
染織工業品	一九三六	
化學工業品	一八四四	
足袋	一一〇一	

飲食物工業品　六三四

機械器具工業は、自轉車部分品（七一二萬圓）を筆頭とし、次に車輛（二二四萬圓）、諸機械及附屬品（二〇二萬圓）、アルミニューム製品（一八二萬圓）、スコップ・ショベル（一七三萬圓）、絶緣電線（一八五萬圓）、刃物類（七三萬圓）等續く。染織工業にては綿絲（一〇七三萬圓）が斷然首位を占め、次は織物（四六一萬圓）にて、織物中にては金巾（二七九萬圓）、絹織（一三萬圓）を主なるものとす。其他主なるものとして染物一九五萬圓あり、そのうち綾木綿が斷然首位を占め、ほかに晒物四七萬圓あり。化學工業に於ては工業用藥品が群を抜きて總額の三割五分、即ち五五七萬圓を出し、このうち斷然多額なるものは亞鉛華（二七五萬圓）とす。次位はセルロイド製品（四九五萬圓）、其他にはゴム製品（一六三萬圓）、染料及び中間物（一二一萬圓）、西洋紙（一〇一萬圓）、硝子製品（六二萬圓）、インク（四七萬圓）等を主なるものとす。飲食物工業中酒（一八八萬圓）、菓子（一七〇萬圓）、醬油（七二萬圓）、製作昆布（三二萬圓）、酢（二七萬圓）を主なるものとす。當市の工業中特殊なる存在として足袋を揚げざるべからず。こは所謂鞠勘足袋の名を以て知らるるものを中心とし、之に從事する男女工約二千五百人、その製作數五千八百餘萬足と稱せらる。之等のほか工産物中主なるものは木製品（二五七萬圓）ありて最も主なるものは木管の一二八萬圓とす）、線香（一〇九萬圓）、洋服（六二萬圓）、帽（四八萬圓）とす。以上種々なる工業を營む工場の數は二千五百餘、職工人員は約二萬四千人に昇る。其昔、貿易港乃至は商業都市として榮えし堺、即ち元祿の頃商家四千五百と數へられし堺、今は俄然委々變へ、恰も大大阪の工業分野を見とする弟分たる觀を呈す。なほ農産及び水産方面に就て一瞥すれば昭和十年に工産を除ける農産物は價額六十萬餘圓なるが、そのうち米は九萬餘圓に過ぎず、大部分は野菜類にして四十九萬餘圓、野菜類のうち最も多額なるは胡瓜の十五萬餘圓と大根の十一萬餘圓なりとす。畜産物の如きは僅かに十一萬餘圓に過ぎず。水産業に從事する者は凡そ五百八十人、また動力を有する漁船四十四隻、之を有せざるもの三百九十隻（何れも五噸以下）にして昭和十年の漁獲價額四十二萬餘圓、此外水産製造物價額十二萬餘圓あり、此内主なるものは鰯（十六萬圓）、サルガ貝（十五萬圓）、バイ貝（十四萬圓）とす。以上の如く堺市は魚類の漁獲は多からざるも、魚類の集散地としては見逃すべからず、即ち堺市には、近くは紀伊・淡路・阿波・土佐・瀬戸内海諸地より、遠くは長崎・鹿兒島・山陰道・北海道・朝鮮等より魚類集る。商業としては、この外特に異彩を放つもの殆どなし。〔堺港〕室町時代末期より江戸時代初期に至る一百餘年間、唐土南蠻の果てまでも日本の代表的港市として知られ、また和蘭其他の外國船までも入りて一時外國文化の入口なりし堺も、その港は決して良港にはあらざりき。即ち沿岸はただ一文字の平洲にして沿岸に近く暗礁多し。偶々寛文四年八月大小路濱の北端に接して俄然一島嶼涌出し、續いて同海中より一靈龜と戎神の石像を得たるを以て之を奉祀し島名を戎島と名付く。大體東西百米、南北三百米ほどの矩形の島なるが東町濱より突出せる石垣と相俟ちて堺港の外壁となり、堺港をしてやや良き碇泊所たらしむ。然るに寶永年間新大和川開鑿以來港海の埋沒著しきものあり、當時浚渫を行ひしが、餘りの甚しさに經費にも差支あり、遂に入港の船より石錢を取立てて浚渫したるが埋沒には及ばず、諸國の廻船は遂に寄付かざるに至れり。爾來、享保の頃布屋治兵衛あり、また寛政の頃吉川儀右衛門、堺奉行矢部駿河守定謙ありて修築港に盡力せしも間もなく舊の如く港海埋沒せり。かくて弘化二年より安政二年にかけ大小波戸を築き大仕掛なる浚渫を行ひ爾來大體其盡にて近年に至りたるが、そは辛じて小船舶の出入可能なるのみなりき。偶ま昭和九年九月當地方一帶に大暴風雨ありし際堺市も慘禍を蒙りしが、その復興計畫と共に港湾構築の機運作られ、昭和十年の大阪府會にて府費を以て昭和十四年度までに完成せしむべきこと決議せらる。以上の如くなれば最近までの堺港を通しての輸出入乃至移出入は微々たるものにて、昭和十年の出入汽船は二五三隻、噸數三三〇七噸、帆船一一〇八九隻、一九七八九八噸とす。昭和十年に於て輸入は七十萬餘圓、その主なるものは、亞鉛（四三萬圓）、磯洋（一七萬圓）、輸出は二百七十萬餘圓、その重なるものは自轉車部分品（六一萬圓）、硝子製品（五一萬圓）、亞鉛白（三八萬圓）、金屬製品（三五萬圓）、燈料（三一萬圓）、紡績機械（二九萬圓）とす。なほ港を通しての移出入價額は昭和十年に於て移出七六八萬餘圓、移入二四三七萬餘圓とす。〔官衙・學校其他〕官衙の主なるものには區裁判所・刑務所（大阪刑務所）・府立農事試驗場、學校は中學校・商業學校・農學校・高等女學校の外に水上飛行場あり。蓋し當市の大濱には大濱飛行場あり、大正十一年日本航空輸送研究所と稱し、我國最初の民間定期飛行を開始す。現在大阪・松山・別府・白濱等へ水上機を以て定期郵便旅客輸送をなしつつあり。本部は大濱にあれど發着場は木津川飛行場とす。また大濱公園には水族館あり、明治卅六年大阪に第五回内國勸業博覽會開かれし際その附屬館として設けられしもの、其年五月五日には明治天皇の行幸あり、次で皇后陛下（昭憲皇太后）、皇太子殿下（大正天皇）、皇太子妃殿下（現皇太后）の行啓ありき。〔沿革〕摂津・河内・和泉三國の境界にある集落なるより堺の地名起るといふ。蓋し近世に至るまで堺の南郷は和泉國に、北郷は摂津國に屬せり。國境附近は一連の臺地、即ち堺市の東部は實に河泉臺地の一部をなし別に自然的なる國境とてはなし、而して當市の東端にある三國ヶ丘は三國の境としての名を留む。江戸時代大和川を開鑿せし頃には現在の堺市の北大和橋の西は直ちに海にて爾後約二百九十年の間に海岸は三・五粁の西に移る。之によりて計算すれば、實にかの地は一千年平均一二米の陸地を生成しつつあることを知る。されば堺市發祥の地は、勿論現在の堺市の東部なる臺地なるべし。現在の堺市の三國ヶ丘・田出井・仁徳陵・履中陵・反正陵・允恭陵・仁賢陵・安閑陵・宣化陵・欽明陵・敏達陵・用明陵・崇峻陵・推古陵・孝徳陵・天智陵・文武陵・元正陵・聖武陵・孝謙陵・淳仁陵・光仁陵・桓武陵・嵯峨陵・淳和陵・仁明陵・文徳陵・清和陵・陽成陵・光孝陵・宇多陵・醍醐陵・朱雀陵・村上陵・冷泉陵・円融陵・花山陵・一條陵・三條陵・後朱雀陵・後冷泉陵・後三條陵・白河陵・堀河陵・鳥羽陵・崇徳陵・近衛陵・後白河陵・二條陵・六條陵・高倉陵・後鳥羽陵・土御門陵・順徳陵・後堀河陵・四條陵・後嵯峨陵・後深草陵・亀山陵・後宇多陵・後二條陵・後醍醐陵・後村上陵・後円融陵・後小松陵・後花園陵・後土御門陵・後柏原陵・後奈良陵・正親町陵・後陽成陵・後水尾陵・後光明陵・後西陵・霊元陵・東山陵・中御門陵・桜町陵・桃園陵・後桜町陵・後桃園陵・後光格陵・仁孝陵・孝明陵・明治陵・大正陵・昭和陵・大阪市住吉區邊と共に帰江津と呼ばれ、その前面の海は神武天皇御東征の際の五瀬命の故事によりて古へは茅渟海と稱ばれたりといふ。堺地方には古代傳説として神武天皇御東征の事廣く傳承せられ、また神功皇后の傳説も廣く行はる。即ち和泉の名は皇后御出陣の際清泉湧出の吉兆に因るといひ、堺市にある開口神社は皇后御凱旋の砌、鹽土老翁神を饗座し參らせしものといひ、堺市にある方違神社は皇后御造發の際方違の慮によりて營まれしものといひ、又堺市の紬松（字名）は御凱旋の砌觀を紮ぎ給ひし所と傳ふ。されど神功皇后は日本海岸の角鹿（敦賀）より御出發遊ばされしこと定説にして、堺より御出發ありきといふ傳説は信じ難し。されど御歸途は瀬戸内海を經られしこと、また堺の附近には當時應神天皇の庶兄忍熊皇子ありて、之を御征伐遊ばす必要ありし故、或は堺あたりより御上陸ありしものと思はる。平安時代には京との交通も相當ありしことは藤原定頼の歌の詞書に「さか井と云所にしほゆあみにおはしけるに」とあるによりて知らるべく、即ち藤原氏盛なりし頃京都の公達は此地に鹽湯浴みに行きたるなり。平安末期より鎌倉時代にかけて此地は熊野街道の要驛として發達し、今の堺市向陽町・北向陽町・南向陽町・中向陽町の邊には向井氏が豪族として居邑し、向井二郎將監などの名見ゆ。両して當時の習慣により表面は、かの領地を住吉社に寄進し、向井氏は其管理人の形になり居たる如し。蓋し江戸時代大和川を開鑿するまでは、今の大阪市の住吉と堺とは全く地續きなりき、吉野朝時代に入りては堺が住吉社領として其祠官津守家は吉野朝に忠勤したるを以て、之に影響せられて足利尊氏の謀叛以來堺より多くの勤王の士を出せり。建武四年六月の御教書によれば堺の魚商伸間が宮方として足利方なる和泉國守護より説まれるたることを推知し得。また當時堺にて開版されし所謂正平版論語に「正平甲辰五月吉日」の識語を載す（吉野朝の年號なり）。これ等により堺の民は多く吉野方なりしことを覗ふに足る。同時に支那にても珍本とされる魏の何晏の論語集解が此頃堺に於て造佛房士により刻刊されしことは偉とするに足るべく、また以て堺の當時の文化を覗ふに足るべし。其後間もなく、禪徒彦貞によりて五燈會元十冊の刊行もこれに匹敵する快事とす。吉野朝の終り頃、堺を泉府と稱し幕府の權区山名時氏が豪勢振りを發揮せしも將軍義滿に忌まれ遂に敗死し、之に代りて大内義弘この地の守護となる。彼は堺の民を愛撫し管下よく治りしも義滿其勢威を妬み、義弘また事を以て義滿を怨み、遂に幕府に反す。當時堺は周囲に壕を繞らし一箇の獨立都市の如くなりしが、剰へ義弘は、井樓四十八、櫓一千七百を作りて前代未聞の要塞に據り、手兵五千、外に堺の民を擁して幕軍を待受けたれば幕軍之を陷るる能はず、鼓に於て幕軍北風に乘じ城に向つて火を放ちしかば、城中に猛火起りて遂に一萬の民家に延燒し義弘の善政により折角發展途上にありし堺は、また義弘と運命を共にし慘憺たる燒野原と化せしなり。時に應永六年十二月二十一日、義弘は四十四歳（或は四十六歳といふ）を一期として此日討死す（墓はいま西湊町の本行寺境内に存す）。其後細川氏和泉の守護たりしが、折しも應仁亂あり、河内に畠山氏あれば、堺は兵馬倥偬の間に屋々窮地に陥りたれど、戰爭に冠さるることなく、両もこの爲に堺は全盛時代の緣を得たり。即ち應仁元年六月、大内義興大軍を率げて入京し西軍に屬して活躍せしが、山口との連絡上、東軍の總大將細川勝元の守護國たる摂津一帯を攻略す。折しも幕府が重要視しゐたる證明船が其根據地とする兵庫港への歸途にありて、これが大内軍と細川軍との爭奪の的となれり。證明船には大内氏が瀬戸内海にて之を遮ぜんとするの風説を聞き危險を避け九州の南より土佐沖を經て、東軍細川氏の管下として安全地帯たる堺に入港せり。これが緣となりて爾來證明船は堺港を根據地とするに至り、かくて堺は室町末期まで日本の代表的港市として京都と共に外國の地國に載せらるることとなれり。この堺全盛時代に於ける堺の豪商といふは多く金融業者と貿易業者にして貿易にては湯川宜阿・小島三郎左衛門等知らる。證明船の根據地となりて以來堺の

人々の地方活躍は盛んとなり、遣明船は南方航路をとりしも、堺の商人等は瀬戸内海の海賊の頭目たる備後因ノ島の村上氏に賦別安堵料（一種の海上保険料）を納め瀬戸内海をも航行して諸方に活躍し殊に九州へは赴きて外商と取引する者多く、遂には平戸邊に貿易業者の移住を見るに至れり。かく航行者盛んになるに從ひ町民に海外渡航者續出せり、そのうち最も著れたる者に納屋助左衛門あり。彼は文祿二年琉球・呂宋（今のフィリッピン）に渡り、壹その他珍奇なる貨物を持歸り、先づ豐臣秀吉に獻上し、其他は諸大名等に高價に購はれ巨利を博せしといふ。世に呂宋助左衛門といふは彼のことなり。斯の如くして多くの商人は諸國より珍奇なる貨物を集めて持歸りしゆゑ堺は恰も本邦の舶來品中央市場の觀を呈せりといふ。例へば金魚は支那より渡り堺を通じて弘く世の愛玩物となり、琉球の蛇皮線（蛇味線）も永祿年中堺に渡りてより內地に廣く三味線の名にて流行するに至り、また堺を通じて入りし鐵砲は戰國以後の軍備・戰法を一變するに至りし如し。恰も獨立自由市の如き觀ありし堺が、先づ對明貿易の廢絶となり、次で織田信長の威壓によりて稍自由を失ひ、次に豐臣秀吉が大阪に築城するに及びて、堺城の濠を埋めさせしのみか、富豪巨商を大阪に移したれば、堺は經濟的にさびれ行く因を茲に作れり。之に加ふるに慶長元年閏七月の大地震は致命的なるものなりき。此間にありて僅に特筆すべきは當地に於て茶道の勃興したることとす。卽ち北向道陳と武野紹鷗とは能阿彌の書院式と珠光の下樣の茶湯とを渾然融合せしめたる觀あり、更に當時名僧大林が此地にありて謂徒を揮ひつつあり、前記の二人はこの名僧の感化を受けたるものの如し。大林の紹鷗畫像の賛に「料理知茶味一同禪味」とあり、茶湯の意趣が禪機にあるを味得せるものあるを遙べたるものなるべし。かくて紹鷗は珠光以後の第一人者として茶道の一時代を作りしが、之に次で彼の有名なる千利久は出現せり。信長は堺の政治的勢力を威壓したれども茶人は頗りに近づけ優遇したりき。茶道は、天文頃は紹鷗が中心たり、次で今井宗久・津田宗及中心の時代を經、天正に至りて利休の時代となり、堺の茶道は流行の絶頂に達せり。利久、初め信長に仕へて信任あり、秀吉に至りて寵遇彌々篤く勢威貴賤を風靡し、茶道の改革は期せずして行はれたり。例へば四疊半の外に一疊半の茶室を創め、名物を排して日本物、例へば古瀬和尙の一行物などを賞用して靜寂と清淨とを眞髓とし、また茶器の創意頗る多し、かの利久形卽ち之なり。秀吉は利久・宗及・宗久に各三千石の知行を與へしが、勿論利久はその第一人者として秀吉自ら彼よりその奧義を傳授せられ、又之を臺子の七人衆に傳授せり。かかる寵遇を受けたる利久が聚樂第を退放せられ、堺に幽居して天正十九年二月自殺を遂げしことに就て世は種々に傳ふ。或は秀吉が利久の女に美しき者ありて之を求めて得られざる爲と云ひ、或は利久がその位置を利用して不正行爲ありし爲と傳ふれども如何にや。大德寺の山門に利久が自像を安置せし、その僧上沙汰に秀吉の怒は發せりと傳ふるあたりやや事實に近からん歟。この事件の裏面には石田三成等の魔手動けりとも傳へ、要するに利久の餘りなる自尊と僧上とは秀吉の忌む處となりしなるべし。扨て堺の貿易は舊の如くならざりしも、之に代りて豪富なる商人は南洋方面に活躍することとなれり。其內著れたる者に西九郎兵衛（呂宋に航し、自らルイスと西洋名を稱す）、皮屋助右衛門・大黑屋助右衛門・木屋彌左衛門・豆腐屋四郎右衛門などあり。慶長十六年西班牙王の命により金銀島の探險に來航せしメキシコ人セバスチアン・ビスカイノは序なを以て此地を視察し、堺は甚だ大なる市にして商業の繁昌京に變らず、市は大なる灣に臨み商國の船は皆此港に來集す」といふ意味のことを報告せり。之によれば慶長元年の大地震後、堺も相當復興したるものの如く慶長末期の貿易品は生糸・織物・香木・染料・皮類を主とす。然るに元和二年幕府は長崎・平戸の二港の外は厳しく貿易を禁じたれば、海外貿易港としての堺は、これを以て終りを告ぐ。海外貿易は不可能となりしが、元和年間に市街を復興し爾來一百年（元祿）頃までの堺は、商工業に於て京・大阪と並稱せられたるが、寶永元年新大和川の開鑿あり、爲に堺港の埋沒甚しく、之を機として非常なる衰微を來せり。卽ち元祿の頃には商家約四千五百戸と稱せられし堺の享保の頃には二千數百戸となり、船舶は殆ど碇泊せざるに至れり。工業方面にては元祿初年紺屋町の織物屋が百三十軒、職工三百餘人を擁せしが寶曆頃には十餘戸に過ぎざりきといふ。此間にありて僅に發展せしものは元祿頃になかりし木綿織物屋が寶曆頃には百五十餘軒ありきといふ。此外の工業にては清酒の醸造ありて、京・奈良・灘地方と壓行して舊に變らず相當の產あり。鐵砲鍛冶は堺鐵砲の名高く、德川家康は我國最初の鐵張大砲を此地にて鑄造せしめたり。江戸時代も初期以後は太平にして鑄造も閑となりしが、幕末外警の騷ぎに一時活氣を呈せり。全國諸大名の御用達として櫻町・綾ノ町・中濱通邊にかけ最盛時には三十餘軒工場を連ね、芝辻・綾笠屋の兩年寄同業者を取締れりと。又煙草・庖丁を主とする鍛冶錦町より綾ノ町にかけて集團し銳利堅鍛を以て全國的に名あり、幕府は仲間以外の製造を禁止して厚く之を保護せり。此外、丹・朱等特殊工業として何れも幕府の保護あり、丁子油も亦此地の特殊工業にて燒鹽は江戸・西國に移出されて名あり。江戸時代の堺の神祠文化方面を一瞥せんに、江戸初頃南宗寺に澤菴あり、後燈にも大德出でて市民の主なる者は殆ど此禪刹に出入して歸依し居たるが、其後狂歌・俳諧等の平民文學及び和歌等流行せり。卽ち和歌は宗祇・育柏の流を汲む古今集の奧義が堺傳授として行はれ、俳諧發句は檀林風流行して貞德門下の俳諧犬子集には堺人の詠句頗る多し。堺出身の學者には三宅亡羊あり、上洛して國典經學を研め後陽成・後水尾兩天皇に進講し奉り、また堺出身の半井卜養は和歌・連歌を學び、特に狂歌を得意とし其家集廣く行はれ江戸に於て盛名を聽す。なほ堺出身者に能樂の新銳喜多七大夫、淨界の先達薩摩淨雲ありて江戸の鄕臺を販はし、演劇の村山又兵衛は京都を根據地として不朽の名をとむ。茶禪一味として前記紹鷗・利久等の外に、南宗寺の澤菴・江月・清巖・江雪・祟嚴等あり。庶民教育機關として寺子屋は元祿の頃三十餘箇所、天保の頃顚る盛んになり、二百人以上の兒童を集むるもの二箇所ありきといふ。なほ元祿年中奉行所の主催にて天神參會所內に孝經の市民講座を開催せしは特筆すべく、天保の頃小川宗右衛門の計畫により、鄕學所を開設せり。其後儒學心學の達人の來り講ずる者多し。江戸時代の政治に就て一瞥すれば堺奉行所は圖ヶ原役直後に置かれ其後貞享頃までは政所と稱べり。寛文年中石河利正來任の頃漸く制度も整頓し町民に二十八箇條の掟書を出しなどし町も安定したりしが、元祿元年一時奉行は廢せられ大阪町奉行の蔓延となり同十五年更に復活して幕末に至る。奉行は多く千石より三千石までの旗本なりしが、ここよりの轉任先は多く大阪町奉行といふ榮轉にして奉行屋敷はその結構、江戸に於ける四五萬石の大名屋敷に匹敵し居たりといふ（その屋敷址は今の堺市役所のある地よりその北へかけし處とす）。なほ牢屋は袋町、仕置場は並松町及び港村にありき。堺の自治制に就て一言すれば、もと堺は南郷・北郷とありしが、江戸前期に經費の負擔上、南本郷五十三町、北本郷六十三町、南端郷二十四町、北端郷三十九町とし、本郷は市民代表者の年頭參府費・端郷は人足費用を負擔し居たるものの如し。元祿に至り南北兩組となして入費負擔は兩組等分とし、南組七十六町、北組百二町となる。組の代表は初め大年寄と稱して南北十人と定め、寛文より總年寄と稱せらる。これは町民の有力者中より選みて奉行が任命するものにて多くは世襲とす。堺は幕府の直轄地たる關係上、年貢、代始め、夫人の興入れ其他の賀儀には町人の代表が獻上品を持參して江戸に參賀する為例とせり。後代堺の不振と共に此費用にも相當苦心したる如くなるも堺が幕府と特殊關係あるを誇として幕末迄持續せりといふ。扨て明治維新の逆成ぜられんとするに先立ち、中山侍從卿を盟主とする倒幕の急先鋒天誅組の面々は文久三年八月十五日夜半此地（今の旭橋畔）に上陸せり、其後の活躍は人のよく知るところ。然るに明治維新の達成ぜられんとして大政奉還ともなるや堺は一時無警察狀態となれり。蓋し堺と幕府とは前述の如き特殊關係にありしに由るが薩落兵士によりて漸く安定せり。續いて土佐落士代りて警備し民畝を兼知せしが、此時所謂堺事件起れり。卽ち慶應四年三月佛艦二隻入港し港岸を測量せんとす、警備中の落兵之を誤止して歸艦せしめんとせしも、互に言語不通のため發砲沙汰となり、フランス側十一名死傷す。時に佛公使の抗議あり、發砲者二十名を處刑することにて問題落着す。而して堺なる妙國寺本堂前廣場に於て我が檢使及び佛艦長立會の上陸長貫浦猪之吉以下順次割腹を遂げ第十二人目に至り、佛兵等戰慄し倉惶として助命を乞ひ、九人に命を拾ひたりき（土佐藩十一烈士の墓は宿屋町寶珠院境內にあり）。この事件後間もなく堺に大阪裁判所の管轄となり、同四年六月堺縣の創設に當りその管轄となり、明治十一年郡區町村編成に當り區制を施き二十二年東京以下三十箇所と共に逸早く市制を施行り。教育方面にては明治三十一年以來校舍の改築を市是の一とせるなる大正三年迄に先づ之を整備せり。衞生方面にては水道工事を揭ぐべく、明治廿三年に計畫始り大和川の通水を淺香山附近に引きて四十三年通水式を擧げたり。其後人口の增加により增設工事を起し大正九年完成せり。土木方面にては明治廿九年大濱公園を竣工せしめたり、現在大濱一帶の繁昌はこれ以來の事とす。（百舌鳥耳原中陵）仁德天皇の御陵。大仙町にあり、されば僧に大仙陵ともいふ。御陵は前方後圓にて周圍に三重の堀を繞らし、墳墓南北の徑四八〇米餘、三重の堀を入るること南北八四〇米に及ぶ。後圓部の高さ約三四米、直徑約二四五米、前方部幅三〇〇米、高さ約三三米、堀の內外に十數の陪塚散列し、その規模歷代山陵中第一たり。天皇卽位の六十七年十月石津原に幸し、御射ら陵地を定め給ひ同十八日より築墓の工を起さしめ給ふ。けだし壽陵の史に見えたる初めなり。八十七年正月十六日崩御せられ給ふや、この生前に營ましめし御陵に葬り奉る。日本書紀は御陵號を百舌鳥野陵と記し、古事記は御陵は毛受之耳原にありといひ、延喜諸陵式は本陵の南に履中天皇の御陵あり、北に反正天皇の御陵ありなる以て「百舌鳥耳原中陵」とし、兆域東西八町、南北八町、陵戶五烟と揭げ遠陵に列す。古來御陵の所傳を失ふことなかりしも、奉祀、修補全からず、幕末修陵に際して大に修補を加ふ。明治廿年三重目の堀埋れて水田と化せしを復濠して舊觀に復し益々偉觀を呈するに至れり。（百舌鳥耳

原南陵）履中天皇の御陵。神石にあり、周圍に濠を繞らせる前方後圓墳。天皇は六年三月十五日崩御、十月四日奉葬。日本書紀は御陵號を百舌鳥耳原陵と記し、古事記は御陵は毛受にありといひ、延喜諸陵式は百舌鳥耳原南陵とし、堺城東西五町、南北五町、陵戸五烟と傷げ遠陵に班す。中世以降奉祀・管理行はれざりしが、元祿年中諸陵探求に際して周圍に垣を施せし以來陵所につきて異說なく、幕末に至りて大いに修補を加ふ。（百舌鳥耳原北陵）反正天皇の御陵。三國ヶ丘にあり。周圍に濠を繞らせる前方後圓墳。天皇は五年正月二十二日崩御。後七年、允恭天皇の五年十一月に至りて奉葬。日本書紀は御陵號を百舌鳥耳原陵と記し、古事記は御陵は毛受野にありといひ、延喜諸陵式は百舌鳥耳原北陵と記し、堺城東西三町・南北二町・陵戸五烟とし遠陵に列す。中世以降奉祀、管理行はれざりしも、元祿年中周圍に垣を施せし以來よく保護せられ、幕末大いに修補を加ふ。（明治天皇陵行在所）仲之町にあり。指定史蹟。天皇攝內御巡幸の砌、この地の河盛仁平宅に明治十年二月十三日御一泊あらせらる。此日篠野琴雷小學校に於て兒童授業の狀況を聞はせらる。また此日倭三條太政大臣は、鹿兒島に暴徒鎭を起すの報を奏し來り、仁平宅にて御前會議開かる。天皇には其翌日以後も御巡幸は止めさせられざりしが、同月十九日には遂に暴徒の征伐布告せられ、玆に西南戰役始りぬ。（岡口神社）甲斐町に鎭座。府社。祭神、鹽土老翁神・素盞嗚命・生國玉命。式內社、俗に堺の大寺と云ふ。社記に曰く、神功皇后三韓よりの御歸途、當地に著きて忍熊王を討たんとし給ふ。此時漁夫赤目魚を獻ず、皇后これを吉兆なりと御喜びありて、卽ち此地に鹽土老翁神を祀り給ふ、これ當社の創建と云ふ。敏達天皇十一年勅して幣帛を奉り且つ社領を寄せ給ふ。天永四年に木戸村の生國玉命・原村の素盞嗚命を岡口村の當社に合祀し三村大明神と稱す。古來社領八十石を有し、住吉神社の外宮として上下の崇敬厚く、住吉社の造營（廿年ごと）の際は當社また修營ありき。多數の社寶中、大寺緣起三卷（土佐光起筆附筆者目錄）・吉光銘の短刀は國寶たり。例祭九月十二日。（方違神社）三國丘に鎭座。郷社。祭神、天神地祇・神速須佐之男命・住吉三神・息長帶比賣命等。天神地祇は神功皇后三韓より御凱旋の砌祀らるといふ。また口碑によれば、皇后三韓へ御進發の折祀り給ふといふ。神速須佐之男命は、崇神天皇八年大諸隅宿禰に勅して祀らしめ給ひ、また住吉三神・息長帶比賣命は仁德天皇六十七年に垂見男懸田なして祀らしめ給ふところといふ。歷代朝廷・武家の崇敬篤し。社地高燈、樹木鬱蒼たり。例祭五月三十一日。（菅原神社）我之町に鎭座。郷社。祭神天穗日命・野見宿禰・菅原道眞。延喜年中の創建と傳ふ。中世兵火に罹りて退轉し、明曆二年再建せらる。別當寺常樂寺は維新の際廢絕す。例祭九月十四日。（覺應寺）九間町にあり。眞宗本願寺派。後醍醐天皇正中元年覺翁の開創に係り、現本堂は文明二年の再建に成り堺市古建築の一なり。（願本寺）宿院町にあり。本門法華宗。成就山と號し、永享嘉吉の頃宗門再興の祖日隆上人當地止住の時、當地木屋某、銅屋某、日隆に歸依し、寶德三年兩人の邸宅を合して寺刹に改め日隆の法弟日淨を請じて開山とす。爾來上人の敎化庭、關・日の三州に渉り百有餘僧寺を當寺に屬せしむ。當時大本山格として規模宏壯、子院學林數多を有せしが、のち末寺は他に擬屬して舊時の盛觀を失ふ。（堺別院）櫛屋町にあり。眞宗大谷派。俗に南御坊といふ。もと眞言宗薩陀と稱せしが、慶長七年夏院主善願坊、數如上人に歸依し現宗に改めてこれを上人に獻ず。其後、年を逐ひて堂字を建立せしが明治二十年炎上、現堂宇はその後の再建に係る。（堺別院）神明町にあり。眞宗本願寺派。足利義氏第四子祐氏出家して道祐と號し、本願寺第三世覺如の門に入り、のち一寺を創建して眞宗寺と號す。文明二年、第五世道顯の代に至り、境內に一宇を營みて信證院と稱し本願寺第八世蓮如に獻ず。これ本院の濫觴にして、一に北御坊の稱あり。（詳雲寺）大町にあり。古義眞言宗。龍谷山と號し俗に松寺と稱す。寛永二年澤庵和尙の開創。寺寶の澤庵和尙像は絹本著色にして自贊あり。紺本著色釋迦二靈聞畫像は宋元間の遺作にして二幅とも國寶たり。（淨得寺）錦之町にあり。眞宗大谷派。俗行基の開創に係り、往時は天台・眞言兩宗を兼學し、七堂甍備し境內に支坊七院を有する大刹たりしも、後醍醐天皇の朝兵火に罹りてより規模著しく縮小し僅かに法燈を維持す。のち了圓住持の時本願寺第七世存如に歸依し、永享三年現宗に改めしを以て了圓を中興とす。（眞宗寺）神明寺にあり。眞宗大谷派。同派五傷寺の一。正慶元年道祐（足利義氏第四子祐氏）の開創。文明二年道顯の再興。開創以來本願寺派と關係深かりしも、寛文二年に至り故ありて現派に屬す。延享二年勅許院家の珍遇を受く。（大阿彌陀經寺）寺地町にあり。淨土宗。甘露山と號し一に白蓮社と稱す。正中元年後醍醐天皇の勅に依り鎭西派白旗流の浄圓（智演）これを開創す。浄圓文保元年元に到り、廬山に登りて在留すること五年にして歸朝し、此處に來りて白蓮社を起し、傍に寺を創りて旭蓮社と名づけ廬山の遺道流の念佛を弘む。光明・後村上兩天皇の觀信厚く建武四年二千六百貫の寺田を寄せ給ふ。當時殿堂三十八宇、塔頭三十餘舍を具備せる巨刹たりしも其後衰頹す。（大安寺）南旅籠町にあり。臨濟宗東福寺派。布金山と號し古くは一國

寺と稱す。應永元年德秀禪師の開創。方丈は魚屋助左衞門の舊宅を移建せし壯麗なるものにして、襖繪は總て狩野元信・同永德の筆として知らる。（長泉寺）新在家町にあり。淨土宗。天龍山玉光院と號し、元龜元年僧十萬の創建。所藏の絹本着色閻魔王圖一幅は南宋以來流行の圖樣を摸せる鎌倉時代の作として現に國寶たり。（南宗寺）南旅籠町にあり。臨濟宗大德寺派。龍興山と號す。初め南宗庵と稱し正覺普通國師隱棲の地。三好長慶深く國師に歸依し父元長菩提の爲め本寺を創建す。當時七堂伽藍完備し塔頭百有餘を有せしが元和・天和の兩度兵火に罹りて炎上、のち澤庵和尙再興す。現に大阪府下屈折の巨刹にして諸堂宇整備し、他に牡丹花肯柏・紹鷗・利休等の塔あり。當寺には所謂南宗寺論語の板木を藏するが、こは天文年中阿佐井野宗瑞の刻するところとす。境內には桃山時代の茶室存し、庭園は古田織部の意匠と稱せられ泉石の配置妙なり。（妙國寺）材木町にあり。日蓮宗。靈普山と號す。俗に蘇鐵寺の名を以て著る。永祿年間、三好實休及び市民油屋常言の開基にして僧日珙を開山とす。大阪役の時兵火に罹りしも、のち再建せらる。寺寶中、朱銘長義の脇差一口（附、正德三年彌生の折紙一通）、銘國光の短刀一口（附、鋼・墨・鮫鞘及白鞘）は共に國寶たり。本堂前に所謂堺事件により此處にて割腹を命ぜられし土佐の十一藩士の記念碑あり。また本堂の南側にある蘇鐵は「妙國寺ノ蘇鐵」として天然記念物に指定せらる。その叢、地上より見て約二十五本あり、こは一主幹より出で居るものと看做さる。この稍々中央にありて枯死したる莖あり、上端に擂鉢を冠せあるが、こは主幹と見做され、高さ約一・二米、根本の周圍約二・四米なり。主幹の南側に一大枯枝の基部殘りて、該部の周圍約一・八米に及び、この枯枝を繞りて多數の生存せる莖・枝あり、西北側の枝は根元の周圍約一・六、高さ約四・五米なり。蘇鐵の根元の總周圍は約一七米あり。昔織田信長本願寺を安土に移植せしも、故ありて原處に復せりといふ。

【堺（縣）】慶應四年六月堺に境縣を置き、明治四年十一月河內・和泉兩國にありし境・伯太・岸和田・吉見・丹南の五縣を廢して新に堺縣を堺に置き河泉二國を管し、更に明治九年四月奈良縣を廢して之を本縣に合せ大和國なも管せしが十四年二月大阪府に併合す。

【堺浦】和泉國（大阪府）の歌枕。今の堺市の海岸を稱せしもの。夫木・二五「ゆく春のさかひの浦のさくら鯛あがぬかたみにけふやひくらん　爲家」

【堺村】兵庫縣淡路國三原郡の北部。津名郡洲本町の西方約一〇粁、南は倭文村に、北は津名郡廣石村に、西は同島飼村に接す。大體淡路島の中部にあり淡路島地塊の西側を占む。山地は褶れ片狀花崗岩及び花崗片麻岩より成り、島側川この斜面を西に流れ播磨灘に注ぐ。川の流域及び山麓には溜池多く、之による灌漑行はれ水田廣く分布す。產物は米・麥（稞・小麥）の外に蔬菜及び花卉あり、瓦も製し、また鞠匂酒醸造工場あり。福良街道南北に通じ、鐵道は隣村倭文村の淡路鐵道長田驛に出づるを便とす。南半部は鳴門海峽の要衝地帶の一部をなす。村名は本郡と津名郡との郡界にあるより起るといふ。

【堺村】岡山縣備中國小田郡の西北隅。後月郡井原町の東北方約八粁。東は美山村、東南は川面村・小田町。西南は後月郡山野上村、西は同郡明治村、北は川上郡日限村に界す。中國山脈の小田川斷層に向ふ南斜面に位し、高さ二〇〇—三〇〇米臺の山地多く山林廣し。東部の南北にある低地と山地の斜面等に田畑拓け、米・麥の耕作行はれ、また繭・薄荷等を產し、家內工業として麥稈眞田の編製あり。西南方井原町へ道路通ず。この地古くは和名抄、小田郡拜惡郷に屬せしものの如し。もと宮成村と云ひしが、明治二十三年現名に改む。蓋し村名はこの地郡の西北端に位し、川上・後月二郡の境にあるを以て、かく名付けたるものなるべし。

サカイ　境

【境町】茨城縣下絹國猿島郡の中部。利根川の東北岸にあり、川を挾みて南は千葉縣東葛飾郡囮宿町に對し、東に猿島村、北に長田村・舟村と隣し、西は五霞村に隣りす。全町平地にて殆ど畑地なす。西北部は長井戸沼の南端に接し地卑濕にて水田をなす。農產に米・大麥・小麥等を出す。西北は古河、北は結城、東北は下妻、東南は水海道、南は囮宿を經て野田・柳堀の諸町へ縣道通じ、いづれもバスの往來ありて交通上の一中心をなし、また利根川の舟運あり。此地は和名抄、榎島郡葦津郷の內に屬せしものならん。近世關宿領に屬し城下町に準じたりといふ。地は中利根の要津に當り利根上下の舟、及び江戸川往來の船、日夜此處に繫泊するを以て古くより頗る榮え昔ては郡役所の所在地たり。

【境村】栃木縣下野國那須郡の東南隅。那珂川中流の左岸にあり。西は川を隔てて烏山町・向田村・七合村に對し、北は武茂村に隣り、南は芳賀郡須藤村・中川村、東は茨城縣那珂郡郷村・八里村と界す。八溝山脈の甕子山塊の西斜面に當り、東境中央に松倉山（三四五米）あり。村內大部分山地起伏し、その間南北に連る二條の幅狹き谷地あり、山地には森林多し。西境を南流する那珂川の左岸に沿ひ幅狹き平地ありて畑地をなし、煙草を主產す。他に日本紙の特產あり。烏山町より那珂郡に至る道路村を橫斷してバスを通じ、省線烏山線の終點烏山驛に連絡し交通不便ならず。二條天皇の御代、須

藤下野守貴満の子宗貫、那須武者所に任ぜられ、大宇下境に稲積城を築き那須一員か替せり。以後興廃無しも代々此處に居城せしものの如し。のち松下・蘆・板倉・那須・永井・大久保等の領主代る代るこの地を治む。村内に二宮尊徳居住の跡あり。〔八幡宮〕大宇宮原に鎮座。郷社。祭神、誉田別命。社傳によれば、延暦十四年、坂上田村麿、喬蔭宗高なるものに命じ、舊鳥山城筑紫山に勧請せしめし所に帰り、大同二年現地に遷すといふ。應永年間那須家の臣澤村貫重鳥山に築城するや、本社をもその守護神とす。その他那須家代々の崇敬あり。また鳥山城主大久保氏等歴代崇事し、領内の總社として社領五石を寄すといふ。例祭、陰暦八月十五日。〔千手院〕大澤にあり。新義真言宗智山派。法佛山と號し、寛政六年祐慶阿闍梨の開基にして、四箇寺の門末を有する小本寺格なりき。一時荒廃せしを安永年間行尊阿闍梨之を中興す。〔長久寺〕大木須にあり。新義真言宗智山派。光明山不動院と號す。天和二年祐長法印の開山に係り、領主大久保氏累代の新願所たり。本尊不動明王は滅慶の作といふ。

【境町】 群馬縣上野國佐波郡の東南部。伊勢崎町の東南方約七粁にあり。北は栄女村、西より南は剛志村、東は新田郡世良田村と隣す。面積僅に一・〇二平方粁に過ぎず。南陸剛志村を隔てて利根川に近く全町平地にして畑地・田地なし、米・麦の農産あるも、町は生糸の取引と銘仙機業の盛大なるを以て榮ゆ。前橋より伊勢崎を經て太田・足利に通ずる縣道に沿ひ、また埼玉縣大里郡深谷に至るバスの便あり。また社線東武鐵道伊勢崎線は東方太田町より来りて町の北邊に近き栄女村内に境町駅（明治四十三年開業）を設き交通便利なり。此地は和名抄、佐位郡雀部郷の内に属せしものの如く、舊例幣使路の一駅たり。即ち此地は江戸幕府が日光山例幣の事を請ひしよりその駅路と定まりしものなれば、その開けしは元和以後なる事は明かなるも、古く境ノ宿と呼ばれ前橋・伊勢崎より武州熊谷への往来たりしものなり。〔村上平〕此地の節と號し、のち樓山五郎と變名す。風に勤王の志厚く尊攘有志と交り同志と諸處を奔走せしが、偶々池田屋事變に逢累して捕はれ獄に斬せらる。大正四年従五位を贈らる。〔愛染院〕横町にあり。新義真言宗豊山派。瑠璃光山無量寺と號す。天正年間定室上人の開基に係り、文政年間九世秀全中興す。本尊は愛染明王。

【境（村）】 千葉縣印旛郡にありし村。明治二十五年安食町と改稱す。

【境川】 神奈川縣の中部を南流する川。武蔵と相模の國境を流るるを以てこの名あり。多摩丘陵の北部高座郡川尻村の龍居山に源を發し、相模原と多摩丘陵の境を南に流る。この川は所謂境川斷層線に當り明瞭に多摩丘陵と相模原を區別し、恩田川・鶴見川は境川斷層に依りて截頭せらる。大野村附近より本川は斷層崖下に接して流れず、二五粁餘の西を流れ、谷幅は原町田附近にて三五〇米、原町田以南は真直に南流し藤澤町を貫流し、鵠沼と片瀬町の間に出で相模灘に注ぐ。本川はまた田倉川・高座川・片瀬川とも云ふ。この境川の水と境川崖下の地下水に發する支流との爲にこの境川流域には水田の狭長なる發達を認む。これ境川水田地帯に森林多き多摩丘陵と桑畑の多き相模原との間に特色ある景觀をなす。聚落は崖下の川の谷及びその附近に密集し境川居住地帯をなす。水の少き相模原に對して境川谷の聚地には聚落が線狀に發達す。然しこの居住帯は人口の飽和に達せるを以て相模原に新田開発行はる。かくて此谷には原町田・藤澤町等の聚落發達し、原町田は境川と恩田川との狭隘又は鞍部に發達せる狭隘都邑（ギャップタウン）たり。此地は丁字形の水系をなし、この恩田川の谷のギャップは交通路の焦點として自然的に恵まれし所なり。現在は横須賀と小田原急行電氣鐵道この狭隘に通じ、道路網もここに集中し、それに支配せられて發達せる自動車網もこの地に集中し、交通上の要衝をなす。原町田が早くより市場發達し、今尚盛にしてこの地方の經済的一大中心をなすは以て首肯するに足る。

【境川】 新潟縣西頸城郡と富山縣下新川郡との境を流るるにより此名あるか。兩縣の境上にある犬ヶ岳（二五九三米）の西麓に發源し北流して下新川郡境村の大平に於て、白鳥山の北麓西頸城郡上路村及び市振村を流るる支流を入れ、兩縣の境を西北流し日本海に注ぐ。流程一一粁。この川古へより歌枕として知らる。雨季家集「舟もなくいはなみたかきさかひ川水まさりなば君もかよはじ」

【境村】 富山縣越中國下新川郡の東北端。東北は新潟縣西頸城郡市振村、東は同郡青海町に界し、西は宮崎村、南は南保村に接し、西北は日本海に面す。飛騨山脈の北端、日本海に斷絶する部分に當り、東境に犬ヶ岳（二五九三米）・白鳥山（一二八七米）南北に連り、犬ヶ岳の支脈西界上に延びて黒菱山（一〇四三米）・鳥帽子山等となり海に迫る。村の東南部に發源せる境川、この山地間の谷を北流して海に入る。村内殆ど山林にして耕地は海沿ひの幅狭き平坦部と境川の谷に開くるのみ、農産に米・林産に米材・炭等あり。海沿に北陸道及び省線北陸本線通じ、後者の市振駅（市振村内）に近きも交通便利ならず。この地は和名抄新川郡大部郷の内にして、近世は新川郡三位郷に属せり、三州地理志稿に「境關、在三位郷堺駅、群山南峙・瓦海北通云云」とあり、また「境駅、在三位郷、去泊駅一里二十三町四十三間街巷十一町」とあるも本村の大字境の地なり。村名は越中國と信濃國との國境にあるを以て境村と名づけしものなるべし。

【境村】 長野縣信濃國諏訪郡の東南隅。西北は本郷村に、南は落合村に接し、東は山梨縣北巨摩郡小淵澤村と界す。本村は八ヶ嶽山塊の西南斜面に當り北境に編笠山（二五二四米）聳ゆ。中南部は高度一〇〇〇米内外の高原狀をなして緩やかに南に傾き、偖に三里原と呼ばる。南部には若き侵蝕谷ありて水田・畑發達し、その間桑畑點在す。聚落も從つて山麓の一〇〇〇米以下の地にあり。省線中央線南部を貫通し信濃境駅（昭和三年設置）を置き、街道また先達・高森・小六の聚落を縫うて走る。本村は町村制施行に際し小六・高森・池之袋・田端・先達・葛窪の舊六箇村を合し、甲州・信州の境にあるを以て境村と名づく。天文十一年、大門峠合戦の時、本村の大字葛窪（葛久保）に武田信玄滞在せしことあり。

【境峠】 長野縣西筑摩郡木祖村と奈川村との境界に跨る。最高點一四八六米。峠路は木曽川上流と梓川（犀川の上支）の一支奈川との分水嶺を横斷す。北西降すれば奈川畔寄合渡に、南東降すれば木曽川畔木祖村字藪原に至る。附近は名にし負ふ木曽川上流の森林地帯にして、最高點の北方に裏鉢伏御料林、東方に鉢伏御料林、南方に枯尾御料林、西方に奈川御料林をなす。

【境川】 静岡縣濱名郡と愛知縣渥美郡との堺をなす小流。遠江と三河との境を流るる故に境川といふ。藤栗毛・三下「かく打わらひてゆく程に、境川といふにいたる」、ここは遠江三河のさかひにて橋あり、彌次郎地日にてよめる、遠州へつぎ合せたる橋なれば、にかはの國といふべかりける」

【境川】 愛知縣の中部を流るる川。尾張・三河の境界を流る。即ち碧海郡（三河）と知多・愛知二郡（尾張）を隔る。この川は木曽山地の南方へ延びたる花崗岩山地の黒笹山（西加茂郡三好村）に源を發し、その下に續く第三紀層臺地を切り、西南の方向を取り更に洪積層臺地を切りて沖積地を作り三河平野を流れ、支流としてはこの洪積層臺地に發する男川と女川の合流せる逢妻川を大府町附近にて合す。この川は此處より南流し、刈谷町と知多郡東浦村との間に於て衣ヶ浦河に流入す。大體三好村南部より天井川をなし、從つて灌漑用としてはさして用をなさず、境川の兩側の臺地端に溜池が設け之により灌漑を行ふ。曲り池・大池・洲原池・岩ヶ池・勅使池・琵琶ヶ池はその大なるものなり。流路は交通の利用度も少く、北部にては堤母街道、中部富士松村にては境橋を以て東海道之を越し、鐵道は名古屋電鐵豊川線が東海道と並行し、東海道本線は刈谷より大府へと走る。聚落は川の附近にはあまり發達せず、臺地下に多きは水害を恐れたる爲なるべし。また此の川古来歌枕として知らる。覧不二記「けふはまた千代よろづ代のさかひ川ふたつの國のわたりのみかは　亮孝」

【境村】 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年外山村・小牧町・眞々村・和多里村と共に廃せられ新に小牧町を置く。

【境村】 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村ほか東境村・一ツ木村・逢見村を廃しその區域を以て富士松村を置く。

【境入江】 近江國琵琶湖の一支湖。もと坂田・犬上二郡の境にあるよりかくいふ。捷妻の入江といふも之に同じ。夫木・二三「ささなみや境の入江かげ見えて嵐入、通ふほまの細道　爲家」※朝妻

【境村】 三重縣伊勢國一志郡の西部。布引山脈の東斜面に位し、東北は家城村、東は竹原村に隣り、南は八知村に接し、西は伊賀國名賀郡矢持村に界す。西境に磐ヶ嶽（七七八米）あり其山支南境を東へ延び全體に東方及び東北方へ傾斜して、東隣村の家城村・竹原村を東北流する雲出川の谷へ下る。全村山林多きも、谷間と田畑拓け米・繭を主産物とし林産これに次ぐ。人口稀薄にて一方粁の密度は僅に三三人に過ぎず。交通路は村道が東方雲出川の谷より布引山脈を越えて西方伊賀國へ通ずるもの數條あれど概して便なら ず。この地方には和名抄、壹志郡岩野郷に属せるものの如し。大宇城立に藤原千方の城址と傳ふるものあり。明治二十二年町村制實施に際し八ツ山村と組合役場を持ち大正七年分離獨立す。

【境（郡）】 ↓堺（郡）

【境浦】 紀伊國（和歌山縣）にありし和歌の名所。その地は今の海草郡木本村邊に當る。此地はもと海なりしといふ。夫木・浦「紀の海のさかひの浦の沖つ藻を春のひくらしかづく海部人　權律師頼尊」

【境町】 鳥取縣伯耆國西伯郡の西北端。夜見濱半島の尖端部を占め、北は中江瀬戸を隔てて出雲國の島根半島の南側なる森山村に對す。南は上道村に、西は外江村に接し、東は美保灣に臨む。面積一・五六方粁。町は日野川の沖積デルタが沿岸潮流のため一大砂嘴を形成せる尖端にあり、土地低平にして畑地多く田地之に次ぐ。生業は農業行はれ米・繭を産し、また水産少からず、製絲工場ありて生絲の産多し。町は中ノ海の出口を抱する地形上の好位置より、鯛り米子市の門戸たるに止まらず、雲伯陰岐の門戸として山陰に於ける主要開港場たり。近年東北風による夜見濱の流砂を防ぐ築港工事完成し、水深七米、三千噸級の汽船を横着けにすること可能きなり、鮮滿に近きため將來の發展を期待せらる。大豆・豆粕・木材・石油等を移輸入し、鮮魚を京阪地方に移出す。半島頸部の米子市とは省線境

線を通じ、その終端なる境港駅（明治三十五年設置）置かれ、また松江・美保關及び隠岐の諸港への定期汽船の發着港たり。境港は藩政の頃より保護を加へられしこと鮮からず、明治三年本町の岡本屋又兵衛なる者藩廳の許可を得獨力を以てその一部の築港を企てしも、其後風波の爲に突堤を破壊せられ、積年の苦心一朝にして水泡に歸せり、其地今に岡本屋ヶ瀬と稱す。爾來鳥取縣に於て屢々修築を試み、大正十一年より大いに築港工事を起し、今日の完備せる港灣施設を見るに至り明治廿二年開港場に指定さる。古くは此地坂江に作り、海濱を錦浦・大振袖浦と呼べり。「面照るや朝日の影の輝きて錦あやなす振袖の神」は承久三年七月、後鳥羽天皇が隠岐島へ御流海の途次この坂江に風雨を避めて詠まれし御製なり。今この海濱は夏季海水浴場として賑ふ。

〔大港神社〕　大字境町に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣尊・大帶姫尊・比咩大神・龜井能登守安綱等十一柱。創立年代詳かならず、古來境町・上道村・中濱村等六箇町村の産土神にて、もと八幡宮と稱し、明治元年大港神社と改む。鳥取藩主池田氏歴代崇敬篤し。〔餘子神社〕大字宮ノ西に鎮座。郷社。祭神、稲田姫・脚摩乳命・手摩乳命・創立年次不詳。明應九年十一月再建の棟札を藏す。例祭十月十二日。

【境驛】　省線山陰線の一。鳥取縣西伯郡の夜見ヶ濱に通ず。山陰本線米子駅（米子市）より分れて境町の境港駅に至る。全長一七・九粁。明治三十五年開通。

サカイ　坂井　さか

【坂井】　新潟縣南蒲原郡にありし村。大正十四年、今町に合併され村名を失ふ。

【坂井】　越後國（新潟縣）の古地名。和名抄に磐船郡坂井郷あり、その地今詳かならざるも岩船郡保内村に大字坂町あり、或は此邊か。一に北蒲原郡黒川村に大字坂井あり、岩船郡に接す、よつて或は此の邊なりともいふ。

【坂井】　石川縣河北郡にありし村。明治四十年他の三箇村と合し小坂村となる。小坂村は昭和十一年金澤市に編入さる。

【坂井郡】　福井縣十一郡の一。越前國の北部に位し、東は大野郡、南は吉田・丹生の二郡、北は加賀國に接し、西は日本海に臨む。郡内のほぼ中央は越前平野の一部にして田畑よく開け、北より東方にかけて東部山脈重巒遠亙し、丈競・火燈・鉢岳・高洞の諸高峯聳立し、南方にかけては西部山脈ありて赫崎・二子・朝倉・鷹巣・石切の諸山あり。海岸に小丘陵連り冬季の防風・防雪の用をなす。嶺北七郡の水は殆ど本郡に流れ來り、水利の便極めて多し。即ち九頭龍川は大野郡に發して本郡と吉田郡との境を流れ、肥沃なる越前平原を作り、大安寺村に於て日野川を合せ急に西北に向ひて進み日本海に入る。竹田川は一名を金津川といひ、竹田村より發して郡の北部を東西に流れ三國町に至り、竹田・九頭龍二川の中央を流るる兵庫川と合し九頭龍川に入る。地質は悉く第三期以後の生成にて、雄島・加戸・細呂木・坪江・鹿岳・竹田・鵜・大安寺・本郷の各村は第三紀層に屬し、其の他は悉く第四紀層に屬す。ただ坪江村南谷より東の一部は第四紀の古層に屬す。氣候は山岳地帶と海岸地帶とにて大差あり。即ち竹田・本郷の地は夏季中にも殆ど飲帳の必要なく八十度以上に昇らず、冬季となれば雨量多し。本郡は積雪丈餘に及ぶこと多きも、海岸地帶には二尺の積雪さへ稀なり。人口の稠密は本縣第三位にして一平方粁につき二百四十人以上。其の大半は農夫にして他は鉱業者・工業・商業・漁業者の順なり。農産物には米・麥・茶・大豆・菜種・葉煙草・甘藷等あり。工業は織物王國の要地にして人絹・羽二重特に多く、商業にては穀物・菓子・砂糖・材木等を第一とす。漁産物としては雲丹・若布・鰒の特産を別として鯛・鮪・鰹・鰤・鮃・鮭等多し。國道北陸道は吉田郡より入りて丸岡町に至りやや省線に沿うて北に走り加賀國に至る。三國道・丸岡道の縣道なる初め四通八達しバスの往來頗繁なり。鐵道は省線北陸線、郡の中央を稍南北に走り、丸岡・春江・金津・細呂木・牛谷の各駅を設き、三國線は金津駅より分れて途中芦原駅を設き、福井よりガソリンカーを運轉す。其他電車にて丸岡・西長田間の丸岡鐵道、金津・丸岡・永平寺間の永平寺電鐵、福井・芦原・三國間の三國電鐵あり。本郡は古の三國に當り、今日の足羽・大野二郡の地も亦三國國造の管下なりき。されば書紀繼體紀に三國坂中井等と見ゆ。而して建郡の期は詳かならざるも大化改新の際三國は郡となり、名稱も坂井郡と改めたるものならん。續紀寶龜九年紀に越前坂井郡三國湊の記事あり。和名抄に佐加乃爲と註し、栗田・荒泊・高向・磯部・長畝・高屋・坪江・福留・海部・川口・堀江の十一郷及び餘戸一を設く。中世私に坂北・坂南の二郡に分ちしが寛文年中舊に復す。又その稱呼もサカイ・サカノイ兩樣に調ぜしも今サカイに從ふ。初め越前六郡の時は吉田郡は本郡に屬せしものの如く、朝倉氏の初め頃越前十二郡の時本郡は坂南郡（一百六箇村、六浦・坂北郡（三町、一港、二百三箇村、九浦）の二郡に分れ、福井領十三萬九千七百六十四石强、丸岡領四萬五千〇四十七石强、寺社領百五十石五斗（寛永年間）なり。松平光通の時寛文四年また一郡となる。本郡は繼體天皇と關係深く豐原寺は泰澄大師の開闢にて、源平時代には源義仲奮戰の地、斎藤實盛戰死の跡として名高く、源義經北國落の時には本郡を過ぎ、南北朝時代には畑時能孤忠を全うし、足利高經の老臣朝倉は坂南郡黒丸城に據り、戰國の世には吉崎を中心に眞宗王國をなし、徳川時代には福井・丸岡の藩に屬して明治に至れり。

【坂井村】　長野縣信濃國東筑摩郡の東北隅。東北に更級郡上山田・更級兩村に、西北より西へは麻績村・本城村、南及東南は小縣郡青木・浦里・室賀の諸村に界す。筑摩山脈の一部を占め、東境に冠着山（一二五二米）・大林山（一三三三米）・西境に四阿屋山（一三八七米）等峰つ。犀川の支流麻績川中央の谷より出で西北部より麻績村に出づ。山林・原野廣きも谷地の邊には田畑拓け、米・麥・蕎を産す。松本街道と北國西街道を結ぶ道路はこの谷に沿ひ、省線篠ノ井線西北部を通り、冠着隧道を潜りて北境更級村に出で、その麻績驛に近し。他に四十八曲峠を越えて上山田村に至る一條の山道あるも交通便利ならず。この地は和名抄、更級郡麻績郷の内にして、町村制實施の際に安坂・永井の舊二箇村を合併し、安坂の坂と、永井の井を取りて坂井村と名づく。桓武天皇延暦十六年紀に「信濃國人、前部綱麻呂賜姓安坂」とあるは高麗氏の族前部の此處に土着せる裔孫に在名の姓號を賜ひしものなり。此の子孫安坂筑後は此の地の安坂城に居りしも天正年中亡ぶ。

【坂井】　愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年、大谷村・小鈴谷村・上野間村と共に廢せられその區域を以て小鈴谷村を設く。

サカイ　酒井　さか

【酒井】　陸奥國（磐城・福島縣）の古地名。和名抄に菊多郡酒井郷あり、蓋しその地今の石城郡勿來町の邊に當り、大字酒井は郷の遺稱なるべし。一に錦村・川部村も本郷の内なりといふ。桓武平氏、岩城・菊田氏、此の地に酒井氏を稱す。

【酒井】　安房國（千葉縣）の古地名。和名抄に長狭郡酒井郷あり、佐加爲と訓す。その地今詳かならざるも安房郡吉尾村の大字北風原に酔酒井なる地あり、蓋し此の地に當るか。

【酒井】　↓餘喜村（石川縣鹿島郡）

【酒井】　越前國（福井縣）の古地名。和名抄に今立郡酒井郷あり、佐加爲と訓す。その地今詳かならず、越前名勝志には今立郡の南中山村の大字東莊境・西莊境の邊なりとす、また後人としばば此の説により、下池田村・河和田村の邊も此の郷域とせり。

【酒井野】　播磨風土記揖保郡の條に見ゆる地名。今の兵庫縣揖保郡南部に當り、上古の石海里里内とす。風土記「酒井野、右所以稱酒井者、品太（應神）天皇之世、造宮於大宅里、闢井於此野、造立酒殿。故號酒井野。」

【酒井】　肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に託麻郡酒井郷あり、その地いま詳かならざるも他託郡日吉村・田迎村邊に當るか。

【酒井】　豐前國（大分縣）の古地名。和名抄に宇佐郡酒井郷あり、今その地詳かならざるも、宇佐郡宇佐町・北馬城村の邊に當るか。一に西國東郡高田町に大字界町あり、宇佐郡に接すれば此地をその郷域となせり。

サカイガワ　境川村　さかい

山梨縣甲斐國東八代郡の西部。甲府市の東南方約一〇粁。東北は米倉村・岡村に、西北は増田・富士見・白井河原の三村及び上曽根町に、西は右左口村に、南は釜宿・中芦川の兩村に隣す。村の東南境は御坂山脈の一支脈にして春日山（一一〇三米）・龍戸山（一二二一米）等あり、西北に向ひて次第に傾斜し、北部は笛吹川の開析臺地となる。山林最も廣く畑地・田地これに次ぎ農業・養蠶業を主とし、米・麥・蕎等の産あり。交通は村を西北東南に貫く村道ありて北は上曽根村・增田村、南は釜宿村に通ずるも嚴して不便なり。この地は和名抄、八代郡白井郷の地にして、近世は小石和筋に屬し、明治三十六年四月、藤垈・圭林・五成・寺尾の舊四箇村を合し、村の中央を流るる境川に因み境川村と名づく。武田信光の季子に石橋八郎なるものあり、これその母（淺利氏の女）が本村の大字石橋を居邑とせるより石橋を姓とせるものか。（向昌院）大字藤垈にあり。曹洞宗。萬龜山と號し、享祿二年俊屋桂斉禪師の創建に係る。寶暦年間災厄に遭ひ諸堂宇悉く頽す。明治十七年市川全學師入山してより漸次復舊す。堂後に新羅三郎義光の建立に係る芹澤不動あり。（撃應寺）大字大黒坂にあり。臨濟宗向嶽寺派。長岡山と號し、文授五年の草創にて開基を秀公和尚とし、開山を道雲とす。舊寺領四十九石餘。境内の風致勝る。（智光寺）大字藤垈にあり。曹洞宗。松尾山と號し、天喜年間の草創に係る。境内に虚空蔵堂あり。本尊は行基の作なりと傳へ、靈驗著しく遠近の崇者絶えず。

サカイスジ　堺筋　さかい

大阪市鶴渡橋畔の北濱二丁目より起り船場を南北に通じ長堀橋に至る大通の稱。またその延長なる長堀橋筋、日本橋筋を經て天王寺區惠比須町交叉點に至る間をも俗に堺筋と呼ぶ。兩側には銀行・會社・百貨店・問屋等櫛比し、大阪市の目貫の大通。色里三所世帶・大坂卷「是に中の島の二度咲きの花樣、それは横堀の寺さがし樣、又は天滿の月夜鳥樣、……さては堺筋の出尻樣、其外異名の覺え二百三十四人あり」曽根崎心中「此の頃袷をせうと思ひ、堺筋で加賀一疋、且那の名代でかひがある」

サカイダ　堺田　さかい

山形縣最上郡東小國村の大字。陸羽東線の堺田驛（大正六年設置）あり。

サカイチョー　堺町　さかい

江戸の町名。今の東京市日本橋區小田原町を西東に下り、材木町と交叉せる邊の東側に當り、江戸の歌舞伎芝居の濫觴ともいはるる猿若座、即ち中村座が最も長く櫓を上げて興行せし地なり。猿若座が始めて幕府の免許を得て芝居を興行せしは、當時

繁華の中心地、日本橋中橋と傳へらる。ここより官命によりて東北方に下り、乗物町の東、鍋宮町に移り、慶安四年更に堺町に移轉せるものにして、此時、上堺町に村山又三郎座(市村座)、下堺町に猿若勘三郎座(中村座)と分たる。この町後に改められ、上堺町は葺屋町、下堺町は單に堺町となる。この堺町には小芝居の狂言作者五郎芝居等もあり。かくて猿若座が開祖の歌舞伎芝居なるところより、堺町なる名稱は江戸歌舞伎の意に代用せらるる場合も生ぜしなり。色里三所世帯・江戸巻「下谷の天神、目黒不動、又は芝の神明、堺町の新道」丹波與作待夜の小室節「花のお江戸は京まさり、浅草上野の花盛り、又堺町木挽町の、てんつく〳〵でこのほう、揃慶や公平が、えいやつとととえいなどと、切り合ふを見ぜまぜう」

サカイデ　坂出町　香川縣讃岐國綾歌郡の北部。瀬戸内海に臨み、北は備讃海峡を隔て遙に岡山縣児島郡と相對し、西は聖通寺山を以て宇多津町に隣り、東は綾川を以て林田村に接し、南方飯野村に續く。西及び東には丘陵相連り、金山(二八一米)・常山並に城山聳立し、西には聖通寺山・角山(一八七米)あり、南は一帯に平坦にして讃岐富士の稱ある飯野山中央に孤立す。面積五・六九方粁、地域狭小なれど、一帯の沖積平地をなし、地味肥沃農耕に適す。生業は商業(一四七四戸)最も多く、農業(一一四〇戸)・工業(九四二戸)・鹽業(五五三戸)等に從事する者多く、産物は米(九千餘萬圓)・麥(五千餘萬圓)・果實(約二萬圓)・工藝農作物を出す他、鹽田正に二百餘町歩、全國第一の製鹽地をなし食鹽の産額一百五十萬圓に達し、實に本邦第一の産額を示す。工業も著しき發達を遂げ、勧繭・製粉等の大工場も設立せられ、綿絲(三百八十萬圓)・小麥粉(二百六十萬圓)を筆頭に、結麥(三百九十萬圓)・工業用藥品(七十二萬圓)・農具(六十餘萬圓)・飼料(七十七萬圓)・醤油(十九萬圓)・酒(十六萬圓)・麺類(二十五萬圓)等を出し、農産總額五十二萬圓、水産總額一百五十萬圓なるに對し、工産總額は一千三百萬圓に達す。北海道・朝鮮・琉球・臺灣・大連方面との商取引多く、移出入額は移出二千八百萬圓、移入三千餘萬圓にて漸次増加しつつあり、食鹽三百六十萬圓、麥五百五十萬圓、小麥粉二百十萬圓、綿絲七百萬圓、砂糖三百九十萬圓、米一百五十萬圓を初め、朝鮮米六十萬圓、機械類六十萬圓、藥品飼料四十萬圓等を移出し、砂糖五百餘萬圓、棉花四百餘萬圓、食鹽三百餘萬圓、朝鮮米九十萬圓、藥品飼料五十餘萬圓、織物四十餘萬圓、金物約八十萬圓、木材八十萬圓、石炭三十五萬圓、小麥粉三十五萬圓、煙草約三十萬圓を移入す。本町には省線讃線東西に通り、坂出驛(明治三十年設置)を置き、琴平直通の急行電鐵、丸亀經由琴平に通ずる參宮電鐵は本町を起點とし、又國道廿二號線は東西に、坂出・貞光線は南北に通じ、縣道玉藻・坂出線も本町より出發す。此等の道路により定期自動車は南方栗熊、西南方美合村に、東北方木澤間を往來す。港よりは神戸・大阪への定期船を初め、住友汽船の觀音寺・豊濱・川之江・三島・新居濱・今治行等あり、また下津井間・本鳥間・木澤間・高松間にも汽船の往來あり、尚大阪商船、北日本・近海郵船、尼崎汽船の貨物船毎月二—三回來航あり、交通至極便利にして出入船舶噸數の如き増加し、殊に大型船の出入著しく、四國唯一の開港場指定を目前に躍進を續けつつあり。此地古くは海水浴く帰入せし形跡を有し、景行天皇の皇子日本武尊南海の惡魚を平げ給ひし時、ここに御殿あらせられしと傳へ、當時既に四國・中國との樞要連絡港として本鳥・下津井の二港と烽火を以て通信し軍事上に重きなしたりと云ふ。此地方の早く開けし事は附近の丘陵に石器時代遺跡を見(角山東斜面、川津山等)、また古墳の多く存在せるによりて知らる(茶臼山前方後圓墳・水道山古墳・笠山東側古墳等)。慶長・元和頃赤穂人來住して鹽田を開き、文政十二年八月久米榮左衛門坂出大築田の功を完成し、同時に製田開發のため、大型和船式港灣を築造せり。明治五年の區制にて御供所・江尻・西庄・綾江の四箇村と共に四十五區となり、同十一年阿野・鵜足郡役所を坂出村に設置せられ、廿一年御供所村を坂出村に合併、廿三年町村制實施と共に坂出町と改稱、昭和十一年六月一日金山村を、同年九月一日、西庄村をも合併す。町名は宇多津町より本町に入る所に峠(いまは田尾坂といふ)あり、宇多津より坂を越えて達する地といふ意より坂出と名付くと傳ふ。近時港外に更に大規模の築港を完成し大型汽船の出入に備ふ。商工業日に隆盛、戸數五六八〇、人口二七、二二七(昭和十二年)、昭和十年の國勢調査に於ける戸數四、五二二、人口二一、一六八に比し著しき發展を示せり。町内には町役場・坂出專賣局・縣立女子師範學校・坂出商業學校・坂出高等女學校・鎌田共濟會圖書館・同郷土博物館・武道教育館・社會教育館等の教育機關より銀行その他金融經濟機關と備れり。本町には史蹟として見るべきもの少からず、今その二、三を擧ぐれば、大字西庄に縣社白峯宮あり、崇德上皇御陵墓の鎮座地。彌蘇場の泉は白峰宮の西にあり、野澤井と稱し、名水にして、日本武尊惡魚退治に關する傳説地なり。尚附近には崇德上皇御駐蹕の舊跡鼓岡を始め、白峯御陵・聖通寺山・飯野山、海水浴場にして鯛網の觀賞地瀬居島等あり。

サカイネ　酒井根　香川縣(綾歌郡)

サカイノ　境野　【境野】朝霞本線の一驛(大正十一年設置)。北海道北見國常呂郡置戸村にあり。

【境野】群馬縣山田郡にありし村。昭和八年桐生市に編入す。

【境野村】佐賀縣肥前國神崎郡の西南部。西は佐賀市との間に、佐賀郡互勢村を隔て、東北方神崎町との間には城田村を挾み、北に西郷村に隣り、南は蓮池町と界し、西北は佐賀郡長扇村に接す。面積四九五方粁の小村。筑紫平野の一部を占め土地豫めて平坦にして全村殆んど田地拓け米の産多く、また麥・菜種・繭を産す。東北方神崎町方面より西方佐賀市方面へ通ずる縣道村の西北部を僅かにかすめ、それより分れ南國蓮池町を經て筑後川畔の東川副村諸宿に通ずる縣道は南北に走り、いづれもバスを通じ交通便利なり。此地古くは和名抄、神崎郡蒲田郷の内に屬す。大字境原はもと堺原と稱し長崎街道の一宿驛とす。明治七年佐賀の亂の際はその戰場となる。(若宮神社)大字境原に鎮座。郷社。祭神、忍穂耳尊・仁德天皇・大己貴命外數神。創立年代詳ならざるも、太宰管内志に永祿年中の創建といふ。例祭、十月十七日。

サカイバラ　坂井原村　廣島縣備後國御調郡の西部。三原市の北界より北方約六粁。北は久井村、西北は羽和泉村、東は今津野・八幡の二村、西南は豊田郡高坂村と界す。面積一二・八三方粁。東南隅に近き大峯山(六一〇米)の山脱北方に延び約二〇〇米の山地なるもその山脱間には狭き低地ありて南北に續き、西北部に於ては一〇〇米以下の低地となる。山林廣きも低地には耕地拓けて米・麥・繭等の農産あり、特産物には本鶴を出す。三原市より北方世羅郡甲山町に至る縣道は村の東部の低地を南北に通じ、バスの往來あり。明治六年御調郡を十區に分けし際、本村は第六區に屬し、同廿二年村制施行。地は藝備の境上にあるを以て境原の字を用ひしこともあり。

サカイベ　坂合部村　奈良縣大和國宇智郡の南端。奈良市の南方約四二粁。北は牧野村・五條町・野原町、東は南宇智村・吉野郡賀名生村、南は和歌山縣伊都郡富貴村、西は同郡懸野村・隅田村にそれぞれ接す。本村は地形的には北部の吉野川河谷と南部の伯母子山地とに分る。南部山地は結晶片岩層より成り、南境に坊城峯(七六八米)あり。吉野川は北部を西流し、また紀伊半島を横斷する一大斷層線に沿ふ緩谷にて下流に紀ノ川となる。この谷には洪積層の沈積が見られ金剛山麓の下には數段の段丘を作る。北部には伊勢街道吉野川右岸を走り、省線和歌山線もこれに沿うて通ず。吉野川の沿岸、山麓には僅に水田耕作行はる。此地古くは和名抄、宇智郡那珂郷の地なるべし。坂合部とは近世の命名にかかるものにて紀伊國伊都郡との交界なるを以て起るとも。大字大淀に狭嶺山あり、これは醍紀の一度(雲三年、大樓國狭嶺山麓)とあるに當るか。

サカイマチ　境町・堺町　【境町村】秋田縣河後國平鹿郡の北部。北は仙北郡金澤西根村に接し、東は横手町、南は旭村に、西北は黒川村に各隣接す。地は横手盆地の中部を占め雄物川の一支旭川及びその支流大戸川、村内をそれぞれ北西に流れ、灌漑の利多くして土地肥え、農業盛んにして全戸數三七〇戸の内農業戸數三二〇戸を數ふ。耕地は七二五ヘクタールにて其内、田地約六〇八ヘクタールの多きを占む。産物は米(一四三〇〇石)を第一とし蔬菜(大根・茄子・里芋・馬鈴薯・牛蒡)・藺工品等これに次ぎ、また養蠶業も行はる。縣道は東北部を走りて横手町に達し、バスの便あり。此地維新前の沿革は不詳なるも、明治十七年四月より上境・下境・いま大字)は黒川村に、上八町・下八町(いま大字)は旭村に屬せしが、明治二十二年町村制實施に際し上記四大字を合して本村を置く。村名は大字上境・下境・上八町・下八町の各一字をとりて境町と名づく。

【境町・堺町】江戸時代新吉原の一區劃。江戸町二丁目と角町との中間にあり、その東方の河岸を堺町河岸と稱し下級局店のありし所。此町名は明和大火後廣ぜられ遊里も文化十年廣ぜられ、河岸の名は羅生門河岸に併合せられる。史林殘花「伏見町、境町河岸、本町河岸、皆遊郭之地也」

サカイミナト　境港　省線境線の一驛(明治三十五年設置)。鳥取縣西伯郡境町にあり。

サカイワ　坂井輪村　新潟縣越後國西蒲原郡の北端。新潟市の西南に接し、北の一部は日本海に臨み、海岸に沿ひて砂丘發達す。西北は内野町、西南は中野小屋村、南より東は黒崎村に隣る。信濃川及び新川を結ぶ疏水村の北部を東西に通じ土地低平卑濕、水田よく發達し全有粗地の約六三%を占め、畑地亦少からず。農産には米を主とし年額四萬〇圓を突破す。繭の産あり、また花卉の栽培も行はる。北陸道西川に沿ひて村の中部を西南より東北に通じバスの便あり、また省線越後線砂丘の内側を走りて寺尾驛(大正三年設置)を置き、社線新潟電鐵(新潟市東關屋・燕町間、通じて平島驛、昭和八年開業)を設け交通便利なり。大字平島の地は、明治戊辰の役、松ヶ崎上陸の官軍沼垂(いま新潟市の内)を略取し新潟を襲ふ。他の一隊は此地に渡航し新潟脱走の東軍を急撃したり。明治十一年、明治天皇北陸東海御巡幸の砌九月十六日、大字小針の地にて御小休遊ばさる。(清立鏡泉)清立八幡の境内より湧出し、アルカリ性鹽類泉にして加熱浴用す。文久元年傷痍の浴するを見て發見すと傳ふ。往時は北國街道筋にあたり、人馬の往來

繁かりし當時は彌彦宿唯一の遊治場として頗る賑へり。〔瑞林寺〕大字小針にあり。舊宗佛光寺派。慶長二年上杉家これを建立し智了和尚を開山とす。明治三十二年焚上し、今の堂宇は其後の建築に成る。本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作なりといふ。

サカウ　榮生　愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年一色町・味澤村・五條村・衣崎村と共に廢し、その地域を以て新たに一色町を設く。

サカウエ　坂上　〔坂上村〕茨城縣常陸國多賀郡の南端。東は太平洋に臨み、北は國分村、西は久慈郡世矢村・坂本村、南は同郡久慈町に隣る。西境は阿武隈山地の南端部多賀山脈の末端にして、濱弓山（二四二米）の山地あり。その東は段丘をなして海岸に下る。海に面すれども遠淺のため漁船入らず、生業は農七、漁三の割合にて畑地多く、農產に小麥・米・大麥等あり。海岸は海水浴場に好適し、牛農の旅館十六軒あり。村の中央を陸前濱街道南北に通じ、また久慈町・河原子町間の縣道は海岸に沿ひ例れもバスを通ず。省線常磐線は陸前濱街道に近く沿ひて北走し、村の南端に大甕駅（明治三十年設置）を置き、社線常北電鐵ここに起り久慈町・坂本村を經て西北太田町に通じ交通便利なり。此地は和名抄、久慈郡高月郷の内に屬す。原書高月は其月の誤にして風土記に見ゆる密筑里の地ならん。大字水木は蓋し密筑里の遺稱とす。この水木に泉ヶ森あり。その丘陵の北端にあたり泉神社あり。延喜式に久慈郡天速玉姫命神社と稱せらるるものなり。丘の北麓に周圍四〇米の池あり。その底の白沙の間より清水湧き出でて砂を小圓錐地に積み上げしところ四十餘箇所に及び酒勢の消長につれてその圓堆も變化す。ここに近く德川顯倫の筆に成る藤田東湖の泉森納涼詩の碑あり。〔泉神社〕大字水木に鎮座。郷社。祭神、天速玉姫命。往昔、當地の清泉より玉出づ、これを祀りて創建すと傳ふ。社號また此に倣るものか。延喜の制小社に列す。享祿三年・永祿三年の兩度に佐竹氏社殿を修覆す。德川光圀また神器を奉納す。例祭、五月八日。

【坂上村】　群馬縣上野國香美郡の南部。椿名山の西北麓にあり。東北は岩島村、西北より西は長野原町、東は原町、南は群馬郡倉田村及び碓氷郡島觀村と隣る。面積一〇六・三一平方粁。村の東部は椿名山の西北斜面に當り、東境に外輪山の掃部ヶ嶽（一四四八米）・屠殺嶽（一三四〇米）ありて西方に急斜し、また南境には淺間隱山（一七五七米）、北境には察峯（一四七三米）の山嶽いづれも東方に延びて中部に傾き、兩山地の裾合を吾妻川の支流たる温川東流し、椿名山の西麓にて北に方向を轉じ岩島村に出づ。山地には森林多きも、西南部の山地には草地多く、笹場山の斜面を甘酒原といふ。温川の谷には幅狹き低地ありて米・麥を產し、道路は南隣群馬郡倉田村より來り温川に沿ひて村を横斷し、聚落亦この道筋に發達す。往古の事は詳かならざるも大字大戸に草津往來に當り、永祿の頃、大戸三河守の據りし古城址あり。大戸氏は小田原北條氏に屬す。天正十年九月眞田信幸、兵を率ゐて來るや、城兵戰はずして退却す。尋で同成定、一萬石を食みて此地に在りしが元和元年七月、大阪の役に於て城中に禁を通ぜし故を以て除封せらる。〔大戸關〕大字大戸字馬場に其址あり。今は宅地・畑となりて僅に其名殘を留むるに過ぎず。高崎より長野原にかかり草津又は信州の方へ通ずる要路に當りしため、寛永八年中仙道の脇關として設けられしものにして、明治二年に廢止せらるるに至るまで鑑吏を置きて守らしめしもの。〔鳩ノ湯〕泉質は炭酸含有鹽類泉。寛政五年温泉坊宥明といふ行者の經營せしより法師ノ湯とも稱せらる。須賀尾峠の麓、温川の谷に臨み頗る靜寂なる湯治場なり。〔光明寺〕大字宮宝にあり。浄宗淺草派。神原山と號し、文祿三年當寺を建立す。留來子孫相繼で住職となり、現に二十代に及ぶ。十七世法印の時三寶院直末となり格院別納となる。寺寶頗る多し。〔三福寺〕大字大柏木にあり。浄土宗。永祿年間岩櫃城主羽根長門守の創建。もと京都知恩院直末なりしが天保以後原町善導寺末となる。〔大蓮寺〕大字大戸にあり。浄土宗。華庭山と號す。興國年間實譽上人の開基にして、本尊は惠心僧都作彌陀佛坐像なり。現在の堂宇は土豪加部安左衛門等の喜捨に成り宏壯精美なり。

【坂上村】　山口縣周防國玖珂郡の北部。賀見畑村の東、北河内村の北、小瀬村の西北、秋中村の東南に當り、東北は廣嶋縣佐伯郡に接す。西境には四〇〇米餘、南境には五〇〇米内外の山嶽連りて概ね山地をなし、木野川（小瀬川）は佐伯郡との交界を東南に流れ水田谷間に發達す。產業は農・林二業を主とし、米その他の農產物のほか、栗・松茸・蒟蒻をも出し、殊に岩根の栗は本村の名產として世に知らるる所なり。東南岩國町より西北本郷村に至る縣道南部を通じバスの便あり。德川時代には岩國藩主吉川氏の所領に屬し、明治二十二年町村制施行の際、釜ヶ原・浴・岩根・佐坂・瀬戸内・長谷・宮谷・日宛・中垣内・黑澤・大根川の十一村を併合して藤谷村を設け、上駄床・下駄床・諭南・西畑の四箇村を以て諭南村とせしが、明治三十七年一月一日更に藤谷・諭南兩村を合して本村を設く。

サカウチ　坂内村　岐阜縣美濃國揖斐郡の西端。北は懸山村、東は久瀬村、東南は春日村に隣接し、西より南は滋賀縣東淺井郡及び伊香郡と界す。伊吹山脈中にありて、北境には養殺山（一二九七米）・五蛇池山（一一四八米）あり、東境には天狗山（一一四九米）、南端には月月山（一二三四米）、西境には三國ヶ嶽・金養ヶ嶽（一二七一米）聳ゆ。廣瀬川は此山地を切り東流して揖斐川と合流す。農產物は殆ど見られず、林產物として薪炭を產するのみ。大字廣瀬は中世は廣瀬郷と呼ばる。廣瀬の小谷の山頂には廣瀬城址あり。廣瀬兵庫居城す。鷹ヶ原役に西軍に從ひ封を失ふ。大字坂本の柿野城山頂上には坂本城址あり。横道兵庫助の居城と傳へらる。

サカエ　榮　【榮村】　青森縣陸奥國北津輕郡の南部。北は五所川原町に相接し、南は鶴田村・梅澤村に、東は長橋村に隣る。津輕平野の中央を流るる岩木川の支流十川は村の中央を貫流す。從つて土地平坦にして耕作に適す。近年逐次農業の進歩を來し、農事改良組合・副業組合を各大字に設けて活動し、全村農業を以て生計を立て米の產額多く、その他大豆・蔬菜・林檎等を產し、藁工品の產額また見るべきものあり。省線五能線村の西部を南北に走りて津輕鉄道（昭和十年設置）を設き、縣道また五所川原町より來りて一は東南方に、一は南方に走る。此地往時は廣田組に屬し、大字廣田は附近二十八箇村の親村なりき。町村制實施に當り、廣田村外四大字を以て榮村を形成せしものなり。

【榮村】　秋田縣羽後國北秋田郡の西部。鷹巣町の東に隣り、東は二井田・西館二村、南は澤口村に各隣接す。東境は四五〇餘米の小分水嶺連りて西方に緩やかに傾き、西部に低地ありて鷹巣盆地の低地に續き、西麓を米代川西南に流れ東部山地を流るる小支を合す。米・繭を產し本村の產も少からず。奥羽本線鷹巣駅（鷹巣町所在）に近く、西境には同駅に至る街道走りバス通ず。また米代川には渡船の便ありて東部と西部を繫ぐ。明治十年戊辰の役にはその戰場となる。

【榮村】　秋田縣羽後國平鹿郡の中部。横手町の南に隣り、西南は醍醐村を隔てて淺舞町と界す。一〇〇米内外の丘陵起伏するも北部・中部に低地ありて横手盆地に續き田・畑拓け果樹の栽培も行はる。奥羽本線は中部を南北に貫通し、柳田駅（大正十五年設置）を設き、また社線横荘鐵道も通じ、國道羽州街道また奥羽本線に沿うて走りバスの便あり。新藤柳田・大屋寺内・大屋新町・外目・婦氣大堤・安田の六大字より成り大屋新町に役場を設く。沿革は史實の徵すべきものなく詳ならず。

【榮村】　山形縣羽前國東田川郡の西北部。酒田市の東南約二粁、北は新堀村に、東は余目町・八榮里村に接し、南は長沼・押切の二村、西は廣野村と界す。本村は庄内平野の中部に位し土地低平、赤川の一支京田川は南境より西境を西北に流れて灌漑の便よく全村殆ど水田をなす。臨つて農產物は米を主とし副業に養蚕盛行ほる。省線羽越本線の余目駅（余目町地内）に近く、酒田市より南方鶴岡市に至る縣道は中部を貫通し、各バスの便あり。大字家根合は古來鶴岡・酒田間の宿駅として發達す。大字宮曾根は中世の大曾根莊の一部といふ。また本村は古へ泥海なりしも其のち土地の隆起に從ひ村居を建て水田を開きしもの。大字高田妻はやや高き地にして、初めてここに妻を蒔きたるにより此名起ると傳ふ。なほこの地の水田發達には慶長十六年北條大學利長の開鑿に係る北楯大堰によること甚大なり。〔金沼館〕大字宮曾根の金沼に沿ひたる城砦にして、吉野朝時代北畠氏に從ひ藤島城に在りし大淵治部大輔時興の支城なり。現にこの館址を治部屋敷と稱す。

【榮村】　山形縣羽前國西田川郡の東部。鶴岡市の西北に隣り、北は東郷村、西北は西郷村、西南は京田村に接し、東は赤川を隔てて東田川郡横山村と對す。地は庄内平野の西南部に位し、鶴岡市北半の丘陵を基點として家狀に堆積したる赤川の沖積扇狀地にして舊河道と思はるる底地放射狀に射出す。赤川は東境を、その支流大山川は西境を流れ、また東南部を北流する赤川の一支青龍寺川は赤川より本郷村（東田川郡）にて揚水せる灌漑用水堰にして、元來は赤川の舊河道なりしものの如く、慶長十五年水害（いま大字）の人工藤掃部の掘鑿せるものなり。本村の灌漑は悉く之に負ひ、用水は扇狀地面を縱横に通じ全村殆ど水田をなし米を多產す。街道は中部をほぼ東西に走りて大山町に達し、また南方鶴岡市にも縣道通じ各バスの便あり。扇狀地の舊河道と稱せらるる底地の基部には京田と呼ばるる聚落、末端の約二米程低き大山川岸には興屋と稱せらるる聚落發達し、大字播磨もと播磨京田と呼ばれし地にして此等の聚落は既に慶長以前に發達せしものなるべく其古記錄を存す。其後の耕地擴張によりて京田聚落の幾分かは興屋等の聚落に分散したるものと思はる。大字湯野澤は堤防に圍まれし輪中狀の聚落にして湯野澤温泉あり。本村は一般に高張り田と呼ばるる上納の割高の田地多かりし土地にして、一戸平均八十俵の收入あり、所得稅納付者は全戸數の一二%を占むる有樣にして縣下有數の地主村なり。また縣下第一の納稅完納の模範村なり。部落毎に簡易水道を有し、自動電話交換所を持つ。なほ部落有財產多く、納稅を支出したる外、配當金を支出し得る年もあるといふ。

【榮村】　茨城縣常陸國新治郡の西南部。土浦町の西隣にあり。北は櫻川によりて藤澤村及び斗利出村と對し、西北は栗原村、西は九重村と隣る。村の西部は土地やや高きも、大部分は平坦地にして田地

及び畑地よく拓く。農業を主とし米・繭を産し、商業を營むもの僅に五十餘戸あり。土浦町に縣道を通じ、北陸藤澤村内なる社線筑波鐵道線の急掛・常陸藤澤の二驛に近く交通不便ならず。古くは和名抄、河内郡大村郷の内なるべく、のち信太庄大村郷と稱せられし地なり。村内の館山といへる地に筑波郡小田城の出城跡あり。吉野朝時代沼尻播磨守これに據るといふ。

【榮村】 千葉縣下總國匝瑳郡の西南部。八日市場町の南方にて、之と須賀村を隔て、東北は野田村、西北は東陽村、西南は白須村に隣り、東南は太平洋に面す。九十九里濱沿岸平野の一部を占め、海岸は平直の砂濱みなし、北部及び西部には水田多く、他は畑地をなす。米・繭・麥を産し、養蠶行はる。村の中央を縣道東西に通ずるも交通なほ甚だ便利なりといふを得ず。此地は和名抄、匝瑳郡山上郷の内なるべく、堀川古墳・堀川館址あり。〔堀川古墳〕 大字堀川字御塚にあり。墳上に林阿宮御廟後堀河院第二皇子文政二乙卯六月二十二日薨而造營之の文字を刻せる碑あり。宮は四條天皇の同母弟、吉仁親王と稱し仁治三年侍僧快賀と共に此地に住し、惡ずるや此處に葬る。その館址に五輪の石塔あり。いま碑は改造され古墳の實殊形のみを碑側に存す。また同所に伊豫新墓と稱するものあり、五輪の石塔存す。傳へて親王の起なりといふ。〔堀川館址〕 大字堀川の中央、字姫塚にあり。平坦にて方形を成し桑の高約二米、濠約三・一米。郭の東北に池あり。里傳に、後堀河天皇第二皇子吉仁親王此に來り、館を設け林阿宮と稱し奉りたりと。

【榮村】 山梨縣甲斐國西八代郡の南端。富士川の東岸に沿ふ。東境は富士山の西を南北に連る雨ケ岳・大高山の小脈を以て、靜岡縣富士郡上井出・白糸・植野の三村と界し、北はその支脈を境に富里・大河内の兩村に、西南は富士川を境に南巨摩郡鰍合村・富河村・萬澤村と對す。東境には天子ヶ嶽（二三一六米）・白水山（八一二米）あり、北境の山脈は村の中部に延びて恩親山（一〇三一米）を起し、村を東の佐野川、西の富士川の二澗谷の斜面に分つ。富士川の東岸に沿ひ蛭狭き沖積地所所にあるも、他は山地にして山林・原野廣く、畑地これに次ぎ田は僅に五四町歩餘に過ぎず。蠶業を主とし繭の産あり、製絲行はれ、農産に米麥あり産し、山地よりは木材を出す。社線富士身延鐵道に富士川に沿ひ、十島（大正七年開業）・井出（昭和四年開業）・寄畑（昭和六年開業）・内船南部（大正七年開業）の五驛を設く。この地は和名抄、八代郡川合郷の内にして、近世は西八代郡東河内領に屬す。而して近世南瓦摩郡西河内領の萬澤村と共に關門を置かれ、駿州口への押へとせられし地なり。明治七年、内船・井出・十島・下佐野・上佐野の舊五箇村を合し榮村と名づく。村内に佐野川温泉・釜ノ口温泉等あり。〔内船寺〕 大字内船にあり。日蓮宗。正住山と號し、本宗中有名なる靈跡にして弘安八年、四條金吾頼基の開基なりといふ。

【榮村】 長野縣信濃國南佐久郡の西北部。千曲川上流西岸に沿ふ。北は切原村、南は畑八村、西南は横岳を境に諏訪郡北山村、東は千曲川により青沼村と界す。地面南より東北に延び、長さ約一六粁なるも幅は二粁内外に過ぎず。面積、四一・一八方粁。東南境横岳（二四七二米）の東北斜面にあたり、ゆるやかなる裾野を展開して千曲川の谷に終る。一帯に草原又は樹林をなし放牧に適す。東部には田畑拓け、米・麥の産あり。また蠶絲行はる。佐久甲州街道東部を南北に通じ、之に沿ひ高野町・宿岩の聚落あり、隣村青沼村の省線小海線羽黒下驛に近く交通不便ならず。此地は和名抄、佐久郡刑部郷の内なるべく、明治廿二年町村制施行の際に上屋・高野町屋・宿岩屋の舊三箇村を合し榮村となる。大字高野町は古く單に高野と稱せしが享保十年松本城主水野家改易の時、一族豐後守忠毅新地七千石を賜はり此地にその役所を置くや、漸次戸口の殖加を來し、その狀宛も城下町を呈せし故に高野町と稱するに至れりと。〔生往院〕 大字高野町にあり。淨土宗。修南山と號す。應仁元年の創建、寂慧を開山とす。寛永中德川家光寺領若干を寄せ、正德中太禪これを中興す。

【榮村】 長野縣更級郡にありし村。明治二十三年柳幣川村を榮村と改稱せしも昭和三年篠井町と合して新に篠ノ井町となる。

【榮村】 長野縣信濃國上水内郡の西南部。長野市の西方約一六粁。北は日里村、東北は七二會村、東南は屋川を距てて更級郡更府村、南は津和村、西は南小川村と界す。北部は戸隱山群の一峯なる虫倉山（一三七八米）の山麓を占め、南部は高さ六〇〇—七〇〇米の山地をなし、いづれも中央を東流して屋川と合する土尻川の谷に傾斜す。傾斜地は疎れ山林・原野なるも所々に桑園もあり、中部の谷地には田地も拓かれ米・麥を産し、養蠶行はる。長野市より北安曇郡大町に至る大町街道谷に沿ひて東面に通じバスの便あり。本村は日高・中條・佳良木の舊三箇村を合して榮村と名付けしもの。神祇志料に式内水内郡皇足穂神社は太田郷中條村にありとあれば、この地ほとと太田郷の内に屬せしもの。信州地震出授扇書に據れば、弘化四年三月信州地震の際大場破現山・虫倉山崩壊し土尻川を堰止めしため日に日に濁水多きを加へしが、中月程ののち突如土塊の一部決潰し、濁水一時に奔流せしため大字中條の殆ど全部流失するの惨狀を呈せりといふ。〔皇足穂命神社・諏訪社〕 大字中條に鎮座。郷社。二社合

殿にして、皇足穂命神社を東宮とし、諏訪社を西宮とす。祭神、倉稲魂命外二神（東宮）、健御名方命外一神（西宮）。創立年代詳ならざるも、神祇志料に東宮は延喜式内社といふ。例祭、九月二十三日。

【榮村】 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村を廢し大字赤童子は古知野町へ、大字木賀・中奈良は布袋町に編入さる。

【榮村】 三重縣伊勢國河曲郡の東部。津市の東北約一〇粁。伊勢海に臨み、白子町の西南に隣り、北は稲生村・天名村に接し、西は合川村・黒田村と界し、南は上野村に續く。面積六・九一方粁。伊勢平野の一部を占め西部に低き臺地ある外は土地平坦、中ノ川東部を劃し、海岸に略ど直線狀の平直海岸をなす。西部臺地には茶・菜種・小麥を栽培し東部低地は伊勢米の産地なり。磯山蕪・郡山大根の特産あり、また綿織物を出す。伊勢街道東部を南北に通じ之と並行して、參宮急行電鐵の伊勢線走り磯山驛（大正四年開業）あり、交通便利なり。古くは和名抄、奄藝郡奄藝郷の内なるべし。奄藝郡は郡家のありし處にて、大字郡山は郡家の遺稱ならん。大字磯山より銅鐸一口を發掘せしことあり、兩面共に浮彫にて格子を作り四分し、その一格子の中に蜜像種々あり讃岐所出の銅鐸と畫紋相類す、いま之を東京帝室博物館に收藏す。これよりして、日本紀神代卷「天目一箇命造獲刀斧鐵鐸、また古語拾遺「天目一箇命伊勢忌部等祖也」と見ゆる天目一箇命の居りし處ならんとも云はる。大字越知には式内横道下神社あり。以上の事實よりして古くより開發されし地なるを知るべし。また日露の役旅順閉塞の菓、廣瀬中佐に從ひ福井丸にて名譽の戰死を遂げ勇名を千載に遺せる杉野兵曹長（名は孫七、年三十九）は實に本村の人なり。いま磯山驛前にその銅像あり。〔酒井神社〕 大字郡山に鎮座。郷社。祭神、豐宇賀能賣命・保食命。俗稱郡山大明神。創建年代は詳かならざるも、延喜の制小社に列す。例祭陰暦三月三日。

【榮村】 鳥取縣伯耆國東伯郡の北部。東北は由良町・大誠村、東南は灘手村、南は高城村、西北は古布庄村・下郷村と界す。地、東北より西南に細長く、長軸は約一〇粁、短軸約三粁。大山火山の東北斜面の一部にて、村の西南部にて海拔三〇〇米内外あり、それより東北に緩く低下し、東北部にては五〇米内外となる。原野・山林廣く、蓮の低地及び放射谷には田・畑拓け、米・繭・甘藷等を産し、原野牧場をなして牛馬の飼育行はれ、山地よりは林産を出す。縣道は村の東北部を略南北に通じ、西北方八橋町に至りて山陰道と合するも村内の交通猶利便ならず。村は龜谷・東高尾・西高尾・上穂・下穂・岩坪の大字より成る。〔八幡宮〕 大字西高尾に鎮座。郷社。祭神、品陀和氣命・帶中津日子命・氣長足姫命・武内宿禰命。社傳に依れば陽成天皇の御代の創建にして爾來地方の總鎮守として武將の崇敬厚かりしといふ。例祭十月十五日。

【榮村】 鳥取縣日野郡にありし村。昭和六年本村及び旭村・溝口村を廢し、その區域を以て溝口町を置く。

【榮村】 德島縣阿波國板野郡の南部。德島市を距る西北約八粁。東北は板西町、東は藍岡村、西北は松坂村、西は大山村、西南は名西郡高志村に隣りす。面積四・四七方粁の小村。吉野川下流の沖積デルタたる德島平野の一部と讃岐山脈の南麓に發達せる段丘及び扇狀地を含み、扇狀地附近には田地拓けて米・麥を産し、その他は疎れ畑地にて古くは藍の産地として著はれしも今は多くは桑畑と變じ、養蠶行はれて繭の産少からず。撫養街道は北隣松坂村との境を東西に通過し、省線設治屋原線また略これに沿ひて走り、その犬伏・福渡の二驛（共に松坂村内）にも近く交通不便ならず。古く或は和名抄、板野郡山下郷の内に屬せしものか。大字古城に板西城址あり。藤原師光の六男近藤六親家の築くところ。親家、源義經に臨ひて功あり。親家子なく赤澤兵庫守宗定を養ひて嗣となし、城を讓りて自らは勝浦郡新居見の山上に隱棲す。世にこれを板西殿と稱す。然るに宗定また子なきを以て遂に城廢す。大字下庄の八幡神社の森を栖河ノ森といひ古くより歌の名所とす。往昔に栖養ノ里と稱し、一時土御門天皇の行在所を置かれし所と傳へ、「里馴れてをちかへり鳴く郭公栖養の森の梢に」の歌は此地にての御製といふ。〔八幡神社〕 大字下庄に鎮座。郷社。祭神、品陀別尊・息長帶姫命・比賣神。創立年代不詳なれど山城國久世郡石清水八幡宮を分祀せしものなりといふ。承久役後、土御門天皇當國に移り給ふや、當社の風致を愛し行宮を作りて止り給ふ。此時神殿一宇を寄進し、また宸筆の神像を納め給ふ。例祭、九月二十八日。

サカエ 榮枝 愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年豐岡村・高富村と共に廢せられ、その地域を以て新に豐富村を置く。

サガエ 寒河江

【寒河江町】 山形縣羽前國西村山郡の東南隅。山形市の西北約六粁、最上川の左岸に沿ふ。北は西根村・高松村、西は榮橋村に接し、南は東村山郡長崎町、東は同郡寺津村と界す。地は山形盆地の西中部に位し、寒河江川は北境近く東流し、その自岩町を頂點とする扇狀地上に發達す。西北境には長岡山（一六一米）殘丘的に聳え、一般に土地東南にやや傾斜す。農村都市にして戸數二千、人口一萬三千、農業を以て主生業となし、米（約六十萬圓）・繭（約十五萬圓）の外、川沿ひの砂地なる高屋・皿沼・鳥等の聚落よりは、甘藷・長芋・牛蒡・人蔘・トマト等（約八萬圓）

を產し、商工業また相當に活潑にして特に酒の名醸地として知られ、七千石（約五十六萬圓）が出すほか、草履表（約六萬圓）の產あり。從來蔬菜類は同町の朝市にて郡內の八百屋に販賣し來れるが、昭和十二年常設市場の設置を見し以來、同市場を通じ廣く縣內外に出荷するに至れり。省線左澤線の寒河江驛（昭和十年設置）を置き、また樽岡に至る寒槙線との結節點たるべき交通上の一要地にして山形市及び谷地町に縣道通じてバスの便あり。此地中世は寒河江郷と稱するに對し一に南寒河江郷と呼べり。貞永元年、大江親廣この地の地頭たりし以來、大江氏の所領するところなりしが、十八世の子孫寒河江四郎隆基に至り最上義光に侵掠せられて敗死す、爾後寛永十二年幕領となり維新に至る。また大江氏の一族大字高屋に居して高屋氏を稱す。（寒河江城址）指定史蹟。永久の役に際し大江廣元の息親廣官軍に屬して利あらず、京師に留る事能はずして遁れ父廣元の領地たる出羽國寒河江庄吉川村字中畠に潛匿せしが、のち許され河西一帶の地を領有するに至れり。最上川岸の本楯に城を築き、南朝に屬し屢々山形の最上氏と相爭ふ。正平廿四年親廣の孫時茂に至りて大敗し、文中二年に至るや弟時氏北朝に降り、寒河江に築城し是に居り寒河江氏と稱す。それより累世此に住せしが、十八代の孫隆基に至り、天正十二年最上氏と中野に戰ひて敗れ、所領悉く山形に歸し、元和八年最上家改易となるや廢城となる。寛永十二年以降幕領となり代官陣屋を置き維新に至りしが、のち此に郡役所を置く。〔長岡山・高瀬山〕寒河江の南北に小丘あり、北を長岡山、南を高瀬山と稱す。長岡山は寒河江川舊扇狀地の殘丘にして戊辰の役に際し、莊內兵と官軍の戰ひたる所なり。低き孤丘なれども眺望佳良なり。近時、スキー滑降場として冬季殊に賑ふ。山下には中學校あり。〔八幡神社〕大字寒河江に鎭座。郷社。祭神、譽田別尊。寛治七年、出羽守源義家の創建に係るゝのち毛利・最上・德川氏等の崇崇を受け各社領を寄せらる。例祭、九月十五日。〔慶江寺〕曹洞宗。瑞龍山と號す。城主大江知廣の開基。總梵を請じて開山とし、以て菩提所となす。のち大江宗廣より墨印地百卅七石餘を下附せられ、慶安二年德川家光より朱印地に更めらる。現堂宇は寛政五年の建立に係るといふ。〔長念寺〕新義眞言宗智山派。眞濟僧正の開創にかかり、往昔は寒河江城主大江氏の祈願所となり、寺領七十二石を寄せらる。のち德川氏より朱印を與へらる。〔法泉寺〕曹洞宗。龍谷山と號す。文明十五年城主大江氏の開基にして、開山を雲嶽全龍、中興開山を日山大東といふ。舊領朱印八十八石餘、末寺七餘寺を有せり。

【寒河江川】山形縣西村山郡を流るる川。最上川の一支流。上流は朝日嶽の北斜面に發源する大井澤の谷にして北に流れ、本道寺村字月山澤にて月山山麓より南流し來る四ツ谷川を聳れて東に流れ、白岩町にて山形盆地に出で溝延村の東南部にて最上川と合す、流程約四八粁。上流は明瞭なる斷層谷にして花崗岩の山地を切り五〇〇米の崖面を作る。侵蝕未だ進まず、殆ど崖錐の發達見る事能はざるも、本流切面極めて明瞭なり。川はこの斷層崖に接して流れ、西側に數段の段丘を作る。出羽丘陵を橫斷し東流するにつれて南北岡山地より流入する河川の水を集め水量漸く多くなり、增水期には屢々氾濫する事あるを以て、その攻擊斜面には堅固なる堤防を築きて水害を防止す。また下流は左澤斷層崖を切り、白岩町を頂點とする大扇狀地を形成し、扇狀地堆積物により最上川は東方に壓迫されしも、現在にては本流によりて浸蝕を蒙りつつあり。本川は山形地方と庄內地方を連絡する六十里越街道の通路にて、現に其一部には社線三山電氣鐵道通ず。此川水は頗る清澄にして寒河江にては之を酒水に使用す。また月山の雪解水が加はる關係上水溫は比較的低きも常に水量豐富にして水潛（一二七〇〇KW）・白岩（四六〇〇KW）・吉川（一三七〇KW）・沼山（五一〇〇KW）の四發電所あり、下流には高松堰・大堰等ありて寒河江川扇狀地面を潤し、谷地の水道水源となる。

サカエノクニ　榮國　↓佐賀郡

サカエハマ　榮濱

【榮濱郡】樺太豐榮支廳二郡の一。南は豐原郡（携岡支廳）・泊居郡（泊居支廳）に、西は野田郡（携岡支廳）・泊居郡（泊居支廳）に、北は元泊郡（元泊支廳）に各隣接し、東はオホーツク海に臨む。西境に樺太山脈の分水嶺縱走し野田寒貝（一〇二九米）・留多加山（七八六米）あり、前山に雲突山（七五三米）・小田寒貝（九二四米）・奥相岳（七〇九米）・ヒセチャロ嶽（五五八米の諸嶽あり、更に海岸に近く知取岳（七四六米）、展望山（四八四米）の連嶺あり、東に次第に高度を減ずるも何れも南北に連亙し、內淵川及びその支流、小田寒川・相川等は、この山地間を梨狀式水系をなして流る。一般に山脚直に海に迫り內淵川の下流域にやや廣き平地あるも白鳥湖を初め一面濕地多く耕地に乏し。從つて產業は林業・水產業を主とす。山地は木材に富み、沿海には鱈・鮭・鰈・鯖等の漁獲多し。內淵炭田は埋藏量五億瓲と推算され樺太第一位にあるも現在は封鎖炭田に屬し、白鳥炭鑛（白鳥村）のみ稼行す。工業は落合の富士製紙工場が獨占的地位を占む。行政上は落合町・榮濱村・白鳥村に分る。人口二二二〇六（昭和十一年）。

【榮濱村】樺太豐榮支廳榮濱郡の東南部。落合町の東に隣り、北は白鳥村、南は大泊支廳富內郡富內村と界し、東はオホーツク海に臨む。南部は鈴谷山脈の北端部に當り、落合山（三九一米・崎澤山（四二七米）・野寒山（六六四米）・犬主嶽（七七二米）等あり、南に高く且つ山脚は海に迫りて海岸平野の發達不良なり。北部は內淵川の下流を占め、其沖積地より成るも濕地多く中に白鳥湖あり。主邑は鈴谷山脈の北端海に臨くる內淵川の下流右岸に發達す。住民は主として鱈・鮭・鰈・鰯の漁業に從事し、最近は鮟漁業もやや活況を呈す。冬季は樺太特有の氷下漁業盛にして氷魚その他の魚族多く豐原市場に供給さる。扇狀東海岸線は內淵川の右岸に沿うて南北に走りその彎點驛榮濱（明治四十四年設置）あり、更にそれより榮濱海岸支線を分ち榮濱海岸荷役所（大正三年設置）を置き、街道は鐵道に沿うて南北に走り落合町を經て豐原市に達す。また從來は元泊・知取・敷香方面に至る東海岸航路の要衝としてまた東部鐵道路の基點として交通上重要の地點を占めしも、落合町を起點とする樺太鐵道完成後はその繁榮を奪はれ次第に衰微に傾き、旅館旅亭等の廢止するものを出すに至れり。從つて今日は單に漁港として立つの外なく全く昔日の殷盛の面影を留めず。附近には白濱の土人部落あり。

サカエマチ　榮町

【榮町】樺太大泊郡大泊町の大字。東海岸線の榮町驛（昭和六年設置）を置く。

【榮町】臺灣嘉義市の一町名。阿里山線の榮町驛（昭和八年設置）を置く。

サガオカ　佐賀岡　↓葉山町（神奈川縣三浦郡）

サカオリ　酒折　甲府市の地名。中央本線の酒折驛（大正十五年設置）あり。この地はもと山梨縣西山梨郡里垣村の大字なりしが、昭和十二年甲府市に編入さる。酒折の地は日本武尊が蝦夷東征の時駐まり給へる酒折宮のありし地にして、いま日本武尊を祀れる酒折神社の所在地なり。但し今の社地は後に移りしものにして、もと山の中腹にありて古天神と稱する所が宮址なりといふ。日本武尊蝦夷を平げ、日高見國より常陸を經て甲斐に入り、この酒折宮にましましし時「にひばり筑波を過ぎて幾夜かねつる」と歌はれしに對し、柳火燒の老人「かがなべて夜には九夜日には十日を」と對へきと傳へられ、これが連歌の起原なりといはれて有名なり。

サカガミ　坂上村　岐阜縣飛騨國吉城郡の北部。高山市の北方約二五粁。北は坂下村、東は鮎津町・袖川村、南は細江村、西は河合村に隣る。飛騨高地の北部に位し、北部には西穆角山（一二二二米）、東境には流葉山（一四二二米）、南部には高山（一三三六米）ありて、此等の山地は花崗岩及び片麻岩より成る。宮川は西南より東北に向けて流れ甚しく曲流し、南部にては小鳥川を合せ、飛騨高原を切る所は峽谷をなす。この宮川の谷には昔より越中街道の西街道通じ、近年は高山本線通じ坂上驛（昭和八年設置）を置く。本村の耕地面積の狹小なるは林業に走らしむ。此地は栗多く、その材は鐵道枕木用材として移出し、生栗は從來富山縣に送られしも、最近は搗栗として岐阜市より遠く名古屋・東京にも移出す。また高山の春慶塗の漆はこの地に產す。大字岸奥には傳說的に知られたる緑ヶ淵あり。この地は和名抄荒城郡餘戸郷の地にして、中世は小島郷・小鷹利郷のうちなり。尙ほ本村には各所に石器時代の遺物多く、殊に大字林地內の畠多し。

サカガワ　逆川村　栃木縣下野國芳賀郡の東南隅。茂木町の南隣にて、西は七井村・益子町に接し、東より南にかけては茨城縣西茨城郡七會村・北山內村・北那珂村と界す。東西約五粁、南北約一四粁、略長方形をなし、面積六〇・四平方粁を占むる大村なり。八溝山脈南部の山地にて、東境には雙足山（四三一米）・佛頂山（四三一米）の脈、西境には足尾山（四三五米）・雨卷山（五三三米）の脈いづれも南北に連りて東西兩境を限り、その間に南境上に聳ゆる高峯（五二〇米）の脈ありてまた北方に延び、村の南半部には南北に幅狹き二條の谷地をつくり北部にて合一す。村內の水はこの谷地に落ちて逆川となり北流して茂木町に出づ。山地には森林多く、川沿には幅狹き低地ありて耕地拓く。村民の大部分は農業に從ひ、米を主產とし蠶繭草これに次ぎ、また麥・蕎等を出す。縣道茂木町より村の中部低地に沿ひて通じ、益子町より來るものと合し、東南境の佛ノ山峠を越えて北山內村より笠間町に達し、バスの便あり。中世芳賀氏の一族大字小貫の地に居せしも、永正年中常陸の笠間氏に滅さる。村名は下野の川は皆南下するにこの地の水のみ北流するより起れりといふ。（小塙寅吉）本村に生る。風に勤王の志篤く、文久元年有賀重信等の品川東禪寺襲撃の際これに加はり、衞士と奮鬪して現場に自刃す、時に年十九。明治四十四年正五位を贈らる。

サカガワ　坂川鐵道　私設鐵道。岐阜縣惠那郡にあり。同郡坂下町の新坂下驛より西北方の川上村に通ず。全長一〇・五粁、大正十五年に開通。軌間〇・七六二米、省線と非連帶。

サカキ　榊

【榊村】秋田縣刺後國山本郡の西部。能代港町に隣り、淺內村・扇潟村と界す。西部は日本海に面し砂丘地帶を占む。砂丘地帶は一般に高度比較的大なり。最高地は臥龍山にて三八〇米あり。砂丘の內側には池沼多く現在養魚池として利用せらるるもの多く、主として鯉を放養す。砂丘の內側一帶は平地にて沃野續き、また米代川沿岸は畑地多く野菜・果實の栽培盛なり。農業を主とするも土地能代港町に近くまた奥羽本線鐵道驛を有する等

の爲に各種の職業に從事し、農家も副業に從事する者多し。野菜の栽培盛なるは蓋し消費地に近き爲と砂丘地帶の利用に近來特に着目せる結果なり。果樹栽培の盛なるも同一理由による。日本梨の生産頗る大にして「能代梨」の名を以て賞出さる。西洋梨も亦多し。農業を以て專心村の更生を企圖し、現に本村米は秋田米を代表するの聲價を東京市場に於て有しつつあり。養蚕亦盛に行はれつつあり。交通は奥羽本線の機織驛（明治三十四年設置）を置き、當驛にて五能線と接續す。往時本村は豐源浦と稱し船着場として大小の船出入し、海岸の大木（現在倫勝寺の瘤木）に船を繋ぎ、爲に郷大いに賑ひ大小の家軒を並べて繁昌したりといふ。長星霜の今日、海水退きて陸地となり、沃野拓かるることとなれり。いま獅子田の地名も亦之によると思はる。往昔將軍田村麿蝦夷征伐の時陣を設けしと傳ふる處あり。布晒沼として女神此に住み機を織りたりといふ。明治十四年明治大帝東北御巡幸の際御小休あり。仁壽三年慈覺大師親世尊木像と地藏尊の石像を彫刻し一字の堂を建立して安置す。これ倫勝寺なりといふ。昔、本村は機織・大内田・仁井田の三村に分れしが、明治に至り之を併合し榊村と改めたり。蝦夷の酋長の墓と傳ふる地、また阿倍比羅夫の當地に上陸して船を繫ぎし跡と稱する老樹を存す。

【榊村】 山梨縣甲斐國中巨摩郡の中部。駒ヶ岳山脈の東麓。甲府盆地の西邊に位し、東は小笠原町、北は源村、西北より西へは芦安村、南は野之瀬村と界す。全村山多くして、西境には海拔一五〇〇米前後の丸山あり、東部へ次第に傾斜して甲府盆地の西端に低下し、大部分は森林なるも東部に於て畑・田地拓け農業を主業とし、蠶繭（約一四萬圓）・米（約一一萬圓）・大麥を産し、山地よりは薪炭を出しまた蒟蒻の特産あり。道路は東隣小笠原町北隣源村に通ずるも交通疎にして便利ならず。この地は和名抄、巨麻郡大井郷に屬せしものの如し。明治十三年、平岡・曲輪田・上宮地・高尾を合せし際、この地方民の崇敬篤き穂見神社の境内にある大榊に因みて榊村と命名すといふ。〔穂見神社〕 郷社。祭神、保食神。創立年代詳かならざるも式内社に擬せらる。一に御崎明神と云ひ、往時は祭神に因みて土民みな稲穂を飲ぜしと云ふ。故に穂見の社號の起れるならん。例祭、陰暦十一月一日。〔諏訪神社〕 大字曲輪田に鎮座。郷社。祭神、健御名方命。例祭十一月三日。〔大慈菴〕 曹洞宗。貞室山と號す。文龜年中創言宗の一小堂なりしが、のち現宗に改む。本尊は三面八臂の馬頭觀音にして行基作といふ。

サカキ 佐柿 ↓耳村（編井縣三方郡

サカキ 坂城町 長野縣信濃國埴科郡の南部。千曲川の右岸に沿ひ上田市を距る西北約一〇粁。東南は中之條村、西北は戸倉村・森村に接し、西は千曲川を境に更級郡力石村・村上村と對し、東は小諸郡依陽村と界す。東境には鏡臺山（一二六〇米・大峰山（一三二七米 の山嶺連りて西南に傾斜し、西部の千曲川岸には幅狹き河成段丘の平坦地あり。斜面には山林・原野多く、また畑地拓けて桑を栽培し、川に沿ふ平坦地には田地あり。養蠶行はれ繭を産し、また米・麥を出す。北國街道及び省線信越本線は西部を南北に走り後者は坂城驛（明治二十一年設置）を置く。此地は中之條村・南條村と共に和名抄、埴科郡坂城郷の地なり、大塔物語に坂木宿とあるは蓋し此地にして、古くより善光寺街道の宿驛たり。村主氏の盛んなりし頃、此地を居邑となし葛尾山に要害を築く。この陣屋は元和九年越後高田藩の支配となり、更に天和二年板倉甲斐守重通の食邑となりしが、元祿十六年に至り陣屋廢止さる。明治十九年坂木を坂城と改め、同二十二年村制施布せ、同三十七年に至り坂城町と改稱す。尙、村内には葛尾城址、村上顯國墓、横吹・笄の渡、鏡臺山等の名所あり。〔葛尾城〕 一に坂木城・榊城ともいふ。村上家累代の居城にして、左京大夫顯衡（顯平 越後の長尾爲景之を破り河中島附近四郡より下越後を領し武威日に盛んなり。その子左衛門佐義清に至り、天文年間武田晴信と戰ひて敗れ越後に遁る。義清は天文二十三年上杉謙信に屬し、元亀四年越後の根知城に殁す。その後天正十年上杉景勝四郡を領するや、此地が村上氏の舊領なれば義清の子源五郎國清を當城に置けり。〔笄の渡〕 本町より更級郡力石村への通路に當る千曲川の渡場。もと坂城の渡といふ。天文二十二年村上義清の武田信玄に破られし際、義清の妻は夫の武運を祈りつつありしが、夫は敗戰と聞き柔を扮して坂城の渡を渡り力石村を更級郡の方へ落つ。其折船頭のかひがひしき忠勤ぶりを心嘉しく思ひ、御髪に挿せる笄を與ふ。其後村上家は再び當地方に勢力を得す、土民上杉氏の爲に苦しめられしより義清の夫人を偲び、以來葬の渡と呼ぶ。〔坂城神社〕 郷社。祭神、大己貴命・事代主命。白鳳二年正月の創建と傳へ、一に坂木とも榊とも書し倍に大宮明神とも稱せらる。延喜の制小社に列す。天文二十二年、兵火にかかりしも、のち武田氏その廢類を嘆き社領の寄進ありて僅かにその祭祀を舊に復せしむるを得たりと。例祭九月十九日。〔大英寺〕 曹洞宗。多聞山と號す。天長二年の創建に係り開山は弘法大師、貸て毘沙門天の乘跡と稱せらる。天文年間兵火に罹りて炎上。のち武田信玄の歸依に依り再建す。永祿年中爲翼主村上氏に謀り之を再興し、智撮を請じて中興開山とす。〔滿見寺〕 曹洞宗。村上山と號す。應和三年の創建に係り延昌を開山とす。初め本村内所澤の地にありて天台宗を奉ぜしを、永正二年葛尾城主村上氏これを現宗に改め見尊を請じて中興開山とす。天文二十二年村上氏、武田信玄の爲に敗るるや當寺亦其兵火に罹りて炎上す。天正十一年村上景國祖先の冥福を修するため之を現地に移して再興す。現に末寺二箇寺を有す。

サカキ 賢木村 熊本縣肥後國玉名郡の西北部。大牟田市の東約六粁。南關町の南に隣り、東は大原村、南は坂下村・米富村・平井村に接し、西は福岡縣三池郡三池町と界す。肥筑山塊の西部に當り、西境に久重山（三八八米）嶮居して西境を限り、東部には高さ約三〇〇米程度の臺地性山地ありて東西兩山地の中間南北に谷を造り、關川南流して平井村に出づ。田畑比較的よく拓け、農を主業として米を産し、副業として全農家の約八割は養蠶をなし繭の産多し。鹿兒島街道東境に近く南北に走り、また大牟田市・南關町間の縣道南北に通じ、いづれもバスありて交通不便ならず。此地古くは和名抄、玉名郡大水郷の内に屬す。村名は賢木（榊）業の彌榮に榮ゆる如く村勢の發展せんことを希念して町村制施行の際賢木村と名付く。〔赤坂厳神社〕 大字細永に儒座。郷社。祭神、伊弉冉尊・速玉男神・事解男神。社傳によれば正治二年產土神として紀州熊野宮より勧請すといふ。例祭、十月十五日。

サカキタ 坂北 長野縣信濃國東筑摩郡の北部。松本市を距る北方約二二粁。北國西街道に當り、犀川の支流麻績川に沿ふ。北は日向村、東北は麻績村、南は本城村、西は生坂村に隣る。面積二九・六八方粁。西北部は犀山の裾を占め、東南部はその塊上にある四阿屋山（一三八七米 の西斜面に當り、西南部は西境の岩殿山（一〇〇八米）の東斜面なり。麻績川の本支流この三山地の間を東より西北に曲流し、傾斜地は多く森林にして谷沿の細き平地には田畑あり、米・麥を産し養蠶また行はる。省線篠ノ井線村の東南部を貫き坂北驛（昭和二年設置）を置き、北國西街道亦これと同方面を通じ、麻績村を經て千曲川流域に出で、共に南北兩信を結ぶ。この地は和名抄、更級郡麻績郷の内に屬す。往時は將軍直轄の地にして大字青柳の地は北國西街道（善光寺街道）の一宿驛たり。村内に青柳城址・岩殿山等の舊蹟あり。青柳城は小笠原長時の臣青柳伊勢守頼長の居城にして、後に武田氏に隷る。青柳氏は清和源氏、武田南部氏の族にて大字青柳の地に居して青柳氏を稱せり。仁熊城・竹場砦は共に青柳氏の築きしもの。いま青柳にある清長寺は青柳氏の開基に係り、また磯水寺は同氏の再興せるものとす。天正年間、春日源太左衛門、青柳の地を領せしことあり。〔岩殿寺〕 天台宗。富蔵山三寶院と號す。嘉祥元年僧圓仁勅を奉じて開創せる所なりといふ。當時四鶴院十二坊ありて殿堂莊嚴を極め、寺領二百町を有して寺勢隆盛なりしも近世衰微す。〔清長寺〕 青柳にあり。曹洞宗。柳庵山と號す。天正元年領主青柳氏開基し、大光を開山とす。初め青柳の里坊と稱する地にありしが、文祿年間現地に移る。〔磯水寺〕 曹洞宗。龍澤山と號す。創建年代不詳。往時は眞言宗を奉ぜしが、戰國時代に入り荒廢に傾きしを、天文五年青柳城主青柳伊勢守之を再興し、天如を請じて中興開山となし現宗に改む。慶安二年德川家光十石の朱印を寄す。天明・文化の兩度に亘り炎上ぜしも、のち再建ぜらる。

サカキバラ 榊原村 三重縣伊勢國一志郡の北部。布引山脈の東斜面に位し、南は倭村・大三村、東は七栗村・稻葉村、北は安濃郡長野村に接し、西は布引山嶺によりて伊賀國阿山郡布引村と界す。布引山脈（約八〇〇米）西境に連り、土地東南へ傾斜し、東南部にある一〇〇米前後の臺地との間には略ぼ東西に續く谷地あり。西境に發源する雲出川の支流流れ、東南方約五粁にて本流と合す。川の流域は肥沃なる低地をなし米・麥の産多く養蠶も行はれ、また山地廣ければ製炭業も行はる。南隣大三村二本木の參宮急行電鐵の大三驛に近きも村内の交通はなほ便利ならず。古くは和名抄、壺志郡日置郷に屬せるものにや。榊原氏發祥の地として知らる。初め北勢の守護仁木義良此地に移りて榊原氏を稱し、子氏經北畠國司に屬す。子孫のち三河に移り德川氏に仕へ四天王の一となる。關政の時上州館林の城主となり、故郷に歸り越後高田に移る。いま赤部谷に古井廣場の址ありて榊原氏の故墟なりと。村名は、櫛磐天皇の御代皇女佐々宜郎女皇大神宮の齋宮たりし時、此地の榊枝を採りて齋祀の用に供せられしに起るといふ。榊原温泉は無色透明の單純泉にして、古くより七栗湯と稱せり。枕草子に七くりの湯と云ふも此處ならん。延喜式壺志郡射山神社あり、今の村社榊原神社にして、土俗に湯大明神といふ。夫木・二六「一志なるななくりの湯も君かため懸しやまずと聞けるものうし經信」

サカグチ 坂口村 編井縣越前國南條郡の西北部。武生町の西南約八粁を隔てて東は神山村・王子保村、南より西は河野村に接し、北は丹生郡白山村と界す。丹生山塊の南端部に當り、南境に矢良巣岳（四七三米）、西北境に金華山（三九八米）あり、村内山地多きも中央部に小盆地ありて田地拓け、多少の畑地あり。農業行はれて米を主とし、蠶製品・繭等を産し、木炭その他の林産あり。河野村より武生町への道路村を西南より東北に通じ、また王子保村に出でて北陸道と合するものあれども交通なほ便利ならず。此地は和名抄、敦賀郡神戸郷に屬せしものの如し。大字中山には親鸞上人越後へ配流ぜらるるの途次休憩ぜりと傳ふる遺蹟あり。

サカサイ　逆井　東京市江戸川區の町名。區の西部、荒川放水路の右岸に位す。一丁目二丁目に分たる。もと葛飾郡小松川町の大字にて千葉街道の一驛たり。逆井渡と呼ぶ渡船場あり。黒見八大傳・九ノ三五「其本名は墨河也、是より西東は、小松中川女木逆井、猿江村五本松、南本所、北本所、兩國何より西を武藏とす」同・九ノ三六「將衡寛に係縣て、捨嶽中て後門より馬を飛して命を說れ、木下川堤を蔦直に、女木逆井を指て逃しかば云々」

サカサイヤマ　逆井山村　茨城縣下總國猿島郡の東部。西北は八俣村、西南は長田村・猿島村、南は生子音村に發し、東北は東南流する利根川の支流飯沼川によりて結城郡下結城町・安靜村と界す。關東平野内の一部を占め、全村低平なる臺地にて殆ど畑地なし所々林地を交へ、東部の飯沼川に沿へる所は低濕にて水田をなす。畑地よりは小麥・大麥・水田地よりは米の產少からず。縣道、村の中央を横斷し、西南方には利根川畔の境町、東方に下妻町方面に通じ、バスありて交通不便ならず。此地は和名抄霞島郡八俣郷の内とす。村名は明治二十二年町村制施行の際、逆井・山の二村を合し、その各々の字をとりて稱せしものなり。

サカザキ　坂崎　愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年本村ほか二村を廢して廣田村を置き、廣田村は同四十一年幸田村と改稱す。

サカサマ　逆川　紀伊國(和歌山縣)有田郡の駅名。今その所在詳かならず。夫木・二四「きゝわたる名さへうらめしくまのゝやさかさま川のせをいかにせむ　爲家」

サカサマタニ　逆谷　↓佐分利村(福井縣)

サガサワ　嵯峨澤　↓上狩野村(靜岡縣)

サガシオ　嵯峨鹽　↓奥野田村(山梨縣)

サカシタ　坂下　【坂下町】岐阜縣美濃國惠那郡の東端。岐阜市の東方約七〇粁。北は川上村に、南は苗木町に、西は福岡村に接し、東は長野縣西筑摩郡田立村と界す。東部縣境は飛騨山脈南部の脊嶺にして西部は付知川の斷層に面す。東部には後山、南部には高峯山(九四五米)、西境には松山(七六二米)等あり山地は何れも噴出岩より成る。木曾川は此の山脈を切り横谷を作り斷層谷に沿うて南流す。川上川は市街の南方にて木曾川と合流し、當町附近は斷層谷にして地溝狀盆地をなす。また外側川は高峯山麓を迂回し南境にて木曾川に入る。流域には水田稻作行はれ、また養蠶の中心地をなし、木曾材の集散・蠶種製造・養蚕・製紙も盛なり。交通路としては昔の中仙道は本町を通らず對岸長野縣を通じその便益を得ざりしも、中央本線の開通と共に活氣を呈し、明治四十一年坂下驛を置く。また社線坂川鐵道はこの地より川上川の谷を上り、川上村丸野に至り、域内に新坂下・稲荷堂・上大門の三驛を置く。古くは和名抄の惠奈郡蜷上郷の地にして、中世は遠山庄の内なり。明治三十八年本村大字川上を分割して川上村を置き、同四十四年町制を布く。

【坂下町】愛知縣尾張國東春日井郡の北端。瀬戸市の西北約九粁。東南は高藏寺町、西は篠木村・篠岡村に隣接し、東より北は岐阜縣可兒郡と界す。東濃山地の西南に終る所にして古生層より成り、高度は四〇〇米以下の丘陵性をなす。内津川はこの山地を刻み、南流して庄内川に合し、その沿岸低地に第三紀層堆積す。主生業は農にして米・蠶等を主產し、芝鐵山よりは亞炭を多產す。町は名古屋と多治見町とをつなぐ下街道の小宿驛にしてまた南方省線中央本線の高藏寺驛に近く交通便なり。古くは和名抄、山田郡志談郷の地なり。大字内津は美濃國に接する小邑にして、式内内々神社あり、また日本武尊の通過し給へる故跡なり。明治三十九年七月、神坂・内津の二村を廢して坂下村を置き、昭和三年十一月町制を布く。明治十三年明治天皇、山梨・三重兩縣及び京都行幸の砌六月三十日この地に御書餌遊ばさる。(内々神社)大字内津に鎮座。縣社。祭神、健稻種命。延喜の制小社に列す。天正三年、兵火に依り社記等悉く燒失せしため創建年代・沿革を詳かにせず。傳によれば、景行天皇御宇の創祀に係り、祭神健稻種命は日本武尊の東征に從ひて功あり。歸路、尊は篠木村にて御食事を攝らせられし際、健稻種命の入水せるを聞き、「現なる哉」と嘆じ給ひしより内津の名出でしと云ふ。その直後に當社造營の事ありしが如し。社號また之に因れるか。中世の頃に妙見と稱せし事あり。社殿の背後より險しき坂を山上に至れば大岩窟あり、清水湧出して旱天と雖も涸れず。里人傳へて、此水は海水の滿干によりて增減ありとなす。また山腹に天狗岩・屏風岩などの奇勝あり。例祭、四月十五日。

【坂下村】三重縣伊勢國鈴鹿郡の西南部。關町の西北に隣り、南は加太村に接し、東は白川村と界し、西北は滋賀縣甲賀郡山内村・大原村に續く。鈴鹿山脈は西北境を略七〇〇—八〇〇米の高さに東北より西南の方向に連りて東南方へ傾斜し、西北境の中部は舊東海道の鈴鹿峠(三七八米)なり。その東面に發する鈴鹿川の支流に東南に流れる關町に於て本流と合す。全村山地多く林業行はれ木炭・薪炭を產す。川に沿ふ谷には耕地拓け米・茶を產し又養蠶行はれ繭を出す。舊東海道は東南隣關町より川の谷に沿ひて西北に走り鈴鹿峠を越えて土山町に出づ。當線

關西本線の關驛、東南隣關町地内に近く交通不便ならず。古くは和名抄、鈴鹿郡鈴鹿郷の内なり。鈴鹿峠多津加美坂の下なれば坂下の名あり。もとはサカノシタと呼びたるも今はサカシタと改む。往時東海道往來の盛なりし頃は五十三次の一として賑ひしも、今はさびれて往時の面影を存せず。坂を西北に登ゆれば近江國甲賀郡土山町にして、其間凡そ二里半、相模の箱根山に次ぐ東海道第二の難所たり。慶安年中、坂下宿洪水に罹り、今の地に移る。舊驛は十里許西、鈴鹿明神の下なりしといふ。村内に琴橋址・鏡石・不斷櫻の名蹟あり。筆捨山は大字市瀬より大字香掛の邊に峙つ石峯にして全山岩を以て壓成せる如く、古松その間に點ず、俚言に碧野古法眼この勝景を寫し心に達ばずして筆を捨てしと。蓋し筆捨は張捨の訛にて新古今・一七、鈴鹿山浮世をよそに張捨てていかに成行我身なるらん　西行」などよりして、もと張捨山と呼びしものならん。村内の法安寺(曹洞宗)には石佛庚申像あり石工近江の名作とす。また明治天皇初めて東京行幸の際、明治元年九月二十三日、本村の峠茶屋堺屋五右衛門宅に御小休、次いで大字坂下の本陣松屋若林嘉兵衛宅にて御裝餌、大字市瀬筆捨山養倉田多右衛門持地御假屋に御小休あらせらる。明治十三年七月十二日山梨・三重及び京都行幸の際には坂下の若林市平宅に御小休あらせられ、いま之等の御聖蹟は碑規よく保存せらる。

サカシモ　坂下村　岐阜縣飛騨國吉城郡の西北端。高山市の北方約三〇粁。東は船津町、南は坂上村、西は河合町にそれぞれ隣接し、北は富山縣婦負郡と界す。飛騨高地の北部を占め、北境には小日本峰(一四三六米)・白木峯(一六〇二米)・唐堀山(一一五九米)連立し、東部にはソンボ山(一一九二米)あり。いづれも花崗岩等の深成岩より成り、宮川は此等高地を横斷し嵌入曲流をなし、南部のナリデ山(四九二米)は盤流丘陵に近し。西部山地よりは万波川北流して富山縣に入り久婦須川となる。宮川の谷は唯一の交通路にて古來越中街道として利用され、高山本線は川の曲流部をトンネルにて抜け、打保驛(昭和八年設置)・杉原驛(昭和七年設置)を置く。生業は農業・林業を主とし、林產物には木炭の產多く、飛騨坂下炭の名にて著はれ、年々富山縣に移出す。また栗の產多く、南の坂上村と同樣に搗栗として縣外にも移出す。更に水產に於ける鮎は宮川鮎として形大きく、豐漁にして特有の珍味あるを以て著はる。此地は坂上村と共に和名抄、荑城郡飲戸郷に屬し、中世は小鳥郷と小鷹利郷に屬せり。大字鹽谷附近の山上にある鹽谷城址は古川蛤城主鹽谷筑前守秋貞が永祿年間に支城とせしもの。偶々高原郷の江馬輝盛・武田氏に降りしを以て、秋貞は、天正四年上杉謙信の越中征伐に赴くを聞き、逆臣江馬を誅し上杉氏に飛驛平定を勸め自ら越中に至りて俟津近傍を攻略し牛轉の猿倉山に城を構へて上杉勢に通じ江馬の本陣を衝かんとせり。折しも上杉勢は柴田勝家・佐久間玄蕃・金森長近と對陣中にて翌五年謙信卒去し、椎名越中守勝嵩不意に猿倉城を攻めて之を陷れ、秋貞辛じて古川蛤城に歸る途中大字戸谷にて討たれぬ。戸谷の山口の墳墓はこれなり。尙ほ西部金剛堂山には前世墳物なる花ノ木・石楠木等の高山植物多く、日本アルプスの雄姿を眺望するに便なり。此附近には石器・土器の發掘されしもの多し。本村は古來種々の災厄に遭ふこと多く、天保七・八年の飢驛大飢饉に遭遇して其慘狀を傳り、明治十九年にはコレラ病蔓延して悲痛困憊の旅に達し、大正三年八月十三日には未曾有の大水災により土地・住家の大半と多數の人畜を犧牲にし一時は廢村的終焉を企畫せしことなどありたり。

サカシューキトー　坂州木頭村　徳島縣阿波國那賀郡の西部。那賀川の上游木頭谷の一部にして宮瀬村の西、澤谷村の東南に位し、東北は勝浦郡福原村、西南は海部郡中木頭村と界す。面積二九方粁餘。銀山山脈の一部に屬し四境に高さ一〇〇〇米程度の山岳重疊して中部に傾斜し、那賀川の上支、澤谷村より來り西北より東南に峽谷を造りて宮瀬村に出づ。この川筋と山間の谷地に多少の耕地ありて米・麥を產し、養蠶行はるるもその額多からず。川に沿ひて道路通ずるも山間の僻陬に位するため交通なほ不便なり。此地は古へ木頭谷の一部落なりしも中世坂州村と稱し、町村制施行より現村名に改む。大字木頭名の東部に千本瀧あり。高さ約九米、幅三米餘、斷崖絶壁に懸る。昔此瀧の土流出羽村(いま大字となる)にて國守、木材千本を伐り出水を機として流せしに千本共悉くこの瀧壺に沈みて出でず、神官を聘し瀧の上にて祈禱せしに木材悉く浮きて那賀川に流下せり、瀧の名これより出づといふと。字木頭の鷲社宇奈爲神社は稻米命・伊邪那美命・菊理姬命・速玉男命外數神を祀る。例祭、九月七日。

サカセガワ　坂瀨川村　熊本縣肥後國天草郡天草下島の北岸。下島の西北端富岡町との間に志岐村を挾み、北は天草灘に臨み、東は二江村・手野村及び其南の城河原村に隣り、南は本村に接す。矢筈嶽の北方山麓を占むるため南部に高く約五〇〇米の高度を示し北部へ傾斜し海岸に小低地開く。本村附近には坂瀨川層群の發達を見る。是は一町田砂岩と坂瀨川頁岩との互層にして坂瀨川層は一町田砂岩の上位にあり。主として薄板狀頁岩の重疊せる厚層にて砂岩を挾む。低地は耕地よく拓け米・麥の產あり、また仔牛をも產し山地は薪炭を出す。北岸に沿ひて街道は東隣二江村より西方富岡

町へ走り、中央にて分れて東南へ通ずる山道は手野村へ出づ。南境には茶屋峠あり、之を過ぎて塩界線に沿ひ東西に走るものあり。いま宮岡町に汽船及びバスの便あり。古くは和名抄、天草郡志記郷の内に屬せしものの如きも其後の沿革は詳かならず。

サカタ　坂田

【坂田】陸奥國陸前、宮城縣)の古地名。和名抄に刈田郡坂田郷あり、その地今の刈田郡白石町・白川村・大鷹澤村等の邊に當る。

【坂田津】古へ出羽國府より海に出づる要津。國府はもと出羽郡にあり、今の山形縣東田川郡に當る。その位置は最上川に近く、その京都に通ずるには延喜式に海路五十二日とありて、坂田津より越前國敦賀津に到りしものなり。今の酒田港は古への坂田津の名を傳へしものにて、もとは最上川の南、飯盛山の西にありきと傳へらる。蓋し最上川の流路屢々變じて今の河道となし、津港も河北に移りしものならん。その遷徙の年代明かならざるも、出羽風土略記所載酒田林昌寺の鐘銘に「永祿三年華鯨一日、令造鑄」、出羽國田川郡大泉庄酒田湊」とあるによれば、永祿の頃なほ酒田が河南田川郡の域内にありしことを知り得る。※酒田市

【坂田】→大總村(千葉縣山武郡)

【坂田郡】滋賀縣十二郡の一。縣の北東部。西は琵琶湖に面し、南は犬上郡、北は東淺井郡に接し、東は岐阜縣不破郡・揖斐郡と界す。北東部に伊吹山脈、南東部には養老山脈連り、兩者は地塁をなし柏原の東方に於て相接し峡隘をなす。伊吹山脈は伊吹山(一、三七七米)を最高峰とし、本郡と岐阜縣揖斐郡との境上を南北に延び、山麓地帶にも前山起伏し、東部は複雑なる地形をなす。地質は主として秩父古生層に屬する砂岩・粘板岩・輝綠凝灰岩・角岩・石灰岩より成り、地層の走向は東西または北東より南西にして北方に傾斜し、伊吹山の中腹に於て石灰岩層が砂岩粘板岩層の上に衝き上げ之が更に斷層により轉位して春照村大清水・柏原村大野木・須川等にも現はる。南部の養老山脈に屬する霊仙山(一、〇八四米)附近一帯も同じく古生層より成り、石灰岩多くしてカルスト地形をなし、カルスト特有のドリーネ・ポリエ等の窪地またはカレン發達して起伏常ならず、從して之等山地は天野川以南の河南郡を占む。山東郡・河南郡の中間は山西郡の平野にして緩かに西方琵琶湖岸に傾き、田園業落相連り本邦主要の文化豊饒をなす。天野川は養老山脈の北端に發し南方より來る丹生川を合して本郡の中央部を西流し朝妻筑摩の北方にて湖に入る、本流の長さ一七・九粁。絡川は伊吹山脈の西斜面東淺井郡の北部に源を發し南流して本郡に入り、伊吹村より西轉し郡の北邊を西流して神照村より再び東淺井郡に入り、大郷村南濱にて湖に注ぐ。全長五二・七粁のうち本郡内の流程約一五・五粁。本郡は中仙道と北陸道との分岐點に當り且つ北國脇往還も通じ、古來交通の要衝に當る。國道のほか主要縣道に米原柏原線・東黒田米原線・伊吹山醒ヶ井線・醒ヶ井長濱線・右田長濱線・伊吹山長岡線・伊吹山長濱線・甲津原柏原線・長濱柏原大垣線等あり、鐵道も東海道本線關ヶ原方面より來り柏原・近江長岡・醒ヶ井・米原の各驛を經て彦根方面へ向ひ、米原より分れて北進する北陸本線には法性寺・田村・長濱の三驛を設け、社線近江鐵道は米原を起點とし鳥居本驛を經て彦根方面に至る。産業としては農林・水産業のほか紋張機業、絹紬・天鵞絨等の製織盛なり。坂田の名稱は書紀の允恭紀に初見し、郡名としては推古紀に見ゆるを初とす。されど坂田君・坂田酒人君人・坂田宿禰等地名に基く人名はそれ以前よりあり、一説に、土地が湖岸より次第に東方の山地に高くなり坂をなせる地に田畑を營みたるを以て坂田の地名起るとなす。和名抄は佐加太と訓じ、上坂・下坂・上丹・大原・長岡・阿那・刑部・細江・驛馬の九郷に分つ。平安朝の中頃より鎌倉時代に至る間に發達せし莊園には柏原莊・坂田莊・平方莊・細江莊・富永莊・大原莊・箕浦庄等あり、それぞれ社寺權門の私領たり。南北朝より室町時代にかけては佐々木の分流京極氏の領となり、次で淺井氏の支配となり織田信長に平定せられてより豊臣秀吉の長濱城の配下に歸し、江戸時代に入りては大部分彦根藩に屬し、中部・北部・東部は郡山藩・宮川藩・水口藩及び旗本領等に分領せられ、明治十一年七月郡制を布き坂田郡とせしも十四年七月東淺井郡を合併して坂田東淺井郡と稱し長濱町に郡役所を設け、爾來十六箇年繼續せしが三十一年四月東淺井郡を分離し再び單獨に坂田郡となり、いま米原・長濱二町の外十七箇村に分る。尚ほ郡名は坂田・飯田兩樣に混用せられ居りしが近時坂田に定めらる。

【坂田】近江國(滋賀縣)の古地名。中世の莊名にて、興福寺西南院領なりしが、建永の頃は摂嚴三昧院領たり。和名抄、坂田郡に上坂・下坂の二郷ありて、古へは之を坂田邑と云へば、この莊は二郷の域ならんとも思はるれど、別に下坂莊あれば、これは上坂郷の莊となりしものなるべし。上坂郷は今の坂田郡北郷里村・神照村の邊に當る。

【坂田】→高市村(奈良縣高市郡)

【坂田橋】→板田橋

サカタ　酒田

【酒田市】山形縣西市の一。縣の西北部。最上川口右岸。北は飽海郡西荒瀬村、東は中平田・西平田二村に隣接し、南は最上川を隔てて西田川郡袖浦村及び東田川郡新堀村と相對し、西は日本海に臨む。面積一三・七七方粁。人口三一八六六人(昭和十年)。庄内平野の中央西部に位し

就れ土地平坦なるも、西部には大小二列の砂丘あり、海岸に近き外側の砂丘は高さ三二米に達す。砂丘は古へ茫々たる砂原にして飛砂の害甚だしく、爲に市の發展を妨ぐる事甚大なりしも、寶勝年中本間光丘(四郎三郎)ここに黒松林を植ゑ以て飛砂の害を一掃す。市街地の南部を新井田川貫流して最上川に注ぎ、最上川は南部を西北に流れて日本海に注ぎその河口に酒田港あり。氣温は最高三四度(攝氏)、最低零下一一・四度。降雪は大體十二月—三月の間なるも積雪は大ならず。古來この地に米の商取引を以て著はれ、今も山居町に山居倉庫、光ヶ丘に國立米穀倉庫等ありて商業最も盛、工産品は清酒(約五一萬圓)・醬油(約一九萬圓)の醸造業最も多く醸造工場八を數へ、次いで菓子(約二一萬圓)・木工品(約二〇萬圓、製材工場八)・金屬製品(約七・八萬圓)等あり、特産品に指物・家具類・漆器・履物・清酒等あり、指物工は價格低廉と實用的なるため、また桐柾下駄は經く履き心地よきため縣内は勿論東京・北海道・樺太方面に販路を擴張す。なほ綿織物(約四萬圓)・胡織物(約五萬圓)あり。耕地は東南部氾地に廣く灌漑の便多く地味肥え農耕行はれ、米(約八千石)・大麦(約四百石)のほか蔬菜・花卉・果實等を産す。水産は盛ならざるも鮭・鱈・鯛・鰈・鮴等の漁獲あり。本市は新潟・船川兩港の中間最上川の北岸に位する河港を控へ海陸交通の要衝を占め、米穀の集散旺盛を極め、貨物の移輸出入噸數五十萬噸を算す。移出品の重なるものは米・木材・藁工品等、主なる移入品は食鹽・大豆粕・骨粉・セメント・干魚・砂糖・石炭等とす。陸上交通機關は大正三年陸羽西線の開通に伴ひ奥羽本線と連絡し羽越本線の酒田港へ貨物線通ず。秋田街道は中部を貫通し附近町村間に一日數回のバスの定期運轉ありて交通至便なり。此地古くは坂田・砂潟とも書きしが、酒井氏入部以來は酒田の字を用ふ。往古は此地方海水深く海入し、僅に一部の鵜渡川原村東禪寺附近に少數の民家ありしのみにて、最上川南岸袖浦村・飯盛山附近にやや繁榮なる市街ありて、之を酒田港と稱したるものの如し。其後北岸に南岸酒田の住民漸次これに移轉し一時兩岸に酒田町を形成し、南岸酒田を向酒田と稱すと。然るに向酒田は商港としては最上川により不利の地勢なりしを以て北岸に移住するもの次第に多く江戸時代の初期戸數一五〇〇餘を數へ、明和の頃は三五〇〇餘戸に達す。古來本市は内町組・米屋町組・酒田町組に分けられしが、内町・米屋町兩組は土着の住民にして酒田町組は向酒田の移轉し來れるものなりと傳ふ。市の東南、新井田川の東畔に亀ヶ崎城址あり、舊名を東漸寺城といふ。鎌倉時代に坂田氏(又は酒田氏)居住と云ふも詳ならず、室町時代に遊佐氏・東禪寺氏は尾浦武藤氏の麾下なりしが、天正十五年山形城主最上氏に通じて武藤氏を滅し、同十六年越後上杉氏の將本庄氏莊内を攻むるに當り東禪寺氏これと戰ひて死す。同十八年上杉氏の將須田相模守來りて東禪寺城を守る。翌十九年甘粕備後守これに代る。これより先、關ヶ原戰役の後莊内は最上氏の有に歸し、志村伊豆守東禪寺城代たるに及び亀ヶ崎城と改稱す。元和八年最上氏改易せられ酒井氏莊内領主となるやここに城代を置く。寛文年間沿岸航路の擴張奨勵の機運に當り、河村瑞賢此地に來りて西廻海運を起し、爾後酒田の名と出羽米とは全國的に有名となれり。明治元年一時酒田民政局を置き同二年八月酒田縣となる。同三年九月酒田縣を廢し山形縣に併合せられ山形縣酒田出張所を置く。同四年十一月再び酒田縣を置き同八年鶴岡縣となり、同九年鶴岡縣廢止再び山形縣管轄となり、大小區制及び戸長役場を經て同二十二年町制施行し、昭和四年鵜渡川原村を合併して同八年市制を布く。(酒田港)大正六年政府最上川改修工事に着手するや、山形縣は工費百五十萬圓を以て、右改修工事の附帶事業として酒田港の改築を決定し、大正十年度起工以來頗る順調に進捗し、昭和四年第二種重要港灣に選定せられ、昭和八年度よりは工費百六十五萬圓を以て第二期擴張工事に着手し、防波堤の延長、護岸の築設及び港口の浚渫等を施工し、目下三千噸の汽船自由に出入して活潑なる貿易をなす。定期航路は北海道・樺太諸港に至るもの、並びに大阪を起點として日本海諸港に寄港する西廻定期船あり。根室船は計畫中に屬し、また最近は酒田・北鮮諸港間の定期航路開く。昔時は出羽國府より海に出づるの要津にして、坂田津と稱し最上川の南、飯盛山の西に位置せしが、その後最上川の流路屢々變じて現河道となせしと共に、津港も河北(現位置)に移れり。その遷徙の年代は明かならざるも出羽風土記略記に所載する酒田林昌寺の鐘銘に「永祿三年華鯨一日、令造鑄」、出羽國田川郡大泉庄酒田湊」とあるによれば、永祿の頃なほ酒田は河南田川郡の域内にありしを知る。河口の港なれば水戸口の深淺不定にして、水戸數船の瀬取によるも入港不能の事も屢々ありきといふ。酒田港は嘉永・安政の頃繁榮その極に達せしも、明治以後汽船航行時代に入ると共に衰微に赴き、單に庄内平野の港たるに過ぎざる狀態となり、加ふるに明治廿七年の庄内大地震にて一層衰微し、昔日の面影は求むるに由なき有樣となれり。然るに其後築港工事進捗し、今や北滿・北鮮よりの工業原料・肥料・木材等の移入も起らんとし、その理立地は漸次工業地化せんとしつつあり。たとひ庄内米の集散地たる地位を羽越・陸羽兩鐵道沿線の諸驛に奪食せられ、歴史ある山居倉庫の勢力また

新興の産業倉庫に取つて代られんとしつつありと雖も、十萬石を容るるに足る國立倉庫ありて、「米の港」の實績を未だに保持することは注目に値すと云ふべし。昔て米券を發行して米取引を盛んならしめし米會所は既に廢止せられたるも、山居米券は今猶ほ廣く全國に流通す。酒田港の移出の主なるものは、内地米（約一〇萬圓）・木材（約八・六萬圓）・和酒（約二・五萬圓）・木製家具・木炭・屋根瓦等、移入は石炭（約一一六萬圓）・食鹽（約五八萬圓）・セメント（約二五萬圓）・鐵石（約一七萬圓）・コークス（約一三萬圓）・魚類・人造肥料等なり。港外最上川口の北岸先端に酒田燈臺（明治二十八年設置）あり、燈質は明暗紅光、明三秒暗二秒、光達距離十三浬。

〔河村瑞賢倉庫址〕 日和山より眺きて最上川岸に臨める舊稱陣屋と呼ばれし一五〇米四方の空地即ちそれなり。いま河村瑞賢倉庫址なる標木立つ。寛文十二年、瑞賢が幕府の命により、酒田より直接海路を經て江戸へ米の廻送を試みし際、最上・酒田・村山等の收納米を積み上げて貯藏せし場所にして、御米蔵場或は瑞賢藏と呼ばる。これより先、江戸に於ける米の需要大となりて米の不足を告げしにより瑞賢に命じて奥羽の米を直接江戸へ廻送することを計畫せしむ。即ち瑞賢は寛文六年陸奥の米を仙臺領荒濱より江戸へ廻送を試み、次いで酒田廻米に着手して共に功を收む。瑞賢の廻米改善事業は從來の一箇年餘の歳月を費せし西廻り廻送を三箇月に短縮し、米の損傷を減じ、運賃を低下せしめ、一般經濟上に大なる効果をもたらせり。その後の酒田廻米は瑞賢の方法に倣ひて庄内藩主並びに御料代官これを掌れり。〔山居倉庫〕 驛の西南一粁半、山居にある酒田米穀取引所の附屬倉庫にして、一に米券倉庫とも稱し舊庄内藩主酒井家の事業として明治二十六年開業せしものにして、舊藩士が庄内米を完全に貯藏し、その受渡・賣買の手數を簡便にし、地主・小作人及び米穀商人等、舊庄内藩全體の利益增進を擔承するを第一とし、倉庫の利益を第二次とするため、米穀倉庫業に於ては日本第一と稱せられ、その米券法は全國同業の模範と仰がる。起原は元和八年にあり。藩主酒井氏の入國後、その貢納米につき近江の大津に行はるる米券制度を採用して、酒田城外新井田川沿岸に新井田蔵を設け、貢納米を納入せしめ米札を發行せしに始る。のち享保年間大阪の堂島、加賀の金澤と共にここに米會所設置を許され、米の取引愈々發達し、米券は紙幣同様に流通し、米問屋は隨時新井田蔵に至りて現米と引換へ、多く大阪方面に移出せり。明治廿六年酒田米穀取引所創設せられ、舊米券法による米穀の保管を繼承し、定期の賣買、米受渡の圓滑、地方產米の改良を圖り、近年磯道の用便に伴ひ販路を擴張せり。〔明治天皇御行在所址〕 本町六丁目にあり。明治十四年明治天皇東北巡幸を御遂幸し給ふや九月二十五日當行在所（渡邊作左衛門宅）に御駐泊あらせられ、翌二十六日、福島裁判所酒田支廳・琢成學校等に行幸の御事あり、行在所は後年類焼に罹る。依つて聖德を後世まで仰ぎ奉らんがため記念塔を建設す。〔日和山公園〕 驛の西方二粁、町の西部砂丘の上にあり、松樹多し。西は日本海、南は最上川を望み、展望に富む。〔松林銘碑〕 縣社日枝神社の西側小丘の上にあり。この碑は、本間氏が酒田西濱一帶の地に植林の事業を完成し、これによつて酒田の地を永久に風砂の災害より免れしめしことを感謝するため、文化十三年に建てられしもの。〔日枝神社〕 下瀧町に鎮座。縣社。祭神、大己貴命・大山咋命・胸肩中津姫命。當社は坂田の舊津が水南にありし時にはこの神も宮浦に鎮座ぜりと傳ふ。其後、東禪寺城内への遷座を初め、慶長十八年には酒田荒町端（一説に山王堂町）に、其處にて數度の洪水に遭ひしより、寛永十三年には近江町に、更に正德二年に現在地へと屢々遷座の事あり。天明三年勅修寺宮御親筆の額面及び御紋付の幕など奉納せらる。藩主・舊幕府遙拝の諸役員等の崇敬、殊に酒井氏入國以來は尊信深く寄進の事度々あり。例祭五月二十日。〔酒田祭〕 縣社日枝神社の祭禮には、大仕掛の山車を出し、町内は勿論近郷よりの參拜者多し。その山車を曳くものの唄は、「ドオトコドオトコ　ホエエ　さてもめでたき世のことぶきよ　ヨンショイ　鶴と龜との祝も永く　ヨンヨエエ　ヨンヤナア　ハリヤリヤ　コリヤリヤヤヤ　ヤットセイ……」〔飛鳥神社〕 飛鳥村堂に鎮座。郷社。祭神、須佐之雄命・八重事代主命・大名牟遲命。社傳に繼體天皇御宇大和國高市郡飛鳥神社より勧請して創祀すといふ。往時は上杉氏・酒井家等の崇敬厚く、社領亦多く、社運隆盛なりきといふ。例祭、五月十日。〔愛宕神社〕 十王堂に鎮座。郷社。祭神、火產靈命・伊弉冉命。創建年代未詳、一に、慶長年中、志村伊豆酒田城代の節に丹州愛宕山御分靈を改めて勧請し現今の境内に創祀せるものといふ。例祭、七月二十四日。〔光丘神社〕 驛の西方一粁半、日枝神社の東北にあり。郷社。本間四郎三郎光丘を祀る。大正十三年の創建。光丘は藩主酒井忠德の知遇を得て藩の財政に參與し大なる功績を遺せし江戸中期の經世家。酒田港改修工事・農政改善・防砂植林事業等はその主要なるもの。また大砲を鑄じて海防を充實せしめ、屋々金貨を上りて府庫を充たす。大正年間正五位を贈らる。〔皇大神社〕 出所町に鎮座。郷社。一に琴平神社ともいふ。祭神、大日孁貴神・大物主命。創建年代未詳、社傳によれば明暦二年此地に遷座せりといふ。例祭、八月十五日。〔安祥寺〕 寺町にあり。

眞宗大谷派。別格山緒寺院。初め一條村大字政所に創立せられ、のち數箇村を移轉し、天正九年現地に再轉すといふ。寺寶に虎尾の名號・鯨の腹德卿影を傳へ、蓮如上人の由緒地なり。〔海向寺〕 下臺町にあり。新義眞言宗智山派。高砂山と號し注連寺に屬す。天長年中弘法大師此地を過ぎんとして奇瑞ありしに依り此處に草庵を結びて道場とすといふ。中古頽廢せしを以て、延享三年忠海法印之を中興して今日に及ぶ。〔觀音寺〕 鶴川にあり。新義眞言宗智山派。執事律師の開基に係り、最上義光の臣志村伊豆守光安の祈願所たり。元祿十四年元雅法印の時、中本寺を酒田寺町龍藏寺に定むと云ふ。〔青源寺〕 鶴川にあり。曹洞宗。曹溪山と號す。慶長五年酒田城代志村伊豆守光安の開基に係り、三光存辰和尚之が開山たり。本尊釋迦牟尼佛を安置し、寺寶に東吳萬寶雪星筆墨雲山水・墨雲觀音・墨雲觀龍二幅等を藏す。また境内には妙見堂及び座論梅と稱する名木あり。〔善導寺〕 浄土宗。悟眞山光明院と號す。文禄年中眞蓮社實譽發徹上人が當國に創建せる同名五箇寺の一なり。初め新町にありしを、明治二十一年、三轉して現地に移る。境内に海内名筆の一なる知足院源應上人の碑あり。〔泉龍寺〕 寺町にあり。曹洞宗。洞永山と號す。文治五年の創建に係り、藤原秀衡の室泉の方（泉法尼）を開基とすといふ。いま境内にその廟あり。〔大信寺〕 寺町にあり。眞宗本願寺派。清涼寺山と號す。新田義貞七代の孫了玄法師の開基に係る。佛堂安置の聖德太子像は親鸞聖人の作なり。〔天正寺〕 曹洞宗。鶴足山と號す。文明元年蜂椿長老の開基に係る。舊寺領十七石五斗餘を有せしと。〔崇覺院〕 鶴川にあり。曹洞宗。慶長十九年蟲ヶ崎城主志村九郎兵衛の開基に係り、崇覺和尚開山の地たり。九郎兵衛父の歿後家督を相續して酒田城代となり、慶長十九年事を以て鶴岡城代新關因幡守に殺さる。仍て遺骸を酒田に送り當寺を建立して之を葬る。〔龍厳寺〕 新義眞言宗智山派。酒田山と稱し、文明年間宥遍上人の草創に係る。元和年中に落主酒井家の祈願所となり各宗の首班に列す。本堂に行基作の釋迦如來を安置す。〔林昌寺〕 千日堂前にあり。浄土宗。鶴護山と號す。草創年代不詳。天文年中發源上人羽前國にありし一宇を酒田上野山に移すと云ひ、或は顯學上人の開祖なりとも傳ふ。二世發鶴上人の時大旱あり、仍て領主武藤氏上人に雨乞の禱を請ひしに忽ちにして效驗あり。正親町天皇嘉賞して勅願を賜ふ。爾後三度焚上せしも嘉永年中再建成りて現在に及ぶ。

【酒田縣】 明治四年十一月、羽前國大泉縣と羽後國松嶺縣とを廢して本縣を置き羽前國田川郡及び羽後國飽海郡を管せしも、明治八年八月には治所を鶴岡に移し鶴岡縣と改稱す。翌年八月之を廢して山形縣に入る。

【酒田村】 神奈川縣相模國足柄上郡の中都。酒匂川の山地より平地に出づる所に位し、東は吉田島村を距て松田町に隣る。東西約一・五粁、南北約四粁の南北に細長き形狀をなす。本村は酒匂川地溝帶の北部に當り土地低平、北境を酒匂川東に流れ濫觴の便よく水田發達す。生業は殆ど農業にして米・麥のほかに甘藷・馬鈴薯・大豆・小豆等を產し、養蠶も亦副業に行はる。省線御殿場線は酒匂川の對岸を走り、松田町にバス通じ、松田町より は社線小田原急行鐵道の便あり。この地は和名抄、足上郡四本郷の地なるべく、近世は足柄上郡苅野庄に屬す。江戸時代は大久保加賀守忠眞の領内たり。いま延喜・中之名・金井島・圓通寺・牛島・岡野・宮ノ臺の舊七箇村より成る。〔酒田神社〕 大字宮ノ臺に鎮座。郷社。祭神、吉備津日子命。創立年代詳かならず。古來當村及び中島の鎮守たり。もと八王子權現と稱し、明治元年田居神社と改め、同四十二年更に酒田神社と改稱す。例祭、七月十五日。

サカタ　賞多

伊豫國（愛媛縣）の古地名。和名抄濃浦郡の條に賞多郷あり。高山寺本は散賀多と訓ず。中世は佐方保に屬す。保名は詩永三年の文書に見え、賀茂別雷社領の一なり。蒲智郡魚岡村の大字佐方はその遺稱なるべく、蓋しこの邊ならん。

サカタニ　酒谷

【酒谷川】 宮崎縣南那珂郡にある川。那の西北部酒谷村中部山谷の水を蒐めて東流し、飫肥町の中央を過ぎり、飫肥平野を東南に緩流し河口邊にて廣手川と合して海に入る。流程約二五粁。

【酒谷村】 宮崎縣日向國南那珂郡中部の西偏都城市の東南にあり、其間に北諸縣郡三股村を隔て、東は飫肥町に隣り、北は北郷村、南は細田村・梶原村及び大東村と界す。略東南より西北に細長く、面積八六・一六方粁を占む。南那珂山塊の東斜面に當り、西北境に櫛岳（九五二米）、東北界に小松山（九八九米）、南境に男鈴山（七八三米）等ありて山地多く、中部東西に谷地ありて酒谷川東に流れ、飫肥町を過ぎて日向灘に注ぐ。川に沿ふ幅狹き低地には斜地拓け米・麥を產し、山地は溫暖多濕なる氣候の影響をうけて森林よく繁茂し木材・木炭の產多し。東方飫肥町より來る道路は酒谷川の谷に沿ひて南に走り西境の牛ヶ峰（六八三米）を越え三股村を過ぎて都城市に通じ、省營自動車都城線の通路をなし交通不便ならず。此地古くは和名抄、宮崎郡飫肥郷の内に屬せしものの如し。いま村内に酒谷城址あり。此城を繞りて屋々島津氏と伊東氏との爭鬪行はれたり。尙、酒谷川の水を以て酒（ドブロク）を醸造するときは良酒を得るを以て酒谷と名付くとの傳說あり。

〔酒谷城〕 村内酒谷川畔に其址あり。東

西は平田、西南は高畑に接す。要害堅固にして四面壁立高さ三五米餘、城上深堀を通じ四圍に分つ。創築の年代詳かならず。日向記に依れば、文明の頃島津氏の所轄、和泉證統守之を守る。のち永祿五年伊東氏の有となり平賀某に落合加賀守を副將として之を守らしむ。同年九月島津忠親橋間より襲ひ之を恢復し柏原當麓守をして守らせしが十一年再び伊東氏の領となり長倉淡路守城主となる。天正五年伊東氏敗後に走るに及びまた島津氏の有に歸し、のち十一年を經て天正十五年に至り伊東氏飫肥に封ぜられ初め川崎權助を置きしが以後城主不明。後年伊東氏の臣將山田医得を酒谷地頭となし當城に置くに及び以來陸人敢て駐屯せず。元和偃式一國一城の令出づるに及び廢毀す。

サカダニ　阪谷村　福井縣越前國大野郡の中部。九頭龍川の右岸に沿ひ、北は平泉寺村、東と東南は五箇村、西より西南へかけては川を隔てて富田村と界す。白山火山群の一峯經ヶ俣(一六二五米)東北境に峙ち西南に向ひて傾斜し中腹以下山林多し。西南部は段丘となりて大野盆地に臨み九頭龍川岸にかけて田畑よく拓く。農産は米を主とし蠶繭草・薪・里芋等あり、山地よりは木炭その他の林産を出す。勝山町及び大野村に至る縣道村の西部を通じ大野町へバスの便あり。之より分れたる一條の山道東南境の桃木峠を經て五箇村に至る。大字南六呂師は縣下唯一のスキー場、また本村東部の丘陵は俗に向山と稱せられ鄙謡の名所たり。村名阪谷は古く庄名にも呼ばる。いま五箇村と組合村をなし本村に役場を置く。

サカテ　坂手　【坂手村】　三重縣志摩國志摩郡の北方海上にある坂手島を占む。坂手島は鳥羽町との間約一粁を隔てたる東方海上にありて東西約一粁半、南北約一粁、面積〇・六八方粁。東に菅島、東北に答志島あり、高度約一〇〇米の山地ありて四方に傾き殆んど平地を缺く。南岸の小低地に集落あり。漁業を主とし人口密度二・七二六人に當る。鳥羽との間に船便あり。古へは和名抄、答志郡答志郷に屬せりと、小島なれど漁家古くより多し。一名を千賀島といふ、往時鳥羽の邑主稲氏、入港の舟に課稅して帆別錢一千貫文を數へたりと傳ふ。

【坂手】　大和國(奈良縣)の地名。萬葉集に坂手の名見ゆ。古く平城京より熊鳥に至る通路に當る。日本書紀、景行天皇五十七年の條に「造二坂手池一、卽竹溝之其堤上に」とあるも同地なり。いま磯城郡川東村に大字坂手・南坂手あり。蓋し此邊とす。萬葉・一二「幣帛を　賜より出でて　……坂手を過ぎ　石走る　甘南備山に　鹿宮に云々」

【坂手池】　↓川東村(奈良縣磯城郡)

【坂手村】　香川縣小豆郡(小豆島)の東南端。北は苗羽・安田兩村に接し、西は三都村に對し、東南は遠く淡山・讃岐を望む。南に突出せる半島と之より略直角に西に支出する半島とより成り、其の間に坂手灣を抱く。前者は坂手半島(甚石山半島・或は大角崎半島)、後者は田浦半島(長約四粁)にして、内、海灣の外堤をなす。半島は大部分山岳より成り、前者の北部には牟山・洞雲山聳立し、後者は地形學上の所謂陸繫島にして、三重の複合より成る。先端部は高き八二米の丘陵をなして褶現崎と云ひ、約一・五粁の海峡を以て内海灣口を抱す、次は一八六米の丘陵をなし、西麓に田ノ浦・切谷の二開析谷を有す、更に堀越の陸繫部の砂濱によりて坂手半島に續く、この陸繫部たる砂濱の南に坂手港あり。坂手半島先端東側には風の子島、西側に小島横はる。地質は牟山・洞雲山は集塊岩より成り、兩半島の先端には花崗岩質露はれ、他は何れも深成岩たる閃綠岩質より成り、風の子島は花崗岩、小島は安山岩より成る。地域内は大部分山岳にして平地少きを以て農業を主とすと雖、米麥の産少く、畑作として重に甘藷の栽培し、近時は果樹の栽培に努力しつつあり、小豆島一般と同じく醤油の製造も發達す、然れども坂手沖は備讃海峡と共に鰯の漁場をなし漁業盛にしてその産額小豆島中屈指の地位を占む。坂手港は水深く自然の良港をなし、村の東南端大角鼻には燈臺の設あり、内海に於ける主航路に當り、中國航路の汽船並に高松・大阪間の汽船の寄港もあり、旅客・貨物の來往頗繁、出入船舶二萬七千噸、移出入價額一百六十萬圓(移出四十五萬圓・移入一百二十萬圓)に及び、重に水産物(鮮魚約十萬圓・乾魚三千圓)・醤油(約三十萬圓)を阪神地方に供給し、豆(四十五萬圓)・食鹽(三十七萬圓)・麥(十五萬圓)・米等食料品を初め、絹織物(三萬七千圓)・礦油(三萬三千圓)・砂糖(一萬餘圓)等日常品・燃料等を高松港を初め、内海諸港並に朝鮮より移入す。此地はもと草加部郷十四箇村の一部にして坂手・田浦・堀越・吉江諸村皆之に屬せしが、明治十二年五月坂手外二箇村(堀越・田浦)戸長役場を置き、同十八年一月坂手村外四箇村(苗羽・吉江・堀越・田浦)戸長役場となり、廿三年二月市町村制實施に際し獨立し本村を置く。村には牟山觀音寺・洞雲山等の名勝あり、何れも奇岩の勝を以て知られ、岩窟内佛堂を奉安、牟山の如きは珠に眺望の佳、櫻花の勝、寒霞渓と共に天下の勝地なり。〔仙餘寺〕　洞雲山と號し一に大師堂と稱す。弘法大師の開創に係り、往昔は七堂伽藍備はりしが元亨の兵火に炎上す。現堂宇は慶長年間の再建に係る。小豆島八十八所中第一番の札所なり。〔觀音寺〕　觀音宗御室派。自性院と號す。弘法大師の開基にして、慶長年間の再興に係る。本尊千手觀世音は弘法大師の作と傳ふ。

小豆島八十八所中第三番の札所。

サカテ　坂手村　茨城縣下絶國北相馬郡の西北部。鬼怒川下流の西岸にあり。西は菅生村、南は内守谷村、東は川を隔てて小絹村及び結城郡水海道町、北は猿島郡神大實村と隣る。面積七・七九平方粁。關東平野内の一部を占め、全村平地にて略ど烟地をなし、所々林地を交へ、南部には水田畦に拓け、全戸數三二四戸中、農二二八戸、商四二戸、工二七戸、其他二七戸(昭和十二年度統計)にして、農産は米・小麥・大麥等あり。東隣水海道町なる社線常總線道の水海道驛、小絹村内の同鐵道小絹驛に近く交通不便ならず。本村の開發は神護景雲年間に係り、當時は榮天ノ郷と稱したり。然るに天慶年中これを坂手と書するに至れり。思ふに、當時事に當りし者、榮天を坂手と誤記し、後それを改むることなく今に至りしものならん。村内に坂手碧址あり。古く長東民部なる者の築くところにして、後に下妻城主多賀谷重經のために攻略せられ碧を廢す。今猶ほ僅にその殘壘遺陰を認め得と。

サカト　尺戸　【尺度】　相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に鎌倉郡尺度郷あり、その地、今の鎌倉郡大船町・本郷村の邊に當る。

【尺度】　河内國(大阪府)の古地名。和名抄に古市郡尺度郷あり。蓋し、南河内郡古市町大字輕墓、西浦村大字西浦の邊なるべし。丹比坂の義なり、坂門の義ならん。續日本紀天應元年七月の條に「河内國言、尺度池水、以今月十八日、自レ巳至二晡時一、變成二血色一、其臭甚穢、長可二二町餘一、廣可二三丈一」と見ゆる尺度池址はいま詳かならざるも、西浦村大字尺度の邊か。同村大字西浦には清寧天皇の御陵河内坂門原陵あり。

【尺度】　伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に汗入郡尺度郷あり。今詳ならず。一に尺度は坂處にして、西伯郡逢坂村にもと大阪にも作り、名稱相似たるにより此地ならんと云ふも確に信じ難し。

サカト　坂戸　↓六日町(新潟縣南魚沼郡)

サカト　坂門　【坂門】　常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄、新治郡の條に坂門郷あり。此郷は中世中郡に入りしがのち西那珂郡の管下となれり。いま西茨城郡の西端岩瀬村の邊に當り、岩瀬村の大字西飯岡の坂戸山に宇都宮氏の旅小宅氏の據りし坂戸城址あり。

【坂門】　大和國(奈良縣)の古地名。和名抄、平群郡の條に坂門郷あり。今の生駒郡三郷村大字立野の邊に當るが如し。龍田越の入口に當るより此名起りしものなるべし。古くは饒速日命の從者坂手天物部の居りし處か。

サカト　酒人　攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に東生郡酒人郷あり。酒人は蓋し坂庵の義なるべし。今の大阪市東區上町丘陵の邊を指ぜるものか。

サカド　坂戸町　埼玉縣武藏國入間郡の北部、川越市の西方約九粁にあり。東は勝呂村、南は鶴ヶ島村、西は大家村・入西村に接し、北に比企郡高坂村と隣る。面積九・二五平方粁。關東平野の西端の一部を占め、北境を荒川の支流、越辺川東流す。全町土地平坦にて、西半の大部は水田、一部は桑畑をなし、東半に畠地にて畑地・林野をなす。農産に米・麥・甘藷等あり、また養蠶行はれて繭を多産し、製糸工場ありて生糸を出す。道路は東南は川越市、南は豐岡町、北は松山町を經て熊谷市方面に通じ、また社線東武鐵道東上線(電車)は川越市より來りて坂戸町驛(大正五年開業)を置き、驛は越生鐵道線(至越生)の分岐點をなし、町内交通の便よし。この地は和名抄、入間郡麻羽郷の地にして、康平年間、坂戸判官敦明といふ者居住せしにより地名に轉じたるものなりといふ。大字淺羽は即ち淺羽本郷とも稱すべき所にして、兒玉黨の一派淺羽の居りし處にして、東鑑・太平記に見ゆる淺羽氏も此地の人ならんか。古は附近一帶淺羽原と稱する原野なりしと覺しく信濃の淺羽と共に古歌多し。大字粟生田には有道氏の族兒玉黨粟生田氏の居りし處。大字上吉田・月輪は密接の關係ありしものなるべく月輪の小字に下吉田と稱する處あり。小田原北條役帳に出ず八賀百九十八文、河越吉田郷、太田大膳亮と見ゆ。片輪は和歌の名所なり。回國雜記に「ひとしほの緑になびく糸ばげに春のくるてふ片柳かな」片柳新田及び關間新田は共に享保年代の開墾地なり。この地は江戸時代には川越領・柴地・支配地殆ど錯綜せり。柴地・支配地は明治元年知縣事、二年品川縣・重山縣、川越領は二年川越藩、四年川越縣、兩して同年全村入間縣(五大區三小區)となり、六年熊谷縣、九年埼玉縣、十二年入間高麗郡役所に屬し、十七年坂戸外六箇村聯合となり、二十二年七箇村を合して坂戸村となり、二十九年末所割を布く。

サカド　酒門村　茨城縣常陸國東茨郡の東部。水戸市の東南隣にあり。東北は上大野村、東は稲荷村・大場村、南は石崎村、西は吉田村と隣る。面積一七・〇〇平方粁。村内大部分は低き丘陵性臺地ななし、最高處も二八米に過ぎず。畑地多く、所々林地を交ふ。北部及び中部の丘陵間の低地には田地あり。陸稲・麥類・蒸煙草・豆類を產し、農家多きもまた水戸市に近く俸給生活者もかなり多く純農村とは云ひ難し。水戸市より磯濱町に至る縣道、また南隣石崎村に出づる道路もありて交通不便ならず。此地古くは和名抄、那珂郡吉田郷に屬せしものの如し。酒門は古く坂戸・酒戸に作り安貞二年吉田計算神注には酒戸郷と見ゆ。天保十二年三月二十一日藩主德川斉昭公、本村千

東原に於て始めて追鳥狩の式を行ふ。元治元年甲子六月その本陣跡に公の靈を祀る。土人これを烈公ノ社といふ。明治元年水戸市に常盤神社の創建せらるゝや、當社も亦常盤神社と稱す。〔善重寺〕大宇酒門にあり。眞言宗大谷派。通照山光明院と號す。貞永元年親鸞の弟子廿四輩の第十二久慈善念常陸國櫻川に開創す。のち衰頽せしを天正十三年再興す。天和三年三轉して現地に移る。太子堂に安置せる聖德太子立像（木造）は童子像にして鎌倉末期の作と推せられ現に國寶たり。〔寶藏寺〕谷田にあり。新義眞言宗豐山派。佛國山と號す。創建年代不詳。往時細谷村にありて鏡德寺末なりしを、天和三年領主水戸光圀の命にて現地に移り、寶鏡院末に轉ぜしものなりといふ。本尊日大に如來なり。

サカナイ　坂内　↓大河内村（三重縣）

サカナガ　坂長　備前國（岡山縣）の古地名。和名抄に和氣郡坂長郷あり、佐加奈加と訓す。延喜式に「備前國坂長驛馬二十疋」とありて、播州野磨驛より舟坂山を越え此處に至りしもの。今の和氣郡三石村に當る。

サガナカ　相樂村　京都府山城國相樂郡の西南部。木津川の左岸に位し、木津町の西に隣り、東北は川原村、西は山田荘村、南は奈良縣生駒郡平城村と界す。西積六・三七方粁。西北部及び西南部に高さ約一〇〇米程度の丘陵ありて東に傾斜し、東半部は木津川の屈曲部に當りその沖積低地の一部を占め、山田川東流し耕地拓けて米を主とし蔬・麻等を產す。府道・東部低地を南北に走り途中之より分れて東隣木津町に至るものあり。社線奈良電鐵の新祝園・山田川兩驛、省線片町線の祝園驛、關西本線の木津驛等にも近く交通不便ならず。古事記垂仁段に、丹波の國野部、相樂に至り、顯の醜きを恥ぢ樹の枝に懸りて死なんとす、故に其地を號して懸木といひ、今は相樂と云ふとあり。和名抄相樂郡相樂郷の地にして郡家のありし處なるべし。延喜式に相樂神社あり。朝野群載に伊勢齋王歸京の際、奈良を過ぎて相樂頓宮に至るとあるも此地を云へるものなり。東大寺要錄には相樂荘に作る。大字吐師には藤原百川の墓と傳ふるものあり。萬葉・三、死せる妻を悲傷みて高橋朝臣作るの歌に「朝霧の　妻屋に　なりつつ　山城の　相樂山の　往き過ぎぬれば　言はむすべ　鶯むすべ　知らに云々」とあり。相樂山は一に奈良坂或は歌姫越ともいふ。相樂は古事記にてはサガラカと訓じ、和名抄は郷名に佐加良加と訓註す、其後或は又サガラカを約めてサガラとも呼び來りしが今に村名サガラカと訓じ、郡名はサウラクと呼ぶ。〔相樂神社〕大字相樂に鎮座。村社。祭神、足仲彦命・譽田別命・氣長足姫命。創建年代詳かならざれども延喜の制に式内小社に列す。明治十年中古より稱呼せられし八幡宮の社名を改め舊稱なる現社號に復す。社殿は本殿　拜殿・舞殿・氏子詰所・四脚門等を具備し、境内四千三百九十餘坪を有す。本殿は三間社流造、屋根の勾配緩く、檜皮葺に經紳の感を與へ、その流れの線は快活の委致に富む。室町中期に於ける三間社流建築中の白眉なり。現に國寶たり。〔相樂墓〕大字相樂にあり。藤原百川の墓。夫人の墓も亦其墓域内にあり、之を後相樂墓と稱す。百川、寶龜十年七月薨ず。淳和天皇の外祖父に當る故を以て荷前に預り、延喜諸陵式に遠陵に列し、贈太政大臣一位藤原百川、淳和太上天皇外祖父、在三山城國相樂郡、兆域東西三町、南北二町、守戸一烟」とあり。延暦十六年相樂郡の田二町六段を賜ひて百川の墓地となす由日本書紀に見ゆ。〔法泉寺〕古義眞言宗。草創年次沿革等不詳なるもいま仁和寺に屬す。寺寶中木造十一面觀音立像一驅は藤原期の作に係り現に國寶たり。

サカナシ　坂梨村　熊本縣肥後國阿蘇郡の中部。阿蘇谷の東部に位しき根子（猫）岳・高岳の北麓を占む。西は宮地町、北に古城村、東は波野村、南は根子岳の南側なる色見村と界す。面積二三・二九方粁。東南隅の根子岳（一四〇九米・西南隅の高森（一五九二米）より北方へ傾斜し、東境は阿蘇山の東部外輪山にて、西側に急傾斜して懸崖をなす所あり。西北隅のみは阿蘇谷平野の一部にて土地平坦なり。此平坦地には耕地よく拓け、農產には米を第一とし、繭・茶・玉蜀黍もあり。熊本・大分往還は東西に、宮地・高森間の縣道は南北に通じ、前者にはバスの往來あり。また省線豐肥本線は熊本・大分往還の南を走り、迂折して外輪山を上る。その宮地驛（宮地町古神）へは西方約二粁を隔て交通不便ならず。此地古くは和名抄、阿蘇郡阿蘇郷に屬す。藩政の頃には今の宮地町・古城村・中通村・坂梨村の地を總て坂梨手永（又は上手永）と云ひ、會所を設けて總庄屋これを統治せり。明治四年頃大區小區を設け、阿蘇郡を第十一大區とし坂梨手永を第三小區と改稱し、大區に區長を置き、各村落に里正役場を置き、里正專ら村政を行ひ、また部落には用係ありたり。六、七年頃より小區の廢合分離行はれ、里正を廢して戸長に換へ同二十二年町村制施行の際に現狀の如くなる。本村には上手永の會所（今の字北紙原の地）ありて會所内には賈部屋と稱する建物ありたり（年貢の品よきもの）。これは年貢米の上納出來ざる者を人質として此部屋に入れ、鬻なひ等の勞働を以て年貢米未納の償ひとせり。五人組（年貢組合）なるものありて、其うち一人が人質とされ賈部屋に行くを互の不名譽なりとし、貸元となりて年貢の都合をつけ當人を賈部屋より請出すといふ無味ある年貢取立の法も行はれたり。村

内の濃家坂は、明治十年戰役の際、薩軍二重峠の戰に勝ち東進して此處に屯せしが、東京の警視隊長增田權少警視巡査隊を率ゐ來るに遭ひ、大いに打破られし所なり。いま本村の地は全部阿蘇國立公園に屬す。

サカニシ　坂西　栃木縣足利郡にあり。明治廿六年本村を廢し、大字山下・大前を以て山前村を、大字五十部・今福・大岩を以て三重村を新設す。

サカネ　坂根　省線藤備線の一驛（昭和五年設置）。岡山縣阿哲郡神代村にあり。

サカノ　坂野村　德島縣阿波國那賀郡の東北端。東は紀伊水道に面し、西南は立江町・羽ノ浦町、東南は今津村に接す。村の東北部は牟島ななして北方に突出し、西は勝浦郡小松島町に對し、その間に小松島灣を擁す。那賀川・勝浦川の沖積作用と沿岸潮流による砂洲の爲に成生せる謂はゆる南方平野の一部を占め、到る處平坦にして田・畑よく拓け、農業榮えて米・麥の產多く、また蠶繭を出す。大字坂野は村の主邑にて道路四方に通じ、また小松島町・福井村を繋ぐ省線牟岐線の阿波赤石・立江・羽ノ浦の諸驛にも近く交通不便ならず。和名抄に那賀郡坂野郷あり。また阿波續古錄抄、建久二年の文書には坂野庄と見ゆ。蓋し村名はその遺稱にして、本村及び立江町・今津村等は坂野郷或は坂野庄の地に當るか。村内に法華經塚あり、傳ふる所に據れば、天正十年富岡城主斎開遠江守の長曾我部元親に謀られて斃るゝや、其遺子城中第一の寶物たる法華經を携へ、僅に免れて此地に至りしも、遂に其逃るべからざるを知り地を掘りて法華を祕め愛馬と共に斃るゝと、いまその側に馬頭觀音の石碑あるもこれがためなりといふ。〔和田島ノ根上り松〕指定天然記念物。大字和田島春日神社社殿北方の松林中にあり。著大なる一株の黑松にして根上りの高さ地盤より三米餘なりしも、盛土を行ひしため今に約一・八米に減じ、根と幹との境界線の周圍約五・八米、根廻り約二〇米、幹の高さ約三〇米にして德島縣下の根上り松中最大のものなり。根幹境界部よりは八本の太き根を横に出す。〔坂野ノ根上り松〕指定天然記念物。大字坂野の小學校庭内にあり。松は九株ありて其最も根上りの高きは約三・三米、本樹に根と幹との境界部の周圍約四米半に達し、太き根の基部の周圍三米に及ぶものあり。

サカノイチ　坂ノ市町　大分縣豐後國北海部郡の北部。佐賀關半島頸部の北側を占め、北は別府灣に臨み、西は小佐井村、東は神崎村、南は上北津留村と界す。南境に樫ノ木山脈東西に連り、地勢北方へ傾斜し、北半には沖積平地あり。海岸は概れ平直なり。北部平地に水田よく拓け米の產多し。佐賀關街道此低地を東西に走り西北部にて分岐する一縣道は西境に沿ひて南下し、山嶺を越えて臼杵町方面に通ず。省線日豐本線北部を東西に走りて町の西北隅に坂ノ市驛（大正三年設置）を置き交通便利なり。また附近の洪積層より得らるる粘土は瓦・土管等の窯業の發達を見、土管十萬箇（一萬圓、全縣の八三%）、瓦三百萬枚（七萬圓、全縣の五六%）を產し、九工場あり。最近は煉瓦の製造も目立ち、產額の上からは大工業として擧ぐる程のものならざるも特色ある一地域を爲す。古くは和名抄海部郡佐加郷に屬す。明治四十四年佐賀・市の二村を合して佐賀市村と稱し、大正八年町制施行の際現町名に改稱す。此地は地名の示すが如く市場町として發達したることが窺はれ、現に殘存して有名なる万弘寺市（物々交換を行ひ遠く京阪地方より多數の商人入込み、又附近の老若男女蟻集し全町雜閙を極む）も之を裏書きする一證とするに足るべし。又古くより宿場町としても重要なる地位を占めしも、汽車・自動車の發達と共に宿場町としての特色は失はれ附近農村の經濟中心地として發達し來れり。〔本田神社〕大字木田に鎮座。縣社。祭神、大己貴尊・伊弉諾尊・伊弉冉尊・菊理姫命。社傳によれば、天武天皇白鳳二年勅許の上、王城鬼門の鎮護として近江國坂本神社の分靈を勸請、創祀すといふ。例祭、十月九日。

サカノイチ　佐賀市　大分縣北海部郡にありし村。大正八年坂ノ市町と改稱。

サカノエ　坂上・坂ノ上（さかのへ）

【坂上】　遠江國（靜岡縣）の古地名。和名抄に濱名郡坂上郷とあり、高山寺本にはこの郷名を缺く。名稱は坂上忌寸の族の居りしより起りしものならん。室町殿日記文安二年に濱名郡坂上郷の名見ゆ。その地今明かならざるも、後に敷智郡の中に入りたる西濱名村（いま引佐郡三ヶ日町）に本坂峠あり。坂上郷は其東麓附近を稱せしものにていま三ヶ日町の西部より濱名郡の知波田村に亘る地方ならん。

【坂ノ上】　香川縣木田郡にありし村。大正十一年四月川島町と改稱。

サカノシタ　坂下村　熊本縣肥後國玉名郡の略ぼ中央部。高瀬町の北方約八粁、南關町の南約六粁に位置す。北は賀木村・大原村、東は川浦村、西南は春宮村に隣す。面積一〇・八九方粁。村の大部分は高さ一〇〇—二〇〇米豪の臺地性山地をなして北方へ緩傾斜し北部東西に幅狹き低平の地あり。この低地に田地・畑地よく拓け米・麥・繭を產す。鹿兒島街道北隣の南關町方面より來り北部に入りて東南に通じ、バスの往來あり交通不便ならず。古くは和名抄、玉名郡大水郷に屬し、中世以降白間野庄と稱せらる。いまは畑地となれるも、もと坂下城あり。卽ち俵藤太の後裔、白間野太郎宗郷の築くところにして、その子能登守邦郷

相繼ぎて在城す。宗鄕の先祖何れの頃に下向ぜしか詳かならざるも、臼間野庄の内百七十町を領し在名を以て家號とすといふ。

サガノセキ　佐賀關

【佐賀關牛島】　大分縣の東部別府灣の東南に位し豐後海峽に突出す。九州の山地は此處にて一旦海中に沈みて豐後海峽を作り、東方の佐田岬となりて現はれ四國の山地に續く。牛島の先端偏れ、その地・狹部の北側に佐賀關港あり、これに面して佐賀關町を控へ、瀬戸内海の出口を扼し古來要害の地とさる。永平天慶の頃、藤原純友の據りし所と傳ふ。牛島の突端を地藏ヶ鼻と稱し、關崎燈臺あり。日豐線牛島の驛部をほぼ南北に横斷し、北方別府港より南の臼杵町に通ず。

【佐賀關海峽】　また豐後本道とも豐後海峽ともいふ。佐賀關牛島の東端地藏ヶ鼻（關崎）と對岸伊豫佐田岬との間の海峽。幅一二・四粁。神武天皇御東征の際の蓮殿名門（蓮戰門）は卽ちこれなり。

【佐賀關町】　大分縣豐後國北海部郡の東北端。佐賀關牛島の先端部を占め、北は別府灣、東南は臼杵灣に面し、西は神崎村及び一尺屋村に隣る。縱ノ木山脈の東北端部に當り全村低き山地をなし、中央部は南北より浮き灣入ありて幅約三町の狹き地峽部をなす。北面の灣奥なる佐賀關港は水深く良港灣をなす。町の東北端を地藏ヶ鼻といひ近く高島の屬島あり、遙に愛媛縣の西端なる佐田岬と相對し、その間に豐後海峽を挾む。岬上には關崎燈臺（不動白光、光達距離二二浬）設けらる。交通は海は大分・大阪線、門司・宿毛線の定期航路のほか臨時に入港する船舶もまた多く、陸は大分市との間に定期自動車間斷なく通ひ、最近幸崎との間に省營バス（大分縣最初）通じて鐵道と連絡し海陸ともに便なり。而して爾來四國へ渡る要地として、また瀬戸内海の一關門として交通の要地なるため今は要塞地帶となり、その司令部ここにあり。產業は後背地が古き結晶片岩の絕壁の山地なる事と、牛島の遠く海中に突出して漁區の廣きためとから以て農業は振はず、水產業及び其加工業を主生業とす。水產物は鹽・鯛・烏賊・鰺・鰤等にして年額七〇—一〇〇萬圓（全縣の九%）を產し、水產製造物は練詰、鮑・榮螺その他）・干鰯その他合計一五〇萬圓餘を產し、榮螺の練詰の如きは四十五萬圓にも及び全國第一位を占む。大正四年製鍊所設置以前に於ては水產業は實に佐賀關の生命なりしことは論を俟たず、前記水產物は今尙ほ阪神・大分・別府等へ多大（各港へ一萬六—七千圓）に輸送せらる。殊に水產製造物は遠く基隆・大阪・門司・神戸等へ輸送せらる。然し佐賀關が今日あるに至りし事は前述の交通の要地・水產業の中心地たるのみにあらずして、製鍊所が設けられ一躍天下の鐵業都市となりし點にあり。製鍊所と何等關係のなかりし大正元年頃の人口が七千餘にして現人口の約二分の一なるを以てしも容易に首肯し得る。製鍊所が此地に設けらるるに至りし理由は、一、上浦港を控ふる事、二、本邦西部諸鐵山の鐵石及び物資の集集運搬に便なる事、三、動力供給に豐富なる事、四、地勢上爆害の憂ひなき事等にして、工事は大正五年に着手され同六年に完成せしものなり。工場は諸條件より市街北東の谷間に造られ、四、三〇〇アールの大區域を占め、四臺のクレーン、構内に縱横に敷かれし電車及び無端索道、東洋一を誇る一六七・四米の大煙突、其他夥多の製鍊、電氣分解の設備は稀に見るところなり。命は日本第二位、銀は第三位、銅は第五位（鑛山別）なり。佐賀關港は水深く浪靜かなる天然の良港にして、其貨物移出入額は移出八百七十五萬圓、移入一千八百二十萬圓、計二千七百萬圓に達し、本縣に於ては大分港に次ぐ重要港灣なり。移出品は製鍊所製品及び海產物が主にて、移入は鐵石及び粗鋼その他を主とす。此地古くは和名抄、海部郡佐加郷に屬せしものの如し。太古神武天皇御東征の砌、珍彦命、皇師を此地に迎へ奉りたりといふ。肥後國志に據れば、佐賀關明神社の社記に、藤原純友叛逆の時、海上を制止し、此地にて官物私物の船舶を遏止せし故に關の名起るといふ。此地は元來海上の要地なれば遠く外邦にも其名聞え、明人の誌せる武備志圖書編の類にも其名見ゆ。筑紫軍記に大友宗麟入道領國の時此地へ一人の美少年秋吉といへる者來りしも何れより來りしを知らず。關吏大鵬鐵康これを捕へて臼杵鐵逵にこの由を告げしに鐵逵は毛利氏の間者なるを悟り之を誅すといふ。また慶長五年關ヶ原役には中川氏（竹田）の兵と太田氏（臼杵）の兵と此地を爭ひ、十月十四日激戰ありて中川の將田原親賢入道紹忍及び中川平左衛門長佐以下多數戰死し、其慈いま村内にあり。（佐賀關鑛山）佐賀關町にある銅硫化鐵鑛山にして大日本鑛業會社に屬す。鑛床は三波川系に屬する綠泥片岩・石墨片岩等の結晶片岩と蛇紋岩との間に挾りたる層狀含銅硫化鐵鑛床にて昭和三年七五一瓲、同四年一九一瓲の鑛石を產し、銅約一・五%、硫黃約四〇%を含みしが、その後の產出詳かならず。鑛石は主として黃鐵礦と黃銅礦との破碎なる粒狀の集合にて佐賀關製鍊所に於て製鍊す。但し鑛山そのものは寧ろ小規模なるもの。而して佐賀關製鍊所の產銅は、主として他の鑛山よりの買鑛に依る。（佐賀關製鍊所）佐賀關町にあり。大正六年當時の久原鑛業會社の創設に係り、其後日本鑛業會社の經營に屬せり。本製鍊所の附近には同社の佐賀關鑛山あり、嘗て多少の銅硫化鐵鑛を產せしが、本製鍊所はこれを製鍊することが主にてはなく、同社に屬する西部日本諸鑛山產鑛石及び他の鑛山よりの買鑛を集中製鍊することを目的とせる一大開立製鍊所にて、例へば臺灣金瓜石產金銅鑛、德島縣東山產、高知縣白濱產等の銅鑛、大分縣場上、長原縣竹野等の金銀鑛は、何れもここにて製鍊せられ、昭和十一年の產額は、金四、七一二瓲にて內地第一、銀三一、八二六瓲にて同第四、銅一〇、九四七瓲にて、これまた足尾・別子・日立の三大銅山に亞ぐ。本製鍊所は佐賀關牛島の突角に近く海岸にあり、遠く臺灣・朝鮮等の鑛石をも海運によりて廉價に集め得るのみならず、製鍊によりて生ずる鑛煙も概れ海上に逸散するため、煙毒の被害少なきことが長所とし、尙ほその煙を處理するために、海上一三六米の丘上に、高さ更に一六〇餘米の大煙突を建て、その壯觀を誇る。

〔根根津彦神社〕　縣社。祭神、根根津彦命。創建年代詳かならざるも古社たること推知さる。豐後國誌に從へば、祭神なる根根津彦命は珍彦命の別名なれば、土俗誤りて宇津宮または珍宮とも稱すと云ふ。古來關村地主の神として土俗の尊崇篤し。例祭、四月二十五日。〔早吸日女神社〕縣社。祭神、八十枉津日神・大直日神・中筒男神・表筒男神・底筒男神・大地海原神。社傳に據れば大寶二年の創祀と云ふ。式內社。一に珍宮・六所宮・關權現と別稱せらる。大友氏の時に神田二十五貫を算へ、加藤淸正この地に就封の砌に新たに五十石の神領を定め、また日向延岡城主有馬氏は元和元年海上出陣の際、當社に戰捷を祈りて五十石の神領を加ふ。初め當社は角浦の高鳳湖（今の古宮村）に鎭座ありしも、昌泰年中に淸地現地に遷座せりと云ふ。例祭、七月三十日。〔福正寺〕大字關にあり。臨濟宗妙心寺派。關昌山と號す。創建年代不詳。往昔天台宗たりしが、中世芝廢せしを慶長昌禪師再興して現宗に改む。因て之を開山とす。慶長五年兵火に罹りて喪上、寛永年中忠和尙堂字を再建し南化國師を請じて中興開祖とす。〔正念寺〕大字關にあり。淨土宗。增上山廻向院と號す。天正十四年の創建に係り開山を西蓮社滿誉圓譽上人とす。寛永十一年了吟の時京都知恩院直末となる。近郷の一名刹たり。

サカノヒガシ　坂ノ東村

岐阜縣美濃國武儀郡の東部。岐阜市の東北方約四〇粁、北は菅田町・金山町、東は益田川を距てて加茂郡西白川村に對し、南は上麻生村、西は神淵村に接す。美濃山地中にありて準平原面殘る。西境には水晶山（六八九米）、南境には七宗山（七〇八米）ありて、古生層より成る。この山地は益田川によりて開析され、益田川は嵌入曲流をなして南流し環流丘陵を作る。南部にては白川を合せ、この益田川の谷を高山本線走りて曲流地帶をトンネルにて拔け金山町方面に至り、白川口驛（大正十五年設置）を開く。主生業は農・養蠶にして殊に養蠶盛んなり、また松茸の特產あり。本村は中世より坂ノ東と稱せらる。

サカハマ　坂濱

サカベ　坂部村

↓稻城村（東京府）

鞆岡縣遠江國榛原郡の南部。金谷町の東南約一〇粁、北は初倉村、西及び南は勝間田村、東南は川崎町、東は吉田村と界す。牧ノ原臺地の東南邊に當り、南北兩境には高さ百米臺の丘陵ありて東南に低傾し、中央に細長き平地ありて大井川下流の三角洲に續く。平地には米、臺地には茶の產多く、醬・酒產も少からず。縣道東南部を横斷し、南は川崎町、西北は金谷町、東北は藤枝町へそれぞれバスを通じ交通便利なり。往古の事に徵するに由なきも、江戸時代には三州鼻母藩主內藤丹波守・遠州掛川藩主太田備津守等の采地、及び曹洞宗石雲院の朱印地等に分屬したり。〔石雲院〕曹洞宗。高尾山と號し、治承三年の創建にして高倉天皇の勅願所なり。のち最明寺時賴寺領を附すと傳ふ。其後衰替せしを康正元年葛殿氏再興し、雲芝禪師を請じて開山とす。

サカヘン　——社

臺灣花蓮港廳花蓮郡にある蕃社。木瓜溪上流にあり、アタヤル族中のタロコ系に屬する高砂族の部落。本地方の高砂族はバトランゲ蕃とも稱せらる。今は木瓜溪下流地方の銅門、其他馬里橋方面に移住す。サカヘン駐在所は蕃中剃より花蓮港に通ずる龜高越の要路に當る。蕃社五戶。

サカホギ　坂祝村

岐阜縣美濃國加茂郡の南部。木曾川の右岸に沿ふ。北は加茂野村及び太田町、西北は田原村に隣接し、東南は可兒郡土田村、西南は稻葉郡鵜沼村、南は愛知縣丹羽郡城東村と界す。南部には迫間山（三〇七米）ありて迫間川東南に流れ、勝山にて木曾川と合流し、樋現山（一六二米）の分離丘陵をつくる。北部は加茂野の一部なり、水田・桑園・松林等散在す。主生業は農・養蠶業にして殊に養蠶業は全般的に行はる。また船頭（木曾川下り）及び瓦・刄製造等に從事する者あり。概して耕地面積頗る少きため、將來は觀光都市として發展せんとしつつあり。古く中仙道は鵜沼宿より山越に木曾川に沿ひ本村を過りて太田宿に至りしものにして、今猶殘る松並木に昔の面影を物語る。省線高山線はこれと並行して村內に坂祝驛（大正十年設置）を置く。本村は指定名勝木曾川地帶の一部を占む。昭和二年尾三濃大演習の砌、今上陛下には此地を御探勝遊ばされ、大巖上より「天下の絕勝なり」と御賞揚遊ばされたる由に傳え承る。されば永久に行幸を記念せんとの村民の念願により知事より「行幸巖」の命名あり。今附近一帶を御幸ヶ岡と稱し行幸記念碑あり。村名の起原に就きては、一、坂歩危にて路の危きによる、二、村內の延喜式內社坂祝神社より起り、その坂祝は酒倉の轉ならん、

三、酒部の音約りてさかほぎとなりしもの、四、塩木の意等の数説ありて何れも據る所あるものの如きも明かには指示し難し。大字勝山は加茂庄の内にして、元は猿喰と云ふ。永祿八年織田信長は此城を攻取り、それより勝山と改むと云ふ。今の城山(二六七米)に當る。此城は田原左衛門が築き住みしが、田原の一族多治見修理之を奪ひ十八年在城せり。かくて信長に攻められて落城し、河尻與兵衛秀隆居城することとなりしも後廢れたり。和名抄に各務郡大榛郷とあるは、大字大針の地にして字名はその遺稱なるべし。黒岩は中世蜂屋庄に屬し、深萱は中世深萱庄と云はれ、後に南蜂屋庄に含まる。また大字酒倉は一に坂倉とも書き、式内社坂祝神社あり。〔坂祝神社〕大字酒倉に鎮座。郷社。祭神、正勝山祇神。創建年代を詳かにせざるも、延喜の制式内小社に列す。康平五年、八幡太郎義家の勅を奉じて安倍貞任・宗任を討伐するに方り、その途次當社に詣でて戦捷を祈り、飄旋の後ほ山田時定を奉行として社殿を改修し且つ社領を寄進せりと云ふ。例祭四月三日。〔寶積寺〕臨済宗妙心寺派。大耕山と號し、寶徳年中の創建に係り佛智禪師を開山とす。のち寮替せしも泰嶺和尚再興す。

サカマ　酒井　上野國(群馬郡)の古地名。和名抄に甘樂郡酒井郷あり、この地今詳かならざるも北甘樂郡下仁田町の邊に當るか。一に多野郡神川村・中里村の邊に當るともいふ。

サカマキ　坂牧　群馬縣北甘樂郡にありし村。明治二十三年本村を小坂村と改め、更に昭和十一年小坂町と改稱す。

サカマチ　坂町　【坂町】新潟縣岩船郡保内村の大字。羽越本線の坂町驛(大正三年設置)あり、米坂線の接續點。

【坂町】大阪市南區内の町名。西に千日前と隣接す。江戸時代同場所の所在地。生玉心中・上ろうろ〳〵すれば長町藤の子供が見知つて、ありや〳〵東の雛波燒が坂町通ひ、柏屋通れば二階からちよいと招く、のつは是れ何としよと惡口いへば」南遊記・三「芝居の裏通りは幹不幹おち合所、坂町は場すじより千日前迄、兩側の軒に無ぜる掛あんだうのかげに立て、紋僕男の壁喘し、おやま番紋の盃り迎ひ、往來の寒風も往左來左になのがさまざまに」

サカミ　酒見　播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に賀茂郡酒見郷あり。今の加西郡北條町及び富田村なるべし。北條町に酒見神社あり。

サカミ　逆見ノ海　仲哀天皇の朝、岡縣主の祖熊鰐が邊地(鹿田)として奉獻せし海城。其地は今詳かならざるも或は筑前國遠賀郡岩屋崎の東北なる坂水か。日本書紀・仲哀天皇八年正月「幸二筑紫一時鳥偏主祖熊鰐、聞二天皇之車駕一、(中略)割二柴鳥・鳶一御厩一、以逆見海一爲二鹿地一」

サカミ　相摸　【相摸】陸奥國(陸前・宮城縣)の古地名。和名抄色麻郡の條に相摸郷あり、その地今詳かならざるも加美郡廣原村の邊に當るか。蓋し靈龜元年五月「移二相摸・上總・常陸・上野・下野六國富民千戸、配二陸奥一焉」とあり、此處に相摸の名あるは正しくその相摸國の移民の遺稱とす。

【相摸】→相模國

【相摸峯】相摸國(神奈川縣)の歌枕。今の中郡大山町の大山を稱せしもの。一に雨降(阿夫利)山ともいふ。萬葉・一四、相摸峯の小峯見過ぐし忘れ來る妹が名呼びて吾を哭し泣くな」

【相摸】甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に都留郡相摸郷あり、延暦十六年紀に甲斐相模兩國が國界を爭ひ、使を遣し都留郡鹿留村東砥澤を以て界となし、西を甲斐となし、東を相模となせりとあるは卽ち此地にして、郷域は今の神奈川縣津久井郡小澤村・名倉村及び之に接する山梨縣南都留郡上野原町・鳥田村の邊なるべし。また一に南都留郡道志村の邊なるべしともいふ。

サガミ　相模　【相模村】山形縣刈前國東村山郡の南部。東方山形市との間に南村山郡楯澤村を挾み、南は大曾根村、西は中村、北は山邊町・大寺村にそれぞれ相接す。西部は鷲取山臨層崖をなす山地にして比較的傾斜は緩やかにして東部の低地に臨む。東部低地は所謂山形盆地の西南部に當り、東に稍傾斜をなす扇狀地なるも一般に土地低平、東境を須川南に流れ、その支流東南境を西北に流れて須川と合す。根際・要害の二大字は、山形盆地の西部を限る鷲取山臨層崖の下部の崖錐式扇狀地上にあり。鷲取山臨層崖は同じく東緣をなす溫山臨層崖に比すれば稍低く、比高三百米内外にして第三紀の砂岩及び頁岩の互層より成る山地を切り、山麓線は平滑なり。大字要害には山麓に池沼多く金魚・鯉等を養殖し、日々山形市及び附近町村を賣り歩く者少からず。全戸數四五二のうち農家は三四二の大多數を占め商業は三〇戸、工業は一八戸に過ぎず。街道は東部低地の中部を南北に貫通し山邊町に達し、また山形市にもバスの便あり。明治二十二年村制施行の際、根際・要害・大塚の各字を合し舊領主堀田相模守の名に因みて相模村と稱す。また石器・勾玉等を發掘せし事あり。

【相模臺】千葉縣東葛飾郡松戸町の東にある臺地。國府臺の北に續く。鴻臺戦記に天文六年小弓御所足利義明、五十騎許相模臺に打揚げ敵の人數を見合す云々と見ゆ。

【相模國】東海道十五箇國の一。修して相州といふ。關東地方の西南隅に位し、東南は三浦半島突出し、浦賀水道を隔てて房總半島に對し、南は相模灘に臨む。

國内を横須賀・平塚の二市、鎌倉・三浦・高座・津久井・愛甲・中・足柄上・足柄下の八郡に分ち行政上神奈川縣の管下に屬す。中部以西には丹澤山塊峙ち、その一部は西南隅の箱根火山と共に箱根・足柄の險を作り、以て關東地方の要害をなす。中央を流るる相模川は上流を桂川といひ、甲斐國より來り丹澤山の北を流るる道志川を併せ、洪積地帶の相模野を南に流れて海に入る。この川の上流に鎮在する津久井郡は、地形上甲斐國に屬すべきものにしてもと甲斐國都留郡に屬せしが、延勝十六年三月砥澤(名倉村)以東を相模國と定められし時、愛甲郡の屬地となれるものなり。この地は山間の一區なるを以て奥三保・奥三方ともいへり。明治に至り、新に二の地に津久井郡を置きしが爾何もなくこれを廢し、河南はこれを愛甲郡に編入し、河北はこれを高座郡に屬せしむ。明治三年二月に至り、津久井郡を復活す。足利時代の頃には、私に相模川以東を東郡、以西を中郡、酒匂川以西を西郡とも呼べり。今の中郡の稱は明治二十九年淘綾・大住二郡を合併して古稱を復せしものなり。景行天皇の朝、日本武尊東夷御征伐の際、城のために燒討の難に逢ひ給ひしは、一般にこれを駿河の燒津に擬すれども、ここは古事記に見ゆる弟橘姫の御詠「さねさし相武の小野にもゆる火のほなかに立てとひし君はも」により相武の小野卽ち今の相模野の内ならんとの說も信ずべきに似たり。また弟橘姫が尊の御身代りとなりて海に投ぜられし走水ノ渡は今の浦賀水道なり。上古、この國の邊には、北方に相武、南方に師長の二國ありしものの如く、師長を相武に併せ相模國を建てしは大化改新の時なるべし。古事記に相武と見え、和名抄は相摸に作り、佐加三と訓み、今は專ら相模に作る。名稱の起原は、新編相摸風土記に、佐加牟は鮫の義にして足柄・箕根等の峻しき坂路の州内に多きより起るといふ。國郡の制定るや國府は大住郡に置かる。その地今詳かならざれども中郡國府村の地と云はる。今日の國府津は卽ちこの附近の船着きなるより起りし名稱なり。爾後この國の名は國史に現れざりしが、源頼朝が兵を伊豆に起し、父祖緣故の地鎌倉に據り、征夷大將軍となりて幕府を開くに及びこの國の名大に天下に知らるるに至る。源氏は僅に三代にて滅びしが、北條氏これに代り、上に征夷大將軍を戴き九代相次いで政治の實權を握る。北條氏滅後、建武中興の時には成良親王東國の管領となりて鎌倉に駐りたまふ。足利尊氏鎌倉にありて叛し、子義詮の時には管領を鎌倉に置きて關東を傳めしが、後に内訌屢々起り漸く關東の政權分裂しその權威衰ふ。この時に當り、伊勢長氏伊豆に起り、謀計を以て小田原城を攻掠してこれに據り、伊豆に起れる後北條氏を稱し漸次相模國を併合し、關東地方に覇を稱へ、五世相傳して天正十八年豐臣秀吉のために滅され德川家康の領する所となる。家康は後に武藏の江戸に移り、この國の大部を功臣大久保忠隣に與ふ。忠隣は寛永年中事に坐して一時他に轉封、稲葉氏暫くこれに代りしが貞享年中忠隣の孫忠朝の時再び小田原城に歸り、支藩を愛甲郡の荻野山中に置き、以て幕末に至る。之より先、外國船我が近海に出沒するや、幕府は三浦郡の地が江戸の咽喉に當るを以て、享保年間より置ける浦賀奉行を勵めてこれが防備に勉めしむ。嘉永六年六月米國使節ペリーの來朝するに至りて相州浦賀の名頓に著はる。幕府は海軍創設のために佛國公使の斡旋の下に同國技師の手により慶應元年横須賀に造船所を設く。これ實に横須賀軍港の基なりとす。明治維新後に至り、明治四年七月廢藩置縣の際、小田原・荻野山中はそれぞれ縣となりしが、同年十一月これ等二縣を廢して足柄縣を小田原に置き、足柄上・足柄下・高座・大住・愛甲・淘綾・津久井の七郡を管し、東部の鎌倉・三浦二郡は武藏横濱に置かれし神奈川縣の管轄となりしが、明治九年四月十八日以後、相模國一圓は神奈川縣の管下となりて今日に至る。

【相模野】神奈川縣にある臺地性平野。相模原とも稱し、高座郡の北部を占め、長柄西北より東南へ約七粁・幅約二・五粁に亘る。多摩丘陵地と丹澤山塊及び大磯地塊との間に挾まる。地形上は若き臺地にして、北方に於ては一〇〇米以上の高度を示すも南方に次第に低下して三〇—四〇米の臺地となる。臺地の南緣は藤澤町(高座郡)より西に低きも斷層崖により限らる。また臺地は相模川の東側に並行に走る斷層崖(上溝・下溝・座間・用田を過る)により同川の大沖積平地と界す。地表はローム層、その下は礫層より成る平坦なる臺地にて上段・中段・下段の三段に分れ、相模川に向ひ段丘式に低下す。東京多摩丘陵との境界は四〇米内外の明かなる境川層崖をなし、境川その境を穿ひて流下す。上段の西崖は相模横山と稱し鳩川その裾を流る。中段の西崖は矢の岬と稱し堀その裾を流れ、下段の西崖は火の坂岬其他なり。各河川の附近に水田開け集落密集し帶狀の排列をなすも其他は水缺乏し、森林・畑地・新田と稱する開墾部落となる。近年は平地の人口飽和に達すると共に臺地上の飲料水の得易き所に從ひ新田集落發達す。畑地は略んど桑園化され、關東地方に於ける標式的養蚕地帶の一部をなす。中心集落としては原町田・上溝等あり、何れも市場の萌形保存され今なほ定期の市開かる。省線横須賀線には橋本・原町田を通過し、社線相模鐵道は橋本・上溝・厚木・茅ヶ崎を連結し、社線小田原急行鐵道は原町田・座間・厚木を通ず。北端の川尻はもと相模川悪敷の終點たり。

しも今は衰へ、ただ河口の平塚市須賀は相模灣岸の一漁港として設備を整ふるに過ぎず。また相模川の鮎は古來著れ、帝都に近き國佛上、上流與瀬・吉野地方・久所・厚木附近・平塚市附近等に盛覽給その他の設備を有し鮎漁の客に賑ふ。馬入川の名稱の起原は、延久九年十二月源頼朝相模川稻供養の歸途、義經・行家の怨靈を見、また稻村崎にて安徳天皇の御靈現形せるを見て身心昏憊し落馬、遂に翌正治元年正月薨ぜしより河名に轉ぜしものなりと傳ふ。一說に、此橋供養の潮水上に惡靈出で黑雲起り雷電烈しく頼朝の乘馬驚き頼朝は落馬し馬は水中に飛入りて死せるより馬入川と呼ぶともいふ。また太平記に相模入道高時の鎌子相模太郎この川の渡しにて生捕られしこと見ゆ。

〔舊相模川橋脚〕 指定史蹟。茅ヶ崎町にあり。鎌倉時代國道の相模川に架せられし橋脚跡。大正十二年九月及び翌十三年一月兩度の大地震により、小出川に沿ふ水田中より七本の橋杭現れ、其後發掘の結果なほ三本を發見す。これらの橋杭ばもと鎌倉時代相模川に架せられし橋の脚柱なるも河道の變遷に因り廢橋となり、泥土に埋れたるまま現今に至り、大地震の隆地盤の振動に依り土中より拔け出でしものにて、舊時代の國道及び相模川の位置を知るに究竟の史料となる。

【相模鐵道】 私設鐵道。神奈川縣高座郡にあり。東海道本線茅ヶ崎驛（茅ヶ崎町）より北方の上浜町を經て省線横濱線の橋本驛（相原村）に至る。全長三三・三粁。列車は横濱線と連絡して茅ヶ崎・八王子間直通運轉をなす。厚木驛（海老名村）にて社線神中鐵道に接續し、寒川驛（寒川村）より同村大字一ノ宮に至る二粁の貨物線を分岐す。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。

【相模灣】 神奈川縣南部に彎入する海面。その東方は三浦半島の突出によりて東京灣と分ち、西方は伊豆半島によりて駿河灣と分つ。前面には伊豆大島の火山島あり、この間の海面を相模灣といふ。灣頭の沿岸は所謂湘南にて、風光の明媚、氣候の溫和、交通至便等の鄕關より東京・横濱・川崎等の多數市民の第一の保養・遊覽地帶を形成す。相模灣底は日本海溝より分岐する深き海溝が西北—東南の方向に、大島東岸より酒匂川口に向ひて灣の對角線の方向に侵入す。大島東方に於て約二〇〇〇米、相模灣に於ては約一五〇〇米、而して一〇〇〇米の等深線は酒匂川口に迫る。この一線は中央日本を横斷する最も重要なる地帶構造線なる所謂フォッサ・マグナ Fossa Magna の東南端を形成するものにして、大正十二年九月一日の關東大地震の震源も大島附近相模灣底のこの海溝に發源せるものといはる。この海溝の東北部の海底には二列の海底山脈海溝に並行して存在す。關東大地震に際しては灣底及びこれを取卷く沿岸地方は甚しく變位し、灣岸は一般に一米位の隆起を示し、灣底は隆起隨沒著しく、その絶量は相模灣海底の一八〇米の陷沒が測量せらる。相模灣の沿岸には多くの岩礁・小島浮ぶ。城ヶ島・江ノ島・初島等は卽ちそれなり。黑潮の支流は多くの魚族を伴ひて灣內に流入し。相模灣にては鰹・鮪、沿岸には鯵・鮪、岩礁には貝・海草等の產少から ず。海產物は沿岸の三崎・須賀・大磯・小田原・眞鶴等の各漁港に集められ、主として自動車によりて京濱に迅搬せられ、新鮮なる魚貝として市民に提供せらる。

【相模灣】 また相模洋にも作る。伊豆大島と相模灣の間の海面をいふ。→相模灣

サカミズ 酒水（さかみず）

【酒水】 陸奥國（陸前國、宮城縣）の古地名。和名抄に志太郡酒水郷あり。諸本は訓を闕くも高山寺本は左賀美豆と訓す。其地今何れなるかを審かにせざるも酒は或は清を誤りしものにて、いま玉造郡東大崎村の大字清水はその遺稱ならんか。なほ一には志田郡古川町及び志田・敷玉・荒雄の諸村に亙りしものともいふ。

【酒水】 →柏野（かしの）（豐後國）

サガム 相武・相模（さがむ）

相模の古稱。記・中「さねさし佐賀牟の小野に燃ゆる火の火中に立ちてとひし君はも」 弟橘比賣」→相模國

サカモト 坂元村

宮城縣陸前國貝理郡の南端。北は山下村に、西は伊具郡枝野村及び大內村、南は福島縣相馬郡鹿田村に夫々隣接し、東は太平洋に臨む。阿武隈山系の北部未端三〇〇餘米の低山性となりて遠り小分水嶺をなして東部に緩かに傾き、この山地を浸蝕せる小渓流は各東に流れ海に注ぐ。海岸には小砂堆發達し砂堆の背後近くに小湖あり、低地は小渓流の沿岸及び海岸近くにあり、水田は水の得易き丘陵に近き所に多く、砂濱には畑地多し。米・麥を主產し副業として養蠶も行はれ、他に林產・水產あり。國道陸前濱街道は丘陵の麓を縫うて南北に貫通し、これと並行に海岸寄りに省線常磐線通じ坂元驛（明治三十年設置）を置く。此地古くは和名抄、曰理郡坂本郷の地なるべし。

サカモト 坂本

【坂本】 福島縣河沼郡にありし村。大正十二年、本村ほか四箇村を以て八幡村を置く。

【坂本村】 茨城縣常陸國久慈郡の東南部。東は久慈町、南は東小澤村、西北は世矢村に隣り、東北に多賀郡坂上村と界す。面積六・三九平方粁。村の北半は阿武隈山地の支脈多賀山塊の南端部にて、北境に流弓山（二四二米）あり、その南斜面の山地。南半は久慈川下流の洪積原に屬する平地の一部にして土地平坦、田畑よく拓け農產に米・麥・蔬菜・瓜類を產し、特產物に酸漿・石灰岩あり。陸前濱街道と久慈・太田間の縣道交叉し、いづれもバスの便あり。又社線常北電氣鐵道線に坂上村常磐線大甕驛より久慈町を經て來り、村の中央を西走して太田町に通じ、村內に南高野・茂宮・大橋（何れも昭和四年設置）の三驛を置く。古くは和名抄、久慈郡高市郷の內とす。延元元年正月北畠顯家、義良親王を奉じて京都に赴かんとせし時、此地にて佐竹氏のために遮られ、大いに苦戰せし戰場とす。また近くは流渡驛動に田中風穴の諸生黨と戰ひしところなり。大字石名坂は古く石那坂に作り奥州濱街道の通路にあたりしを以て古來其名あり。慶長五年秋、佐竹義宣、上杉氏の軍に會せんがため水戸城を發し石那坂を經て多賀郡まで進みしこと一書に見ゆるも信じ難し。

【坂本町】 群馬縣上野國碓氷郡の西部。東は臼井町・細野村、北は烏瀨村、南は北甘樂郡西牧村、西は長野縣北佐久郡軽井澤町と隣りす。面積七七・六九平方粁。碓氷山地の東斜面にして、西境には北より碁盤山（一六五九米）・霧積山（一五九一米）・一ノ宇山（一四二三米）・碓氷峠、その南に矢ヶ崎山（一一八四米）あり。大體東に向ひて傾斜し、山間の小流は村の東部にて合一し東流して碓氷川となる。山地一帶森林多きも東部碓氷川沿ひの低地には耕地ありて米・麥等多少の農產あり。中山道は町の中部を曲折登高して西走し、碓氷峠を越えて長野縣に入る。乘落はこの街道に沿ひ村の東部に發達す。省線信越本線もこれに沿ひ、丸山信號所より西はアプト式軌道によりて十五分の一の勾配を登り、中央の熊ノ平驛（明治三十九年設置）を經て碓氷峠に至り九五六米の國峠を越えて長野縣に入る。この間トンネル頗る多し。町の他の部分は村道あるのみにて交通不便なり。町の北部霧積山中に霧積溫泉、その途中に湯ノ澤鑛泉あり。和名抄に碓氷郡坂本郷とあるは蓋し當町及び臼井町の地とす。また延喜兵部省式に坂本驛馬十五疋とあるも此地なり。上毛野氏の一族に坂本氏とあるは此地に居して名を負ひしものならん。中世以降西方碓氷峠を經て信州軽井澤に至る中山道の一驛にて上下の人馬停留の螢衆落として榮えしも鐵道の開通以來全く衰微するに至る。明治十一年明治天皇北陸東海御巡覽の際、九月六日此地にて御小休遊ばさる。〔霧積溫泉〕泉質は硫黃泉。石膏性苦味を有す。碓氷嶺の後を廻る山水明媚の地にて海拔一一八〇米、軽井澤より約二一〇米高く夏期飲料を用ひず、キャムプの好適地としても知られ秋の紅葉殊に良し。古へ傷ける犬の治するを見て溫泉を發見せりと傳へ以來一名犬の湯とも呼ばる。附近に金洞の瀧・隱橋・二本岩などあり。二本岩には山蔬樓むといふ。〔湯ノ澤鑛泉〕泉質は硫黃含有泉。明治三十年頃より名士の別莊地として一時世に喧傳せられしところ。地は鑛泉川に臨み函潤・菅峡・蛭岡などの奇勝あり。（雄湯及び蛭湯）宇宙積山にあり。碓氷連山の一部に水源を發し、地藏岩の南に於て兼湯となる。これ雄湯にて高さ三〇米、幅三・五米。更に下流に至り蛭湯となり、高さ一八米、幅三米、此間翠壁一重雲一重の觀あり。〔熊野神社〕峠に鎭座。縣社。祭神、速玉男之命・伊邪冉命・事解男之命。景行天皇の御宇日本武尊の勸請に係ると傳ふ。もと長倉神社と云ひ延喜の制、名神大社に列せられしが、のち熊野皇大神と改め、更に現社號に改稱す。新田・武田二氏の尊崇篤く、武田氏滅亡後も公式の崇敬絕えざりき。永祿三年・元和元年の兩度火災に罹り社殿・古記錄悉く燒失す。例祭、十月十五日。

【坂本】 上總國（千葉縣）の古地名。和名抄に埴生郡坂本郷あり、その地今の長生郡睦南町大字坂本は郷の遺稱なり。姓氏錄に上毛野の坂本朝臣は豐城入彦命より出で、東持公・大鹽臣と同系たりとあり、長柄郡に東持郷（今は睦南町の大字となり藏持と稱す、これその遺稱なり）あり、山邊郡に大鹽町あり、卽ち往時この地は坂本氏の所管たり。

【坂本】 延喜兵部省式に見ゆる相摸國（神奈川縣）の古驛名。今の神奈川縣足柄上郡南足柄村にありしもの。延喜式「相摸國坂本驛馬二十二疋」

【坂本】 延喜兵部省式に見ゆる越中國（富山縣）の古驛名。今の西礪波郡石動町

の邊に當り、加賀國より倶利伽羅峠を越え、坂本・川合を經て越中府に達せしものなるべし。延喜式「越中國、坂本驛馬八疋」

【坂本村】 岐阜縣美濃國惠那郡の中部。岐阜市の東約六〇粁。北は木曾川を距てて蛭川村・福岡村に、東は中津町に、南は東野村に、西は大井町に隣れり。南端には保古山（八六九米）聳え、木曾山脈の地塊は此地を西南に走り、木曾斷層崖は坂本附近より中津川の盆地にかけて急斜面をなす。木曾地塊はこの附近にては階段斷層をなし本村には一段の斷層崖が見られ、山麓は坂本陸軍演習場となる。木曾川は東濃山地を切り、所謂惠那峽をなして西流し、付知川を合す。盆地内には米・麥を產し養蠶も行はれ花崗岩の石材を出す。昔の中山道は東中津川宿より西大井宿に渡け、今中央本線も之に並行し美乃坂本驛（大正六年設置）を置く。此地は和名抄の惠奈郡坂本鄕の地にして、中世は遠山庄の内なり。延喜兵部省式に坂本驛馬三疋とあるも此地か。明治十三年明治天皇山梨・三重及京都行幸の際本村の篠原長太郎宅に御小休遊ばさる。その址は今指定史蹟たり。〔坂本村花ノ木自生地〕指定天然記念物。日本固有種として帝國植物區系の珍稀なる一要素なり。

【坂本村】 滋賀縣近江國滋賀郡の南端。大津市に北接し、東は下阪本村・雄琴村、北は仰木村に隣り、西は京都府愛宕郡大原村・八瀬村及び京都市に境す。村の大部は比叡山脈の連嶺と其の前山並びに滋賀丘陵とより成り、東邊には狹長なる平野あり、比叡連嶺には京都府との境上に四明嶽（八四三米）・大嶽（七三四米）・横高山（六九二米）等の高峯列び、地質は古生層に屬する砂岩・頁岩等と之を貫く花崗岩より成り附近一帶の準平原的地貌上の殘丘と見らる。滋賀丘陵は比叡山麓の三百米内外の粘土層・砂礫層より成る舊洪積世に屬する古琵琶湖の沈積物と舊扇狀地の堆積物より成り波狀地形を呈す。これより東方は湖岸の新期沖積地にて下阪本村に及ぶ。本村戶數約八百の内、農家はその約四割を占むるも耕地面積少く農家一戶當り〇・四ヘクタールに過ぎず。從つて自給自足するに至らず、專ら巳稼・山仕事・土產物製炭（竹細工・薪炭等）等の副業によりその不足を補ふ。なほ石材の切出も行はる。西近江路より外るるも縣道には坂本より滋賀里を經て大津市に至るもの、下阪本より坂本を經て仰木村方面に至るもの、坂本より横川に至るもの等あり、また下阪本より坂本の日吉神社を過ぎて比叡山東塔坂を登る參道あり。社線江若鐵道は本村の一角を通過して日吉驛・大正十二年設置・を設け、別に社線京阪電氣鐵道は濱大津より坂本に來り之より比叡山鐵道の鋼索線に連絡して山上に達す。本村は下阪本村・雄琴村と共に古の大友郷に屬し、上古には景行天皇・成務天皇の皇居、志賀高穴穗宮が今の大字穴太の西高畠に營かれ、平安朝以後は日吉神社、比叡山延暦寺の東塔・西塔・横川塔は云ふに及ばず、滋賀院・生源寺・西教寺其他之等に關係ある神社佛閣の所在地にして世々靈地として榮え、殊に叡山に登る東塔坂卽ち表口に當り所謂門前町として殷賑を極む。里見八犬傳・九ノ二九「這山陽の南の方に新圖あり、是を辛崎の圖と唱ふ、ここよりして南辛崎ならんと思へり、この餘坂本津にも新圖ありて其間遠からず、這三圖すはよのごとく相構へて、相共に補助けて、もて非常を警んとす」〔志賀高穴穗宮〕大字穴太にその址あり。成務天皇の皇居。景行天皇の晩年に近江の湖畔に遷られ、これを高穴穗宮といひ天皇は此宮に崩ぜらる。ついで成務天皇御一代の皇居となる。當時この地は湖水により東海・東山兩道に通ずる要津たり。蓋し日本武尊東征の結果として皇威は東國より北越の地方に達せしために、景行天皇は都としてこの地を選定せられ、天皇の御遺業を繼承し地方政治を整へらる。成務天皇の引きつづきこの宮に居給ひしことは、時勢に適應せられしものとして注意すべきものならん。〔日吉神社〕大字坂本に鎭座。官幣大社。祭神、大山咋神・大己貴神。創建年代詳かならず。或ひは崇神天皇七年に勅して大山咋神を山上に祀らしめ、のち天智天皇七年に鴨賀島八雲孫字志麻呂に勅して大物主神を比叡山に祀らしむと云ふ。延暦年中、僧最澄の佛法を弘めんことを三輪神（大物主神）に祈りたるを以てその延暦寺を建立するや、之を日吉大宮（大比叡）神と稱し、古よりこの山に鎭座せる大山咋神を二宮（小比叡）神といひ、並に一山の鎭守・伽藍の守護神とす。山王權現これなり。其後、この兩所明神は延暦寺の發展と共に榮え、元慶四年五月には大宮神は正一位に二ノ宮神は從四位上に陞叙せらる。之よりさき、當社最も小なるを以て仁和年間に大宮の神殿を整ふこと二ノ宮に準ぜしむ。延喜の制この二ノ宮を名神大社に列せしめ、天元五年七月幣帛使を發して音樂走馬を奉る。同五年二十二社の列に加ぱり、延久三年十月初めて行幸ありし後は屢々行啓・御幸あり。同四年四月初めて官幣を立て祭を行ふ。なほ天台神道にあつて末社聖眞子・八王子・客人・十禪師・三ノ宮の五座を加へて山王上七社と云ひ、また大行事・牛御子等の中七社、小禪師・大宮鑑殿等の下七社と共に謂ばゆる山王二十一社を成立せしめしが、古の名神にはあらざれども朝廷また頗るその神威を崇め奉らる。なほ平安朝末期より鎌倉時代の中頃までこの山王信仰と日吉詣は隆盛を極めたり。堀河・鳥羽天皇の頃より延暦寺僧徒のもし訴ふるところあれば、山王の神輿を奉じ兵甲を帶びて京に入りて事を訴ふ、世に之を神輿振と唱ふ。所かる時は朝廷その神威を畏れ、その意に從ふか或ひは思めて神輿を還らしむ。承安二年二ノ宮神を從一位に進め、治承二年十一月には近江國司に勅して、去月叡山學徒の戰に穢氣ありを以て其地を掃除且つ清祓を行はしむ。ここに至りて神殿諸堂の改造を奉請す。壽永二年十月正一位に陞叙。建久三年賀茂臨時祭に準じ臨時祭を行はしむ。のち延元元年正月、後醍醐天皇東坂本の行在所に御座ありて官軍の集らざるを憂へて宸筆御願文を大宮に奉り給ひ、十月新田義貞は累代の寶刀を納めて戰勝を祈る。文中三年六月に衆徒神輿を奉じて京に入り神輿造營の事を訴ふ、朝廷卽ち足利義滿に命じて其料を充てしめらる。天授五年に至りて未だ之を造る能はざりしかば重ねて諸國に令して大田文を召し其料に充てしめらる。戰國時代に及ぶや織田信長は僧徒の橫暴を惡みて延暦寺を燒くに至り、勢また昔日の如くならず。明治四年五月官幣大社に列す。境内面積すべて十萬七千七百十七坪。大多數の社寶中、十四の建造物、二の美術工藝は國寶に指定さる。建築物は凡て天正以後の再建にかかるものなるが、本殿の建築はその樣式は日吉造または聖帝造と稱せられ、神社建築中の特異なる形式を以て著聞す。本宮橋・走井橋・大神橋の三橋は天正年間の架橋にして嚴島神社の板橋と共に我國鋼梁中最古の一に數へらる。例祭、四月十四日。當日は奉幣使參向あり、俗に山王祭と稱す。〔延暦寺〕大字坂本にあり。天台宗の總本山にして、俗に叡山或は比叡山或に單に山と稱せらるる我國最大の名刹。圓・密・禪・戒の四大法燈を揭げ皇城鎭護の靈域として平安城の艮位鬼門に地を占め、教祖傳教大師以來一千百有餘年の久しきに亙り法燈絕ゆることなく、大乘佛教の精華を發揮し、帝國の文化史上離るべからざる關係を有す。歷朝の叡信を蒙ることも厚く、盛時は坊舍三千、覺を竝べ、明師智匠踵を接して輩出し、各宗開祖多く當山より出でしため我國佛教の宗室と稱せらる。往昔奈良の僧都專橫なる擅權ありし時常にこれを抑制し、南都の諸寺に對して北嶺の名を高む。延暦四年七月傳教大師最澄十九歲にしてこの山中に一草庵を結び、同七年一字の伽藍を創建し、自作等身の藥師如來像を以て本尊となす。これ卽ち今の根本中堂にして當山草創の起原、日本天台宗の根基となる。のち圓仁（慈覺大師）・圓珍（智證大師）・良源（慈惠大師）等諸堂を造立し大いに寺勢の擴張を圖る。しかるに其間圓珍の法流を汲む一派、圓仁の一派と隙を生じ相對立するに至り互ひにその排斥に努む。正暦四年、圓珍門徒遂に袖を連れて山を降り園城寺（通稱三井寺）に移り、山門（比叡山）に對して寺門（園城寺）の一派を樹つ。爾來兩寺攻伐を事とし、就中延暦寺は僧兵、所謂山法師を擁して積惡を極め遂に白河法皇をして天下意の如くならざるもの三つの一に數へ嘆らしむるに至る。この頃より當寺は一諸侯に等しく、朝廷武家共に一大武力の集團と目しその向背を重視ぜり。戰國の世に入るや元亀二年本山その權越たる淺井・朝倉兩氏を庇護し、痛く織田信長の怒りに觸れ一山悉く焦土と化せられ、僧徒一千六百餘人、婦女子等までも斬殺に遭ふ。天正十二年豐臣秀吉これが再興に着手せしめ寺領千五百二十八石を附す。德川家康また之が復興に力め、慶長六年三千四百餘石の地を寄せ、同十三年秀忠五千石の永代朱印を附す。これより漸次諸堂の造營成りて稍舊觀に復す。其盛時は比叡山大界三十六町、周山四方各六里に餘りきといひ、三塔・九院・十六院等を初め三千餘坊を擁せしが、近世に至りて總計百九坊となり、更に現在は境内寺院七十三院、飛地境内寺院として十箇院を算す。現に一宗總本山として末寺三千四百二十七、教會所二百二十七を統ぶ。諸堂宇中代表的なるものの一を擧ぐれば、根本中堂・大講堂・鐘楼・大乘戒壇院堂・轉法輪堂・相輪塔・瑠璃堂・橫川中堂等にして何れも國寶たり。寺寶中、國寶を指定せらるるもの赤頗る多く、光定大師立像・銀金經筥・天台大師像・山門再興文書・文殊菩薩像等を始め其他數多を藏す。〔安樂律院〕大字坂本にあり。天台宗。もと天台宗の總本寺にして安樂院と稱す。寛和年中叡桓の開創に係り、中古山上屋亂の際、山中の淨侶安樂を連れ流居して修業せし五智所の一なり。元亀中織田信長の兵火に遭ひて衰土す。元祿中大明院宮これを靈空光謙に給ふや、光謙其師妙立を中興第一世に推し、以て律院となす。同十五年新知百石の朱印を得て永く天台律宗の總本寺となる。いま延暦寺に屬し、當宗別格寺たり。寺寶中、胡本著色彌陀三尊二十五菩薩來迎圖一幅・同千手觀音像一幅は共に國寶たり。〔遺教院〕天台宗別格寺。延暦寺塔頭にして大講堂の南にあり、法落坊尊意僧正の舊跡なり。門前に登天石なるものあり、菅原道眞の靈此處より昇天すといふ。〔惠光院〕大字坂本にあり。天台宗。延暦寺塔頭。現に當宗別格寺の一。寺寶中、胡本著色不動明王及び二童子像一幅は鎌倉初期の作と推せられ現に國寶たり。〔惠日院〕大字坂本にあり。天台宗。延暦寺塔頭。當宗別格寺の一。正保元年勅に依りて建立せらるといふ。本尊木造慈眼大師坐像一軀は國寶たり。〔惠心院〕天台宗別格寺院たり。延暦寺塔頭にして、永觀元年慈惠大師の創建に係り、大師に深く歸依せし攝政太政大臣榮家之が開基となる。尊禪權僧正二世なほ繼ぎ、三世は惠心僧都なり。當院の東三丁に惠心僧都の廟あり。〔延命院〕天台宗別格寺院たり。延暦寺塔頭にして、永平六年座主尊意僧正の建立に係る。本堂に延命像を安置す。〔觀音寺〕飛地境内にあり。天台宗。延暦寺所屬支院の一。

無漏堂と稱し、傳教大師の草創にして、大師の母姉德夫人の守本尊如意輪觀音を安置す。〔玉蓮院〕 大字坂本にあり。天台宗。もと延曆寺境内寺院たりしが、明治三十九年現地に轉じ、大正八年蓮光・玉林の二寺院を合併して現寺號を稱ふ。現に當宗別格寺たり。本尊木造不動明王・二童子立像の三軀は共に鎌倉末期の作にして何れも國寶たり。〔求法寺〕 大字坂本にあり。天台宗。延曆寺所屬寺院の一。初め第四世安惠の里坊にして、良源入山の時休住せし遺跡なり。本尊木造慈惠大師坐像一軀は國寶たり。〔華藏院〕 天台宗別格寺。延曆寺塔頭にして、古の寂場坊の地。嘗て七十代座主公圓大僧正の閑居所、青蓮宗開祖承陽大師剃髮の道場たり。〔西敎寺〕 大字坂本にあり。天台宗舊盛派總本山。大雲山智善院と號す。もと天台の別院にして法勝寺・現盛寶院・神藏寺・帝釋寺と共に叡山附近四箇戒壇の一たりき。寺傳に推古天皇廿六年勅命に依り聖德太子、高麗僧惠慈・惠聰の爲に當寺を創建。延曆三年最澄之を再興、降りて十八世天台座主良源堂宇を營みて、ここに法華三昧を修す。文明十八年黑谷青龍寺にありし派祖證盛（慈猛大師）、山門横川合衆の請に依り、四至内房幸猷と識りて西敎の殿寺を再興し堂宇四十餘宇を造營、以て戒律二門弘通の根本道場とす。卽ち眞盛を以て中興開祖となす。之より法威次第に闡げ、明應元年後土御門天皇舊盛を召して圓戒を受け、宗脩を賜ふ。元龜二年織田氏の兵火に罹り伽藍炎上せしが、天正二年豐臣秀吉の助を得て再建の業を起す。元和三年德川氏寺領九十石の朱印を寄せ、貞享中に五り更に九十石餘を加ふ。延寶年間、叡山衆徒發議して當寺を延曆寺末に歸せしめんとせしが、本派譲らず、爾來寫藤數十年、舊輪王寺宮仲裁して當寺を同門跡管下に屬せしめ派名を天台律宗に改めしむ。明治十一年許されて派名を公稱するに至る。現に境内寺院として七坊あり。堂宇中、客殿は國寶とし、寺寶中、本尊木造阿彌陀如來坐像一軀・同聖觀音立像一軀・同聖像一軀・絹本着色觀經曼荼羅掛軸一幅・同阿彌陀如來像一幅等を始め他六點は何れも國寶たり。〔盛寶院〕 舊寫夕原にあり。天台宗門跡寺院の一たり。法勝寺と號し、歷代聖皇の御受戒あらせられたる名刹にして、もと山城北白川の地にありしを、元和元年後陽成天皇、慈眼大師に高閣一字を賜ひ現地に移して再建す。德川家光亦諸堂を興す。爾來御入道の皇族御住山あれば必ず當院に入らせ給ふを恒例とす。境内方二町、舊寺領千百石を寄せられ、更に貞享二年二百五十石を加增せしめらる。寺寶木造阿彌陀如來立像は國寶たり。〔壽量院〕 大字坂本にあり。天台宗。延曆寺塔頭にして、舊寺領千百石を寄せられ、更に貞享二年二百五十石を加增せしめらる。寺寶木造阿彌陀如來立像は國寶たり。〔神宮院〕 大字坂本にあり。天台宗。延曆寺塔頭にして、古の寂場坊の地。嘗て七十代座主公圓大僧正の閑居所、青蓮宗開祖承陽大師剃髮の道場たり。〔盛安寺〕 大字坂本にあり。天台宗舊盛派。瑞應山法王院と號し、古來百刹を以て聞ゆ。文明十八年越前國守朝倉貞景の臣杉若盛安入道、眞盛に歸依して大いに堂宇を再建、のち明智光秀・豐臣秀吉等寺領を寄す。本尊木造十一面觀音立像一軀は藤原前期の作にて現に國寶たり。〔青龍寺〕 天台宗。延曆寺所屬支院の一なり。比叡山横川元黑谷にあり、偖に元黑谷と稱す。慈惠大師の創建に係る。圓光大師、その師叡空和尙に就きて經論を授閲せし所、また本宗舊盛派祖慈猛大師苦修練行して靈夢を感得せる舊蹟なり。〔總持院〕 天台宗別格寺の一。草創沿革詳ならず。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は鎌倉末期の作にして貞觀四年工成る。維新前まで佛供毎日白米六升・十二天供毎日白米三升・燈分油毎日四合・雜香毎日一升・十四僧毎日供料白米七升四合を給せられたりといふ。〔大乘院〕 天台宗別格寺。延曆寺塔頭にして無動寺と稱す。慈鎭和尙の舊跡にして、眞宗の祖親鸞上人、和尙に就きて修學せし所。有名なる酒麥喰ひ木像は當院にあり。また西行櫻と稱するもの庭前にあり。附近山頂には紀貫之の古墳あり。〔大林院〕 大字坂本にあり。天台宗。延曆寺塔頭にして當宗別格寺の一。創立年代詳ならざれど天正年間の再興に係る。寺寶中、木造不動明王坐像一軀・絹本着色不動明王二童子像一幅は共に國寶たり。〔東南寺〕 天台宗。延曆寺所屬支院の一。傳敎大師の草創にして、叡山下の東南に位するを以て現寺號を附す。〔白毫院〕 粟飯にあり。天台宗別格寺院たり。延曆寺塔頭。開基詳ならず。寛永年中院主、貧人の飢餓を救はんとして石室を築かしむ。〔資光寺〕 大字坂本にあり。天台宗舊盛派。鈴聲山と號す。初め永觀年中僧戒算、叡山常行堂本尊阿彌陀如來の夢託を感ぜ、正暦三年京都東山に寺字を創建し斯像を安置して眞如堂と稱せしが、のち三轉して現地に到る。樹阿を中興の祖とす。本尊木造阿彌陀如來立像一軀は國寶たり。〔紳行院〕 大字坂本にあり。天台宗延曆寺別格寺の一。圓仁の創立と傳ふ。中古以來堂宇を失ひしが延寶八年善行房これを再興す。本尊木造

地藏菩薩立像一軀は鎌倉末期の作に係り國寶たり。〔藥樹院〕 船橋坂にあり。天台宗別格寺。創建年代不詳。本尊は藥師如來なり。境内の碑に、天台宗藥樹院法印の行狀並に孫あり。黃檗木庵禪師の筆にして天和元年凌雲院鳳海僧正の建つる所なり。〔來迎寺〕 大字比叡辻にあり。天台宗。具さには紫雲山聖衆來迎寺と號す。寺傳に延曆九年最澄の草創といふ。長保三年惠心院源信入りて大に堂宇を重興し、爾來寺運隆盛たり。正親町・後陽成兩天皇入御ありて當寺に圓頓戒を受けその興隆を國り給ふ。武將の信仰亦厚く、明智光秀寺領を寄せ、その他寄進者頗る多かりきといふ。いま境内に二坊あり。堂宇中、客殿は國寶。寺寶として木造釋迦如來坐像一軀・同十一面觀世音立像一軀・同地藏菩薩立像一軀・同日光月光佛立像二軀を初め、その他十數點の國寶を所藏し、見るべきもの甚だ多し。

【坂本】 山城國比叡山の西麓の古地名。雲母坂の登り口に當り近江の坂本に對してこの地は西坂本と呼べり。いま京都市左京區修學院町の邊。なほ西坂本の稱は高野川の上流八瀨・大原の邊にも及びしものの如し。

【坂本】 ↓和泉町（大阪府）

【坂本】 河内國（大阪府）の古地名。和名抄に古市郡坂本郷あり。いま南河内郡西道村大字坂田の邊なるべし。尺度郷の南

サカモ——サカモ

【坂本】 河内國（大阪府）の古地名。和名抄に高安郡坂本郷あり。今の中河内郡高安村なるべし。

【坂本】 因幡國（鳥取縣）の古地名。和名抄に氣多郡坂本郷あり。今の氣高郡瑞穗村に當り、その大字の一に下坂本の名を存す。

【坂本村】 香川縣讃岐國綾歌郡の中央。飯野山南麓の町にして、東は城山を以て府中村、西は土器川を隔てて川西村に隣り、北は飯野山を以て川津村・飯野村に境し、南は平野をなし、法勳寺村・富熊村に接す。大東川村の中央を貫流し土地平坦、灌漑に便なり。主生業は農にして麻麥を産するも副業として養蠶・養鶏・藁加工・麥稈帽田等を營み、近時は花崗岩質緩丘陵地を開拓、果樹園として利用、櫛梨の栽培盛に、また綾南山地・美合・飯村と共に讃岐に於ける煙草地帶をなす。國道、坂出・眞光線、並に縣道、高松・金藏寺線、村の中央に於て交叉して相通じ、前者は坂出より栗熊間に定期自動車の往來あり、交通必ずしも不便ならず、高松・金藏寺線は大化新政の際設かれし驛路に當り府中の國廳より伊豫に通ずる道路なりきと傳ふ。此地古くは和名抄綾歌郡坂本郷と稱し、太古讃岐國土創造に際し、飯依彦命、飯野山に據らる、當時既に此地の重要なりしを知る。氏神たる飯神社は命を祀れる所なり、現今飯野山麓並に附近より石器を發見、また古墳の多きか觀れば之を證し得る。景行天皇の御代讃岐國造の始祖神櫛王の御弟日本武尊の御子武殼王が封を綾歌郡に受け其子孫域山邊に居し末裔坂本の地を采地とす、是れ王の臣に坂本臣と云ふがありしゆなりと。履中天皇の頃冤住王阿波より來住し坂本の地は王の領として子孫勢を振へり。中世讃岐領主細川勝元の臣高木隼人坂本の郷を食み、近世に至り明治廿三年町村制施行に際し、東坂本・川原・菖時・西坂本（いま何れも大字となる）の四箇村を合併、坂本村となる。本村は開發古く雄略天皇頃來朝の織工・縫工卽ち漢織・吳織を諸國に配置せらるるに當り、本村には吳織の來りしが如し、いま本村に吳織神社あるは是が爲なりと。雄略天皇の御代鍛冶職我國に渡來し、奈良時代には讃岐國中の鑄物師一百二十人に姓を給ひし點より推し、當國に鍛冶職の多かりしを知る。本村の地名鑄物師並に金宮は其遺跡なるべし。之に依り當地方の產業は早く開發せしを察し得る。また治革古きを以て社寺の由緒あるもの多く、村社龜山神社を始め四村社、無格社廿一あり、寺院に西光寺（菖）・極樂寺（菖）・久米寺、菖、安樂寺（菖）・三谷寺（菖）あり。村社龜山神社は西坂本にあり、本村に榮えし坂本氏の勸請にかかり和銅頃の勸請と傳ふ。同坂本神社は東坂本にあり、鷲住王を祀る、王の御墓とも云ひ御邸址とも傳ふ。同下阪神社は川原にあり、本村統治の功ある坂本公の勸請。同三谷神社に三谷八幡宮と稱す、當地開發の神樞王を祀る。初め武殼王、域山山上に奉祀せしが後冤廢、貞治頃三谷氏の祖三谷景光、創古の八幡王と云ふ所に移し、天正頃再び冤神林に移せり。同日吉神社は川原にあり、國守として名聲ありし紀夏井の勸請と傳ふ。安樂寺は三谷字中筋にあり、三谷寺來、利觀山不動院と號す、奈良時代の建立。極樂寺は東坂本字久保にあり、西方院と號す、奈良時代の建立、三谷寺來。久米寺は當村にありしが、香川郡鶯田村に移る。西光寺は興正寺來、創立不詳。〔三谷寺〕 東坂にあり。菖言宗大覺寺派準別格本山。一に世尊院・新長谷寺ともいふ。天平二年聖武帝の勅を奉じて行基之を創建し、自刻の十一面觀世音を本尊とす。のち山火の爲に炎上、弘法大師、彌陀堂を建立す。山下に平清盛夫人二位禪尼の建立に係る御影堂あり。禪尼猶ほ田畑四十九町を寄捨す。其後、天正の兵火、更に寛政十年災厄等に遭ひて諸堂宇炎上せしが、近時漸く復興成る。

【坂本村】 愛媛縣伊豫國溫泉郡の南隅に位す。松山市の東南方約一四粁を隔て、北は荏原村に、東は拜志村に隣り、南は上浮穴郡明神村・父二峰村に、西は伊豫郡の砥部町・原町村に界す。石鎚山脈西部の北斜面に當り、南境の七〇〇—八〇〇米の山地より西北方に向ひて低下し、村内の大部分は山地にて森林あり、ただ

南部に發し北流して花原村に出づる久谷川に沿ひて幅狹き低地あり田・畑拓け、米を主とし麻・麥・甘藷等の農産を出し、山地には三椏・楮栽培せられ、また桃・蜜柑等の果實も產す。松山市より來る土佐街道は西南部の山地を通じ明神村を經て久万町方面に向ひバスの便ある外、久谷川に沿ひて村道あり交通さのみ不便ならず。此地古くは和名抄、浮穴郡花原郷に屬せしものなるべし。村名は上浮穴郡との境界にある御坂峠の麓の意より起るといふ。〔浮瑠璃寺〕新義眞言宗豐山派。靈王山養珠院と號す。養老年間の草創にして本尊は薬師如來なり。四國八十八所第四十六番札所たり。詠歌「練樂の浮瑠璃世界たくらべば受くる業苦は報ならまし」〔八坂寺〕大字浮瑠璃寺にあり。眞言宗醍醐派。妙見院と號す。越智玉興の創建にして文武天皇の勅願所たり。本尊阿彌陀如來坐像は惠心僧都の作。四國八十八所第四十七番札所たり。詠歌「花を見て歌よむ人は八坂寺讃佛乘の緣とこそ聞け」

【坂本】 肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄、益城郡の條に坂本郷あり、其地今の下益城郡杉上村・杉合村・年圃村・中山村・守富村等の邊に當るか。年圃村の大字坂本は郷の遺稱ならん。延喜兵部省式に肥後國坂本驛馬五匹とあるは此地なるべく、當時驛なりしものなるべし。

【坂本】 省線肥薩線の驛（明治四十一年設置）。熊本縣八代郡上松求麻村にあり。

サガラ　相良

【相良町】 靜岡縣遠江國榛原郡の南部。川崎町の南に隣り、南は地頭方村に接し、西北は萩間村・菅山村に、西南は小笠郡朝比奈村・比木村に界し、東は駿河灣に臨む。早壯年期にまで開析されし大井川の隆起舊三角洲なる牧野原臺地の南端部に位し、南部及び北部には八〇—一〇〇米内外の臺地ありて中央低地に急斜面を向け、萩間村の山地に發し牧野原をU字形に浸蝕する萩間川（相良川）東南流し、稍廣き沖積平地を作り、河口に相良港（內務省指定港灣）あり。相良川の臺地を剖りし段丘面に基盤をなす第三紀中新統に屬する相良層露出す。此層は頁岩及び砂岩の互層、卽ち砂質頁岩・黑色頁岩の地質系統にて稀に礫岩・凝灰岩を挾む。また層中に含油層を有し、臺地南部に我國に於ける太平洋斜面唯一の油田地帶發達す。油田は專ら菅山村大字菅ヶ谷に明治初年より採掘され、鑛區一五〇萬坪、井戸數も多く曾ては相良港口に近く精油所まで持ちしが、現在にては稍々量を減ぜり。相良川沿岸沖積地には水田開け米を產し、臺地には茶園廣く茶の產多く、また附近漁業の一中心地をなし、綿織物・麻眞田等の工業行はる。社線藤相鐵道海岸に近く南北に走り、片濱・太田濱・相良（以上大正七年設置）・相良新・波津・須々木（以上大正十五年設置）の六驛を設け、また縣道は四方に通じ、北は川崎町を經て藤枝町（志太郡）方面に、西北は金谷町、西は掛川町（小笠郡）、南は地頭方村の各方面に向ひ何れもバスの便あり。和名抄に榛原郡相良郷とあるは蓋し當町附近を總べしものなるべし。中世は相良庄と呼ばれ、また白羽官牧を混同して相良牧とも稱したり。藤原武智麻呂の遠孫維叢、遠江守となり其孫周頼此地に居し相良庄を領して相良氏を稱す。その五代の孫長頼に至り肥後人吉城に移る。〔相良城〕天正四年武田勝頼遠江に兵を出し德川家康のこれに備へて甲州兵の糧道を脅かすや、新たに相良に城を築き高坂彈正を以て家康に備へしめ兵を收めて甲斐に歸る。これ相良城の始めなり。江戸時代に至り、寶永二年本田正晴一萬五千石にて當城に封ぜらる。次で延享三年板倉勝清、寶延二年本多忠英、寶曆八年田沼意次これを領し、意次の時安永元年命を以て城を築く。天明七年意次の孫意明の時相良城を沒收され、陳奥信夫郡下村に移され新城を築ちしが、文政六年意正の時に至り、若年寄累年の功を賞され、封を故領相良に移され一萬石を領し、以來子孫相嗣ぎ以て明治維新に至る。〔須佐男神社〕大字波津西町に鎭座。郷社。祭神、素盞嗚尊。創建年代不詳なるも延喜式飯津佐和乃神社ならんといふ。舊稱牛頭天王社。維新の際今の號に改む。例祭九月十五日。〔平田寺〕大江にあり。臨濟宗妙心寺派。敎江山と號す。奈良朝の創建に係り開基は行信なりと傳ふ。元弘年間龍峯宏雲支那より歸りてこれを再興す。中興を菴徹とし、德川氏寺領五十石を寄す。維新に際し寺運稍々傾きしも、猶ほ地方有數の古刹にして末寺十餘寺を統ぶ。寺寶中聖武天皇勅書一卷は國寶たり。

【相良】 ↓人吉町（熊本縣）

サカリ　盛町

【相良】 岩手縣陸前國氣仙郡の南部。北上山脈東縁のリヤス式海岸の一部をなす大船渡灣の灣頭平野に位し、この平野の經濟上の中心地たると共に郡の首邑たり。地形は凡そ西部山地・東部平地・中間丘陵地に分る。西部山地は大體中世期層をなし相當に高嶺を見せ、東部平地は第四期沖積層をなし現在農耕地として使用せられ、中央の丘陵帶は第四期洪積層にして畑地として多少利用さるる部分の外は急坂をなせり。川には東部平地を南流して大船渡灣に注ぐ盛川あり、灌漑に使用せられ、鮭・鮎等川魚の產また少からず。省線大船渡線は東北本線一關驛より分岐して當町に其終點驛、盛驛（昭和十年設置）を置く。道路は當町を縱走する縣道盛岡・盛線及びそれに接續して南下する盛・高田線あり。なほ當町は盛・釜石線の起點ともなり、氣仙郡道路網の中心地、しかも附近村落の物資の集散地として自動車その他の運輸方面繁して繁盛なり。全町商業を主體として生活し農工是に次ぐ。されば產物の狀態も純原產的のものにあらずして主として加工的のもの多し。醸造業に於ける清酒・醬油、菓子業に於ける柿羊羹其他の菓子等なり。其他の商業としては衣服・洋品・雜貨商・旅館等、附近町村の中心都市としての供給地をなし、なほ海岸地帶の產物と農山村地帶の產物との中間市場として古來發達し來れり。諸官衙・病院等の政治乃至文化の中心をなすことも本町の特異性とす。舊稱を田茂山村と云ひ、明治八年十月猪川村と合併し、同十二年戶長役場を置き、同十七年には聯合戶長役場を置かれたり。同廿二年町村制實施せらるるに至り猪川村と分離して町制を布き現今に至る。郡制廢止以前は郡役所の所在地として地方政治其他の中心をなし、現在も郡單位の諸官衙所在地として重きをなす。〔天神堂公園〕町の中央西丘にあり。村社社殿・忠魂碑・清訪義魂碑・置靈塔・旬碑等あり。高臺にて丘段及び臺上に數百本の櫻樹あり、櫻の名所として郡內第一の稱あり、春時附近遊山の雲集甚だ多し。〔王子陵〕西町裏愛宕神社境內にあり。敏達天皇第一皇子尾張皇子の陵なりといふ。自然石に圍繞にて王子陵の三字を刻せるを見るのみにして史實の明確ならざるは惜しむべし。〔洞雲寺〕曹洞宗。法量山と號す。永祿元年僧如幻光祭の開基なり。國池あり、幽邃にして靜寂、境內に樓の大樹あり、樹齡凡そ五百年を超ゆべし。

サガレン　薩哈連（Sakhalin）

に同じ。

サカワ　佐川町

高知縣土佐國高岡郡の北部。越知町の東南に隣り、北は黑岩村、東は加茂村、南は斗賀野村、西南は尾川村にそれぞれ隣接す。四周は二〇〇—三〇〇米の丘陵性山地を繞らし北に春日山、北東に貝石山（下山紫雲山・金毘羅山ともいふ）あり、中部を仁淀川の一支柳瀨川北に流れ中央部にて西流し來る春日川を合す。低地は之等河川沿岸にありて完全なる盆地形をなし、四面翠巒を以てし、清流靜かに其間を流れ風光明媚にして古來土佐京都の稱あり。地質學上は中生代化石を出すを以て著はれ、この化石を始めて世に紹介したるは鶴逸人エドムント・ナウマン博士（我國地質學界の大恩人、明治八年來朝、同十八年歸國）なり。化石は本町を中心としてこの附近一帶の地に少からず。動物並に植物の化石を共に產するも植物化石は主として貝石山の頂上頁岩中に產し羊齒・松柏・蘇鐵の三類に屬する種類多し。この頁岩は軟かなるを以て掘出すこと頗る易く、この外に規の如き介類あり、山名も之より起る。化石の時代は白堊紀下部。動物化石は諸處に散點す。町の東方上郷都落の藏法院の谿流中に露出する粘板岩中には平にして且つ輻狀小脊數多を有する三疊紀の介あり、ダオネラと稱し、我國に於ては珍らしきものなり。南方の縣道須崎線に沿へる烏ノ巢部落には暗灰色の石灰岩あり、この地に標式的に露出するを以てこの地層を一般に烏ノ巢石灰岩層と稱す。此地の烏ノ巢石灰岩層中には有孔蟲・海膽・珊瑚・介類、稀に蘚蘚科の植物あり。有孔蟲は小にして肉眼にては認め易からざるも風雨に曝されたる面には往々上に突出することあり。海膽は主として卵形の刺頭あるものを出し、介類には酸蛤介と小嘴介との豌豆類を主とす。珊瑚類に至りては種類頗る多くタムナストレヤ、ケテトプロス等の諸屬あり。蓋し此石灰岩は大昔の珊瑚礁の石化せしものの如く珊瑚の多きと、塊狀にして層なをなさざるを特長とす。烏ノ巢の石灰岩を直接に覆ふ灰色の頁岩は其東方の吉田屋敷に露はれ其中に羊齒・三角介を藏す。此羊齒は貝石山に產する同種類に屬す。また西北の越知町に接する川內ヶ谷及び下山にも化石多く、笠屋谷ヶ猪の谷・櫻谷・山白谷・供養堂・掛橋等はその局所にして化石はプスードモノーチスと稱する三疊紀の二枚介を出す。この介は陸前の伊里前、備中の成羽、阿波の那賀川の上流大貝山に產するものと同種なり。かく本町一帶の地は小區域として頗る多種の化石を產する事は我國にても他に多くの類例を見ず。珠に下山に產するハロビアカロダイの如きはこの地特產の化石として珍重さる。柳瀨川・春日川沿岸の盆地底は地味豐饒、灌漑の便隨るよく水田拓け、產業は農を主とし米・麥を多產し商業これに次ぐ。工產物としては銘酒司牡丹を始め、生絲・銀工品等あり。省線土讃線は町の中央を通過し、佐川・西佐川の二驛（共に大正十三年設置）を置き、高知市より松山市に至る縣道は中部をほぼ東西に走り、南方須崎町に達する縣道を町の主邑より分岐し、佐川驛よりは省營自動車豫土線松山市に通じ、交通上の一要地たり。町の主邑は土佐國老津尾氏三百年來の市街地にて春日川に沿うて發達し、東西に延びて東佐川・西佐川に分れ本郡北部の中心街を形成し、警察署・縣立高等女學校・青山文庫・乘合寺・青源寺等あり。此地は何時の頃より拓けしか詳ならざるも、昭和九年夏、町內に於て田地發掘中祝部土器の破片數百發見せられ、鑑定の結果窯跡ならんと云ふ。されば此地は上代に於て相當文化の發達せる地なるを察するに足る。のち佐川（逆川）といふ武將の一族あり、後一條天皇の寬仁年間には佐川越中守繁國（一に中村氏ともいふ）といふ者居城ぜり。降つて吉野朝の頃には、佐川四郎左衞門入道道覺出でて、後醍醐天皇の第七皇子花園宮滿良親王を奉じて勤王の義旗を翻し、戰國の頃にはその後裔佐川越中守威を張ひ、中村越前守信義之に次ぎ、長宗我部元親土佐を平定するに及びて久武內藏助親直の居城地となる。次いで慶長六年山

内一豐土佐入國に當り、其重臣深尾和泉守重良佐川郷一萬石の采邑を領して國老の首席に列し此地に居る。爾來相傳へて十二代二百七十年。その間産業の開發、名教館を興して學問の奬勵に力を盡し、よく平和郷佐川を建設せり。殊にその學問奬勵の功に至つては最も大きく、幕末に際しては田中光顯伯をはじめ多數の勤王志士相繼いで出で、幕末維新史に輝かしき足跡を印し爾來今日に至る迄人材輩出頗る多く縣下に於ける人材の淵叢と稱せらる。明治二年藩主山内豐範の藩土奉還により佐川村となり、同三十三年町制を施行して佐川町と改む。而して廢藩後は漸次衰微に傾き往時の面影を失ふに至りしも、昭和十二年土讃線開通以後稍々面目を改むるに至る。またこの地は古來櫻樹類を多かりしが大正四年御大典記念として新に數千株を增植せしを以て春風駘蕩の候は全町花に埋り、奥の土居・和樂園等觀櫻に極めて佳く縣下第一の櫻の名勝地と稱せらる。〔鳥ノ巢石灰岩層〕儒羅紀上部。所謂鳥ノ巢石灰岩塊及びレンズ狀放散蟲チャアトを介在する砂岩・頁岩の厚き累層。本町の鳥ノ巢部落附近に標式的露出あるを以て層名となり、我國にては一般に外帶に發達し福島縣の相馬地方、東京府西多摩郡五日市町附近、和歌山縣日高郡由良村附近、鹿兒島縣等に發達す。一般に暗灰色粘質、時には鮞狀石灰岩）にてハンマアにて打てば石油の如き臭氣を發す。層中の化石は極めて豐富にして珊瑚類・蟹蟲類・有孔蟲類・海膽類・二枚貝・巻貝等を含み、其當時の珊瑚礁と考へらる。時代につきても古來種々論ぜられしも今日にては上部儒羅紀と一般に考へらる。〔五所神社〕大字佐川に鎮座。郷社。祭神、五社神。創建年代不詳。例祭、十一月十日。〔青源寺〕臨濟宗妙心寺派。龍潭山と號し深尾家の菩提所なり。元和年中住持南海和尚能書の譽あり、後水尾天皇に筆道臨本を奉り紫衣の勅許を蒙る。今寺寶として存す。〔青源寺庭園〕指定名勝。築造年代不詳なるも本堂及客殿を再建せりといふ延享三年頃ならんか。庭園中央に池あり、池に一箇の浮石を置き汀に石を組む。池の南隅に近く立石を用ひて空瀧を作る。庭の前半に四基の石燈籠と多數の歩石とを配して風致を添へ、本堂と客殿との間にツツジの刈込物を滿す。庭の後半は自然の傾斜地にてマツ・シャタナゲ・ツバキ・サクラ・モミヂ等とツツジの丸物とを植ふ背景となす。禪院庭園の風格を備ふ。〔乘臺寺〕新義眞言宗智山派。吉野山と號し、貞治五年の開基にして、長曾我部氏の家老久武内蔵助親直の菩提所たり。〔乘臺寺庭園〕指定名勝。江戸初期深尾重忠の室病氣平癒の祈願を本寺になし效驗あり全快報恩のため築かせたりとの寺傳あり。山麓を利用して築山を作り其前面に池を掘る。築山にはマツ・カシ・ツバキ・サクラ・イヌマキ等の樹木と、ツツジ・ヒサカキ等の刈込物とを配す。池には一箇の浮石あり。池の南岸及庭の西南隅に數箇の巨礫地上に露出して庭景に豪宕の氣を與ふ。寺院の築山泉水庭園として見るべきものあり。〔大乘院〕天台宗寺門派。草創年次沿革等不詳。本尊木造藥師如來及び兩脇侍像三軀は何れも鎌倉期の作と推せられ國寶たり。〔妙傳寺〕宇南無妙ヶ崎にあり。日蓮宗久遠寺末。元和八年の開基、開山は眞善院日妙、のち延寶中深尾重昌の側室阿呂久の中興開基に係る。境内に阿呂久の墓あり、阿呂久は家政の恩しきを謝めて是を正し自ら機を立てて陣幕を織り化粧の費を節約して武器を作らしむる等内助の功多く今に「佐川樣でのお實物は、野田の太兵衛さんに、白琉のお鷹、からの甲に阿呂久さま」の俚謠を傳ふ。また阿呂久が京都高雄より櫻種をとり寄せて植えしと云ふ楓の大樹あり。地上一米三の周圍一米五、高さ九米、推定樹齢二百五十年にて土佐に於ける楓の代表的巨樹と稱せらる。

【青山文庫】青山町にあり。明治四十三年川田豐太郎氏の創立せる川田文庫を大正十四年に至り當町出身の元宮内大臣伯爵田中光顯氏が資金及び藏書全部を寄贈して財團法人青山會の經營に移し、田中伯爵の雅號に因みて青山文庫と改稱せるもの。和漢書二萬八千餘冊を主として東洋古美術・歴史及び國文學に關する稀覯書多きを占む。其の最も特色とする所は田中伯爵の志納せし明治・大正兩帝、昭憲皇太后及び今上・皇后・皇太后陛下の御下賜品、歴代御宸筆を初め皇室關係の貴重品を奉安し、之に併せて幕末勤皇志士の遺墨數百點を所藏陳列せるを以て普に日本精神涵養の殿堂として、本郡無比の特殊圖書館と推稱せらる。尙郷土室には歴史資料及化石植物標本を陳列し縱覽に供す。〔深尾氏居城跡〕深尾町は初め古城山（久武氏居城の地）に據りしも、元和二年城を毀ち朝霧山下に邸宅を構へ、相承けて明治維新に至る。明治三十三年、遺臣等相謀つて舊土居の傍に土佐國老佐川邑主深尾氏累世之第址と刻める紀念碑を建つ。〔佐川ノ樟〕字諏訪宮屋敷、村社諏訪神社境内にあり。本樹は山腹に生じ根部は蟠居して著しく廣き地面を占め、幹との境界は明確ならざるも、その地面を離れて立たんとする點に於ける幹の周圍八・六米、それより一・八米の高さに於て周圍七・一米、樹高約二四・二米、推定樹齢凡そ五百年にして、多ノ郷村大字郷社須賀神社の巨樣に次ぎ土佐に於ける二番の巨樹なり。〔岡崎の櫻樹〕字岡崎の笠松谷、無格社王子宮境内にあり。地上一米三の周圍五米五、高さ二十三米、推定樹齢は約四百年。

サカワ　酒匂

【酒匂川】古名丸子川。神奈川縣にある川。源を靜岡縣裾東郡御殿場町附近に發し、富士東麓の水を集むる鮎澤川、丹澤山地西部の降水を集むる河内川を上流となし、松田に於て秦野盆地より流出せる四十八瀬川を合せ、所謂酒匂川地溝帶内を對角線の方向に南流し、箱根東麓の諸水を集め神奈川縣足柄下郡酒匂村にて相模灣に注ぐ。全長約四五粁。東海道線國府津以西御殿場に至る迄此の川に沿ひ、沖積平野或は段丘上を通過す。上流小山町附近に於ては富士火山砂礫を穿ち三段の大規模なる段丘地を形成し、丹澤山地と足柄山地との間に深き峽谷を刻み酒匂地溝帶に流出す。山地を出でたる酒匂川は多量の土砂を堆積して廣大なる氾濫原を形式し、自然に放置する時は雨期毎に洪水を起す故古くよりこれを防ぐ堤防工事行はる。二宮金次郎恰も酒匂地溝の中央に當る栢山（足柄上郡櫻井村）に生れ、後の植樹せる氾濫防止の松並木今なほ鬱然として繁る。酒匂川沖積平野は良質の米産地として知られ、また平野を圍む丘陵地は相模灣よりの暖風を受け柑橘類の栽培盛んなり。酒匂川地溝は中央日本を横斷する最も重要なる地殼構造線なり。所謂フォサ・マグナ Fossa magna の東南端に位置し、その延長は相模灣底の深き海溝に連續す。大正十二年九月一日の大地震に際してこの地溝内部は著しき慘害を被れり。

【酒匂村】神奈川縣相模國足柄下郡の東北部。酒匂川口に跨り相模灣に臨む。西は小田原町・足柄村、東に國府津町、北は下府中村に隣る。面積三・八九平方粁の小村。酒匂川流域平野の東南端部を占め、全村土地低平にして海岸は屈曲なく砂濱をなす。米・麥・蔬の農産あり。海岸に沿ひて東海道東西に走り、又省線東海道本線の國府津驛（國府津町）・小田原驛（小田原町）にも近く交通不便ならず。古くは鎌倉時代の東海道即ち鎌倉街道の驛次として賑はひし處。治承四年八月石橋山の戰に和田義盛、酒匂驛に來り西方の八木下に陣せしことあり。建久三年の春、祐成兄弟が工藤祐經の郎黨八幡七郎と此處に戰へることあり。また十六夜日記に阿佛尼が當驛に宿し鎌倉に赴ける事見ゆ。驛址今詳かならざるも大字酒匂の地ならん。近世は酒匂郷と稱し、また今の大字山王原・網一色は早川庄、酒匂・小八幡の地を成田庄とも呼べるものの如し。大字網一色は往時は一色村とのみ稱し、魚獲に便なる地引網を當村に於て始めて製造せるにより網の字を冠せりといふ。天文二十一年、上杉憲政の家人、妻鹿田新介等を一色松原に於て礮撃に行ふと鎌倉九代記に見ゆるは此處なり。永祿十二年武田信玄が小田原に亂入の時も、北條左衞門佐氏忠ここに陣せりといふ。

サガワ　狭川村　奈良縣大和國添上郡の北端。奈良市東北方約五粁、北は京都府相樂郡當尾村・笠置町、東に柳生村、南は東里村と各相隣接す。木津川の左岸に位し、全村山地を以て閉まれ、中部を自砂川北流して木津川と合流す。自砂川は狭川とも呼び、源を田原村に發し忍辱山を繞り、本村にて深谷川を合す。山地多きため産業には見るべきものも少く、川の流域に僅に米を産し、林産物も多し。交通も概ね不便にして、鐵道には北隣笠置村の關西本線笠置驛に至るを便とす。本村古くは和名抄添上郡楊生郷の地なるべし。

サキ　佐木島　廣島縣三原市の南方海上約四粁にある島。行政上豐田郡鷺浦村に屬す。蔦羅叢島中の一に して東は因ノ島、南は生口島、西南は高根島に對し、西は三原瀬戸を距てて本陸を望み、北に小佐木島あり。南北約四・五粁、東西二粁餘の南北に長く、島内波れ山地をなすも西及び北岸に僅に低地ありて耕地拓け西南海岸に鹽田あり。集落は北方に須波、東岸に須ノ上、西南山麓に向田野浦等に發達し、街道は各集落を連れ因ノ島・生口島にはそれぞれ渡船の便あり。

サキ　佐伎(國)　往昔、出雲國の北部にありし國ならんも、今詳かならず。出雲風土記・意宇郡「赤北門佐伎之國矣、國之餘有耶見者、國之餘有詔而……國國來來引來縫國者、自ら多久乃打絕、而狭田之國是也」

サキ　佐紀　大和國（奈良縣）の地名。和名抄に添上郡佐紀郷あり。また佐貴・狭域・狭木にも作る。いま生駒郡郡跡村大字佐紀に其名を存す。往時狭域沼と此地にありしといふ。附近に平城天皇御陵及び仁德天皇の皇后磐之媛の御陵あり。萬葉・一〇「春日なる三笠の山の月も出でぬ佐紀山に咲ける櫻の花の見ゆべく」

サキ　佐藝

【佐藝(郡)】↓清川村（山形縣）

【佐藝(郡)】↓英彦（郡）

サキ　沙器面　朝鮮平安北道龜城郡の西部。東は盧洞面、北は天摩面及び館西面、南は槃峴面及び宣川郡山面、西は義州郡月華面に各相隣る。江南山脈の餘脈域内に及び北境に九峰山（七二〇米）・僧岩山（五九三米）、東南境に佳人峯（五三六米）等聳え、中央部を三橋川西北流し沿岸に河成段丘ありて稻作坦地を成し、耕地發達す。住民は質朴にして大部分農業に從事し、米・粟・稗・玉蜀黍・蕎麥・大麻等を産す。京義本線宣川驛（宣川邑）より道路通じ乘合自動車の便あり。其他は里道にして等外路線に屬し、陸接面に通ずるには何れも峠路にかかる不便あり、其主なるものに旺當嶺（四〇六米）・盧谷嶺（四一〇米）・修峴（二七一米）・槃瓦嶺（二三五米）・香山嶺（一八二米）・虎嶺（二七〇米）等あり。面邑新市洞は面の略中央、密竹峰の東麓に位し面事務所・警察署・金融組合及び毎月二・七の日に開く市場ありて穀類・薪炭の取引に特色あり。

サギ　鷺浦　出雲國（島根縣）の古地名。出雲風土記出雲郡の條に「鷺濱、廣二百

沙」と見ゆ。地は今の鎌川郡鶴鷺村鷺海の邊か。

サキウラ　崎浦　石川縣石川郡にありし村。昭和十年金澤市に入る。

サギウラ　鷺浦村　廣島縣安藝國豐田郡の東南部。三原市の南方海上に横はる主島の佐木島とその北方の小佐木島より成る。面積九・二八方粁。東方は因ノ島の西北部なる御調郡重井村、南は生口島北面の名荷村・北生口村・瀬戸田町、西は高根島（卽ち高根島村）等とそれぞれ海を隔てて相對す。本村をなす島々は瀬戸内多島群に屬し、海拔二〇〇米餘の丘岡南北に延びて東西に傾斜し、ただ海岸に沿ひて所々に小平地あり。田地は少きも丘岡の傾斜面はよく拓かれて畑地多く農業行はれて甘藷・除蟲菊・黃蜀葵・大根・穀麥等を產し、特に甘藷は島の特產物として知らる。島嶼より成るを以て海に面する部分は廣きも漁業を主業とするものなきも特異の事實とす。西南岸に向田野浦、東岸に須ノ上、北岸に須波の聚落あり。小佐木島の北西端に小佐木島燈臺あり。白色圓形石造、燈質は閃白光にて五秒間に二秒の一閃光、光達距離一一浬、明治二十七年の初點とす。なほ佐木島は天正十九年の古文書に鷺島と書き之を御調郡の所屬とせり。後世は南半を向田野浦村とし、北半を須波村とせしが、のち全島及び小佐木島を以て鷺浦村となす。

サキオカ　福岡　出羽國（羽前、山形縣）の古地名。和名抄、最上郡に福岡郷あり、高山寺本は福有に作る。調を缺くも姑くサキオカに從ふ。その地今いづれなるか詳かならず。或は福岡郷は今の西村山郡の寒河江の地にしてサガエは福岡のサキの轉ならんといひ、或は福岡は褶岡の謬にしてヲテオカと訓すべきもの、而してその地を北村山郡の褶岡の邊に擬するも何れも從ひ難し。

サキク　幸久村　茨城縣常陸國久慈郡の南部。久慈川下流の北岸にて太田町の南方にあり。同町との間に佐竹村を挾む。また久慈川を隔てて那珂郡額田村・木崎村と相對す。面積僅かに七・五九平方粁。久慈川下流流域の平地を占め、西境附近に小丘陵地あるのみ、他は殆んど平坦地にて田地廣く畑地これに次ぐ。農村にて米を第一とし小麥・大麥等を產す。太田町より水戸市に通ずる縣道二條あり、また省線水郡線の支線東部を北に走り河合驛（明治卅二年設置）を設け、交通便利なり。此地古くは和名抄、久慈郡志萬郷の內に屬せしものの如し。村名は萬葉・二〇「久慈河は幸く在り待てしほ船に賀排繁賀き吾は歸り來む　丸子部佐壯」とあるに因めるものならんといふ。古くより水戸々太田間の一流津とす。

サキケ　幸毛　大隅國（鹿兒島縣）の古地名。和名抄に薩毛郡幸毛郷あり。その地今詳かならず、一に幸毛は赤尾の誤にして、熊毛郡西之表町南種子村等に當るといふ。

サキザカ　匂坂　靜岡縣磐田郡の古地名。天龍川の左岸。今岩田村・富岡村邊に名稱殘る。また向坂・鷺坂にも作る。太平記に見ゆる鷺坂合戰のありし所にして、建武二年十二月官軍と足利勢この地に戰ひしといふ。この地の鷺坂山は古來歌の名所たり。鷺不二記「打ばふきとびや立けむ白鳥のさきさか山そやすくこえぬる　堯孝」

サギサカ　鷺坂　萬葉集等に見ゆる山城國の地名。今、京都府久世郡富野莊村を通る大和街道の內ならん。萬葉・九「山城の久世の鷺坂神代より春は張りつつ秋は散りけり」山城名跡巡行志、鷺坂は長池の人家の北五町計りの山上にあり」

サキシタ　崎下　臺灣總督府鐵道阿里山線の一驛（昭和八年設置。臺灣臺南州嘉義郡竹崎庄崎下にあり。

サキシマ　先島諸島　琉球弧狀列島の西南部を占むる宮古諸島（宮古島・多良間島等）、八重山諸島（石垣島・西表島・與那國島等　及び尖閣諸島の雙稱。沖繩縣に屬し、宮古・八重山の二郡に分る。前者が等三紀層の基盤に隆起珊瑚礁にて被覆せられたる低平なる島々なるに對し後者は古生層あり、第三紀層あり、火山岩も見られ、隆起珊瑚礁も發達し頗る複雜なり。

サキシマ　先志摩　↓茨處（郡）

サギシマ　鷺洲　もと大阪府西成郡の町。新淀川が城內を貫流し大仁・浦江・海老江・塚本等を含みしが、今は大阪市に入り西淀川區の東端となる。

サギス　鷺巢池　奈良縣高市郡畝傷町の鷺巢八幡の附近にありし池。記・中「故料ニ嗣立王、令ニ宇氣比白ニ、因レ拜ニ此大神ニ誠有レ驗者、往ニ是鷺巢池之樹、鷺乎、宇氣比落、如レ此詔之時、其鷺墮レ地死」

サキタ　畔田河・左伎多河　越中國にあるといふ河。今詳ならざるも國府を距る餘り遠からざる所にありしものならん。或は云ふ、今の富山縣氷見郡太田村の大字西田附近の河を稱せるものならんと。萬葉・一九「年に鮎に走らば左伎多河鮎八頭潛けて河瀨たづねむ　大伴家持」和漢三才・六二「畔田川在ニ射水郡ニ」

サキダ　崎田　石川縣河北郡にありし村。明治四十年本村外二村を廢し其地域を以て花園村を置く。

サギタ　鷺田村　香川縣香川郡の北部。高松市の南に隣り、詰田川の流域に跨る。土地一帶に平坦沖積地にして、地味肥れ肥沃、西及西北に亘りて石清尾山塊を控へ、西北の冷風を防ぎ、農耕に適す。農業方面にては米麥を產する外、果樹栽培せられ柿最も著しく（年一萬三千圓）、桃・苺・蜜柑・葡萄之に次ぐ。高松市に近き關係上蔬菜の栽培多く、副業として蕗（こんぼんむしろ・二萬三千圓）・麥稈帽・三千圓）等を製す。工業方面にては指物・寶巢・雨傘・菓子・味噌・瓦・和紙等の產あり、其內瓦は約三萬圓あり。また和紙は治革古く、當村と高松市との地域に跨りて工場あり、ちり紙二百三十萬圓・障子紙五萬圓の產額を擧げつつあり。交通は高松市より發する國道高松・琴平線、同高松・脇町線並に縣道高松・一宮線など村內を貫通し、また高松・由佐間、高松・川東間への定期自動車の往來あり、近時各道共に改修せられて交通便利なり。此地古くは和名抄、香川郡坂田郷に屬し、中世鷺田庄と稱す。建武年間足利尊氏讃飯の時、配下細川律師定禪兵を鷺田に擧ぐとあるは此地とす。明治維新の後、坂田・勅使・馬場・萬蔵・土居の五箇村を含みしが、明治五年區劃設置され、成合村を加へて第三十九區となり、同七年更に禮紙村を加へて大小區を設けられ、爾來時々の改變あり、明治廿三年市町村制實施に際し各村を合せて鷺田村と改稱し、坂田・馬場・沖・萬蔵・勅使の五大字を設く。石清尾山には先史時代並に原史時代の遺跡多く、殊に山上に散在せる積石墳最も名あり。早く秦氏の居住せる事書紀にも見え、條里制時代の遺跡も偲ばれ、また大寶年間に無量壽院が此地（坂田郷室山山麓）に創建されしといふ。別記鶴尾神社の外に村內には山清神社を始め多數の小祠あり、寺院には別記靈鷲寺の外に高義寺（眞宗・明應二年の創・吟龍寺（眞宗・寛文頃の創・慈雲寺（傳燈海の創）・明惠寺（眞宗・承應中心徳の創・妙樂寺（眞宗）等あり。「鶴尾神社」大字坂田にあり。郷社。一に土居ノ宮。祭神、應神天皇・菟道稚郎子命・氣長足姫命。創建年代不詳なるも大同年間の勤請と傳ふ。例祭十月二日。（觀興寺）大字萬蔵にあり。眞言宗醍醐派。悉地院と號す。往昔靈賢僧正の草庵にして本尊不動明王を安置す。（石船積石塚）指定史蹟。石清尾山の頂上にある積石塚群中比較的舊觀を存せるもの。前方後圓型にて北面す。全長約五四・五米、後圓部の直徑約三一・八米、高さ約六米、前方部の幅約一〇・六米、高さ約二・一米。後圓部中央に露出せる一段式石棺あり、その棺身と蓋と相並び棺底頭部に枕形を即り出せり。また前方部の中央に櫛壁の形跡存す。

サギタ　鷺田村　岐阜縣美濃國本巢郡の西南部。南は安八郡結村、西は同郡下宮村・和合村に接す。大垣市の東北約四粁にして濃尾平野の北部に位し、西部には揖斐川南流し、東部には根川曲流し兩川に挾まれたる地を占む。恐に夏季霖雨の際は洪水多く、從つて水害度も大なり。この水害を避くるため輪中なる水害豫防組合を作る、之を古稱輪中と云ふ。一村一輪中にして面積は小なり。輪中內は春は紫雲英・大麥・小麥等が作られ、夏には青田と化す。副業的に養蠶も行はれ富有柿・紫雲英種子を特產す。昔中世頃は美江寺宿より揖斐川を久の渡にて越し赤坂宿へ走り、新中仙道は美江寺より醒直南下す。東海道本線は村の南部を僅に橫斷す。かの明治維新の大業成らんとする時公武合體論の犧牲となり給ひし孝明天皇皇妹和宮親子內親王の御東下りの際はこの呂久の渡を渡らせ給へり。この時東岸の楓の赤々と紅葉せるを御目に留めさせられ御所望とありて一枝を奉りしに宮は「落ちて行く身と知りながらもみぢ葉の人なつかしくこがれこそすれ」と詠ませ給ひ、河渡宿まで御褒賞あらせられしといふ。いま渡船場に之を記念して小筆ヶ岡あり。被の一枝の元樹なる楓樹なほ存し、廟宮の記念碑は中央丘上に立つ。和名抄の大野郡驛家郷は此地と思はれ、鎌倉時代より室町時代は古橋庄と呼ばれ、呂久は中世には鷺田郷或は鷺田島と云はれ、昔は「六ノ渡り」と書かれ、美濃神明記に「大野郡從五位上六社明神」とあるも此地とす。大字中宮は呂久の枝郷。（白鳥神社）大字呂久に鎮座。郷社。祭神、日本武命・弟橘媛命。寛永十二年岡田碧鑑の創建勸請。例祭八月十八日。

サキタテ　埼立　相模國（神奈川縣）の古地名。和名抄に鎌倉郡埼立郷あり。その地今詳かならざるも諸郷の位置より推せば今の鎌倉郡鎌倉町稻村ヶ崎・長谷・極樂寺の邊なるべし。一に大船町の邊しその郷域なりといふ。

サキタマ　埼玉津　利根川の武蔵國にかかる河津なるべし。萬葉・一四「佐吉多萬能津にかる舟の風ないたみ綱はたゆともことなたえそれ」略解「埼玉郡は海によらず、利綱の大川の蛞津をいふなるべし」新編武蔵風土記「埼玉津といへるは、昔入江ありし頃の事なれば、津の所在はきして知るべからず、今の利根川の內ならんと云ふ說あり」地形變じて今審かにするを得ず。

サキツ　崎津　【崎津村】鳥取縣伯耆國西伯郡の西北部。夜見ヶ濱半島中部の西岸にあり。米子市の西北約六粁。西は中ノ海に面す。面積三・一九方粁の小村。土地は高距一六米を最高處とし、一般に低平にして中ノ海に接する邊は石垣を築き水の浸入を防止す。畑地・田地よく拓け日野川を疏通せる米川東境を限り、農產に米あり、養蠶榮えて生絲の產多し。又漁業に從事するもの少からず。大崎・霞津の聚落は半農半漁の街村にてここを通過する道路は米子市と北方の境港とを連絡す。往時は中海美保灣の內に海水通ぜしがのち閉塞して新田を築き村落をなせしものなりといふ。

【崎津】熊本縣天草郡にありし村。明治二十九年今富村と共に廢し、其地域を以て富津村を置く。

サキト　前刀　尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄、丹羽郡に前刀郷あり。その

地今の丹羽郡扶桑村・古知野町等の邊に當るか。延喜神名帳の丹羽郡前利神社は扶桑村の大字斎藤にあり、

サキト　崎戸

【崎戸町】長崎縣肥前國西彼杵郡の西北部。蠣浦島・崎戸島及び附近の小島を占む。東北黒瀬村の主要部をなす大島との間に幅約〇・五粁の中戸瀬戸を隔つ。面積僅に五・三四方粁。主島蠣浦島は南北三粁餘、東西約三粁の島にして中央部の西岸に屈曲多き湾入あり、湾口に無田島浮び良港地をなす。全島小丘陵延亙し西北端を鶴崎といふ。蠣浦島の西南方に崎戸島、其西に御床島あり。崎戸島は東西約一粁餘、南北これより稍狹く主邑崎戸は其東海岸にあり蠣浦島との間の狹水路に臨む。海岸は水産盛に、交通は專ら水運による。村内に崎戸炭礦あり。また崎戸港は顔る良港にして一萬噸級の汽船は容易に出入し得、石炭積込港として絶好の位置を占め、近年著しく發展し、昭和六年町制を施く。（崎戸鑛山）本邦重要炭山の一。砿んど第三紀層より成り、始新統上部の松島層群に屬し、炭層は主として四枚に分れ、厚さそれぞれ四・五、一・〇、一・二、〇・三米に達し、炭質粘結性にして、發熱量七〇〇〇乃至七七〇〇カロリーに達し、主として汽罐用に供せらるるも、發炭の製造にも適す。本炭層の存在は、明治十九年その附近海底より採取せられたる炭塊に起因し、その翌年試鑽の結果、地下三六米に於て厚さ二・三米の炭層に會せり。但しその位置海面下にあり、長く採炭を見ざりしが、明治三十九年具來九州炭礦汽船會社の經營に歸し、斜坑並に竪坑によりてその採掘に從事するに至り、爾來産額次第に加はり、例へば昭和十年度に於ては、産炭四八五〇〇四九瓩、その價格五五三・四萬圓に達し、實に全國第八位を占むるに至れり。

【崎戸島】→崎戸町（長崎縣）

サキトリ　前取　相模國（神奈川縣）の古地名。和名抄に大住郡前取郷あり。延喜神名帳の大住郡前鳥神社は今の中郡大野村四宮にあり、されば大曽大野村なその郷城となすべし。天平七年の相模國封戸租帳に「大住郡埼取郷五十戸、田百七十八町」とあり、中世これを前取莊と稱せしは後宇多院御領目錄に「蓮華心院領、相模國前取莊」と見ゆるによりて知らる。

サキヌ　咲野　→都跡村（奈良縣）

サギヌ　開沼　→都跡村（奈良縣）

サギヌマ　鷺沼　→津田沼町（千葉縣）

サギノウラ　鷺浦　→鵜鷺村（島根縣）

サキノハマ　佐喜濱村　高知縣土佐國安藝郡の東海岸。北東は野根町、北は川北村、西は羽根村・吉良川村、南は室戸町・室戸岬町と界し、東部は海に面す。安藝山地の東斜面の中部にあり、西及び北の村境には高さ九〇〇米内外の山岳連亙して東に海に向ひ急傾斜をなし、東北境にも小坂山（七八五米）ありてその山稜南方に延び、これと西境山地との間なる佐喜濱川南流して海に注ぎ、その川口附近に稍廣き低地をつくり耕地を拓くも村内の大部は山林をなし、氣候の温暖多湿なるため森林よく繁茂す。農産に米・麥・繭あるもその額多からず、沿海は好漁場にして水産額は村の生産の首位を占む。阿波街道海岸に沿ひて南北に通じ、北は甲浦・牟岐・日和佐を經て德島方面へ、南は室戸岬の北方を横ぎり高知方面へバスを通ず。村の中心地は佐喜濱川の河口に近く、德島・阪神地方への汽船の寄航地、また漁港として賑ふ。佐喜濱は古くは崎濱にも作る。明治八年、入木・根丸・奥舟場・都呂・尾崎・佐喜濱浦の諸村を合して一村となし、同十一年現村名に改む。もと佐喜濱の邑主にして累代香匠を業とせる大野氏あり、殊に源内なるもの剛勇を以て著る。天正二年長曽我部元親が安藝郡攻伐の時にも近傍の諸豪を結集してその謀主となり、吉良川・羽根地方まで打出で長曽我部軍に當る。元親怒つて親ら羽根坂にて槍を合せこの一撰を蹴散らす。翌三年、元親の軍佐喜濱に打入るに及び源内は真先に出で、元親の前陣澤田太郎右衛門と闘ひて殺され遂に一撰は平定す。また矢立山の北麓字經屋に掘塚あり、鎌倉時代のものにて塚上碑面の表に供養の文を記し裏に結願の人名を刻す、石質は甲浦石にて風化のため表面は崩壊し僅に慶長元年大願主の文字等を認め得るにすぎず、併し年次を刻せる古碑として本縣にては最古のものといふ。（八幡宮）大字佐喜濱に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。御神體は今より六百餘年前海上に漂流し居たるを本所に安置したるものと傳ふ。例祭、十月五日。（飛石側石）淀ヶ磯にある磯路。本村より野根村に越すところにて凡そ七粁、最も危險なる所は約四粁、東は怒濤打寄する荒海、西は削るが如き絶壁これを穿ひて街道通ず。名榻は潮滿ち浪激しき時は潮水直ちに脚下に來り、往來する者石上を飛び歩くを以て起るといふ。（川島德次）本村の人。性剛毅、常に憂世の志を抱き壯時父七五郎に代り岩佐關門の番士を務む。傍々元治元年國論沸騰に際し清岡道之助等の同志に内應しその擧を援けて盡力し落城の知る所となりて囚に就き奈半利川畔に刑せらる、年四十。贈從五位。

サギノモリ　鷺森　→和歌山市

サキハリオ　崎針尾村　長崎縣肥前國東彼杵郡の西北部。佐世保市の東南約六粁、大村灣口に横ぼる針尾島の西南部を占め、東北部は針尾島の東北部を占むる江上村と界し、その他の部分皆海に面す。南北約九粁、東西約四粁、南北に細長し。東隣江上村との間には南方より深く刻み込める峡湾を挾み、また西海岸には多くの峡湾式彎入あり、南端には明星ノ鼻、中央に日本崎の突出あり、西方西彼杵半島の東北部との間に大村湾口を為す幅一粁足らずの伊ノ浦瀬戸を挾む。全村山地起伏し西部海岸の所々に僅に小低地あり、山地の傾斜地もよく開拓せられて田畑比較的廣く、米・麥・粟・甘藷等農産を出し、沿岸には漁業行はれて水産少からず。

サキヤマ　前山村　兵庫縣丹波國氷上郡の北端。北は京都府天田郡上豎富村及び竹田村を隔てて福知山市に接し、南は吉見村・美和村、西は幸世村に隣る。攝丹山地の南部を占めて山地は三百米乃至四百米の高度を示し古生層より成る。竹田川は西部を北流し土師川と合流す。河岸の沖積地及び支流の谷には水田耕作行はれ、其他に見るべきものなし。福知山街道西部を通過し、福知山線も之に並行して走る。本村は凡そ和名抄の氷上郡前山郷の地にして中世は前山莊と云ひ、建久二年の文書により、後白河院長講堂領なること覗はる。

サキヤマ　崎山

【崎山村】岩手縣陸中國下閉伊郡の東海岸。宮古町の北に隣り、北は田老村、西は山口村と界し、東は太平洋に臨む。北上山系東西に縦走し丘陵連亙して平地に乏し。西部山地は秩父古生層にて他の大部分は石英斑岩、海岸の一部に白亞紀地層あり分化石を産す。縣道宮古小本線通せ宮古町・田老村に達し勾配稍急なる傾あるも自動車の交通頗繁なり。各部落にも村道通じ車馬の便あり。海岸は漁業盛なるも交通上には利用されず。本村の住民は牛農牛漁にして農産物に麥・大豆・稗を主とし漸く自給自足の程度なり。山林は薪炭・枕木・木材を出し年産二萬圓、水産物は鮑・昆布・若布其の他年産額五萬七千圓、水産製品は鰹節・鮑を主とし年額八萬圓等主たる産業とす（數字は何れも昭和十二年現在）。本村はもとの女遊戸・鎌石・崎山の三部落を併せて一村をなし崎山村と稱し、早稲・大澤・大村・日出島・古里の五部落は現時の宮古町獅ヶ崎なも併合して獅ヶ崎村と稱せしが如し。安永九年分れて二村となるに方り區別に便ならしむるため浦・崎の一字を冠して浦獅ヶ崎・崎獅ヶ崎と稱したりといふ。町村制實施と同時に現時の二大字崎山及び崎獅ヶ崎を合して崎山村となす。日出島は日出島部落の東南方約十町の海中にある島。嗣あり蹄財天を祀る。部落海岸より島にかけて夏季海水浴場として好くアンモナイト・プリモナイト其他弁化石を産し地質的にも名高し。また日出島部落の東方に潮吹孔ある島以て著れ、潮吹孔は直徑三〇糎の竪穴、深さは約一〇米、海濱より小高き所にあり。海荒れ白波の立つ時この孔より潮を高く吹き上げ壯觀を呈す。壓縮されし空氣の膨脹力にて水を噴出せしむるものにて、普通三〇秒毎に起り、約四秒間継續す。なほ日出島くろこしろうみつばめ番殖地として天然記念物に指定さる。

【崎山村】石川縣能登國鹿島郡の東北部。富山灣と七尾南灣との間に北方に突出する鹿島半島の先端を占め、北は小口瀬戸を隔てて能登島に對し、南は北大呑村・東湊村に接す。實達山脈の北端、海に臨絶する部分にして傾斜面は概ね山林・原野をなし、東部の低地に田地・畑地拓け米・繭の農産を出す。道路は海岸に沿ひ西南七尾町に通ずるも、交通なほ便ならず。此地古くは和名抄、能登郡長濱郷の内なるべし。また此地は中山郷と云はれし時代もあるらし。田數目錄に「三室村拾三町五反、湯河村九反三」とある三室は大字三室にして、湯河は大字上湯川とす。

【崎山村】長崎縣肥前國南松浦郡福江島の東南端。福江町の東南に隣り、西南は本山村に接し、東と南は海を繞らす。西部に火岳あり、東南部に笹岳ありて其間に東北より西南の方向に開けし低地を挾み、その北部に白濱浦、南部に鹽津浦の彎入ありて稍地峡部をなす。東端にはカルマタ瀬あり、東南には崎山鼻あり。其西に日ノ瀬鼻ありて鹽津浦の東を圍む。中央低地に主邑崎山村の集落あり。農業行はれ甘藷・麥等を産し、海岸は漁利あり。福江町・本山村に通路通ずるも交通なほ便利ならず。此地中世以降五島氏の出島くろこしろうみつばめ番殖地として天然記念物に指定さる。

【崎山村】石川縣能登國鹿島郡の東北部。富山灣と七尾南灣との間に北方に突出する鹿島半島の先端を占め、北は小口瀬戸を隔てて能登島に對し、南は北大呑村・東湊村に接す。實達山脈の北端、海に臨絶する部分にして傾斜面は概ね山林・原野をなし、東部の低地に田地・畑地拓け米・繭の農産を出す。道路は海岸に沿ひ西南七尾町に通ずるも、交通なほ便ならず。此地古くは和名抄、能登郡長濱郷の内なるべし。また此地は中山郷と云はれし時代もあるらし。田數目錄に「三室村拾三町五反、湯河村九反三」とある三室は大字三室にして、湯河は大字上湯川とす。

【崎山村】長崎縣肥前國南松浦郡福江島の東南端。福江町の東南に隣り、西南は本山村に接し、東と南は海を繞らす。西部に火岳あり、東南部に笹岳ありて其間に東北より西南の方向に開けし低地を挾み、その北部に白濱浦、南部に鹽津浦の彎入ありて稍地峡部をなす。東端にはカルマタ瀬あり、東南には崎山鼻あり。其西に日ノ瀬鼻ありて鹽津浦の東を圍む。中央低地に主邑崎山村の集落あり。農業行はれ甘藷・麥等を産し、海岸は漁利あり。福江町・本山村に通路通ずるも交通なほ便利ならず。此地中世以降五島氏の支配下に屬せしも、明治四年廢藩置縣の際福江縣に屬し、のち更に長崎縣管下となる。

サギヤマ　鷺山　岐阜縣稲葉郡にあり。昭和十年岐阜市に編入す。

サキョー　左京　平安京の東部をいふ。また東京ともいひ、唐名に模して洛陽ともいふ。桓武天皇、都を平安に奠むるや、内裏の南なる朱雀門より南端羅城門に至る朱雀大路を界とし、東を左京西を右京とし、左右兩京職によりてそれぞれ管轄せり。今の京都市の主要部は大都分古の左京の地に屬す。而して今京都市の區名に左京區あり。昭和四年京都市大擴張の際設置せるものにて、先に大正七年京都市に編入せし愛宕郡の田中・下鴨・野口・鞍馬口・白川の五舊村の區域を含む賀茂川以東の上京區の地を分割せるもの。されば往昔の左京とは全然その地域を同じうせず。次いで昭和六年愛宕郡の修學院・松ヶ崎二村を編入し以て今日に及ぶ。

サク　佐久

【佐久】北海道天塩國中川郡中川村の大字。省線宗谷本線の佐久驛（大正十一年設置）あり。

【佐久平】長野縣北佐久・南佐久兩郡に亙る千曲川上流の盆地をいふ。北は淺間山、西南は蓼科山、南は八ヶ岳、東は上信國境山地により圍繞せられたるほぼ三角形の平地にして、北は淺間山の裾野に

瀬移す。中心地の標高約七百米、北東・北・西の地域は荒船・捷間・立科・八ヶ岳等の第四紀火山の斜面をなし、東南は秩父山塊の西端部をなし花崗岩・古期岩層より成る山地をなす。北流する千曲川は西流する湯川を合せ小諸より西流して上田盆地に入る。平地は僅にこの流域に開け、その中心部に稍廣き野澤平あり。この地は淺間火山の泥流による退分原泥流扇狀地域と湖の淵れし化石層との結びつきしもの。山地地域に於ける東南部の秩父山塊、北方の荒船火山地域は地形比較的古く、千曲川の支流、相木川・拔井川・内山川等の谷は上流部まで廣く開く。この盆地は標高高き故氣温は低く、輕井澤の如きは約九百米にて我國に於ける著名なる高原避暑地をなす。野澤附近は水量豐富なるを以て農作よく行はるるも、北方岩村田・御代田は灌漑可能地域にのみ限られ、退分に至る千米を超ゆる所は氣温の制約を受け米作不可能とす。更に水田・畑地の耕作地帶を軸として草刈地帶、森林並に牧場地帶と移行する産業景觀を呈す。特色ある産業としては養蠶業行はれ佐久蠶の産地として世に知らる。千曲川の水量豐富にして飼料の補に富むため稻田養蠶行ぼれ、製絲業も盛んにして小諸・野澤等はその中心をなす。更に又水力發電工事盛んにして取入口・發電所は千曲川兩岸の段丘上所々に見受けらる。郡邑として大なるものなきも小諸・岩村田・中込・野澤・臼田等の小中心あり。鐵道は信越本線碓氷峠より來り輕井澤・御代田・小諸と通じ、高原鐵道と稱せらるる省線小海線は小諸驛より岐れ千曲川に沿うて流れ、八ヶ岳の中腹を經て中央本線の小淵澤驛を結ぶ。電車は小諸より岩村田・野澤・臼田方面へ丁字形に走る。中仙道は退分より岩村田を經て和田峠に向ひ、北國街道は退分より小諸を經て上田に向ふ。退分にもと交通の要衝にして相當に賑ひたりしも鐵道開通してよりは大に衰へたり。甲州との連絡は佐久甲州街道により八ヶ岳の南麓に沿ひ韮崎に向ふ。

【佐久(郡)】 信濃國の古郡名。三代實錄貞觀八年に郡名見ゆ。和名抄は美理・大村・大井・荊部・青沼・茂理・小沼の七郷及び餘戸一を置く。明治十三年、南佐久・北佐久の二郡に分る。

【佐久海ノ口】 内地第一の高山鐵道なる小海線の一驛(昭和七年設置)。長野縣南佐久郡南牧村の大字海ノ口にあり。海ノ口の名は傳說として殘る松原湖或は他の湖の咽喉部にありしより起るか。

【佐久廣瀨】 内地第一の高山鐵道なる小海線の一驛(昭和十年設置)。長野縣南佐久郡南牧村大字廣瀨にあり。

【佐久穗村】 内地第一の高山鐵道なる小海線の一驛(大正八年設置)。長野縣南佐久郡穗積村にあり。

【佐久島】 →佐久島村(愛知縣)

サクイシ 避石 薩摩國(鹿兒島縣)の古地名。和名抄に薩摩郡避石郷あり、今不詳なるも薩摩郡川内町の邊に當るか。

サクギ 作木村 廣島縣備後國雙三郡の西北隅。三次町より西北約一〇粁。東は布野村、東南は河内村、南は江ノ川の上流可愛川を隔てて高田郡船佐村、西は同じく川根村及び島根縣石見國邑智郡日羽村、北は都賀村・谷村及び島根縣出雲國飯石郡赤名町とそれぞれ界す。面積九三・五四方粁を占むる大村にて、南北約一八粁、東西三—八粁あり。中國山脈主軸の南側に當り、北境はその三國山の山地にて新造地山(七八六米)・女龜山(八三〇米)等の諸峯聳え南西方に緩く傾き、東南部にも五〇〇米臺の山地ありて西に低下す。江ノ川上流可愛川村の南境を西流し門出に於て大曲流なし西境なして北流す。村内到る處山地多く、その山地間の谷と可愛川筋に沿ひ耕地あるも全有租地の約一〇%に過ぎず。農產に米・麥・繭等あり、林產亦多く、畜牛槃ゆ。江ノ川を溯りて三次町まで舟運の便あれど本村の利用は大ならず。可愛川を利用して廣島電氣會社能見發電所あり、最大出力一一二〇〇キロワット。(淨圓寺)大山寺谷にあり。眞宗本願寺派。用池山と號す。もと眞言宗なる奉じしが、大永年中善西法師の時現宗に改む。

サクサク ——社 臺灣臺東廳蘭山郡にある蕃社。新武路溪の南岸にあり。プヌン族の郡蕃に屬する高砂族の部落。戶數九、人口六三(昭和十一年末現在)。蕃稱 Pnsaksak。

サクシマ 佐久島村 愛知縣三河國幡豆郡の南端。知多半島先端師崎町の東方海上約四粁にあり。一島一村をなす。渥美灣中の小島にて略圓形をなし、西部の突出部は波ヶ崎と呼び、北部より東部は丘陵連り、最高點三八米。中央には大浦・太ノ井浦を抱き、東岸には人ヶ浦を抱く。大浦内には小島散在し、大島・辨天島あり。聚落は一色と黑とに集り、一色はまた佐久島とも云ひ、漁港をなし、純粹の漁村聚落をなす。

サクシュー 作州 美作國の略稱。

サクシュー 朔州 【朝州郡】 朝鮮平安北道の西部北邊に位する郡。道管内一府一九郡の一。北及び東は昌城郡、西は義州郡、南は泰川・龜城の兩郡にそれぞれ相接し、北の一部は鴨綠江を隔てて滿洲國安東省と相對す。地形南北に長く、面積一一五三平方粁。郡の中央を飛來峯山脈の主脈東西に走りて界畔嶺(最高點五七七米)を中心とする分水嶺をなし、その支脈四境を圍みて東境には佳峴嶺(最高點六一九米)・鼎鉉峰(九九七米)、西境には天摩山(一一一六九米)等聳立す。河川は前記分水嶺の北側に九曲川發源し北西の方向に蛇曲流して鴨綠江に注ぎ、南側には大寧江發し諸溪水を集めて東南流するも沿岸に沃地の見るべきものなく、灌漑不便なり。域内、谿谷部を除きては人煙稀薄にして人口密度は一方粁四四人にすぎず。總面積の八八%は林野にして耕地は僅に田一二〇〇ヘクタール餘、畑一〇五〇〇ヘクタール餘に過ぎず。粟・大豆・小豆・米・玉蜀黍等を主產し、また大麻・棉を栽培す。牛・豚を多く飼養し、生牛・牛肉の取引盛なり。工產には麻布(明細)・白木綿・生糸・燒酎等稍多く、鑛產には金・砂金・銀・黑鉛等あり。特に鴨綠江岸に近き朝州金山は有名にして、昭和十年の新成鑛業所の金銀產額約七八萬圓、積洞鑛業所のそれは七〇萬圓に達す。交通は二等道路定州方面より來り八營嶺(二九八米)を踰えて郡内に入り中央部を南北に貫き、北境にも西方義州より來る二等道路通じて何れも自動車を通ずるも概ね坂路にして便ならず。行政上、朝州・九曲・南西・兩山・外南・水豐の六面に分ち、郡廳を朝州面東部洞に置く。郡邑朝州の南に近く朝州溫泉あり、交通の便よく泉量豐富にして浴客多し。沿革。本郡は高麗朝の時李嶽縣と稱し縣治を嶽南の現大館洞に置きしが、顯宗に至り邑號を朝州と改め都護府使兼防禦使を置く。李朝世祖十二年に至り郡治を今の朝州邑内に移し、明治二十八年郡守を置き現今に至る。

【朝州面】 朝鮮平安北道朝州郡の北西部。東は兩山面、北西は九曲面、東南は南西面、北東は昌城郡昌城面に各隣接す。江南山脈展びて域内に達し、東境に五峰山(八八二米)、西境に豆門山(一〇四九米)等相對峙し餘勢周縁を割し、周縁山地に發源せる朝州河は中央部を北流して九曲面に出でのち鴨綠江と合す。朝州河の沿岸地帶は本面の主要居住地帶を成し殊に西北部に於て稍大なる平地あり、そこに面政及び郡政の中心朝州あり。水田極めて乏しく畑作を主とし大豆・玉蜀黍・粟・馬鈴薯・煙草等を產し、明紬・莞蓆・朝鮮酒等の工產のほか東北境に近き金五洞には金・砂金を產す。西方義州より東南方安州に通ずる二等道路、面の略中央を横斷し義州方面へは乘合自動車の便あるも他の路線は改修未だ十分ならず、加ふるに他面に出づるには郭哥嶺(五二四米)・草頭嶺(三四二米)・界畔嶺(五七七米)・溫井嶺(五七四米)等の諸峠ありて交通便ならず。聚落は朝州最も著はれ南方には溫豐洞の鑛泉聚落あり、其他主なるものに龍泳洞・龍巖洞・薩德洞・大鼎洞・南坪洞等あり。朝州邑は市區の整へる比較的清潔なる市街にて郡廳・面事務所・警察署・地方法院出張所・郵便局・金融組合・小學校等あり。郡内物資集散の中心を成し商業活潑なり。又市場は縣廨三・八の日に開き一箇年取引高一五萬圓に達す。

サクタノウナデ 裂田溝 ↓安德(アンドク)村(福岡縣)

サクトー 揀東(さく) 【揀東上堡】 臺灣臺中州の古地名。今この地域は、豐原街・神岡庄・潭子庄(以上豐原郡)・東勢街・石岡庄・新社庄(以上東勢郡)の二街四庄の全部及び北屯庄(大屯郡)の内、大坑の一大字に亙る廣大なる地域を包括せり。清の康熙六十年代には、同下堡と合して猫霧揀堡と稱せしが雍正十二年分立して猫霧揀東堡と云ひ、次いで乾隆年間揀東上堡と改む。我が領臺後堡は依然存置し、大正九年地方制度の改正に到りて廢せられ、舊區域内の地は前記諸街庄に分割せられたり。本堡の西部なる葫蘆墩街(現豐原街豐原)を中心とせる一帶の地方は、平埔蕃族のパセッヘ部族なるラホドブルー卽ち岸裏(裡)社の所屬に係り、後等は康熙の末年以來早く清朝に歸附し、其の頭目(酋長)自ら業主となりて開拓に從ひしが、雍正元年以後未墾地を漢人に墾興して開拓せしめたり。葫蘆墩街の前身たる岸裏新庄は乾隆初年頃漢人に依りて建てられ、東部なる山地方面(主として東勢郡下)は乾隆三十七年以來、地方に依りては再三蕃害のため蹉跌しつつも漸次開拓せられ、咸豐・同治の頃には所在に建庄を見、現北屯庄大坑に至りては殊に蕃害甚だしく、光緒十六七年頃に及び、漸く其の目的を達するを得たり。

【域東下堡】 臺灣臺中州の古地名。今この地域は大屯郡の内、西屯・南屯二庄の全部、北屯庄のうち大坑を除きたる殘餘及び烏日庄のうち學田の一大字、豐原郡のうち大雅庄の全部に亙る廣大なる地域卽ち臺中平野(もと葫蘆墩平野と稱す)の西半部を占む。清の康熙六十年代には同上堡と合して猫霧揀堡と稱せしが、雍正十二年分立して猫霧東堡と云ひ、次で乾隆年間揀東下堡と改む。我が領臺後、堡は依然存置し、大正九年地方制度の改正に至りて廢せられ、舊區域内の地は前記諸庄に分割せられたり。本堡は康熙の末年以來、漢人によりて開拓の端緒を開かれ、現南屯庄南屯(もと犁頭店街と稱す)は平埔蕃族のダアグサガア(猫霧揀)社の地にして最も早く開け、當地方の中心となり、雍正九年には巡檢を設置せられたり。道光年間までには土地の開墾到る處に成就せられ、前記諸庄の主要部落は既に其の基礎を造られたり。

サクナミ 作並 宮城縣宮城郡廣瀨村の大字。省線仙山東線の作並驛(昭和六年設置)を置く。此地に作並溫泉あり泉質は無色透明の食鹽泉、胃腸病・神經病等に效果ありと。

サクネー 朔寧面(さくねい) 朝鮮京畿道漣川郡の北端。元の東面及び北面を合併し北面の首邑朝寧の名に改めしものにして、東は江原道鐵原郡寶目面に、北は同馬場面及び黃海道金川郡月城面、西は同宿仁面に各相隣接し、南は臨津江を隔てて西南面と相對す。北境に楸柯嶺(四二五米)の聳立する外は著しきものなきも概して丘陵地帶を形成し、西南境を流る

る鰐淵江岸には段丘發達し又支流郡谷川は略中央を蛇曲流し西流して鰐淵江に合し、其沿岸に亦河岸段丘の發達を見る。耕地は之等河岸段丘上に依存し集落亦其分布と概ね一致を見る。産物の主なるものに米・麥・大豆・粟・薪炭・草鞋・蕗子・栗・松の實等あり。近年馬鈴薯の栽培も著しく增加の傾向にあり。二等道路は西方市邊里より來り面内に入り鰐淵江に沿ひて東南に走り京城に達し、乘合自動車を通ずる外は等外路線にして交通一般に便ならず。面邑制等は鰐淵江左岸段丘上に位置し、郵便所・警察官駐在所及び陸軍三・八の日に開く市場ありて薪炭・穀類・雜貨の取引活潑に行はる。

サクビ　作備

【作備】作州(美作)と備州(備前・備中・備後)

【作備線】岡山縣にありし省線。もと山陽線の一本にて津山市の津山口驛より伯備線の新見驛(阿哲郡上市村)に至る。昭和十一年姫津東線・姫津西線と共に姫新線となる。

サクマ　佐久間

【佐久間村】千葉縣安房國安房郡の西北部。東西に長く、西北部は保田町、東北部は君津郡環村に接し、南は岩井町・平群村、東は大山村に隣り、西は浦賀水道との間に勝山町を挾む。房總丘陵の一部を占め、東北境に津守山、南境に伊予ヶ嶽・津邊野山ありて森林廣く所々に畑地あり。村の中部は低平にして小流西に流れその岸に沿ひて田地拓く。農産に米・麥・野菜等あり、養蠶・養雞・乳牛飼育行はれ、繭・卵・牛乳の産少からず。山林よりは木炭を出す。西隣勝山町なる省線房總西線安房勝山驛に近くバスの便あり。附近の町村と共に要塞地帶内に屬す。本村附近には下部中新統に屬する灰色硅質頁岩・砂岩・礫岩より成る佐久間層發達す。此地は勝山町と共に、和名抄、平群郡俤俣郷の地にして相武平氏と稱する安房三浦氏の族、此地に佐久間氏を稱し、義村の後、朝盛の時尾張に移り、その裔信州飯山城主・同長沼城主として著る。〔密藏院〕新義眞言宗智山派。草創年代不詳。本尊不動明王は寶龜元年良辯僧正の作にて相州大山町大山寺不動と同木なりと傳ふ。源頼朝祈願せしに遂に正二位右近衛大將に任ぜらる。之より立身不動尊と稱へ寺領若干を寄す。のち里見氏・德川氏先規に準じて寺領十五石餘の朱印を附す。弘化三年炎上、嘉永五年再建成る。

【佐久間村】靜岡縣遠江國磐田郡の北端。東南は山香村、西南は浦川町に接し、東北は周智郡域西村、西北は天龍川を境にして愛知縣北設樂郡豐根村に隣る。赤石山脈の西脇南北に連り、北部には谷岳山(九二六米)、東南境に戸口山(一〇二六米)を起し村内殆んど山地をなす。天龍川は西境に沿ひて南流し、大字中部の附近にて浦川町より來る大千瀬川を併せ流路を迂轉して村の中部を横隔し、戸口山の北麓を迂廻して東南隣山香村に出づ。木材その他の林産を主とし繭・麥等の農産あるもその額多からず。東南部に久根鑛山ありて鑛産は村の生産額の首位を占む。谷沿の道路は秋葉街道と別所街道を連絡し、また風來寺鐵道と伊那電鐵を繫ぐ三信鐵道通じて中部天龍・佐久間水窪口の二驛を設く。此地或は和名抄、山香郡與利郷に屬せしものか。其後の沿革は詳かならず。〔神妻神社〕大字半場に鎮座。郷社。祭神武甕槌神。光仁天皇寶龜二年十一月勅請する所に係るといふ。中世國野大明神といひ、慶安元年鹿島明神と改め、元文元年更に神妻大明神と改め朱印領二十七石五斗を有す。明治三年、式内の馬主神社なりとの故にて馬主神社と改めしも、同六年再び神妻神社と改稱し、郷社に列す。例祭九月十六日。〔久根鑛山〕本邦重要鑛山の一。古河鑛業合名會社に屬し、鑛區は本村及び山香村・周智郡域西村に及ぶ。昭和十年硫化鐵鑛二〇・三一〇瓩、約三八・〇萬圓、銅鑛二三五三瓩、約二四・一萬圓の外、沈澱銅二〇六瓩、約七・四萬圓、計六九・五萬圓を産出す。鑛床は主として黄鐵鑛及び黄銅鑛の鉱密なる集合にて、部分により磁硫鐵鑛・磁鐵鑛及び多少の石英を混じ、大小數筒のレンズ狀を成して、石墨片岩・絹泥片岩等の累層中、通常白石と稱せらるる淡綠色絹泥片岩石中に地層に平行に發達し、東南に面せる山腹上、東北より西南に延長し、西北に向ひて深く地中に連續す。そのうち最も大なるものは、山の最も奥に位する奥鑛にして、延長四五〇米、上下また之に匹敵し、厚き一五米乃至稀に三〇米に達す。奥鑛の東北にはその延長方向に沿ひて、東一號鑛あり、またそれらの手前には中鑛及び西中鑛、前鑛及び西前鑛と稱せらるる四枚の鑛床前後二帶に配列す。その發見は享保十六年に遡れども、その後長く廢山となれり。然るに明治三十一年現在の鑛床發見せられ、古河合名會社の經營に移り、銅山として全國有數のものとなれり。當時主として黄銅鑛に富める部分を採掘せられ、大正初期には年産一五〇萬圓近くの銅鑛を産せるも、その後次第にかかる部分は採掘し盡され、一時衰頽に傾けるが、近年硫化鐵鑛の需要激增せるためそれを目的としてその採掘を續けられ、そのうち特に黄銅鑛に富める部分を銅鑛として選別せられ、また坑内より出づる水より、その溶解せる銅を沈澱せしめ、前記の産額を保ちつつあり。

サクマチョー　佐久間町（さくまちょう）　東京市神田區内の町名。外神田にあり。神田川に臨み、北に和泉町と接し、南は美倉橋(舊名、あたらし橋)により柳原を經て豐島町と接す。舊觀帖・二上「これを眞直にいくとすぢけへだが、同じ道も過

屈でこぜへせう、あたらし橋から佐久間町通りをいきやしやう」

サクミ　作見村　石川縣加賀國江沼郡の北部。大聖寺町の東隣にあり。北は鹽津村、東は動橋村・庄村、南は南郷村と界し、東北の一部は柴山潟に面す。北及び西の大部分は海岸段丘の内斜面に屬し山林多く、東部及び南部は加賀平野の一部をなし、平坦にして水田よく拓く。東北部柴山潟のほとりに片山津鹽類泉湧出せり、農産は米を主とし繭を出し、機業行はれて絹布・人絹織物の産少からず。省線北陸本線と北陸道は村の南部を東西に貫通し、北陸本線の動橋驛より片山津間(二・七粁)は社線溫泉電氣軌道の便あり て省線列車發着毎に接續運轉し、村内に片山津本村・片山津(共に大正十一年設置)の二驛を置き、またバスを通ず。此地古くは和名抄、江沼郡菅浪郷及び同忌浪郷に分屬せしものの如し。菅浪郷は山背郷の北、郡家郷の東の一區を占めしも、後世分裂し今の南郷村・庄村・作見村等に割入せしものならんといふ。〔片山津溫泉〕柴山潟の南岸の湖中に湧く溫泉にして、無色透明なるも强度の苦味を有する濃厚なるアルカリ鹽類泉なり。此地は毒永年間木曾義仲が倶利伽羅の戰に平家を追ひ落し、ここにて再び戰ひしところなり。當時平家の將齊藤實盛は背て義仲を窮地より救ひし恩人なるを以て義理のしがらみにひかれ白髮を黑く染めて壯烈なる最期を遂げしことは人口に膾炙せらるるところなり。その墓・首洗池・鎧掛松・手塚山などの遺蹟あり。また湖中よりは鯉・鮒・いな・うなぎ・しじみ及び菱の實等を産す。〔忌波神社〕(穂之宮)大字弓波に鎮座。縣社。祭神倉稻魂神。勤請年代不詳。續後紀に仁明天皇嘉祥二年十月庚寅奉授加賀國菅浪神從五位下とあり。菅浪は忌浪の誤なるべく、その古社たるを知るべし。例祭八月二十二日。

サクヤサワ　作谷澤村（さくや）　山形縣羽前國東村山郡の西南端。山形市の西約七・五粁、北は中村、東は南村山郡村木澤・柏倉門傳の二村、南は東置賜郡吉野村及び西置賜郡白鷹村、西は西村山郡宮宿町に各隣接す。白鷹火山の外輪山内を占むる山村にして、火口原は白鷹丘陵といひ四〇〇米内外の波狀をなす幼年期の丘陵をなす。白鷹火山はこの丘陵上を覆ひ、主峯白鷹山(虛空藏を祭るを以て虛空藏山ともいふ、九九二米)・は南境に聳立し、北方に開く馬蹄形の爆火口壁は絶壁を爲す。東黑森(七六六米)・西黑森(八四七米)の兩山は外輪山に噴出せるトロイデ火山なるが、なほこの外にも雷山(五一六米)等の小トロイデもあり。何れも安山岩より成る。中に曲沼・荻沼・大沼等の小湖沼群散點し、一部には既に死滅せんとするものも見受けらる。最上川の一支流橋川は白鷹山の北斜面に發して山地を切り北流す。集落は高度四〇〇米内外の舟底型の窪地の藤、泉に沿ひて分布し、略圓形に近く發達す。窪地の底は泥炭質物を埋藏せる濕地にして水田開くるも、早稻より育たず、收穫高も大ならず。養蠶業に從事せる者多し。江戸時代にはまた苧麻を作りその絲を紡ぎ紋張の製作に從事せる者ありしも今は少し。山形市に至る羽越街道南部を東西に貫通するも交通便ならず。〔畑谷城〕東黑森山の一端に址あり。脇坂淡路守の築城に成ると傳ふ。山形城を山の間隙より望見し得る形勝の位置を占め、元亀・天正の頃最上義光の臣江口五兵衛八千石を領して下長井・荒砥口防として居住せる所なり。鬱ヶ原の役には上杉景勝の臣直江兼續の攻略する所となり、遂に一族皆亡ぶ。

サクヤマ　佐久山町　栃木縣下野國那須郡の西部。東は湯津上村・那珂村、南は上江川村、西は野崎村、北は櫻岡村にそれぞれ隣接す。北境に沿ひて箒川東流し其沿岸は狹長なる低地を成すも、南は直に三〇—四〇米の崖を成し、南部一帶は二百米前後の丘陵地を成す。沿岸低地は總て水田なるも漏洩の便良好なるを以て丘陵地諸處にも水田を見る。生業は農家相手の商家も若干あるも、大半は純農業に從事す。農家の副業として近年椎茸栽培盛んに行はれ、また菖蒲なども小規模乍ら見らる。國道南方宮流川町方面に通じ、またこれより來り北方太田原町方面に通じ、また野崎驛にそれぞれ通じ、これ等諸道路には何れもバス通じて交通の便よく、近年は宇都宮市(約三〇粁)に定期自動車も通ず。往古の事は詳ならざるも近世那須七騎の一なる福原氏の邑にして三千五百石の領主たり。那須系圖に高資の弟、森田彈正左衛門尉資都を福原氏の家祖とす。資都子なく、太田原晴清の次男資孝を養ふ。資孝、安藝守と稱し天正十八年佐久山を安堵す。尙ほ系圖に與一宗隆の諸兄に森田太郎先隆・佐久山次郎泰隆・芋淵三郎幹隆・福原四郎久隆等あり。佐久山氏は蓋し福原氏以前に此地を領せし者。中世は此邊を那須上庄と稱せしといふ。而して古くは鹽谷郡に屬せしも、那須氏の所知に歸して上庄と稱へしより郡須郡に入りしものの如し。近世は奥州街道の一宿驛にして、町の大半は旅館及び遊郭より成り、花の佐久山(咲山)などと俗謡に歌はるる等頗る盛んなりしも、鐵道の開通以來その圏外に置かれ全く衰微す。小學校の前面約百米の丘陵上に佐久山城の遺址存し、陣址も今なほ認め得。いま丘陵一帶には櫻樹及び楓樹多く、佐久山公園と稱し春秋の候雜閑す。大字福原の地は近世那須氏の總領たる與一宗隆一千石の邑にして稍々市廛を成せしも、交通の便頗る惡しきを以て全く衰微す。其館址存し、曹洞宗玄性寺内に與一宗隆の墓存す。明治天皇明治九年奥羽御巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸

の際の開度行在所となる。〔八幡宮〕大字福原に鎮座。郷社。祭神誉田別命。社傳に據れば、後冷泉天皇天喜五年源頼義其子義家奥州下向の途此地を過り、戰勝を祈らんため、石清水八幡宮を勧請する所なりといふ。爾來那須氏の崇敬篤し。別當を金剛壽院と云へり。例祭陰暦正月十四日・九月十三日。〔玄性寺〕大字福原にあり。曹洞宗。下總鴻の臺總寧寺末にて通幻派に屬す。慶安三年那須興一資重の開基、鐵翠鷲和尚を開山とす。境内に興一宗隆の墓あり。〔實相院〕大字佐久山にあり。曹洞宗。月江山と號す。雲城國西白河郡松林寺末にて、永祿元年、中叟守的和尚の開山たり。本尊は釋迦如來。佐久山城主福原家代々の菩提所にして、之より寺領を受く、境内に大高家の墓所あり、大高源吾の墓碑存す。〔正淨寺〕大字佐久山にあり。眞宗本願寺派。川越山無量壽院と號す。宗祖見眞大師東北遊錫の砌當地に到着せしに偶々慕川洪水の爲に橋落ちて渡る能はず。橋端なる孫八と云へる農家に一宿し終夜說法す。孫八深く之に歸依し、乃ち大師所畫の阿彌陀如來を安置して一宇を創す。のち一時廢絶せしが、文明年中源慶法師之を再興す。〔印南丈作〕下野日光に生れ當地印南氏の嗣となる。町政に與り殖産興業に力む。明治十三年那須開墾社を組織、社長となり、三千町歩の貸下を受け、西原一本木に農場を設立、以て那須原の開拓に成功す。大正七年從五位を贈らる。〔村上英俊〕本町の人にして我國に於けるフランス語學の開拓者。初め蘭學を學びて醫を業とせしが、のちフランス語の研究に身を委ね松代藩に仕ふ。嘉永六年佛・英・蘭の「三語便覽」を著し、後に之に獨逸語を加ふ。安政五年幕府に召されて蕃書調所教授方となる。職を辭するや家塾を開きて洋學及び理化學を教授す。而して鍍錫法を自得し、のち再濟沃度・結晶龍腦・氷砂糖等の製法を工夫し、また爆裂藥の各種製造法を創見す。明治十八年フランス政府より勳章を贈らる。明治二十三年、八十一歳にして歿す。

サクラ　佐久羅池　出雲風土記秋鹿郡の條に見ゆる池。今の八束郡内ならんもその所在詳かならず。風土記「佐久羅池、周一里一百歩」

サクラ　櫻

【櫻村】宮城縣磐城國伊具郡の北部。阿武隈川の左岸に沿ふ。角田町の北に隣り東は東根・藤尾の二村、西北は北郷村に西は西根村に各隣接す。阿武隈川下流の角田盆地の北部を占め土地平坦、沖積層より成るを以て土地肥え灌漑の便あり。阿武隈川に沿ふ地域には桑園多く、西部に水田ありて米・麥・繭を主産し、特産に熟瓜あり。古來、大字梶賀の地は甜瓜の産あるを以て知らる。角田町より北方仙臺市に至る縣道、村の中部を南北に貫通しバスの便あり。本村はもと佐倉にも作る。建武の頃吉野朝の臣五郎なる人吉野館に居城す。吉野は櫻の名所より村名となり、のち佐倉に作りしことあるも再び舊に復し櫻となる。

【櫻峠】山形縣西置賜郡津川村にあり。荒川の上流横川峽谷の右岸に當る。この峠道は舊道に屬し、昔は人々多く通行したり。北西降すれば津川村市野々を經て横川流域に達し、南降すれば大平峠を經て津川村胡桃平に出づ。

【櫻川】↓櫻川（茨城縣）

【櫻川】東京市芝區内の小流の名。赤坂溜池邊に源を發し、芝明船町・櫻川町を經、愛宕町一丁目、愛宕山下を流れ、愛宕下町三島町を經、字田川町にて終る。明治時代まで町側に添へる清流なりしが現今暗渠となる。江戸初期櫻の多かりしが故の名稱といふ。櫻川杜芳・櫻川慈悲成等の名稱は、此流域に住みし故の雅號。天狗酒醸蔵定據起「けふは二十四日にて愛宕の緣日なればとて、芝愛宕に詣でけるに、門前櫻川と號する小流の中に怪しき物あり。拾ひ上げて泥土の穢れを洗ひ去れば、しかじかの物なり」和合人・二下「がうせ（櫻川にはまつたのう、愛宕下の生酔のよふだ、どんな酒だかやつて見よう」（櫻川といふ酢酒あるため）

【櫻村】三重縣伊勢國三重郡の中部。四日市市の西方約八粁にあり。北は菰野町に接し、南は水澤村・小山田村及び川島村に隣り、東は神前村に續き、東北部は僅に縣村と界す。西方に頂點を有する略二等邊三角形をなし、面積一一・九五方粁。鈴鹿山脈鎌ヶ岳の山脚の東端村の西部に達して高さ約二〇〇米の丘阜となり次第に低下して村の東部の伊勢平野に下り、中部より東部は土地平坦にして北隣菰野町より來る三滝川これを東南流し、四日市市に至りて伊勢海に注ぐ。低地は耕作よく行はれ良質の米は俗に櫻米と稱め繭・麥等の農産を出し、製糸工場ありて生絲の産多し。北方貫鉢郡阿下喜町方面より來る鈴鹿街道菰野町を過ぎ村の中央を南へ貫き南方鈴鹿郡亀山町方面に至り、また菰野町にて分岐する縣道は村の東部を東南に走りて四日市市に通じバスの便あり。社線三重鐵道湯ノ山線東北部を通じ大字櫻に櫻村駅（大正二年開業）を置き交通便利なり。櫻・智積の二大字より成る。

【櫻橋】大阪市北區にありし橋名。曾根崎川に架し、曾根崎二丁目・三丁目より堂島裏二丁目・三丁目に通ぜしもの、江戸時代曾根崎遊里通ひの客多く往來す。現今は該川が埋められ、橋も亡び電車路交叉點となる。心中刀は氷の朝日・中「神が佛の堂島をきて見よとてや田蓑橋、夜夜を重ねて大江橋、橋のゆきげた雪ならば、幾たび袖を拂はまし、花のふぶきの櫻橋、梅田のみどり曾根崎の、青葉隠れの鳥の音も、法華長屋の名を立てて」心中天の網島・下「勝老松の緣橋、別れを

歎き悲みて、跡にこがるる櫻橋、今に嘯を聞き度る」

【櫻島】鹿兒島灣北部に聳起せる一火山島。基底略圓形をなし、直徑約八粁、周圍約三〇粁。不完全なる幼年期のコニーデ型火山なるも、中央頂上部に御岳（或は北岳一一一八米）・中岳（一一一〇米）・南岳（一〇七〇米）等所謂櫻島缺南北方面に並列し、東または西より望めば圓錐體の上半の切隙せらるるホマーテ型火山の如く見ゆ。東側には鍋山（三五八米）のホマーテ型、西側には引の平（五五三米）のコニーデ型寄生火山あり。第四紀火山に共通なる複輝石安山岩により構成されたるも、有史以後屢々大爆發を反復し、文明三年北岳西北西麓なる大燃崎熔岩噴出し、同七年南岳南南西なる燃崎熔岩噴出あり、寛延二年には南岳西方中腹より熔岩噴出、續いて約三十年を經て安永八年北岳東七〇〇米の高距より熔岩流噴出、また南岳南方高距七〇〇米よりも熔岩流噴出し、現在東北海中に浮ぶ新燃島・硫黄島・中ノ島等の所謂安永諸島なる五島を形成す。以上は殊に注意すべき爆發なるも、更に大正三年の大爆發により世界的に知らるるに至る。此時の活動は噴煙を上げ、熔岩を流出する混合相の火山として代表的なるものにして、一月十日早朝爆發の前兆として先づ地震頻發し、十二日朝より有村及び西道の南北兩海岸數箇所より熱湯噴出し、午前八時頃南岳山頂より白煙噴出、十時にその西腹四〇〇米の所に爆發起り、約十分を後れて東麓の鍋山爆發し、黑煙天に神し、當時觀測せる水雷艇に依り上昇七〇〇〇米と報告さる。爆音轟き地震迅發し、同日夕刻より夜半にかけ愈々猛威を逞しうせる爆發は十三日朝に至り微弱せるも、南岳西腹より暗黑の熔岩流下を開始し、十六日に山麓の横山・赤水部落を埋めて海岸に達し、十八日には六〇〇米の沖合なる島島に到達、廿七日迄其運動を持續し終に元の海岸より突出すること九五〇米、幅一五〇〇米の新陸地を形成し、鍋山より流出せる熔岩流は廿九日迄に幅三五〇米、深度七二米の大隅半島との間の海峽を全く封鎖し、櫻島を一變して半島化す。所くて廿日迄熔岩流出を主とする活動繼續し、廿八日に至りて漸く沈靜し、以後は輕微なる爆發屢々起りたるに過ぎざるも熔岩流の運動は一日九〇糎の緩慢さにて翌年四月に至る迄續き、熔岩トンネルをも見るに至る。而して今日は南岳の噴火日（深さ一二三米）より常に少量の噴煙を見るのみにて再び平和郷に歸し、一丑種子島・屋久島を始め近縣或は朝鮮方面に迄も移住せる島民の多く歸村せり。本島はもと大隅國に屬し向島ともいふ。明治二十六年大隅郡を南北の二郡とするや北大隅郡に入り、同三十年薩摩國に入り鹿兒島郡の管下となり、現今東西の櫻島村に分る。櫻島大根・蜜柑等の特産あり、就中櫻島大根は大形なるを以て著はれ、根は往々直徑四〇—五〇糎に達し、葉は一三〇糎に達す。對岸鹿兒島市との交通頗繁なり。

サクラ　作良　尾張國（愛知縣）の古地名。和名抄、愛智郡に作良郷あり、その地今の名古屋市星崎町の邊に當る。文和三年の熱田神領目錄に愛智郡作良郷、畠二十五町之段とあるは此の地なるべく、萬葉・三に「櫻田へ鶴鳴きわたる年魚市潟潮干にけらし鶴鳴きわたる」とある櫻田は作良郷の田の義なるべし。

サクラ　佐倉

【佐倉村】福島縣岩代國信夫郡の西南部。福島市の西南約二・五粁、北は水保村、東は吉井田・鳥川・荒井の三村、南は土湯村に各隣接す。西境に吾妻富士（一七〇五米）聳え西半はその斜面に當り、東半は福島盆地の西南部を占め土地低平、土湯村より東北流し來る荒川は本村に入ると伏水し天井川となる。低地は水田よく拓け米・麥を産し他に玉絲の産多く果樹の栽培も行はる。街道は荒川沿ひ及び山麓を縫うて走り福島市に達するも西半は交通便ならず。村名は大字佐原・上名倉の各一字をとりて佐倉と稱す。大字下の地はもと下村といひ、天明七年十月迄州相良城主田沼意次國除かれ、その孫意明この地一萬石を賜はる。文政六年意正の時に至り舊封相良に移る。またこの地に名倉長福尉義春の宅址なりといふ所に古碑あり、義春は名倉の地を開きし人なりと。

【佐倉町】千葉縣下總國印旛郡の中部。印旛沼の南岸にあり。東は酒々井町、南は和田村・根郷村に隣す。西は千代田村・臼井町に隣り、北は印旛沼を隔てて六合村・宗像村に對す。房總丘陵の一部を占め、町内殆ど丘陵地にして、南部と北部西部の印旛沼の岸に沿ひし地とに低地あり。佐倉街道船橋市方面より大和田・臼井を經て來り、更に酒々井町を過ぎて東北方成田町方面に向ひ、また南方千葉市より縣道北上してこれに合し、省線總武本線は南隣根郷村に佐倉驛（明治二十七年設置）を設け、東走して酒々井を經て成東に向ひ、同驛より成田線を分つ。京成電氣軌道線は町の中部を東走し、町内に京成佐倉・大佐倉の兩驛を置き、交通上の要衝に當り地方商業の一中心をなす。町民の生業は商七割、農之に次ぎ佐倉炭・蒟蒻・三度煙草・蕨・初茸・松露等を物産とす。もと堀田氏十一萬石の城下町として發達し、また江戸・成田間交通の要衝に當り、當時成田山參詣客の往來絶えず殷盛を極めしも廢藩置縣の後は振はず、のち鐵道の開通と共に行人の來往頓に減じ、漸く衰運に傾きて僅に郡衙の所在地として命脈を保ちしが、更に郡役所・税務署の廢止を見るに及び大に衰ふ。されど今城址には歩兵第五十七聯隊置かれ、ま

た區裁判所・警察署・縣營の種畜場・縣立佐倉中學校・縣立佐倉女學校の官街・學校多數存立し之等圖保者の居住來往繁く商業亦從つて發達し、縣下屈指の都邑たるを失はず。昭和十二年内郷村を編入す。また明治十四年、明治天皇三里塚行幸の際及び同十五年千葉縣下行幸の際、此の地に御小休あらせられしことあり、町にある臨天堂病院は舊藩時代よりのものにして、東京の病院は本來はこの分院なりと。なほ佐倉宗吾として有名なる義民木内宗吾を祀る宗吾靈堂は後の生地公津村にあり。※公津村〔佐倉城〕町の西部鹿島臺と稱する自然の丘陵にあり。東北の二面は藻によりて市街を限り、西南は鹿島川及び沼澤によりて天然をなす。今は歩兵第五十七聯隊置かれ、土蔵屋敷の多くも亦兵營及び練兵場となる。慶長十五年土井大炊頭利勝佐倉に封ぜらるるに及び佐倉の舊城を捨てて鹿島臺に築く。十六年より起工し元和元年完に移る。食邑十四萬二千石。寛永十年古河に移封。同年石川主殿頭忠總(十萬石或は七萬石)、十二年松平紀伊守家信(四萬石)を經て十九年堀田加賀守大盛に賜はる、封七萬石(佐倉記、十五萬石)。其子正信萬治三年罪を得て信濃飯山に徙さる。寛文元年松平和泉守乗久(六萬石)、延寶六年大久保加賀守忠朝(十萬石或は八萬千石)、貞享二年戸田山城守忠昌(六萬三千石)、享保八年松平右近將監乗邑(六萬石)を經て、延享三年堀田相模守正亮に賜ほる〔封十一萬石〕。世襲して明治維新に至る。因に佐倉の舊城は千葉氏の故墟にして、酒々井町大字本佐倉の將門山一名根古屋山にあり。※酒々井町〔佐倉藩〕元和年間土井利勝此處に新に築城せしより寛永十年石川忠總、同十二年松平家信、のち幾多城主の變遷あり。延享三年堀田正亮此處に封ぜられてより以來十一萬石を食みて子孫相承け明治維新に至る。明治四年七月藩を廢して佐倉縣を置きしも、十一月これを廢して更に印旛縣をこの地に置き下總國九郡を管す。明治六年六月千葉縣に入る。藩校清德書院は寛政四年、堀田正順の京都所司代となりし時に創建せしものにして、天保四年、學制を改革し學事大いに振る。同年十月、佚小の故を以て之を再造し、子弟の十五歳になる者、必ず温故堂に出でて武藝を學ばしめ、天保十二年温故堂を書院の附屬となす。〔麻賀多神社〕大字編本に鎮座。郷社。祭神稚産靈神。創立年代不詳。蓋し地方の名社にして慶長元和の頃、土井利勝鹿島城を築くや本社を鎮守と仰ぎ、爾後歴代城主の崇敬篤く松平・堀田氏に於て殊に然り。〔海隣寺〕海隣寺町にあり。時宗。千葉山と號し俗に鎖木道場といふ。文治三年千葉介平常胤海中より獲たる金色の阿彌陀像を安置して本寺を創す。當時は經言宗を奉ぜしが、のち千葉介一遍上人に歸依し、之を時宗に改め他阿上人を請じて中興の祖となす。〔松林寺〕大字彌勒町にあり。淨土宗。慶長年中佐倉城主土井利勝の創建にして照譽上人を開山とす。中興は十八世隆譽なり。〔甚大寺〕新町にあり。天台宗。元禄十四年出羽山形城主堀田伊豆守正虎の創建にして、初め山形にあり。延享四年堀田氏下總佐倉城に移さるるや之を現地に遷し秀鉉法印を中興開山とす。堀田家累代の菩提所たり。〔松本順〕醫家。初名良順、號蘭疇。良甫の嗣。蘭醫學を修め、明治戊辰の役、東北軍のため傷病者を治療し逮捕せられしも、のち赦され兵部省に出仕、陸軍軍醫編成に盡力す。明治四十年歿す、年七十六。

【佐倉村】 印旛郡遠江國小笠郡の東南隅。北は比木村、西は池新田村、東は榛原郡地頭方・白羽の二村に各隣接し、南は遠江灘に臨む。村の中部南北に一〇〇米内外の丘陵連り海岸には二列の砂堆あり、東境及び西部に小川南流し、その流域に低地ありて耕地よく拓く。生業は農業を主とし米の他に茶・繭の産あり、縣道は中部をほぼ東西に通じバスの便あり。此地、古くは和名抄、域飼郡朝夷郷に屬せしものの如し。中世は笠原庄と呼ばる。字池ノ山に佐倉ノ池あり、一に櫻ヶ池ともいふ。面積一八〇八アール。池畔にある池宮神社の例祭は毎年祇分に行はれ、この日神供の餅を池心に沈め、その祭式奇異なる神事。〔池宮神社〕大字佐倉に鎮座。郷社。祭神瀬織津比咩神。社傳によれば、敏達天皇十三年に創立せられ、のち衰頽せしを、長保三年再興せらるといふ。舊稱池宮天王社。足利將軍以下武家の崇敬篤く、江戸時代には朱印領十石を有す。明治元年社號を池宮神社と改む。例祭秋分當日。

【佐倉】 廣島縣甲奴郡にありし村。明治二十八年、他の四箇村を合併して佐倉村を建つ。

サクライ　櫻井

【櫻井村】 茨城縣下總國猿島郡の北部。南は境町と新村を隔て、西は古河町と勝鹿村を挾み、北は岡郷村、東は長井戸沼によりて八俣村、西は香取村に隣る。國東平野内の一部を占めて利根川に近く、長井戸沼に沿へる部分は低濕にして水田あり、その他は略ど畑地をなし、農を主業として米・大麦・小麦等を産し、特産物に白菜を出す。古河町よりの縣道は村の中部を横ぎり、東隣八俣村にて岡窟町より北上する結城道に交りバスを通じ交通不便ならず。往古の事は今詳ならず、或は和名抄、葦鳥郡色益郷の内に屬せずしものか。いま下大野・久野・柳橋・高生・高野の五大字より成る。〔正定寺〕下大野にあり。淨土宗。等持院と號す。正和三年蘭田治部大輔正定の創建に係り開山を見目了寛上人とす。往時藤田氏の本山として寺勢隆盛たりしも、中世兵火に遭ひ、のち漸次衰微し遂に結城町弘經寺末となる。いま末寺二院を有す。

【櫻井村】 埼玉縣武藏國南埼玉郡中部の東偏。越ヶ谷町の北約五粁、柏壁町の南約六粁を隔て、古利根川の西南岸にあり。東は新方村、南と西は大袋村、西北は武里村、東北の古利根川の對岸は北葛飾郡豐野村なり。面積五・五一平方粁の小村なるも圖東平野の一部を占め土地低平、南半は畑と水田となし、北半は田畑相半す。農産は米を主とし麥・繭を出す。陸羽街道は村の西端を南北に走り、社線東武鐵道伊勢崎線又その西に沿ひ、隣村大袋村内に大袋驛、武里村内に武里驛を置き交通便利なり。この地は近世埼玉郡新方領に屬せり。大字大里・上間久里下・間久里は古くより幕領たり。大字大泊は康安の頃に專故なる僧の開墾せし地なりといふ。此地も往時は幕領なりしが一旦岩槻城主の所領となり、後また幕領となる。大字平方も德川氏關東入國以來幕領たり。

【櫻井村】 埼玉縣武藏國北葛飾郡の東北部。東北は江戸川との間に豐岡村・實珠花村を挾み、東南は富多村、西南は田宮村、西北は吉田村なり。面積五・五八平方粁の小村。圖東平野の一部を占め、土地低平にして東半は略ど田地、西半は低き臺地にして概ね畑地をなし、米を主とし、繭・麥等の農産を出す。東實珠花より西方移戸町、西北方幸手町に至る道路は村の南部と北部を横ぎり、また柏壁町より北方關宿町〔千葉縣東葛飾郡〕に至る道路は西境に近く縱走してバスを通じ、村内の交通は不便ならず。此地は近世埼玉郡櫻井郷に屬せり。

【櫻井村】 神奈川縣相模國足柄上郡の南部。小田原町の北約六粁、酒匂川の右岸に沿ひ、東は川を隔てて曾我村に對し、北は吉田島村・酒田村・西は岡本村に隣接し、南は足柄下郡足柄村と隣る。面積三・七六平方粁の小村なるも、酒匂川流域平野の中部に位し、土地平坦にして全村殆ど耕地をなし、米・麥・甘藷等の農産あり。小田原町・秦野町間縣道南北に通じ、また社線小田原急行鐵道〔電車〕村の中部を南走し、栢山驛〔昭和二年開業〕を置き、交通不便ならず。この地は近世、足柄上郡大井庄に屬す。大字栢山は二宮尊德の出生地として知られ往昔實山と書けり、小田原役帳に「伊東九郎三郎、五十二貫二百文、西都實山」とあれば北條氏の頃は伊東九郎三郎の知行せし地なり。德川氏關東入國の後は大久保七郎右衛門忠世に賜ひ、のち幕領となり或は采地となり、しばしば變遷あり、延享四年大久保加賀守忠朝に賜ほり子孫繼いて領せし地なり。大字曾比は曾比郷と稱す。中古荒蕪の地なりしを永祿年中、創持宗般なる者の開墾せし地にして、領主の變遷は栢山に同じく、延享年中は大久保加賀守忠朝の領せし地なり。※栢山

【櫻井】 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に足上郡櫻井郷あり、その他今詳かならず、今の足柄上郡櫻井村は郷域にあらず、或は曾我村の邊か。一に中井村の邊に當るともいふ。

【櫻井】 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に蒲原郡櫻井郷あり、佐久良爲と訓す。その地今の西蒲原郡彌彦村邊に當る。

【櫻井村】 長野縣信濃國南佐久郡の北部。千曲川の南岸。野澤町の西北隣にて東は中込町、西は岸野村に隣り、北は千曲川を境として北佐久郡高瀬村に對す。面積二・〇七方粁の小村なるも佐久平の西部を占め、土地平坦にして田地多く東部には多少の桑園もありて米を第一に、繭・麥を產す。佐久甲州街道に當り、省線小海線中込驛にも近く、交通不便ならず。町村制施行の際、上櫻井村・中櫻井村・下櫻井村・櫻井新田村の舊四箇村を合併して櫻井村と名づく。源平盛衰記、横田川原合戦の條に、櫻井大郎とあるは此地に住ぜし人なるべし。〔延命寺〕新義眞言宗智山派。平馬山と號す。天長二年の創建に係る。永祿年中兵火に罹り堂宇・舊記等悉く焼上し沿革詳らかならず。天正十一年當地平馬城主源實相之を中興す。

【櫻井村】 愛知縣三河國碧海郡の南端。岡崎市の東南約七粁、北は安城町、東は矢作川を隔てて六ッ美村、南は棚尾町と相對し、西は明治村に接す。大體、尾參平野の中部矢作川の右岸にありて、西部は浜積層臺地、東部は矢作川の沖積地より成る。矢作川は東境を西南に、鹿乗川は中部を、明治用水は西部を南に流れ、何れも南部に於て矢作川に合流す。此地は矢作川が天井川をなすを以て灌漑の便悪しく、之が爲に明治用水を設け、多くの田を潤す。鹿乗川は舊矢作川の流路なり。此地には米・麥の產多く養蠶も盛なり。交通路には西尾街道、岡崎市より本村を通過し西尾町に至る。また鐵道は碧海電氣鐵道、安城町より南下し、本村には碧海馬内、碧海櫻井兩驛(共に大正十五年設置)を置く。此地は和名抄、碧海郡櫻井郷の地なり。明治廿九年小川村・三ッ川村・藤野村を合併し今日に至る。藤井村城址は矢作川の北岸大字藤井にあり、松平長親の四男彦四郎利長の居城にして藤井松平の祖なり。天文九年安祥の役に戦死し子勘四郎信一は此城に居り、岡ヶ原の役に戦功ありて當陸國土浦城に移りて三萬五千石を食み、藤井は廢城となる。櫻井城址は城ヶ原にあり、初め三浦喜兵治ここに築城し、後に松平玄蕃助親房之を攻略し、親房子無く松平長親の三男内膳正信定を養嗣とす。これ櫻井松平の祖たり。其子家重より家宗に至り遠州濱松城二萬石に移封せらるるに及び廢城となり今土圍を存す。大字源小川に源村城址あり、内藤清長愛に居り、家長・

信成と相次いで居城す。家長は遠州二俣合戦に投群の功ありて、上州佐貫城二萬石に轉封さる。小川七村城址は大字小川に存し石川正安の築きしもの、後豊正の折岡崎城代となり廃城す。又同村古城址は本多總左衛門これに居り、明應年中松平親忠の養嗣子となり、其子正信は家康に仕へ執事職に進み、三萬石を食む。大字川島の河島城址は天正年中太田主計居り、その子左馬之助相次いで居住せしも晩年に至り水戸家に仕へ廃城となる。水戸城址は大字水戸にありて石川式部居城し次いで成瀬正義もここに住み、三方ヶ原の戰に戰死し其子半人正正成に至り尾張藩に仕へ三萬石を食めり。其他此の村には塚多く、看月塚・八塚(古鏡出土)・猫子塚・三塚等あり。〔櫻井神社〕大字櫻井に鎮座。鄉社。祭神、伊弉諾神・伊弉冉神・菊理姫命。社傳によれば、養老二年加賀國白山比呼神を此地に勧請し、後屋を社地を更へしが弘仁元年今の地蕚山に遷り坐すといふ。舊稱櫻井權現又は白山大權現。江戸時代には朱印領五十石を有す。例祭九月十六日。〔神明社・小川天神社合殿〕大字小川に鎮座。鄉社。祭神、天照大神・小河天神。神明社は創立年代不詳。元の小川村の産土神たり。小川天神社も創立年代詳かならずと雖も參河國神名帳に「從五位上小河天神」と見えたる古社なり。例祭、九月七日。〔本證寺〕大字野寺にあり。眞宗大谷派。雲龍山と號す。親鸞の弟子慶圓の開創に係る。永祿中住持空雲、佐々木上宮寺に加勢して三河一向一揆に活躍せしは史上に著聞せり。舊寺領七十二石を有ぜり。寺寶、善光寺如來繪傳(紺本着色)・聖德太子繪傳(紺本着色)は共に鎌倉末期の作と推定せられ現に國寶たり。〔新小川古墳〕指定史蹟。大字新小川にあり。前方後圓墳。全長七〇米。高さ前方部五米、後圓部九米。附近の古墳群中壯大なるものに屬す。未發掘にて舊形よく存す。〔二子古墳〕指定史蹟。大字櫻井にあり。豪地上に南面して營まれと前方後圓墳にして前方部高さ七米、後圓部一〇米、全長八〇米、規模壯大なる古墳にてよく原形を保存す。〔探見筈慶〕幼名友三郎。のち藤十郎、松塢と號し尾張知多郡外山三郷の長男に生れ嘉永四年本村藤十の養子となる。長ずるや勤王の志厚く專ら尾・三・遠有志の爲合を計り勤王の鼓吹に力む。維新の際兵食供給の功を賞せらる。風に地方行政教育の公職にあり、諸名家と交遊し、赤珍書古籍を蒐集し藏書四萬五千卷に達す。大正二年從五位を贈らる。

【櫻井郡】

【櫻井町】 奈良市の南方約二一粁。北に香久山村・鳥見村、東より南にかけては多武峰村・安倍村に接す。東部には片狀花崗岩及び花崗片麻岩より成る大和高原起伏し、奈良盆地に臨崖崖を向く。之を春日斷層崖と云ひ、櫻井は此斷層崖下に發達す。集落附近は大和高原を切流るる初瀬川の沖積地より成る。東部には鳥見山(二四四米)あり。町は奈良盆地より伊賀盆地へ抜くる谷口に位し所謂渓口聚落をなす。南部は前門山塊の傾斜地塊發達す。奈良盆地に屬する盆地面には米作あれども宇陀・吉野郡郡の頭喰を掘し、物資供給の中繼をなし、木材(桶木・樽材)・海産物の取引行はる。此地は渓口聚落をなす關係上、伊勢地方との交通の要地となり、關西線を良て伊勢と密ぐ不便より免れ、此地より初瀬川谷を上り伊賀より伊勢に出づるには最も短距離にして大軌參宮電車(參宮急行)の開通を見る。初瀬にも大阪電氣軌道通じ、盆地周縁を廻る櫻井線は櫻井驛(明治二十六年設置)にて直角に西に折れ八木方面に至る。大和鐵道は玉寺と結び盆地を對角線狀に走る。背後に名勝芳野を控へたる櫻井の交通は四通八達と云ふべく、參宮急行の如きは特急を運轉し、スピードアップを加ふ。此地は往古は城上郡に屬し、櫻井とは櫻部の訛にして所謂勢余若櫻部の居邑たり。維新前は伊勢藤堂氏の領にして、奈良盆地東南部の地方的中心をなし明治二十三年町制を布く。いま警察署・女學校等を置く。〔聖林寺〕下にあり。古義眞言宗。寧國山通照院と號す。金剛峯寺末。建久中僧慶圓の開創。のち衰頽せしが、文祿中文春再興す。有名なる本寺の十一面觀音はもと大神神社の神宮寺に安置せられしものにして、丈長六尺九寸、天平乾漆佛像の傑作として、東大寺の不空羂索觀音と併稱せられ、現に國寶たり。〔來迎寺〕櫻井にあり。融通念佛宗。櫻井領勢余山東光寺塔頭の一なる無量院の後なり。勢余山は神武天皇尊號の窯跡として岡人これを崇敬せしが、のち勢余堂を建てて之を記念す。のちの櫻井寺これなり。櫻井寺は我國最初の尼僧善信の住寺として有名なり。天永元年良忍此地に留錫して無量院を草創す。これ即ち當山の起原なり。寺寶中木造地藏菩薩立像一軀は鎌倉時代の優作にして現に國寶たり。

【櫻井線】 省線關西線の一。奈良縣にあり。關西本線奈良驛(奈良市)より南方の帶解・櫻本・丹波市・柳本・三輪・櫻井等の諸驛を經て西方に別し畝傍驛を通りて北葛城郡高田町の和歌山線高田驛に至る。全長二九・四粁。丹波市驛(山邊郡丹波市町)にて社線大阪電氣に、櫻井驛(磯城郡櫻井町)にて大阪電氣・社線參宮急行電鐵・社線大和鐵道に、畝傍驛(高市郡八木町)にて大阪電氣に接續す。

【櫻井】 石見國(島根縣)の古地名。和名抄に邑知郡櫻井郷あり、佐久良井と讀す。中世は櫻井莊と云ひ、後宇多院淨金剛院領なり。その地は今の邑智郡市山村の邊に當るか。

【櫻井町】 愛媛縣伊豫國越智郡の東岸。今治市の東南方にありてこれと富田村を隔て、西は下朝倉村、西南は上朝倉村、南は周桑郡楠河村と界し、東は燧灘に臨む。高縣地塊の東斜面の末端部に當り、北部に唐子山、中央部に向山・鑒仙山、南部に笠松山(三二八米)等の孤立の丘陵性の山峯あるも其他は一般に低平にして田畑の面積は有租地の約六%に近く、農業堅え米・裸麦・藺・鶏卵等の産あり。漁業行はれて鯛・鰯等の漁獲少からず。特産物は櫻井漆器にて產額多く、近年は紀州物を凌ぎ能登物と並稱され中國・九州方面に廣く賣出さる。そのほか綿織物の工業も盛にて、從つて商業取引活潑にして町は活氣を呈す。新居郡西條町にて讃岐街道より分岐する今治街道中部を通過し大字櫻井附近より海岸に近づき北上し、省線豫讃本線また南北に走り、伊豫櫻井驛(大正十二年設置)を設け交通便利なり。櫻井驛は古へ國府のありし所、唐子山(國分山)の西南麓に國分寺の遺址あり。此地古くは和名抄、越智郡櫻井郷の地にして町名はこの遺稱なるべし。また越智國府の地にして伊豫國分寺は町内にあり、當時の規模は諸國分寺中に冠たりしものと稱せられ、今なほ四國五十九番の札所なる一巨刹あり、寺の東方近くに往昔の塔の礎石ありて史蹟に指定され、當寺の尼寺はいま法華寺と稱し其塔跡も亦驛近くに存す。唐子山の府中城址は越智氏の故墟にして蓋し小市國造越智直以降の舊跡にして、古く此地が伊豫の中心地たりしものの如し。延元年中四條有資任國司府し藤屋義助と共にここに據り南海の義兵を督勵す。義助は戰中に卒し、其基國分寺の東北約三〇〇米、字谷の日にあり。天正十五年福島正則湯月城に封ぜられ古國府(大字)に移住し此城を修造す。同十八年正則轉封ののち小川土佐守祐忠に賜ふ、祐忠慶長五年豐臣家に從ひ除籍さる。江戸時代に至り藤堂高虎來り今治に城を築き本城廢毀さる。のち高虎津に轉封し松山藩松平氏に所屬す。本町特産の漆器は本來紀伊黒江系統なるも近來精巧緊密なるものとなり輸島物と比せらる。此行商法には特色あり、もと繞船と稱し和船に積み中國・九州に出かけ船を根據として賣子が田舎廻りせしもの、今は交通の發達に伴ひその法も廢れしも町内及び附近の人達の東京・大阪等にて家具の月賦販賣をなすもの多きに、昔の行商の變形せしものか。大正六年町制を布く。〔綱敷天滿神社〕櫻井に鎮座。縣社。祭神、菅原道眞。社傳に依るに、昔公筑紫に左遷せらるるとき當國迫門を過ぎ、風波のため櫻井の神まで流され給ひしが、當社神職の祖、折から出漁中にて此態を救ひ、今の志島に漕寄せ船中の綱を手繰りて砂上に設く。綱敷の社號之に因れるか。やがて公は衣冠を乾かし厚き奉仕を受け斯くて再び筑紫に赴くに當り船の舷柄を削りて自像を刻り、之を祭りて「余は菅原道眞なり、後日歸洛せば之を證として都へ來れ、若し余死せりと聞かば之を素波神と號し祭るべし、こたび余船中にて神祇を拜し、此處に到らんことを祈りし志のままに悉なく著船したれば、此處を志島と名づくべし」と告げ給ふ。依りて祠を建てて素波神と號し崇め祀る。後更に社殿を擴張し、自刻の尊像を安置して綱敷天滿宮と號す。今に衣干岩(又、冠磯)の舊蹟存すと云ふ。毎年大祭の渡御の折、この衣干岩を第一の行宮とし、雑魚を獻ずるを例とす。例祭、五月五日。〔國分寺〕大字國分にあり。舊言律宗。金光山景勝院と號す。四國八十八所第五十九番札所たり。聖武天皇天平年間勅願によりて諸國に建立せしめ給ひし國分寺の一にて、行基作藥師如來を本尊とし、本性上人を以て開祖となす。往昔に伽藍の構造諸國の國分寺に擬んでて宏壯を極め、寺領多く末寺四十九院を有せしも、其後漸次衰頽し、天正の兵火に罹りて殆んど廢絶に歸せしが、寛政中に至り現堂宇の再建成る。往昔の寺地は現寺地の東約二〇〇米の地點にあり。詠歌「守護のためたてて祟むる國分寺いよいよめぐむ藥師なりけり」〔伊豫國分寺址〕指定史蹟。字殿田にあり。東塔址と認めらるる部分に礎石あり、大小形狀異なる花崗岩の巨大なる自然石にて、圓形造出しあり、舊時の儘の配置を存し、遺瓦も發見さる。〔法華寺〕櫻井にあり。舊言律宗。天平十三年所都の大忌部足麻呂、聖武天皇の勅を奉じて創建す。當時は名藍たりしが、叡慶の兵火に漸次衰微、寛永二年照勢法印里人と協力して之を再興せり。

【櫻井村】 福岡縣筑前國糸島郡の北岸。糸島半島北岸中部に位し、南は前原町との間に可也村を隔て、西は野北村、東は北埼村と界し、北は玄界灘に面す。東部より東南部にかけては一五〇—二〇〇米の高度を有する丘陵、西北部の海岸近くにも約二〇〇米臺の山地あり、これ等山地の中間には低地ありて耕地拓く。海岸は所々岩石海岸をなす。農村にて米・麥其他の農產を出す。交通路低地の聚落を連れて四方に通ずるもなほ疎にして便ならず。此地、古くは和名抄、志摩郡明敷郷の内とす。其後の沿革は今詳かならず。〔櫻井神社〕縣社。祭神、神直日神・八十枉津日神・大綿津見神。なほ昔後の岩窟に大綿積神・神直日神・八十枉津日神の三柱を祀れるを以て一に岩戸宮とも稱す。當社の縁起によれば、慶長十五年六月二日、この神窟の日初めて開け神出現ありて神驗あらたかなりければ、庶民の崇敬態々深く、殊に國主黑田忠之は厚く崇めて社殿を造營せりと云ふ。爾來歴代藩主の尊敬を奉む。もと與土郷大明神と稱せり。例祭、九月十八日。なほ岩戸祭(七月二日)には神窟を開くを例とす。また夏越祭(七月三十日)には茅輪の神事行

はれ、神事大祭(十月十八日)には相撲・流鏑馬の神事ありと云ふ。(善應寺)臨済宗大德寺派。紫雲山と號し無我菩薩之が開山たり。

【櫻井】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に宇土郡櫻井郷あり、今その地詳かならざるも宇土郡花園村の邊に當るか。花園村の大字古保里は郡家の遺稱か。

【櫻井村】 熊本縣肥後國鹿本郡の南部。熊本市の北約一〇粁に位し、其間に飽託郡西里村を隔て、北は植木町・田原村、西は菱形村と界す。面積六・四二方粁なるも全村高き五〇米内外の臺地狀にして概ね平坦。農を主生業となし麥(五・五萬圓)・米(三萬圓)・繭(二・二萬圓)を產し、製絲行はれ、其他甘藷(四・二萬圓)・大根(一・一萬圓)等を出す。鹿兒島街道東境に接して南北に走り之より分るる縣道は北部を横切りて西方高瀬町方面に通じ、省線鹿兒島本線南部を掠めて大字鍛冶田に植木驛(明治二十四年設置)を置きて熊本市に入る。植木驛は社線鹿本鐵道の起點をなし北方へ走り長浦驛(大正六年開業)を設け、北方山鹿町へ向ふ。明治十年ノ役官軍の害戰せし所にして、在西戰記によれば大字淵迫にありし賊軍を官軍は十餘日の久しきに亙り攻めしも終に拔く能はざりきといふ。千本櫻は乃木將軍自刃決意せし所、柿臺場は官・薩兩軍激戰の地、向坂は兩軍斥候衝突の地たり。村名の起原は大字鍛冶田に櫻樹の名木あり、明治二十二年今の六大字を合せし時に之に因み櫻井村と名づけたりと。

サクライダニ 櫻井谷(さくらだに) 大阪府豐能郡にありし村。昭和十一年、本村及び豐中町・庄田村・熊野田村を廢し、その地域を以て豐中市を建つ。

サクラオ 櫻尾村(さくらを) 岐阜縣美濃國山縣郡の北部。北は西武儀村(武儀郡)、東は山縣村、南は富岡村、西は大桑村に接し、南約四粁にして高富町に達す。壯年期の美濃山地に蔽はれ、西南境には岸見山ありて、北部山地は二三四米、東南部にては二四三米の高度を示す。鳥羽川は此山地を切りて沖積地を作り南流し、流域は水田に利用さる。大字伊佐美は鎌倉時代伊佐美郷と呼ばれし地にしてその遺稱なるべし。

サクラオカ 櫻岡(さくらを) 北海道石狩國上川郡東鄕川村の大字。省線石北線の櫻岡驛(大正十一年設置)あり。

サクラガワ 櫻川(さくら) 【櫻川】 茨城縣常陸國にある川。水源は西茨城郡の北部珂村大字山口にて東流する涸沼川と反行し菩提郡に入り、加波山・筑波山等の西麓の諸水流を容れ北條町の南を南東流し小田城址の南を過ぎ新治郡に入りて廣潤なる谷を開き、眞鍋臺と高津臺との間を經、土浦町の南にて霞浦に注ぐ、流程約五・六〇粁。一に筑波川ともいひ、古歌には水無川とよまる。沿岸には耕地よく拓け、人家も比較的密にて、中にも岩瀬・菩提・北條・北田・土浦等盛んなる市街をなす。

〔櫻川〕 ↓東那珂村(茨城縣)

〔櫻川村〕 滋賀縣近江國蒲生郡の中央部。朝日野村の北に接し、西は平田村、北は市邊村・玉緒村、東は西櫻谷村に隣る。村の北部に東境の布引山より續く二〇〇米内外の丘陵性の高地流りて斷層崖をなし、南東部にも同樣の高地あり、いづれも古琵琶湖層に屬す。中部より南西部にかけては村の南境を東より西へ流るる佐久良川(日野川の支流)に沿へる沖積平野あり。產業は農を主とし米(一一八九一石)・麥(七八六石)・菜種(六八三石)等を產し、特產として牛・松茸・瓦等あり。社線近江鐵道通じ、大字下小房に櫻川驛(明治三十三年設置)を設く。同驛より縣道に沿ひ近江八幡方面、東櫻谷村中之郷方面に至る定期バスの便あり。村名は佐久良川に因みて名づけしもの。大字に其名を存する綿田は上古歸化人の住みし地にして其子孫綿の神服を織るを職業とせし部民なりしが如し。後に附近の村落を併せて綿田庄と稱し相國寺鹿苑院と花山院家に分領せらる。中世佐々木領に入り佐々木氏支流河井氏の所領たりしことあり、城址は大字川合高倉に存す。外に古蹟として大字石塔の石塔寺大石塔あり。〔石塔寺〕 寺傳には聖德太子の創立と稱し、一說に寛弘三年佐々木氏の建立とも云ひ天台宗に屬す、衆手の丘陵上に立てる大石塔は、印度の阿育王建設の八萬四千の佛舍利塔の一が靈異によりて我國に渡來せしものと傳ふるも信じ難く、飛鳥時代の建造に係り、石造三重の塔にして裡二米餘の扁平なる自然石の基盤の上に立ち、各層にやや高き軸部を有し、各笠石は方形扁平にして緩かに傾き、軒面は内方に向ひて急角度に削られ、最上層軸部の一面中央に小孔を穿つ。軸部・笠石共に上に至るに從ひて大さと高さを逐減しよく權衡と安定を保つ、形狀は朝鮮慶州佛國寺の石塔に似たり。本邦最古の石塔の形式を示すものにして國寶となる。〔願成寺〕 大字川合にあり。曹洞宗。玉尼山と號す。寺傳に聖德太子の開創と傳ふ。中世天台宗を奉じ川合六坊と稱し隆盛を極めしが、永祿中兵火に罹り、寛永中曹洞宗の僧三榮請ぜられてこれを再興す。正保中彦根城主井伊直孝の歸信厚く寺領を寄せらる。本尊觀世音は聖德太子自作の尊像と傳ふ。

サクラガワ 佐倉河村(さくら) 岩手縣陸中國膽澤郡の東部。北上川右岸及び其一支の膽澤川下流右岸流域を占む。土地は丘陵性なるも平坦地にて山林原野無く耕地よく拓け農業、特に水田を以て主業とする純農村なり。地質は第四紀古層に屬する埴質壤土なるため水田に最も適し、全戶數の大部は農業を生業とし只管稻作に主力を注ぐ。職業別戶數は農業八八・九二%、佛給生活者五・七六%、荷馬車一・六一%、大工一・三%にして純農村の形態を示し、農產物は米(作付反別九六六八・四ヘクタール、數量二二〇二七石)・大麥(作付反別一・六ヘクタール、二八一石)・小麥(作付反別一九八・九ヘクタール、一九四三石)の外に大豆・小豆・馬鈴薯・甘藷等を產し、梨・苹果・葡萄等の園藝、養蠶行はる。なほ馬・家鬼・雞等の畜產、蕗・繩等の家内工業あり。國道函館街道は水澤町より來り下河原・八幡を過じ膽澤川を渡り字丸沼にて金ヶ崎町に入る、道路平坦にして殊の坂道なく、縣道盛街道は下河原字釜石より國道と別れ北上川を渡り江刺郡愛宕村に入る。本道は江刺郡岩谷堂町方面に通ずる唯一の交通路として定期乘合自動車・トラック等の交通頻繁なり。なほ村道は土地平坦なるを以て道路縱横に通じ交通運輸に便なれども土質は粘質土壤なるを以て降雨あれば泥濘甚し、然れども近來河礫を敷くことに依りその難緩和されつつあり。運搬には從來馬が用ひられ、國道・縣道に接せる部落にては荷車を用ひしが、近時道路の完備によりリヤカー漸增し、各戶略と之を使用せざるなく冬季は橇を用ふ。尙村内主要道路は荷馬車・自動車自由に通じ運輸至便なり。本村の始めて佐倉河村と稱せしは、明治二十二年四月町村制實施の際にしてその以前は宇佐・滿倉・下河原・常盤の四箇村に分れ、宇佐・滿倉・常盤の村名も明治以來の稱にして宇佐は元八幡・佐野の二村の合したるもの、滿倉は柳木・上鍋の二村の合したるもの、常盤は四丑・那須川・安土呂井の三村の合したるものなり。日本逸史に延曆廿一年壬午正月遣從三位坂上田村麿築膽澤城とあり、後此處に鎭守府を移すといふ者是なり。和名抄に鎭守府在膽澤郡といふ者是なり。東遊錄によれば、鎭守府址は陸中膽澤郡にあり、水澤縣の東字佐村(今の大字字佐)を過ぐること約一里、官道の右五町許にして八幡社あり、乃ち其地なり云々。該社の近傍凡方八町許、古時常備團兵五千人を置く云々とあり、是によりて見れば本村は桓武帝延曆年間既に鎭守府所轄の下に屬し、開拓の緒に就き、著しき發達を遂げしこと明なり。なほ四大字のうち字佐の變遷を詳述すれば、字佐は舊時より膽澤郡に屬し、延曆年間田村麿勅命を奉じて夷狄を平定せし後、厚く土民を撫育し且つ膽澤城を築き鎭守府を爰に移し駿河・甲斐・相模・武藏・上總・下總・常陸・信濃・上野・下野等の浮浪四千人を移して之を戍らしむ。然して大同二年八幡弱を此地に勸請す。故に爾來住民豐樂安寧を得たり、依りて地名を安國疵と稱せり。寛治壬申年源義家八幡社近傍を八幡村と稱し、寧永元年春藤原秀衡の時安國疵の南部を割きて下河原と稱す、建保五年多北條義時國守に任じ、八幡村を分割して佐野村を設き、下河原村を裂きて四丑村・那須川村・安土呂井を設きたりと云ふ。明治八年より佐野・八幡二箇村を合して宇佐村と改稱せしが、同廿二年四月町村制實施の際滿倉村・下河原村・常盤村と共に佐倉河町と改め大字字佐となる。〔膽澤城〕 陸奥鎭定のため平安朝時代に設けられしもの。大字字佐字八幡の八幡神社境内は其舊跡なり。蝦夷は景行天皇四十年に叛して以來年々勢猖獗となりしため歷代の天皇之が鎭壓に盡されしが、桓武天皇殊に力を注がれ延曆十五年坂上田村麿を陸奥守兼鎭守府將軍に任じ、翌年更に征夷大將軍に上せ給ふ。田村麿は同廿年蝦夷を擊ちて大いにこれを破りしが、膽澤の賊魁る强暴にして容易に平定せず。爲に翌年正月、膽澤城を築き、駿河・甲斐・相模・武藏・上總・下總・常陸・信濃・上野・下野等の浮浪人四千人を配し、以來蝦夷は再び叛することなきに至れり。嵯峨天皇弘仁三年鎭守府を此地に移し、膽澤城を昇せて鎭守府とせり。廢止の年月詳かならざるも、陸奥古蹟路考によれば、秀衡が平泉にありて鎭守府將軍に任ぜられしは、膽澤城廢止後既に久しかりしものなるべしと推定せらる。〔鎭守府八幡神社〕(膽澤八幡宮) 大字字佐に鎭座。縣社。祭神、誉田別命・天照大神。素戔嗚命。創建年代詳かならざるも、延曆二十年坂上田村麿の夷賊を討伐し、この地に八幡宮を勸請すと傳へ、また大同年中の造社とも云ひ、或ひは嘉祥年間に慈覺大師の勸を奉じて創建し、別當を峯等山安國寺と號し僧侶數多ありきと云ふ。天喜四年源頼義父子の安倍貞任を伐つ時、當社に戰捷を祈りて功を奏せしにより鎧・鏑矢を奉納す。文治五年源頼朝の藤原泰衡を追討するや、當郡鎭守府の地を經て當社に奉幣す。上古より勅願所の大社にして寄附の神領また多額なりしも、中古に清野九助なるもの社堂に放火せしため僧坊悉く灰燼に歸し僅かに鎧・鏑矢のみ殘る。天正年中豐臣秀吉の命により淺野彈正少弼長政下向の時、舊社の由來を聽き、本殿・拜殿を造營し、寛文二年再建す。例祭九月十五日。〔高山掃部長者淵跡〕 阿倍頼時の時の時、東鳥を押領し、嫡男を日井と云ひ二男廚川次郎貞任、三男鳥海彌三郎宗任といふ。嫡男の日井生來盲目なれば世を儘がず、その子高日膽澤に住す。永承年中安倍の一族朝命に背き、源頼義安倍氏征伐の勅命を蒙り、八幡太郎・加茂次郎等父子三人發向し天喜・康平年間屢々戰ひたり。高日は父頼時に與せざりしを以て其罪を免れ、引續き膽澤に居住し子孫繁榮す。文治年中平泉沒落にも藤なく、掃部長者に至るまで富貴榮華に暮し其名も高く高山殿と稱へて當國の鄕士たり。〔仙臺藩主伊達家の御藏場跡〕 大字常盤の東部北上川沿岸にあり、正保二年より明治元年まで二百二十五年間領地膽澤郡の内一町四箇村の貢米並に御買上石(計四萬八千石餘)を領收したる地なり。

サクラギ 櫻木村 静岡縣遠江國小笠郡の西部。掛川町の西北隣にて、北は原泉・原田の兩村、西は原谷村、南は曾我村、東は西郷村と界す。赤石山脈前端部の山麓地帶に屬し、丘陵性山地村の北部より南へ傾斜し、中部以南には二條の細長き平地ありて南隣曾我村の北部を西流する掛川流域の平地に續き、田畑よく拓く。米の産多く、茶・繭なも出し、山地には林産あり。村の南部を東海道より岐れて西北方森町に通ずる縣道あり、バスの便あり。省線二俣東線、村の南部を走り、村内に遠江櫻木驛(昭和十年設置)を置く。此地古くは和名抄、佐野郡邑代郷に屬す。昭和七年櫻木村・南郷村を合して本村を建つ。應永廿年今川範泰より天野左京亮へ給分として富部郷を預け置くとの古證文あり、富部郷は蓋し大字富部の地とす。〔南櫻神社〕大字上乗木に鎮座。郷社。祭神、素盞嗚尊・櫛稲田姫命・造呂地神・一柱不詳。創立年代不詳。式内社貫草神社之なりとも云はる。俗に南櫻天王と稱し雨を祈るに驗ありと信ぜらる。江戸時代朱印領七十五石を有す。例祭七月七日。〔大雲院〕上乗木にあり。曹洞宗。瑞霧山と號す。草創年代不詳。駿州增善寺七世大盤自照禪師本國巡化の砌、乗木村修持院に留錫し多く田野を開墾して寺保の基を為す。明和八年宗殿和尚現地に寺基を移せしが、のち災危に遭ひて麦上、天保年間に至りて漸く現堂宇の再建成る。慶長八年徳川家康朱印十七石を附せりといふ。

サクラギ 櫻樹 【櫻樹】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に石津郡櫻樹郷あり、その地今詳かならざるも海津郡石津村の邊か。一に養老郡養老村の邊なりともいふ。

【櫻樹村】 愛媛縣伊豫國周桑郡の西南部。北は中川村、東北は石根村、東は千足山村と相隣り、南は上浮穴郡面河村、西は温泉郡の三内村・川上村と界す。面積八四・二六方粁の大村。石鎚山脈の北斜面にて、南境にその二ノ麦(一九三〇米)・堂ヶ麦(一六九〇米)・青滝山(一三〇四米)等聳え、それらの山支北方に延び、東境には三ヶ麦(一三七八米)、中部には影黒山(九〇四米)・面木山(九八九米)の山嶺となり、到る處に山林多きも、西境を北流し後西北部か東北に流れて中川村に出づる中山川の谷と東部の谷地には畑地を主として田地も拓け、米・麦等の豊産あり。林業には木材・木炭・三椏・楮等を産す。また千原鑛山よりは含銅硫化鐵鑛を産す。山境多きを以て面積に比し人口稀薄にして一方粁の平均密度は四一人に過ぎず。讃岐街道は中山川に沿ひ西北部に通ずる外は谷地を傳ひて村道あるのみにて交通なほ便利ならず。坂路ありて隣村温泉郡川上村に通ず、之を中山越と呼ぶ。櫻樹順る多く俗に櫻三里と呼ぶ。松山藩士矢野五郎右衛門、貞享四年に松・櫻の並木を植ゑしなほて矢野櫻ともいひ、溪川に沿うて橋梁を設け風光見るべきものあり。村名蓋しこの櫻樹より起りしものなるべし。

サクラギチョー 櫻木町 横浜市中區にある東海道線の一驛。本驛はもと横濱驛と稱し明治五年の設置にかかり、我國に始めて開通したる京濱間の鐵道の横濱に於ける終點にして、東京の新橋驛、今の汐留驛と共に我國最古の停車場の一たり。後に東海道本線の横濱驛の平沼の地に設けらるるや、本驛名を驛所在地の町名によりて櫻木町と改め、電車專用の驛とす。而して省線の鶴谷驛より發する社線東京横濱電鐵も亦本驛を以て終點とす。

サクラザワ 櫻澤村 埼玉縣武藏國大里郡の西南部。荒川上流の北岸に沿ひ、寄居町の東北隣にて、東と北とは花園村に隣り、東南は荒川を挾みて鉢形村と相對す。面積四・七平方粁の小村なり。秩父山地の東北端にて西境に鐘撞堂山(三三〇米)あり、村の西半はその東斜面の山地に森林、東半は第三紀の臺地にて平坦面をなし桑畑多く、北の一部のみ田地拓く。農村にして養蠶盛えて繭の産多く、また米・麦・甘藷等なも出す。熊谷市より秩父郡大宮町に至る秩父街道南部を横切り、それより分れて北方見玉郡本庄町に至る道路は南北に通じ、いづれにもバスの便あり。また省線八高線は村の中央を北走し、社線秩父鐵道は西に走り、その寄居驛、八高線の用土驛(用土村)にも近く交通便利なり。この地は和名抄、榛澤郡藤田郷の地にして、村内の鐘撞山は往時敵の革篠ひに寄るか知らせんため陣鐘を掛け置きし處なりといふ。

サクラジマ 櫻島 【櫻島】 大阪市此花區の町。省線西成線の櫻島驛(明治四十三年設置)を置く。

【櫻島】 ↓櫻島(鹿兒島縣)

サクラズ 櫻洲 大分縣下毛郡にありし村。昭和八年本村外一村を廢し新に新昭村を置く。

サクラダ 櫻田 【櫻田村】 埼玉縣武藏國北葛飾郡の北西部。幸手町・行幸村の西隣にて、北は豐田村・静村に接し、南と西は古利根川によりて南埼玉郡鷲宮町・太田村と界す。關東平野の一部を占め土地概れ低平にして中部は水田多く、北部及び南部は稍高き臺地にて畑など畑地ななす。農産は米の産最も多く、麥・繭等之に次ぎ、畜産・工産また少からず。幸手町と西北方の加須町か繋ぐ縣道は村の中部を東西に走り省線東北本線は西部を北走し、その久喜驛及び社線東武鐵道伊勢崎線の鷲宮驛に近く交通不便ならず。此地は近世葛飾郡幸手領田宮庄に屬し、江戸時代は幕領及び本多主税・松平喜兵衛・戸田八郎兵衛・小出淡路守・岡野平左衛門・諸子三十郎・松波六右衛門・久野線部・能勢十次郎・三宅源左衛門・高山忠左衛門・武島數馬等の領地交錯せり。明治廿三年八幡野・崎村と稱せしを改稱して櫻田村となる。

【櫻田】 東京市麴町區の地名。江戸城の外櫻田門附近をいふ。名稱はもと櫻樹多かりしに依る。現今麴町區・芝區に櫻田の町名殘る。櫻田門は江戸城内郭門の一にて、正しくは外櫻田門といひ、西門または小田原門ともいふ。今は麴町區紀尾井町に屬し、市電櫻田門前停留所を距てて警視廳と對す。宮城二重橋外より霞ヶ關に通ず。萬延元年閏三月三日井伊直弼此門外に要撃せらる、世に之を櫻田門外の變といふ。〔櫻田門外變〕また上巳の變とも稱す。安政五年四月、井伊直弼の大老となるや、勅許を待たずして日米條約に調印し、輿望に背きて將軍の繼嗣を定め、且つ幕府に反對する公卿・諸侯を卸し、遂に安政の大獄を起すに及び、人心益々激昂して直弼を怨む。而して直弼の水戸藩主に迫りて、養に下賜せられし勅諚の奉還を命ずるや水藩年少氣鋭の士奉還拒否を主張す。時に水戸藩を脱せし同志十數人、先づ大老を殺さんと結盟し、薩藩の亡命者有村治左衛門も之に與し、萬延元年閏三月三日上巳の佳節に當り、大老の登城の途を要撃せんとす。此日曉來風雪あり。直弼(即ち今の參謀本部の地)輿を命じて登城せんと櫻田門外に至る。之より先同志十八人三々伍々として問所附近を徘徊して機を窺ひ、薩五六郎等駕輿丁の體を裝ひ先供に迫る。左右の人之を叱するも去らず、御御して輿側に近づくや、忽ち數士、抜刀して行列を衝く、恰も此時鉄聲一發、伏者十數名蜂起し、國賊と叫びて輿に迫る。駕脇前後の警衛分散す、之に乘じ有村治左衛門短槍を以て輿中を亂刺する三四回。乃ち戸を排して大老を曳き出し、一擊之を仆し、忽ち首級を斬り、歓聲を揚げて去る。幕府は、先づ井伊家に説いて其死を祕し、且つ水藩に怨を含み驕慢する事なからしめ、四月大老の職を免じて發喪せしめ、事落着せり。かくて強剛なる井伊大老の高壓手段に對する反動は遂に來り、幕閣の元老席僚に襲殺せられて幕威益々失墜し、天下騒然の烽火はここに擧げらる。

【櫻田】 ↓作良(愛知縣)

サクラダニ 櫻谷 【櫻谷】 富山縣婦負郡にありし村。大正九年廃して富山市に編入す。

【櫻谷】 ↓大石村(滋賀縣栗太郡)

【櫻谷】 滋賀縣蒲生郡にありし村。明治廿七年、東櫻谷・西櫻谷の二村に分つ。

サクラノミヤ 櫻ノ宮 城東線の一驛(明治三十一年設置)。大阪市北區中野町二丁目にあり。附近に櫻宮あり。

サクラマ 櫻間池 徳島縣名西郡高川原村大字櫻間にあり。小なれども古來名高き池なり。後世久しく荒廃に委せしも文政年中領主蜂須賀侯舊地によりてこれを開墾し、方五六間の池を作りて巨石を繞び松・櫻を植ゑて景勝を復す。慨中抄「館とも見るべきものみ春くればちりのみかかる櫻間の池」

サクラマチ 櫻町 【櫻町】 ↓物部村(栃木縣芳賀郡)

【櫻町】 京都市御苑内の古地名。拾芥抄に曰はく、萬里小路(凡そ今の柳馬場通)の東、中御門(凡そ今の横木町通)の北に紀貫之の邸宅あり、南庭に多く櫻樹を植う、故に櫻町と稱すと。後世この邊の地名となる。凡そ今の大宮御所の南の邊をいふ。寛永年中幕府は、後水尾上皇の御心を慰め奉るためこの地に仙洞を造營し奉りて蓬蔵す、稱して櫻町仙洞といふ。爾後光格天皇に至る歴代の仙洞たりしも安政元年炎上す。當時幕末國事多端の際たりしと、當時の上皇のましまさざりしとにより御造營行はれず。仙洞址の地は、大正・今上兩陛下の即位の大禮を京都に擧げ給ふに當り、大宮宮御造營の場所となる。

サクラモト 櫻本 京都の禁樂園の東北。吉田山の東麓の地名。今京都市左京區鹿谷町の内。冷泉天皇櫻本陵あり。玉葉集「げふはいとど櫻本こそゆかしけれ春のかたみに花やのこると」周防内侍」

サケカワ 鮭川村 由形縣羽前國最上郡の西部。新庄町の西北に隣り、北は豊田・豊里の兩村、南は戸澤村・八向村、西は出羽丘陵を經て羽後國飽海郡田澤村に接す。東西約一五粁の細長き形狀なし、由地大部分を占む。南北に貫流する最上川の支流鮭川及びその支流にして西部山地に發し東に流るる曲川、東部山地に發し西に流るる泉川の洪流原に僅かの耕地を見るに過ぎず。殊に鮭川沿岸の平地は最も重要なる生産地帶にして、東部の段丘の下は水田に、段丘の上は桑畑にそれぞれ利用せらる。農業を主とし養蠶業及び木炭製造業を副とす。鮭川は又古來鮭上川とも稱せられ、鮭の遡漁の盛なる川なりきといふ。街道は新庄町に通ずるも村の中部に鮭川等ありて交通便ならず。泉川上流の泉川及び北方の曲馬河の兩繁落は山科善九郎の開拓によると稱せらるる古き繁落なり。中渡は曲川段丘上の繁落にして、元和以前に開拓せられ戸澤氏入國以後發達せり。鮭川本流近傍の佐渡・日下・鶴木等は、いづれも寛永以後に新庄藩士の土地開墾の結果發生せる繁落なり。川口は鮭川に沿ふ繁落にて、嘗て最上義光の臣矢口讃岐手石を領して住める所にして館址を存す。矢口氏は最上氏の臣清水氏の配下に屬せしが、同氏没落の後本藩に復し、のち最上氏改易と共に隠農してここに住む。爾來二百年相傳へ村内に十數戸の分家を出し今日に及ぶ。〔鮭延城〕坂の部にも作る。また眞室城ともいふ。戰國の頃佐々木典膳此に居り、最上氏に屬し莊名に藉りて鮭延越前と稱す。元和年間戸澤氏のこの地に封ぜらるるや先づこの城に居り、のち

新庄に築き移る。

【羽根澤温泉】 鮭川の支流なる角川の一上源にあり。アルカリ性炭酸泉。温度四八度。明治年間石油試掘の時噴出せし温泉。四方山に圍まれし閑靜なる所にして地方的の湯治場なり。

サケガワ　酒河村　廣島縣備後國雙三郡の西南部。三吹町の南方にあり。これと十日市町を隔て、東は神杉村、南は川地村に接し、西は可愛川によりて高田郡粟屋村と界す。二〇〇米程度の凖地狀山地廣く、多くは山林をなし、西部を北流する可愛川の附近と東北部に低平の地ありて田畑拓け米・麥・繭の産あり。山地は牧場をなし良牛を産す。三吹町と廣島市とを繋ぐ縣道及び省線藝備線は西部を通過し、後者は青河驛（昭和六年設置）を置き、交通不便ならず。古は和名抄、三次郡上次郷に屬せるものの如し。村名は酒屋・青河を合併して村制施行の際命名せるもの。〔長圓寺〕西酒屋にあり。曹洞宗。龍王山と號す。大同元年の開基にして、のち比叡尼城主三吉家の菩提所たり。寺寶に道元禪師將來の唐金の釋迦牟尼佛及び虎劍拄杖を藏す。禪師は嘉祿年中當寺に住せりといふ。

サケノツ　酒津村　鳥取縣因幡國氣高郡の北海岸にあり。北は日本海に臨し、他の三方は賀木村によりて圍まる。面積僅に〇・五九方粁の小村。西北部は河内川の造る沖積平野に連續して畑地多く、東南部は低き丘陵地にして山林をなす。村は小漁地にして漁業に從事するもの多く、漁獲物中柔魚は特に多く、鰯となして販出さる。一方粁の密度一二四二人に當る。山陰街道に沿ひバスの便あり。古は和名抄、氣高郡大原郷に屬せるものの如し。因幡志によれば此地はもと橿谷といふ、亀井氏郡主のとき、海邊に谷とは相應ならずとて橿の緣に據りて酒津と改名せりといふ。古事記白兎の故事ある氣多前は此邊なりとの傳說あり。

サケノベ　酒部　下野國（栃木縣）の古地名。和名抄、河内郡酒部郷あり、その地今の河内郡吉田村・上三川町の邊に當り、上三川町の大字坂上は郷の遺稱なるべし。

サゲハシ　下橋　栃木縣下野國河内郡古里村の大字。中世奥州路の一驛。宇都宮を距る北に約一六粁。治承四年源頼朝の伊豆に兵を起すや、源義經兄を援けんとて奥州平泉より上りし時、この地を過ぐ。義經記・三「あつかしの中山聽越えて安達の大城打過ぎ……木津川（狐川、今喜連川といふ）を打過ぎてさげはしの宿に着きて馬を休めて紺川を渡り」云々」とあり、今下橋は鬼怒川の右岸にあるも當時は左岸にありしものならんか。

サコ　佐古

【佐古】 省線高德本線の一驛（昭和十年設置）。德島市にあり。

【佐古村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。高知市を距る東方約一四粁。北は明治・片地の二村、東北は美良布・西川の二村、東南は山北・宮家の二村、南及び西は野市町・三島村、西は立田・岩の二村と界す。村は東北より西南に細長く銅山山脈の一支脈の末端部にて東南境に秋葉山（四九〇米）・開樂山（三六九米）・金剛山（三寶山、二六二米）等の山峯相連り、村の東北半部は山地をなし、西南半部は物部川下流域の沖積平野の東部に續き土地平坦肥沃にして耕地をなす。農産に米・麥あり、蠶繭栄えて繭の産多く、また製糸業行はれ生糸を多産し、畜産・林産も少からず。物部川に沿ひて縣道通じ交通不便ならず。此地古くは和名抄、香美郡深淵郷の地にして大字深淵はその遺稱なるべし。藩政時代には佐古郷と稱し深淵・大谷・母代寺・父養寺・戸板島・西佐古・東佐古・逆川の八餘村を具て庄屋を置き、維新の改革に方りて戸長制度となり母代寺村に戸長役場を置く。明治二十二年町村制施行に當り郷を廢し現村名を置き今日に至る。大字母代寺字龜山の小丘頂上に紀夏井郎跡あり、紀夏井は文德・清和二朝頃の名臣にして京都左京の人なるも貞觀年間伴大納言・宿禰善男等天門を燒く事露れ、夏井の異母兄これに與り兄の獄に連坐してこの地に流さる。而して夏井が父母菩提のため營みたる草堂を後世寺院に改めたるものが、父養寺・母代寺の二寺にしていま大字名として殘る。〔龍河洞〕指定史蹟天然記念物。大字逆川にあり。秋葉山脈の西北、寶山の山腹に擴れる一大乳鍾洞にて洞内の延長一粁餘、廣き所は面積一八〇方米内外、高さ三〇米の所あり。幾多の石柱・石筍發達し、水流は瀑となり淵となりて奇觀多く、所所に前の千本・龍宮殿・奥の千本・くらげ石・普賢の瀑・龍の口・裏見の瀑・玉簾の瀑・月宮殿・玉筍峯・萬象殿などの名稱を附せらる。洞内各所に彌生式土器の發見あり、完全の物十數個と多數の破片あり、海螺類の貝殼・獸骨片・木炭を出土す。土器中石灰華に覆はれたるものの存するは、以て時代の古さを推知する上に貴重なる資料なり。〔大日寺〕大字母代寺にあり。新義眞言宗智山派。法界山高照院と號し、四國八十八所第二十八番札所たり。行基菩薩の創建にして、弘仁年間空海再興すと傳ふ。寺宝中、木造大日如來坐像一軀・木造聖觀音立像一軀は國寶に列し共に藤原期の作なり。御詠歌「露霜と郭公てらせる大日寺などかあゆみかはこばざらまし」

サゴ　佐護　對馬國（長崎縣）の古地名。和名抄に上縣郡佐護郷あり、その地今の對馬島の佐須奈村の邊に當り、近古は佐護郡と私稱、寛元四年、下野次郎佐護郡代となりしことありと、また文明年間に佐護郡代、宗播磨國久なる者あり。

サコー　酒牛村　福井縣鯖江國足羽郡の北部。日野川の支流なる足羽川の右岸。西北部は福井市の東南部に接し、北は吉田郡岡保村・吉野村、東は下宇坂村、南は足羽川を境に一乘谷村・東郷村、西南は下文殊村・六條村に對す。東半は越前平野と大野盆地とを分つ山塊の西端をなし、五〇〇米内外の高度を有するも、次第に西部に傾斜して平地となる。傾斜地は主として山林をなし、平地には水田多く畑地また少からず。農産には米を第一とし、繭・雞卵等あり、また機業盛にして人造絹・絹・麻等の織物の産甚だ多し。南境をなす足羽川に沿ひて福井市より來る美濃街道通じバスの便あり。東鑑、建暦二年の條に、小國源五兵衛頼職、越前國稻津保の地頭職となれる由見ゆ。蓋し大字稻津は其遺稱とす。大字篠尾に左近長者の屋敷址と傳ふる所あり。また酒の湧き出でし所ともいひ酒生長者とも稱す。

ザコージ　座光寺村　長野縣信濃國下伊那郡の北部。天龍川の右岸。飯田市の東北約四粁。北は市田村、西より南へかけては上郷村、東南は天龍川を距てて喬木村に隣る。伊那谷の一部を占め大高森山（一八九〇米）の南麓西北部に延びて天龍川の右岸に下り、それより川岸までに段丘發達し田切の地形を示す。西北部山地は荒地なるも段丘上には桑園多く殷も下段の沖積地には水田あり。蚕業行はれて繭を出し、また製糸工場ありて生糸を産し、農産に米・麥等あり。上段なる三州街道、下段なる伊那街道及び社線伊那電氣鐵道並行して通じ元善光寺驛（大正十二年開業）を置く。この地は和名抄伊那郡麻績郷の内にして、村内に元善光寺の舊跡あり、善光寺屋敷今なほ存す。清和源氏、爲朝の一統を稱する座光寺氏の居りし所なり。〔座光寺〕宇市場にあり。天台宗。不捨山と號す。詳しくは座光寺如來寺といひ、善光寺如來の舊址として名高し。推古天皇朝麻績の里の本田善光、一光三尊彌陀如來像を麻績の堰江より當寺に安置せしが、のち善光父子、皇極天皇の勅を奉じて今の地に移奉すといふ。

サコシ　坂越町　兵庫縣播磨國赤穗郡の南部。姫路市西方約三〇粁。北は高雄町に、東は郡波町に、南部は大泊灣に臨み、西南は赤穗町に接す。町の背後には流紋岩より成れる三〇〇米以下の山地起伏し、筌崎の半島より丸山附近には花崗岩山地あり。千種川はこの山地を開析して第四紀層を堆積し市街の北部にて直角に曲り、東北より西南に流れ地溝狀をなす。南部は大泊灣にして中央に生島あり（一名生浪島。往昔は沿洲、活鮑山或は鯨島、里人は浮島と云ふ）老樹鬱蒼と茂れり。社線赤穗鐵道千種川の谷に通じ坂越（大正十年設置）・砂子驛（大正十四年設置）を置き赤穗町に至る。川の流域には米を作り、また麥・雜穀・甘藷・千瓢・蒟子・甘蔗・蔬菜を産し、海産物としては鰯・板魚・針魚・太刀魚あり。龜甲山には雷電・銅鑛を産せしも今は採掘を休止す。丸山には石粉及び白煉瓦の原料粘土を産す。此地は和名抄、赤穗郡坂越郷の地にして、相當古くより鹽竈として發展せしものなるべく、坂越港は全く天然の入江を利用せる港なり。尼子山に城址あり、尼子詩鑑義久の築城に係り、のち富田城に移るに及びてその一族をして守らしむ。毛利元就之を攻略し、赤松氏の一族富田氏之を修築して居す。城山に赤松下野守秀道の居城あり、今石垣の跡散在す。寶珠山は一名茶臼山とも云ひ嘉吉元年赤松滿祐足利義教を弑するに及び山名持豐滿祐を白旗城に攻めて之を誅し茶臼山に據ると。また大字大撥には後龜山天皇の皇子の御墓と傳ふるものあり、寶珠山麓の大櫻には兒島高德の墳墓あり。なほ瀬戸内に臨むため風光明媚にして越浦十二景の勝あり。〔生島樹林〕指定天然記念物。本村の海岸を距る約三〇〇米にあり。生島は周圍約一・六粁、面積凡七九三アールの小島にて、縣社大避神社の所有に係り、古來神跡として殺生禁斷の立入らざるため原始狀態比較的よく保たれ、全島密林を存す。その大部分は常綠樹にて、種々の落葉草木混生し、蔓生植物多し。常綠樹は、もちのき・しろだも・たぶのきぶにつけい・かごのき・とべら・もくこく・つばき・さかき・ひさかき・いす・あらかし・しらかし・しひのき・あべまき・かなめもち・かくれみの・なんてん・ねずみもち・ひめゆづりは・しやしゃんぼく・くちなし・しゆろの類に屬す。〔大避神社〕大字坂越に鎮座。縣社。祭神、天照大神・春日大神・大避大神。創建年代詳かならず。祭神大避大神は秦氏の祖なりと云ふ。もと大荒大明神とも大酒大明神とも稱せり。古來社家十二人、坊舍數十坊ありて別當を寶珠山妙見寺と稱せりと云ふ。後世繁榮の神として信仰せらるる例祭、十月十一日。〔兒島高德墓〕 大避神社の後丘、寶珠山妙見寺境内にあり、五輪の石塔に石垣を繞らす。高德、後に僧となり、義清房志純と號して、妙見寺に隱棲し命を終ふと傳へられ、愛城山麓に赤穗の儒臣赤松滄洲の碑銘あり。眼下坂越灣に繪の如く浮ぶ生島を見下し、遠く家島列島を望む。近年船岡公園を拓きて小亭を設け眺矚の便に供す。

サゴシ　砂越　山形縣飽海郡南平田村の大字。省線羽越本線の砂越驛（大正三年設置）あり。

サゴタニ　砂谷村　廣島縣安藝國佐伯郡の東部。五日市町の西北方山中に位し北は水内村、西北は上水内村、西南は玖島村、南は厚村、東南は河内村に接し、東北は安佐郡戸山村と界す。東北境上に東郷山（九七七米）ありてその脈東北境に延び、西南部は大峯山（一〇四〇米）の北嶺の山地にて最高峯は九〇〇米を超ゆ。

村内山林廣く、ただ中部に幅狭き低地ありて南北に長く續き、ここに耕地拓け、全戸數の八四%は農家にて米・麥等を産し、山地には森林繁茂し木材・木炭を出す。ここは北方加計町(山縣郡)と東南五日市町をつなぐ重要なる交通路に當り商業に從事する者少からず。村は白砂・葛原・伏谷の舊三箇村を合併して建てしものにして村名は白砂の砂と伏谷の谷とにより砂谷村と名づく。

ザコバ　雜喉場　→大阪市

ササ　笹・篠

【笹湯】→新治村(群馬縣利根郡)

【笹ヶ峯】丹波高原に聳ゆる一峯。兵庫縣氷上郡沼貫・和田・葛野の三村と多可郡杉原谷村の四村境界に峙つ。標高八二七米。

【笹ヶ岳・篠岳】三重縣阿山郡丸柱村と滋賀縣甲賀郡信樂町との境界に峙つ。標高約八〇〇米、山體花崗岩より成る。

【笹島】島根縣邇摩郡大濱村の海岸にありしといふ小島。和歌の名所。萬葉集に小竹島と見ゆるもこれに同じといふ。萬葉・七「夢のみにつぎて見えつつ小竹島の磯越す波のしくしくおもほゆ」

【篠山】四國山脈西南端部の一峯。愛媛縣北宇和郡御槇村・南宇和郡一本松村・高知縣幡多郡橋上村の三村境界に跨る。標高一〇六五米。全山結晶片岩より成り、その最高峯を黑尊山と稱す。山頂に矢筈池を湛ふ。山中に笹山權現(一本松村)あり。この社へ參詣する山道に三所より通ず。

【笹ヶ峯】四國、石鎚山脈に屬する一峯。高知縣土佐郡本川村、愛媛縣新居郡加茂村の境界に跨り、東斜面は新居郡中萩村に亙る。標高一八六〇米。山體結晶片岩より成り、山容穩かなり。

【笹ノ峠】宮崎縣東臼杵郡西鄕村と西臼杵郡椎葉村との境にあり。九州山脈横斷交通路の一。最高點一三四〇米。

サザ　佐々

【佐々川】長崎縣北松浦郡にあり。佐賀縣との境上に聳ゆる國見山の西斜面に發し、第三紀層の砂岩より山地を西に流れ世知原村を經て市ノ瀨村にて西南に變じ佐々村を過ぎて佐々浦に注ぐ。流程約二一粁。

【佐々村】長崎縣肥前國北松浦郡の略中央部。佐々川の下流に跨り、西南部は佐佐川の注入する佐々浦灣に面し、東南は佐世保市に近く、これと相浦町・中里村を隔てて東は皆瀨村及び吉井村、北は江迎村、西北は鹿町村、西は小佐々村と界す。西北部一帶は低き山地をなしその南に東北より西南の方向に佐々川流れて佐佐浦灣頭に注ぐ、その流域には低地開け殊に河口の左岸に廣き平坦地あり、東南部には低き丘陵・臺地起伏す。町內山林原野廣きも低地には田畑よく拓け米を主とし臺地の耕作も亦よく行はれ、麥・粟・甘藷を產す。また北松浦炭田の一部を占め、山口・江里・佐々・神田・牧崎・第二大岳・住友大瀨・住友吉野浦等の炭坑あり。縣道東南方佐世保市より來り中部を北に走り江里峠を越え北方平戶方面に至る。省線松浦線西南部に通じ大字小浦免に鎭中・小浦・四ッ井樋の三驛(昭和六年設置)を設け、西隣小佐々村臼ノ浦に至り、その四ッ井樋驛より分岐する支線は佐々川に沿ひて東方世知原に向ひ、町內に佐々・野寄・神田の三驛(佐々驛は昭和六年、野寄・神田は同九年設置)を置き交通至便なり。嵯峨源氏松浦黨の一族此地に居して佐々氏を稱すと。一書に有馬貴純、松浦黨を伐ち、佐々城を攻略すとあるも、蓋し此地なるか。いま佐佐・市瀨の二大字より成り佐々に役場を置く。〔三柱神社〕大字佐々に鎭座。鄕社。祭神、素盞嗚命・大己貴命・稻田姬命。外に速須佐之男命等十三柱を合祀。貞元二年古川嶽頂上に現れたまひ、やがて鎭まりませりと傳ふ。建武二年大川際に、文化二年今の地に遷る。俗に三嶽大明神又は三社大明神と稱せられ、室町以降領主松浦氏の崇事するあり、鄕中の崇敬篤し。明治以後本村の產土神たり。例祭十月八日。〔東光寺〕曹洞宗。醫王山と號す。永享中、平戶城主松浦豐久の創建、開山を松蔭禪師とす。本堂横に松浦氏の墳墓あり。〔金明竹の藪〕大字市ノ瀨免字狸山にあり。藪の長さ三六米、幅二一米。發生の地域は横一〇米、縱六米。竹竿約二〇本、長さ九―一五米、太さ一〇―二〇糎、いづれも美しき斑紋を有す。金明竹はまだけの斑入となれるものにて竿に黃金色の帶條を現し綠色部と色觀を異にす。石川縣・千葉縣・福岡縣等にも產すれども當地のものが色彩最も鮮美にして斑紋規則正しく竹幹長大なり。黃金色部は竿の下節より上部の節にまで達し枝の部分にも現る。當地のものは何時の頃より發生せしかは不明なるも珍奇の斑竹にて植物學研究の好資料なり。〔市ノ瀨燒の窯址〕大字市ノ瀨鴨川免皿山にあり。村の西北を流るる佐々川に近き丘陵上雜木林中央部に二箇の窯址あり、附近に磁器の破片散亂す。これ市ノ瀨窯のありしところにして皿山の名もここより起る。築窯もと十箇ありしが畑地に開拓され二箇の窯址も破壞して殆ど原形を留めず。築窯式を測定するに東西平行に構成され各々內短横約三米、縱二米餘、高さ一・五米餘。寶曆元年陶師福本新左衞門築造す。同氏代々陶器製造業に從事し、市ノ瀨燒の名聲を揚げしも四代新左衞門に至り粗製濫造の弊に因り聲價も落ち遂に文政八年廢業するに至り、後全く廢墟となる。三代福本仁左衞門の弟子民吉なる者其法を傳承し、故鄕瀨戶に歸國後精巧なる磁器を造り瀨戶製磁業に一新機軸を出し、以て今日所謂瀨戶物の世に弘まりし起因をなす。遺存する窯址は舊幕時代賭博開帳場となりしにより破壞せしものなりといふ。

ササイ　佐才　攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に兎原郡佐才鄕あり、佐才は蓋し鷦鷯の假借にして、古へ雀部の居住せし所か。いま武庫郡魚崎町に雀松原あり、鷦鷯松原の遺名か。

ササイ　佐西　→佐伯郡

ササエ　榮螺岳　福井縣敦賀市と三方郡山東村との境に跨る。標高六八六米。山體花崗岩より成る。

ササオ　笹尾　廣島縣神石郡にありし村。明治三十年本村外四箇村を合併し豐松村を建つ。

ササオカ　笹岡

【笹岡村】新潟縣越後國北蒲原郡の西南部。水原町の東隣にて北は松浦村・神山村・西南は堀越村、南は安田村・堀越村飛地、東は赤谷村及び東蒲原郡三川村と界す。東境には花崗岩より成る高原狀の松平山の脈南北に連り、北より滿日紅山(五三六米)・金鉢山(八八八米)・松平山(九五四米)・五頭山(八七三米)・菱ヶ嶽(九七四米)等となり、西方に緩傾斜をなし、鷲鳥湯・阿賀野川に注ぐ數條の小流の水源をなす。この山地の西には第三紀層より成る障ヶ峯・眞光寺山等の高さ百米臺の小岡また南北に延び、その東側には東境なる松平山脈との間に南北に狹長なる地溝帶を挾み、西側は直に越後平野に續く平坦地となる。全有租地に對し田地は三六%を占め米の產多く、多少の繭を出す。村の南部には出湯・村杉等の溫泉あり、西隣水原町よりバス通ず。村名笹岡は一に佐々岡・篠岡にも作れり。大字女堂に折居城址あり、また女堂城とも稱せりと。その岡を鉢盛(八森)とも呼び千坂氏の遺址なりと。略風土記に千坂氏は上杉家の庶流にして扇谷朝宗の孫高春(千坂駿河守)を祖とす。高春は越後に下向してのち此地に居す。また北國太平記に見えたる上杉景勝の臣大室源次郎は大字大室の在名を負ひしものなるべし。村內より溫泉多く湧出し出湯・今板・村杉等の諸溫泉あり。〔明治天皇山崎御小休所〕指定史蹟。大字山崎にあり。明治十一年北陸東海御巡幸の際九月二十日御小休所となりたる處にして舊規よく保存せらる。〔三度栗〕大字福井新の風除林にあり。指定天然記念物。その實の矢筈狀をなせるより矢筈栗ともいふ。每年七月上旬、八月下旬、十一月頃の三度花の咲くを以て三度栗と稱せられ、越後七不思議の一とせらる。〔村杉溫泉〕透明鹽類泉にて天然瓦斯と共に湧出し、ラヂウム含有量本邦に於ける最も多きものの一。療養向なり。建武二年吉野朝の臣荒木正高なる武士藥師如來の靈夢に依り發見せりと傳ふ。〔出湯溫泉〕鹽類泉、溫度四九度、療養向なり。五頭山麓丘陵を隔てて村杉溫泉と界す。大同四年弘法大師五頭山海滿寺福性院を本坊とし山麓に救世の閼伽水を掘出し加治水とせしものにて明治十四年浴場を建つ。〔今板鑛泉〕無色透明の鹽類泉、溫度二五度にて加熱浴用、療養向なり。五頭山麓に位し出湯・村杉二溫泉の中間にあり。三十年前の發見にて境地閑靜なり。〔華報寺〕大字出湯にあり。曹洞宗。五頭山と號す。文明年中耕雲寺の大安梵守和尙の開創せる所なり。昔弘法大師五頭山に諸害道場を、五峯に護摩壇・五社權現を、山下に鳳泉窟を建立し、海滿寺福性院を本坊とし四院廿二坊を有せし大坊たりしが、曆仁年中火災のため衰へしものといふ。市寐寺開祖大明和尙一時當寺に住栖したりといふ。本尊に行基作といふ地藏菩薩を安置す。〔高德寺〕大字次郎丸にあり。曹洞宗。法華山と號す。天正年間立山和尙の創建に係る。開創以來曾て火災に遭遇したることなし。〔常安寺〕大字笹岡にあり。曹洞宗。布金山と號す。天和年間嚴的和尙の草創にして、地は村松城主堀丹後守の寄附に係る。明治二十六年炎上せしが、時の住職原大泉之を再建す。〔天樹寺〕大字勝屋にあり。曹洞宗。白鳳年中柏庵天樹和尙の創建にして初め法相宗なりしが、建長康元の頃領主笹岡中將の歸依厚く臨濟宗の光山和尙を請じて改宗せしも文明九年曹洞宗に復す。

【笹岡村】岡山縣備前國赤磐郡の北部。西北は布都美村、北は仁堀村、東は佐伯上村、南は櫻郡村、西は五城村と界す。村內は高さ一〇〇米前後の起伏緩慢なる丘陵性山地多く、最高點は北境中央部にあり海拔二四〇米を示す。南西部と中部の山地の間に小低地あって田畑拓け耕作行はる。農產に米・繭を主とし、麥・薄荷・生柿等あり。原野は牧場地をなし牛の飼育行はる。岡山市より來る縣道中部を南北に通じ、バスの便あり。合田・坂邊・下分・小原等の集落これに沿ひ、交通不便ならず。大字惣市字北浦に岩神山あり、岩石重疊巍然として聳え、山上より望む風景甚だ佳なり。その頂上なる船岩と烏帽子岩とは少しく之に觸るるものあれば忽ち動搖するを以て古來頗る之を奇とせり。文久年間岡山藩主池田茂政侯の領內(備前)巡視の時この山に登山して觀覽せしより、藩主・郡代の視察ごとにこれに登山するを例とし以て維新に及べり。

ササカ　佐作　隱岐國(島根縣)の古地名。和名抄に海部郡佐作鄕あり。地は凡そ今の海士郡海士村大字豐田・宇受賀の邊か。

ササガ　笹賀村　長野縣信濃國東筑摩郡の南部。松本市の西南約六粁。犀川の支流奈良井川の西岸に沿ふ。東は芳川村・廣丘村、西は神林村・今井村・洗馬村に隣る。松本平の一部を占め土地平坦にて田・畑よく拓け、奈良井川の水を引き米作を行ひまた麥を產し、一部には桑園もありて養蠶も盛なり。村を横斷する二條の縣道により一は東北の松本市へ、

他は東隣芳川村の省線中央本線の村井驛に達り、いづれもバスを通じ交通便利なり。この地は和名抄、筑摩郡崇賀郷の内にして、中古笹賀庄と稱す。のち今村・小俣・神戸新田・二子・神戸の舊五箇村を合し庄名に取り笹賀村と名づく。東鑑・文治二年三月の條に信濃國、小俣郷・筒井郷とある小俣郷は、大字小俣の邊に當るものの如し。〔長照寺〕大字神戸にあり。曹洞宗。神光山と號し、慶安三年愚月和尚の開創に係り、其師觀國和尚を請じて開山とす。本尊觀音菩薩はもと醍醐天皇皇子若宮親王の御持佛たりしものといふ。寺寶に綸旨三通を傳ふと。

ササガセ 笹ヶ瀬川　岡山縣御津郡を流る。郡の西境馬屋上村大字日應寺の山中に發し同郡中を屈曲南流し一宮村大字尾上に至り同じく源を日應寺に發する砂川と相會し岡山平野に出で白石村の南部にて支流を合せ、兒島灣の西北隅に注ぐ。流程約一〇粁。この川は細流なるも古へより著はれ備前の古記錄に見え、また大安寺資財帳には界江の名にて載せられ、源平盛衰記には佐々迫の地名にてこの川岸の戰爭の事を記せり。

ササガヤ 笹ヶ谷　↓畑迫村（島根縣）

ササカワ 笹川町　千葉縣下總國香取郡の東部。利根川下流の南岸にあり。東は橘村、南は神代村、西は森山村に隣り、北は川を隔てて茨城縣鹿島郡輕野村・息栖村と相對す。西境及び東境附近は丘陵地の緣邊をなすも村内は殆ど平坦、特に北部の利根川の中洲をなす部分は低濕にて到る處水田をなし、中部の西端部はやや高く多く畑地をなす。農業行はれ米の産多く、また繭・麥を出し、蔬菜行はる。佐原・銚子市への縣道は利根川の南岸に沿ひて通じ、また須賀山より神代村に至るものあり、何れもバスの便あり　縣道に沿ひ、村内須賀山に笹川驛（昭和六年設置）を置き、交通便利なり。町は明治四十年町制を布けるもの、須賀山・旄野戸の二大字より成り、何れも銚子街道に沿うて標式的街村を形成し、主邑須賀山はまた利根川の一河港たり。町の名産笹川蜆は此邊の利根川より産するものにて古くより名あり。また笹川の名は近世の俠客笹川繁藏によりて廣く知らるるに至る。繁藏は俠名高き笹川の大親分、天保十二年八月十三日の夜、銚子の陣屋より十手を預かる同じ下總の親分飯岡の助五郎と勢力を爭ひ、須賀山明神の境内に飯岡方の二百三十人を敗走せしめしが、そのため已むなく故郷を立退き伊勢路を志し、翌年四月笹川に舞ひ戻りて助五郎を討たんとす、時たまたま股肱と賴む勢力富五郎以下の子分の韜晦に會ひ憤激し獨力助五郎を討たんとせしが、却て助五郎に謀られ闇擊にせらる、この實話は小説或は浪曲に仕組まれ、汎く人口に膾炙せらる。〔諏訪大神〕大字須賀山に儼座。郷社。祭神、大國主命・事代主命・健御名方命。大同二年坂上田村麻呂の勸請する所といふ。歷來國司・領主の崇敬深く地方の名社たり。〔東福寺〕大字須賀山にあり。新義眞言宗智山派　須賀山饒智院と號す。仁安二年、德一僧都の創建する所。本尊は初め森山城内に勸請せしものを本寺に遷せしものと傳ふ。〔西福院〕新義眞言宗豐山派。稲荷山と號す。嘉禎元年の創建に係り意教上人を開山とす。寛永二年の炎上に依りて衰微を極めたるを、寛政九年多田庄兵衞再興す。境内に平手造酒・勢力富五郎の墓あり。〔妙輪院〕大字旄野戸にあり。新義眞言宗智山派。龍神山慶瀧寺と號す。貞應二年東左衞門の開基に係り文明年中惠胤法印之を再興す。天正年中兵火に罹りて炎上、寛永年中長胤法印再建す。往昔は東莊四箇檀林の觸頭と稱し頗る有力なる梵刹たりき。

ササガワナガレ 笹川流（ささがはながれ）　↓海府（新潟縣）

ササキ 佐々木・篠笥

【佐々木】↓矢作町（愛知縣碧海郡）

【佐々木・篠笥】近江國（滋賀縣）の古地名。和名抄に蒲生郡篠笥郷あり。中世は佐々木莊に作る。今の安土村及びその附近に當る。近江源氏佐々木氏の世々居住せし所。のち近江の守護となりて一國を管せしが、室町時代に愛知川を境として江南・江北の二家に分る。京都に於ける二氏の居住地の名稱によりて江南の佐々木を六角、江北の佐々木を京極と稱す。大字常樂寺に式内沙沙貴神社あり。盛衰記・三〇・平家延暦寺願書「近江國佐佐木庄、領家預所得分等、且爲朝家安穩、且爲資故入道菩提、供所、鳳兩千僧供料矣也」

【佐々木】↓合橋村（兵庫縣）

サザキ 佐々木村　新潟縣北蒲原郡の西部。福島潟の北岸に沿ひ、東は新發田町との間に猿橋村を隔つ。北は新發田川を境に聖籠村、西は葛塚町、南は中浦村と隣る。越後平野の北部にあり土地平坦にして有租地の約九〇%は水田をなし、加治川の水を引ける堀割により灌漑せらる。謂はゆる下越米と呼ばるる米の産地なり。また多少の繭を出す。新發田町より新潟市に通ずる縣道、村の北部を東西に貫通し、之より更に北は村上町、南西は葛塚町方面にもあり、前者にはバスの來往ありて交通便利なり。村名佐々木は古書に佐崎に作る。新發田と木崎の間にして新發田西北の水陸路の交會なるより藩政時代には關門を設けられたり。明治十一年、明治天皇北陸東海御巡幸の砌、九月十九日此地に御小休遊ばさる。〔養福寺〕大字則清にあり。曹洞宗。太平山と號す。天文十年出雲小八郎の開基に係り數室惠訓禪師を開山とす。明治四年炎上、翌五年本堂の再建を見る。

ササキノ 笹木野　福島縣信夫郡野田村の大字。奧羽本線の笹木野驛（大正八年設置）あり。

ササキベ 雀部

【雀部】上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に佐位郡雀部郷あり。その地今の佐波郡境町・剛志村の邊に當る。

【雀部】↓雀部（さゝべ）

ササグリ 篠栗

【篠栗町】福岡縣筑前國糟屋郡の東部。福岡市の東方約一〇粁。西北は久原村、西は勢門村、南は須惠村と、それぞれ界し、東は嘉穗郡大分村・關西村及び其北の鞍手郡吉川村に接す。北部山地は三郡山脈の西斜面にあり東北境に香山の一峯鉢立山（六六六米）あり山脈東南方に延びて飯盛山（三五一米）となり、香山の一山脈西南方へ延びて西北境を限り、若き谷は山地を浸蝕し、南境に海拔約七〇〇米の若杉山あり北方へ東西に擴がりて傾斜し、北部山地との間に西方に擴がる谷をなし多々羅川東境に源流してこの谷を潤す。谷の西部は比較的廣きため耕作よく行はれ米・麥を産し、山地は薪炭を供給す。高田・諏訪・篠栗・東篠栗等の炭礦ありて石炭を産す。西方福岡市博多より東方飯塚市に至る驛路に當り街道中央の谷を東西に走り西部に主聚落街村型をなす。ここより一山道東北方へ走り香山の北にて猫峠を越え吉川村に出づ。西部に博多より來れる省線篠栗線の終點篠栗驛（明治三十七年設置）あり。此地古くは和名抄、糟屋郡勢門郷に屬せしものか。慶長年中黒田家の老臣母里淨市の開發に係り、國守の別館を置きたる地とす。昭和二年町制を布く。

【篠栗線】省線鹿兒島線の一。福岡縣糟屋郡にあり、炭坑鐵道線の一。鹿兒島本線吉塚驛（福岡市）より分れて東方篠栗町の篠栗驛に至る。全長一〇・三粁。明治三十七年開通。

ササゴ ——社　臺灣臺南州嘉義郡にある蕃社。曾文溪の上流なる大埔溪の上流地方。北部ツオウ族の中にてタパク蕃に屬する高砂族の部落。古くは殺逸社と記せしことあり。現在戸數一、人口七。蕃稱 Sasango.

ササゴ 笹子

【笹子村】山梨縣甲斐國北都留郡の西南隅。笹子峠の東麓に位し、東は初狩村・大月町、北は東八代郡雅地、及び東山梨郡初鹿野村、西は東八代郡日影・黒駒の兩村、南は南都留郡寶村と界す。東南境に鶴ヶ鳥屋山（一三七四米）、東境に瀧子山（一五九〇米）、西北界には笹子峠（一〇九六米）等あり、その縣南・北・西の三境に連りて中部に傾斜す。村の西部に發源し中部の谷を東流する桂川の一支流の谷に沿ひて多少の畑地あり、聚落ここに發達し、養蠶を主業として繭を産す。甲州街道及び省線中央本線またこの谷に沿ひて東西に通じ、前者は西北境の笹子峠を越え日影村を經て初鹿野村に出で、後者は村の中央部の吉ヶ窪に笹子驛（明治三十六年設置）を置き、その西なる黒野田より直に北境の山下に笹子トンネルを穿ち直に初鹿野村に出づ。舊時、波加利と稱し、また羽置の庄ともいひ、青木の庄と更稱せしこともあり。寬文九年秋元但馬守以前は上初狩と稱せしといふ。甲斐國誌に「昔時字黒野田に口留番所あり、天文二十四年卯川晦日小山田信有が鶴瀬村小十郎が先代佐藤又七郎に與ふる印書に佐藤又七郎馬一月に四匹御免許年中に四十八匹無相違可遣者也はつかり口役所中、又永祿九年寅正月十六日同信義が印書に郡中諸役所共市馬の口一匹の分令免許之者也仍而如件鶴瀬佐藤與五右衞門とあり、卽ち此番所通行免許にして初狩口役所とあるは黒野田・阿彌陀海道・白野の三村本同村にて上初狩といひし故なり」とあり。村名の由來は笹子嶺の名稱より來りしものならん。明治八年、白野・吉ヶ久保及び黒野田の三村を合併し笹子と稱し、同十年郡制施設に依り笹子村と改稱。同十七年初狩と聯合戸長役場を立河原に設置す。同二十一年兩村分立して役場を阿彌陀海道に移し、同二十二年八月町村制施行せられて現今に至る。〔寶林寺〕臨濟宗妙心寺派。白野山と號す。應永三年淨心淨公の開創に係ると傳ふ。本尊は延命地藏尊にして脇士二童子像と共に運慶の作と傳ふ。

【笹子峠】山梨縣北都留郡笹子村と東八代郡日影村との境界に位す。甲州街道の峠路にして登降約一二粁、その最高點一〇九六米。北西麓を駒飼（日影村）、南東村麓を黒野田（笹子村）とす。黒野田より約五粁にして矢立杉と稱する杉の巨樹あり、往時ここを過ぐる武士、矢を射立てて山神に捧げし故と傳ふ。古歌に「武夫の手向の征箭も跡ふりて神寂びたてる杉の一もと」とあり。更に行けば坂路漸く險しく、風化の著しく働きて白砂の崩壞せる路七曲を登り盡せば卽ち頂上なり。頂上より甲府の盆地に向ひて降ること僅かにして甘酒茶屋の跡に達し、尙五粁にして駒飼に着す。峠路は名勝誌に滿山樹木鬱鍊とある如く、鬱蒼たる樹木無く、溪濤も無く、險要の名を思はしむるには餘りにも平凡に過ぐ。中央線笹子トンネルを穿ちて開通後行旅その跡を絶ち、僅に甲府聯隊の定期行軍を見るのみとなれり。

【笹子トンネル】山梨縣北都留・東八代二郡の境、笹子峠に穿てる中央本線の隧道。我國屈指の大隧道にて延長四・六粁。明治二十九年十二月起工、明治三十五年七月に至りて成る。工費實に二百二十一萬圓。一尺の費額百三十圓に當る。通過所要時八分内外。

ササズ 笹津　富山市より飛彈に至る街道中神通川に架せる笹津橋の兩端の地を稱す。卽ち富山縣上新川郡大澤野村大字笹津及び婦負郡細入村大字笹津をいふ。もとは渡船場なりき。この地より神

[illegible]

ササナミ 細波・篠波・笹波

[illegible]

ササナミ 佐々井村　山口縣吉敷郡

[illegible]

ササベラ 笹原村

【笹原村】 岡山縣勝田郡東白川郡の東南部。[illegible]

【笹原】 [illegible]

ササベ 笹部

【笹部】 三河國(愛知縣)の古郡名。和名抄に賀茂郡笹部郷あり、[illegible]

【笹部】 [illegible]

ササマ 笹間

【笹間村】 岩手縣盛岡市[illegible]

[illegible]

ササメガヤツ 笹目ケ谷　相模國鎌倉郡[illegible]

[illegible]

[illegible]

【笹目】 長野縣更級郡[illegible]

ササメ 笹目

【笹目村】 岩手縣[illegible]

[illegible]

ササヤ 笹谷

【笹谷村】 宮城縣柴田郡[illegible]

[illegible]

【笹谷】 [illegible]

年下と称生ヶ大谷地とを含して本村を置く。

ササヤキ 耳語山 ↓十津川村（奈良縣）

ササヤマ 笹山 新潟縣北蒲原郡にあり し村。明治三十九年本村及び鳥屋村・鳥崎村、それに藤井村の一部を合併して木崎村を建つ。

ササヤマ 篠山

【篠山盆地】兵庫縣多紀郡の中央部にある盆地。福知山盆地の南方約三〇粁、矩形をなす小盆地なり。丹波高原の西部に於ては東西の方向を有する斷層線によつて切斷され、多くの地塁が並行す。それ等地塁間にある斷層盆地にして、この篠山町附近の盆地に地溝に發達せる斷層地形を示す。多くの地溝盆地にては陥落せる地塊の部分は全く堆浸せるか若通とするも篠山盆地にては、陥落せし地塊の上部は盆地中に多數殘丘として存在す。即ち東城山・王地山等大小二五箇の小丘陵が散在し、最高は二八八米を示し、徑は五〇〇米—一粁、盆地床よりの比高は一〇〇米内外なり。此地域は古生代の褶曲層を切斷せる隆起平原にて其後に起れる地塊運動により地溝の部分は陥沒し、周圍の地塊はこの運動の停止または僅かの上昇によりて生ず。かくて斷層崖は開析されて地溝中に堆積され、斷層崖の下部も岩屑に埋れ山麓線は小屈曲を示す。篠山地溝は東西に細長く、長さ約一四粁、幅は三—四粁、面積に約二四平方粁なり。盆地面は二〇〇米以下の高度にして北の斷層崖（八百里山・孟ヶ峰）の線は五〇〇米餘の比高を示す。東部及び北部に於ては古生層の山地、南部及び西部にては古生層及び石英斑岩の山岳を繞らし、盆地底は中世代の白堊紀層が堆積し、更に篠山川（大蛛川）附近には第四紀層の成層あり。篠山川は東西に貫流し篠山町附近にては黒岡川を合せ山地を切りて播磨に至る。要するに往昔は谷湖の地形をなしたるものなるべし。中央には篠山町あり、筍青山氏の城下町にして、篠山川の北側には城北村・岡野村・南河内村、南側には八上村・城南村・味間村あり。盆地内には中心點篠山町に播磨街道、但馬・丹波・園部街道が輻輳し、道路は直線狀をなして直交す。然して四隅より山地を越え西南隅より田松川の谷には福知山線が盆地内に入りて篠山町へは篠山鐵道に依りて連絡さる。この福知山線は盆地西緣に丹波大山驛を置き、又西北隅より篠山川の谷に沿うて福知山市に至る。盆地内には溜池及び川の灌漑による水田見られ、米・麥は主要農産物にして、養蠶も盛なり。四周よりは薪炭・茶・紙・葛等が集散され、秋季は松茸の産あり。八上村には八上高城址あり、四大山には大山城址ありて、篠山は軍事上も重要なりしため六萬石の城下町をなせり。

【篠山町】兵庫縣丹波國多紀郡の中央。福知山市の東南約三〇粁。北は城北村、南は城南村、西は岡野村に隣る。篠山盆地の中央にありて四周は六〇〇—七〇〇米の山地に圍繞さる。黒岡川は北より來り町を貫流し、篠山川は南境を西流す。篠山盆地の中心をなすため播磨街道を始め、但馬・丹波・園部街道輻輳し、省線福知山線の篠山驛（明治廿二年設置）は味間村にあり。これと篠山鐵道四・九粁にて本町を結び東新町に篠山町驛（大正四年設置）を置く。主として織物・米・木材・竹を發送し、石炭・肥料・石灰・セメントを輸入する。町の最も盛なる通りは吳服町・二階町・魚屋町等にて米・麥・薪炭・生糸・紙等を集散し、名物としては篠山燒（文化文政頃城主への献上品）・栗納豆・栗羊羹・筍・松茸等擧げらる。此地は和名抄、多紀郡日置郷の内にして、中世には日置莊と稱す。慶長十四年松平康重は江戸幕府の命をうけて同郡八上城主となり此地に新城を營む。二階町の小丘を春日山と云ひ、日置莊の鎮守春日神社鎮座せるを黒岡に遷座し、ここに笠城ぜり、同十五年に當城は成り、松平氏はここに移る。元和九年大阪落城後は松平康長之に代り、其後松平信吉來り子忠國に傳へ、慶安二年には松平康信入城し、孫信孝に至り、寛延元年には青山忠朝が亀岡より移封され六萬石を食み明治維新に至る。明和三年に青山忠朝は振徳堂を建てて文教に遊し、尚武を奬勵し心身を鍛練し、篠山精神を涵養せしむ。此藩校にては皇學・漢學・洋學・習字・算術・醫學を教へ、武術は入校と同時に之を課す。廣藩後は更に昔の精神を忘れしめざらんと青山公は鳳鳴義塾を建て勤儉尚武に努む。城北にはいま歩兵第七十聯隊あり、町の西には王地山公園あり。此地はもと多紀郡郡役所の所在地にして、今も警察署を始め、鳳鳴中學・高女校・區裁判所・本郷大碁記念圓書館あり。〔青山神社〕北新町に鎮座。郷社。祭神、青山忠俊・同忠裕。篠山藩主青山氏の祖を祀れる社なるも、明治維新後廢替し、同十五年再興し、昭和五年忠裕を加へ祀るといふ。

【篠山鐵道】私設鐵道。兵庫縣多紀郡にあり。味間村にある省線福知山線の篠山驛より東北方なる篠山町驛（篠山町）に通ず。今長四・九粁、大正四年に開通。

ササラ 左佐羅・讃良

【讃良】↓讃良（郡）

【左佐羅小野】河内國讃良郡（今の大阪府北河内郡の一部）にありし野。新六帖「笹わくる音もささらの河内路に駒を早めてけふもくらしつ 行家」

ササレ 佐々連

【佐々連山】佐々連尾山とも云ふ。四國山脈の一峯。愛媛縣宇摩郡金砂村と高知縣長岡郡吉野村との境界に跨る。標高一四〇五米を算し、山體結晶片岩より形成せらる。北斜面に佐々連鑛山あり。

【佐々連】↓金砂村（愛媛縣）

ササレイシ 細石山 近江國（滋賀縣）の歌枕。大津市石山の別名 夫木・二〇一「君が代のかずかなかをへてとりつまむためしなりけりさされ石の山 能宣」

ササン 茶山面 朝鮮慶尚北道高靈郡の東端に位置し洛東江の一大蛇曲部を占む。郡管内八面中の一。東は洛東江を隔て達城郡花園面及び城西面に、北は同多新西及び河濱面、南は玉浦面及び論工面に各相對し、西は星州郡龍岩面及び星山面に各隣接す。洛東江沿岸殊に東部には稍廣き平坦地横はるも其他は一般に一〇〇米前後の丘陵起伏し、波狀臺地を形成す。住民は農を主とし、稍ら製蓆を營む者少なからず。産物には米・大麥・大小豆・煙草・綿花・苧麻・莞草等あり。水運は洛東江により上流慶尚・下流は三浪津を始め其他の地方に連絡し比較的便なるも道路に未だ改修行はれず、何れも等外路線にして遠方的の用を便ずるに過ぎず。聚落は東部の河岸地に密にして其主なるものに湖村洞・平里洞・葉村洞・上谷洞等、臺地西に月城洞・羅亭洞・伐知洞等ありて面事務所を平里洞に置く。

サシ 佐志

【佐志町】佐賀縣肥前國東松浦郡の北部。唐津市の北に隣り、東にその一部をなす大島に對しその間に唐津灣を挾む。北は湊村・打上村に、西に有浦村に、西南は切木村に接す。四半は一體に丘陵起伏し、東南隅の唐津市との界には衣干山の丘陵ありて其間に南北に長き低地を抱さここに東方より弓形の唐房灣彎入して其北に岩石海岸突出し、更に其北は單調なる海岸をなす。低地はよく開墾され田畑拓け米を産し、また麥・甘藷を出し漁なも産す。聚落は多く海岸にあり、唐津市より來る道路は唐房灣岸に沿ひて北上し、灣北なる字唐房より海岸を離れて西北に走りて分岐し、一は西北方呼子町、一は名古屋村方面に至る。省線唐津線の終端驛西唐津（唐津市）に近く交通便利なり。東藏、建長二年開院造營の條に佐志源次の名見ゆ、蓋し此地に居して在名を負ひしものならん。佐志氏は松浦黨の一族なり。昭和十年町制を施く。〔八幡神社〕大字佐志に鎮座。郷社。櫻田別命・足仲彦命・息長帶姫命等を合祀。康和三年源義家の臣鎌倉權五郎景政の創建に係る。例祭十一月十九日。〔光孝寺〕臨濟宗南禪寺派。龍驤山と號し元亨年間の創建に係り開山を月桂和尚とす。本堂に神田南昌庵主の作なる丈六の如意輪觀音像を安ず。俗に子育安産觀音と稱し靈驗顯著なりとて衆者常に絶えず。

【佐志村】鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の東部。宮之城町の東に隣り、北は鶴田村、東は求名村及び大村の飛地、南は黒木村及び大村に界す。金峯山脈の西肢延びて村の北東南の三部に高さ二〇〇米程の山地を造り、中央を川内川の支流穴川西流し、途中東南方より來る支流を併せて四隣宮之城町に出でて本流と合す。穴川流域殊に北岸に低地ありて耕地拓け米を主とし粟・甘藷・麥等の農産あり、養蠶も行はれて繭を出す。西南方川内町方面より伊佐郡に至る縣道は西隣宮之城町を通りて村の西北部をかすめ、また穴川に沿ひて姶良郡に至るものありていづれもバスを通じ、省線宮之城線また伊佐郡に至る縣道に沿ひ、大字田原に佐志驛（昭和九年設置）を設け、交通不便ならず。中世は郡答院七郷の一なり。大前氏・益谷氏地頭たりしが、永禄九年より島津家の領となる。從來は伊佐郡佐志郷と稱し、郷内を廣瀬・田原の二村に分ちしが、明治二十一年南伊佐郡置かるゝや之に屬す。同二十二町年村制實施の際、二村を合し佐志村と改め、同二十九年南伊佐郡廢止せられ薩摩郡に入る。〔阿字賀神社〕大字廣瀬に鎮座。郷社。祭神、玉依姫命・息長足姫命・品陀和氣尊。創立年代不詳、社傳によれば天正中島津藏人再興せりといふ。例祭、十二月九日。

サシ 沙芝面 朝鮮黄海道新溪郡の北部。東は古面・村面、北は寧安郡泉谷面、西は同大坪面、南は新溪面・廳四面及び赤余面にそれぞれ隣接す。西南部には甘積山（三八六米）聳え、東境には烽火峰（三二七米）聳ゆるも、他は一般に平坦にして所謂玄武岩より成る熔岩臺地にして、禮成江の支流支石川臺地上を蛇入蛇曲して南流し麻谷美の勝に富む。住民は農を本業とし傍ら採薪に從事す。また家蠶及び柞蠶の飼育を營む。産物は大麥・大豆を主とし馬鈴薯・人蔘・栗等の産あり。北方平壤より來る二等道路は面の略中央を南北に縱走し、新溪を經て京義線南川驛に連絡し乘合自動車の便あり。聚落は主として玄武岩臺地上に分布し、其主なるものに石橋里・石嶺里・花場里・鳳原里・院橋里・蕎麥里等あり。

サジ 佐治

【佐治川】兵庫縣氷上郡の西半を貫流する川。源を遠坂峠及び神樂谷に發し、東流して蘆田村に至り南折し、丹波・播磨國境にて、東方篠山盆地の水を集め來る篠山川を合し南流して加古川となる。即ち加古川の上流部の名稱にして、流路約四〇粁、中國高原中に狹長なる谷を形成し、流域に佐治・成松の兩町あり。

【佐治町】兵庫縣丹波國氷上郡の北部。福知山市を去る西南約一二粁。北は遠坂村及び京都府天田郡上豐富村に、西より南は蘆田村に、西は神樂村に夫々接す。大體丹波高原の終る所西北境には大箕山（六二六米）あり、佐治川は此山地を東西に切り、更に町の中央にて東南の方面に流れ、境溝狀盆地をなす。盆地内は水田よく分布し、山麓には桑畑耕作さる。交通路としては但馬豐岡街道通じ、聚落は山麓に沿ひて發達す。鐵道の最に惡く、省線福知山線柏原驛へ出づるを最も便と

す。和名抄に見ゆる氷上郷佐治郷は當町附近にていま、佐治・蘆田・神楽・逆坂の四町村に亘る　延喜式の佐治駅馬八疋とは、ここより但馬國朝來郡に通ずる山陰道に沿ひしものなり。此塊には佐治氏（足立氏とも云ふ）居住し、鎌倉の家人の如く太平記にも散見す。其の城跡は佐治駅附近にして、丹波志には天正の頃足立彦助政基、明智氏に攻め亡ぼさると見ゆ。大正十年町制を布く。また幕末柏原藩の柱石と稱せられし小島忠太（贈從四位）は此塊の人にして、藩の儒者として文教興隆に盡力し、維新の際藩論を勤王に一定せしむ。〔佐塊神社〕大字小倉に鎮座。縣社。祭神天字受賣命。和銅三年の創建と傳へられ、延喜の制國幣の小社に列せらる。俗に神楽大明神または志水良大明神といふ。例祭十月十一日。

【佐治村】鳥取縣因幡國八頭郡の西部。北は西郷村・散岐村に、東は大村・用瀬町に、東南は社村に、西南は岡山縣苫田郡の加茂町及び阿波・上齋原の二村に、西北は東伯郡小鹿村に界す。面積八〇七・三方粁の大村。中國山脈分水嶺の一部を占め　西境に三國山（一二五二米）其北西に高鉢山等あり、西・北・南の三境は七〇〇—一一〇〇米の高峻なる山塊連り村内は平均高距五〇〇米以上の山塊廣く、ただ中部を東西に狹長なる谷塊あり、西境上に峙つ三國山東斜面に發する千代川の一支、これを東流して用瀬町に出で本流に合す。面積廣きも山林・原野は全有租地の六四%を占め、田畑に中部の谷筋に拓くるのみにて僅に二四%に過ぎず。米・繭等の農産あるもその額多からず。木炭・木材等の林産多し。人口も四八〇〇餘人にて一方粁の密度も六十人を算するにすぎず。明治四十三年、佐治・上佐治・中佐治の三村を合併して本村を置く。古くは和名抄、知頭郡佐治郷の地なり。〔加茂塊神社〕大字加茂に鎮座。郷社。祭神、邇々藝神・保食神。創立年代詳かならず。例祭、十月二十五日。

サシウ　佐志生村　大分縣豐後國北海部郡の北部。佐賀關半島の南側に位し臼杵灣の西北岸に臨む。東北は一尺屋村、西南は下ノ江村及び下北津留村に隣り、北は神崎村に界す。北境には東北より西南に縁ノ木山脈連りて東南方海岸へ傾斜し南部に小平塊を見る。海岸は東北—西南の方向に延び、屈曲甚しく乏しく約〇・五粁の海上に黒島の小島あり。西南部の小低塊に耕作行はれ米の産塊をなし、聚落は主としてここに集まる。省線日豐本線西部を略南北に通じ、西南方臼杵町方面に向ひ、西南隣下ノ江村に同名の驛を設くるも、村内の交通はなほ便利ならず。村の地域は豐後要塞地帶内にあり。江戸時代臼杵藩に屬し、明治二十二年佐志生村と稱し自治制を施行す。

サシオーギ　指扇村　埼玉縣式蘇國北足立郡中部の西偏。大宮町の西方にてこれと日進村・三橋村を挟み、北に平方町・大谷村、南は植水村・馬宮村に接し、西は川越市との間に入間郡古谷村を隔つ。隔東平野の一部にて土塊稀れ平坦、中部に水田多く、その他は低き凝塊にて殆んど畑塊をなし、農を主業として米を第一に、麥その他の農産を出し、養蠶また榮えて繭を産す。大宮・川越間及び浦和・川越間の道路に當り交通不便ならず。この塊に近世足立郡差扇領と呼び土佐の山内氏の所領にて、その形が扇に似たるより差扇の名起れりと。山内氏が返上してより幕領となり幕領采塊交錯して明治維新に至る。差扇を指扇と改めたるは何れの頃なるかは詳かならず。

サシキ　佐敷

【佐敷町】熊本縣肥後國葦北郡中部の西岸。北は田浦村、東北は吉尾村、東は大野村　南に湯浦村に夫々界し、西は八代海（不知火海）に臨む。北境に笠山（五六七米）の張西方に連り、その西部に三太郎峠の一なる佐敷太郎峠あり、東界にも高度三〇〇—四〇〇米の山塊ありて西方に傾斜し、中部に幅狹き平塊あり、佐敷川の支ここを流れて川口なる小灣に近く本流に合す。町内山塊廣きも低起には耕地ありて米・麥を産し、山塊よりは木炭を出しまた仔牛を産す。其他海岸は水産業行はれ商業も活潑なり。町の西北方に峰つ佐敷太郎峠は古來鹿兒島街道の難所三太郎越の一として名高く、街道は之を越えて南方へ屈曲しつつ走り川を渡りて更に南方湯浦村に延び、縣道また川に沿ひて東し、球磨川筋に通じ、いづれもバスの往復あり。省線鹿兒島本線また鹿兒島街道に沿ひ、佐敷太郎峠の西の佐敷駅驛（大正十四年設置）を置く。和名抄に葦北郡葦北郷とあるは、蓋し此塊とす。日本書紀に見ゆる葦北郡は恐らくは此塊なならん。往古は葦分國造この塊に居し、のちには郡家の地たり。また景行紀に見ゆる葦北津もこの塊ならん。延喜兵部省式に佐色傳馬五疋、佐職驛馬五疋とあり朽網・水俣間の一驛とす。天正十五年四月島津氏を伐つべく、豐臣秀吉の大軍、佐敷に旗鼓堂々姿を現せしも修に戰に入らずして和議成立す。また秀吉の朝鮮征伐の壯舉の第一聲がこの時此塊にて北政所により發せられし書狀いま尚ほ殘る。尚ほ休憩の勘秀吉が歡待を受けし御禮として贈ると傳へらるる雛子、町内の高橋某の家に遺存す。町名佐敷に弘法大師此塊に來り掃木せしより起るといふも傳說に過ぎず。明治三十六年町制を布く。〔佐敷城〕一に花岡城ともいふ。起因明ならざるも鎌倉時代相良氏の創築せしものならん。建長六年相良頼俊葦北郡を領し、以後治長あるも子孫多くこの塊を領し、義陽の時に至り、天正九年戰死ののち子忠房幼なるにより、慶年葦北郡を割き島津氏に屬す。同十五年豐臣秀吉の島津氏

を征するや薩軍防ぐ能はず葦北郡を棄てて走る。幾何もなく九州平定ののち佐々成政肥後を領し、人吉の相良頼房成政の指揮に屬し葦北を守り、尋で加藤清正の熊本に入るや、加藤重次をして佐敷を鎮せしむ。慶長五年關ヶ原の役に當り佐敷は西軍の結小西・島津兩氏の間にあり攻撃を受けしも重次遂に屈せず。元和元年幕命により城を毀ち、細川氏のとき番代を置く。〔佐敷諏訪神社〕大字花岡に鎮座。郷社。祭神、武御名方命・下照姫命。永享十一年七月の創建と社記にいふ。例祭、四月二十七日。〔實相寺〕大字佐敷にあり。日蓮宗。天長山と號す。當國花園村本妙寺末なり。慶長十七年加藤清正の臣加藤大和守重次、主君追福のため創建し、本妙寺開山日眞上人を請じて開山とす。のち寛慶に傾きしも寛文五年本妙寺五世日悠上人これを再興して今日に至るといふ。〔來迎寺〕大字佐敷にあり。浄土宗。古谷山と號す。筑後善導寺末たり。創建年代不詳。天正の兵火に罹りて衰頽せしも、加藤清正の臣、加藤大和守重次の母これを再興して其香提所となし耕營上人を請じて中興開山となす。

【佐敷太郎峠】→三太郎越（熊本縣）

【佐敷村】沖縄縣琉球國島尻郡の東部。那覇市の東南約一四粁、東南は知念村、南は玉城村、西北は大里村に接し、北は中城灣に臨み、其支灣場天港灣入す。面積一〇・九平方粁。場天港岸に沿ひて低地ある外は概ね低き凝塊ななす。甘藷・甘蔗・米等の農産あり、黒糖・バナナ・帽子・模布塊等の製造行はれ、また畜産・水産あり。道路北部を場天港岸に沿ひて東西に通じ交通不便ならず。字佐敷の西南山麓に佐敷上城址あり。佐敷按司思紹の居城にして門壁遺存せざるも、城跡歴然として古への面影を留め、尙巴志王遺跡として大正十二年記念碑を建つ。巴志は英明神武にして夙に治世の才ありしを以て、二十一歳のとき父思紹の後を承け佐敷按司となる。其後巴志西隣なる大里按司を伐ち、次いで中山武寧王を降すに及び父思紹を奉じて中山王となし、よく父王を輔け山北を征す。思紹の薨後五十一歳にして中山王となり、子孫傳へて尙德に至り七代六十四年にして亡ぶ。佐敷は尙敬王以來王后領となり、依りて王后を佐敷按司は郡志と稱す。佐敷上原には「ようどれ」と稱し父思紹王の墓あり。古代石造建築として特殊の趣あり。

サシキ　五西ノ月村　和歌山縣紀伊國有田郡の北部。湯浅町の東北約一二粁にあり。西は生石村、南は鳥屋城村及び岩倉村、東は城山村及び南野上村と界す。長峰山脈北境に連りて、東北隅に生石ヶ峰（八七〇米）聳え、山麓南方及び西方へ山脚を延ばし、西境には長峰山脈の一支脈南へ方延びて西ヶ峰（六二四米）を起し、この兩山の間に細谷谷をつくり、南境には約六〇〇米毫の山塊東西に走りて北方へ急傾斜し、東北郡山塊との間に同じく細谷谷を造り、これら谷間を有田川の支流南流及び西流し西南隅にて合し鳥屋城村に出でて本流に合す。山塊多きため川に沿ふ斜面に耕塊を拓げ米麥を造り養蚕として除虫菊を栽培す。また柑橘・蘭を産す。交通概して便ならず。西南隅鳥屋城村より來る道路川の谷に沿ひて二つに分れ、一つは東へ走り東隣城山村にて有田川に沿ふ縣道に連絡し、一つは北境長峯山脈を越えて北に延び紀ノ川流域の谷に續く。村名は明治二十二年、五名・西ヶ峯・早月の三舊村を合併して村制施行の際その一字宛を取りて命名せるもの。

サシキジ　差木地　→八幡村（山梨縣）→大島荒木地村（東京府）

サシデ　差出ノ磯　→八幡村（山梨縣）

サシマ　猿島

【猿島郡】茨城縣一市十四郡の一。下總國の一部なるもいま茨城縣に入り其西部を占む。東は略ぼ飯沼川と菅生沼によりて結城郡・北相馬郡に隣り、西南は利根川を境として千葉縣東葛飾郡に、其分流權現堂川を隔てて埼玉縣北葛飾郡に、利根川に合する渡良瀬川を以て群馬縣邑樂郡に對し、北は栃木縣下都賀郡に續く。西北より東南に延びて略長方形をなし、面積三〇一平方粁餘、人口一二萬餘、平均密度は一方粁四〇〇人に達し、縣下諸郡中結城郡に次ぎ第二位に居る。大部分に洪積層より成る低き凝塊にて高き處も海面上約二〇米内外有り。西南利根川の本支流に沿ふ塊は沖積層の低塊あり所々に沼澤を有す。即ち、北より擧ぐれば大山沼・釋迦沼・長井戸沼・一ノ谷沼・鵠戸沼・菅生沼等にて長井沼最も大きく、南北の長さ約六粁、幅廣き所は一粁を越ゆ。東境をなす飯沼川筋にもと沼澤連續せしが、享保年中の排水によりて良田と化せしものなり。農業主として行はれ米・麥・大豆・甘藷・青芋の外、葉煙草・茶等を産し、また養蠶も行はれて繭を出す。道路には奥州街道北葛飾郡栗橋町より利根川を渡り郡の西北部古河町を經て栃木縣に出で、その他古河町と郡の西南部、利根川左岸の境町とを中心として、縣道四方に走り、舊壁郡下妻町・結城郡結城町・北相馬郡水海道町等と連り、いづれもバスの往來あり。省線東北本線に奥州街道に沿ひて郡の西北部を掠め、郡内の交通は不便ならず。檀日本紀神護景雲三年の條に鬼島郡見え、延喜式・和名抄また鬼島に作る。和名抄は佐之萬と訓じ、塔隆・八俣・高根・石井・蒔津・色蘇の六郷、餘戸一を置く。拾芥抄只後猿島に作り、いま之に從ふ。また幸島・幸島と書ける古文書もあれど恐らくは書き誤りしものならん。天慶年間、平將門藤宮を石井郷（いま岩井町の邊）に建てし事によりて著る。明治二十九年西葛飾郡を分併して今日に至る。古河・境・岩井の三町の

外二十二箇村を含む。

【鹿島村】 茨城縣下總國鹿島郡の中部。利根川の左岸に沿ふ。西は境町、北は長田村・鹿井山村、東は生子宮村、東南は赤戸村に接し、西南は利根川を隔てて千葉縣東葛飾郡國宿町に對す。面積一一・〇五平方粁。全村平坦、畑地多く、西南境には森戸村との間に一ノ谷沼あり、その北方は低濕にて水田拓く。純農村にて葉煙草の栽培を第一とし、小麥・大麥・米・白菜等の農産あり。境町より下妻町への縣道村の北部を通じ、また境・水海道間の道路は西南部を横ぎり何れもバスの便あり。此地古くは和名抄、猿島郡菅津郷の内に屬せしものの如し。其後の沿革は詳かならず。いま大歩・下小橋・山崎・内門・染谷・浦向・金岡の七大字より成り大歩に役場を置く。

サシマキ 刺卷 省線生保内線の一驛（大正十二年設置）。秋田縣仙北郡生保内村にあり。

サシュー 佐州 佐渡の略稱。

サジョー 沙上面 朝鮮慶尙南道東萊郡の朝部。釜山府の西。東北境に白楊山、東南境に高速見山及び亀峯山等相連りて東半部は山地を成せども西方に岡つて漸次低爽となり、西半部は洛東江三角洲上を占め土壌極めて低平なり。產物には米を第一とし大麥・棉花・大豆・甘藷等あり。總督府鐵道京釜本線は城内を南北に縱貫し沙上驛（明和三年設置）を置く。道路は改修未だ行はれず、何れも等外路線にて交通便ならず。聚落は主に西半部の三角洲上に分布す。その主なるものに三樂里・毛嚴里・椰斗里・德浦里・掛法里・甘田里・鶴章里等あり。

サシン 沙津灣 朝鮮咸鏡北道の北岸にある灣。富寧郡の東岸中央に位し、其の灣口幅八鏈半、灣入一浬七鏈半の深入灣にして南に開口す。冬季結氷を見ず、春季南東風の時以外は良好の泊地なり。灣の東側をなす牛島の西岸には沙津港あり、沿岸航海の汽船時々寄航す。灣の西南に龍港灣あり、東に開口し、灣頭に突所水と稱する河川流入し鮭漁あり。

サス 佐須 【佐須】 但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に美含郡佐須郷あり。中世は佐須庄に作る。弘安中、田七十八町七段餘あり、亀山院御領となれり、地頭は左田千熊丸なり。其後流りて佐津庄と云へり。地は凡そ今の城崎郡口佐津・奥佐津の二村に當る。大田文「佐須荘、七十八町七反十歩、院御領地頭左田千熊丸」

【佐須村】 長崎縣對馬國下縣郡上島の西部。西は朝鮮海峡に臨む。北東南の三面山嶺を繞らし佐須川この間の水を集めて佐須浦に注ぐ。海岸は北部に阿連崎、その南に大野崎の小突出あり、大野崎の南佐須川口との間に佐須浦の小彎入ある外は概ね單調にて所々に海蝕あり。山林・原野多く田畑少きも米・麥・甘藷の產あり、林產に木炭・木材・椿油・松脂・椎茸等あり。米は住民の食糧として不足なれば多くは朝鮮より移入せらる。附近海上は好漁場なし鰤・烏賊・鯛等の漁獲物は村の重要生產物たり。外に石材（石盤石・屋根石・敷石・硯石等）を產す。對馬馬は峻坂・難路に慣れ村の缺くべからざる役畜にして農車に運搬に主要の役割をなす。道路西部佐須浦岸より川に沿ひて東に走り東境佐須峠を越えて鰐原町に至り、また西岸に沿ひて南北に通ずるも交通なほ概して便利ならず。全村要塞地帶内に入る。此地は和名抄、下縣郡賀志郷の地にして、村名は浦名又は郷名にも呼ばる。佐須浦は小茂田瀆ともいふ。弘仁二年十二月新羅の賊船來りて此の地を侵す。文永十一年十月蒙古の兵またここに上陸す。對馬守護代宗助國、拒戰奮鬪して一族全滅す。いま同所に小茂田濱神社ありて助國の靈を祀る。また日本書紀、天智天皇の六年に對馬の金田に城を築ける由見ゆ。其地いまを詳かならざるも村内櫻根の金田なりとも為知村内黑瀬の城山なりともいふ。〔安德天皇御陵墓參考地〕大字久根田舍の北方約一〇〇米の地點、俗にカヤヤ又はカッジヤの陵と稱する小丘にあり境域一六五〇平方米。此地明治十六年御陵墓地御見込地と定め宮内省所管に編入せられ翌十七年保存方を達し同省より營繕なせし、其後同二十二年に至り、宮幣中社赤間宮創建後二十一年を經たる同四十三年傳說地と改稱せられ次で昭和二年參考地に改めらる。古來安德天皇御陵墓と稱せらるるもの諸處にあれども本所は其中最も有力なる候補地の一に數へらる。〔小茂田濱神社〕大字小茂田に鎭座。縣社。祭神、宗助國。正平二十四年の創建。祭神助國は平知盛の三男なる重尙の弟なり。重尙は寛元四年以後當地を領し助國その跡を繼ぐ。文永十一年に元の兵當地に寇す。助國大いに力戰せしも及ばず遂に戰死す。村民小祠を建てて之を祭る。正平二十四年、助國の後裔宗經茂は當社を創建し、改めて飾（或は軍）大明神社と云ふ。元祿年中、宗義倶その勳功を欽仰し神門及び石碑を建て、寛政七年より毎年宗家は祭典を執行す。境内一千五百餘坪、社地は往昔助國舍戰の遺址にして、快晴の日には遠く玄海の荒波を距てて朝鮮の山野を望み得べし。境内社に勳功社（元寇の際、戰歿せし助國の臣下五十餘名を祀る）あり。例祭、十一月十二日。

サス 刺松原 近江國（滋賀縣）の古地名。續日本紀に聖武天皇天平十四年八月己亥（二十七日）紫香樂宮に行幸「九月壬寅朔幸二刺松原一」とあり。地は紫香樂宮（甲賀郡雲井村）の邊ならんと思はるるも今詳ならず。

サズカ 佐東村 静岡縣遠江國小笠郡の中部。掛川町の東南約四粁。旧内

には低山性の山地起伏し、北方に佐東山あり、中部を菊川の一支東南に流れ流域に僅に低地あり。產物は米のほか茶の栽培及び製茶・養蠶も行はる。街道は村の中部縱流に沿うて走り掛川町にバスの便あり。此地は古く和名抄、城飼郡庚東郷に屬せしものの如きも、その後の沿革は詳かならず。佐東山の櫻は眺望の佳なるを以て世に知らる。

サズシ 枳豆志 愛知縣知多郡にありし村。明治四十四年西浦町と改稱。

サスナ 佐須奈村 長崎縣對馬國上縣郡下島の西北部、西北は朝鮮海峡に面し南は仁田村に、東は琴村及び其北にある豐崎村に界す。南境に御嶽山あり、東南境には香木山其北に長山あり、中央北偏に大久間山、西部に七本松山、北部海岸近くに千俵蒔山あり、全村殆ど山地をなす。東部山地の諸水は集まりて佐護川となり屈曲しつつ西北流し西北部にて朝鮮海峡に注ぐ。西岸の棹尾崎以南は單調なる陷落海岸をなし、北岸は屈曲多く其西端に佐護川口のラクダ狀の小灣あり、東方のトロク崎は好錨地佐須奈港の西角をなし、佐護川口の小灣との間は千俵蒔山の北麓海に迫りて圓形の海岸をなす。村内平坦乏しく農耕振はず、森林面積廣く木炭・竹材・椎茸等を產し、附近海上は水產物豐富にして町民の生活を支ふ。陸上の交通整れ不便なり。海上は對馬商船の長崎・壹岐・對馬・釜山線及び博多・壹岐・唐津線によりて地方及び朝鮮に交通の便あり。全村要塞地帶内に屬す。此地は、古くは和名抄、上縣郡佐護郷の地とす。寛文年中宗氏此地に港を開き朝鮮來往の津頭となせしより今に至るも泊舟多く今内務省指定港灣たり。中世宗氏の所領にて明治四年廢藩置縣の結果伊萬里縣に屬し、佐賀縣となり後に長崎縣に入る。〔天神多久頭魂神社〕 大字湊に鎭座。郷社。祭神、多久頭魂命（或は建御己之命）。創立年代不詳。淸和天皇十二年從五位上を授けられ、延喜の制國幣小社に列す。例祭、十一月一日。

サセ 佐世 【佐世】 上總國（千葉縣）の古地名。和名抄、海上郡に佐三郷あり、高山寺本は三を二に作るも佐三は佐世の誤なり。その地今の市原郡明治村の邊に當り大字佐是は郷の遺稱なり。凡そ海上郡の佐世・稻荷・大野・山田四郷の地は養老川の上游の峡谷にあたり、中世は海南郡或は佐是郡とも稱せり。

【佐世村】 島根縣出雲國大原郡の中部。西北より東南に細長く瓢形を呈し、南北約七粁、東西の最廣部は一粁に過ぎず。周邊には一〇〇米程度の丘陵地ありて林野をなすも、中部には幅狹き低地ありて田・畑よく拓く。農產に米・繭あり、林產・畜產も少からず。省線木次線北部を東西に貫きその出雲大東驛（森嶋村）・木次驛（斐伊村）に近きも交通便利ならず。古くは佐世郷に作り、出雲風土記・和名抄に其名見ゆ。中世安倍氏族佐々木隠岐氏の一族此地に佐世氏を稱す。明治二十二年、下佐世・西阿用・大ヶ谷・上佐世の部落を合して本村を建つ。〔佐世神社〕大字下佐世に鎭座。郷社。祭神、須佐能袁命・奇稻田比賣命。創立年代不詳。例祭、十月九日。〔源入寺〕下佐世にあり。曹洞宗。金剛山と號す。金剛山城主佐世氏の創建に係り永禄和尙を開山とす。本尊釋迦如來は定朝、地藏菩薩は行基の作なり。境内人寰を離れ殊勝の靈場たり。

【佐世】 長崎縣東彼杵郡にありし村。昭和二年佐世保市に編入す。

サセホ 佐世保 【佐世保市】 長崎縣二市の一。縣本土の北部、北松浦半島の基部に位す。北は北松浦郡の佐々・中野・大野・楠木の諸村に接し、東は東彼杵郡の早岐町及び折尾瀬村に連り、西と南とは海に面す。この地方は箕紫山脈の末梢部が海に浸するところにして、標式的沈降海岸の特色を具へ、第三紀層より成る丘陵性の山嶺が遠く海中に突出してその間に大小の峡灣を抱く。市の中央に南方に突出せるものは特に長く、その頂上に玄武岩を戴く。その東側は卽ち佐世保灣にして廣闊なる良港灣をなせども、西側には無數の小島嶼を浮べ、九十九島の勝景として知らる。市街は前者の灣頭に注ぐ佐世保川の吐口に發達し、丘陵その三方を圍みて平地をしなしけれども由を析きて海を埋め、且て市街を建つ。河口に近く鎭守府あり。その西南方一帶は海軍用地にして海兵團・建築部・港務部・人事部・經理部・軍需部・海軍工廠等が集まり、その東側において市を南北に貫く本通の縣道筋及び新築の國道筋には銀行・百貨店、その他大小の商店櫛比して市内目貫の繁華なる商港街をなすと同時に、その沿線地區には市役所・商工會議所・稅務署・戸籍所・圖書館・公會堂・各種中等學校等の官衙・學校群り、市の幅輻をなす。而してその更に東方の一帶は概して住宅區域に充てらるるも、市内各地にはなほ要塞司令部・重砲兵大隊・水雷隊・航空隊等海軍關係の諸官衙あり、軍港街としての色彩橫溢す。佐世保灣は三面山を以て遮蔽せられて水深ければ、西の大半を軍港とし、當鎭守府の管轄區域たる福岡縣鐘ノ岬より宮崎縣都井岬に至る九州島の西南部・神瀬縣・壱岐・朝鮮の各海岸及び海面一帶を含む第三海軍區を衛戍すべき大小軍艦の碇泊に充て、東の一部分を港岸航路船舶の停着に便ぜしむるも、元來本市は軍港を中心とせる消費的都市なれば市の生產業は甚だ振はず、從つて商港に集まる船舶も極めて寥々たり。肥前山口驛にて分岐せる佐世保線は早岐を經て本市に入り、日宇・佐世保の二驛に置くも、貨物の移出は少く、寥る軍人及び軍港關係者の頻繁なる集合離散に便ずるか目的とせ

るものの如し。されど果てしなき軍港の發展に伴ふ人口の集中に依り獨立せる商港並びに循環鐵道の必要に迫られ義には北佐世保驛より、北松浦炭田に通ずる佐保鐵道の買收を了しその新裝せる松浦線の伊萬里線との連絡が構想せられ、今また西隣相浦町の併合を見、今後の佐世保市は經濟的方面において多大の發展を期待せらる。本市はもと平戸藩に屬し、明治十二年東彼杵郡に編入されし當時は戸數僅か八百餘戸の一小漁村に過ぎざりしも、その位置と港灣の優秀なるところより國防上の重要性を認められ同十九年海軍鎮守府を設置すべく指定せらるるや、商工業者及び勞働者のここに移住する者陸續として絶えず、鎮守府の開廳を見たる同二十三年末には既に戸數千五百、人口九千八百餘名に達し、越えて二十七年七月日清戰役の起ると共に船舶の出入頻に頻繁を加へ、陸の往來また繁輝として市況活潑となり、商店の面目自ら一新せられたり。同二十八年、戰役終局と同時に鎮守府は擴張せられ、三十一年には九州鐵道(今の佐世保線)は早岐より分れて當地に達し、翌三十二年には陸軍要塞部隊が設置せられてその發展めざましく、純然たる大市街の出現を見るに至りたれば、三十五年四月市制を布きて村より一躍市となれり。同年末の人口は五萬を超えたり。爾來日露戰役・歐洲大戰・滿洲及び上海の兵事變と各戰役の都度當軍港は我が海軍の策源地となりて急速なる膨脹を遂げ、その間明治三十七年四月には西隣の一部を割きて山口村(後の相浦町)に讓りて東隣日宇村の一部を市に加へ、昭和二年四月に隣接の日宇・佐世の兩村を編入して昭和十年の國勢調査當時には東西九・八粁、南北一〇・九粁、面積約五〇方粁にして人口一七三、二八三人に上り、九州第五の大都市となれり。その後と雖も市勢の進展は停止するところを知らず、殊に昭和十二年七月以來の日支事變に際しては當軍港は再び支那沿岸封鎖の策源地となりて市況頓に振ひ、翌十三年四月には西隣の相浦町を併合して多年の宿望を遂げ、新に三五・五五方粁の市域と一四、六〇六人(昭和十年國勢調査)の人口を加へて大佐世保市の實現を見、新市街地は商工區域に指定せらるるとともに相浦港の築港せらるることも近かるべし。上述の如く本市の歴史は極めて新しければ、市内には由緒ある史蹟に乏しく從つて當市の勝地は寧ろ自然的にして、相浦前方海上の九十九島及び港背金比良町なる鶴渡越の眺望は特に著はれ編石町の海水プール・八幡町の記念公園等は市民の遊歩に適す。なほ市街交通のためには市營バスが運轉す。〔鶴渡越〕市の中央丘陵上に位し、金比良町にあり。四十三艘潜水艇記念碑を中心に小公園を形成す。ここより西方の海面を俯瞰すれば、大小無數の島嶼が散布せる九十九島の勝景を手に取る如く賞し得べく、その背後には天主教徒の多きを以て知らるる黒島を隔てて上五島の島々及び平戸島を遠望し得。また東方を望めば佐世保市街を一眸のうちに收め得らる。遊覽地に乏しき佐世保市唯一の新しき散策地にして自動車の便あり。但し要塞地帶に屬す。

〔龜山八幡神社〕 八幡町に鎮座。縣社。祭神、誉田別尊・足仲彦尊・氣長足姫命其他五柱。創立年代不詳。領主松浦氏の崇敬あり。黒印領三拾石八斗七升を有せり。例祭、九月八日。〔西方寺〕八幡町にあり。曹洞宗。放光山と號す。建長二年香林永大の開創に係り臨濟宗を奉ず。のち頼朝、長祿元年當地赤崎觸の天翁鳳清これを再興し現宗に改む。天明二年當藩月章堂宇を再建、依りて之を中興開山とす。〔編石觀音堂〕編石兎にあり。九州七觀音の第一にして當地屈指の霊場。和銅三年行基菩薩の草創に係り同菩薩自刻の十一面觀音を安置す。空海唐土より歸朝の砌此地に錫を留めて更に伽藍を增營し編石山清巖寺と號して爾來真言宗に屬せり。のち寶祚せしも本尊觀音の霊驗顯著なりとして今に著聞す。〔嚴星宮〕祇園町の郊外にあり、俗に穴妙見と稱す。三面丘陵に鎖されたる別天地を為し、絶壁高く聳るところに一大洞窟あり、幅五米餘、深さ約一〇米、洞中には寒巻鳴尊を祀る。〔延壽寺〕太田町にあり。日蓮宗。身延久遠寺末にして、大正三年の創立に係り、日蓮上人眞筆大本尊並に上人肖像を本山より移安す。

【佐世保線】 省線長崎線の一。九州西北半島部にあり。佐世保軍港に通ずる重要線。長崎本線肥前山口驛より分れて西に向ひ有田・早岐・佐世保等の諸驛を經て北佐世保驛に至る全長五二粁。有田驛にて省線伊萬里線に、早岐驛にて省線松浦線とそれぞれ接續す。

サセン 沙川面 朝鮮江原道江陵郡の北東部。北は逢谷面、西は平昌郡道叢面、南は城山面及び丁洞面にそれぞれ隣接し、東は日本海に面す。大白山脈に屬する仙子嶺・黄嶺山等西部に聳ゆれども東するに從ひ漸次平坦となり、海岸は花崗石の白砂より成る單調なる砂濱長く連り、沙川の吐口附近は稍突出して其單調性に變化を與ふ。耕地は地味肥沃にして住民の多數は農業に從事し、養蚕・漁業及び製鹽業行はる。産物は米・大豆及び麻を主とし其他藥草・蜂蜜等を産し海産物に鮑・鰒等あり。道路は南方江陵より北方注文津に通ずる二等道路海岸に略並行して鐵走し、定期乘合自動車の便あり、其他は等外路線にして交通便ならず、海上交通も砂濱のため良泊を缺く。製路は主として東部の低地に偏在し面邑石橋里その中心を成す。

サソー 佐佐布 ↓夷道町(島根縣)

サソー 佐生 ↓五條(滋賀縣)

サタ 佐田岬 愛媛縣西宇和郡にある岬。九州の佐賀關半島と對峙しその間に豐予海峡(速吸ノ瀬戸)を挟み、瀬戸内海と太平洋の水を連絡せしめ、四國・九州を分離せしむ。長さ約四〇粁幅約七粁にして結晶片岩類より成る。佐田岬の南北兩側に岬と同方向の斷層二つあり、地塊を形成せしものと解せらる。四國島の東西兩側沈降し、その一部が岬角となりしものにて、豐予海峡中に高島・牛島等點在し恰も飛石の如く、佐賀關半島との連絡を追求し得。海岸線は沈降海岸特有の出入に富み、比較的北側に多く南側に少し。殊して北に傾斜し分水界は南に偏在す。崎鼻の間に小入江あり、灣頭に小集落發達す。主として漁業に從事し、三机・三崎・濱・大濱等は中心集落をなす。

サタ 佐多

【佐多村】 鹿兒島縣大隅國肝屬郡の南端。大隅半島の先端にして東南は大隅海峡、西北は鹿兒島灣に面す。北は小根占村・田代村及びその東の内之浦町に界す。面積一二二・五五方粁。肝屬山脈の西南部に當り、村内は山地多く北境東部には稲尾嶽(九五九米)、中部には本場嶽(八〇〇米)を起し、本場嶽の支脈は村の中央を西南方へ連り、その東南斜面の海岸に沿ひ所々に狹小の低地を作る。また山地西南端は佐多岬と言ひ、其先に大輪島の小島あり、九州島の最南端をなす。氣候溫暖にして降水量甚だ多く、蘇鐵・龍眼・茶枝・ゴム・樟等の熱帶植物繁殖をなし、多様なる農業營まれ甘藷・粟は常食、大豆・菜種・茶・煙草等もあり、牧畜・水産も行はる。一方粁の人口密度は七七人に過ぎず。可耕地なほ殘さる。交通は一體に不便にて西北海岸に沿ひて佐多街道北方より來り、宇伊座歌まで延び村道は所々の集落を繋ぐ。此地古くは和名抄、大隅郡大河郷の地に當るものの如し。建久の頃は高木城に佐多新太夫居りて佐多庄十町の庄田を司り、のち根占の鹿寇氏に屬し天正の末期島津領となる。明治十二年區を廢して郷となしのち戸長制となる。二十二年南大隅郡佐多村と稱し、三十年肝屬郡に入る。大字馬籠には蘇鐵自生し、いま蘇鐵自生地として天然記念物に指定さる。〔高木城〕大字馬籠にあり。本丸・二の丸等の跡を存す。鎌倉幕軍創朝の時佐多新太夫高清領主たりしといふ。次で野上田伊豫坊時盛佐多を領す。のち佐多太郎久秀は永久の亂に宇治川にて戦死するに及び佐多家絶ゆ。其後島津三郎左衛門忠光は佐多を領せしが、三代豐後氏義に至り、永徳元年六月鹿寇右馬久清の篤に本城を襲ひ取らる。爾來鹿寇氏の居城たり。〔御崎神社〕大字馬籠に鎮座。郷社。祭神、上津少童命・中津少童命・底津少童命・表筒男命・中筒男命・底筒男命。社傳によれば、和銅元年三月夜神託ありて同年六月神社を創建し、御崎六所權現と稱す。もと懇崎に鎮座ありしが、慶長十年惇山權左衛門久高の琉球國を征せし時に霊顯の旨趣あり、歸朝の後、これを再興してより今の地に遷座せりと云ふ。社殿の南方に向へるは琉球國鎮護のためなりと稱す。社地は佐多岬の岸頭、海山絶景にして松樹・蒲葵その間に繁生し一偉觀を呈す。かく蘇鐵の多きは琉球中山王の薩順せし時の寄進なりと云ふ。例祭、十月十九日。〔佐多舊臺岡〕大字伊座歌の西南にあり。指定史蹟。貞享四年、新納時升藩主に獻上せる龍眼樹を植ふたるに始まり、寶暦明和の頃更に藥草木を栽培す。堀切と上の岡平の二箇所にあり、堀切臺岡の龍眼樹は現在二十八株あり、他に蘇枝・枳殼・あかてつ・印度茘枝樹等あり。上の岡平の臺岡は堀切の分園にて、共に熱帶植物を栽培せし藥園として著名なり。

【佐多岬】 ↓佐多村

サタ 薩田 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に上座郡薩田郷あり、高山寺本は粹田郷に作る。その地今の朝倉郡高木村の邊に當り、高木村の大字佐田は郷の遺稱なるべし。

サタ 狭田之國 ↓秋鹿(郡)

サタ 佐太村 島根縣出雲國八東郡の西北部。松江市の西北方約八粁。島根半島中部の北面に位し、北より西は惠曇村に、東は講武村に、南は古江村に界す。面積六・二八方粁。島根半島をなす東部・中央部の兩地塊の境をなす佐陀川の臨層の南北に跨り、北部も南部も共に高度約三〇〇米の山地より成り林野多く、中央部の佐陀川の兩岸に低地を有し田・畑の耕地拓く。全戸數の七〇%は農家にて米作及び養蚕に從事す。また蚕衣の製繰及び製茶工産あり。近年は東南松江市と惠曇村江角漁港をつなぐ佐太運河が臨層線を利用して開通し、日本海岸に於ける鯖・鰯等の鮮魚及びその他の物産は容易に松江市方面に運搬せられ、また道路上にはバスの來往ありて交通便利なり。村名は出雲風土記國引の條に見ゆる狭田之國の遺稱。古くは秋鹿郡に屬し、出雲里または神戸里とも云ひしものの如し。蓋し佐太神社の神戸なりしものならん。明治二十二年町村制實施に當り、佐陀本郷・佐陀宮内・武代の部落を合して佐太村を建つ。〔佐太神社〕國幣小社。祭神、佐太大神。出雲風土記には、佐太御子社、神魂命の孫佐太大神を祀ると見え、社記に據れば、伊邪奈伎命・伊邪那美命・事解之男神・速玉之男神・謂說神を合せて五柱と云ひ、風土記抄には、佐田三座、其一社は伊佐奈枳乃麻奈子・熊野加武呂乃命、一社は神魂命御子枳佐加比賣・佐太大神、一社は邇々枳命・伊佐奈彌命・天照大神とあり。その三社とは今の正殿・北殿・南殿を云へるものにして、正殿は即ち式内社なり。祭神に試きてその說の區々なれども、風土記・三代實錄にはただ佐陀神とあり。延喜式に何座とも見え

ざれば其一神なること別白にして之を佐陀神となすべし。貞觀十三年十一月十日從四位上に陞敍さる。延喜の際に振格を廢して鄕社に列せられ、僅かに佐太村の產土神にすぎざりしを、明治七年縣社に昇格し昭和三年國幣小社に列せらる。社地は佐陀川の畔、神名火山を負ひ境內四千百六十餘坪にて閑靜を極む。社殿の諸建築は大社造の古建築にして、出雲系の神社形式を完備す。例祭、九月二十五日（御座替祭）。その他の祭事頗る多く、年中七十五度と稱せらる。十一月二十日より二十五日まで神在祭あり、八百萬の神々出雲大社より神歸りの際は當社に集ひ給ふと云ひ、極めて盛大なる神事あり。當社一名を神在の社と稱するも之に據るなり。〔朝日寺〕眞言宗大覺寺派。金寶山と號し弘法大師の草創にして、本尊十一面觀音は行基の作。當國三十三所中第二十九番札所たり。順禮歌に「ふだらくはよそにはあらじ朝日寺岸うつ波を見るにつけても」とあり。寺は朝日山頂にあり、宍道湖・中海の烟波を隔てゝ大山・蘆川平原を望み眺望頗る優る。

サタ　佐田村　大分縣豐前國宇佐郡の東部。宇佐町の南方にあり、それと西馬城村を挾む。西は安心院村に、南は津房村に接し、東は速見郡上村及び其北の山浦村と界す。耶馬溪修岩臺地々域の東端部に位し、北端には米神山（四七三米）あり、南半は南隣上村の西南部なる徒ヶ下山（四八五米）の北側の臺地にして高さ約二〇〇米、北方へ極めて緩傾斜をなし、北境山地との間に西流する津房川支流の谷を畳る。川の谷に沿ひて耕地拓け米・麥・粟・甘藷等の產あり。道路北部を東西に通じ、省線日豐本線立石驛（速見郡立石町）と安心院村とを往來するバスの通路をなし交通不便ならず。此地域は附近諸村と共に和名抄、宇佐郡野麻鄕の地に當るものか。續日本紀天平勝寶元年十二月の條に大神杜女を左太側區と稱ふと見ゆ。蓋し左太はこの地名を負へるものか。肥後國志に、公景は宇佐郡佐田庄に住し子孫は在名を以て家號とすと云ふ。〔佐田神社〕　大字佐田に鎭座。鄕社。祭神、武內宿禰・素戔嗚尊・大山祇命・小一郎。創立年代未詳。古來當村の產土神として崇敬さる。例祭十月十六日。〔貿來惟熊〕寬政八年本村に生る。殖林を諸村に勸め、自費を投じて諸村の水堰工事を成就す。後年藩主大麻鑄造を命ずるや苦辛慘憺つひに八封度砲・四十二封度砲・十八封度砲等八門を鑄造。明治十三年八十五歲にして歿す。贈從五位。

サダ　蹉跎　【蹉跎村】大阪府河內國北河內郡の西部。淀川の東岸に沿ひ枚方町の南に隣り東は川越村、南は友呂岐村に界し西は淀川に臨み、對岸の三島郡三箇牧村に相對す。面積四・六七方粁。東部は枚方丘陵の西面にて傾斜地なるも西半部は淀川流域の沖積平野の一部を占め、土地平坦にて耕地よく開け河內米を主とし、麥・菜種等の農產を出し、製繩・絹織その他の工業行はれ工產多し。京阪新國道は淀川の東岸に沿ひて通じ、北隣枚方町より分岐する河內街道は中部を南北に貫き、京阪電鐵これに沿ひて走り光善寺驛を設け、交通の便甚だよし。此地は和名抄に茨田郡佐太鄕と見ゆ。大字中振の蹉跎山に鄕社蹉跎神社あり、菅公を祀る。菅公の謫遷せらるゝや、息女菊屋姬追慕して此處に來れば、父君既に西發せられし後なり。姬は西天を望み蹉跎して悲歎したりしより採つて地名となし、鄕人の社を建て、菅公手づから姬の像に刻し遺せし自像を祀るといひ、社後のダ、山は卽ち姬が恨蹉跎せる地にして、山上の菅相塚は公が休憩の蹟と傳ふ。山麓に蹉跎池あり。古今六帖「わかせこが老ゆるか惜しきさたの池の玉藻にもがな刈りあげはやさん伊勢」は卽ち是なり。〔蹉跎神社〕大字中振に鎭座。鄕社。祭神、菅原道眞。菅公筑紫へ左遷の途、此地を過り、自作の木像を留められしを後に里人の祀るところと傳ふ。昔に蹉跎山天滿宮といひ、もとの中振・出口二村をはじめ近鄕二十數箇村の產土神たり。社地高くして四圍の風光佳なり。例祭十月十五日。〔光善寺〕大字田口にあり。眞宗大谷派。淵堤山と號し、當派五箇寺の一なり。文明七年本願寺第八世蓮如の創立に係り、蓮如の長子順如を第二世とす。天文三年火災に遭ひ攝津國烏下郡烏河に移轉せしが、のち幾許もなく現地に遷る。庫裡の林泉は石川丈山の設計に成り雅趣深し。

【蹉跎輪】→足摺崎・蹉跎岬

サタケ　佐竹村　茨城縣常陸國久慈郡の南部。太田町の西南隣にあり。東は西小澤村、南は幸久村、西は久米村、北は磐田村と隣接す。面積八・二四方粁。村の西北半は阿武隈山地支脈の南端にて北境は五〇—八〇米臺の丘陵をなすも東南半は久慈川下流流域の一部にて土地平坦、田地よく拓け畑地亦少からず。麥を主業とし米產多く、小麥・大麥を出し又藺草の栽培行はれ桑蠶の特產あり。水戸太田間を繫ぐ縣道二條は東西を縱走し、いづれもバスの便あり。これに沿ひて省線水郡線、村の中央を北走するも村に驛を置かず。されど同線の常陸太田驛（去田町內）・河合驛（幸久村內）に近く、交通便利なり。この地は和名抄、久慈郡佐竹鄕の地にして、中世に佐竹氏發祥の地として知らる。大字稻木は清和源氏、佐竹氏の族、此地に稻木氏を稱ぜり。〔佐竹城〕大字天神林に其址あり。壽永年中、佐竹昌義の築きし城にして、佐竹氏は平氏に屬せしが、平氏の亡びし後は、源頼朝に歸し、同族稻木氏世々ここに住し、應永二十四年、佐竹義人、攻めて之を取り、後その支族、天神林氏居住せしも、慶長年中に廢城となる。〔稻村神社〕大字宇天神林に鎭座。鄕社。祭神、饒速日命。國常立命・國狹槌命外八神。饒速日命の後裔この地に代々國造たり。而して祖先部屬の居地にその祖神を祭れるならん。延喜式內社。例祭、五月一日。〔佐竹寺〕大字天神林にあり。鈴義眞言宗智山派。妙福山明者院と號す。昔に佐竹の觀音と稱し坂東三十三所第二十二番札所たり。花山法皇の御願に依り元亨上人の建立と傳へ、のち文永六年領主佐竹長義再興し寺田若干を附し其の祈願所となす。爾來寺門隆盛なりしも、天文十二年兵火に罹りて廢墟、のち再建せらる。詠歌「ひとふしに千代をこめたる佐竹寺霞かくれに見ゆるむら松」〔西光寺〕大字谷河原にあり。眞宗大谷派。鳥喰山無量光院と號し、親鸞門下二十四輩の第二十四鳥喰唯圓の開創たり。唯圓は俗名を橋本綱宗といひ武藏國稻山の城主たりしが、一子病歿後親鸞に歸依して入道し本寺を創立す。〔白馬寺〕曹洞宗。經來山と號し上野國澁法寺村永源寺末なり。文永年中の創建に係り、開山を幻室伊蓬和尙（通幻派）とす。

サタミツ　貞光町　德島縣阿波國美馬郡の東北部。吉野川の右岸に沿ふ。東は三島村、南は端山村、西は中田町に隣接し、北は吉野川をはさみ郡里村・岩倉村に對す。劍山山脈東部の北斜面の末端部に位し、東南端と西端は高さ四〇〇—五〇〇米の山嶺連亙して北方と東方に傾斜し山地廣く、たゞ北部吉野川南岸の段丘と西部を北流して吉野川に注ぐ貞光川の谷に、やや廣き平地ありて耕地拓け、米・麥・繭の外、謂はゆる古來阿波刻と稱さるる煙草の栽培の中心地として、上流の池田町（三好郡）と共にその名著はる。貞光の集落は貞光川の左岸の段丘上に建ち、鹽町區裁判所出張所・專賣局出張所等あり。伊豫街道と省線徳島本線とは北部の段丘上を東西に通じ、後者は貞光驛（大正三年設置）を設く。此地古くは和名抄美馬郡大村鄕に屬せしものか。中世は忌部庄と稱し麻殖氏の故跡多し。本町の集落發生は相當古く吉野川南岸に於ける一中心邑をなす。穴吹川口の穴吹町、半田川口の半田町等と同じく吉野川に合する貞光川の川口に發達せし渓口集落にして貞光川に沿うて商家並ぶ。明治四十年町制を布く。貞光川上流なる一字村の名勝土釜鳴瀧及び劍山登山の入口をなす。

サダモト　貞元村　千葉縣上總國君津郡の西部。木更津町の南方約八粁、小糸川の南岸にあり。東は周南村、南は大貫町、西は飯野村に接し、北は小糸川を隔てゝ周西村・八重原村と隣す。面積九・七二平方粁。南部には低き丘陵地ありて森林多きも、その他は小糸川流域の平野の一部にて田畑よく拓く。米を主として麥その他の農產あり、蠶繭・養蠶また行はれ卵・繭を出す。北隣周西村なる省線房總西線周西驛に近く、また木更津より佐貫町方面への縣道を通じ交通不便ならず。この地は和名抄、周淮郡山名鄕及び湯坐鄕の地なるべく、天正二十年の水帳に貞元鄕とあれば當時貞元鄕と稱せしものなるべし。のち秋元莊に屬せり。總新前には熊下の集地及び代官の支配地等入りゝ交れり。大字郡は蓋し往時周淮郡家のありし所なるべし。又この地に清和天皇の第三皇子貞元親王の御墓と傳ふるものあり、親王罪を得て此地に蟄じ給ふといふも不詳。〔最勝福寺〕字御堂にあり。曹洞宗。國內佐貫城主里見左馬頭義弘の創建に係り、當時は御堂と稱す。地名之より出づ。寶永年中火災に罹り堂宇・舊記を失ひ寺歷不詳。舊幕時代寺領四十石を有せしも、今は大いに廢頹す。〔神着寺〕字神明にあり。新義眞言宗豐山派。惠日山と號し、往古は貞元親王（延喜九年薨）の祈願所たり。創建年代と開山僧名不詳。中興は粗源法師たり。本尊不動明王は行基の作と傳ふ。

サチ　幸ノ海　→中禪寺湖（栃木縣）

サチウラ　幸浦村　靜岡縣遠江國磐田郡の南東端。南は遠江灘に面し、北は東淺羽村・西淺羽村、西は豐濱村に隣り、東は小笠郡橫須賀町に界す。太田川下流流域平野の一部を占め、北半には田地多く、米を產し、南岸には砂丘發達しその內側には畑地拓けて甘藷を栽培す。また藺を產し沿海漁利あり。村の略中央を東西に堀割通じ、橫須賀町に至る道路に沿ひバスの便あり。此地は和名抄、磐田郡久米鄕の內ならんと云ふも詳かならず。足利氏の頃、今川貞世入道了俊こゝを領し子孫傳領せしと。〔萬福寺〕大字落合にあり。曹洞宗。江藏山と號す。天正四年、初庵和尙遊歷の際に當村海汀にて藥師如來を感得す、江川某如來を崇敬して本堂・總門を建立し、元祿年間重圓和尙を請じて草創開山となす。寶永年間海嘯の爲に伽藍・舊記等悉く漂損し、更に安政の震災に諸堂宇悉く倒壞せしも、その後再建成る。

サチハラ　佐千原　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他二村と共に廢せられ、新たに碧栗村を置く。

サチヨ　幸世村　兵庫縣丹波國氷上郡の北部。福知山市の西南一三粁。北は鹿田村、東は前山村、南は黑井町・成松町・葛野村に隣接す。中央には佐治川が南流して神積地を作り、兩側には古生層山地たる橋丹山地ゼまる。大體六〇〇米位の高度を有し、平地には米作行はれ、山麓は桑畑に利用さる。村の中央には豐岡街道が走りて佐治町方面に至るも交通の便よからず。鐵道は福知山線柏原驛に出づるを便とす。大字御油の地は和名抄の氷上郡伊中鄕の地にあたり、中世は御油庄と稱し、こゝに加茂明神あり、之はもと圓通寺山にありしを、後寺を開創の時、社人その山林を寄附して、社を御油に移せりと。

竹村の産出あり。左鎮は庄の略中央に位置し、庄役場の所在地にして、公學校その他の施設を有し、その東南なる岡子林及び西北なる菜寮と共に庄下の要地をなす。庄内は交通の便良好ならざるも新化郡の中心地たる新化街との間に乗合自動車の運行あり。本庄の地は開拓の歴史古く、和蘭人の占據當時は此地に聚居せし蕃人に對し教化の手及びし事あり、鄭氏占據當時にはこの地は新化里の一部にして、草山地方は其開屯の地たり、また左鎮は鄭氏が鎮營を置きし遺蹟なり。鄭氏亡び清領となるや、道光年間に新化里は東西南北の四里に分たれ、光緒十四年には改めて外新化南里の管轄下に入る。一般漢人のこの地に入りて開拓に從事せしは、康熙の末葉の事に屬すと云ふ。我領臺後は臺南縣の管内に入り、爾來其管轄は幾度か變改せられしも、外新化南里の名稱は襲用されたり。而して大正九年十月の全島的地方制度改正に當りて同堡下の石仔崎・菜寮・左鎮・内庄仔・山豹・崗仔林・草山の各庄を割きて、左鎮庄なる一庄を建つ。同時に上記七庄は左鎮庄下の七大字となり、石仔崎・内庄仔・崗仔林はそれぞれ石子崎・内庄子・岡子林と改められて今日に及ぶ。

サツ　佐津　山陰本線の驛（明治四十四年設置）。兵庫縣城崎郡日佐津村にあり。

サツ　佐都・薩都　【佐都・薩都】→佐都村（茨城縣）

【薩都河】　古川名。茨城縣常陸國久慈郡の東北隅小里村に發源し、中里・佐都・機初等諸村を經て久慈河に注ぐ、今の里川とす。常陸風土記・久慈郡「有小水、名薩都河。源起北山。流南回入久慈河」。

サツカ　刺東　→佐東村（靜岡縣）

サツカ　刺鹿　島根縣安濃郡にありし村。昭和十二年五月波根西村と共に久手町を置く。古くは郷名に呼び和名抄に安濃郡刺鹿郷と見ゆ。

サツカ　眼目　→南加積村（富山縣）

サツカリ　札苅　江差線の一驛（昭和五年設置）。北海道後島國上磯町にあり。

サツキ　五月山　大阪府摂津國豊能郡池田町の北部にある山。標高凡そ二百米。萬葉集に佐伯山と見ゆるも之に同じといふ。山中に佐伯部の祠神を祀る愛宕社、池田氏の居りし池田城址あり。池田山ともいふ。古來和歌の名所。古今・一二「五月山梢をたかみほととぎす鳴く音そらなる恋もするかな　貫之」

サツクル　唉來　北海道天塩國中川郡常盤村の大字。宗谷本線の唉來驛（大正元年設置）あり。

ザッショノクマ　雑喉隈　鹿兒島本線の一驛（明治二十二年設置）。福岡縣筑紫郡那珂村にあり。

サッタ　薩埵峠　靜岡縣庵原郡興津町大字興津と由比町大字西倉澤の間に峠つ薩埵山（薩埵嶺）を越ゆる峠。舊東海道これに懸り、難所として著はる。興より切通坂・女夫坂・高慈坂を經て峠上に達し、それより二軒茶屋・峠ヶ茶・二番坂・一番坂に至り西倉澤に出づ。山路の長さ約二粁に過ぎざるも箱根・鈴鹿に次ぐ難所たり。山頂は比較的平坦、海拔約九〇米、眺る眺望に富み、北東方に富士の壓峯を仰ぎ南西方に三保の松原、東方遙かに伊豆の群山を望む。名所圖會に「それ此嶺は、絶景にして、まづ寅の方には富士の高根白妙にして時しらぬ雪をあらはし、卯の方に愛鷹山、巳の方には伊豆の岬、西の方には三保の松原、みな鮮に見えわたりて、前には江海渺然として、長閑けき春の波間に鮑とる海士、柴舟漁夫、夏は磯邊の螢飛かふけしき、初鳥の渡る影は雲と水との中に消え、浦の苫屋の秋の夕ぐれにこゝろを傷し、いさゝ波にむれゐる小夜千鳥の聲すごく、氷と見ゆる冬の月影いと悲し云々」とあるは實に寫し得て妙、以てその様を想ふべし。大字興の邊、薩埵山の山脚海に没する所を蛤崎（一に磯崎）といふ。古くは峠上を通路とせしが中世海邊即ち蛤崎に道路を通じこれを通路とせり。然し海邊は岩石多く高浪打寄せ行路險惡、魂不知子不知と呼ばるる難所さへあり、風雨の時は通行不可能となり止むなく峠上を通行せりといふ。のち明暦元年朝鮮の信使來りし時に峠上の山道を改修しこれを通路とせしが

近年また海汀に沿うて往來せり。現今は海汀に新道を通ぜし爲めに往時の危險更になく、また東海道本線もこの新道に沿うて走り一部はトンネルを穿ちて通過す。薩埵の名は中世地藏薩埵の偈なる海中に捨てこれを山麓に安置せしより起りしと。萬葉・一二、「駿河なる薩埵山越え來ませ磯崎の許奴美の濱に浮立ち待たむ」とあるも此山を指させるものなりといふ。由來興津の地たるや延喜兵部省式に息津驛馬十疋と見ゆる驛夫、古く清見關の設けられし處にて、この峠は清見關の要害なせるもの。その險要の地たるを以て正平六年十二月、足利尊氏、弟直義と此處に戰ひて直義を破り、永祿十一年、武田・今川兩氏こゝに相戰ひ、翌十二年正月、北條氏康大兵を此處に進へ武田信玄の歸路を扼し遂かに今川氏眞を援けしかば、四月信玄は興津・久能等の陣を撤し興津川を渉りて歸國せりと。かく屢々戰場となりし此峠にも優にやさしき物語あり。文久元年十月公武合體の具體的實現のため孝明天皇の御妹和宮内親王、將軍家茂に御降嫁の際この峠の名（去つた）を忌みて中山道を選ばるといふ。藤葉毛・二下「それより薩埵峠を打越、たどり行ほどに、俄に大雨ふりいだしければ、半合羽打かつぎ、笠ふかくかたぶけて、名におふ田子の浦、清見が關の風景もふりうづみて見る方もなく」

サツチ　佐突　播磨國（兵庫縣）の古地名。綾日本後紀仁明天皇承和六年二月の條に「播磨國印南郡佐突驛家依舊建立」和名抄に印南郡佐突郷あり。刊本は調を岡くも高山寺本は左都知と調す。印南郡別所村に當り、大字に佐土の名を存す。

サツルル　札鶴　省線釧網線の一驛（昭和四年設置）。北海道北見國斜里郡小清水村にあり。

サツテ　幸手町　埼玉縣武藏國北葛飾郡の北部。東は利根川の分流權現堂川との間に權現堂川村を隔て、南は八代村・上高野村、西は樋田村、北は行幸村なり。面積四・一三平方粁。土地平坦にて田畑よく拓け農産の主要なるものに米・麥・繭あり、綾物を産し、また製糸行はる。古く奥州街道の一驛にして南は杉戸町、北は栗橋町への街道上にはバスの往來あり、また東は圦宿町、西は久喜町へもバスを通じ、また社線東武鐵道日光線の幸手驛（昭和四年開業）あり、交通上の一要點をなす。古への幸手驛は一に幸田宿とも云へるものの如し。中世はこの邊田宮庄と稱し一色氏の領地たり。正保三年の改定國に田宮町とあり、元祿十五年の改定國には幸手町と見ゆ。一色氏衰微の後は宮内大輔直朝の子此地を領せしが、後幕領となり明治維新に至る。（明治天皇幸手町行在所）指定史蹟。中村邸内にあり、明治十四年の東北御巡幸の際往還共御宿泊遊ばされ、その後明治二十九年陸軍大演習の際御宿泊遊ばされたる座敷にして記念碑を庭前に建つ。（常光院）天台宗。龍地山と號し、開基を中條判官常光とし開山を金海上人とす。初め下忍村にあり聖天院と號し文祿三年現地に移るといふ。舊寺領三十石を有し、本尊に釋迦牟尼佛を安す。（正願寺）新義眞言宗智山派。香水山と號す。創建年次不詳。中興開山を秀宥上人とす。本尊不動尊は弘法大師の作と傳ふ。（證景寺）眞宗本願寺派。法林山と號し、開山を願覺上人とす。本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作にして、寺寶に德川家康所持の香箱・親鸞上人自畫像等を藏す。（寶持寺）曹洞宗。金龍山と號し、開基は一色宮内卿公保、開山を季雲和尚（大永六年寂）とす。二世大安養康法印は一色治部大輔頼氏の三男たり。明應七年石堂義房父公保の菩提のため一寺を建て養康法印を住せしむ。養康法印即ち師を乞うて開山となし自らは二世となる。本尊釋迦如來を安す。

サツナイ　札内　【札内岳】北海道日高山脈中部の一峰。十勝支廳河西郡大正村に峙つ。標高一八九六米。南斜面より札内川、北東斜面より戸蔦別川の一支源流す。この美谷美の故に夙くより登山するもの多し。登山路は戸蔦別川を遡りて通ず。

【札内川】十勝川の一支。北海道中央南部の脊梁をなす日高山脈中部の札内岳南側に發して南流し、大正村に入り東流して十勝平野の南部に出で急に北方に流路を變ず。上資買南方にて戸蔦別川を併せ河幅を廣げ大いなる河谷低地を形成しつつ帯廣市の東部を貫き幕別村の北部にて數流に分岐し十勝川に合す。帯廣市は十勝・札内二川に挾まりたる三角地帯の冲積平原上に發展せるものなり。流程約九二粁。

【札内】根室本線の一驛（明治四十三年設置）。北海道十勝國中川郡幕別村にあり。

サツナン　薩南　【薩南】薩摩國南部の稱。

【薩南諸島】　鹿兒島縣に屬し、薩摩半島の南方に散布する島々の總稱。大隅諸島（種子島・屋久島等）・土噶喇諸島及び大島諸島（大島・喜界島・德ノ島・沖永良部島・與論島等）を包含す。行政上大隅諸島は熊毛郡、殘餘は大島郡を構成す。

【薩南中央鐵道】　私設鐵道。鹿兒島縣の南西部、薩摩半島中部をほゞ東西に走る。社線南薩鐵道の阿多驛（日置郡阿多村）より起り萬瀬川に沿ひて東南方に走り、川邊郡川邊町を經て知覽町知覽驛に通ず。全長一六・三粁。軌間一・〇六七米。省線と連帯運輸。

サッピナイ　札比内　省線札沼線の一驛（昭和十年設置）。北海道石狩國樺戸郡月形村にあり。

サツホ　茁浦面　朝鮮全羅北道扶安郡の東南端。北は保安面、東は井邑郡古阜面、南は高敞郡興德面に各相隣接し、

西は茁浦灣に臨む。面内は波狀平野を成し地味極めて肥沃にして郡内有數の農業地を成す。農產物には米・麥・大豆・苧麻・蔬菜等あり、水產物は石首魚を第一とし、鰕・烏賊・太刀魚・貝類等なり。道路は面邑茁浦を中心として、東方古阜に二等道路を通じ、北方扶安及び南方高敞には各三等道路を通じ何れも車馬の來往自由にして交通便なり。海上交通は茁浦を中心として北方群山、南方木浦に各汽船の便あり。茁浦は面の略中央に位置し茁浦灣頭にありて古阜平野を後背地とし海陸貨物の呑吐港として活況を呈す。茁浦は往昔蘆茅粗生の海濱なりしが二百餘年前羅州郡守金弘遠、木浦海岸東部より西部に至る一帶の地を埋築し扶安邑内より古阜に至る道路を改修せしより漸次一聚落を形成し、其後百餘年を經て古阜郡守高某東部海岸に防波堤を築き井邑・興德地方に至る交通を便にせしより愈々發達し、其後漸次發展して明治卅九年内地人初めて移住せしより頓に殷盛を加ふるに至れり。邑内には面事務所・警察署・銀行・金融組合・郵便局・小學校及び陰曆二・七の日に開く市場ありて日用雜貨・穀類・薪炭・海產物・生牛等の取引活潑に行はる。其他聚落の主なるものに牛浦里・社洞里・新里・鄕山里・大東里・下南里等あり。

サッポロ　札幌

【札幌郡】　北海道石狩國九郡の一。石狩支廳の管下にて石狩國の西南隅を占む。支笏湖の西北、小漁嶽（一二三五米）・漁嶽（一三一八米）より東北石狩川下流に及ぶ南北約四〇粁、東西約三五粁、面積一四〇二平方粁を有する大郡なり。東は空知・夕張二郡に、南は千歲・有珠二郡に、西は虻田郡・余市郡及び小樽郡に、北は石狩郡に隣り、中央部に札幌市を圍み、豐平・江別・圓山の三町と篠路・札幌・琴似・白石・廣島・手稻の六村を含む。地勢は略ぼ東北部・西南部に二分され、東北部は中央低地帶の石狩平野の西部にして、石狩川は南より來る支流豐平川・厚別川・江別川等を合せ、蛇行しつつ西方に流る。諸川の沖積せる平野にて、豐平川下流の右岸には大谷地原野・厚別原野等の如き低濕なる沼澤地を存す。また西南部は那須火山脈に屬する空沼嶽（一二五一米）・札幌嶽（一二九四米）・烏帽子嶽（一一一〇米）・天狗嶽（一一四五米）等數多の火山聳立する高峻なる山地をなす。白井川・小樽内川・薄別川等の諸川は西部及び南部の郡境の山地より發し、朝日山・夕日山・小天狗嶽聯立の間にて相合して豐平川となり谷を刻んで東北流し、石狩川に注ぐ。平野に落つる所に大いなる扇狀地を展げ、札幌市此處に發展す。石狩平野は耕地よく拓け米・麥・馬鈴薯・亞麻の產あり。牛・馬・豚の牧場亦多し。山地には温泉多く圓山温泉・定山溪温泉殊に有名なり。省線函館本線は平野の南端を東西に通じ、社線北海道鐵道は札幌市より東部の丘陵地を斜に東南に走り、定山溪鐵道は札幌市より豐平川の谷に通じ、縣道また札幌市を中心に四方に通じていづれもバスの往來あり交通便利なり。

【札幌市】　北海道の首都。石狩國の西南部を占むる札幌郡の中央部に位し、東北に札幌村、東南に白石村、西南に圓山町、西北に琴似村を繞らし、市域面積二四・一七方粁。札幌郡の西南部山地に發する豐平川諸水が定山溪に於て會流して成る豐平川東北に流れて石狩平野の西南部に一大扇狀地をつくり、市はその上に發達せるもの。西南には新第三紀層を貫きて迸出せし輝石安山岩類より成る手稻山・藻岩山（五三一米）の連山あり、北には茫漠たる平原を控へ、東に月寒の浮石層の丘陵連る。この丘陵を洗ひて堆積せし扇狀地は新舊の二區に分たる。豐平川の右岸及び苗穗（なへぼ）の一部は舊沖積扇狀地に當り左岸よりも一段高く概ね洪水の害を免れ、從つてこの方面には堤防を必要とせず。中の島遊覽地の東側に高さ一〇米位の斷崖屏風の如く立つ。豐平川の左岸は右岸の白石・豐平の扇狀地よりも新しく且つ一段低し。創成川は豐平川より分れ東部を北流す。この川は古く幕末時代移住民の飲料に充つるため開鑿されしに始り、市の南にて豐平川水門を出で鴨々川となり南六條に至り創成川と呼び茨戶にて石狩川に通ず。初は運輸の便に資すと、その後幾多の改修を行ひ今日に至りしも今は舟の運航不可能となり、消防用水、下流にては下水、一部は灌漑用水となる。氣溫は平均攝氏七・二度、函館の八・六度、室蘭の八・三度、旭川の五・九度、根室の五・七度等に對し北海道にても中位にあり、本市の月別氣溫は、一月は零下六度にて最も寒く、次いで二月零下四・三度、八月は二〇・五度にて最も暑く、次いで七月一九度、九月は一七・五度。春季開花の期は五月十日頃。初霜は十月中旬、終霜五月中旬なり。雪は十一月初旬に始り五月初旬に終る。雨量は年平均一〇三六粍、一年を通じ八—十月に多く四月頃最も少く、天氣日數は快晴二二日、曇天一五六日、降雨一二〇日、降雪一一八日。本市は商工地として發達せし關係上農業は少く戶數僅に五五九戶に過ぎず、農產は普通作物を主とし產額は玉葱第一、馬鈴薯・蔬菜これに次ぎ、また園藝作物に苹果・櫻桃・葡萄・梨等あり、玉葱と苹果は品質優良を以て知られ海外にも相當輸出さる。

農家戶數

種別	戶數
自作	一三八
自作兼小作	四三
小作	三七八
計	五五九

農產物

種別	作付反別（町）	生產價額（圓）
米	五四	二一四〇八
麥類	七五	九二八九
雜穀類	七二	二二三六〇
蔬菜類	二二七	一六〇四三二
果實	六八	一五六七四
其他	一八〇	四七八〇八
計	六四五	二七五七七〇

畜產物の主なるものに牛・馬・豚等、特に乳製品は有名にて市内二箇所の煉乳工場及び製酪聯合會中央工場は市内及び附近村落より牛乳を蒐め煉乳と牛酪を生產し、その製品は良質を以て知られ內地は勿論海外まで名聲を博す。本市の創始に際し諸種の工業を官營しのち民間に拂下げ爾來官民協力して斯業の發達に努力せし結果工業都市の觀あり。元來扇狀地の特相としてこの地は地下水豐富にて、その伏流は植物園内に或は三井倶樂部庭園に、苗穗附近に清冽なる泉湧出し、市內到る處掘鑿數米にて井水を自由に汲上ぐる事を得。かく水の潤澤と相俟ちこの地は動力・原料の供給容易なりし爲、開拓使時代より芽生えし諸種の工業は盛大となれり。昭和十一年の工產額は約三〇〇〇萬圓に上り、主要なるものに亞麻製品並に織物（工場數三。價額約四六八萬圓）、麥酒・清酒・味噌・醬油（一一二。五三八）、乳製品雜貨（六。二七〇）、印刷製本（三四。二三〇）、精穀製粉（六。二二〇）、製材（一八。二〇七）、機械器具（六二。一五六）、製菓（一三。一二八）、ゴム製品（五。一〇一）、製綱（四。一〇〇）等あり。（上の數字は工場數、下の數字は價格萬圓）これ等生產物の地理的因子を若干考察すれば亞麻製品の原料亞麻、動力の石炭は道內各地に需め、販路は東京・大阪・橫濱等なり、麥酒の原料大麥、動力石炭は道內各地より集り、販路は主として道內各地とす。乳製品の原料砂糖は帶廣、清水のビートに、牛乳は近郊より集め石炭は石狩地方より來り、販路は東京・大阪・神戶・臺灣・朝鮮等なり。かく資源は道內及び四近より得易く、氣候また寒冷（道內にては比較的好氣候）、交通の便よく、且つ人工と相俟ち現在の發達を見る。省線函館本線は北部をほぼ東西に通じ、桑園驛（大正十三年設置）・札幌驛（明治十三年設置）・苗穗驛（明治四十三年設置）を置き、桑園驛よりは雨龍郡北龍村に至る省線札沼線を分ち、苗穗驛にて社線北海道鐵道に連絡す。函館本線白石驛（白石村）より定山溪温泉に至る社線定山溪鐵道また橫ぎり豐平驛（大正七年設置）を置く。市內交通機關としては、大正七年市營電車開通して市營バスと共に市民の便宜を計り、更に札樽線省營バス・定山溪バス・觀光バス等ありて四近との自動車網は道路の改修と相俟ち益々その便を加ふ。然し冬季殊に降雪の著しき時は交通機關の經營は困難となり人力車・馬車は形を變へ、自動車の數は減退するも電車のみは絕えず排雪車を運轉し烈しき吹雪の日を除きては休まず。昭和十一年各驛の統計を見れば札幌驛の乘客一八八萬・降客一八四萬・貨物の發送一一萬噸・到着三九萬噸、苗穗驛乘一九萬・降二一萬、發一二萬噸・着二六萬噸、桑園驛乘一二萬・降一二萬・發二千噸・着九千噸等にして、之により交通物貨の集散狀態の大要を知る。本市東西の區劃の規準は創成川にして、この川より東に一丁毎に東何丁と數へ十五丁目に至り、西も同樣に二十一丁目に至る。これと直交して東西に中央部を走る大通あり火防線として設けられ幅約一〇〇米、公園風の遊園地帶をなし、更に之を基準として一〇〇米おきに南へ一條・二條、北へ何條と稱へ街衢は宛ら碁盤の目の如く街路整然、アメリカ式の廣き道路、北一條通・停車場通のアカシヤ並木は人口に膾炙す。幅三六・三六米の停車場通・南一條通は市中最も繁華なる地域をなす。一般に大通を界として南部は商賈軒を並べ北部には官衙・學校・會社等散在す。この地は北海道開拓の始めより政治・交通の中心たり、また學術技藝の淵叢にしていま道廳を初め石狩支廳・控訴院・地方區裁判所・聯隊區司令部・警察署・稅務監督局・鑛山監督局・鐵道局・遞信局・測候所等の諸官衙及び北海道帝國大學・廳立師範學校・第一第二中學校・高等女學校・工業學校・市立中等校三・私立中等校等數多の學校あり、又諸種の社會的施設も完備に近づきつつあり、眞に北海道の行政・文化の中心地たり。市名はアイヌ語のサトポロペツ（乾きし大きな川の意）より起ると。この地の古き沿革は詳かならざるも附近より先住民族の遺跡竪穴の發見されしもの總數八六〇の多きに及び早くより人のこの地に居を定めしを知る。往昔安政・萬延の頃は鬱蒼たる密林の中に數戶の土人と二戶の和人が居住せしことを傳へ、この附近に日本民族の初て聚落を作りしは安政四年といふ。當時豐平川畔にはアイヌ小屋點在して狩獵漁業を生業とし、日本海と太平洋方面よりの出稼漁夫は今の豐平橋の地點を渡場とせり。安政四年開通せし札幌越新道の渡し守として石狩調役の荒井金助が從者に命じ農耕を營ましめしが和人定住の初と云ふ。明治二年開拓使判官島義勇が錢函（後志支廳小樽郡朝里村）よりこの地に入り、今の北一條西一丁目豐平館附近の地をトして官廳を建て、同四年市街地を區劃して南を商業地に北を官衙地として現在市區の基礎を築く。次いで函館より商人を募集して二十餘戶を移し總戶數二百餘となる。翌五年政廳を初め市街・道路・河川の築造等に盡し、同十三年小樽市手宮町との間に鐵道開通するに及び爾來移民遞

年増加し、同十五年には空知郡三笠山村大字幌内村への鐵道開通し、同十九年に北海道廳を置き、同三十二年に札幌區となり、同四十三年四月行政區域を變更して北の一部を琴似村に割き、豐平・白石・札幌・藻岩諸村の一部分を編入し、大正十一年八月市制施行、同十二年都市計畫法の適用を受け、昭和九年四月札幌村の一部を併合し將來人口四十萬を標準とし東北部を工業地帶、中央部以南を商業地帶、西部を住宅地帶として諸般の計畫を進む。戸口は近年增加を示し最近十箇年人口平均增加率は約千分の二五・一九に當る。明治四十三年區制調査當時は世帯數一四四六四、人口五六三四九人、昭和十一年十月一日現在にて世帯數四一〇六五、人口二〇一三六人を算し異常なる增加を示す。本市はまた本道の行政・教育・經濟等の中心地をなす外、市内には豐平館・時計臺・清華亭・北海道帝國大學附屬植物園・同博物館等を初め、大通は花卉樹木を配して道孟地に充て本道開發の功勞者たる黒田・永山兩將軍の銅像及び開拓記念碑等建てられ、市の南部には中島公園あり、西郊の藻岩山に接く丘陵地はスキーを以て知られ、その山麓に圓山公園、札幌・藻岩・圓山の諸温泉あり、北海道總鎮守なる官幣大社札幌神社また圓山公園地にあり、六月十五日より三日間は神輿市中を巡幸し頗る賑ふ。なほ市内のグラーク記念會堂・獨立キリスト教會も他に類例の少きものとして知らる。〔明治天皇札幌行在所〕指定史蹟。大通西一丁目にあり。明治十四年山形・秋田兩縣及び北海道御巡幸の際行在所となし給ひし所。階上向つて右隅の御座所を初め當時御使用の數室はその儘に保存せらる。館は開拓使御雇の米人の設計に成り明治十三年起工、翌年八月竣工せし二層建木造の洋館にて正面半圓形の玄關あり、石階を設け、地下は石室をなす。〔明治天皇札幌御小休所〕指定史蹟。北七條にあり。明治十四年北海道御巡幸の際、九月一日僧樂園公園内に設けられし清華亭に行幸し給ひ、同八年樺太より移住せし樺太舊土人の舞踊を御覽ぜらる。僧樂園は明治四年岩村判官が設けし所なり。〔北海道帝國大學〕北九條西六丁目にあり。大正七年に東北帝國大學札幌農科大學を獨立せしめて開設せられたるものなるが、札幌農科大學はその前身を札幌農學校と稱しその起原は極めて古し。明治五年東京芝增上寺内に開拓使假學校設けられ、同七年には農學專門科設けられしが、翌八年假學校を札幌學校と稱ぜり。札幌學校はその後その規模を改良し、同九年に札幌農學校と改稱、修業年限を四箇年とし、別に修業年限三箇年の講習科を創設して本科卒業者には農學士の學位を授與せり。明治十九年北海道廳の所屬となり、ついで同二十八年には文部省の直轄となり、同三十六年の實業學校令の改正によりて實業專門學校の取扱を受くるに至りしが、同四十年東北帝國大學の設けらるるに及び、その分科として東北帝國大學農科大學となり、ついで大正七年北海道帝國大學農科大學となりしものなり。大正八年の帝國大學令の公布によりて農科大學は農學部となり、更に醫學部が置かれ、大正十三年には工學部、また昭和五年には理學部增設さる。なほ同大學には獸科が特設され、農學實科・林學實科・土木專門部・水産專門部（各三箇年）附屬す。〔北大附屬植物園〕北二條西八丁目市の中央部にあり。約三六〇米四方の廣大なる地域を占め、原生林及び世界各地より移植せし約六千種の植物を有し、また廣場・花園・温室・博物館等ありて幽邃閑雅なる一仙境をなす。四月—十一月の間一般の觀覽を許さる。なほ構内に竪穴址あり。〔北大農學部附屬博物館〕附屬植物園構内にあり。木造二階建洋館にて北海道に關する天産物及び人類學に關する內外諸國の標本を蒐集陳列し、一般公衆の觀覽に供す。天産物にてはブラキストンの採集品を含む七千點に近き鳥類標本、開拓當時移民を戰慄せしめし獺・大狼等の剝製標本あり、人類學の標本は主としてアイヌ土俗品にて服飾、日用品の外に丸木舟・捕鳥器・墓標等諸般に渉り各種のもの蒐集せられ、發掘品には琴似村發寒古墳・千歳郡恵庭村古墳・札幌郡江別町竪穴等の出土品陳列さる。〔時計臺〕北一條西二丁目にあり。舊札幌農學校の演武場、露國式建築に成る。錆樓は明治十四年改築して自鳴鐘を裝置し、階下はいま市教育會の事業として圖書館を經營す。〔中島公園〕市の南部、東は豐平川に、西南は創成川に沿ふ中島にあり。面積五八ヘクタール餘。老樹蒼鬱蒼寥寂摩し池水清澄綠藻を涵し、常に數十の短艇を浮べ、池畔庶亭巷を連ね、夏季納凉に適す。後方藻岩の翠巒林間に整え、野球・庭球・水泳・スケート等の設備あり、拓植館・招魂社・大迫將軍の銅像等あり。拓植館はルネッサンス式木骨の二階建にして北海道開拓に關する模型・圖表その他參考品を蒐集し一般の觀覽に供す。〔札幌市附近のスキー場〕市の郊外三角山・宮ノ森・圓山等を中心とす。我國スキー競技の殿堂とも云ふべく、地形・雪質・設備ともに最も優秀にして全日本的大會は殆ねこの地を會場として行はれ、近く第十二回世界オリムピック冬季競技もこの附近にて行はる。大倉山のジャムプ臺は我國有數の優秀なる設備にて七五米以上の飛躍可能にして我國最高記錄もこの臺にて作らる。またこれに連る手稻山・奥手稻山に亙り五〇粁のコース等も自由に出來、競技場として諸種の條件を具備す。この附近は札幌・小樽等の人々にとりスキーツアーの理想郷として十餘のヒュッテ設備され、山スキーの興味を涵養するを得べく、白樺の美林、天を摩する針葉樹林の樹木の美を味ひ、小屋より小屋を廻る幾多のスキーツアーを樂ましむるも大なる特色となす。〔三吉神社〕南一條西八丁目に鎮座。郷社。主祭神、大己貴命・少彦名神。相殿神、藤原三吉・琴平宮・菅原宮。明治十一年五月の創建にて、羽後國南秋田郡太平山鎮座の三吉大神（藤原三吉の本社）の分靈を此地に奉齋せるに創むと云ふ。傳によれば、配神なる藤原三吉は天性仁慈にして人民の崇敬篤く、舊秋田藩も從ひて之を崇敬社に列すと云ふ。惜しむらくは藤原三吉の事蹟並にその分靈を當地に遷せし緣由を詳かにせず。縣内屈一の繁榮社なり。例祭、五月十五日。〔札幌別院〕南七條西八丁目にあり。眞宗本願寺派。北海道開教最初の根據地。開基は大谷派法主藤知にて、明治三年新法主たる子現如所謂本願寺百姓三十戸並に下間頼世等を率ゐて渡道し假堂を建立せしに始る。翌四年北海道長官は「勅賜本願寺管刹」の標柱を建てて此事を策勵す。同二十五年再建、愈々輪奐の美を整へ、佛教各宗に先んじて開教の基を開けり。〔札幌別院〕南四條西五丁目にあり。眞宗大谷派。明治十二年の創建。初め明治十年本山は西原圓照を派遣して當地に弘教せしめ小樽別院出張所を設けしが、翌十一年現地に假本堂を建築してこれに移り、翌十二年公許を得て初めて別院とす。〔新善光寺〕南六條西一丁目にあり。浄土宗。北條山寂度院と號し末上寺末たり。明治十七年大谷玄超の開基に係るも、今の如く諸堂完備せしは同三十六年のことなり。堂宇の構造雄大を極む。〔中央寺〕南六條西二丁目にあり。曹洞宗。實相山と號し永平寺直末なり。明治七年秋本宗管長代理西有の草創。初め中教院と號せしを現稱に改め同十五年寺號公稱の許可を得。現に末寺六箇寺を統ふ。〔八窓庵（舊今那院忘筌）〕北西條西十二丁目持田謹也邸内にあり。二疊臺目茶室・草庵・屋根切妻・銅板葺。江戸時代初期孟賀藤坂田郡長濱町八幡神社の坊なりし俊藏院境内に小堀遠州の好により建てられしものなりと云ふ。其後同神社學頭舍那院境内に移され大正六、七年頃持田謹也所有となり現地に移築されたり。由緒ある二疊臺目茶室にして標子窓三・下地窓四・街上窓一、合計八箇の窓を開き、席名之に基く。妻に「忘筌大有宗市老人」と誌せる扁額を懸く。同じく遠州好に成る大德寺孤篷庵忘筌とは異なりて侘の風韻に富める草庵なり。補修の跡あるも窓の布置、内部の意匠、材料等此種形式に現れたる作者の好尚を徴するに遺憾なり。現に國寶たり。

【札幌村】 北海道石狩國札幌郡の北部。石狩支廳の管下にして札幌市の東北に接し、石狩平野の南部を占む。北は篠路村を隔てて石狩川に到り、東北は江別町、東南は白石村、西は琴似村と界す。地勢單調にして全村低平なる神積平原なり。東南界を豐平川、西境を琴似川、中部を發成川いづれも北流し耕地・牧野を拓く。地勢上全く札幌市の接續地たると同じく人文上にも獨特なるものなし。米・蕎豆・麥・玉蜀黍・馬鈴薯・牛馬等を産す。もと札幌領と云ひ上下に分れ、松前藩の時、南條目谷・兩氏の給地たり。慶應二年、大友某農夫を率ゐて移住し、次いで薩長列藩より二十三戸の移民あり、漸く人口增加し、明治三十五年二級町村制、大正十三年四月より一級町村制を布き以て今日に至る。

【札幌郡】 北海道札幌市の南西約二一粁石狩支廳札幌郡豐平町に峙つ一峯。標高一二九四米。豐平川上流の形勝地たる定山渓の南東方奥地に峙ち、山容豪壯念峻なり。南西斜面は定山渓御料地ななし、又南西麓に大釜澗の渓流美あり。南方に狭薄山（一二九六米）峙つ。近時定山渓を中心とするスキーツアーの一峯として知られ、登高者尠からず。

サツマ

【薩摩國】 九州島の西南端にある西海道の一國。北方大部は川内川の流域にして南部は薩摩半島となり、大隅半島と共に鹿兒島灣を抱く。西方海上に在る甑島列島・長島等なも含む。此國は上古日向・大隅を併せ日向國といひ、天孫降臨の笠狭崎の地はその西海岸と傳ふ。神武天皇御東征ののち隼人種族跋扈せしより隼人國とも稱し、文武天皇の頃まで筑紫七國として薩摩國の名稱なし。されど薩摩の名ばそれより以前孝德天皇白雉四年遣唐大使高田根麻呂入唐の途中薩麻之曲竹島之門に於て難船溺死せる記事あり。文武天皇二年に至り薩摩の多禰と記せることあり。按ずるに薩摩の稱は古くより行はれしならん。然し國司を任命せしは元明天皇和銅初年なるべく、國府は高城郡（今の薩摩郡の内）高城村大字麓の屋形原附近に置かる。文治三年源頼朝天下の權を握るや島津忠久をしてこの國の守護となし大隅・日向を併せ治めしめ、忠久は出水郡木牟禮（いま三笠村の内）に居る。忠久五世の孫貞久建武中興の時官軍に屬し小武・大友と共に九州の警護役となる。其子氏久の時薩兒島郡東福寺城に移る。足利尊氏坂き九州に走るや之に屬して功あり、爾後子孫相嗣ぎしも委靡振はず。戰國の頃に至り島津貴久立つに及びて勢を復し、子義久の時伊東氏を追ひ日向を略し大友・龍造寺氏を破り覇を九州に稱へしが、天正十五年豐臣秀吉の怒に征せられ之に降る。秀吉義久の侵地を收め薩摩・大隅二國及び日向の一部を子義弘に與ふ。關ヶ原の役に義弘西軍に與したりしが、義久德川氏を憚り義弘を圍して謝を謝し、仍て義弘の子家久舊領を全くすることを得。家久の時鶴丸城に移り、子孫相次ぎ明治維新に及ぶ。維新の初め、薩摩には伊佐・甑島・高城・薩摩・鄕山・鹿兒島・揖宿・頴娃・給黎・川邊・日置・

阿多・出水の十三郡ありしが、二十年に伊佐を南北二郡とし、三十年四月には北伊佐郡と大隅の麑刈郡とを合せて伊佐郡とし、南伊佐・甑島・高城・薩摩の四郡を合して薩摩郡とし、鰐山・鹿兒島二郡と大隅の北大隅郡とを併せて鹿兒島郡とし、揖宿・頴娃二郡と給黎郡の一部とを以て揖宿郡とし、給黎郡の一部と川邊郡の一部とを以て川邊郡を立て、日置・阿多二郡を以て日置郡とし、これに出水郡と明治二十二年に市制を布ける鹿兒島市とを以て一市七郡となし、鹿兒島縣の管轄に屬せしむ。

【薩摩郡】 鹿兒島縣一市十二郡の一。薩摩國に屬し、縣の西北部に位す。北は出水郡、東は伊佐郡・姶良郡(大隅國)、南は日置郡に隣り、西は日本海に面す。郡の屬島に西方海上に横はる甑島あり。面積九八六平方粁餘、肝屬・大島・熊毛郡に次ぎ縣の全面積の一〇・八%餘に當る。北・東・南の三面は山岳剛繞して自ら一境をなす。即ち北境中部に紫尾山(上宮山、一〇六七米)聳え、東境には國見岳(六四九米)・烏帽子岳(七〇三米)・千貫岳(四一八米)・鉈黒岳(四七〇米)、南界上には八重山(六七七米)・西岳(五一六米)・稱財天山(五一九米)等の安山岩より成る諸山峯連亘す。川内川東北隅伊佐郡より來り中部を西南に流れ、北・東・南の山地より下る諸水を併せて海に注ぐ。その流域には所々に小平地間け郡の主要生産地をなし、川内と總稱せらる。縣下第一の農産地にして、米・麥を第一に、その他大豆・粟・蕎麥・甘藷・蜜柑・煙草等を產し、養蠶また行はる。山地には木材・薪炭、沿岸には鹽・鰯等の水產あり。工產に生糸・疊表・燒酎等を出す。肥後街道は日置郡より來り郡の南西部なる川内町・水引村を經て田水郡の西南部に入り、また縣道には川内町より東して穗脇川の上流を傳ひ入來越を經て日置郡東北部に出づるもの、川内川に沿ひて伊佐郡に至るもの、郡の中央部宮之城町より岐れて北に向ひ紫尾山の東麓を過ぎて田水郡に入るもの等あり。また省線鹿兒島本線は肥後街道に沿ひ、宮之城線は川内驛より分岐して東北に向ひ伊佐郡大口町に延びて山野線に連絡す。日本後紀延曆二十三年の條に薩摩郡名見え、和名抄は避石・幡利・日置の三郷を置く。中世以降郡界甚る錯綜し、或は本郡の郡等院、牛尾院の地を合せて伊佐郡と私稱し以て明治に至りしが、同二十年これを南伊佐・北伊佐の二郡に分ち、のち明治三十年、南伊佐・高城・甑島の三郡と合して更に薩摩郡を建つ。

【薩摩半島】 九州島南西部の半島。薩摩國の南半部にて南北約五五粁、東西は中部にて約二〇粁、南部の最廣部にて六〇粁餘あり。東面は大隅半島に對し、其間に陷没によりて成れる鹿兒島灣を挾み、北部は山地海岸に急斜するも南半は平直にして出入殆んどなし。半島の北部には八重山・冠岳・稱財天山等の火山群東西に並びて川内川流域の南壁をなし、それより南方の大部分は白堊紀層の薩南山地にて萬瀬川その他の西流する河川により開析されて低山性山地をなし、西岸は弓形に彎入して謂ゆる吹上濱の砂濱南北に長く延ぶ。南端部にもまた火山群あり。東部には山容の秀麗を以て聞ゆる開聞岳を盟主とする開聞火山群あり、池田湖・鰻池・山川港のカルデラありて鹿兒島灣口を扼し、中部には下山岳・國見ヶ岳、西部には磯間山等となる。また西南端には笠砂半島突出して西北部に野間岳聳え、天孫降臨在住の請ノ津・枕崎は東南端の山川港と共に良泊たり。半島の東側は鹿兒島・揖宿の二郡、西面は日置・川邊の二郡の地を含む。

【薩摩山】 冠岳(鹿兒島縣)の別名。

【薩摩富士】 開聞岳(鹿兒島縣)の別名。

【薩摩灘】 薩摩國の南方の海の汎稱。向元來、平家物語・卷四に「さつまがたよりはるばると浪路をわたりて行く道なれば」などあるも是は大隅方に對して薩摩方と稱せしものにして、これを海の湯にいひかけたるは文章上のことにて、實際薩摩灘と稱する灘は存在せず。

【薩摩瀬戸】 薩摩迫戸に作る。鹿兒島縣(薩摩國)出水郡三笠村と長島との海峽。隼人迫戸とも黑瀬戸ともいふ。萬葉・三「隼人の薩摩の迫門を雲居なす遠くも吾は今日見つるかも 長田王」

【薩摩今和泉】 揖宿線の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣揖宿郡今和泉村にあり。

【薩摩大川】 鹿兒島本線の一驛(昭和十一年設置)。鹿兒島縣出水郡阿久根町にあり。

【薩摩大口】 山野東線の一驛(大正十年設置)。鹿兒島縣伊佐郡大口町にあり。

【薩摩求名】 宮之城線の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣薩摩郡求名村にあり。

【薩摩白濱】 宮之城線の一驛(昭和十一年設置)。鹿兒島縣薩摩郡下東郷村白濱にあり。

【薩摩鶴田】 宮之城線の一驛(昭和九年設置)。鹿兒島縣薩摩郡鶴田村にあり。

【薩摩永野】 宮之城線の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣薩摩郡永野村にあり。

【薩摩布計】 山野東線の一驛(昭和十年設置)。鹿兒島縣伊佐郡山野村にあり。

【薩摩山崎】 宮之城線の一驛(大正十五年設置)。鹿兒島縣薩摩郡山崎村にあり。

【薩摩湯田】 宮之城線の一驛(昭和九年設置)。鹿兒島縣薩摩郡宮之城町大字湯田にあり。

サテ　佐堤埼　萬葉集にある地名。志摩國(三重縣)志摩郡鳥羽港(鳥羽町)の東なる坂手島の岬ならん。萬葉・四「阿胡の山五百重隱せる佐堤の埼小網延へし子の夢にし見ゆる　市原王」

サト　佐都

【佐都(郡)】 常陸國(茨城縣)の舊郡名。中世私に佐都郡と稱せしもの。郡名は和名抄の久慈郡佐都郷に因りしものなるべし。その境域は里川(佐都川)の流域及び久慈川の南岸にも及べるものの如し。のち里川を境として佐都東郡・佐都西郡と稱せしも、文祿年中郡號を停めて大體久慈郡に入る。

【佐都村】 茨城縣常陸國久慈郡の東南部。太田町の北方にあり。同町との間に磐田村・機初村を挾む。北は河内村、東は多賀郡鮎川・國分の二村と隣りす。阿武隈山地南部の多賀山脈とその西を南に連る山地との間の谷にて、その裾合を久慈川の支流里川南流し東西兩郡は山地にて森林廣きも、里川の流域には小低地ありて畑地・田地少からず、米・小麥・大麥等の農產あり。水戸より太田を經て北上する羅倉街道この谷を走りバスの便あり。此地は古く和名抄、久慈郡佐都郷、また常陸風土記の薩都里等と見ゆる地なり。中世、秀郷流氏族佐都氏の居りし所。大宇茅根は弘安大田文に「佐都東、千根二町」とある地にして、藤原氏小野崎の一族ここに居り茅根氏を稱す。大宇里野宮に郷社薩都神社鎮座、立強男命を祀る、例祭五月十日。常陸風土記・久慈郡、自此(長土佐)、愛兒上命發兵誅滅、時能令殺、稱「薩所言、因名佐都」。

サト　佐戸　陸奥國(岩代、福島縣)の古地名。和名抄に耶麻郡佐戸郷あり、郡の西偏にありて狹處の窟かといふ。其地いま詳かならざるも、河沼郡野澤町の邊に當るか。

サト　沙都島　書紀繼體紀に見ゆる朝鮮の古地名。同天皇の九年、百濟使者文貴將軍、歸國に臨みこの島に至る。其地は任那沿岸の一島なるべけれども、今の何島を指せるか審かならず。

サト　里

【里(村)】 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、他七村と共に廢し、安城町を置く。

【里村】 鹿兒島縣薩摩國薩摩郡上甑島の東北部。西南は上甑村に界し、北・東・南の三面は海に臨む。なほ東北海上には双子島・近島・野島等の幾多の小島嶼あり。西境に遠目木山(四二三米)聳え、その山脚は東及び南に延びて直に海波に洗はれて海崖をなし、北方に遠見山(二五一米)ありて一島の如き觀を呈し、地狹部なほ以て本島と接續す。海岸は小突出、小灣入に富む。半農半漁の村にて農產物に米・麥・蕭あり、漁獲も少からず。薪炭をも出す。北部に上甑村に通ずる街道あり。阿久根町(出水郡)・串木野町(日置郡)に定期航路通ず。もと甑島郡に屬せしも、明治二十二年薩摩郡に入る。村内に大伏中碑狐國・松木少將宗隆二卿の墓あり。この二卿は慶長十四年に刑に處せられ薩州破黃島へ流謫仰付られ、即ち本島に移され遂に配所にて歿去す。また村内に樒福自生し、いま樒福自生北限地帶として指定天然記念物なり。

サド　佐渡

【佐渡島】 新潟市を距る西方約四八粁の日本海中に横はる島。一に佐州。古くは佐渡國と云ひ北陸道七箇國の一にして、いまは佐渡國(島)一圓を以て佐渡郡とし新潟縣に屬し、佐渡支廳の管下とす。

〔地理〕 周囲約二一〇粁、面積八五七方粁餘、本邦諸島中の十二位を占め、沖縄島より小さく奄美大島より大なり。地體構造上能登半島に續くものにて、北に大佐渡南は小佐渡、中の國中米どころ」の俚謠に示さるる如く、西南より東北に延亘する南北二條の地塁的山地と、その中間に位する國中平野の低地帶より成り、島形ほぼ工字型を呈す。古生層と花崗岩を基盤とし、第三紀層とこれを貫く第三紀安山岩等その上を被覆す。大佐渡には妙見山(一〇四二米)・金北山(一一七三米)・山毛欅ヶ平山(九四七米)・立ヶ平山(五四五米)等の山塁は南北に連り北端の弾崎に至りて海に沒し、小佐渡はこれに比して高度小さく經塚山(六三六米)・大地山(六四六米)・大隅山(六〇四米)等ありて東北端の姫崎に盡く。海岸には海蝕段丘よく發達し、洪積期に於いて地盤が屢々間歇的隆起なせるを示すは本島の自然登録の一特色とす。國中平野の兩側に洪積層の臺地、その中間に沖積地あり「水田よく拓け、中の國中米どころ」なる實に物語る。即ち農業よく行はれて米を主產物とし、また麥・大豆・甘藷・馬鈴薯・野菜等を出し、畜產に大佐渡一帶の放牧による牛の產多し。水產は古來本島の重要產業にして、鰯・干鰯・鰤海鼠・鰒等を主產物とせしが、近年は發動機船の便ありて鮮魚のまゝ、新潟市その他に輸送せらるるものも多くなれり。林產に木炭その他あり。鑛產は相川鑛山の金銀にて慶長六年以來徳川幕府の金山として多量の產額あり。實に佐渡の金山相川は徳川三百年の財政を背負へる金產地にて、金があるとて高慢振るな、佐渡ぢやみゝずが養にひる」と歌はれし程の豪勢さにて、この金塊は遠後街道を大袈裟な警護の侍に守られて、はるゝ〳〵江戸表へと運ばれしものなり。明治以後次第に衰へしが、最近金價の暴騰は全國產金の奬勵となり再び盛大となれり。「荒海や佐渡に横たふ天の川」の芭蕉の句や、「來いというたとて行かりよか佐渡へ……」の唄の文句より想像すれば、佐渡は荒れ狂ふ日本海の波か四十九里の彼方に浮ぶ孤島の如く思はれ、容易に行き得ぬところと恐れらるるが、それは能登半島より北海道辺ひの帆船にて小木の港へ渡りし昔のこと、今は新潟より寅港(兩津町)へ佐渡汽船會社の定期航路ひらけ、僅に二時間四

十五分にておけさの國佐渡へ渡ることを得、殊に春より夏にかけては海上は鏡の如く波靜かなり。また同會社の小木・赤泊・寺泊間、小木・直江津間の定期帆船あり、汽船の交通不便ならず、島内道路には自動車の往來繁く親光の便よろし。

〔沿革〕佐渡の名が始めて國史に現はれしは古事記にて、伊弉諾・伊弉冉の二尊が大八洲國を創造され時その第七番目に産れし國なりといひ、佐度島と見ゆ。これを考古學上より見るに、石器時代民族の棲息せることも、各地に現存する遺跡・遺物によつて證すべく、上古より既に相當に開けたるものと考へらる。而してその名義は狹門(さと)御ち舟の入る水門(みと)の狹きに因ると云ふ。國中平野は能登の邑知地溝帶に續く地溝部なれば、太古は國府川の流域には眞野灣の海水をたゝへ、大佐渡・小佐渡間は入海をなし、狹門の意義を明かに表はせしものゝ如し。或は郡名(ぐんめい)太に起因すると稱し、或は越後方面より望見するに里の知きより此名ありとも云ひ、アイヌ語のサット御ち乾きたる沼地などの說もあり詳ならず。成務天皇五年、久志伊麻命四世の孫大荒木直が佐渡國造に任ぜらる。その國造政廳の址は金澤村大字泉字荒木の荒木神社の邊ならんと云はる。欽明天皇の五年には蘇我(そが)馬子(うまこ)の夷の掠奪を蒙りしこと日本書紀に見ゆ。(馬武邑(まむこ)を見よ)神武天皇紀元より大化改新に至る千三百餘年の間、佐渡の本籍にして國史に載せられたるは、國造任命と蘇我人來寇の二つに過ぎず。大化の改新には佐渡も亦新たに國司を置きて國務を司らしめ、郡には郡司を置かる。而して佐渡は初め雜太郡一郡なりしが、養老五年には越前に接續使を置かれてその管轄に屬し、雜太郡を割きて賀茂・羽茂二郡を置き、天平十五年には越後國に併せ佐渡島と呼ばれしが、天平勝寶四年に至り、舊の如く一國に復し、爾後變動なく今日に至る。大化改新の初には國府郡衙ともに雜田(眞野村)にあり、加茂・羽茂二郡は後に郡司を置かれ、この三郡制は明治二十九年佐渡一郡に併合さるまで實に千百七十餘年の永き歷史を有す。聖武天皇の神龜三年、遠流の地と定められて以來、流人の島として知られ、順德天皇の御遷幸を始め奉り、日蓮上人・日野中納言・小倉大納言・冷泉院大納言僞兼・親世元清等の配流は最も世に知られ、從つてこれ等に關する史蹟は眞野御陵を始め頗る豐富にて、風俗・言語は今に至るまで寧ろ越後よりも關西に近く、日蓮宗の教化も亦頗る盛んなり。鎌倉時代の初め文治元年、源頼朝諸國に守護地頭を置くや、相模國海老名氏の一族本間有馬允能忠、播州に住して佐渡守護を兼ねしが、能忠の曾孫祖綱始めて佐渡に渡りて河原田城(河原田町)に居し、其後、雜田城(眞野村)に移りて一族各地に割據し、畠谷・土屋・藍原等の武士も各地頭を命ぜられ土着せしが、天正十七年上杉景勝の鎮めに攻略占領され、景勝封を會津に移されてより豐臣氏の領有に歸し、慶長五年關ヶ原役後、德川幕府は佐渡より金銀を出すにより、之を直領となし佐渡奉行を置く。始めは佐渡代官と稱し治府を河原田城に置きしも、慶長八年大久保長安、佐渡奉行となるに及び治所を相川に移し長安一流の宏壯豪奢なる公衙を作る。これ佐渡奉行所の濫觴にて以て明治維新に至る。明治二年佐渡縣置かれ、翌二年越後府に併合され、同年七月佐渡縣を復し、同四年相川縣と改めしが、同九年新潟縣に合併せらる。同二十九年滿記三郡を合併して佐渡郡とし、佐渡は一國一郡となり以て今日に至る。いま相川・河原田・澤根・小木・兩津の五町と外に二十餘村を含み、佐渡支廳を相川町に置きこれを管轄す。

【佐渡國】→佐渡島
【佐渡縣】→佐渡島
【佐渡郡】→佐渡島
【佐渡支廳】→佐渡島
【佐渡金山】→相川町

サトー　佐東(さとう)　→佐伯郡

サトー　沙等面(さとう)　朝鮮慶尙南道統營郡の略中央。巨濟島の西北端にあり。東は一逕面、北は龍南面の加助島に相對し、西は水道を距てゝ統營半島、南は屯德面及び巨濟面に各隣接す。南部は丘陵性山地を成せども、北方に從ひ漸次低平となり海岸には砂濱相連なり沿海遠淺にして良泊に乏し。產物には米・大麥・大豆を主とし、水產物に鰯・鰊・石首魚・和布等あり、また東北海岸に於て製鹽業行はる。道路は統營・巨濟間の二等道路、面の西部を橫斷し、他に等外道路の海岸環狀線あり。聚落は主として海岸に分布し、その主なるものに沙等里・沙谷里・城浦里・支石里・鳥良里・德湖里等ありて面事務所を沙等里に置く。

サトイギミノ　里五十公野村　新潟縣越後國中頸城郡の中東部。高田市の東方約八粁。北は美守村(みもり)、東北は上杉村、東南は東頸城郡神見村、西南は高士村、西は津有村・識訪村に界す。頸城平野の東緣部を占め、東部は圓田山系の山麓丘陵が連るも、大部分は土地低平、灌漑の利多し。平野は略ぼ水田にして上越米の產地にて、外に園藝農產物あり。村の西北部にて交錯せる東西・南北二條の縣道により高田市・新井町及び海岸方面・山地方面に通じ交通便なり。此地は和名抄、頸城郡五公郷の內にして、中世は五十公野郷と稱し、のち五公郷は山五十公・里五十公の二郷に分つ、本村は里五十公郷の遺稱なるべし。大宇法華寺は越後國分尼寺のありし地なりと。大宇川浦は近世幕府の陣屋を置き、公料五萬石を支配せしめし所、慶應四年の春、古屋作左衛門、幕兵六百人を率ゐ、近傍諸藩を脅かしてこの陣屋に寄りしが、飯田・高田兩藩の

爲に夾擊せられ、遂に陣屋を焼き、柏崎方面に奔れり。〔下鳥富矢郎〕本村の人。名は英輝、鳥洗と號す。元祿年間川浦地方旱魃續りに續り民心悄々たり。組父源助、父源右衛門これが救治の道を計りしも成らず、英輝父祖の遺志を繼ぎて私財を抛ち約三里の用水路を完成す。文化十一年十一月七十歳にて歿す。いま北辰社にその遺蹟を祀る。酬奬五位。

サトウラ　里浦村　徳島縣阿波國板野郡中部の東端。撫養町の東南隣にて、西は吉野川の分流を隔てゝ大津村に、西南は吉野川口を隔てゝ松茂村に對し、東は鳴門海峽の南部に面し、兵庫縣淡路國三原郡阿萬町に對す。面積六・六四方粁の小村。吉野川口の沖積平野にありて北部に小丘阜ある外は低平にして川口及び海岸にそふ所は砂洲・砂嘴發達し狹小なる湯湖を抱く。耕地拓けて米麥を產し養蠶行はる。撫養町に接し交通便なり。此地は和名抄、板野郡飯戸郷の地とす。村名里浦は海里(さとうら)の訛なり。蓋し阿波海部の本據にして土御門帝の行宮も此處にありしものゝ如く、一說に蜂塚といへるものか帝陵なりといふ。阿波志に據れば、此地は昔清原元輔の采地たり。蜂宅と稱するものありて土人これを清少納言の宅地なりと。また柿本人麻呂の祠、山腹にあり。永久元年六月修理大尖薦原圖季、人麻呂の畫像を得てこれを祀りし時里浦を賜ひて其料とす、のち願季の裔除蜂再びこれを祀り、光明帝また里浦を賜ふといふ。〔あま塚〕城ヶ峯の麓なる老松の下にあり。元祿年間の改葬にかゝる花崗石の五重塔は、名のみの一小宇僅かに之を蔽ひ、塔側に小庵ありて香華をひさぐ。これ海士塚にして男狹磯の墓なりといふ說と、尼塚にて清少納言の墓と稱する說あり。後者に就きては殊に赤强附會なる說を傳ふるも、郡村長村幸八氏曾て「土御門天皇御聖地調査書」なる一書を著はし、之を前二說の何れにもあらずとし、畏くも土御門天皇の御火葬地なりと斷定し、この考證を以て畢生の事業となす。〔蜂屋敷〕允恭天皇十四年秋九月天皇淡路島に狩す。時に雙鹿猟猪等山谷に盈ちしが忽ち蜘散し終日以て一獸をも獲ず。仍りて狩を止めトせしに、島神これに祟りて曰く、獸を得ざるは我心なり。赤石の海底に真珠あり、その珠を我に祀らば悉く獸を得べしと。天皇、海士をして底に至る。時に男狹磯と云へる衆に勝れたる海人ありて遂にこれを大蝦の腹に得て泛び出づるや直ちに息絶ゆ。天皇これを島神に祀りて多くの獸を得たりしが、男狹磯の死を悲しみ給ひて墓を作り厚く葬る。今この墓は古稱八幡林の區域內なる蜂屋敷にあり、里人これを男狹磯と呼び崇敬す。蜂須賀光隆も特にこの名跡を訪ひ、八幡神社馬場に櫻樹を移し植ゑ敷首を詠す「田となりし昔の跡の稻むしろ心ある海士屋敷忍ぶらん」「古の蜂の屋敷も荒れはてゝ名のみ殘りし磯崎の松」一時この墓所荒廢に歸せしが、慶長年間岡村宇花面の天神社境內に移し海上神として改め祀るに至る。天保五年志士近藤利右衛なる者、蜂屋敷に存する古井の湮滅に歸せんを愛び「里浦蜂之井碑」を建て男狹磯の績を錄す。のち村內十四社悉く村社八幡神社に合して一と爲すに當り、花面なる天神社境內より練石にて成る壺形の一古墳と共に移し、一小宇を建立して石碑も共に保存し、以て今日に至る。〔磯崎の松〕大磯にあり。九百餘年の昔、清原元輔の領地たりし時に植栽せしものといふ。宗祇法師この地に來りて「篠あらば又も來て見ん里の海士の面かはりする磯崎の松」と詠じ、更に「嗜け聞かう里の雨夜のほとゝぎす」の一句を殘して去る。〔吹上の濱〕白砂山をなして雪の如く、松樹蓊々波光と相映じ、淡路島の屏風、商船漁舟の來往、岡崎港頭の樓閣等布袋の妙繪の如く佳景言ふべからず。また奥濱と稱する巉岩海岸に聳ゆ。水なくして湯屋を發するが如く奇形實でべし。〔義掛岩〕當村西北にあり。周圍約三〇米の岩石にして高高に聳はる。往古は海汀にありしも今は土砂に埋もれて小形となれり。西行法師この地に遊びて驟雨に逢ひ簑を此岩上に掛けて雨を避けし古跡なりと傳ふ。西行の歌に「里の海士の濱邊悔びに來て見ればしぐれなしのぐ簑かげの岩」とあり。〔寶珠寺〕里浦にあり。蓮言宗高野派。如意山と號す。和銅元年行基菩薩の留錫せし靈跡にして、本尊藥師如來は行基の刻なりといふ。日和佐藥王寺の本尊と一木二體の靈像なりと名高し。

サトガキ　里垣　山梨縣西山梨郡にありし村。昭和二年甲府市に編入さる。

サトカワ　里川(さとかわ)　石川縣能美郡にありし村。明治四十年八月、外二村と共に合し國府村を建つ。

サトコマキ　里小牧　愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年、外一町一村と共に廢し黑田町を置き、黑田町は同四十三年木曾川町と改稱す。

サドシママチ　佐渡島町　江戸時代、大阪新町遊廓內の町名。中央甍軒町の南に並行し、一名を越後町とも云ふ、二流の茶屋・置屋多く北町に在り。〔金富〕「佐渡島町拘攣之分、桑屋九右衛門、和氣、ふじさわ、カブロさきの、ふじゑ、ながさと、同喜左衛門、和氣、つしま、せやま、カブロとめの、松かへ。カブロかる…佐渡島町揚屋。扇子屋伊兵衛、茉木屋助五郎、高島屋佐右衛門、折屋善兵衛、茉木屋四郎三良」※越後町

サトショー　里庄村(しょう)　岡山縣備中國淺口郡の西部。北は鴨方町、東は六條院町、南は大島村、西は小田郡笠岡町・今井村に界す。村の中部を北東より南西に走る謂ゆる鴨方斷層あり、これに沿ふ

地溝帯に幅約一粁の低地ありて田地多く、西北部と南部には高さ二〇〇米臺の丘陵性山地あり、その傾斜面は耕地となり、農産に備中米・麥・生柿を産し、また蘭草を栽培して花莚・疊表等を産す。國道(山陽道)はこの斷層の北、丘陵の下に沿ひ略東西に通じてバスの便あり。省線山陽本線はその南側を並行して走り、里庄驛(大正九年設置)を設く。古くは和名抄、後口郡林郷(訓波也之)の地なり。近世はこの地を口林庄と呼べり。明治三十八年里見村・新庄村を廢し、その地を以て當村を設く。

サトシライシ　里白石　福島縣石川郡浅川町の大字。省線水郡線の里白石驛(昭和九年設置)を設く。

サトミ　里見　【里見村】秋田縣羽後國平鹿郡の西南部。東及び北に浅舞町に、西は造山の高地を以て福地村に、西北は沼館町に、南は睦合村・植田村に界す。地勢、山地は殆ど無く平坦にて耕地拓け聚落その間に集村型をなして散在す。なほ用水路網完備し米作本位の農業經營により村民の生活支持さる。農業には自作農少なく小作人多し。副業また盛に行はれて養蠶・養鯉・藺工品・換金用農作物等その主なるものなり。清酒醸造行はれて、移出する額にても五萬圓に達し、附近農村に供給す。縣道本荘街道は村を東西に貫通し東方淺舞町を經て横手町に至り、西方田羽丘陵を横隊して子吉川の溪谷を辿り本荘町に至る。從つて本荘街道を中心として里道は肋骨狀に分岐して各部落に通ず。道路交通は至つて便利にして自動車また至便なり。社線横荘鐵道の羽後里見驛(大正七年設置)あり、物資の運搬特に米穀の移出には多大の利便を與へつゝあり。本村の米は東京市場にて名聲を博し村農業倉庫に集められて統制的に搬出せらる。村名は徴落時代の東里村・樽見内村を合併し明治二十二年町村制施行の際各一字を採り里見と命名せるもの。遠山とは古墳の存在に因る名といはる。遠山はまた古來本荘街道の要地にて宿驛として著れし地なり。今にその御殿を存す。

【里見村】群馬縣上野國碓氷郡の東北部。利根川の支流烏川谷の南岸にあり。東西に細長く、東南は八幡村、南は板鼻町・安中町・秋間村、西は烏淵村に接し、北は川を隔てて群馬郡室田町・久留馬村に對し榛名山を仰ぐ。南端には西より茶臼山(五九五米)・石尊山(五七四米)・御嶽山(三三〇米)・天神山(三二三米)の山嶺連亙し、北方烏川の谷に向ひて傾斜し、村の大部分はその斜面を占む。東部には川に沿ひて低地あり。村内山林多く、東部の低地には桑畑と田地多し。發達盛にて蠶の産多く、また麥・石材を出す。縣道は東南約七粁の高崎市より來り、川に沿ひて村を西走し、草津町に至りバスの便あり。この地は和名抄、片岡郡多胡郷に屬せしものならん。清和源氏、新田氏の族、里見氏發祥の地にして、のち義實に至り嘉吉元年安房に走り、子孫安房・上總に勢威を振ひしも、徳川氏に至り、慶長十九年伯耆倉吉に移され、元和八年嗣子なく斷絶す。いま村内に里見義俊の居城址あり。〔里見石〕烏川沿岸に露出する輝石安山岩の一種。石質やや粗にして淡灰色を呈し、流狀の鎬模様あるものあり。高崎・前橋地方にて土木及び建築材料とす。

【里見村】千葉縣上總國市原郡の南部。養老川の上流に跨る。北の富山村・高滝村と南の白鳥村に挾まれ、西北は君津郡久留里町・馬來田村、東南は夷隅郡大多喜町・西畑村と隣りす。全村高度二〇〇米程度の丘陵地多く、山林・原野をなす處廣し。また南隣白鳥村より來りて村の中央を北流する養老川の流域に幅狹き低地ありて田畑拓く。純農村にて米を第一とし麥その他の農産を出し、また養蠶・養鶏を行ひ繭・卵の産少からず。社線小湊鐵道(五井・上總中野間)養老川の谷に沿ひて南走し、里見・飯給の二驛(前者は大正十四年、後者は同十五年開業)を設け、また道路は西隣久留里町より村の中部を東に走りて鶴舞町方面に通じ交通不便ならず。この地は中古に佐瀬荘或は高滝郷と稱せし地にして、縣新宿は黒田氏・大岡氏の領地及び庶下酒井氏・近藤氏等の采地入り交れり。大字飯給は里傳によれば白鳳年中、弘文天皇この地を過ぐる時、午餐を捧げ給ひしより名づくと云ふ。大字田淵に毘巻首館址あり、安房實記に天正六年里見義弘卒するに先だち所領を義頼及び實子梅王丸に分つ。義頼悦ばず、梅王丸を延命寺に召し剃髪せしめ、其母及び妹を此處に幽す。上總の諸豪兵を擧げしも梅王丸は房州にあり、已むを得ず兵を收む。のち梅王丸は還俗し、里見讃岐守義成と稱し一萬石を領す。此時既に母子は幽地に死す。故に義成寺を此處に創建し、湯薬寺と號し住僧を以て其墓を守らしむと。〔眞高寺〕大字飯給にあり。曹洞宗。最勝山と號し、享徳二年眞里谷城主武田三河守の創建、存高和尚の開山。慶安二年徳川家光朱印十五石を寄す。輪奐壮麗を極めしが、明治元年に炎上し、再建成ると雖も遠く舊觀に及ばず。

【里見】岡山縣淺口郡にありし村。明治三十八年、新庄村と共に廢し新たに里庄村を置く。

サトヤ　郷谷村　群馬縣上野國邑楽郡の中部。館林町の東隣にあり。北は渡瀬村・大島村、東より南は赤羽村に接す。面積六・三七平方粁の小村。關東平野内の一部を占め、土地概ね平坦にて東半部と西方の一部には田地多く、其他は主として畑地をなす。純農村にて米・麥・繭等の農産を出す。縣道館林町より本村の中部を貫きて栃木縣下都賀郡藤岡町方面に

通じバスの來往ありて交通不便ならず。往古の事は詳かならず。いま當郷・新當郷・田谷・四ツ谷の四大字より成り當郷に役場を置く。〔薄長寺〕大字當郷にあり。曹洞宗。瓦法山と號し、大永三年伊後和尚の開山。當時は著名なる巨刹たりしも近世焼失して舊觀を失ふ。

サドヤマチ　佐渡屋町　江戸時代、大阪新町遊廓内の町名。中央甍童町の北に並行し、九軒町の西に續く。いま西區新町北通二丁目邊に當る。冥土の飛脚・中「おもひ〳〵の懇風や、懇と寡れは怪ひとつ、梅かんばしく松高き位はよしや引き締めて、寡れ深きは見世女郎、さらさ発がしるべして、橋が架けたや佐渡屋町、嵯後は女主人とて、立寄るよゐも氣がねせず」

サトヤマベ　里山邊村　長野縣信濃國東筑摩郡の中部。松本市の東に接し、北は本郷村、東は入山邊村、南は中山村に界す。北部は筑摩山脈の特聳山西麓の山裾、南部は高遠山西北の斜面に屬し、山地は雑木林を成す。中央部は田川の一支流による扇狀地にて松本市の東部につづき田・畑・桑園あり。繭・米・麥を産し、菊苗の栽培行はれ、また瓦を出す。松本市より入山邊村に至る縣道村の中央を横斷し、バスの便あり。西北部に山邊温泉湧く。此地は和名抄筑摩郡山家郷の内にして、いま下金井・新井・湯原・藤井・上金井・薄町・兎川寺・荒町・北小松・林・南小松・大芝崎の舊十二箇村を合して當村を成す。字林は小笠原氏領主の時居住せし地にして、林に大城・小城の二城址あり。附近に小笠原氏の菩提所たる廣澤寺あり。〔山邊温泉〕古名を東間の湯といひ、一に白絲ノ湯ともいふ。泉質は硫酸水素泉。里山邊・入山邊二湯に分れ、松本平の東緣にありて、前に北アルプス連峰を望む。附近に藥師堂・銀杏木觀音・梅の天神・紅葉の天神・美ヶ原・兎川寺・林の城址・玄向寺・女鳥羽ノ澤等あり。湯原に「出づる湯のわくにかかれる白糸はくる人絶えぬものにぞあり切る」の刻碑あり。〔千鹿頭社〕郷社。祭神、千鹿頭神・林ノ里長六郎。社傳によれば、千鹿頭神は諏訪神長官の祖神にして、延暦年間、惡原綿麻と林ノ里長六郎と策りて勤請する所といふ。〔廣澤寺〕曹洞宗。龍雲山と號す。嘉吉元年、筑摩郡井川城主小笠原政康の開基、開山を雪窓一純和尚とす。爾來、小笠原家累代の尊崇厚く、寺領五十石を寄す。慶安年中に徳川家光寺領朱印十石を附す。〔兎川寺〕新義眞言宗智山派。瑞日高照山と號し、正しくは兎川雲瑞寺といふ。聖徳太子の御創建と傳へ、中古に合密の徒各十二坊を構へ大いに盛ひしが、のち台徒獨山に去りてより密徒の十二坊のみ殘る。爾來歴代領主の崇敬厚く、寺領若干を附されしも、近世に至り衰微し、明治初年總に廢寺を免れ再興に力む、いま中本寺末檀林に列す。

サドワラ　佐土原町　宮崎縣日向國宮崎郡の北部。宮崎市の北方約一三粁にあり。南は那珂村、東は廣瀬村に接し、北及び西は見湯郡都於郡村・妻町・新田村に界す。南半部は高さ一〇〇米以下の丘陵起伏し山林・原野をなして北方へ傾き、北半部は一ノ瀬川の支流三財川は東へ流れて神稻地をなす。低地は耕地よく拓け米の産多く養蠶も行はれ生糸を産す。省線日豐本線廣瀬驛に起り西北方杉安に至る妻線は北部を西方に横切りて佐土原驛(大正二年設置)を置き、また道路は驛に近く縱横に交叉し、南は宮崎市、北は高鍋町、東は廣瀬村、西北は妻町方面に通じ交通便利なり。此地古くは和名抄、那珂郡田島郷の地とす。建久圖田帳に「那珂郡田島院四十町」と見え、なほ日向記には建久九年日向四島院の中、田島庄を九十四町とし工藤祐明なるものを之を領知して田島殿と號せる由見ゆ。中世に秀郷流大友氏の一流この地に居して佐土原氏を稱す。豊臣秀吉の朝鮮征伐後歸化人の渡來ありて今なほ高麗町等の名遺る。舊落時代は島津七氏の一なる佐土原藩の統下たりし地。明治三十四年町制を布く。〔佐土原城〕もと日向伊東氏の屬城なりしが、天正年間島津氏の有となりこれを修築し、以て豊後國の守とす。のち慶長八年江戸幕府島津忠恒の族以久を城主となし三萬石を分封せしむ。以來子孫相傳へ明治維新に至る。〔愛宕神社〕大字上田島に鎮座。縣社。祭神、火之迦具土神。創建年代は不詳なるも、舊し當社は古來當郷の産土神として土俗の崇敬篤きものあり。明治六年五月縣社に列せらる。例祭、十月二十四日。〔五田神社〕大字上田島に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊。創建年代不詳。例祭、九月十五日。〔大光寺〕大字上田島にあり。臨済宗妙心寺派。佛日山と號す。建武二年田島城主伊東祐聰の創建といふ。

サナ　佐奈村　三重縣伊勢國多氣郡の東部。松阪市の南方約一〇粁、宇治山田市の西方約一四粁にあり。相可町の西南に隣り、北は津田村、西は丹生村、西南は川添村、東は西外城田村に界す。面積一八・九一方粁。北境に迫る丘陵と中央丘陵との間に谷を作り櫛田川支流は東北へ流れ東北部は稲平坦地をつくる。中央丘陵の南にまた低地ありてここに五桂池あり。農業を主生業とし米(一六萬圓)を主とし、麥・伊勢芋・繭・甘藷・菜・大根等を産し、山地よりは木材・竹材を出し、工産に酒(五・八萬圓)・藁製品・醤油・牛乳等を出し、特産物には蜜柑(三・二萬圓)・生柿・筍(一・九萬圓)・松茸・山桃等あり(數字は昭和十一年のもの)。宇治山田市より西する和歌山別街道中部を横ぎり、また松阪市へ至る縣道これより分岐して北方に向ひバスを通ず。省線紀勢東線東北端相可町より當村北部に入

り中央の谷に沿ひ西南方へ延び大字平谷に佐奈譯（大正十二年設置）を置き、交通便利なり。上古は佐那縣と稱し曙立王の子孫、佐那造の居住せし舊跡なり。いま佐奈神社あり、佐那縣造の遠祖曙立王命を祀りしなるべし。和名抄に多氣郡三宅郷と云ふも之に同じ。〔金剛座寺〕大字神坂にあり。天台宗。白鳳年中藤原不比等の創建に係る。應仁年間兵火に罹り炎上し、萬治年中に良琢和尚現堂宇を再建す。〔近長谷寺〕大字長谷にあり。古義眞言宗。丹生山と號す。仁和元年の創建にして、大法師奉俊の祖正六位上飯高宿禰諸氏、佛子觀勝寺内外近親に勸進して建立すといふ。〔普賢寺〕大字神坂にあり。天台宗。創建年次沿革等不詳なれども、古記錄に當寺及び村内金剛座寺の名見ゆれば、白鳳年中創建の金剛座寺より推せば當寺も亦古寺なるべし。本尊普賢菩薩坐像（木造）一軀は弘仁期の作にて現に國寶たり。

サナガタ　佐那縣・狭長田　さなあがたの約。伊勢國多氣郡相可町（佐那谷川附近まで之含みし地方の舊稱。手力男神の鎭座地。また狭田彦神の居住地と傳ふ。記・上「手力男神者坐二佐那縣一也」神代紀・下「吾則應レ到二伊勢之狭長田五十鈴川上一」

サナガヤ　實ケ谷　埼玉縣南埼玉郡にありし村。明治二十八年、外七村と合併して日勝村を設く。

サナキ　佐鳴湖　↓入野村（靜岡縣濱名郡）

サナギ　眞城山・猿啼山　富士火山帶に屬する一峯。沼津市の南方約一三粁、伊豆半島の北西部に峙ち、靜岡縣田方郡西浦村・戸田村の境上に跨る。標高約六〇〇米、輝石安山岩より成る。南東麓は達磨山（九八二米）、北麓は低夷し、大瀬崎となつて海に沒す。山中羊齒科植物繁茂す。山頂よりは北より西にかけ駿河灣の碧波の彼方に富士山・富士川・薩陀嶽・三保の松原等を見渡し、眺望伊豆第一の稱あり。山頂に狼煙臺址あり。

サナギジマ　佐柳島　【佐柳島村】香川縣讃岐國仲多度郡の北方海上。丸亀市の北に横はる鰐飽諸島中の一島たる佐柳島並に一屬島より成る。屬島は佐柳島の東方に近く横はる一小島にして小島と稱し、佐柳島と同じく花崗岩を貫く安山岩質より成り、高一五四米を有す。地勢高燥、平地を有せずと雖も斜面を開墾畑地として利用し、香川縣内市町村中畑面積の四より大なる所の一をなす。畑作の他、漁業盛にして、手島沿海と共に鯛網曳網漁撈を營む。交通は不便なれど、多度津よりは發動機船の便を有す。もと當村は佐柳島と稱し、明治十八年一月には役場を設置、高見島なも管せしが、同二十二年町村制施行と共に獨立の一村となり、佐柳島村と改稱す。村内に村社八幡宮あり、寺院に眞言職香寺末の乘蓮寺あり。※佐柳島

【佐柳島】香川縣仲多度郡鰐飽諸島中の一島。鰐飽諸島の最西に位し、廣島の南西約六粁、丸亀市より海上約二〇粁に位す。東は廣島・高見島、南は粟島、西北は岡山縣甘鍋島と相對す。周圍約四粁、面積二・三七方粁、花崗岩を貫ける安山岩質より成り、西側急崖をなし、東に緩斜し、島頂は南北に延び馬背狀を呈し、その中央最も高く二四八米を示す。東岸には砂嘴長く延び、北部に長崎浦、南東部に本浦の漁村發達す。本島は鰐飽諸島の一として、古くは佐鳴島と呼び、鹿苑院鹿島譜記に「歌津より三里こざてさなぎといふ所に、雨風はげしく波いと高かりしかば此浦わに御泊あり云々」とあるによりて知らる。沿海は春季鯛漁期の漁場をなし、鯛の產多し。また瀨戸内海國立公園の一部を占む。

サナグ　佐那具　關西本線の一驛（明治三十年設置）。三重縣河山郡府中村にあり。

サナゲ　猿投・猿毛　【猿投山・猿毛山】新潟縣中蒲原郡七谷村と南蒲原郡加茂町に跨る。標高三二七米。火山岩より成る。南麓を加茂川北西流し、信濃川に合す。

【猿投村】愛知縣三河國西加茂郡の西北部。瀨戸市の東南約六粁、東は藤岡村・石野村に、南部は高橋村・挙母町に、西は保見村に相接し、北は東春日井郡と界す。本曾山地の尾張平野に沒する所、北境に猿投山（六二九米）聳え、その南には第三紀層より成る二〇〇米以下の低丘陵地連る。籠川は西部を南流して東境を南西流する矢作川に合し、その流域には洪積層の堆積を見る。水田は籠川低地に分布し上流には桑畑多く養蠶盛なり。北部山地には良材を出し、また瀨戸市へ供給する良質の陶土を產す。社線三河鐵道矢作川の谷に沿うて通じ、瀨戸（大正十一年設置）・平戸橋・猿投（共に同十三年設置）・三河三谷・枝下（共に昭和二年設置）の五驛を置く。此地は中世は高橋莊に屬す。村内に數多の古墳の發掘せられしものあり。大字鞍取には大磯命の墓地あり、御廟所と呼ばる。大字鄕本には圓形の溝ある大礎石一個殘り、附近よりは多くの布目瓦や蓮花紋のある巴瓦を出土す。また大字猿投には白鳳寺址ありて石塔礎石を殘す。天武天皇の白鳳年間の創建になる故にこの名ありと云ふ。大字廣瀨には舊西寺址あり。傳に據れば、後醍醐天皇の第五皇子滿良親王田家し無文元選禪師と號せられ、當寺に來りのち遠州奥山に移らると云ふ。また村内には古城址多く、御給城には三宅氏居城せしものゝ如く、西廣瀨の城は三宅主膳居すと傳へ、西滿の城は佐久間信直居城せり。また大字加納は加納氏の發祥地、加納氏は德川泰親の庶子松平久親の裔より出で、世々

德川氏に仕へ、のち上總一宮の城主となる。明治三十九年七月上郷村、廣瀨村及び富貴下村大字西枝下・西廣瀨とを以て本村を設く。〔猿投山ノ球狀花崗岩〕指定天然記念物。俗に菊石と稱す。山を成せる粗粒黑雲母花崗岩を貫き一の岩脈をなせる如きも、母岩との間に岩質的漸移を示す。露頭は幅二—三米、長約一〇米に及び、北々西より南々西に向ひ籠川を横ざる。河床及び右岸に現はるゝものは球狀體を有する細粒の黑雲母花崗岩にして、球狀體は徑四—八糎、核部と周邊部とより成り、核部は殆黑色にて石英長石黑雲母の粒狀集合、周邊部は色白く正長石・パーサイト長石・微斜長石・黑雲母・石英の放射狀集合より成る。球狀體は二—三糎の間隔にて岩體一面に分布す、かゝる球狀構造の花崗岩は其の現出極めて罕なり。〔猿投神社〕大字猿投に鎭座。縣社。一に狭投とも書く。祭神、大碓命。相殿垂仁天皇・景行天皇。元慶元年には從四位下に陞授せらる。延喜の制小社に列せらる。慶來上下の傳信寫く、江戸時代には朱印領七百七十六石を有せりと。總新前には別當に猿投山白鳳寺ありき。また本社には參河國神名帳の古本を藏す。社地は老檜古杉鬱蒼とし、山中に猴多く棲む。例祭、十月十九日。〔灰寶神社〕大字蔵戸に鎭座。郷社。祭神、波爾安比咩命。延喜の制に小社に列す。例祭八月二十一日。〔兵主神社〕大字荒井に鎭座。郷社。祭神、大物主神・三穗津姫神外八柱。當社緣起に據れば、崇神天皇の御宇賀茂君大鴨積命この郡に居られし時、その祖神大物主神を祀り、三穗津姫神を配祀せるに起るとあり。延喜の制小社に列し、參河國神名帳には「正五位下兵主天神」とあり。もと大鳥大明神とも稱し、古來、荒井・梅ヶ坪兩村の產土神たり。例祭、九月十二日。〔鉢木廢寺塔址〕指定史蹟。大字鉢木にあり。塔址は傾斜の地點を削りて平地とし、土壇を築きたる形跡を留め、塔の心礎及び他の礎石三個殘る。心礎は直徑一・七米、表面に二重輪郭の彫込あり、中央に直徑一・六糎の柄孔を穿ちて特殊の構造を有し、奈良時代のものと推定さる。なほ附近より奈良時代の古瓦發見さる。

【猿投山】一に鷲取山と云ふ。愛知縣西加茂郡猿投村と瀨戸市東端との境界に跨り、標高六二九米。形狀小鄕に似るに因り山名出づと。全山樹木を以て掩はれ、野猿多し。南麓に猿投神社鎭座す。

サナコーチ　佐那河内村　德島縣阿波國名東郡の南部。德島市の西南方山地に位し、これと上八万村を隔て、西は名西郡鬼籠野村、南は勝浦郡高鉾村・横瀨町、東は同郡多家良村に界す。面積四二・三五方粁。劍山山脈の東部に當り、南境には高鉾山（一〇二〇米）・中津峯を繫ぐ山嶺東西に連り、村の南半はその北斜面に屬し山林なるす。北部にも高度三〇〇米前後の丘陵性山地あり。この兩山地に挾まれたる村の中部は低地をなし、西部山地に發せる小流は東北流して北隣上八万村に出づ。川に沿ひて耕地拓け、農產に米・麥・繭等を出す。村道四隣に通ずるも交通なほ便利ならず。古くは和名抄、名東郡福葉郷の内に屬せしものゝ如し。延喜式神名帳に名方郡天石門別豐玉比賣神社あり。蓋し今の天岩門別神社にして、また式内社御間郡比古神社あり。後者は長國造の祖神を祀る。御間郡彦とは孝昭天皇の御諱なれば、即ち同天皇を祀りしものか。〔大宮八幡神社〕大字下佐那河内に鎭座。郷社。八幡大神・足仲彦天皇・姫大神・高良大神を合祀す。社記に文武天皇大寶三年宇佐八幡宮の神託あり、元明天皇和銅元年に至りて宇佐八幡宮の神靈を勸請して創建す。例祭、九月二十八日。

サナダ　眞田　【眞田山】↓大根村（神奈川縣中郡）

【眞田山】↓大阪市

サナツラ　佐那豆良岡　安房國（千葉縣）安房郡の古地名。其地いま不詳なるも館山北條町に大字上眞倉・下眞倉あり、或はさなつらの轉訛せしものか。萬葉・一四、左奈郡良能乎可に繋まきかなしきが胸はたぐともわはそともはじ」

サナモ　讃甘　讃甘村（岡山縣）

サヌ　佐沼　上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に片岡郡佐沒郷あり、佐沒は佐沼の誤りにして、今の群馬郡佐野町の地なるべし。萬葉・一四に、「上毛野佐野のくくだち折りはやし吾は待たむあ今年來すとも」とあるは此地なり。

サヌ　狭沼　但馬國（兵庫縣）の古地名。和名抄に氣多郡狭沼郷あり、佐乃と訓す。大田文に狭沼郷三十四町二反六、公文八木九郎左衛門尉高貫とあり。地は今の城崎郡國府村及び豊岡町の邊に當る。

サヌ　狭野・佐野　和歌山縣新宮市の地名。神武天皇御東征の條に、皇軍名草邑に至り、名草戸畔を誅し遂に狭野を經え、熊野神邑に至ると見ゆ。萬葉集に狭野の渡見ゆ。中世は佐野庄に作り、近世は東牟婁郡三輪崎町の大字に佐野の名遺りしが、昭和八年新宮市に入る。萬葉・三「苦しくもふりくる雨か神の崎狭野乃渡に家もあらなくに　長奥麻呂」

サヌカタ　狭野方　↓米原町（滋賀縣）

サヌキ　佐貫　【佐貫】茨城縣稻敷郡龍崎村の大字。省線常磐線の佐貫驛（明治三十三年設置）あり、社線龍ヶ崎鐵道に接續す。

【佐貫村】群馬縣上野國邑楽郡の南部。館林町の西南方約四粁にあり。利根川とその支流谷田川に挾まれ、西は富永村、東は梅島村と隣りし、北は谷田川により三野谷村に、南は利根川を隔てゝ埼玉縣北埼玉郡新郷村・川俣村に相對す。全村平地にて田畑よく拓け、農業盛にして

米・蚕等の産多し。館林町と埼玉縣北埼玉郡忍町への縣道通じ、また社線東武鐵道伊勢崎線の川俣驛(東隣梅島村地内)に近くして交通の便よく、また大字川俣は利根川北岸に沿ひ上利根水運の埠頭をなす。村名古くは一に左貫にも作り庄名に呼ばれたり。中世、秀郷流林氏の一族この地に居し佐貫氏を稱す。佐貫庄の名は小山文書・正平七年の條に見え、また正木岩松文書・貞治三年沙汰附狀には佐貫駿河守を奉行人とすとあり。蓋し佐貫氏は地方有勢の名家なりしものゝ如し。大字川俣の地は江戸幕府の時、關柵を設けて江津を扼守せる所にして川俣御關所と稱し、忍藩を以て警戍に充てらる。なほ少名昆古那命を祀れる郷社粟島神社鎭座す。境内樹木鬱蒼として風致に富む。例祭、九月十日。

【佐貫町】 千葉縣上總國君津郡の西部。浦賀水道の東岸に沿ひ、北は大貫町、東は周南村、南は湊町に各隣接す。鹿野山(三五二米)に連る厚き洪積層の丘陵起伏し町内の大部分低き臺地をなし、中央部を東部丘陵中に發する小溪流西流し小デルタ發達し、海岸は砂濱をなす。町の西南海岸に近き臺地の末端に上部鮮新統に屬す含化石砂層あり。海棲貝化石を多數含む化石床にて、大字笹毛にあるを以て笹毛層(横山次郎博士の命名)と呼ばれ、この地の隆起せしを語る。また東南部臺地中に下部洪積統に屬する佐貫層の露出あり。この附近に發達せる地層にて下部は基底礫岩又は厚き砂石質砂岩の偽層を有し、下位層とは不整合關係なり、此上に約一二—三米の偽層せる礫岩あり、前記の笹毛層もこの佐貫層の一部に屬す。丘陵地は森林・畑地をなし、中央部の小流に沿ひ兩岸に田地拓く。農業を主業とし米の産多く、麥・蔬菜等を出し柑橘の栽培・養蠶も行はる。なほ漁業あり、北方の木更津方面より來る縣道は町の中央を縱貫し、南方館山北條方面に向ひ、省線房總西線西部を南北に走り大字佐貫に佐貫町驛(大正四年設置)を設け、驛より東方鹿野山方面にバス通ず。海岸は遠淺にて好海水浴場(新舞子)をなし、毎夏東京方面より約三千人近くの避暑客ありて東京の下町的景觀を呈す。この地は和名抄、天羽郡讃岐郷の地にして、近世舊天羽郡を領せし阿部氏一萬六千石(佐貫藩)の城下にて、領内の主要街なりし爲め附近物資の集散地として繁榮し、明治二十二年町制を施行す。〔佐貫城〕佐貫町の東北なる北上山に其古址あり。弘治年間里見義弘の居住せし所にて、天正十八年内藤家長こゝに封ぜられ、今の地に經營す。のち松平勝重・同勝隆・同重治・柳澤保明等交々封ぜられ、寶永七年阿部正春拾して一萬五千石を食み、子孫相承けて明治維新に至る。藩校撰秀館・誠道館は寬政八年に阿部氏の創立に係る。〔鶴峯八幡神社(佐貫八幡宮)〕大字八幡に鎭座。郷社。祭神、譽田別命・玉依姫命・神功皇后。創建年次不詳。古くより武人の崇敬篤く、永正四年武田信嗣社殿を再興し、國主の安穩と足利將軍の隆盛を祈願すと云ふ。慶長六年領主内藤氏は神田三十石・山林町歩を寄進、武運長久を祈りたり。慶安元年源勝隆社殿を修築し、享保五年には阿部某更に神田二十石・山林を寄せ、寶暦二年に阿部正之また社殿を修營す。例祭、九月十五日。〔圓龍寺〕大字花香谷にあり。眞宗大谷派。寶王山と號し、天正十一年内藤彌次右衛門の創建に係り、順了和尚を開山とし、寺田若干を附してその香華院となす。〔岩富寺〕大字亀澤にあり。新義眞言宗智山派。妙覺山と號し、俗に岩富觀音堂と稱す。推古天皇二十年、聖德太子本州巡護の爲め自ら十躯の觀音像を彫刻して岩窟に安置し、齊明天皇六年に至りて殿堂の創建を見ると傳ふ。本堂には聖德太子作の千手觀音菩薩、行基菩薩作の正觀世音、慈覺大師作の觀音像の三尊を一龕の中に納めて安置す。

【佐貫】 鳥取縣八頭郡にありし村。大正六年、宇戸村と共に廢され、その地域を以て散岐村を置く。

サヌキ 散吉 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に廣瀬郡散吉郷あり。其地は今の北葛城郡馬見村大字三吉の邉なるべし。式内讃岐神社あり。

サヌキ 散伎 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に鹽屋郡散伎郷あり、其地は今の鹽屋郡大宮村・玉生村・船生村等の邉に當る。

サヌキ 散岐村 鳥取縣因幡國八頭郡の北部。千代川の上流智頭川の左岸。東は川を隔てて國英村に、南は大村・佐治村に、西は西郷村に、北は八上村に界す。北・西及び南の三境には二〇〇—三〇〇米の丘陵性山地あり、中部には西南より東北に幅狹き平地ありて、智頭川左岸の洪涵平野に續き、西南境に出でし小支流これを東北流して本流に合す。平地には田畑よく開け米を主として甘藷等を産し、また養蠶行はれて繭を出し、丘陵地の原野は好牧場をなし、牛の産少からす。鳥取市より南下する智頭街道は河東(國英村西境)を通じこれに出づればバスの便あり。古くは和名抄、八上郡散岐郷の地なり。もと佐貫村・宇戸村に分立せしが大正六年合併し舊郷名に因み散岐村と名付く。〔都波只知上神社〕大字佐貫に鎭座。村社。祭神、大帶日子淤斯呂和氣命・日本武尊外二十七柱。創立年代不詳。仁壽元年從五位下を授けられ、延喜の制小社に列す。中世に大智大明神と稱せしが、文化五年に舊號に復す。例祭、十月九日。

サヌキ 讃岐 【讃岐國】 南海道六箇國の一。四國島の東北部に位す。地勢、南に山を負ひ北に低く小豆島・豐島・直島・鹽飽諸島は屬

島なり。この國は早くも古事記に其名見え、古くは讃吉・紗抜・讃嶽・狹貫にも作る。また仲哀天皇の朝、景行天皇の皇子神櫛王の三子須賣保禮命が讃岐國造に任ぜられしこと國造本紀に見ゆ。而して國府は阿野郡(今の綾歌郡の中)の府中村大字府中に置く。國名の起原詳ならざるも讃岐は蓋し狹緯の義にて、當國の地形南北に狹きをいへるものか。この國は瀬戸内海の形勝の位置にあり、また名僧空海の出生地として史上に著はる。保元の亂後、崇德上皇は志度(今の大川郡)に遷幸せられて、この國に崩ぜられ、元曆元年には平宗盛が安德天皇を奉じ、來つて行宮を屋島に營みしが、源義經の來り攻むるに及び屋島陷り、次いで平家は西海に滅ぶ。源頼朝、天下の權を握るや、佐々木盛綱を此國の守護に任ず。建武中興の時には舟木頼重守護たり。足利尊氏の叛するや部下の細川和氏をして四國を攻略せしむ。和氏の族なる細川定禪は頼重を追ひ高松城(古高松城)に居す。延元三年和氏の弟頼春この國の守護となり、一族後を嗣ぎしが、その威勢漸く振はず、天文の初期、阿波の三好長慶、細川氏に代りて國政を執り、爾來その一族これに代る。天正十一年土佐の長曾我部元親、四國を攻略するやこの國をも併呑す。同十三年豐臣秀吉の四國征伐の時、此地を元親より奪ひて仙石秀久に與へ、後これを生駒親正に賜ふ。親正は高松に治す。寬永十七年生駒氏國除かれ、水戸の德川賴房の長子頼重(光圀の兄)この國に封ぜられ國の大部を領し、南部に山崎家治封ぜらる。山崎氏は間もなく嗣絶え、京極氏代りて丸龜に居り支族を多度津に置き以て幕末に至る。明治の初め、この國には大内・寒川・三木・山田・香川・阿野・鵜足・那珂・多度・三野・豐田(古くは刈田)・小豆島の十二郡ありしが、總て高松市獨立し、明治三十二年四月に大内・寒川二郡を合し大川郡とし、三木・山田の二郡を合し木田郡とし、阿野・鵜足二郡を合し綾歌郡とし、那珂郡の内より丸龜市を獨立せしめ殘部に多度郡を加へて仲多度郡とし、三野・豐田二郡を合し三豐郡とし、香川郡・小豆郡を加へて二市七郡となる。而してこの國にありし三藩卽ち高松(松平氏十二萬石)・丸龜(京極氏五萬千五百石)・多度津(京極氏の支族一萬石)の内、明治四年二月には多度津藩は廢され、これを對岸の備後國の倉敷縣に屬せしめしが、次いで丸龜・高松二藩も何れも縣となり、十一月にこの二藩と多度津藩とを合し香川縣を置く。六年二月香川縣を廢し一旦阿波國にありし名東縣に合せしが、八年九月に香川縣を再興し讃岐一國を管す。しかるに翌九年八月にまた香川縣を廢して伊豫國にありし愛媛縣に合併す。かくの如く或は名東縣に屬し、或は愛媛縣の管下たりしが、明治二十一年十二月香川縣を復活し以て今日に至る。

【讃岐山脈】 四國地方にある山脈。香川縣と德島縣との境界をなす山脈にして、吉野川の北に沿ひて走り、對岸なる四國山系中の東部なる劒山脈と並行す。脈は和泉山脈より續き、論鶴羽山脈を經て、一度鳴門海峽に斷絶、撫養にて四國にわたり、東微北より西微南に走り、燧灘の東南隅にて海に沒す。長さ約千粁、幅平均十粁、餘脈は高繩半島以西に斷續し松山平野の南西に達す。和泉山脈と共に白堊紀層に屬し、和泉砂岩・頁岩・礫岩の互層より成り、西南日本内帶の最南部に位し、南側結晶片岩とは斷層にて境し、北側花崗岩とも斷層により切斷され地壘山脈をなす。本山脈は四國の北部及び中國に發達せる花崗岩質地が侵蝕により所謂はゆる準平原に達し、その岩層は四國南部の結晶片岩地帶との間なる瀬戸内海中に堆積、和泉砂岩層を生じ、白堊紀直後に於て北方よりの壓力を受け、南の結晶片岩地に衝上せしものにて、次で地塊運動により、第三紀以後に於て斷層と共に沈降準平原面はために斷裂し、現今の地形を生ぜりと論ぜらる。この地壘兩側の斷層崖は並行して東微北の方向に走れど北側の西部雲邊寺山附近にては北東の方向に走る。本山脈は東部に於ては高さ五百—六百米の脊梁をなし、山頂は多少平頂を呈す。大麻山(五四一米)並に德島縣板野郡北部の丘陵地より阿讃國境につゞき大山(六九二米)・笠塚山(五二〇米)等を起す。この邊にては横谷よく發達し、吉野川に注ぐ。日開川上流日開谷の如きは分水嶺を横斷し深く入込む。山脈の中部(德島縣美馬郡脇町附近)は稍高くなり八百乃至一千米の脊梁をなし、大瀧山(九四三米)・龍王山(一〇一三米)・大川山等を起す、平頂は殆どなきも、山麓階各所に發達し聚落の發生を觀る。拜原川(脇町附近)・香東川(讃岐)發源地をなす。山脈の西部は再び稍低くなり、若狹峠(七八七米)・中蓮寺峰(七五五米)・雲邊寺山(九一一米)等連亙し、曼陀ヶ峰(五九五米)に達り、阿讃豫の境となり、之より豫讃の國境をなし、餘木崎にて燧灘に終る。山麓階は各所に發達、殊に阿波池田町附近は著し。北側の斷層崖下には財田川の發源あり、南側の斷層は池田町より伊豫の金生川に沿ひ西走す。本山脈の東部には之と並行せる一脈あり、矢筈山脈と稱す、矢筈山(七八八米)・檀特山(六三一米)・虎丸山(三七三米)・歸來山(二三五米)等を起し、引田町にて海に沒す。山脈は花崗岩質より成り、兩脈の間は湊川の谷をなし、五名・福榮・小海の諸村を形成す。夏季は南風、冬季は北風が卓越する當地域に於て、東西に延びるこの山脈は氣候に及ぼして瀬戸内氣候の南限を劃し、從つて人文現象にも明かなる境界となり地理區を截斷す。尙この山脈には南北の斷層線を有し、よき交通路をな

し、阿波・讃岐兩地方の文化開發上に資する處少からず。阿波忌部氏が早く讃岐に移住せし傳說の如き之を物語るものと云ふべく、大阪越(二七三米)・相栗峠(二一八米)・清水越(三二〇米)・猪鼻峠(五三八米)等の如きその著しきものにて、殊に相栗峠の如きは日開谷横谷の賜にして、讃岐山脈中の最低部をなす、大阪越は讃岐東部と徳島とを連結し古來重要通路をなし、清水越は高松市より鹽江を經て脇町に通ずる道路をなし、猪鼻峠は多度津・琴平方面と池田町とを連結し重要なる通路をなせしものなり。大阪越並に猪鼻峠には鐵道隧道の建設あり、その價値を減じたりと雖も他は今なほ利用せられ、近時道路の改築成り自動車の便あり、また僧耕牛の通路として有名にして、伸多度郡最も著しく、大川郡・木田郡これに次ぎ、猪鼻越・日開谷・拜原谷の如き毎年耕作時期には國境に於て牛市開始され盛況を呈し、また毎年吉野川當岸の委員地に向ひ、讃岐よりの出稼人の如きもこの通路による。

【讃岐富士】 飯野山(香川縣)の別名。

【讃岐相生】 高徳本線の一驛(昭和十年設置)。香川縣大川郡相生村にあり。

【讃岐財田】 土讃線の一驛(大正十二年設置)。香川縣三豊郡財田村にあり。

【讃岐白鳥】 高徳本線の一驛(昭和三年設置)。香川縣大川郡白鳥本町にあり。

【讃岐津田】 高徳本線の一驛(大正十五年設置)。香川縣大川郡津田町にあり。

サヌマ 佐沼町 宮城縣陸前國登米郡の中部。石巻町の南に隣り東は寶江村に、南は南方村に、西は北方村に界す。西境の一部に一〇〇米内外の丘陵横るも其他の村域は土地平坦、迫川は長沼より排出する夜流等を合せて中部を貫通し、近年は迫川の改修工事により耕地の灌漑の利よく水田拓け、米・麥・繭を主産し綿羊も飼養さる。社線仙北鐵道は中部を通じ佐沼驛(大正十年設置)を置き、縣道また放射狀に四通八達して自動車を通じ郡内の中心邑とす。和名抄に、新田郡山沼郷ありて、中世は佐沼庄といふ。蓋し往古の讃馬郡の地にして、町名はその遺稱なるべし。城内に佐沼城(鹿ヶ城)址あり、文治年間鎮守府將軍藤原秀衡の家臣熊井太郎高直の居城にて、のち南朝の忠臣葛西氏治するに及び次第に開け、豐臣秀吉の全國統一により伊達氏の配下となり、江戸時代寶暦七年直理氏、栗原郡高清水より移封され子孫代々居城し明治維新に至る。此地は早くより自治民權の思想發達せし所にして、吉野時代例延に忠勤し、戰國時代の末豐臣氏の臣木村某、豐太閤の威をかり善政を布きし時、地方民結束して一揆を起し、生命を屠して戰ひ僅に伊達氏これを鎮定すと云ふ。後伊達政宗は亂に與せし者を悉く斬に處しなほ重臣を封じ監視せしむ。この亂により當町は一時衰微し全くの荒野となりしが、飯田流前(平田氏の祖)伊達政宗に請ひ、いまの一市、横丁の街路を企劃し遺民を招撫し街邑を建設復興せしにより今日の隆昌を來せり。その街路は今なほ存す。明治十一年登米郡役所置かれ政治的中心地となり文化開發の機會を作り、中田沼の開墾、仙北鐵道の敷設、河川の改修、教育の助成等の事績ありて益々本町の發展を促せり。其後、數回火災に罹りしも町民の活動と勤勉とにより依然として本郡中央商市として殷盛なり、稅務署・警察署・縣立實科高等女學校等あり。佐沼城(鹿ヶ城)址は昭和三年舊本丸を御即位記念事業とし町營公園となし、舊城郭を象る設計を立て面目を一新す。城址よりは東南一帶に開け眼下に迫川の清流を俯瞰し、遠く北上川の遠山を望み眺望佳なり。

サヌマ 讃馬(郡) 陳奥國(陳前、宮城縣)の古郡名。設置の年代を缺くも日本後紀延暦十八年の條に、陳奥國讃馬郡を新田郡に併合の由見ゆ。中世に此地を佐沼庄といふ新田郡は後に栗原郡に入りしも明治十一年古の讃馬郡の地を登米郡に移す。今の佐沼町は其の遺稱ならん。

サネク 實久村 鹿兒島縣大隅國大島郡の南西部。大島(奄美大島)の西南に近き加計呂麻島の西北半部を占め、東北は大島海峽を隔てて古仁屋町・西方村に對し、西南は請島海峽に面し、南方に與路島を望む。面積附近の小屬島を合せて四一方粁餘。地東南より西北に延び中部に分水山嶺つづき東北・西南の二斜面に分る。東北斜面卽ち大島海峽に面する部分は平島・岬角多く良港灣を抱く。いま全島並に對岸の町村と共に要塞地帶内にあり。耕地面積少なきため米・繭・麥等を僅に產するのみにて、村民の大部は水產業に從事す。もと實久方と稱し、明治四十一年島嶼町村制施行に際し舊域を以て實久村と稱す。

サネダ 實田 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、外五村と共に廢せられ、新たに千代田村を置く。

サネマキ 實蒔原 古戰場。また倉巻原に作る。長享二年、山内上杉顯定一千餘騎を引具して、此地に扇谷上杉定正と戰ひ敗れて走るといふ。いま神奈川縣相模國中郡大山の東麓、高部屋村の北、愛甲郡との境の邊なるべし。

サネモリダニ 實盛谷 松浦線の一驛(昭和六年設置)。長崎縣北松浦郡浦頃町にあり。

サノ 佐野

【佐野村】 茨城縣常陸國那珂郡の東南部。水戸市の東北約八粁、同市との間に川田村を挾む。南は中野村、東は前渡村、東北は村松村、北は神崎村、西は菅谷村・五臺村と境を接す。全村低き丘陵性臺地をなして概ね平坦、畑地多く所々に田地拓け、米・麥等の農產を出す。陳前濱街道は村の西部を縱貫し、藤町・菅谷間の線道は中部を東西に走り、何れもバスの便あり、また省線常磐線は陳前濱街道の東方を南北に走り佐和驛(明治三十年設置)を置く。此地或は和名抄、那珂郡岡田郷の内に屬せしものか。大字佐和はもと澤に作りしが、天保中これを改むと。また大字高場は一に鹿場にも作り菅谷村平野氏文書に其名見ゆ。〔東聖寺〕大字稻田にあり。新義眞言宗豐山派。淨妙心德定院と號し山城醍醐報恩院に屬す。文安二年の創建に係り長宥阿正を開山とす。往時は寺運隆盛なりしも、近世に國内排佛の氣起るや、堂宇一旦廢毀せられ久しく荒廢に委せしを、明治二十四年純晃師これを再興す。

【佐野町】 栃木縣下野國安蘇郡の南西部。足利市の東方約一二粁。東は犬伏町、北は堀米町、西は鹿川村、南は植野村に隣る。足尾山塊の一支脈の南端に近く、關東平野の西北端の一部を占む。全町殆ど平坦にて東半は市街をなし、西半は水田多く米麥を產す。工業・商業を主とし、機業地として名高し。從來は木綿織物・自轉自機を主とせしも現在は錦紗・毛織・絹人子供服地・ロイシャツ地、其他、米國・南洋・印度等への輸出向織物を盛に產出す。また鑄物業、傘・傳物類・箱類の製造、製粉等も盛なり。省線兩毛線は町の中央を縱斷し東部に佐野驛(明治二十一年設置)を置く。同驛に社線東武鐵道佐野線(電車)の交叉點をなし、また佐野線佐野町驛は町の南端に近き植野村地内に置かれ、それより西は足利市、北は田沼町、東は犬伏町、東南は藤岡町(下都賀郡)方面へ道路通じ、何れもバスの便あり交通上の一中心をなす。和名抄に安蘇郡安蘇郷とあるは蓋し當町附近を稱せしもの。萬葉・三「秋風の寒き朝けをさるの岡こゆらむ君に衣かさましを」山部赤人」と見えるさるの岡もこの地ならんといふ。中世は庄名に呼ばれ、藤原秀郷の裔、經行の後、成俊は佐野庄司となり佐野氏を稱す。もとは天明宿といひ東山道の古驛路に當る。延喜式の足利驛・三鴨驛の中間にして當時の驛家にはあらず。太平記には天命宿に作り其後の諸書にも多く見ゆ。或は延喜式の三鴨驛に替るものならん。町名の起源に就き數說ありて今は不詳なるも、奈良朝以來勅使及び征夷の武士下向の折、使道の左を左野、右を右野といひたるに起ると。また一に山谷の狹野より佐野となると、また當地方一帶に昔より麻の產地にて、麻野が變じて佐野となれるともいふ。附近に豐城入彦尊の墳陵跡、彦狹島王の事蹟及び奈良別王・大綱の區の遺蹟等あり。〔佐野城〕唐澤山にある舊城址。鎮守府將軍藤原秀郷の築きしものといふ。秀郷六代の孫領行に至り中絕せしも、其孫、佐野庄司成俊再興して居住し、以來子孫相嗣ぎ政綱の時に至り、慶長七年德川氏の旨を受け天明郷春日岡に移り、同十九年大久保長安の罪に坐し改易に處せられ、信濃松本城主小笠原秀政に預けられしより廢城となる。〔朝日森神社〕大字佐野に鎮座。祭神、菅原道眞。仁安年中に足利俊綱は譴ひて所領を沒收せられしな、北野の天神に祈りてまた本領を安堵せられたるを以て、唐澤山の城中に勸請せるところといふ。慶長年中に今の地に遷座す。江戸時代朱印領十石を有す。古來、當町大部分の產土神にて、俗に朝日森天滿宮と稱せり。例祭、四月二十五日。〔惣宗寺〕金澤町にあり。天台宗。春日岡山と號し、天慶年間藤原秀郷の開基に係り宥尊和尙を開山とす。伏見天皇の勅願所たりき。〔妙音寺〕日蓮宗。天滿山と號し、嘉曆年間天目上人の開山。天保八年二十六世日欣の代に堂宇を再建す。

【佐野中川】 下野國の和歌の名所。今、上野・下野兩國の境を流るる渡良瀨川ならんといふ。夫木・二四「五月雨はいくかになりてせたえむ佐野の中川船かよふらん 神祇伯顯仲卿」

【佐野村】 群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の東南隣。東は倉賀野町、北は大類村と隣りす。西南境を利根川の支流烏川東流し、全村平地にて田畑廣く拓け、河邊には桑畑あり。米麥等の農產多し。中仙道、村の中央を西走し、また高崎・藤岡間の縣道は南方に走り、いづれもバスの便ありて高崎市に近く、交通便利なり。この地古くは和名抄、群馬郡上郡郷の内に屬せしものゝ如し。また一に大宇下佐野邊は佐沒(沒は沼の誤)郷の地ならんともいふ。而して下佐野は神龜三年の碑に下賛郷高田里とある地とす。西光寺の西、高崎より惣岡へ通ずる縣道の傍に「給水の碑」といふ高さ約一・四米幅約三〇糎の石碑あり。これは萬葉集を始め和歌及び紀行に名高き上野の佐野の船橋の證蹟なるも、今の烏川より遠しく隔たりたり。水曾路名勝圖會に「往昔烏川を船橋にてわたせし、その橋をつなぎし大樹今にあり。木かげに舟木の觀音の石佛あり云々」と見え、當時は其地點列於せしものゝ如し。この舟木の碑はその頃建てられしものと思はれ、表面に「可美都氣努佐野乃布奈波之登利渡奈之於也波左久禮麼和波左可禮賀倍」といふ萬葉の歌を刻み、裏面に「右道 佐野渡 昔丁亥孟冬延愛寺良爲誠焉」と刻せらる。佐野の船橋に就きてはいみじき戀愛傳說あり。昔、この地の長者に美しき少女あり、對岸片岡村の長者には聰明なる男子あり、いつしか相思の間となり、人知れず船橋の邊にて相會せしが、女の乳母はその往來を止めんとし、或る晴夜、酒中の船一艘とその上に散きし長板を取り放し置きたり。然るに二人はこれを知らず遂に水中に落ち死ぬりといふ。この物語は有名にて和漢三才圖會などにも見ゆ。また謠曲「鉢の木」に見える佐野渡も船橋の邊の如く思はれ、附近に源左衛門屋敷、源左

衾門八幡等の遺蹟も存ぜるより、時頃巡歴の砌、若し此地を通りしものならばその佐野渡も此附近なるものゝ如し。鉢木「信濃なる淺間の嶽に立つ煙、遠近人の袖寒く吹くや風の大井山、捨つる身になき友の里、今ぞうき世を憑れ坂、墨の衣の雫氷川、下す筏の板鼻や、佐野の渡りに着きにけり。急ぎ候程にこれにはや上野の國佐野の渡りに着きて候、云々」（放光寺址）大字下佐野なる放光神社を以て放光寺址なりと云はる。屋々國史に見ゆる定額寺にして、其の所在を明かにするを得ざると雖も、諸事を綜合するとき大體この附近に寺址を求むべきものと思はる。未だ何ら徴證とすべきものなし、なほ將來の考査に待つべき點多し。

【佐野給橋】 ↓佐野村（群馬縣群馬郡）

【佐野渡】 ↓佐野村（群馬縣群馬郡）

【佐野村】 富山縣婦中國射水郡の西部。高岡市の南隣。東は二塚村、南は西礪波郡戸出町、西は同じく福田村に隣す。庄川・小矢部川の沖積平野の中央に位し水田よく開け、米作を主とし、雜穀・蚕等の農產あり。また組織物・和紙等の工產を出し、牛・牛乳等の畜產もあり。高岡市より城端町に至る縣道、村のほぼ中央を縫貫してバスを通じ、省線北陸本線は北部をかすめ、その高岡驛と中越線二塚驛に近く交通便利なり。此地古くは和名抄、射水郡塞口郷の内に屬せしものゝ如し。その後の沿革は今詳かならず。

【佐野峠】 大菩薩峠の東南方約一二粁に當る峠。山梨縣北都留郡西原村と七保村の境界に跨り、最高點一二三五米。北陸すれば小菅村を經て多摩川河畔丹波に、南降すれば桂川河畔猿橋に至る。一に西原峠とも云ふ。

【佐野（郡）】 遠江國（靜岡縣）の古郡名。佐野郡の地は神武天皇の朝、悉志印旨（佐夜部直祖）を以て國造と定められし素賀國に當るといふ。續紀養老六年の條に遠江國佐益郡の八郷を割きて山名郡を置くと見え、姓氏錄佐夜郡に作り、延喜兵部省式に佐野傳馬五疋と見え、和名抄は山口・小松・邑代・橘樹・日根の五郷を置く。古くはサヤと訓ぜしを誤りて專らサノと訓む。明治二十九年南方の城東郡と合併して小笠郡を建つ。→小笠郡

【佐野】 靜岡縣袋東郡の古地名。もと佐野原といひ、いまの小泉村・富岡村・泉村に亘り、小泉村の大字に名稱殘る。黃瀬川、この地にて七條の瀑布をなし、佐野瀑園（富岡村大字千福）と稱する遊園地經營さる。また泉村大字平松に佐野原神社あり、建武二年十二月足利尊氏の軍と竹ノ下に戰つて退き此地に戰死せる官軍の二條爲冬の墓を祀る。

【佐野町】 大阪府和泉國泉南郡の中部。岸和田市の西南約五粁。これと貝塚町を挾み、南は熊取村・日根野村・長滝村・南中通村及び田尻村に接し、西北は大阪灣に面す。和泉平野の南部にて土地は東南より西北に緩徐に傾斜し、南部に樫井川の分流、中部に佐野川、北境に見出川ありて何れも西北流して大阪灣に注ぐ。海岸線は東北より西南に延び平直なり。こゝは降水量少きため灌漑用の溜池多く分布し米作に便す。農產は米を主とし、麥・玉蜀黍等を產す。また大阪灣岸綿工業地帶の南部を占め、綿工業盛に行はれ綿糸・綿布の產多く、また窯業に磚子製造あり。人口稠密なり。紀州街道は岸和田市・貝塚町方面より中央を西南方へ貫き東北部にて之より分岐する孝子越街道は海岸に近く西南方へ通じ、また貝塚町にて紀州街道より分れる粉河街道は東部を南へ走り南隣熊取村に出づ。社線南海鐵道本線（電車）は東北より西南に貫きて北部に鶴原驛（大正五年開業）を設け、交通甚だ便利なり。古くは和名抄、日根郡賀美郷の內なり。中世は中通莊と汎稱されし處。佐野は一に濱とも市場とも稱し、岸和田以南に於ける大邑とす。古く銅鏡匠ありて名高し。大阪夏の役、淺野長晟の先鋒この地に陣す。大阪夢裏び凱りしとき伊予に退き、南中通村樫井附近にて大いに戰ひ遂に大阪勢を破る。明治四十四年町制施行。昭和十二年北中通村を併合す。

【佐野町】 兵庫縣淡路國津名郡の中部。洲本町の北方一八粁。淡路島の東海岸大阪灣に面す。淡路島埴桑の東側に位し、北部には妙見山（五一九米）あり、山地は花崗片麻岩や片狀花崗岩より成る。海岸には第三紀層分布す。耕地面積少なく農業振はず、僅に山地の斜面及び海岸に水田ありて米を產するのみ。漁業は之に反し盛なり。海岸づたひには岩屋街道（四國街道とも云ふ）通じ、主要道路をなし、鐵道の便は最も惡き地方なり。中世は佐野莊と稱ぜられて、山城國賀茂神社の社領たり。賀茂社文書に壽永三年神領佐野生穗庄と見ゆ。

【佐野】 ↓新宮市

【佐野】 肥後國（熊本縣）の古地名。和名抄に山本郡佐野郷あり、その地今の菊池郡田島村の邊に當るなるべし。菊池氏の族、この地に住し佐野氏を稱す。

サノ 佐濃・佐野 丹後國（京都府）の

古地名。和名抄に熊野郡佐濃郷あり。中世は佐野莊と云ひ、莊名は保元三年の辨官符に見えて、石清水八幡宮寺領なり、正應中、佐野郷二十五町九段餘、內佐野莊九町、佐野一邑十三町五段餘と注す。されば公領の郷地として存するもの僅に三町四段餘に過ぎず。地はいま上佐濃・下佐濃の二村に分る。

サノガワ 佐野川村 神奈川縣

相模國津久井郡の西北隅。甲州街道に沿ふ與瀬町の西北にて、東南は澤井村・小淵村・東北は東京府南多摩郡恩方村、北は西多摩郡檜原村、西は山梨縣北都留郡上野原町・楢原村と隣りす。面積一一・七二平方粁。國東山脈の支脈の山地中にあり、北境にある生藤山（九九一米）、東境に聳ゆる陣馬峠（八五七米）の南と西の斜面にて、山林多く耕地乏し。養蠶を主業として繭を出し、農產には麥・馬鈴薯・甘藷等あるのみ。上野原町・吉野町及び恩方村へ道路通ずるも、交通なほ便利ならず。

サノモ 讃甘村 岡山縣美作國英田

郡の東部。北より西北は東粟倉村・大原町・大野村に、西南は大吉村に接し、東南は兵庫縣佐用郡江川村・石井村に隣す。村は東北より西南に伸び狹長なる形をなす。村內一般に高度三〇〇—四〇〇米の山地多く森林地をなし、吉井川の上支吉野川、大原村より來りて西南部を流れそれに沿ひ幅狹き低地ありて耕地拓くるも全有租地の二六%に過ぎず。農產は米を主とし、麥・繭等あり、特產に生柿・蒟蒻等を出す。北隣大原村より來る縣道は、一は中部を南して釜坂を越えて播州佐用町に出で、他は吉野川に沿ひて西南に下り出雲街道に合し、バスを通ず。和名抄に英多郡讃甘郷あり、刊本は訓を闕くも高山寺本は佐奈保と訓ず。サナモ・サヌモとも訓みしが、今はサノモと發音す。大字宮本に郷社讃甘神社あり、大已貴命を祀る（例祭十月二十五日）。また同大字は劍客宮本武藏の誕生地と傳へ、いま宮本武藏の碑あり。美作略史によれば天正の頃、宮本村に赤松の庶流新免無二齋と云ふ劍客あり、其子、政名は即ち武蔵なりと云ふ。

サバ 佐波

【佐波村】 岐阜縣美濃國稻葉郡の西南端。岐阜市の南約四粁。北は鶴村、東は羽島郡柳津村、南は同郡足近村・小熊村、西は日置江村に接す。東部より南境にかけて境川流れ、北部には荒田川西南に流れ長良川に合流し、西部には荒田川或は境川の舊流路と思はるる水路ありて、全く川に四周を圍まる。境川とは美濃・尾張の境の川の意味にて木曾川の舊流路をいふ。かくて此地に輪中形成され、百曲堤輪中と云ひ加納輪中の中に含まる。桑落は堤防に接して發達し水害を避け、東部鶴・佐波は七・五米の等高線に圍まるる境川の自然堤防上に發達す。堤內は悉く水田となり、堤外地は桑園に利用さる。生業の九八%までは農業にて、副業としては養鶏も行はる。此地方は水害を被る爲に川の水は灌漑に用ひられず、專ら風夜井戸に依つて灌漑をなす。北部を近年岐阜と大垣をつなぐ岐垣國道通じてより頓に交通の便を得る。大字高桑は中世より書見し、分縣系圖土岐左京大夫頼益の條に「池田美濃守頼忠、子頼益、於尾州古井、濃州高桑、並牧城、數度亡敵」とあり。

【佐波】 石見國（島根縣）の古地名。和名抄に安濃郡佐波郷あり。地は今の邇摩郡大森町・久利村の邊に當る。

【佐波】 石見國（島根縣）の古地名。和名抄に邑知郡佐波郷あり。中世この地に澤氏を稱する豪族あり。光厳帝の頃澤善四郎あり、太平記に佐和と見ゆ。地は今の邑智郡吾郷村・鮎渕村・濱原村・澤谷村に當る。

【佐波】 廣島縣沼隈郡にありし村。昭和八年福山市に編入。

【佐波郡】 山口縣十一郡の一。周防國の西部、北は阿武郡、東は都濃郡、西は吉敷郡に各隣り、南は防府市に接し、また東南及び西南は海に臨み、東北隅は島根縣鹿足郡に界す。北境に分水嶺をなす野道山（九二四米）・津々良岳（七三三米）・高羽ヶ岳等の諸峰連り、五〇〇米內外の山脈南に延び、東境及び西境を限り、郡內殆ど山地にて、北部山地に發する佐波川中部を西南に流れ、流域に僅に沖積地をつくる。生業は農業を主とし米・麥の外大豆・甘藷・蒟蒻芋等あり、山地よりは木材を出しまた楮紙を製する所あり。南部海岸地域には漁業・製鹽行はる。國道山陽道は南部をほぼ東西に通じ、右田村にて山口市に至る國道及び佐波川に沿うて阿武郡に至る縣道分岐し、省線山陽線は山陽道に沿ひ走る。郡名の稱呼については、附近の海中多く鯖を產するに起因するならんとの說あれど如何にや、勿論、佐波川（鯖川）といひ、鯖山といひ、小鯖村といひ、種々「さば」と呼稱せらるゝ地名は佐波郡內及び吉敷郡にあれど、恐らくは上古の佐婆部に因りしものなるべく、必ずしも鯖そのものに起因すと稱し得ざるべし。書紀・神功元年紀に沙麼縣、續日本紀・天平神護元年の條に佐波郡、同書延曆十年の條には佐婆郡と見え國華萬葉記には鯖郡に作る。延喜式以後佐波郡に作り、和名抄は波の音を馬と註す。また周防國府の所在地。仁德天皇朝に都怒國造田鳥沼瓮の孫、米多臣が居地に因りて佐婆部首となりし處といはれ、大化の新政には都濃・佐波の二郡に分つ。和名抄は牟禮・建良・佐波・日置・玉祖・勝間の六郷を置く。明治二十二年四月一日町村制實施の際には、郡役所を防府町に置き、その管轄を二町・十二ヶ村とす。大正十年郡役所を廢止し、各町村は直接に縣の監督下に置かれ、爾來佐波郡の名は單なる地域的稱呼と化せり。その後昭和十一年八月二十五日、防府町及び中關村並に牟禮・華城の二村を廢し、此等の地域について防府市を設置するに及び、佐波郡の範圍は僅に富海・西浦・右田・小野・出雲・鳥地・和田・串村・八坂・楠野の十ヶ村のみとなる。

【佐波川】 山口縣周防國佐波郡にあり。一に鯖川とも書す。世上往々にして「さばがは」と呼ぶは誤なり。源は同郡の北部、楠野村の山中に發し、南下して出雲村大字堀に至れば、東南流する鳥地川を合せ、水量を加へ、以下は社線防石鐵道の西側に沿ひて南流し、小野村を經て防府市に達し、右田・西浦兩村の間に於て大海灣に注ぐ。延長約四五粁。東大寺造

立供養記に、俊乗坊、佐波川の上流に於て伐木を行ひ、以て東大寺造立の用に供すべく之を奈良に送らんとせしが、佐波川の水浅くして筏を下すを得ず。因りて七里の間に水を開く所百十八處、新に河を掘りて江海に通ずと云ふの記事あり。現在と雖もこの川、水浅きを以て舟筏を通ずるに便ならざること古の如し。

【佐波】 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に佐波郡佐波郷あり。蓋し郡家のありし處なるべし。近世は村名に呼びしが明治三十四年三田尻村と合併し防府町を建つ。防府町は更に昭和十一年本郷・中園・華城の三村を合し防府市を置く。

サバ　佐婆

【佐婆】 伊豆國(静岡縣)の古地名。和名抄に田方郡佐婆郷あり、其地、今の田方郡錦田村の邊なるべし。豆州志に佐婆郷廢せられ大場村は一名澤郷と稱し、谷田に佐婆池の跡ありといへば、中郷村の一部、大場・北澤・多呂・中島等も郷域なりしものか。

【佐婆津】 周防國佐波郡の古津。豊後風土記・逸見郡「昔者難向田代宮御宇天皇欲幸筑紫、従周防國佐婆津泊於海部郡宮浦」。景行紀の娑麻、仲哀紀の沙麻之浦もこの地に同じ。山口縣防府市の海濱を稱せしものなり。

サバ　娑婆水門　備後國沼隈郡の古地名。いま鹿田川右岸に佐波といふ地あれば、娑婆水門は或はこの河口のことなるべし。清寧天皇の朝に吉備臣尾代が、その部下たる蝦夷人の反亂を起したるを征伐したる地なり。雄略紀・二十三年「於是尾代従家来、會蝦夷於娑婆水門、合戦而射」

サバエ　鯖江

【鯖江町】 福井縣越前國今立郡の西北部。武生町(南條郡)の北方約四粁、福井市の南方約一四粁。北は中河村、東は新横江村、南は國高村に接し、西は日野川との間に舟津村を挾み、面積僅に〇・五三方粁。福井平野の南部、日野川の沖積地にあり、町の北方と南方に小岡ありて土地高燥なり。養蚕盛にして小工場多く、絹織物・人造絹織物等の產額多し。省線北陸本線通じ鯖江驛(明治二十九年設置)あり。驛はまた社線鯖浦電鐵(鯖江・織田間)の起點驛なり。國道(北陸道)また南北に町を貫き、東南粟田部、西方織田に至る縣道これと交り交通便利なり。昔は眞宗祖師法門の中軸にて、藩政時代は鯖江藩の城下町として發達し、のち郡役所所在地となり、現在は織物町として縣下に喧傳せらる。元祿時代には僅に三十戸前後の人家を有する鯖江本山誠照寺の門前町に過ぎざりしが、享保六年、間部詮言、越後より轉封(五萬石)してより漸く開けしも、廢藩後、郡役所は武生町に移されしを以て日に衰へたり。のち今立郡役所設置され再び商工業起り、明治三十年鯖江三十六郷隊の立特村に置かれてより益々盛大となり、現今にては生糸・羽二重・人絹・紋織・紙等の集散地として商工廠舗は主に國道北陸道に沿ひて相並び、羽二重・人絹・精練等の大工場亦各地に點在す。裏町に農家も相交り製茶業亦見るべきものあり。此外、陶器としては玉山燒あるも產額は僅少なり。此地古くは和名抄、今立郡舟津郷の地、もと鯖矢または鯖屋と稱せしが、吉野時代には鯖江と稱し、天文・弘治の頃には中村と稱す。藩政時代に至り松平忠昌、中村を廢し鯖江に復し上鯖江・東鯖江・西鯖江に分つ。其後、松平侯の手を離れ幕府の直轄となり、享保六年より間部氏なむかへて鯖江藩の城下町となる。かくて天保十二年西鯖江を東に鯖江と呼び今に至る。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の砌の惜陰小學校御小休所あり。いま町内に警察署・憲兵屯署・輪出柔検査所等の外各種の會社工場あり。〔鯖江館址〕警察署の前面がその表門にて、初めは陣屋なりしも、寳暦七年の頃より城となり、享保以後、間部氏これに居る。間部氏は藤藩原任の出と稱し德川譜代の諸侯の一たり。明治に至りて城廢す。〔遍德館〕天明八年藩主間部詮熙、藩の子弟を集め學問せしめしに始る。文化十一年五月校舍を今の間部子爵邸の地に建て芥川輯を聘して藩士を教育せしむ。のち廢藩と同時に館も閉ぢられ學制發布と共に本館址に惜陰小學校を創立せしが、同小學校は其後、他に移さる。〔松阜神社〕東小路に鎮座。郷社。祭神間部詮言、同詮房・豊受姫命外七柱。天明年中、士民一祠を建てて之を祀りしに創まる。〔誠照寺〕深江にあり。眞宗誠照寺派本山。上野山と號し眞宗十派の一にして、俗に鯖江門跡と稱せらる。永元元年親鸞聖人越後國々府左遷の途上、上野の草舍に留錫して竊かに布教に努む。これ上人化他布教の嚆矢にして、また本寺草創の靈蹟たり。嘉禎元年道性上人(當山第二世、聖人第五子)本寺の建立を企て、弘安二年工成る。嘉元三年道性五十五歳の時、後二條天皇の御篤依を受け、眞照寺の寺號・勅願等を賜ひ且つ勅願所たるべき旨勅宣せらる。爾來繼新に至るまで歴代の住持參內して綸旨を賜ふを例とす。のち花園天皇更に誠照寺の號を賜ふ。當時寺運隆盛を極めしが、天正四年羽柴秀吉に抗し一山悉く灰燼となる。爾來歴代皇室、德川家等の崇信を受け漸次諸堂の再建成る。爾後本寺の第二十二世以下第二十五世に至る諸上人は何れも宮家の出にして、萬延元年准門跡地の宣下を賜ふ。文久二年諸堂炎上せしが、のち漸次再建成る。現に五十三ヶ寺の門末を統ぶ。諸堂宇完備し末坊また悉を並べて偉觀たり。〔萬慶寺〕曹洞宗。釋迦如來と文殊菩賢の脇士を本尊とす。寳永五年永平寺二十三世秀察禪師開居の地として萬松寺を創せしに初る。享保五年永平寺三十九世大清進國禪師來りて享淨山萬慶寺と更め、間部侯累代の菩提所とす。現今の堂宇は文化十一年の建築なり。

【鯖江】 北陸本線の一驛(明治二十九年設置)にして社線鯖浦電氣鐵道の接續點。福井縣今立郡新横江村東鯖江にあり。

サバガミ　娑婆神峠・鯖神峠　讃本縣八代郡八代町の北東方約一五粁、下益城郡小野郷田村の東部にある峠。最高點附近を娑婆神山とも云ふ。古風土記に見ゆる白髮山はこの最高點附近を稱せしと如し。寳暦年中、倒立善兵衛、近村の人々の力にて施米を得、窮民を救ひ、峠道の改修をなせりと云ふ。

サバカワ　鯖川渡　山口縣佐波郡の佐波川の下流宮市より分岐して三田尻港に入る川の渡津の稱。大内家壁書、應仁元年佐波川鯖川、渡定法、舟賃二瓶之事、往来人、壱文壱瓶」

サバシ　佐橋　越後國(新潟縣)の古地名。また鯖石にも作る。東蒲・文治二年の條に「六條院領佐橋庄、一條院女房右衛門佐局沙汰」とあり。その地は今の刈羽郡(もと三島郡内)鯖石川の流域に當り、南鯖石・中鯖石・北條・田尻・北鯖石諸村の邊なりと。

サハタ　雑太

【雑太(郡)】 佐渡國(新潟縣)の古郡名。古くは雜太國と稱し、佐渡全島を稱せしも、元正天皇の養老五年これを割きて賀茂(後に加茂と改む)・羽茂(後には ハモ又はハモチと訓む)の二郡を置く。和名抄は佐渡太と註し、岡口・石田・與知・高家・八多・竹田・雑太の七郷を置く。名稱の起源は詳かならざるも雑太は即ち多田にして郡内水田多きに因むといふ。明治二十九年前記の三郡を合併し佐渡郡を建つるに及び郡名を失ふ。養老以後の雑太郡は凡そ今日の佐渡郡の西部即ち眞野灣に臨む地方に當る。

【雑太】 佐渡國(新潟縣)の古地名。和名抄に雜太郡雜太郷ありて佐波多と訓す。往昔は佐渡國府のありし處。延喜兵部省式に佐渡國雜太驛馬五疋と見ゆ。地は今の佐渡郡眞野村の内なるべし。

サバナミ　鯖波

【鯖波】 ←南福山村(福井縣南條郡)

【鯖波】 北陸本線の一驛(明治二十九年設置)。福井縣南條郡南日野村にあり。

サバネ　猿羽根峠　羽州街道にある峠。最高點は山形縣最上郡新庄町の南方約一〇粁、最上川支流小國川の左岸に位し、北村山郡福原村と最上郡舟形村との境界にて標高一四五米。南方の尾花澤盆地と北方の新庄平野との分水界をなす。北陟すれば舟形村字蛸形に、南陟すれば福原村苔澤に至る。この峠附近より尾花澤に至る間は最上川峽谷の奥地に當り、日本の三大深雪地として知らる。

サバノ　鯖野　陸奥國(岩代、福島縣)信夫郡の古地名。いま佐場野に作り信夫郡平野村大字井佐野の地名。此地は奥の細道に「月の輪のわたしを越えて瀬の上といふ宿に出づ。佐藤庄司の舊跡は左の山際一里半ばかりに有り、假塚(飯坂)の里、鯖野と聞て尋ね〳〵行くに丸山といふに尋ね當る、これ庄司の舊館なり。云云」と見ゆ。

サバヤマ　鯖山峠　←小鯖村(山口縣)

サハラ　佐原村　茨城縣常陸國久慈郡の西北部。大子町の西北に隣り、南は依上村、東北は宮川村・黒澤村に、西は栃本縣郡須郡賀川村と界す。八溝山脈北部の東斜面を占め、西北嶺に花園山(六八九米)、西嶺中央に高戸山(五八一米)あり。南境にも約四〇〇米の山地をなし全村山地多し。久慈川に入る押川の支流これ等山地の裾合谷を東南に流れ、これに沿ひて耕地ありて烟地・田地拓け、麦・米・葉煙草・茶等の農產あり、また養蠶行はる。川に沿ひて縣道あり。大宇佐貫より大子町間にバスの便ありて省線水郡線常陸大子驛に連絡す。往古の事は詳かならず。明治二十三年依上村の内、櫛野地村・初原村・佐貫村の三村を合併して新設す。勤王の志士塙江芳之助(贈從五位)は此地の人。

サビ　佐備　河内國(大阪府)の古地名。和名抄に石川郡佐備郷あり、延喜式神名帳河内國石川郡に佐備神社あり。其地は今の南河内郡千早村・東條村の邊に當り東條村の大字左備は郷名の遺稱なり。

サビエ　左比江・佐毘江　攝津國兵庫に於ける船著場にて往昔の蕃古水門の遺跡といはる。其位置は湊川の舊河道の西に位し海を距る數町、いま神戸市兵庫區の町名に僅に其名を存す。往時は青樓娼家多かりしと。後撰・雜一「年を經てにこりたにせぬ佐比江には玉藻かへりて今そ澄むへき　壬生忠岑」攝津名所圖會「佐比江の入口にして青樓多し。佐比江とは清からぬ入江の名なり」

サビキ　——社　臺灣臺南州嘉義郡にある蕃社。曾文溪の上流にあり、高砂族の部落にしてツオウ族の中タパヅグ蕃に屬す。蕃語は Tapsiki. 古くは砂米筑の字を充て、サビキは槇鄙の意より起る。部落中に若干のアヌン族あり。

サビシロ　淋代　←三澤村(青森縣上北郡)

サヒナイ　佐比内村　岩手縣陸中國紫波郡の東南部。北は赤澤村に、西は彦部村に接し、東より南は稗貫郡に境す。地は方形をなして南北に短く早池峰・鶏頭山脈より分脈せる朴金山脈、矢柄峠・臼ヶ平丘等の連峰は村境を繞り、中部には中山の丘陵聳起し殆ど山地をもつて充され、耕地は僅に佐比内川の流域及び丘陵の傾斜地、澤地に之をみる。曾ヶ澤・平栗・硫ヶ崎(以上部落名)・高雄山(石灰岩山)等より發する水は宇館前にて合して佐比内川となり、本村の中央部を灌漑

し鳴村淺郷村に入る。地質は古生層・洪積層より成る。古生層地帯は北上川の東中部長岡村以南の山地を構成するものにして本村の大部分を占む、岩種は粘板岩を主とし、高雄山一帯の石灰岩と谷地山一帯の花崗岩とを挾む。洪積層地帯は所謂第四紀層にして、牛之頭及び館前（部落名）の一部を除きては埴質を帯び牛之頭・田屋・館前に連る沖積層に添ひその西部一帯にあり。縣道盛岡盛線（盛岡—盛）は舊釜石街道にして明治初期迄は交通非常に頻繁にして殊に盛岡市・大迫町・遠野町等の往復盛なり。然れども日詰大迫線の通ずるや自然に往来衰へ現在にては僅に村民の通路たるに過ぎず。日詰大迫線（日詰—大迫）は牛之頭・田屋・館前・横町（横町にて盛岡盛線に合す）の諸部落を貫通す。産業は農業を主とし米・粟・馬鈴薯等を産し、特殊産物に石灰・木炭・煙草あり。佐比内村々是調査に依れば、佐比内なる語源はアイヌ語の「サピナイ」より来り、数箇の渓谷の集合せる場所を意味すと云ふ。本村は寛成の曾孫川村喜助の領土なりしが、天正十九年十一月南部信直が領し、藩治の下に人口漸く増加するに及びて旺に開墾事業を奨勵し一村部落を成す。元和八年十一月朴澤金山採掘巻まり、次で寛永四年三月八戸孫六郎本村を分與せられ小藩屏を形作りしため自然別封土の民情を遺憾す。その金礦事業再び盛に行はれ他邦より坑夫の移住するもの跡から少、宇川原町に官衙を設け八戸孫六郎の家来岡野安助代官となり盛岡遠野の藩用を便宜にす。字横町に檢断役なる者を置き、有平なるもの村内を監督し暴犯を未發に防ぎ殖産興業を專ら勧誘し、降つて延寛三年九月遠野領に檢地あり、本村皆高二百二十一石八斗二升八合を割き下佐比内と稱し、同年十一月南部重直が領す。次いで十二月下神田の重三なるもの家産衰へ山林を鬻がんとするに方り、村肝煎宅左衛門なるもの村民を會して理財の道を懇諭ぜり、一同之に感奮し毎戸應分の出金額百二十貫を以て之を償ひ得たり。其の反別三十八町二反六畝二十九歩即ち本村永久基本財源大字中山共有山林これなり、實に一大美事なり。文政十年五月南部利敬下佐比内を更に八戸上總に賜りし外、事蹟詳するものなし。維新後は兩村一園となり共同精勤諸般の事業の改良を図り自治の基礎たる村有財産亦完成をつげんとす。（佐比内館跡）古く碧軍森と稱し、坂上田村麿東征の際の野營の地と稱せらる。今は村社熊野神社（祭神伊弉諾・伊弉冉二命）鎮座す。

〔岩谷觀世音〕 字芳澤高雄山麓にあり。古く蝦夷の首長大毛人なる者の住居たりと言ふ。石灰洞窟にて高さ四米、幅三米、奥行八米、入口は楕圓形にして頗る珍らしき洞窟にして奥に觀音像を安置す。當國十四番の札所たり。例祭、陰暦七月十日。〔機織洞（鍾乳洞窟、俗稱くぐり穴）〕 岩谷觀世音の南五〇米の地點。奥行は約百五十米その先は三叉に分れ行くことを得ぬ狹洞となる。廣き所は幅五米高さ三米餘、鍾乳石・石筍あり。又編編棲息す。往昔、靈人の此處に入れるに機織の音を聞きしに依り此の名起ると。

〔高雄湧口〕 機織洞と同峰の高雄山麓にあり。石灰岩底隙より清水湧出し、旱天にても湧水することなく佐比内川の源泉たり。延暦の御代に田村將軍宿營の砌、歳旱に遭ひ軍兵湯水に苦しみし時、將軍神に祈念し岩窟を穿ち、清水を得たりと傳へらる。〔高雄山と石灰採掘場〕 高雄山は全山石灰岩にして山麓は名勝地と稱するに充分なり。殊に石灰採掘場は山麓より八合目附近まで屏風の如く聳え立ち、岩手石灰工業所の外個人經營に係るもの一あり、從業員約百名、製品は主に松尾礦山に向ふ。石灰岩爆破の音全村を毎日の如く搖がし石灰焼く煙絶ゆる事なし、又秋季の高雄山は滴山これ紅葉、朝陽に相映發し美觀言ふべからず。

サピノウミ　鉏海水門　書紀神功紀に見ゆる對馬國の古地名。神功皇后の五年、新羅使を遣して朝貢す。この時豫て我國に質たりし微叱許智を本國に遣れ歸らんとて偽りて曰く、微叱許智永く日本に在りて歸らざるを以て墨之妻孥を奴とせり、乞ふ暫く國に歸りて虚實を探らんと。朝廷これを許し特に將軍葛城襲津彦を副へて新羅に至らしむ。途に鉏海水門に泊せしとき使臣所從津彦を散き、密に微叱許智を別の舟に乗せて新羅に逃れしむ。鉏海水門の地いま不明なるも、日韓交通の要衝たる對馬國下島北端の上縣郡豊崎村の鰐浦、即ち往昔の和珥津にあらざるか。古事記に鰐魚を佐比持の神と稱せるより見れば、佐比は即ち鉏にして鰐浦を稱せしものか。後攷を俟つ。

サヒメ　佐比賣

【佐比賣村】 島根縣石見國安濃郡の東南部。大田町の東南隣にて、東は益川郡山口村及び飯石郡志々村、南は邑智郡澤谷村・柏淵村及び君谷村と界す。面積六七・六五平方粁、郡の約三四%を占む。東端に三瓶火山（一一二六米）峙ち西と南に急傾斜をなすも、その他の大部分は高度二—三〇〇米の臺地狀をなす處多く、概ね平坦にして静間川の上流中部を西北に流れ、林野廣きも田畑またよく拓く。農産に米を主として蔬、林産に木炭・用材を出し、また牛の産少からず。大田町との間にバスの往来ありて交通不便ならず。村の東南部三瓶山南麓に志學温泉あり、アルカリ性炭酸泉に属す。土地高燥眺望雄大、夏期三瓶山登山者の休憩地として著ほる。古くは和名抄安濃郡高田郷に属せるものか。大字多根に村社佐比賣山神社あり、延喜式に見ゆる古社とす。神祇志料によれば、この社は大己貴神を祭る。昔、大神少彦名命・須勢理命、伯耆國大神山に御座し、次いで出雲國山來郷に来座して、百姓に論錄を授て農事を教へ給ふ、其地を田歌と云ふ。夫より琴引山に登り坐し、次に石見の佐比賣山に至り、池を作り鍬を掛け、稲種を蒔き民に鋤鍬を授け給ふ、故に此里を田根と云ふと。〔志學温泉〕 泉質は無色透明のアルカリ食鹽性炭酸泉にて、微しく療養向なり。三瓶山の南麓に位し前方に廣濶なる裾野を展望し風光壮大なる仙境をなす。この地方雲霧多く南方一帯の連山峡谷に雲霧来襲せる時は恰も海を隔てたる鳥嶼を望むが如く、所謂三瓶名物霧ノ海の稱あり。附近に第五師團砲兵演習場・大放牧場・夫婦松・片腕松などあり。〔小屋原温泉〕 食鹽性炭酸泉、療養向なり。三瓶山を後に、野城川の清流に面する閑寂の地にあり。山の湯の情緒に富む。〔高田八幡宮〕 大字池田に鎮座。郷社。品陀和氣命・息長帯姫命・帯中津日子命を合祀す。後堀河天皇の御宇、寛喜二年山城國醍醐寺郡男山八幡宮より勧請して創建するところ。例祭、四月十日。

サフ　佐補　信濃國（長野縣）の古地名。和名抄に諏訪郡佐補郷あり、左布と訓ず。其地いま詳かならざるも諸郷の位置より推せば湖水の南、即ち諏訪郡豊田村・湖南村等の邊に當るか。一に上伊那郡朝日村の邊まで郷域なりしともいふ。

サフリ　佐分利村　福井縣若狭國大飯郡中央部の南偏。東は本郷村、北は和田村・高濱町・青郷村に接し、南は遠敷郡三國村と長野縣下高井郡堺村との境界にあり。標高二一九二米。美しき針葉樹を以て掩はる。

サベリ　山邊里村　新潟縣越後國岩船郡の中部。村上町の東に隣る。門前川（三面川の一支）の山谷を占め、北は館腰村と猿澤村、南は神納村・女川村に接し東は山形縣西置賜郡北小國村と界す。東西一六粁餘、南北三—六粁、面積七〇平方粁餘を占む。東境は越後山脈北部の寒ノ巣山の山脱にして高度五〇〇米の山地なるも、玆に發する前川中流以西の兩岸には平地ありて田畑拓く。純農山村にて米産を主とし蔬を副す。西部は村上町に近く交通不便ならず。此地古くは和名抄、磐船郡佐伯郷の内に属せしものの如く、村名は蓋し郷の遺稱ならん。相川（いまの大字上・下相川）は一に鮎川にも作り鮎川氏の發祥地とす。北越軍記に、鮎川掃津守は本庄氏の一族なりしが、本庄房長死去後、その子繁長の幼少なるに乗じて逆心を起せしが、僅か十三歳の繁長の爲に討取られ、のち繁長第五番目の子を以て鮎川氏を稱せしむといふ。〔耕雲寺〕 大字門前にあり。曹洞宗。雲樹山と號し應永元年僧堂能勝の開創にして、其師梅山を以て開山となす。開祖村上氏・堀氏等の墓数を受け、近世は寺領百五十石を有し、堂宇壮大なりしも近年衰上せしより舊觀を失ふ。

サフリ　佐布里　愛知縣知多郡にあり。明治三十九年、外二村と共に廃し八幡村を設き、八幡村は大正十一年町制を布く。

サブレ　佐武流山　上越國境清水山塊の西端部に聳ゆる山。新潟縣南魚沼郡三國村と長野縣下高井郡堺村との境界にあり。標高二一九二米。美しき針葉樹を以て掩はる。

サベリ　山邊里村　新潟縣越後國岩船郡の中部。村上町の東に隣る。門前川（三面川の一支）の山谷を占め、北は館腰村と猿澤村、南は神納村・女川村に接し東は山形縣西置賜郡北小國村と界す。東西一六粁餘、南北三—六粁、面積七〇平方粁餘を占む。東境は越後山脈北部の寒ノ巣山の山脱にして高度五〇〇米の山地なるも、玆に發する前川中流以西の兩岸には平地ありて田畑拓く。純農山村にて米産を主とし蔬を副す。西部は村上町に近く交通不便ならず。此地古くは和名抄、磐船郡佐伯郷の内に属せしものの如く、村名は蓋し郷の遺稱ならん。相川（いまの大字上・下相川）は一に鮎川にも作り鮎川氏の發祥地とす。北越軍記に、鮎川掃津守は本庄氏の一族なりしが、本庄房長死去後、その子繁長の幼少なるに乗じて逆心を起せしが、僅か十三歳の繁長の爲に討取られ、のち繁長第五番目の子を以て鮎川氏を稱せしむといふ。〔耕雲寺〕 大字門前にあり。曹洞宗。雲樹山と號し應永元年僧堂能勝の開創にして、其師梅山を以て開山となす。開祖村上氏・堀氏等の墓数を受け、近世は寺領百五十石を有し、堂宇壮大なりしも近年衰上せしより舊觀を失ふ。

サホ　佐保

【佐保】 奈良市西部の地名。もと添上郡の一村なりしが、大正十二年奈良市に編入す。佐保山・佐保川あるを以て著名なり。佐保は土地にてサホと發音しサオと云はず。

【佐保山】 奈良市の西部にある山。奈良山の一部にて、麓を佐保川流る。南丘の眉間寺山には聖武天皇の佐保山南陵、東北に光明皇后の佐保山東陵、西北には文武天皇の皇后宮子の佐保山西陵あり。山は古く萬葉集に見ゆる歌の名所、また秋の立田姫と對稱さるる佐保姫の古事を以て知らる。傳へ云ふ、昔、大宮右大臣藤原俊家、その氏神の和州春日明神に參詣し、佐保山に登りて四方の景色を眺むるに、いと麗しき女性の妙なる衣を晒す、よく見るに銀色かがやき異香薫じて妙なる白衣に縫目なし、こは如何なる衣かと問ふに、これは人間の織る衣にあらず、「裁ち縫はぬ衣きし人もなきものをなに山姫の布さらすらむ」と詠まれしも、この衣なりと答ふ、然らば御身は仙女かと問ふに、仙女にはあらざるも佐保山の山人なれば佐保姫とや申すべきとて、佐保姫の月の夜並を御覧に入れんと、霞の衣の羽袖もたをやかに神樂を奏して舞へりと。萬葉・三一佐保山にたなびく霞見ることに妹を思ひ出泣かぬ日はなし　大伴家持」詞花集「佐保姫の絲染めかくる青柳をふきな霞りそ春の山風」

【佐保川】 奈良縣添上郡を流るる大和川の一支流。一に奈良川とも云ふ。源を嫩草山(三笠山、三四一米)の東麓に發し、鶯瀧を懸け、北西へと三笠山の小トロイデの山麓を廻り奈良坂を通り、奈良市北方に至り沖積地を作り、佐保山の南を經て奈良盆地に出づ。之より盆地北部晴慈附近にて直角的に南折し、盆地底を南流す。この邊りにては大體天井川をなし、今は淺きも往昔は水量豐富にして、洪水時には氾濫し往々水害を與へたり。灌漑にはあまり用ひられず。川は郡山町の東を眞直に流れ、二階堂村あたりにて又西折し、所謂大川と呼ばれ初瀬川に合流し大和川となる。支流には奈良市北部を東西に流れる城川(水谷川)、中部嶽澤池等を繫ぐ率川、市の南を流れる能登川あり。高圓山(四六二米)東麓に發する岩井川は山麓を廻り、鹿野苑附近に春日斷層崖を開析し奈良盆地を西流し京終の南を流れ辰市村にて佐保川に合流す。郡山町北部にては西ノ京丘陵の平城村に發する秋篠川を合せ、この川は凡そ西ノ京丘陵の東麓奈良盆地西緣を直線狀に流下し、郡山町北部にて東折し大川に入る。以上の如く佐保川は奈良盆地北部の諸川を合せ、各々大和高原を開析し、それぞれ盆地に沖積層を堆積しつつ低部に向ひ本流に直交し流る。

ザマ 座間町 神奈川縣相模國高座郡中部の西偏。北は新礒村、東は大和村、南は海老名村に隣り、西は相模川(馬入川)中流を隔てて愛甲郡依知村と境し、西南方厚木町に近し。面積一七・四平方粁。東半部は謂ゆる相模野臺地の一部にて高さ五〇米の平坦地、畑地と山林原野をなし、西半は相模川の洪涵原に屬し低平卑濕にて水田よく拓く。米・麥・甘藷・馬鈴薯・粟・豆等の農產を出し、また養蠶盛にして繭を多產す。厚木より横濱に至る縣道東西に、北方橋本に至る縣道は南北に貫き、また社線小田原急行鐵道(電車)略南北に走り、士官學校前・座間遊園の二驛(昭和二年開業)を設け、相模鐵道また西部を縱貫し、本座間驛(昭和六年開業)を置き交通便利なり。村の東部には陸軍士官學校新築なり、その附近は相武臺の佳名を下賜せらる(昭和十三年)。この地は和名抄、高座郡伊參鄕の地にして、近世は澁谷庄に屬す。昭和十二年町制施行。大字座間は續日本紀・寶龜二十二年の條に夷參驛とある地にて、のち夷參を伊佐間と轉じ、伊を稱略して、ざまと唱へ後今の文字を用ふるに至りしもの。應永の頃は既に座間と稱せりといふ。文明年間に白井織部是岳なるもの地頭職たり、小田原北條氏の頃は支族陸奥守氏照領せり、其後、膝田帶刀・大久保彌之丞數文の釆地たりしところ。村内に相模野基線の中點あり。これは明治十五年の設置にして全國を統一したる一大地測量の根基をなすものにして、長さ大正十三年改測五、二一〇米二一二五あり。〔鈴鹿明神社〕大字座間入谷に鎭座。鄕社。祭神伊佐那岐命・須佐男命。欽明天皇の頃の創立と傳ふ。もと高座郡の總守にして、鈴鹿大明神と號せしが、明治二年鈴鹿明神と改稱す。例祭は九月一日。〔星谷寺〕座間入谷にあり。眞言宗高野派。妙法山持寶院と號す。天平年中に行基菩薩の創建に係る。境内に觀音堂あり、俗に星谷觀音と稱し、坂東三十三所第八番札所たり。詠歌「さはりなきまよひの雲を吹拂ひ月もろともに拜む星谷」

ザマ 座摩 大阪市東區内の地名。東區南渡邊町五丁目座摩神社境内の地名。男色大鑑・八「京の地東平野の岸くずし、寺島のしだり柳絶屋の喧嘩母衣、座摩の前の宮白尾なし公平、此外名鳥かぎりなく」膝栗毛・九下「座摩の社地をいでしより、煮うり茶屋に入て酒くみかはし、ほろ醉きげんと成、心おもしろげにうかれ立て」

サマキ 沙馬礒 臺灣高雄州恒春郡の古地名。古書に見ゆる臺灣南端の地名にて現在は全く用ひられず。然し北部の鷄籠(今の基隆)と相對して臺灣に於ける南端の代表的地名として史籍に散見す。黃叔璥の臺灣地圖(康熙五十年頃)にも沙馬礒の名が記され同氏の乾隆元年の臺海使槎錄には「南路界盡沙馬礒頭、地脈直接呂宋、風帆赴呂宋必由此東放大洋、有灣名魚房港、北風大綜可泊、沙馬礒頭南行四更至紅頭嶼……」とあり。また鳳山縣誌卷一には「郞嶠直下爲沙馬礒頭、雞崎海濱、洋船指南……」とあり。其他、詩歌等にその景を敍せしもの多し。この沙馬礒或は沙馬礒頭山は今日の何處に當るか明ならず。多くの書によればその山形が特異の形をなし、航海の指針となりし事を示し、最も今日この地方で目につき易き山は大尖石山にて、今日でも附近航海者はこれを目印として附近の海岸の小港に出入し、之によれば大尖石山は沙馬礒と呼びしか。いま臺灣語・蕃語何れにもかかる名稱なく、臺灣日々新報社發行の五萬分一の臺灣堡圖に鵞鑾鼻の鵝和里に沙尾堀なる地名を載せるも沙馬礒と同一のものなりや否や明ならず。沙馬礒は他書に沙馬機・沙馬崎等の字が用ひられ、また藤田豐八博士の東夷誌略校註には沙馬頭は沙馬磯頭ならんとす。沙馬礒は如何なる音を以て呼ばれしかは詳ならざるも類似音の「サビキ」は蕃語にて檳榔の意味、このサビキなる地名は臺南州嘉義郡にも社名として存し、他にも二三この種の名稱を散見す。推論するにこの沙馬礒の語源は蕃音サビキにて、恒春地方一帶が特に檳榔實の產出多く、他に移出する事實より見て、サビキはこの地方の代稱となり、地名となりしもの。沙馬礒頭山はこの地方の代表的の山なれば、特異の山としてこの稱が附せられしものならんも詳かならず。

サマチ 佐馬地村 徳島縣阿波國三好郡の西北隅。東北は箸藏村、東南は吉野川を隔てて池田町・三繩村に對し、南は山城谷村、西は愛媛縣宇摩郡川瀧村、北は香川縣三豐郡五鄕村の諸村に隣る。北の讚岐山脈、南の石鎚山脈の支脈赤石山脈東部との間の谷地にて山地多きも、吉野川の横谷より縱谷に直角的に轉流する左岸に當り、大字白地には見事なる河岸段丘發達し段丘上に耕地開け、養蠶行はれて繭を主產物とし、米・麥の農產これに次ぐ。伊豫街道は大字白地と三繩村大字中西との間の吉野川上に三好橋をかけ、中部の吉野川の一支佐野川に沿うて東西に通じ愛媛縣に至り、東は土讚線池田驛(池田町)、西は豫讚本線川之江驛(宇摩郡川之江町)間を通ずる省營川池線のバスの往來あり。此地古くは和名抄、三好郡三繩鄕に屬せしものなるべし。北は讚岐、西は伊豫の境域に近く、南は土佐に至り交通の要衝に當り、當時、吉野川上は渡船(白地渡といふ)を以て渡り大字白地には渡津聚落發達せり。近時土讚線の開通、三好橋の設置、バスの便により昔日の繁盛はなく、新道の下にある舊道の兩側に並ぶ聚落により僅に面影を忍ぶにすぎず。また白地城は阿・讚・豫三國の咽喉の地を占め要害を誇りたり。白地城は初め源頼武こゝに據り、頼武は大西出雲守と稱し本郡及び高知縣長岡郡・愛媛縣宇摩郡・香川縣三豐郡等を領し、別壘を讚岐麥井に築く。頼武の長子豊巽は天正元年重清城(美馬郡重清村)を奪ひ之に據りしも、のち之を失ひ自刃す。天正四年、長曾我部元親、阿波國を侵さんとし、白地城はもとより地勢を得たる要害無双の城なるを以て先づ之を降し、ここを阿波經略の中心地となせり。豐臣秀吉の四國征伐に當り、元親ここに陣し奮戰せしも利あらずして、和議を決し軍を土佐に還す。〔雲邊寺〕村の北境に聳ゆる雲邊寺山(九一一米)の山頂にあり。眞言宗。弘仁年間空海の草創と傳へ、嵯峨天皇の勅願所にて、四國八十八ヶ所第六十六番の札所たり。本尊千手觀音坐像は高さ三尺一寸餘の木造佛にて、平安時代の作にかかり國寶。御詠歌「はるばると雲のほとりの寺に來て月日をいまはふもとにぞ見る」

ザマミ 座間味

【座間味村】沖繩縣琉球國島尻郡の一部。那覇市の西方海上三〇數粁にある島群、慶良間諸島の西半を占む。北方にある座間味島を主島とし、その西南方なる安室島・阿嘉島・慶留間島・外地島・屋嘉比島・古場島その他の諸島を含み、面積一九・五七方粁あり。座間味島・安室島との東方には渡嘉敷島との間に慶良間海峽、西方の屬島との間に阿嘉海峽を隔つ。座間味・阿嘉島いづれも中部に高さ一五〇米内外の山地ありて平地は沿海に狹小のものあるに過ぎず。米・甘藷・甘蔗等の產あり。座間味島南岸中部の小灣岸に座間味の聚落あり本村の中心をなし、役場もここに在り。

【座間味島】 沖繩群島慶良間列島の一。列島の北部に位し、中部南方に近く安室島あり、東南は渡嘉敷島に、西南は阿嘉島に對す。周圍一七粁餘、海岸岬角多く突出しその間に灣入あり、東南部の安護浦灣最も大なり。島内圓頂山多く、中部の番所山(一四四米)を最高點とし、平地少し。いま島尻郡に屬し座間味村の主要部をなす。※座間味村

サミ 佐見村 岐阜縣美濃國加茂郡の北端。岐阜市の東北約四〇粁、北は益田郡下原村・上原村に、東は惠那郡加子母村に、南は東白川村・西白川村に接す。村内は殆ど山地にして飛驒山脈の餘脈が連亙し噴出岩より成る。北部には高天良山(九〇八米)、東北には尾城山(一一三三米)峙つ。この山地を佐見川が曲流をなして南西に流れ、益田川(飛驒川)に合流す。かかる山間にて河岸平野も少く、僅に河岸地域に水田が見らるるのみにて、產物は木炭を主とす。交通の便も惡く、街道は此地からは付知川の斷層谷に沿うて出で、鐵道は西隣西白川村には省線高山線通じ下油井驛に出づるを便とす。本村は江戸時代には苗木藩領たり。

サミ 佐味

【佐味】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に綠野郡佐味鄕あり、其地今の多野郡平井村の邊に當るか。姓氏錄に「佐味朝臣、與上毛野朝臣同祖、豐城入彥命之後」とあり。野州には那波・綠野二郡に佐味鄕あり、共に佐味氏の居りし處なるべし。

【佐味】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄、那波郡に佐味鄕あり。その地今の佐波郡芝根村の邊なるべく、一に上陽村の邊なりともいふ。

【佐味】 越後國(新潟縣)の古地名。延喜式に佐味驛馬五疋とあり、和名抄には頸城郡佐味鄕あり、佐美と訓ず。のち三位鄕に作り大三位・三位の二鄕に分る。また東鑑文治二年二月の條には「越後國佐美莊、鳥羽十一面堂領」と見え、此名に呼ばれしを知る。其地は今の中頸城郡柿崎町より八千浦村に至る海濱、卽ち犀濱と稱する地に當るものの如し。

【佐味】 越中國(富山縣)の古地名。和名抄に新川郡佐味鄕あり、左比と訓ずるも左美の誤なるべし。その地今の下新川郡飯野村・野中村・新屋村・小摺戸村・青木村・上原村等に當る。延喜兵部省式の越中國佐味驛馬八疋とあるは、佐味鄕の内なるも驛址いま傳ふるなし。

サミ 佐糜 書紀神功紀五年に見ゆる大和國(奈良縣)の古地名。葛城襲津彥の新羅を征せし時に捕へ來りし俘人を置きし大和四邑の一。中世は佐味に作り佐味莊とも云へり。いま南葛城郡葛城村の大字東佐味・西佐味は其地なりといふ。

サミ 沙美浦　岡山縣淺口郡黒崎村の南岸。水島灘に臨する白砂青松の地にて海水浴地として良く、またキャンプ地に適す。此地、往昔はセミと稱す。高倉上皇厳島御幸記「二十四日寅の時つづみを打ちてび中の國のせみと云ふ所につかせたまふ」

サミ 迩味面　朝鮮忠清北道忠州郡の東端部。忠州邑の東南に隣る。北は東良面、西は忠州邑、南は槐山郡上芚面、東は堤川郡寒水面に接す。小白山脈の餘脈域内に及び、南境に大眉山(六六七米)、西北境に鶴山(六三六米)聳えて對峙し、其間、蛍峰の地溝帶を形成し漢江の支流堂川東北流し面界に於て漢江に合流す。地溝帶地域は灌漑の便に富み水田よく發達し、桑畑亦多く此地帶に發達を見る。産物は米・大麥・大豆・雑穀及び煙草を主としまた棉花・苧等あり。殊に煙草は米國種の黄色煙草の栽培頗る盛なり。總督府專賣局忠北線は京釜線烏致院驛より分岐して忠州を終點とせるが、忠州より一等道路を通じ乗合自動車の便あり。面邑文化里は面の東北境に位置し、面事務所及び陰曆二・七の日に開く市場ありて蚕繭・穀類・煙草等の取引行はる。

サミズ 三水村　長野縣信濃國上水内郡の東北部。長野市の東北方約一二粁を隔て、南は鳥居村、西南は鳥居川を境として中郷村、西北は柏原村に接し、東北に下水内郡永田村、東南は同豊井村に界す。東北部に戸谷峠(七五六米)、西部に花見城山(七二三米)等あるも何れも傾斜緩めて観かにて、北部に發する斑尾川それ等の山地の中部を南流し、のち東北に向ひて豊井村に出づ。川の兩岸は高度五百米臺なるも平坦にして田畑拓け、米産を主とし、麥・蕎等の農産あり。省線信越本線の牟礼驛(中里村、鳥居川に近し)に近く交通不便ならず。本村は菅光寺村・芋川村・倉井村・赤鹿村・東柏原村の舊五箇村を合して成れるもの。東鑑・文治二年三月の條に「芋河庄、殿下御領」とあるは此の近村の汎稱なるべし。甲陽軍鑑に信州先方衆芋川六十騎とあり大字芋川は芋川氏發祥地にして芋川城址あり。北越軍記に五百川修理亮弘春は信州芋川城主なり、景勝代最上陣の時、一方の大將とあるはこれなり。〔若麟寺〕大字芋川にあり。曹洞宗。近尾山と號し文治二年の創建。開基は安房守頼行の孫彌次郎兼定にして、惠山阿闍梨を開山とし、寺領若干を附しその新願所に充つ。爾來禁言宗を奉ぜしが、永禄元年兵火に罹りて炎上す。元亀二年に至り芋川城主芋川越前守正親これを再興し、賢除和尚を請じて、中興開山とし現宗に改め、寺領を附しその著提所となす。〔菅光寺〕大字菅光寺にあり。浮土宗。性空山玄見院と號す。康保年中の創建にして開山は播州圓教寺の性空上人なり。天文・慶安の二度に亘りて炎上。弘化四年更に當國大震の時、堂宇倒壊せしを修理再建して今日に至る。本尊阿彌陀如來は惠心僧都の作と傳ふ。〔妙福寺〕眞宗大谷派。森尾山鎌田院と號す。貞永元年空善房の開創に係る。永禄十年領主芋川越前守これを自家の香華院となす。

サミダレ 五月雨

【五月雨塚】東京市小石川區圓口町上水端端、龍隱庵にあり。江戸時代、上水開發の頃に芭蕉翁が遊びし舊跡なるにより、後世、白見國宗瑞・馬光等の俳人が此地の光景が江州瀬田の義仲寺に似たりとて、「五月雨に隠れぬものよ瀬田の橋」といふ短冊を塚に築きしものといふ。

【五月雨山】新潟縣佐渡郡加茂村に峙つ山。標高三〇五米。南西方に金北山(一一七三米)、北方に金剛山(九六二米)・檜特山(七八九米)聳ゆ。山中に羽黒神社の祠あるにより一名羽黒山とも云ふ。高からざれども、老杉繁茂して、東方兩津灣を眺下して眺架佳し。心當のしるしの杉もかくれけり雲たち迷ふ五月雨の山　屋代柳塘」

【五月雨山】越後國北蒲原郡笹岡村にある五頭山の古稱ならんといふも詳かならず。古歌「年を経て積りし越の水海は五月雨山の森の雫か」

サミネ 狭岑島　瀬戸内海の古島名。今の香川縣丸亀市沖の小島沙彌島がそれならんといふ。萬葉・二「玉藻よし　讃岐の國は……狭岑の島は多けど　名ぐはし　狭岑之島の　荒磯面に　廬りて見れば云々　人麻呂」

サムエ 寒江村　富山縣越中國婦負郡の北部。富山市の中心部より西北約六粁、東と東南は八幡・長岡・西発羽の三村に、西南より西北は射水郡老田・大江・下の三村に接し、北は富山灣岸に近くその間に本江村あり。面積五・一七平方粁の小村なれども富山平野の中部に位し、土地低平にして水田廣く、米を多産す。省線北陸本線の発羽驛(西発羽村内)に近くバス通じ交通便利なり。長禄二年頃に寒江庄と稱したり。明治二十二年町村制施行の際七ヶ部落を以て本村を設立す。〔法蔵寺〕大字大塚にあり。眞宗本願寺派。寶光山と號す。弘安二年弘山法印の創立に係る。八世樂明法印、法然上人の遺鍋に値ひ、眞言宗より現宗に轉ず。文禄年中に准如上人は現寺號の公稱を許さる。〔自得寺〕大字本郷にあり。曹洞宗。建徳年間僧龍恵の開創に係る。寺寶に空海作延命地蔵像を蔵す。

サムカワ 寒川

【寒川(郡)】下野國(栃木縣)の古郡名。延喜式に郡名見え、和名抄は佐無加波と訓じ眞木・波逕・努宜の三郷を置く。當時の郡域は東は下総、南は武蔵、西は上野に限りしものの如し。のち浙次郡賀郡に地を割き、遂に郡賀郡に包圏せられ僅に寒川の一郷を存し居りしが、明治二十二年下郡賀郡に併合され郡號を失ふ。

【寒川村】栃木縣下野國下郡賀郡の南部。栃木市の南方約一〇粁を距て、巴波川の左岸に沿ひ、東南は生井村、西南は都屋村、北は中村に隣り、面積六・八六平方粁を有す。村内一帯に土地低平、特に中部は卑濕にて水田よく拓く。純農村にして米を主とし、蕎・麥等の農産を出す。南方野木村にて陸羽街道に岐るる縣道は村の西部を北走して栃木市に達し路上バスの便あり。此地或は和名抄、寒川郡池逢郷に屬せしものか。小山系圖に、朝光の子、四郎時光は寒川を以て家號とす。いま村内の眞言宗龍樹寺は四郎左衛門尉時光の建立なりとつたふ。東鑑・文治三年の條に、源頼朝、朝光の母八田氏(頼朝の乳母にして後に寒川尼といふ)に寒河郡並に網戸郷を給はる由見ゆ。寒河郡はのち神封となり御厨と稱へしものならん。朝光の子の寒川・網戸の二家を起せしは、頼母の地頭職を傳承せしものならん。〔駒形神社〕大字寒川に鎮座。郷社。祭神、瀧津姫命・田心姫命・市杵島姫命。その創建年代詳かならざるも延喜式内社にして、現社號は文徳天皇御宇に創まると云ふ。例祭、十月十九日。〔龍樹寺〕大字寒川にあり。新義眞言宗豊山派。流東山と號す。大同三年の開創に係り、應永二年、後岡法印を中興とす。

【寒川】→千葉市

【寒川村】神奈川縣相模國高座郡の中部西偏。茅ヶ崎町の北隣にて、北は有馬村、東は御所見村・小出村に接し、西に中郡神田村・大野村あり。相模川西部を南流し、土地平坦にして耕地よく拓け、農を主業として、米・麥・甘藷・蕎麥・大豆その他の食用農産を出し、また養蚕榮えて繭を産す。社線相模鐵道南北に走りて大字岡田に寒川駅(大正十年開業)・宮山駅(昭和六年設置)の三駅を置き、また支線こゝより分岐して大字一ノ宮に東河原・四之宮の二駅(前者は大正十二年、後者は同十一年開業)を設け、縣道また東部を通じ、交通便利なり。この地古くは寒川郷に作り、和名抄に高座郡寒川郷と見ゆ。近世は凡そ一宮庄(今の大字一ノ宮・田端・大曲・中瀬・宮山の逢)・逢谷庄(今の岡田・大蔵・小谷・小動・倉見の地)に分れしものの如し。一宮庄は宮山に相模國一宮たる寒川神社鎮座せるより起れる名稱にして、東鑑には正治年間梶原景時これを領すとあり、いま大字一ノ宮に景時の城址と傳ふるものの存す。逢谷庄は中世に桓武平氏秩父氏の族畠山氏の一流この地に住し地名をおひて逢谷氏を稱せる處。〔寒川神社〕大字宮山に鎮座。國幣中社。祭神、寒川比古命・寒川比賣命。祭神に就きて異説多かりしが明治に入りて現祭神に決定せらる。創立年次を詳にせざるも古來地方の名祠にて、元慶八年正四位下に陞敍、延喜の制名神大社に列して名神祭に預る。降りて壽永中に源頼朝は崇信して社殿を造營、次いで大永二年北條氏綱社殿を造營。天文年中岡氏康二十七貫の社領を寄す。天正十九年徳川家康先規に倣り百石の朱印領を下し、爾來歴代將軍これに倣ふ。大正十二年關東大震災に社殿破損せしため、國費の支出を仰ぎて昭和二年これを竣工す。毎年六月二十一日の國府祭及び七月十五日の濱降祭には參拝者多く大に賑ふ。

【寒川村】→寒川村(愛媛縣宇摩郡)

サムライバマ 侍濱村　岩手縣陸中國九戸郡の東部。南は久慈町との間に夏井村を挟み、西は大野村、北は中野村に隣り、東は海に臨み、久慈灣を抱く北方の突角部を占む。村内殆んど花崗岩を母岩とする地質のみにして、海岸線を隔ること七粁を以て最奥地とし、最高地約二〇八米、一〇〇米等高線は海岸線より凡そ四—五〇〇米の地を通過し、平均高度一五〇米の一大高原狀をなす。省線八戸線の侍濱駅(昭和五年設置)を置き縣道は中部を南北に通じ久慈町に達す。村道また起伏屈曲頗る多くして、諸車の交通甚だ不便なり。産業は農業を主とし雲(作付反別一一七・一ヘクタール、二一〇八石)・米(一三・六ヘクタール、一四六石)・稗(一二三ヘクタール、二六六三石)・大豆(一二三・七ヘクタール、六七九石)・馬鈴薯(五六ヘクタール、二一六七二〇貫)等を産し、用材・薪炭材・木炭の産も少からず、他に豚・馬・家禽等の畜産、魚族等あり。本村は南侍濱・北侍濱・白前の三村を合して侍濱村と稱す。もとは南北の稱なく單に侍濱村と稱せしを、明治十一年南北の名を附して二村となりしも、町村制實施の際に白前を合せて一村となる。往時は陸奥郡に屬し文治五年より南部氏の封内に屬し、寛文四年よりその支家八戸南部氏の支配を受く。〔牛鳥〕大字南侍濱(麥生)の久慈灣に臨める突角にあり。花崗岩より成りその形恰も臥牛に似たるよりこの名あり。標高約四十五米の頂上より西及び南は久慈灣の蟠蔵を隔て引揚なる沿岸の風物を指呼の間に望む。戊申の變に榎本武揚艦隊を碇泊せしめたる地なり。

サメ 鮫　青森縣八戸市の町名にして且つ港名。省線八戸線の鮫驛(大正十三年設置)あり。もと村名に呼び三戸郡鮫村と云ひしが、昭和四年に外三町と共に八戸市を建つ。

サメガイ 醒井・醒ケ井

【醒井村】滋賀縣近江國坂田郡の南部。犬上郡芹谷村に北接し、西は鳥居本村・息郷村、北は東黒田村、東は柏原村及び一部岐阜縣養老郡多良村に境す。村の南境に鈴鹿山(一〇八四米)聳え附近一帯は高原狀をなし、北方に至るに從ひ高度を減じ、東海道本線醒ヶ井驛附近は平野となる。霊仙山附近は所謂近江カルストをなし漏斗狀の吸込穴(ドリーネ)又は稍圓形の窪地(ウバーレ)、更に大規模なる盆

地（コロウオンスボリーエ）等の發達を見る。地質は秩父古生層に屬する雲仙層にして輝綠藏灰岩・粘板岩・砂岩・角岩・石灰岩より成り、是等の地層中の硅石・石灰岩は或は石材として或は石灰製造の原料として利用せらる。河川には丹生川が雲仙山の西斜面なる縛ヶ畑附近より發源北流し、上丹生に於て醒井愛鱒場方面よりの一支流を併せ、下丹生を經て大宇枝折の北西にて天野川の本流に合す。流程約七粁、枝折川は枝折の東に發し北西に流れて丹生川に合す、流程僅かに二・五粁。滋賀縣水產試驗場醒井愛鱒場は松尾寺の南方に在り、カルスト地帶の岩間より湧出する清冽にして溫度の變化少き淨水は愛鱒に適し、敷地總面積一萬坪餘倒育池約四十五面三千五百餘坪にして孵化室・調餌室、其他電熱冷却等の設備完備し、琵琶湖產・北海道產・米國產・露國產等各種の鱒卵を年々約五百萬粒を琵琶湖其他に供給するに必要なる親鱒の養成及び孵化飼育を行ひ、且つ冷水性魚族に屬する各種試驗調査をなす。村の產業としては農林業の外石材切出・石灰製造・製絲及び鱒・鯉・鮒等の養殖あり。國道中仙道が村の北部を東西に通じ、大宇醒井の街村は古來主要なる宿驛たり。縣道には米原を起點とし、醒井伊吹山線、醒井長濱線、多賀・芹谷・醒井線等あり。國道東海道本線は國道に並行し、醒ヶ井驛（明治三十三年設置）を設く、驛より上丹生醒井愛鱒場まで定期バスを通ず。本村は倭名類聚抄の坂田郡九郷の一なる上丹郷に當り、其名が上丹生の字名に殘る。醒井は日本武尊伊吹山に登られし時、御發熱を醒し給ひし清泉あるを以て此名ありと傳ふ。その泉を居寤泉と稱し大宇醒井に在り。武道傳來記「本國に愈て行ば醒井の宿、何心なく打過るに、比は睦月十三日家々煤掃として、諸道具大道に積重しを取入るに」※居醒泉（醒井の不斷樓）指定天然記念物。中山道に臨む丘上の加茂神社境內にあり。二株ありて一株は根元の幹圍三〇糎餘、他は約二五糎、花は白色にして鮮綠淡紅を帶び、花梗は短くして毛なく、每花序二花または三花を着く。苞は褐色にて鱗片狀を呈す。（了德寺の御葉附銀杏）指定天然記念物。大宇醒井、眞宗本願寺派に屬せる了德寺境內にあり。葉上に種子を生ずる珍奇なる公孫樹なり。（松尾寺）上丹生西方の山間にあり。天台宗。善門山と號し白鳳九年役小角修法の遺蹟と傳へられ、元慶年間籐吹山寺の開基三修の高弟松尾童子の創建に係る。所藏の古文書散逸して寺の由緒變遷を詳にする能はざるも、若干の古記錄・寶物等を存す。

【醒ヶ井】京都市の中京區より下京區に通ずる道の通りの一。北は六角通に起り南は西九條に至る。大部分は天正年中に開通する所。名稱は此通りに醒泉と稱する名水あり、一に佐女牛井ともふ。茶人珠光はこの水を賞し茶湯に使用せりといふ。長町女服切・上「猪熊の革柄、なぜに遲いと每日二三度使が走る、醒井の親粒もまだ入れてやるまいな」太平記忠臣講釋・四「おれは醒が井の掛屋、石屋の手間取が、不相應な研賃に、身を流す替錢の僅賃が二十五匁、今請取ろ」

サメガハシ　鮫が橋・鮫河橋　江戸時代、四谷にありし岡場所の一、また貧民窟の所在地として明治時代まで有名なり。現は四谷區谷町。神靈矢口渡・四「根津音羽はいふに及ばず、氷川から補（ほ）稽樓、朝鮮長屋、鮫が橋、藍蘭園までほついたれど、笠森のおせんと、お鶴程なはどつこにもござりませぬわい」

サメカワ　鮫川（さめがわ）【鮫川村】福島縣磐城國東白川郡の中北部。東北は宮本・竹貫二村に、西は山岡・常豐二村に隣り、北は石川郡山橋村・山白石村に、東南は石城郡貝泊村・荷路夫（にろふ）村・田人（たびと）村に各接す。面積一三一・四五方粁にて郡下第一の大村。阿武隈山系に屬する六—七〇〇米の山地連亘し、南部に分水嶺ありて久慈川の一支渡濱川は南部を東西に流れ、鮫川は諸水を集めて北流す。村內は概ね山地にして平地に乏しきも鮫川の沿岸には田・畑拓け、また緩傾斜地にも畑ありて米・麥・菜煙草を產し養蠶も行はれ、副業に綿羊・兎の飼養行はる。街道は北部鮫川に沿うて走り西方棚倉町に至るも交通は便ならず。集落は多く鮫川沿岸に發達し、大字赤坂東野の鮫川支流合流點に湯ノ田溫泉の湧出あり。村名は蓋し鮫川に因みしものなるべし。石川氏の一族赤坂氏は大宇赤坂の人にして、元亀・天正の頃、下總守朝光あり、始め佐竹氏の麾下を防ぎしも、後その麾下に屬す。また大宇富田は舊名を菅生といひ、結城の一族菅生氏ここに居ると。

【鮫川】福島縣石城・東白川二郡を流れる川。東白川郡の中部分水嶺より發し諸水を集めて北流し、竹貫村にて流路を東南に變じ入遠野川その他の支流を合せ、下流の沖積地內を蛇曲し更に海岸砂丘に遮られ海岸に沿うて東北に流れ植田町の小濱海岸にて太平洋に注ぐ。流程約五〇粁。上流地方即ち上遠野村（石城郡）より上流沿岸所々に御在所統及び竹貫統に屬する岩石の露出あり。主として上遠野村大宇上遠野・根岸、入遠野村大宇大平、貝泊村宇石住、東白川郡の宮本村宇下松川・上松川、竹貫村大宇竹貫・鎌田等にて多く見らる。

【鮫川】福島縣石城郡にありし村。大正十二年植田町と改稱す。

サメズ　鮫洲　品川と大森との間の海岸。現在、東京市品川區大井鮫洲町。往昔は江戸の者がその邊まで旅迎に出でしといふ。柳樽・三「旅迎ひ鮫洲に居たは昔なり」（後には品川）。栗毛後藍馬・初下

「品川の宿も通り過、鮫洲迄ヶ森も越えて、大森の村にいたり云々」

サモト　佐本村　和歌山縣紀伊國西牟婁郡、南部の東偏。周參見町の東北約一二粁、これと大都河村を隔て、東は東牟婁郡七川村に隣りす。面積三五・九一平方粁あれども、南部・北部には高度五〇〇米臺の山地ありて、村の中部に傾斜し殆んど平地を缺き、ただ中部を蛇行して東南流する古座川支流に沿ひて田畑拓くるのみ。林產を主とし、農產に米・繭等あるもその額多からず。周參見町より東牟婁郡古座町に至る古座街道中部を橫ざるも交通なは便利ならず。沿革の特に記すべきものなし。もと東牟婁郡に屬せしが明治四十年西牟婁郡に編入さる。

サモハイ　——社　臺灣高雄州屏東郡にある著社。パイワン族のラバルの系統に屬する高砂族の部落。パイワン族中その最北端に居住す。北に接するルカイ族とは土俗的混合多し。本社はトブ社よりの分社なり。著稱は Toyasiyasai. 戶數五五、人口二四五。

サモン　佐門岳　美濃・越前國境山稜上に屹立する一峰。岐阜縣本巢郡根尾村、武儀郡板取村と福井縣大野郡上穴馬村との境界に跨り、標高一二二四米。

サヤ　佐屋【佐屋村】愛知縣尾張國海部郡の中部。北は津島町に、東は永和村に、南は市江村に、西は立田村に各接す。濃尾平野南部の卑濕地を占め、西境には木曾川の廢川あり今も河跡を殘し、西隣立田村と共に所謂輪中をなし、立田輪中と稱せり。此地も多くの水路を有し、平野には米の產多く養蠶には麥が作らる。西部を巡見街道南北に走り、鐵道には此線名古屋鐵道彌富・笠松間の日比野（明治三十一年設置）・佐屋（明治四十年設置）の二驛を置く。此地は和名抄、海部郡日置郷の地なるべし。落合は永仁六年皇宮に「熱田社領、尾張國落合郷、惣領主職云々」と見ゆ。近世は東海道の別路たる佐屋廻りに當り、その佐屋驛あり、これより渡船にて桑名に渡る。この渡を佐屋渡と云へり。今はこの渡船場は陸地となり昔日の面影を存せず。明治三十九年七月佐依木村・八幡村を廢し、本村を置く。明治元年明治天皇東京行幸の砌御裏觀遊ばされし脇本陣加藤五左衛門宅御小休所、同年京都還幸の砌の佐屋行在所、同二年東京御再幸の砌御裏觀遊ばされし脇本陣加藤氏宅御小休所あり。（由乃岐神社）大宇植木に鎭座。郷社。祭神・創建年代共に不詳なるも延喜式に見ゆる古社なり。例祭、八月二十六日。（八幡社）大宇日置に鎭座。郷社。祭神、應神天皇。創立年代未詳。中古本鎭座地日置住を京都左女牛八幡宮の社領として武家より寄進せし關係上、同社を分祀せるものなりといふ。江戸時代には羽州山形藩主堀田氏祖先出生の氏神たるを以て本社に崇事し、又古來附近一帶の崇敬深し。

【佐屋川】愛知縣尾張國の西部にありし川。木曾川の分流にして中島郡祖父江の西より本流と分れ南流して佐屋を過ぎ市江に至り本流と合す。中世海部郡を海東・海西の二郡に分けしは主としてこの川に據る。明治二十年以後の木曾川大工事により水流全く潤れ陸地となり、大正二年には海東・海西の稱を廢し海部郡の稱を復するに至れり。

【佐屋渡】愛知縣尾張國佐屋川にありし渡船場。江戸時代東海道は熱田より海上七里桑名に渡るを順路とす。この渡船は古へ之を間道の渡といふ。弘文天皇の御代、大海人皇子亂を避けて東國に下り給ひし時、御船疾く著かざりしを怪びて、間道と名づけられしと云ひ傳ふ。この間道の渡も、風波激しき時は佐屋廻りと稱し陸路をとり、熱田の北方より岩塚・萬場・神守の三驛を過ぎ佐屋驛に至り、同所より船にて桑名に赴く。即ち佐屋渡とは佐屋驛より桑名に至る渡船をいふ。寛永十三年初めて之を開き、寛文五年には佐屋廻りの街道を改修して並木松を植ゑたりといふ。今、佐屋川は陸地となりしが、佐屋驛の地は海部郡佐屋村の內なるべし。芭蕉に句あり「水鶏鳴くと人の云へばや佐屋泊り」

サヤ　佐野・佐夜・佐益【佐野】常陸國（茨城縣）の古地名。和名抄に筑波郡佐野郷あり。その地今の新治郡安飽村の邊に當る。一に也倉村の誤なりともいふ。

【佐野・佐夜・佐益】→佐野（遠江國）

サヤ　讃揚　攝津國（大阪府）の古地名。和名抄に西成郡讃揚郷あり。大阪市天王寺區高津の邊に當るといふ。孝德紀に「墾二難波狹屋部邑子代屯倉一、而起二行宮一也」とあり。狹屋部は讃揚に同じ。

サヤガタ　佐屋形山　→峯村（福岡縣）

サヤダ　佐谷田村　埼玉縣武藏國大里郡の東南部。熊谷市と東方北埼玉郡忍町との間に挾まれ、南は略ぼ元荒川により久下村と界す。面積五平方粁の小村なれども土地平坦にして田畑よく拓く。農村にて米を主とし蠶・麥等の農產を出す。熊谷・忍間の縣道東西に貫きてバスを通じ、また中山道と省線高崎線の熊谷驛に近く交通便利なり。此地は和名抄、大里郡郡家郷の內にして、近世は佐谷郷と稱せし地なり。

サヤダ　鞘田　上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に那波郡鞘田郷あり、佐也多と訓す。その他今の佐波郡玉村町及び群馬郡箕川村に當り玉村町の大宇畲田、箕川村の大宇下畲田は鞘田の訛れるものなり。萬葉・一四「上毛野佐野田の苗の群苗に事は定めつ今は如何にせも」、散木集に「ながれつるたこのみわもりかずそびて佐野田の早苗とりもやられず」とあるも此地なりといふ。

サヤノナカヤマ　小夜中山・佐夜中山・佐野中山　舊東海道の日坂より金谷へ出づる約四粁の坂路。静岡縣小笠郡と榛名郡との郡界にある峠。後世サヨノナカヤマともいふ。古來歌枕として詞藻に入る。古今集の東國歌に「甲斐が根をさやにも見しがけれなく横ほりふせるさやの中山」とあり、新古今集には西行法師の歌として「年たけてまた越ゆべしと思ひきや命なりけりさよの中山」などありて名高し。東關紀行「佐夜中山は古今集の哥に、よこなりふせるとよまれたれば、名高き名取とは聞おきたれど、見るにいよ／＼心ぼそし。北は深山にして松杉あらしはげしく、南は野山にて秋の花つゆしげし、谷より岑にうつる白雲に分入こゝちして、鹿の音涙をもよほし蟲のねあはれ深し。ふみまよふ峠にかけはしと絶して雲に跡とふ佐夜の中山」（夜泣石）有名なる夜泣石と呼ばるる丸石は昔、舊道の中央、大地に埋め込まれてありしが、今は移して一町ばかり西の久延寺（小笠郡日坂村）境内に祀られあり。夜泣石の傳説につきては、昔、一婦ありて、武藏なる夫の許に赴かんとて故郷を出で立ち、小夜の中山の峠にさしかかりしに、突然暴漢あらはれ出で、逃るる間もなく哀れ一刀の下に斬り殺されぬ。その時よりして彷なる石に雲を生じ、夜々鳴動して啾々たる笑聲を發せしかば、夜泣石の名これより生じぬ。久延寺の住持深くこれを憐み、供養したるにその婦は雄縛なりしかば一子を生きて産み落せり。里人ら住持と相謀り觀音の靈告により飴の餅を以て養育し、長じて昔八と名づけ、本尊を子育觀音と呼べり。既にして昔八、大和國恩地村の刀研師源五郎なる者に傳はれしに、一日舊閥右衛門といふ者來り、一刀を託し、誇りかにその刀の由來を物語りしに聞らすも昔八が日頃尋ねつる母の仇なりしかば言葉あらして復讐の宿志を遂げぬといふ。佐夜中山子育觀音夜啼石敵討由來といふものを傳承し、時代を後光嚴天皇の貞治年中の事とせしに、その石、東海道中の往來にありしを以て有名となり、諸書に轉載さるるに至りしものなり。されど恐らく、東海道名所記に「佐夜の中山より十町ばかりを過ぎて夜啼の松あり、この松なともして見すれば子供の夜啼を止むるとて、往來の人削り取り切り取りけるほどに、その松つひに枯れて今は根ばかりになりにけり」とある丸石の上に轉じて夜泣石の傳説に交渉せしめたるものならんか。またその石といふも、昔は大地より生え抜きたる如き埋れ石にして、地底に續く石として評判されしものを、寶暦九年夏の一日、通りがかりの巡禮道者十數人餓れに携へたる棒にてこじりしに石は動きて遂に跳ねあげられ轉び出でしを、久延寺の命にて再び元のところへ轉ばし置きしものなりと慣習稿談に見ゆ。未だ眞僞を知らず。

サヤベ　狭屋部邑　↓讃揚（攝津國）

サヤマ　佐山　【佐山村】　滋賀縣近江國甲賀郡の中部。鈴鹿山脈の西麓にして野洲川の上流横田川の左岸に位し東の土山町と西北の水口町とに挾まれ北は横田川を隔てて大野村に、西は寺庄村に、南は大原村に界す。南部に高さ三〇〇米程度の臺地狀丘陵あり、北部は平坦地をなす。農を主産業とし米を產し又麥・豌を出し、特產物に茶・鷄卵・牛乳・鮒・鮎・百合・カボチヤ・賣藥等あり。北隣大野村に舊東海道走り、之より分岐する縣道の一は西部を南に延び、他は中部を東西に走りて西南部にて兩者連絡し更に西南隣寺庄村に出で柘植街道と合す。省線草津線の深川驛・大原驛（共に寺庄村內）に遠からず。中世は佐治莊・嵯峨莊と呼ばれし處。いま大字小佐治の北方城嶽の山頂に佐治城址、大字嵯峨の東上平に殿山と稱する嵯峨城址を存す。大字隱岐門之內には隱岐城址、大字岩室中野には岩室城址あり、何れも戰國時代に活躍せし甲賀武士の據城たり。村名は明治二十二年村制施行の際、佐治莊の佐に、此地山多きを以て佐山と命名せしもの。（八坂神社）大字嵯峨に鎭座。村社。祭神、素戔嗚尊・神武天皇・聖武天皇。仁德天皇六十九年の勸請に係る。聖武天皇廿一年正月、左大臣橘諸兄の千光寺伽藍建立の際に佛法擁護のため本社殿を造營奉齋あり。正平年中大に神德を施し給ふことあり、勅に依り嵯峨大宮號を賜ふ。社殿中、本殿は永享十一年の造營にて國寶なり。例祭、五月一日。（安樂寺）大字小佐治にあり。淨土宗。草創年次・沿革共に詳かならず。寺寶中木造地藏菩薩立像一軀は藤原末期の作に係り現に國寶たり。（千光寺）大字嵯峨にあり。天台宗。天平勝寶元年行基の開創と傳へ昔は十坊あり甲賀六大寺の一たりしが、天正の兵火に堂宇悉く烏有に歸して寥頹す。本尊木造十一面千手觀音像は藤原初期の佳作にして國寶に指定せらる。（大岡寺）大字隱岐にあり。淨土宗。安土淨嚴院末にして、寛文十年の創建に係り、本尊に聖觀音を安す。（大嶽寺）大字岩室にあり。淨土宗。正應中岩室主馬頭家俊の草創と傳へ、元和年中金戒光明寺末となる。寛永年間京都知恩寺曾阿心此地に隱遁し堂宇を再建す。依りて阿心を中興の祖とす。寺寶中木造聖觀音立像一軀は國寶にして藤原末期の作に係る。（法藏院）大字隱岐にあり。淨土宗。開基不詳。寛文十年の再興に係り、本尊彌陀は佛工春日の作なりといふ。地藏堂安置の地藏菩薩像は聖德太子の作なりといふ。（妙音寺）大字小佐治にあり。淨土宗。寺寶木造聖觀音立像は兩相その他に寫實的なる作風を示せる鎌倉初期の作にして國寶たり。（藥師堂）大字隱岐にあり。淨土宗。寺寶木造藥師如來坐像一軀は藤原初期の作に係り國寶たり。

サヤマ——サヤマ

【佐山村】　京都府山城國久世郡の西部。東は宇治町・大久保村、西は御牧村に隣り、北は巨椋池に面し、西南は木津川を挾みて綴喜郡都々城村に對す。面積六・一七平方粁。山城盆地の中部に位し、土地平坦低夷にして田畑よく拓げ、米・麥を主とし農產多し。宇治町より淀町に至る府道東西に橫ぎり、省線奈良線の新田驛、社線奈良電鐵の大久保驛（共に大久保村地內）にも近く交通不便ならず。中世佐山莊の名あり、拜志郷と美豆御牧の間を德稱す。蓋し古の羽栗・拜志二郷の地か。（雙栗神社）大字佐山に鎭座。郷社。祭神、天照大神・須佐之男命・事代主命外數神。貞觀元年從五位下に進み式內小社に列す。二條天皇御宇に勅願所の號を賜ひ、足利氏より禁制下知狀を、德川氏より神殿を下附せられ、更に東山天皇元祿年間に勅願を賜ふ。本殿は三間社流造、屋根檜皮葺、細部に精巧なる彫刻を施す。室町中期の造營にて國寶たり。例祭、十月九日。（永福寺）大字市田にあり。眞宗大谷派。延曆十八年最澄の草弟教觀の開創に係る。本願寺第十一世顯如の時、當寺住持雲珍石山本願寺に加勢せしを以て織田信長の忌諱に觸れ堂舍を燒毀せらる。のち再建せられて今日に及ぶ。（稱念寺）大字佐山にあり。淨土宗。所藏の藥師如來坐像（木像）は藤原末期の製作に係り國寶たり。

【佐山村】　山口縣周防國吉敷郡の西南部にある農村。嘉川村の南、井關村の北方に位し、東は小郡灣に臨み、西は厚狹郡二俣瀬村に接す。西部に山地連り鹽見山（八八米）聳え、東部は土地低平にして農耕に適し水田よく拓く。產物は米を主とし麥その他の農產あり、海岸には製鹽と共に漁業行はる。交通機關には坦々たる縣道のほか、山陽本線及び宇部鐵道ありて本村を通過し、前者に阿知須驛（明治三十三年設置）、後者に周防佐山驛（大正十四年設置）を有す。歷史上は、本村の地、往古賀茂庄白松郷の一部を爲せしものの如く、後に白松郷は專に白松庄と呼ばれ、天福元年白松庄は更に南北に二分せられ、本村は其の北庄の一部をなして佐山村と呼ばれ、毛利藩制時代には小郡宰判の所轄に屬し、明治十一年郡區町村編成法發布により同十二年一月吉敷郡の管轄に入り、同二十二年四月一日町村制實施に際し井關村と合併せられたるが、同三十二年四月一日再び分離して大字佐山を以て佐山村と稱し現在に至る。

サヤマ　狭山　【狭山丘陵】　東京市の西方約三〇粁、武藏野臺地の上に島狀に孤立せる丘陵をいふ。東京府北多摩郡東村山村・大和村、西多摩郡箱根ヶ崎村、埼玉縣入間郡吾妻村・山口村・三ヶ島村・元狹山村に亙る。近年村山・山口の貯水池及び狹山公園あるを以て知らる。丘陵はその外形ほぼ輪圓形をなし東西約一〇・五粁、南北約五粁を最大とし、周圍約三〇粁、最高點は西北の一九四米、この南東に一七〇—一九〇米の一塊あり、これより漸次東方に移るにつれ低くなり、東南隅の東村山村邊にては約七〇米となり、武藏野臺地面を四〇—五〇米位抜く。關東平野周邊古期三角洲殘片の堆積されしものにて、附近の多摩丘陵・加治丘陵等と同時代の砂・礫・粘土層より構成され、略々東西に走る數條の小斷層によりて切斷さる。この丘陵の南側に村山貯水池（大和村）、北側に山口貯水池（山口村）あり。本丘陵の下部は第三紀層の水成岩にて、中部は東京層或は成田層、上部は堆積層より成る。下盤は不透水なるを以て良き帶水層となる。この邊には名所舊蹟少からず。先史時代の遺跡をはじめとして、山口觀音・勝樂寺・中氷川神社・久米川・小手指原の古戰場・碧軍塚・元弘碑・北野天神・茶場碑等は主なるものなり。また丘陵の附近は所謂狹山茶の名產地として著はれ、附近の農家は家內工業として染職の業に從事す。箱根ヶ崎村の狹山池附近の狹山神社境內に勝海舟題額の狹山茶場碑あり。（狹山公園）村山貯水池下堰堤附近の丘陵及び平地を占め、東村山村・大和村に跨り、水道用地の一部を共用せる東京市の郊外自然公園、面積約五、四一四アール。圓內は赤松を主木とする丘陵地帶と芝生を主とする平地帶とに分れ、その中央に貯水池の餘水より成る池を作りて風致を添へ、所々に水松・展望用四阿・藤棚・腰床などを設けあり、家族連れの散策に適す。

【狭山村】　大阪府河內國南河內郡の西部。堺市の東南約一〇粁、天野村の北隣にて、東は平尾村・川西村に接し、川西村の東は富田林町なり。西は泉北郡東陶器村・上神谷村に隣る。狹山丘陵の北端部に位し土地南北に長く、西南部は丘陵地、東北部は北に緩く傾く平地にて、狹山池をはじめ灌漑用の貯水池あり。米・麥その他の農產を主としその他工產（綿織物を主とす）・香產あり。堺市より來る西高野街道は中部を、之より岐るる天野街道は西部を南北に通じ、また社線南海鐵道高野線（電車）は西高野街道の東方を走り狹山驛（明治三十一年開業）・河內半田驛（大正六年開業）を設け交通便利なり。この地は和名抄の丹比郡狹山郷なり。崇神天皇の朝に鑿たしめ給ひし狹山池あり、水利頗る大にして、本朝水利土木の嚆矢たり。中世小田原北條氏亡ぶや、氏直の弟氏規天野山に入る。豐臣氏これに狹山の田一萬石を給す。慶長五年氏規の子氏封封を襲ぎて此地に陣屋を置き子孫相接いで明治維新に至る。明治二年藩を廢し堺縣に併す。幕末天誅組河內に入り狹山の寺院に據る、その同志の一人なる森本傳兵衛（贈從五位）は實に此地の人なり。昭和六年三郷村を合し新に狹山村を建つ。

大宇池尻は狭山池の池尻に當るより此名あり。正平二年楠木正行、細川顯氏と戦ひこれを破りし處。〔狭山池〕本村中央にあり。我國最古最大なる灌漑用水池の一たり。崇神天皇六十二年七月、狭山の埴田水少きを以て詔して開墾せしめられしもの。「詔曰、農天下之大本也。民所恃以生也。今河内狭山埴田水少。是以其國百姓怠於農事。其多開池溝、以寛民業。云々」と、今に至るも帝恩の深きを思ひしむ。のち天平寶字六年四月、池堤決潰、延人員八萬餘人を以て修造し、永祿年中安見美作守之を修し、慶長年間片桐東市正また之を修補す。現に東西約〇・五粁、南北約〇・七粁、周圍約三・五粁あり、南方天野山より出づる水流を容れ、餘水は東川・西川となり北流して大和川に入る。附近十數箇村約三千餘ヘクタールの耕地を灌漑し、また專業を產す。池中に龍王島あり、安政年間に築きしものにして、池畔の楊柳春風に靡り、清陰深き處に石祠龍王を祀る。寂然琵琶湖の竹生島に似たり。またこの池の北方約一粁の所に大鳥・大間の二池あり。天平四年十二月築く所の狭山下ノ池と稱するはこれならん。あやめぐさ狭山の池のながき根をこれもみくりのならひにぞひく

ト部兼直「〔狭山神社〕大宇半田に鎮座。郷社。祭神、天照大神・素戔嗚命・瓦狭山命。創建年代詳かならざるも延喜の制大社に列し月次・新嘗の案上幣帛にあつかる。神位從五位上。古くより當村の半田・池尻等の本居神たり。例祭、十月十日。

サユー

【狭山】肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄養父郡に狭山郷あり。地は今の三養基郡旭・北茂安村地方とす。肥前風土記・養父郡「狭山郡(在二郡南一)同(景行)天皇行幸之時在二此山行宮一、徘徊、日ヶ望二四方一分明(さやけし)因曰二分明村一(分明讀二佐夜氣志一)今訛讀二狭山郷一」

サユー　狭結　出雲國(島根縣)の古地名。出雲風土記に狭結驛家あり、延喜式に狭結驛馬五疋と見ゆ。和名抄に神門郡狭結郷あり。地は今の簸川郡知井宮村に當る。出雲風土記・神門郡「狭結驛、郡家同所、古志國佐與布云人來居之、故云二狭邑一、神龜三年改二字狭結一也、其所以來居一者、說如二古志郷一也」

サヨー　佐用

【佐用郡】兵庫縣二十五郡の一。縣の西南部に位し、播磨國に屬す。西は宍粟郡・揖保郡に、南は赤穗郡に、西は岡山縣和氣郡・英田郡に接す。地形は中國山脈の南斜面に當り、郡内纔ねる山地起伏して平地少し。北境には日名倉山(一〇四七米)あり。此等の山地よりは志文川・千種川・佐用川南流し千種川に合流す。交通路には美作街道、揖保郡より來り、三日月・佐用兩宿驛を過ぎて美作に入り、鳥取街道は林崎より分岐し、福平・大富を經て美作の國に入る。鉄路と新見を結ぶ省線新線は美作街道に沿うて走る。產業は專ら農業と林業に依存し、農產物にては米・麥・蒟蒻芋・大豆・蘿蔔・果物を產し、其他に生糸・藁製品あり。本郡は和名抄には佐與と註し、廣岡・中川・柏原・佐用・宇野・江川・迫瀬・大田の八郷を置く。天智紀には狭夜郡、播磨風土記には讃容郡に作り、續日本後紀嘉祥二年の條にも郡名見ゆ。現今は佐用町外十一村を置き、佐用町は舊郡役所の所在地たり。

【佐用町】兵庫縣播磨國佐用郡の中央部。鉄路市の西北約四五粁。北は江川村・長谷村に、東は德久村に、南は中安村・久崎村に、西は西庄村・幕山村に接す。南部には中國山地に屬する高倉山あり。佐用川はこの山地の針面を南に流れ、盆地狀の沖積地を作り千種川にて合流す。平地には水田普く分布す。美作街道は佐用川の谷を上り、昭和十年には鉄新線開通し、佐用郡(昭和十年設置)を置く。此地古くは和名抄、佐用郡佐用郷に屬し中世は佐用莊と稱す。莊名は太平記にも見え數郷を含めるものの如し。播磨風土記には讃容と見ゆ。佐用城址はいま平福村にあり。佐用莊は佐用・赤穗の兩郡に渉り、建武年中、赤松則村この一莊を賜りしが意に滿たず終に足利尊氏に奮す。足利氏の末宇喜多直家備前より來りこの地を略して兵を佐用城に置きしが、天正五年羽柴秀吉に攻略さる。元和元年池田輝興この地に封ぜられ二萬五千石を食みしが寛永七年赤穗郡に移り爾後城廢す。此地はもと佐用郡の郡役所のありし所にして、いま警察署・農蠶學校等あり。〔佐用都比賣神社〕〔佐用社〕一本位田に鎮座。縣社。祭神、市杵島姫命。配祀神に素戔嗚尊・大國主命。嘉祥二年官社にあづかり、延喜式内の舊社たり。別所教範・池田輝政・松平助長等の代々國守・城主の崇敬を受け、近年縣社に列す。今の社殿は元禄十四年領主松平久之丞が上米十五石・金子百兩を投じて再建せしものと。例祭、十月三十日。

サヨノナカヤマ　佐夜中山　↓小夜中山

ザラ　ざら峠　富山縣上新川郡大山村と中新川郡立山村の境上にある峠。滑土山(二八七二米)と鷲岳(二五三三米)との鞍部に當り、高さ二三五三米、北アルプス横斷の重要なる交通路にして、此山越を更更越(沙羅沙羅越)・皿峠越といふ。古來常願寺川の河谷を上り湯川谷を廻りて此峠に出で、黑部川の谷に向ひて中ノ谷の左側を傳ひ刈安峠に出で、德蔵墓にて黑部の溪流を越え針木谷を上り、針木峠を越え大町に至る慈中・信濃の直路として利用され、天正十二年十二月、佐々成政深雪を凌ぎて此峠を踰え、濃松に至りて援を德川家康に求めしことあり、これより更更越の名頗に著ほる。針木・立山・藤師等に登攀を試みる者多く通過する者なり。峠の北西に甚だしき急崖にして數三井鄕一郎の居住と傳へらるる古城址あり。室町時代には此地は更木郷と云ふ。三井池には大蛇に關する傳說殘りて、毎年陰曆三月二十九日井祭と稱して三井池中央に突出する一大岩壁上より神官祝詞を奏し御酒御饌を青竹の中に入れ池中に投入する儀式行はる。〔御井神社〕大宇三井に鎮座。郷社。祭神、木俣神。創建年代詳ならずと雖も、延喜式の各務郡七社の一たり。例祭、十月十二日。

サラキシ　更岸　省線天龍線の一驛(昭和十一年設置)。北海道天塩國天塩郡天塩町にあり。

サラサラ　更更越・沙羅沙羅越　↓ざら峠(富山縣)

サラシナ　更科

【更科村】千葉縣下總國千葉郡の東南部。西は千葉市との間に千城村を挾み、南は白井村に接し、北は印旛郡彌富村、東は同郡用上村と隣りす。全村、丘陵性臺地にして森林多く、中央を北流する鹿島川の兩岸に沿ひ細長き低地ありて水田をなす。農蠶業を主業とし米・麥・蘭を主產し、また養鶏行はる。東金街道は村の中部を横斷するも交通なほ便利ならず。上泉・下泉・谷當・且谷・下田・大井戸・古泉・富田・中田の大字より成り、上泉に役場を置く。

【更科】山梨縣北巨摩郡にありし村。昭和十二年韮崎町に入る。

【更科】↓更級郡(長野縣)

料の急坂を下れば刈込池を谷の左に見、なほ行くこと數粁にて立山温泉に達す。また峠の南に有名なる五色ヶ原あり、夏季は見事なる御花畠を展開す。ここに五色小屋あり。

サラオ　皿尾

サラキ　更木　↓星宮村(埼玉縣)

【更木村】岩手縣陸中國和賀郡の北部。花卷町(稱貫郡)の東南約三・五粁。北は稱貫郡矢澤村、西は北上川を挾みて湯巻村・二子村に、南は立花村、東は山地續きにして中内村及び猿ヶ石川を挾みて十二鎮村に隣接す。本村の東寄りに山地あり北より南に走る、最高標高二八六米にして此山地によりて本村を大字更木・臥牛の二部落に分つ。山地の西部は北上川沿岸の平地にして大部分神積層の肥地なれば耕地として使用す。山地及び臥牛盆地には洪積層大部を占む。縣道黑澤尻大迫線は本村を横斷して本村交通の幹線をなし、北上川及び猿ヶ石川にはそれぞれ架橋せられ、平均幅員四・五六米、延長五八〇〇米、山越え最急勾配十七分の一にして、馬車・自動車の交通至便なり。花卷六日市線は本村を縱斷し、平均幅員三・六米、最急勾配十七分ノ一、共に定期乘合自動車の便あり。村道は總延長一三〇粁、近年改修せしものは幅員三・六米砂利敷、馬車・トラックの交通至便にして、村内道路・交通網は完備に近し。本村の對交通焦點は隣村の外、黑澤尻町及び花卷町なり。本村の職業別戸口は農業三五一戸、商業一五戸、工業四戸、其の他一七戸。純農村にして耕地の大半は整理せられ米其他穀物・蔬菜頗は之を自給して餘りあり。なほ醸造業盛なり。主要農產物に米(作付面積二五九ヘクタール、四八〇〇石)・麦(六九〇石)・大豆(二九七石)・粟(一一四石)等あり、本作は近年耕地整理の結果田地擴張し地味肥え、反當收量は上記三・五石餘に及ぶ。麥作は米の裏作として栽培しその間作に大豆・粟等を作る。副業として養蠶行はる。なほ杉・松材を主とする用材・薪炭材・本炭等の林產・馬・豚等の畜產あり。本村に先人住居の遺蹟を敬篤所に認むれども史實に現れたるは近々八百年來のことにして、多田氏建暦二年本村下八天梅ヶ澤に下着にその端を發す。本村は往古北上・猿ヶ石の二川の河道にあたり、河道變じて沖積地として現在に至りたることは、埋木・地名・土質等によりて充分證明せらるるも素より記錄になし。天正の末南部氏の所領となり明治維新に至る。往古は一村なりしも舊藩時代には臥牛・更木の二箇村(天保十三年八月分村)となり、村治は肝入之にあたり、後に庄屋と改む。明治四年廢藩置縣後は百姓代副村長を置く。明治二十二年自治制實施となり更木・臥牛の二村を合して更木村となし大字更木・臥牛となる。梅ヶ澤城址は本村東南山地にあり、和賀領主多田式部大輔忠明の初めて下着したる地にして、城址殘り、名木八房の梅の跡あり。更木館は前記梅ヶ澤城址の北方にあり、古井等存す、現在ここは畑地になしあれど、屋ヶ武器の出でしことありと。山王櫻は本村中央の平地にあり、樹齢千年と云はる。十數年前盜は丈餘に殘りしも現在は數尺の高さに殘れるに過ぎず、周圍廿一尺、更木の地名の起りし由緒の木とも云ふ。なほ先史時代の遺物は臥牛・猿ヶ石沿岸、更木・北上川沿岸より共に壙輪・香爐、其他土器數百點發掘せらる。野澤御番所址は南部領御番所址にて井戸のみ殘り、用筆筒、小學校に保存せらる。

【更木村】岐阜縣美濃國稻葉郡の東南部。北に那加村、東は前宮村、南は羽島郡中屋村、西は上利葉村及び南長森村に接す。村の東部は洪積層の各務ヶ原臺地より成り、また三井山(一〇九米)の分離丘陵あり。南部より西部にかけては舊木曽川の池路が認められその扇狀地の一部あり。東部三井山西端附近には北より境川放水路南下す。臺地面は主として畑地にて甘藷の產多く蔬菜類も多し。扇面にては水路に近き所のみ水田分布し聚落附近は桑園多く養蠶盛なり。一方機業も相當行はれ大根種子の特產あり。本村は和名抄、各務郡三井郷の地にして今も大字三井の地名あるは遺稱なるべし。三井の御井神社は延喜式の各務郡御井神社に當り、美濃神名記には正四位御井明神と記す。尙

サラシナ　更級

【更級郡】長野縣信濃國十六郡の一。北は上水内郡、東は埴科郡、南は小縣・東筑摩の二郡、西は北安曇郡に各隣接す。面積二七三・二六方粁、人口八〇〇〇七人（昭和十年）。東境を北に千曲川、西北境を犀川流れて東北部にて千曲川に合流す。本郡はこの二川に挾まれ且つ南境には聖山（一四四八米）・猿ヶ馬場峠（九六四米）・冠着山（鎮捨山一二五二米）・大林山（一三三三米）等聳立し、その山麓北に延び犀川の岸は山脚直に水に迫り平地なし、千曲川岸は善光寺平の一部をなす。産業は農業を主とし米・麥のほか蕎麥・大豆を産し養蠶も盛なり。東北低地を省線信越本線南北に通じ、更にこの篠ノ井驛（篠ノ井町）より篠ノ井線を分岐して南方東筑摩郡に入り中央本線と合す。北國街道は信越本線に沿ひ北上して長野市に達し、善光寺街道は南部東筑摩郡より猿ヶ馬場峠を越ゑ篠ノ井町にて北國街道と合す。また篠ノ井町より西方に通ずる街道あり、篠ノ井町は交通上の要地たり。延喜日本紀神護景雲二年の條に郡名見え、和名抄は佐良志奈と訓じ、麻績・村上・當信・小谷・更級・清水・斗女・池郷・氷鉢の九郷を置く。後世その麻績郷を筑摩郡に、村上郷を小縣郡に割く。元祿國には更科郡に作りしがのち舊に復す。いま稲荷山町・篠ノ井町のほか二十四個村を置く。

【更級村】長野縣信濃國更級郡の南端。千曲川の左岸に沿ひ、西北は八幡村、西南は東筑摩郡坂井村、東南は上山田村に隣接し、東北は千曲川を境として埴科郡五加村・戸倉村と相對す。西南境は筑摩山脈の一部にしてその冠着山（鎮捨山、一二五二米）聳え、北に向つて傾斜す。東北部は千曲川の河岸段丘にて土地平坦、南半の傾斜面には森林・原野廣く、北半には桑園・田地よく拓け、米・麥を産し、また養蠶行はる。省線篠ノ井線西南隅坂井村より西南部の山腹を穿てる冠着隧道（長さ二六五六米）を潜りて西部の山腹を下り西北隅八幡村に出で鎮捨驛を設け、驛より村の平坦部にバスの便あり。此地は上山田村・八幡村と共に和名抄、更級郡更級郷の地にして、いま若宮村・羽尾村・領坂村の舊三箇村を合し更級村を置く。鎮捨山は古來觀月の勝地とせられ、月は東方千曲川の彼方なる鏡臺山（一二六九米）より差昇り、鎮捨山の東斜面に階段狀をなす田毎に映じ、田毎の月と稱せられ、殊に中秋明月の美觀は天下に知られ、文人墨客の來る者多し。また歌枕として知られたる更科川とは此地を流るる千曲川の別名なるべく、更科里と稱するも此地なり。新勅撰集「今更にさらしな川のながれても憂き影見ぜむものならなくに」夫木・一四「うづらなく夕の空のあはれまて月にふけ行くさらしなの里範宗」※鎮捨山（佐良志奈神社）大字若宮に鎮座。郷社。祭神、譽田別尊・息長足姫尊・大鶴鶴尊。允恭天皇の皇子黒彦命の勧請と云ふ。式内社。例祭、九月十三日。〔當信神社〕郷社。祭神、大年神。合祀に健御名方命。創建年代詳かならず。弘仁元年松崎信高は社殿を再建し太刀一口・神鏡一面奉納せりと云ふ。初め古宮と稱する地に鎮座せしが後に現地に遷祀すと云ふ。延喜式神名帳に見ゆる式内の古社當信神社は即ち當社ならんもいま遽かに定め難し。例祭、十月二十七日。〔明德寺〕大字羽毛にあり。新義眞言宗智山派。鳥慶山醫王院と號す。創建年代不詳。德治二年專慶僧都再興す。享保年中炎上し堂宇・舊記等悉く烏有に歸せし爲め、其沿革を明かにせず。享保の災厄後は藥師堂境内（現地）に移りて再建せしものといふ。藥師堂は創建年代不詳なれども、往古は七堂伽藍完備し、國内屈指の巨刹たりきといふ。〔高松平十郎〕本村の人。名は信行、一に趙十郎と稱す。佐五兵衛の次男にして同族郡太夫の嗣となる。嘉永年中江戸に出て劍を學び、技熟するに及び、諸國を遊歴し到る處志士の交を篤す。文久三年京都の等持院木像梟首の事を俱にし事露はる。同月捕手の追跡に抗戰して死す。贈從五位。

【更級山】鎮捨山（長野縣）の別名。

サラベツ　更別　省線廣尾線の一驛（昭和五年設置）。北海道十勝國河西郡大正村にあり。

サラマオ

【サラマオ社】臺灣臺中州能高郡にある蕃社。大甲溪上流の山嶽地帶にあり、アタヤル族中のスコレック系統に屬する高砂族の部落。附近のカヨウ社を合して一般にサラマオ蕃の名を以て呼ぶ。この蕃は南方の白狗社・マレッパ社方面より移住せしもの、其一部は更に北上して新竹州・臺北洲地方に至る。サラマオ社は戶數二〇、人口一〇九、サラマオ蕃は戶數五八、人口三〇五。蕃稱Salamaoと云ふ。

【サラマオ蕃部】臺灣臺中州能高郡にある蕃部。北港溪の上流にあり、白姑大山・八仙山を連ぬる山系の中央山脈に連なる所。標高約三千米。白狗・マレッパ等の蕃社より北方に赴く要路にて、往古アタヤル族の北部發展はこの約三千米の峠を越えてなされしものといふ。

サラヤサイ　——社　臺灣臺東廳臺東郡にある蕃社。高砂族の部落にて、パイワン族中にて太麻里蕃と一般に稱せらるる部族の部落。パカロカロの系統に屬す。海岸に近き山地にあり。

サラヤマ　佐良山

【佐良山村】岡山縣美作國久米郡の東北部。北と東は津山市に接し、南は加美村、西は三保村に隣り、面積一五・二四平方粁。東・南・西の三境には高さ三〇〇—四〇〇米臺の丘陵性山地ありて緩く中央部に傾斜し山林多きも、北境を東流する吉井川と、西隣三保村より來りて村の中部を東北流してこれと合する支流との川沿ひには低地開けて田・畑少からず。農産に米・麥を主産し、また養蠶行はれて繭の産少からず。特産に生柿あり、清酒醸造も行はる。村の北部を省線姫新線通過して津山口驛（明治三十一年設置）を置き、社線中國鐵道岡山より來りて高尾驛（昭和八年開業）を設け、津山口驛にて姫新線に連絡す。岡山・津山間の驅道また中國鐵道と並行して村の中部を南北に通じてバスの便あり。久米の皿山として歌枕に名高き佐良山あり、因つて平福・井口・北一方・中島・皿・高尾・福田の部落を合して佐良山村と名付く。中世は佐良莊と汎稱されし處。美作略史に曾禰僧、姓は和氣氏、其先佐波良、本州及び備前の國造たり、世々佐良莊（久米南條郡）を食む、天長三年、眞體亡妹の爲め之を山城神護寺に施入す。元中九年、赤松兵部大輔義則、山名に代り本州の守護となり、嵯峨山に築き、族孫三郎數政を置く。嵯峨山はいま皿山といふと。

【佐良山】↓久米佐良山

サララ　讃良・更荒（郡）　河内國の古郡名。書紀欽明二十三年に更荒郡、後日本後紀承和十二年に讃良郡と見ゆ。讃良は沙羅羅の訛略にして、三韓の一部落の名なり、蓋しその歸化人の居りし處か。和名抄は佐良良と訓じ山家・甲可・枚岡・高宮・石井の郷五を置く。また更浦・更古に作りしものあり、後世訛つてササうとも訓む。明治二十九年西方の茨田郡及び北方の交野郡と合併して北河内郡を建つ。

サリ　沙梨面　朝鮮忠清北道槐山郡の東北端。東は文光面、北は沼壽面及び陰城郡遠南面、西は道安面、南は清安面に各隣接す。車嶺山脈の餘脈城内に達し、北境に磐光山（五二六米）、白馬山（四〇六米）等聳え、城内を東西二斜面に分ち、東は漢江の支流達川の流域を成し、西は錦江の支流寶崗川の上流之を灌漑す。氣候は内陸に位置せる爲め寒暑の差共に大なり。產物に米・粟・大豆・馬鈴薯等あるも其產額僅かに自給自足の程度に過ぎず。總督府鐵道忠北線面の西境近く北走し、西南方清州驛（清州邑）より三等道路を通じ乘合自動車の便あり。面邑水麥里は中央より稍東に位置す。

ザリバ　砂利場　↓砂利場

サル　沙流

【沙流郡】北海道日高國七郡の一。日高支廳の管下にて、國の西部沙流川の流域を占む。西南は太平洋に臨み、東北は十勝國河西郡、東南は新冠郡、西と北は膽振國勇拂郡に界す。面積一七四二・六平方粁。右左府・平取・門別の三村を含む。東南部の日高山脈の西肢と西境をなす夕張山脈南端部との間の地域に當り、前者には戶蓋別山（一九一七米）・幌尻岳（二〇五二米）・暮平山（一三五〇米）・貫氣別山（一三一八米）等聳え後者には ハッタオマナイ岳（一〇二一米）あり。域内一般に一〇〇〇米以上の高峻なる山地をなし西南海岸に向ひて次第に傾斜低下す。沙流川は東北境山地に發し西部界近くを南流し千呂露川・額平川等の支流を併せて太平洋に注ぎ、中流以下の兩岸に沖積低地を形成す。沙流川下流の東方には門別・波恵・慶能舞・貫張・厚別等の諸小川また貫氣別山より西方に連る山肢の南側に出で並行して南流す。之等の諸川は何れも谷地に小平地をつくり耕地をなす。農產に大豆・小豆・馬鈴薯等を產し、また馬・木材・クローム鐵を出す。沿岸には漁業行はれ昆布・鮭・鰊の漁獲あり。省線日高線は苫小牧より來り海岸平野を東に縣道に沿ひて通じ佐瑠女・門別を經て樣似に到る。沙流川下流の平取は北海道アイヌの居住地として知らる。沙流とは原名サロベツ、即ちサラオベツの急呼にして茅多き川の義なり、郡内に蝦夷の古都及び源義經の傳說地あり。

【沙流川】北海道日高支廳管内の一河川。日高山脈の芽室山・戶蓋別山等の西麓に源を發せるウエンサル川・パンケメジ川・千呂露川等相合して沙流川となり、更にまた右岸よりハッタオマナイ岳の東麓を南に流るるニセウ川、及び左岸より幌尻岳の北腹部に源を發する額平川等を入れて西南に流れ、左瑠太に於て太平洋に注ぐ。流域面積一三八七平方粁、延長一一二粁。

【沙流紀行】私說紀行。北海道國日高の北西部沙流郡にあり。省線日高線の佐瑠太驛（門別村）に起り沙流川に沿ひて北東方平取村の平取驛に至る。全長一三粁、二驛間には驛なく軌間〇・七六二米。

サル　猿

【猿山】能登半島の北西端、日本海に面して峰つ山。石川縣鳳至郡七浦村と諸岡村との境界に跨り、標高三三三米。南麓は延びて猿山崎となる。附近航海船舶の目標たり。山の北西麓海岸に燈臺立つ。

【猿山】天城山脈の一峰。靜岡縣賀茂郡天城御料地内に屹つ。標高一〇〇〇米。南方に長九郎山（九九六米）、北西方に鎌越峠最高點狹く。東方に下田街道南走しその分岐路の最高點天城峠あり。

ザル　笊ヶ岳　赤石山脈の一峰。赤石岳（三一二〇米）の東南方、大井川を距てて對峙し、東面は山梨縣南巨摩郡都川・硯島の二村に、西面は靜岡縣安倍郡井川村に屬す。標高二六二九米。この山大・中・小の三峰より成り、山麓笊を伏せたるが如し。附近に往時金鑛ありたりと云ふ。山中松・檜・樅等の樹木多く、また硯材を出す。

サルエ　猿江　東京市深川區内の地名。もとは單に猿江といひしも今は猿江町・猿江裏町の町名となる。里見八犬傳・九「是よりして西東は、小松、中川、女木逃井、猿江村五本松、南本所、北本所、兩國河より西を武藏とす、ここは葛飾郡

にして、この邊、處々に小流あり」

サルカ　猿賀村　青森縣陸奥國南津輕郡の西部。弘前市の東約三粁、黒石町の西南約二粁。西は平川を距てて中津輕郡豐田・和徳兩村に對し、北東南の三方は田舎館・大光寺の二村及び尾上町に連接す。弘前平野の東南邊に當り、全村殆ど沖積層より成り、土地概して平坦、東部は高臺にして水質良好なるも西部落は低地なる爲さして良好ならず。水田約五一七ヘクタール、畑地約五〇ヘクタール餘ありて米の產額年一・二萬石、他に林檎・蔬菜盛に栽培せられ、また近時縣より養蠶村として指定せらる。副業としての窯工品亦一般に普及し、其の年產額三萬圓に達す。弘前市より黒石町に至る縣道村の中部を東西に走りバスの便あり、社線弘南鐵道通じ大字中佐渡に津軽尾上驛（昭和二年九月設置）を置く。廢藩前は平賀庄の區域、明治廿二年村制を布く。〔明治天皇八幡崎御小休所〕　指定史蹟。村役場構内にあり。明治十四年九月九日天皇黒石町より此地の郡立馬耕傳習所に着御の上、前方の畑地に於ける傳習生の馬耕狀況をみそなはせられし所。傳習所の建物は明治十二年の建設に係り、間口二間、奥行四間、御小休所たりしかば記念館として原位置に保存せらる。〔猿賀神社〕　大字猿賀に鎭座。縣社。保食神及び蝦夷征討將軍上毛君田道を祀り、併せて日本武尊・坂上田村麿を祭る。大同二年八月一祠を建立せしに始るといふ。例祭、八月十五日。〔猿賀の鵜及び鷺蕃殖地〕　指定天然記念物。縣社猿賀神社境内にあり。境内の社林には鵜及び鷺渡來蕃殖す。春暖に向ふ頃にはかはう・あをさぎ・こゐさぎの三種が渡來し、樹梢に巢を構へて棲息し秋に至りて去る。村民は猿賀樣の鷺と稱し神の使者として敬す。

サルガイシ　猿ヶ石川　岩手縣にある川。縣に於ける河川中流域面積は第三位の大きさを占め九六五方粁、長さは七四粁にて第五位。本流は北上山脈の主峰早池峰山薬師岳に發し、多くの支流を集めて遠野盆地を沖積化し、北上主脈の西方前山に谷内の峽谷をつくりて大カーヴをなし花巻町（稱貫郡）の東に於て北上川に合流す。沿岸には土澤・綾織の洪積平野、遠野の盆地、赤川耕地等の農耕地あり。附馬牛村（上閉伊郡）東禪寺にある猿ヶ石發電所、東北一を誇る上郷のダム、田瀬の築等ば地方的特色あり。省線花巻釜石線はこの川に沿うて走り北上山間地への文化移入路をなす。

サルガツジ　猿ガ辻　近世京都内裏の日御門通の北、聚鳥井家の南通の稱。内裏の東北隅の築地の屋根の懸魚の中に御幣を持てる猿を彫刻しあるに因るといふ。

サルガバンバ　猿馬場峠　長野縣更級郡桑原村と東筑摩郡麻績村との境界にあり。標高九六四米。名高き姨捨山はこの山麓の南東方に屹ち、聖山（一四四八米）は西麓に聳ゆ。峠路は中仙道より分岐する北國西街道に當り、北東降すれば千曲河畔稲荷山町を經て長野市に、南西降すれば麻績村を經て松本市に至る。この峠路は古來長野・松本間の重要驛路とせられたり。

サルガマタ　猿ガ又・猿ガ股　武藏國南葛飾郡（古は下總國）の北端、中川の南東岸の地。今は東京市葛飾區に入り水元猿町と稱し地字に殘る。昔は利根・中川激衝の地にして動もすれば堤防崩れ出水江戸郊外を襲ひし故に、水などの多く出でし場合の譬、又は大事の起りし際に用ふるに至れり。神風抄「下總國葛西猿俣御厨、百八十丁新御厨在之」八柴人・五上「大變だ／／大水々々。オイ雜巾でも何でも早く／／。助け舟／／。櫂現堂と猿が股がきれた／／、助け舟／／。猿が股どつこいまた。これわいまた。よいやまた。ト皆々手拭鉢巻などを取集め水をぬぐひ」

サルガヤト　猿ヶ谷戸　埼玉縣北足立郡にありし村。大正二年廢して七里村を置く。

サルカワ　猿川村　和歌山縣紀伊國那賀郡の東南部。長峯山脈の北斜面に位し紀ノ川支流貫志川に跨る。東は長谷毛原村に、北は細野村に、西は上神野村に、南は有田郡八幡村に界す。南端に長峯山脈東西に走りて西隅に黒杉山（六四五米）、その東に尖峯山（八六二米）を起し、北端には高さ約六〇〇米の山地逐り西端に隆地山（五三一米）あり。兩山地南北より中部に傾斜して摺合谷を造り愛に貴志川屈曲しつつ西方に流る。山地多ければ耕地面積少く米・繭を產するもその額多からず、山地よりは薪炭を出す。道路中央の谷に沿ひて走り東北方の高野街道と西方の熊神街道とを連絡す。萬壽二年の古文書に「天曆元年丁未開發田□□合一所、在二紀伊國那賀郡猿河郷一云々」と見ゆ。中世は猿川莊に作り、建長六年の文書に見え、神野・眞國二莊を併せて三箇莊と云ふ。高野山金剛峯寺領たり。

サルサワ　猿澤　【猿澤村】　岩手縣陸中國東磐井郡の西北部。東北は靈峰蓬萊山（七八八米）の連山を以て興田村と界し、北に延びて江刺の郡境に接え田原村に接す。西は大鉢森山（六三四米）を中心とせる連峰高く走り田河津村と界し、南部は稗平坦にして長坂村及び澁民村に續く。所く本村の地形を考察するに三方山を廻らして高く、中央さながら盆地たる樣こそ小奈良盆地の景觀あり、隨つて隣面國を以て示せば東西の横隣面はV式なるに南北の縱隣面は内廣きU式なるを見る。地質的には南西より北東にかけて粘板岩・泥板岩あり、東南新渡戸部落に花崗岩地帶あり。盆地を縱に貫流する猿澤川は其の源を蓬萊山に發し瀑流南に流れ、人家の集落系を造り石灰岩層を抉き隧穴をなして長坂村に出つ。中央部落町方を基點として北に延びて峠部落を過ぎ江刺郡に入る。岩谷堂線、南部下猿澤部落を經て長坂村に出づるは花泉線、南東新渡戸部落を過ぎ上澤に向ふものを千厩線と言ひ、此等三線は皆縣道なり。道路保護組合等ありて其管理の如きは模範とせらる。地勢上、專ら農業・林業を以て主業となすも、五穀の如きはやや村内の需要に過ぎず。なほ主要產物中、繭は約三・四萬圓にして農家三六〇戸中養蠶戸數二五四を數へ、その外葉煙草（約二・五萬圓）・木炭（約二・二萬圓）・木材（約一・四萬圓）等あり、木炭は主として關東地方に移出し、木材は松・杉材にて建築用なり。村内に猿澤の池あり、村名は蓋しこれに起りしものなるべし。藤原氏の平泉城に據りて威を振ひし盛時、この地を奈良に擬してその名を附せしに非ずやといふも詳ならず。〔觀福寺〕　新義眞言宗智山派。石清山と號す。もと仙臺能法寺末に屬し、貞享二年九月十八日と刻せる「觀福寺」の額面あるも、今その開創年代を明かにせず。寺内にある觀音堂は建久二年工藤祐經の長子、犬塚丸の祈願の爲に建立すといふ。本尊觀音像及びその厨子は鉈彫工にて飽を用ひたる形跡なし。寺境風致に富む。〔龍泉寺〕　曹洞宗。圓通山と號し越後國岩船郡耕雲寺末に屬し、應仁二年同寺四世忠璵の建立に係る。

【猿澤村】　新潟縣越後國岩船郡の中部。村上町の東北方約八粁。北は鹽野町村、東は高根川を境に高根村、南は笹腰村・山邊里村、西は上海府村に界す。西半は出羽丘陵の西南端を占め、三觀山（五九二米）・盧空藏山・鷲取山（四一九米）等連りて東に傾斜して山地をなし、東半部は東隣高根村より西南流して村の南部において三面川に合する高根川流域の平地にして田畑よく拓く。米を主產物とし、繭を出す。羽前街道山麓に沿ひて中部を東北に通じ鹽野町村に向ひ南北の交通不便ならず。此地古くは和名抄、磐船郡佐伯郷の内に屬せしものの如し。中世以降、北陸道の一宿驛とす。

【猿澤池】　→奈良市

サルシ　佐留志　佐賀縣杵島郡にありし村。昭和七年小田村・山目村と合して江北村を新設す。

サルダ　猿田

【猿田】　千葉縣海上郡椎柴村の大字。省線總武本線の驛（明治三十一年設置）あり。

【猿田峠】　四國山脈を横斷する峠。東側は高知縣長岡郡吉野村、西側は愛媛縣宇摩郡富郷村に屬す。最高點一一三七米。

サルハシ　猿橋

【猿橋村】　新潟縣越後國北蒲原郡の中部。新發田町の西隣にて、東北に鳴沼村、西北は聖籠村、南は佐々木村・中浦村に界す。面積五・七五方粁の小村。越後平野の東北部を占め、土地平坦にして村内殆ど水田をなし、米の產多し。新發田町より西方新潟市に至る道路に當りバスの便ありて交通便利なり。往古の事は今詳かならず。北國太平記に天正十五年、新發田治長の老臣猿橋和泉、俄に心を變じ、猿橋口の寄手藤田能登守の陣へ矢文を射入れて敵を引入るとあり。猿橋口とは即ち此地にして、猿橋氏とは蓋しこの地に居して在名を負ひしものか。

【猿橋】　新潟縣中頸城郡にありし村。明治三十六年上郷村と改稱す。

【猿橋町】　山梨縣甲斐國北都留郡の南部。桂川に跨る。北は富濱村・七保村・區岡村、西は大月町及び南都留郡禾生村、南は同郡盛里村と隣りす。南及び西境には九鬼山（九七一米）の山嶺延び、東北桂川の谷に傾斜し、殆んど平地を缺く。たゞ桂川に沿ひて河成段丘ありて集落こゝに發達す。養蠶行はれて繭を主產物とし、米麥を出すも產額多からず。甲斐絹の一集散地たり。甲州街道桂川に沿ひて西走し、省線中央本線これに並行し、猿橋驛（明治三十五年設置）を置く。此地は日本三奇橋の一なる猿橋を以つて知らる。もと大原村と云ひしが昭和十年町制施行の際現名に改む。甲州街道の宿驛（寛文十一年猿橋宿を定む）として發達し、郡制實施の頃は郡役所の所在地たり。〔猿橋〕　指定名勝。桂川に架せる板橋にして、古來、周防岩國川の錦帶橋、越中國黒部川の愛本橋と共に日本三奇橋と稱せらる。削立する絶壁は大自然の神斧に成り、之に架せられし橋は人工の妙を極め兩者相俟つて本邦屈指の名勝たり。現在の橋梁は明治三十三年舊來の規模に據りて架け換へられしものにして、長さ約二九米、幅約五米あり、橋臺は基礎を兩岸の絶壁の岩盤に置き、その構造頗る奇拔、肘木桁式橋梁として比類なきものとす。橋と水面に至る間は約二五米。橋下の峽谷は御坂層に屬する礫岩にて、隣層のため陷落せるものなりと云はるるも、一にその絶壁は地層面にして垂直に近き急傾斜をなし、此地に於て層向の方向に辷り落ち、同時に地層と殆ど直角をなす主要節理に沿うても亦滑落して出來し間隙なりといふ。南岸は富士熔岩流に覆はれてその厚さ五米許り、柱狀節理よく發達す。橋名は太古白猿が藤蔓を傳ひ對岸に行くを見初めて架橋を氣づけるに因むと云ひ、又一說に推古天皇の二十年百濟の工人志麻呼と云ふ者これを造ると。文獻には聖護院宮通興兼記に「猿橋とて川の底千尋に及び侍るうへに三十餘丈の橋を渡つてはべりけり、此の橋に種々の說あり、昔猿の渡しけるなど里人の申し侍りきさることありけるにや信用し難し、此橋の朽損の時はいづれも國中の猿例ども來り、集りて勸進などして渡し侍るとなん、しかば其の由緒も侍ることある所から奇妙なる境地なり。その所の風景更らに風景にあらず顧る神仙遊逸の地と覺え侍る」と

あるを以て初見とす。古くより文人墨客のここに杖をひく者枚挙に遑なく、いま附近の名所舊跡と相持つて探勝者は年三萬人を越ゆ。

サルハネ　猿跳　↓猿野村（宮城縣）

サルバネ　避翼　羽喜式に見ゆる出羽國の駅名。その地は詳かならざるも山形縣村前國の最上郡と北村山郡との界に猿羽根峠あり。されば避翼の位置はこの峠の北方最上平野に於てこれを求むべきならん。

サルフツ　猿拂村　北海道北見國宗谷郡の東南部。宗谷支廳管内。宗谷岬の東南約三二粁にありてオホーツク海に臨む。西北部は宗谷村・稚内町に接し、西は天鹽國境、東南は枝幸郡に界す。面積五七六平方粁。北見山脈の東斜面に屬し天鹽國境に四—五〇〇米の連峰連なるも、東方に傾き北見平野沿岸に展開す。海岸は低濕にて猿骨沼・ポロ沼・キモマ沼等の鹹湖沼多く、チライベツ原野の荒蕪地あり。知來別・鬼志別・カリベツ・猿拂の諸川東流して湖沼及び海に注ぐ。海岸は河川及び潮流の堆積土砂により平滑なる砂濱にして、自然良港灣に恵まれざるも、近年は知來別河口・鬼志別河口に築港工事を施しつつあり。省線北見線南北に縱走し、小石（大正十一年設置）・鬼志別・鹿野・猿拂（共に大正九年設置）・淺茅野（同八年設置）の五駅を設く。海岸には準地方費道通じ、自動車の便あり。山地には針葉樹林繁茂して林産多く、海扇貝柱・鮫・鮭・馬鈴薯・燕麥・大根等の海産物・農産物に富む。本村は天明年間に於て已に宗谷漁場として開創し、明治三十年海扇の大採息地を發見その他新漁場の開拓と木材業の勃興とに因り急激なる發展となり、更に大正十一年鹿造の全通は一層開發を促進し、遂に大正十三年宗谷村より分村獨立し二級町村制を施行せられ、今日に至る。

サルフト　佐瑠太　北海道日高國沙流郡門別村の大字。省線日高線の佐瑠太駅（大正二年設置）ありて、沙流軌道の起點をなす。

サルベ　猿邊村　青森縣陸奥國三戸郡の西部。西は戸來村及び秋田縣鹿角郡に接し、南は斗川村・田子町に、北方は野澤村、東方は三戸町・尚村に隣接す。奥羽山脈中の山村として一帯はすべて豪地のみ、ただ僅に馬淵川支流、猿邊川流域に狹少の水田開く、當村はすべて田子町と取引する關係上、田子町に通ずる村道發達し、三戸町より北西に一直線に通ずる村道は主要部落を一貫し交通頗繁なり。森林原野多く、耕地は僅少にして、小猿邊川流域の地位のみは水田として利用さるるも米の産額少きに反し、稗・粟・蕎麥・小麥・馬鈴薯等の畑作物及び木炭・栗の産額多し。落政時代は盛岡南部藩に屬し、維新後は八大區、六及び四小區の下にありしが、町村制施行と共に員守二部落を包括して國立し現在に至る。村名は舊員守村西端、鹿角郡界に發源して流れ來る猿邊川より生ぜしと言ふ。

サルマガワ　猿間川　北海道北見國斜里郡斜里村の大字。省線釧網線の猿間川駅（昭和四年設置）あり。

サルマサ　猴政山・猿政山　中國山脈の一峰。島根縣仁多郡阿井村と廣島縣比婆郡上高野山村との境界に峙つ。標高一二六八米。山體は花崗岩質斑岩より成る。

サルヤマ　猿山岬　石川縣鳳至郡にある岬。諸岡村に屬す。能登半島の西岸中部に突出す。岬端に猿山岬燈臺（大正九年設置）あり。燈質は連閃白光、光達距離三五浬。

サルル　沙留　北海道北見國紋別郡興部村の大字。省線名寄本線の沙留駅（大正十二年設置）あり。

サルワ　——社　臺灣新竹州大溪郡にある蕃社。大嵙崁溪上流の山地帶蕃界にあり、アタヤル族の中にてガオガン蕃に屬する高砂族の部落。戶數一五、人口一〇六。

サルワカ　猿若町　東京市淺草區の町名。一丁目より三丁目に分る。天保末期、江戸歌舞伎三座の轉設されし所。もと淺草の聚天町（山の宿）の小出信濃守の下屋敷にして俗に姥ヶ池といひ、往古一つ家等のありし舊蹟なり。地形頗る低く沼地に富み芝蕪地たりしも、天保十二年十二月幕府の命に依り江戸三座この地に移轉するに及び、同十三年新たに猿若町と命名せらる。而して之を三區分して一丁目（中村座）、二丁目（市村座）、三丁目（河原崎座）と稱し、同年より十四年に亙りて、三座新築せらるるや全く一變し、劇場の繁榮に伴ひ頓に盛況を呈し別治に及びしが、三座廢退後は漸次衰へしも、一名所として町名のみ殘されて今日に至る。八笑人・五上「今年は向島に狸囃子といふ事があると言つて、夏中すすみ船が綾瀬のはうや、三在橋の邊へ、たいそうに船ではやしを聞きに行つたぜ、なんでも猿若町なんぞもやア、日暮がたからみんな出たア」

サレタニ　佐禮谷村　愛媛縣伊豫國伊豫郡の中央部。郡中町と内子町（喜多郡）とのほぼ中間に位し、北は南山崎村に、東は廣田村、南は中山町、西は上灘町に界す。石鎚山脈の西端部の山地に位し、東境に階上山（八九九米）、南境に秦皇山（八七四米）、東北境に大戸山（八八五米）等ありて村内殆ど山地をなす。肱川の支流中山川村の東部に出でて西に流れ村の西南部を切りて南隣中山町に出でその谷に沿ひて畑地と僅かの田地拓け、米・麥・繭を出し、山地には三椏・楮の栽培行はる。北方松山市より西南方大洲町（喜多郡）方面への宇和島街道西境に近く西隣上灘町を南下し、バスの便あり交通の便さのみあしからず。此地古くは和名抄

養父郡出部郷に屬す。また黑岩嶽・泰皇山に挾まる谷一帶を佐禮谷と稱せしが村名となる。天正年間松山藩に屬し、のち大洲藩の管下となる。

サレノナガレウミ　佐禮流海　常陸國（茨城縣）の霞浦の一部を稱せしもの。常陸風土記茨城郡の條に見ゆ。今の何れの邊に當るか詳ならざるも、一說に佐禮（佐礼）は佐我の誤字にして、和名抄茨城郡佐賀郷、即ち今の新治郡佐賀村に當り、佐賀村邊の霞浦と稱せしものならん。常陸風土記・茨城郡「東香島郡、南佐禮流海、西筑波山、北那珂郡」

サレン　沙連

【沙連】臺灣臺中州の古地名。埔里社堡（いま能高郡埔里街の一部）を含み、五城堡（いま新高郡魚池庄の全部）に起り、集々堡（いま新高郡集々庄の一部）・沙連下堡（いま新高郡集々庄、南投郡名間庄の各一部）を經て、沙連堡（いま竹山郡鹿谷庄の全部及び竹山庄の一部）に至る濁水溪流一帶の廣大なる地域（往時は蕃境）の總稱。沙連はもと蕃語地名のソアリエヌに寃てたる近音譯字にて、日月潭（五城堡に屬す）の附近は、その土着蕃群の根據として中心の位置を占めたりしより、後には一般に水沙連（水沙漣・水沙廉なる同音の異字あり）と稱せられ、雍正十二年には埔里社堡を除きたる前記諸堡を包括して水沙連堡を設かるるに至り、水沙連堡は光緒元年に五城・集々の二堡を分立せしめて沙連堡となり、沙連の名稱を留む。沙連堡は同十四年に至り、更に濁水溪以北の地を割きて沙連下堡となし、專ら濁溪以南の地に限らるるに到る。

【沙連下堡】臺灣臺中州の古地名。今この地域は南投郡名間庄の内、名間（もと猴仔庄と稱す）・濁水・炭寮の三大字及び同州新高郡集々庄の内、隙寮の一大字を含したるものに相當する一小區域。濁水溪中流域（北岸）に位し、もと沙連堡に屬せしが、光緒十四年分立し、我が領臺後依然存置せしが、大正九年地方制度改正に依り廢せらる。往時は濁水庄（いま名間庄大字濁水）を其の中心とし、北は南投街（今の南投街南投）、南は林圯埔街（今の竹山庄竹山）、東は集々街（今の集々庄集々）へ通ずる三路の交叉する處に當る。清領時代には其の濁水溪の渡頭（渡場）を永濟義渡と稱し、光緒五年の創設に係り、雲林縣探訪冊に記して、「永濟渡在二濁水庄一、爲二沙連通臺彰（臺中彰化）二邑要津一、光緒己卯年章生董柔倡建二義渡一、鳩軍吳亮捐レ俸置二義渡一、租レ粟」と云へるものこれなり。

【沙連堡】臺灣臺中州竹山郡の古地名。今この地域は鹿谷庄全部（十一大字）及び竹山庄の内、竹山・竹圍子・下崁・香員脚・江西林・猴頭棕・大坑・埔心子・大鞍・社寮・後埔子・笋子林の十二大字を含む區域に相當す。初め五城堡・集々堡・沙連下堡の三堡と合して水沙連堡と稱せしが、光緒元年に五城・集々の二堡を、同十四年更に沙連下堡を分立せしむ。當地方はもと蕃人逐鹿の地に屬し、明末鄭氏の時代既に竹山（當時林圯埔と稱す）・竹圍子一帶に部落林圯に依り、社寮・後埔子一帶に杜・劉二姓の部落に依り、共に土着蕃人を驅逐して開かれ、爾後、漢人の移住者漸次增加して遂に全區域の開拓を見、光緒元年、中路統領吳光亮に依り林圯埔（竹山）より中央山脈を横斷し、臺東の璞石閣に達する道路を開鑿せらるるに到り、地方の發達相當見るべきものあり。大正九年地方制度改正に依り堡を廢せられ、その舊區域内の地は前記二庄に分屬せることとなる。

サロベツ　——原野　北海道天鹽國天鹽郡幌延村西北部の原野。天鹽町より北方に續く天鹽平野の北部を占め、南北約三〇粁、東西三—九粁あり。東縁を南北に連る高度一〇〇—二〇〇米の天鹽山脈北部の丘陵性臺地より西流するサロベツ川・オンネベツ川等により形成されたる沖積低原にして、此等の川は日本海岸に沿ひて發達せる砂丘に妨げられ、流路を南に變じ南流して原野の南部にて天鹽川下流に合す。北部を上サロベツ原野、南部を下サロベツ原野と稱し甚だ低卑にて多くは海面上一〇米以下に位して荒地ななし、下サロベツ原野にはペンケ沼・パンケ沼・長沼をはじめ多數の小沼湖を殘存す。天鹽・稚内間の道路と省線宗谷本線は東部丘陵地との界を南北に走り、後者には兜沼・芦川・德滿・豐富・下沼等の駅を置く。沿線の地は既に開墾されて馬鈴薯・燕麥等の産あり。

サロマ　佐呂間村　北海道北見國常呂郡の西北部。網走支廳の管下。猿澗湖の東南岸に沿ひ、東南は常呂村・野付牛町・相内村、西南は留邊蘂町及び紋別郡生田原村、西北は下湧別村に界す。面積三七六平方粁餘。人口密度は僅に二六人に過ぎず。地北東より西南に延び、東南境には仁頃山（八二九米）・佐呂間山（五一五米）・イワケシュ山（四二五米）の山々東北に連り、西北境上に計露山（四〇九米）あり、北部猿澗湖南岸の幌岩山（三七六米）に連る。留邊蘂町に發したる佐呂間別川は東北流して村の中部に低平なる谷を作り沖積平地を形成す。猿澗湖は沿岸潮流の影響に形成されたる一條の砂嘴にてオホーツク海を劃したる道内最大の鹹湖なり。網走町より海岸近くを西走し下湧別村に通ずる縣道は、湖の南岸に沿ひて通じ、またこれより分岐する道は川に沿ひて村の中部を西に貫き、留邊蘂町に到る。途中、芝農場附近より更に西方生田原村に通ずるものあり。又村内を湧網西線通じ、中佐呂間駅（昭和十一年設置）を置く。中部の低地には耕地拓け、牧場多し。農産に馬鈴薯・亞麻・米・麥、畜産に牛馬を産しまた鮭・鱒の漁利あり。村内の佐呂間鎮山よりは金銀鎮を出す。

この地は文化年中、藤野四郎兵衛なるもの松前藩の許可を得て猿潤湖に接続する現在の鐘沸溪に漁舎を建て漁業を経営せり、これ内地人の本村に入れる嚆矢なり。明治三十四年始めてサロマベツ原野が區劃されて漸次移住するもの増加し、大正三年四月、常呂村より分割して鐘沸村を置き、同四年四月二級町村制を布き、同年十一月鐘沸村を佐呂間村と改稱、以て今日に至る。

サロマ　猿潤湖　北海道北見國にある湖。常呂・紋別二郡に跨る。オホーツク海岸にある汽水湖。一條の砂洲により海と分離す。湖岸七七粁。面積一八九・一八平方粁にして日本第四の大湖。中央部最も深く観岩山の沖に一九・五米の最深點あり。多くの河川これに注ぎ、排水は以前東よりせしも、昭和四年中央より稍西の砂嘴を破りて排水し海水の逆流著しくなり、今は海水と餘り豐分なる異にせず、化學成層も微弱となる。水温冬季零下一度、夏表面二〇度、湖底一二度位なり。水産生物としてはニシン・カキ・ワカサギ・ボラ等にして、殊にカキの養殖盛んにして我國の北限をなす。一町歩當り生産量は五貫内外なり。高鹹性中營養型に屬す。

サワ　佐和・澤　【佐和】常磐線の一驛(明治三十年設置)。茨城縣那珂郡佐野村高場にあり。

【佐和山・澤山】佐保山とも云ふ。滋賀縣彦根市の東方にある丘。丘上に佐和山城址あり。同城は石田三成の居城。關ヶ原役後、家康はこの城を井伊直政に與へしが、水利の便よからず、彦根に居を移せしかば、廢城となる。いま西麓松原内湖の東岸に佐和山神社鎮座す、井伊直政及び直孝を祭神とす。武家義理物語・一「妾は近江國澤山、何がしに美なる娘の兄弟ありて、いづれか花紅葉色くらべのすぐれて云々」

サワ　佐波郡　群馬縣上野國三市十一郡の一。縣の南東部を占め、東は新田郡、北は勢多郡、西は群馬郡・多野郡に隣り、南は唐利根川を限りて埼玉縣兒玉・大里の二郡と境す。面積一六〇平方粁餘、縣下の最小郡にて縣の全面積の僅に二・五%に過ぎざるも、人口は一萬五千人を超え、縣の總人口の約九・三%に近く、一方粁平均七二〇人を數へ、諸郡中最も稠密なり(昭和十年國勢調査)。大部分洪積層より成る豪地にて北部に於ても高度一〇〇米内外、漸次南方に低下す。西南より南部にかけては沖積層の低地をなす。赤城山の南面に發する粕川・廣瀬川は中部を南流し、利根川とその支流烏川は西南部を潤す。畑地・田地拓け、畑地には特に桑畑多く、養蠶行はれて繭の産多く、農産には米麥を主とし、大豆・菜・甘藷・青芋その他野菜類あり。また伊勢崎町を中心として銘仙その他の機業盛に行はる。省線兩毛線は前橋市より來り郡の略中部に位する伊勢崎町を經て東北桐生市方面に向ひ、社線東武鐵道伊勢崎線は新田郡太田町より西方に延び郡の南部を過ぎて伊勢崎町に達し、また道路中東京路は郡を東南より西北に貫きて前橋市に至り、その他伊勢崎町を中心に、西は玉村町を經て高崎市方面へ、北は大胡町、東北は大間々町、東は太田町・足利市方面へ通じ何れも途上バスの往來ありて交通便利なり。本郡は明治二十九年、佐位・那波の二郡を合併して建てたるものにて、いま伊勢崎・玉村・境の三町の外、十三ヶ村に分かる。

サワイ　雑居　河内國(大阪府)の古地名。和名抄に石川郡雑居郷あり。いまの南河内郡富田林町・喜志村・大伴村・石川村等に當る。敏達天皇の時、百濟日羅の妻子從類を石川に置く、之より先きこの地百濟の村名已に見ゆれば、諸蕃雑居の謂により此名起りしものならん。

サワイ　澤井村　神奈川縣相模國津久井郡の西北部。桂川の北岸にあり。東南は與瀬町・吉野町、西北は佐野川村、西南は小淵村に隣接し、南は川を挟みて名倉村に對し、東北は東京府南多摩郡恩方村と界す。面積五・七二平方粁の小村。北境には陣馬峠(八五七米)聳えて、西南桂川の谷に向つて急斜し、全村殆ど山地をなす。たゞ桂川に沿ひて幅狹き河成段丘ありて平坦地をなす。養蚕を主業として繭を産し、農産に少く麥・甘藷・馬鈴薯等を出す。甲州街道と省線中央本線はこの段丘上を東西に走るも交通なほ便利ならず。本村は小田原北條役帳に見ゆる奥三保十七箇村の一にして、いま吉野町・小淵村と共に組合町村をなし役場を吉野町に置く。

サワイ　澤會　駿河國(静岡縣)の古地名。和名抄に益頭郡澤會郷あり、佐波比と訓す。諸本誤りて澤食に作る。其地は今の志太郡葵梨村の邊に當る。

サワイシ　澤石村　福島縣磐城國田村郡の北部。三春町の東北約三・五粁、東は瀬川村に、東南は文珠村に、西南は愛田村に、北は安達郡新殿村に、西北は同郡白岩村に隣接す。東南境に念佛山(五一一米)聳え、南部は高く四—五〇〇米の山地連りて北に傾き、阿武隈川の一支移川の上流は山地を開析して北に流れ新殿村に出づ。村内概ね山地にして平地に乏しきも米穀・葉煙草を出しまた馬の飼養も盛にして木材・木炭も少からず。街道は中部をほゞ東西に及び西部を南北に貫通するものあるも交通便ならず。此地の沿革は詳ならず、蓋し村名は大字實澤・富澤の澤と青石の石により澤石と名づけしものならん。〔天日鷲神社〕大字富澤に鎮座。郷社。祭神、天日鷲命。延暦年中坂上田村麿東國鎮定の碑、來香せる所と傳ふ。本殿・幣殿・拜殿の外、神饌所・神樂殿等を備ふ。(高木神社)大字實澤に鎮座。郷社。祭神、高皇産命。

創立年代未詳なるも地方の古社にして、古來領主・藩主の崇敬を受く。

サワウチ　澤内村　岩手縣陸中國和賀郡の西北端。南は湯田村に、東は横川目村及び稗貫郡湯口村・岩手郡御所村に、北は同じく御明神村に、西は秋田縣仙北郡白岩村・長信田村・千屋村に各隣接す。面積二八七・三七方粁。西境に脊梁山系をなす和賀嶽(阿彌陀嶽一四四〇米)・鹿御嶽(一二一四米)・甲山(一〇一三米)・鹿ノ子山(九三八米)・真昼嶽(一〇六〇米)・女神山(九五六米)等の諸峰連亘し、東北部に大小屋山(六四一米)・高下嶽(一三二三米)等あり、東南部にも五—八〇〇米の山地起伏す。北境山地に發する和賀川は西境及び東境山地より發する諸渓流を合して南流し、沿岸に稍々廣き低地あり。山岳地帶は第三紀層、和賀川沿岸は沖積層より成り、其他に石英粗面岩・花崗岩質の露出する所あり。岩手郡雫石村より秋田縣横手町に通ずる縣道は和賀川の右岸に沿うて本村を南北に縱貫す。他に大字川舟より稗貫郡花巻町に通ずる中山街道あれど多く利用せられず。農産物に米・大豆・粟等あり、米は其の首位を占め、産額一五八、八四五圓なり。畜産は馬多く七、四〇六圓、林産物は木炭最も多く本村の主要移出品にて産額八九、三五一圓なり。其他、野生食用植物の産額は約二一、九八一圓にして青物・紫蹄・茸類等なり。本村は一帶渡山地帶をなせど、交通の便を缺くためあまり探勝せられざる有様なり。然れども松川鎮山よりは金銅鑛の産額は一八、一〇〇圓にして産業中主要なる地位を占む。本村はもと南部領に屬し後藤時代は澤内通りと稱きて新町に代官所ありて、大野以下七箇村を支配す。明治十一年西和賀郡と稱し郡役所を新町に置き、同十七年湯田を分離して前記六箇村を以て新町に戸長役場を置き、同二十二年には前記六箇村の内猿橋・川舟をそれぞれ東西南北の四區に分ちて澤内村と改稱し、同三十年東和賀郡と合併して黒澤尻町に郡役所を置きしが大正十五年郡制廃止せられ現在に至る。村内に天照皇大神宮を祀れる郷社太神宮あり。神天鳥は大字猿橋にあり。和賀川の激流中にある小島にして奇石怪岩に富み老松生茂せる中に市杵島媛命を祭る厳島神社鎮座す。春夏秋の眺望絶佳なり。七ツ釜は大字太田にあり。和賀川の東岸より本流に注ぐ小川の數米の瀑屋より落下する岩上に七箇の竅穴あり。奔流のその中に入るや水泡飛沫四散して、激下の十數米の立岩及び岩上の激上神社と對し風光絶佳なり。代官跡はいま新町小學校庭となれる所にして、徳落時代に代官所の置かれし所なり。

サワエ　澤江浦　山口縣大津郡と青海島との間に位する浦。

サワキ　佐脇　愛知縣寶飯郡にありし村。明治三十九年、御津村・御馬村と共に廢せられ、新に御津村を置き、御津村は昭和五年町制を布く。

サワキ　澤木　北海道北見國紋別郡雄武村の大字。省線興濱西線の一驛(昭和十年設置)あり。

サワクチ　澤口村　秋田縣羽後國北秋田郡の中部。鷹巣町の東南に隣り北は榮村に、東は西館村に各隣接す。東西約一一粁の細長き形狀をなし、東境に三〇〇米餘の山地ありて山脚北境を西に走り、西南部にも一〇〇米内外の丘陵性山地あり。西境を米代川西南に流れ、その一支小猿部川は西流し來る小森川と村内にて合して西北に流る。米代川及び小猿部川・小森川等の流域に低地ありて田畑間くも未開墾の原野もあり、耕地よりは米・繭を産し東部山地よりの木材も少からず。縣道は西部低地を通じ鷹巣町との間の米代川上には橋を架けバスの便あり。沿革は詳ならず。

サワジリ　澤尻　花輪線の一驛(昭和三年設置)。秋田縣北秋田郡十二所町にあり。

サワタ　狭度　豐前國(福岡縣)の古地名。和名抄、仲津郡に狭度郷あり、その地今の築上郡上城井村の邊に當り、大字京田は狭度の遺稱なるべし。中世以降は城井谷と稱せる山谷なり。

サワタ　雑太(郡)　→雑太(郡)

サワダ　澤田村　【澤田村】福島縣磐城國石川郡の西南部。阿武隈川上流の右岸。東は社川を隔てて石川町に相對し、西北に西白河郡滑津・吉子川二村に、南は同小野田村に各隣接す。西北境を阿武隈川、東境をその一支社川北に流れ村の北端にて合し、南部及び北部に一〇〇米内外の丘陵連り、社川沿岸には殆ど平地なきも阿武隈川の流域に低地ありて田畑拓く。生業は農業を主とし米穀・蒟蒻・煙草・薪炭等を産す。石川町より西方白河町(西白河郡)に至る縣道は中部をほゞ東西に通じ、各バスの便あり。此地古くは石川町・山橋村(東南隣)と共に和名抄、白河郡石川郷に屬せり。清和源氏、石川氏の族、この地に澤田氏を稱す。

【澤田村】群馬縣上野國吾妻郡の中部。吾妻川の支流四萬川の谷を占め、東は中之條町・伊參村及び利根郡新治村、南は原町・岩島村、西は六合村に隣り、面積一六五・五六平方粁の廣區域を占む。三國山脈東南斜面の一部にて、西境には其支脈たる木戸山(一七三二米)・相ノ倉山(一五六七米)・松岩山(一五一二米)等南方に延び、東境には吾嬬山(一一八一米)・藥師岳(九七四米)あり、東境には稲包山(一五九八米)・赤澤山(一四五五米)の支脈ありて、殆んど山地をなす。山地の水は東西兩山脈間の谷に落ちて四萬川となり、村の東部を南流して中之條町に出で吾妻川となる。川筋の谷地には所々に小耕地拓け米・麥等を産す。四萬川の上流

に四萬温泉、支流の谷に澤渡温泉あり。縣道いづれも中之條町より通じてバスの便あり。澤渡温泉への道は夏に西に上り暮坂峠(一〇八六米)を越えて草津町に通ず。往古の事は詳かならざるも、萬葉集に見える左和多里に今の大字上澤渡・下澤渡の地ならんといふ。また此地は温泉を以て名高く、四萬・上澤・澤渡等の諸温泉あり。萬葉・一四「左和多里の手兒にい行き逢ひ赤駒が足搔を速み言問はず來ぬ」(四萬温泉)無色透明なる鹽類泉。ラヂウムエマナチオンを多量に含有し内外兩用に供さる。四萬は文化村、山口・新湯・日向見の總稱にて新湯が中心をなす。海拔七六〇米、日向見川・新湯川ここにて合し四萬川となり山裾を浸しつつ流る。盛夏も紋帳を用ひず避暑地としても知らる。その風光鹿原に優るともいはれ、特に紅葉に良く、伊香保・草津と共に群馬三温泉の一たり。附近には高湯ヶ澤・濁硫泉・楓泉峡の勝地及び日向見の藥師堂などあり。〔澤渡温泉〕泉質は無色透明の鹽類泉。海拔六九六米餘、土地高燥にして眺望佳し。草津温泉の浴客は歸途ただれを癒すため寄るもの多し。昔源頼朝三原狩の際に來浴せし事ありと傳へ、其時、梶原景季「梓弓日も暮坂につきぬれば有笠山をさして急がん」と詠みしといふ。有笠山は温泉の前面に聳ゆる山なり。また沼田城主真田信直は屢々この温泉に來ぶしことありと云ふ。〔日向見藥師堂〕大字四萬字日向見にあり。國寶。天文四年の創建にて、室町時代の特色を保つ。堂宇は方三間の單層、屋根は四柱造の茅葺なり。本尊は祕佛にして知るを得ざるも、この堂を定光寺の名殘りなりと傳ふるより察すれば、嘗て玆にその寺ありて、その佛像のみ殘りしものなりと思はる。

【澤田】 靜岡縣遠江國小笠郡曾我村の大字。舊東海道掛川の西方。鹽葉毛・三中「やがて狹葉三尺坊へのわかれ道にいたり、彌次郎兵衛濟拜して……それより澤田、銀田を打すぎ、砂川の坂道にかかりけるに」

【澤田河】 信馬樂に見えたる山城國(京都府)の河。相樂郡を流るる泉河(今、木津川)の瓶原邊の舊稱。玉吟集「澤田河まきの繼橋中たえて霞にわたる春の明ぼの 家隆」

【澤田】 大阪府南河內郡にありし村。明治二十三年道明寺村に入る。

サワダニ 澤谷

【澤谷村】 島根縣石見國邑智郡の東北隅。西南は谷・都賀行の二村に、西は濱原・粕淵二村に、北は安濃郡佐比賣村に、東北は飯石 志々村・來島村に隣接す。村は五—七〇〇米の山地に圍繞され、東境に發する江川の一小支澤谷川は山間の諸水を集めて西北に流れ、流域に僅に賃地ありて開地拓け、米・麥を主産す。大森町(邇摩郡)より岡山縣雙三郡三次町に至る縣道、村の中部を澤谷川に沿うて通じバスの便あり。此地は和名抄、邑知郡佐波郷の內。(八幡宮)大字千原に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・足仲津彦命・氣長足姫命。花園天皇正和三年、當郡酒谷村皇山の城主、三善清正の勸請せし所なり。例祭、十月十日。

【澤谷村】 德島縣阿波國郡賀郡の西端。東南は坂州木頭村に、東は勝浦郡區原村に、北は名西郡上分上山村及び麻植郡木屋平村に、南は海部郡中木頭・上木頭・木頭村に各隣接す。北境に劍山脈の主峰劍山(一九五五米)を始め天神山(一六八二米)・高城山(一六二八米)・雲早山(一四九六米)・烏丸山(一四三九米)の諸峰連亙し、南境に權田山(一六〇九米)・平家平(一六〇四米)等聳ゆ。本村はこの兩連嶺に挾まれ中部を那賀川の上支澤谷川が山間の諸溪流を集めて西流し坂州木頭村に出づ。米・麥・蒟を産する山村なれば、傾斜地利用の畑耕地多く、また薪炭も少からず。此地は古への木頭谷の一部落にして一四〇〇米以上の山地に圍まれ山中深き隔絶村をなし、僅に澤幹川の流路により他村に通ずるのみ、交通便ならず。大字小島に鎖掛淵あり、昔人鎖を以て梯に代へて此の淵を渡りしにより、此名ありと云ふ。

サワタリ 澤渡

【澤渡村】 福島縣磐城國石城郡の西部。平市の西北約一三粁、北は三阪村に、東及び南は永戸村に、西は東白川郡宮本村に隣接す。西北境に鹽見山(七二一米)・雨降山(七七一米)聳え、山嶺は南部に連り、北境にも五〇〇米餘の山嶺連亙す。好間川は鹽見山の東斜面に發して東南に流れ、村內殆ど山地なるも好間川の流域に僅に低地ありて田畑拓け、米穀・蒟蒻・木材等を産す。街道は好間川に沿うて通じ平市に自動車の便あり。澤渡は一に佐渡にも作り、もと市萱村と呼びしことあり。いま三坂村と組合町村をなし、役場を本村に置く。

【澤渡温泉】 →澤田村(群馬縣吾妻郡)

サワネ 澤根町

佐渡郡の西部。西北は相川町に、東は二宮村に、西南は二見村に隣り、南は眞野灣に面す。大佐渡をなす金北山一帶の山脈の西南端を占め、北境に青野峠(四二〇米)あり、東南に傾斜して海に臨む。山地多きも灣岸に狹小の平地ありて田畑拓け、米・繭の農産あり。眞野灣は北境の山地により冬季も西北風を遮ぎられ小舟碇泊地として附近漁業の一中心地をなす。また金・銀・銅を出す佐渡鑛山の鑛區は本村にも及ぶ。北部の傾斜地は天然の牧場にして牛の放牧行はる。海浜ひの縣道は西境の中山峠を越えて相川町に至り、東は河原田町より、一は國中平野の北岸なる兩津町、一は小佐渡の東岸地方を結び、バスの便あり。此地古くは和名抄、豐田郡小野郷に屬せしものの如し。西方に隣接する國分村を鶴子山といひ、文祿年中ここより銀を採掘するといふ。町內の白山城址は本間雲の一家の據りし所とす。北越軍記に天正十七年、澤根刑部廣綱を佐渡六人衆の一とするとあるは之なり。大字五十里及び相川町の地は其知行なりしといふ。大字五十里は里制の遺稿ならん。また城內に紅葉の名所たる紅葉山、亀甲に似たる奇岩亀石などあり。

サワノ 澤野村

群馬縣上野國新田郡の東南部、太田町の南方にて利根川の北岸に近し。西南は尾島町、西北は寶泉村、東は九合村及び邑樂郡大川村、南は埼玉縣大里郡別府村と隣りす。全村平地にて中央を利根川の小支流南流し、その附近より東南部にかけては畑地にて所々林野を交へ、他は田地多し。米・麥の產多く、養蠶また榮えて繭の收穫多額に上る。太田町より南方熊谷市方面への縣道東南部を走りてバスの便あり。また社線東武鐵道伊勢崎線太田町より來り、村の北部をかすめて西走し、細谷驛(昭和二年開業)を置き、交通便利なり。此地は和名抄、新田郡石西郷の內とす。大字岩瀬川は嘉應二年注文に「いわせかはの郷」と見ゆ。岩瀬川はもと溝流の名なりしなのち村名に立てしもの。中世の系圖に細谷孫太郎氏國・同三郎知信等と見えるは、蓋し此地に居して在名を負へるもの。大字牛澤は嘉應二年注進に東牛澤郷・西牛澤郷と見え、應永十一年注文には西牛澤村・東牛澤村と載す。また大字高林は岩松文書、嘉應注進に「たかはやしの郷」と見える地とす。里見九代記系圖に新田義重の嫡子を高林太郎義俊といひ、其子を里見伊賀守義成とす。義俊は大新田と呼ばれ、その令弟の小新田と相對す。〔長良神社〕大字古戸に鎮座。郷社。祭神、藤原長良。創立年代未詳。もと鳥尾先にありしを、明治三十七年この地に遷座す。古來當所の土產神たり。例祭、三月十五日。〔長勝寺〕大字高林にあり。眞言宗高野派。荷葱山と號す。治承四年新田太郎義俊の開基、義勝和尙の開山。天正年間金山落城の際に荒廢す。再興せしも、慶長八年の火災以來再び衰頽す。慶安二年結綱これを重興し、德川家光より寺領寺地等を寄進せらる。依りて洞次諸堂を再興す。現堂宇卽ち之なり。〔高山彦九郎宅址附遺髮塚〕指定史蹟。大字細谷にあり。高山家の本家蓮沼氏宅に接して其の東方にあるも今は畑地となる。周圍は道路に依りて區劃せられ相當の地域を有せる宅址なること認めらる。今もその東北部に當りて井戸存し、西南部に庭木たりしといふ老楓一樹殘存す。宅址の西方三四町のところに高山氏一族の墓域あり。高山家を出だせし蓮沼家及び高山家の墓とが共に存し、彦九郎の遺髮を埋めし塚あり。彦九郎幼にして學を好み、長ずるに及びて勤王の大義を高唱し、全國各地を巡歷して四方の士に交りしが、言動熱烈なりしにより幕府の忌諱に觸る。寛政五年六月流後國久留米に在りて四十七歳を以て屠腹す。世に蒲生君平・林子平と併せて寛政の三奇人と稱せらる。彦九郎は孝養の念深くその母倫子八十八歳にて果てし時の如き、その墓側に廬を結びて三年の喪に服し世人これを推賞す。明治九年皇室に盡せる勤勞を賞せられて、其子孫に金帛を賜ひ、更に同十一年正四位を追贈せらる。

サワノメ 澤目村

秋田縣羽後國山本郡の北部。北は八森村に、東は鵜毛・常盤・塙川の三村に、南は東雲村に界し、西は日本海に面す。東北には山地連りて土地高く漸次西に傾斜し、海岸には砂丘連り山地との間に耕地廣く拓く。水澤川は源を鵜毛村境の次郎左衛門嶽より發し、水澤山の諸水を集め水澤・目名湯落の境を流れて日本海に入る。水澤川上流一帶は山勢急なり。地質は第三紀の水成岩層にて所々に頁岩及び凝灰岩露出し土質は埴質壤土多く表土は淺し。砂丘地帶は砂害風害防止のため黑松の保安林によつて占めらる。農家戶數四八一あり純自作農は一五五にて他村に比してその自作農多きは注意を要す。米・豆類多く、野菜は各種類に亘りその產出多し。果樹の栽培盛に日本梨は特に多く、西洋梨・柿・葡萄・梅・桃等を產す。梨は龍代梨の名により賣出さる。牛馬等の飼養行はれ、牛の多きこと附近町村に比較し著しき弦黑を認む。木炭の產は主に東方山地帶に生產ぜられ、また白炭多し。道路は平坦にて砂丘の內側に大間越街道南北に通ず、省線五能線は本村を通過し大字水澤に澤目驛(大正十五年設置)を置く。本村はもと水澤村・目名湯村・高野々村・田中村・沼田村の五個村に分れ、そのうち目名湯村岩子部落はその起原實に一千七百年を經といふ。目名湯はその以後に於いて開け水澤は約八百年以前、三少森は二百年前後に拓けしといふ。田中村はもと塙川村の一部なりき。村名は水澤・目名湯の各一字をとりて名づく。

サワベ 澤邊村

宮城縣陳前國栗原郡の東北部。東は大岡村を挾みて若柳町に對し、北は金成村・津久毛村に、東南は志波姫村に、西南は富野村・尾松村に各隣接す。西北部及び中部に七—八〇米の丘陵蟠り、迫川の上支三迫川北部を東南に流れ東北に流れ來る一迫川と東境にて合す。三迫川・一迫川の沿岸は沖積層より成る廣き低地にして耕地よく拓け、米・麥・馬鈴薯等を產し養蠶も行はる。東北本線の石巻譯(登米郡石巻町)より起る栗原軌道は三迫川に沿うて通じ澤邊驛を設き、國道陸羽街道は中部を南北に通じ若柳町に至る。縣道また三迫川の左岸沿ひに走り國道と交る。此地古くは和名抄、栗原郡伸村郷の地なりしか。桑落は三迫川に沿うて發達し、古來、陳羽街道の一宿驛たり。

サワヤマ　澤山村　茨城縣常陸國東茨城郡の北部。那珂川の右岸。西は伊勢畑村、南は岩船村・東南は圷村に隣接す、東北は那珂川を隔てて那珂郡野口村・大場村と界す。南境に富士山（二七五米）ありて村の西半部は山地をなし、東半は那珂川沿流原の平地にて、山に近き部分は田地、他は畑地をなし桑畑もあり。農業・養蚕を主とし、米・麥・豆・藍・煙草の產あり。川に沿ひて縣道通じ物木縣茂木方面とバスの往復あり。また水戸市より社線茨城鹿道線來り、村內南部に阿波山驛（昭和二年開業）、中部に阿野澤驛（同三年開業）、北部に給點御前山驛（同二年開業）を設き交通便利なり。此地古くは和名抄、那珂郡阿波郷の內に屬す。大字阿波山はまた大山に作り中世に大山氏の居所とす。義孝の子義通、正長元年高久義景・楠澤助次郎を擊ちてこれを殺すと云ふ。其子義兼、孫根に退去し孫根氏を稱せしも、弟義定嗣ぐやまた大山に移る。文龜二年佐竹義舜に從ひて屢々功を建つ。村內の御前山は古生層より成り山中に樺・赤松等繁茂し、其間に雜木あり。北麓には那珂川は淵を作る。新緑・紅葉の季節には殊によく、その風景嵐山に似たれば常陸の嵐山と稱せらる。〔阿波山上神社〕大字阿波山に鎮座。郷社。祭神、少彦名命。俗傳によれば、大寶元年少彦名命は童形にて手に粟穂を持ちて杉樹に降臨し給ひしに因みて、童形の神像を祀りて降木（佐加利子）明神と稱せしが創めなりと傳ふ。故に土人は粟を重んじ今もその意幹にて家屋を葺くことなし。延寛の制小社に列す。　佐竹氏代々の崇敬篤し。例祭四月十五日。〔龍谷院〕阿野澤地內にあり。曹洞宗。瑞雲山と號し豆州加茂郡菩門院來たり。長祿三年大山城主佐竹義信の臣、大山因幡守義成の開基に係り、正傳禪師を開山とす。現に末寺八個院を有す。附近に櫻樹多く花の名所たり。

サワラ　早良【早良郡】福岡縣十市十九郡の一。筑前國の一部にて縣の西部に位し、東北は福岡市、東南は筑紫郡、西は糸島郡に隣り南は佐賀縣神崎郡に界し、西北の一小部のみ博多（福岡）灣に面しその前面に殘ノ島の屬島を有す。面積一一六平方粁餘。南部は脊振山塊に屬する山地にて境上に脊振山（一〇五五米）・金山（九六七米）峙ち、東西兩境にはまた脊振山塊の山脈南北に逶迤し、東境中部に油山（五九二米）、西境北部に日向峠（四一九米）・叶岳（三三九米）等ありて山地廣きも、中部には南北に平地つづきて室見川は南部山地の水を合しこの平地を北流して博多灣に注ぎ田畑よく拓く。農業榮え米麥を第一に、其他、野菜・甘藷・菜種・蘭等を產し、沿岸漁業行ばれ、また清酒・醬油等の製造あり。唐津街道は福岡市より郡の北部壱岐村の海岸を横ぎり糸島郡に出で、また他の縣道は福岡市西新町より岐れ郡の西部を南に貫き三瀬峠を越えて佐賀縣神崎郡に出づ。また省線筑肥線は唐津街道に沿ふて北部を走る。本郡はもと備縣の屬地にして、武內宿禰の裔、佐和良臣の居邑なり。郡名は延喜式にも見え、和名抄は佐波良と訓じ、畔伊・能解・額田・早良・平群・田部の六郷を置く。天正年中田島高指出帳に田千九百四十四町、畠三百四十六町とあり。元祿舊記には高三萬八千六百九十八石、四十七村と記す。此地は常に外寇の衝に當り刀伊・蒙古の襲來みな此地よりす。東國通鑑に三郎浦とあるは即ち此地とす。中世以降は變遷なく以て今日に至る。

【早良嶽山】本邦重要炭山の一。福岡縣福岡市及び早良郡壱岐村に跨り、福岡市の西郊に位す。早良鑛業株式會社の經營に屬し、その產額昭和十年度に三二二、六三四瓲、二四三、三萬圓に達す。炭層は大辻層群に屬する第三紀砂岩頁岩中に挾まりて、主なるもの五層あり、厚さそれぞれ一・二、一・八、一・五、二・一、二・四米なれども、最大部分は最下層の八尺層より採掘され、遲青質にて稍々粘結性あり、多少膨脹性を有し汽罐の燃料、鍛炭製造用に適し、また瓦斯發分多きを以て瓦斯製造の原料となる。福岡炭田一名早良炭田のうち最も主なるものに屬す。

【早良】筑前國（福岡縣）の古地名。和名抄に早良郡早良郷あり、郡家の所在地たり。其地今の福岡市西町・唐原町の邊に當る。唐原は早良の遺稱なるべし。

サワラ　佐原　↓駒ヶ岳（北海道）

【佐原岳】↓駒ヶ岳（北海道）

【佐原町】千葉縣下總國香取郡の北部。利根川の下流に跨る。東は香取町・津宮村、北は新島村、南は香西村に接し、西は東大戸村及び横利根川によりて茨城縣稻敷郡本新島村に隣りす。利根川の本流は中央を東に流れて町は南北の二部に分る。南半部の西邊には丘陵地あるも、其他は低地にて田地多し。市街は丘陵地の東北麓より河岸に近く發達し、縣道四通し、東は銚子、南は多古、西南は成田、北は牛堀・潮來方面に通じて何れもバスの來往あり、また省線成田線東西に貫きて佐原驛（明治三十一年設置）を置き、水郷汽船の發着所をなし、水陸運輸の中心たり。町の北半部北岸は利根の本流と、霞浦より出づる北利根川・横利根川とに圍まれたる所謂水郷の一部をなし、その東部は津宮村の與田浦に接し、低濕の地にて啥んど全部は水田をなす。米の產多く、麥・藺・雞これに次ぎ、また清酒・醬油の醸造行はる。もと郡役所のありし所にして、いま警察署・區裁判所・稅務署・中學校・女學校等あり。小野川口の佐原港は指定港灣たり。此地は和名抄、香取郡香取郷の內にて、天正以前は矢作城主國分氏の領地に屬し微々たる一村落に過ぎざりしが、千葉氏衰微の後同族及び國分氏の臣伊藤・水津・圓城寺の諸氏、この地に移住し、土地を開き家屋を營み漸次部落を成すに至る。德川氏關東に入るに及び、其臣鳥居元忠、この地を領し、のち佐倉藩堀田氏の管轄に歸し、安永年中、旗本津田日向守の采地となり、元治元年水戸の浪士の浮浪の徒佐原を劫掠するもの多し。津田氏制する能はず、遂に再び堀田氏の領地に屬し、浮浪の徒を制す。西方に岩崎村ありしが明治八年之を併合し當時なほ佐原村と稱せしが、同二十年町制を布けり。〔岩崎城〕字岩崎にあり。同郡南方より來り北部に至りて止る。此處を城址とたす。同上樹木鬱香たり。東に稻荷祠を祭り中央愛宕祠あり。地勢延いて西方に及び其間凹みて圓形窪地をなす。これを馬場跡となす。城はもと栗林義長の壘址にして、天正十八年德川氏江戸に入るや鳥居元忠四萬石を以て此地に封ぜられ岩崎に築城し之に居りしが、慶長七年、子忠政、勢城に移封せられ城遂に廢す。慶長九年、德川氏岩崎城を西尾因幡に與へ、西尾氏ここに居る。〔十六島鑿蝦發生地〕指定天然記念物。鑿蝦はぬかえびに發光細菌の寄生したるものにて、七月より九月に亘り水溫高き時數多水面近く現れ燐光を放ちち美觀を呈す、蓋し世界無比の現象なり。〔諏訪神社〕佐原に鎮座。郷社。祭神、健御名方神。創立年代不詳。江戸時代、水戸藩主德川氏歷代の崇敬を受け、且つ郷の守護神として崇敬せらる。元祿十四年中興より山上に座遷す。〔觀福寺〕新義眞言宗豐山派。妙光山蓮華院と號す。寛平年中空海の草創に係る。爾來武將の尊信厚く山谷理行・同智業入道等田園を寄す。境內大師堂に安置せる弘法大師像は川崎及び西新井の大師像と共に關東三尨除大師と稱せらる。寺寶中釋迦如來坐像一軀、十一面觀音坐像一軀、地藏菩薩像一軀、藥師如來坐像一軀の四點は何れも國寶たり。〔勝德寺〕新義眞言宗豐山派。出興山不動院と號し、本郡香西村觀福寺末たり。創建年代不詳。天正年中矢作城主國分鳳政の再建に係る。本尊不動明王は弘法大師の作と云ふ。俗に荒久の不動と稱し參者頗る多し。〔淨土寺〕眞宗本願寺派。紫雲山樂邦院と號す。萬治元年の創建にして義傳和尚を開山とす。開基は河內の豪農石橋九兵衛なり。當時新規寺院建立禁制なりしかど當寺の創建頗る困難を極めしが、九兵衛の熱心なる奔走により遂に公許を得たりといふ。〔莊嚴寺〕日蓮宗。新義眞言宗豐山派。不動院と號し、郡內香西村觀福寺末たり。舊時は村社諏訪神社の別當たりき。寛永十八年の創建に係り、眞傳法印を開山とす。本尊は不動明王なり。〔御倉寺〕曹洞宗。延命山と號し、天正二年の創建に係り、良悅和尚を開山とす。慶安元年德川氏寺領六石五斗の朱印を賜ふ。本尊に延命地藏菩薩を安置す。〔伊能忠敬舊宅〕指定史蹟。母屋と店舗より成り平家造瓦葺、母屋は玄關・內玄關・書齋・納戸等五室建坪二十四坪、店舗は店及び居間等にて建坪三十二坪あり、忠敬以前の建築、母屋は寛政五年忠敬設計せるものにして測地學研究に使用せしところ、保存宜しきを得て舊規能く存せり。土藏は舊宅の南約六間、忠敬存生の頃よりあるものにして今遺著數に遺品を收藏す。

サワラ　砂原村　北海道渡島國茅部郡の中部。渡島支廳管下。內浦灣口の南岸に位し北東遙に室蘭市を望む。北西は森町に隣り、東南は鹿部村に接す。面積五七・七平方粁。郡須火山帶中の活火山たるコニーデ型の駒ヶ岳（一一四〇米）南境に峙ち、その北方斜面に位して地は北方に緩傾斜し、海岸に狹長なる平野を有す。高き部分には開析谷放射狀に存すれども裾野は原地形を保ち、蘚木林に被はる。河岸の東半は海岸をなし、西半は砂濱にて中部に砂崎の突出あれども良港なし。水產業を主とし鰯・烏賊・昆布・鮭等の漁獲多く、また森林・牧場あり、畑地には馬鈴薯・大豆等を產す。集落は海岸の聯路に沿ひて多く街村式を成す。社線渡島海岸鐵道通じ、掛澗驛・砂原驛（共に昭和二年設置）の二驛を置き交通不便ならず。明治三十九年二級町村制施行。

サン　三

【三ノ池】↓木曾御嶽火山中、摩利支天山外側の寄生火山の火口湖。標高二七二〇米。深度一三・〇三米。水質は我國の最小貧榮養型に屬し殆ど蒸溜水に近し。木曾川の一水源をなす。

【三ノ岳】↓熊本縣玉名・鹿本・飽託の三郡の交界にある山。その北尾にかかる山路を吉次越といふ。明治十年西南の役に賊軍の死守せし地。吉次越陷りて後も山頂の一壘はなほ賊軍の占據する所なりし

が途に之を棄てて選く。

サン　山面　朝鮮平安北道宣川郡の北部。郡中第一の大面にて東西二〇餘粁、南北約一五粁。東は龜城郡梨峴面、北は同沙器面及び義州郡月華面、西は鐵山郡站面、南は深川面及び新府面にそれぞれ隣接す。西北端には文秀山(七四一米)・笠峰(五一二米)、東南部に左耳山(三八三米)等聳え其餘脈周縁して盆地を形成し、周縁山地に發源せる諸水は盆地の中央に集りて清川となり南方に出口峡谷を成して流出し後に宣川灣に注ぐ。住民は農を主とするも家内工業として扇の製作に從事する者あり。産物に米・粟・麥・黍・蔬・木炭・牛皮等あり。總督府鐵道京義線面の南方を東西に横ぎり、南方宣川郡よりは三等道路を通じ乗合自動車の便あり、域内道路網よく發達す。衆落は美事なる散村式をなして盆地内に普遍的に分布す。面事務所を保岩洞に置く。

サン　鬱島　朝鮮黄海道西北部の島。殷栗郡二道面に屬す。大同江口の避鳥水道の西方、本陸突出角より北西方一粁弱にありて、遠脈上に位し、高さ三三米。附近は淺水にして且つ岩礁散在す。鬱島燈臺(明治四十一年設置)あり、燈質速閃白光、四秒半を隔てて一秒半間に二閃光す、アセチレン瓦斯を用ふ。光達距離一四浬。

サンイン　山陰　【山陰地方】　山陰とは山の北を指し、山陽に對す。中國地方の主分水界より北の斜面をいふ。鳥取・島根兩縣及び山口縣の一部を含む。行政上は兵庫縣のうち但馬、京都府のうち丹波・丹後は近畿地方に屬すれども、もとは山陰道の一部にして、風物今も山陰式の點多く地理的には山陰に屬するものなるべし。便宜上以下行政的區分に從ふ。高地は古き岩石の侵蝕されし一大高原にて餘り高峻ならず。大山・三瓶山等の火山の點在するは三朝温泉・城崎温泉等の存在と共に東西の方向に白山火山脈走るが爲なり。山陰海岸地方の中央に島根半島と松江低地帶あるは著しき變化なり。島根半島の地塊と本陸との間の地溝帶は憂伊川等の三角洲及び夜見ヶ濱の砂嘴によりて埋積されしが宍道湖と中海とは殘れり。東部海岸は山地の海に迫る間に千代川・天神川・日野川等の谷間け川口に砂丘及び潟ありて、愛に鳥取平野及び倉吉平野等を見る。石見・長門の海岸は岩石海岸にして、江ノ川の吐口には三角洲の發達無し。氣候は北陸地方に類して冬季雪の多き裏日本式を示す。比較的氣温の高きは沿岸を對馬暖流東流するが爲なり。本地方耕地の分布を見れば島根縣の宍道湖を中心とする憂伊川・神門川のアルヵ平野、鳥取縣には日野川の谷及び夜見ヶ濱(弓ヶ濱)の砂嘴が中海を中心として耕地群を與へ、東部にては倉吉を中心とする天神川の低地及び鳥取市を中心とする千代川の流域に比較的廣大なる耕地群を見、其他は一般に凹平原面に、丘陵の緩斜面に、谷頭の小盆地に、構造線谷に散布形式により著過的に線狀にまた樹枝狀に大體東北より西南の方向に分布景を呈す。第三紀層は廣闊なる原野をなし、土性は鳥取・島根二縣多少異るも概して砒酸量多く稻の主要成分となる燐酸は一般に微量にて加里分も少く豐沃なる耕地とは云ひ難し。されど米は最も重要なる農産物にして鳥取縣にては近時品種の改良と增殖に努めその收穫量增加しつつあり。更に本縣の三大河千代川・天神川・日野川の產出狀況は千代川三六%、天神川二五%、日野川三九%の割にして日野川流域最も秀で伯州米の名にて知らる。島根縣の米は結實期に於ける雨量及び濕度の關からざる上に日照も少く、調製期に於ける氣候的條件不利なる爲に乾燥不充分にて貯藏も困難とせられ一般に軟質米多し。本地方は氣候、山陽の如く好條件ならず、害に米質を損ずるのみならず收量上にも影響する所大なり。麥類の栽培もよく行はるれど山陽に比して少く、一般に鳥地の多面地帶は冬季の積雪により二毛作を妨害せらるるによる。工藝農作物に人蔘・藍・三椏等あり。藥用人蔘の栽培は濕地よりも寒地に適し栽培地も北斜面の畑地若くは傾斜地にてもなほ充と熱とを防ぐ爲の屋根を要する程なり。從つて本地方は此條件に好適し殊に品質の最上猶良なる鳥根人蔘にして內地の外中華民國等に輸出さる。和紙の原料となる楮・三椏は山間の畑及び傾斜地に栽培され、殊に鳥根縣は高知縣に次ぐ多產地にて石見半紙は古來有名なり。また鳥取縣の所謂二十世紀と稱する梨は良質を以て知らる。夜見ヶ濱を初め鳥取縣には桑園相當に發達して養蠶行はれ生糸の產あり。畜產は本地方にては地形の開析進めるため火山の裾野以外には廣大なる牧場比較的少く、且つ多雨のため一般に舍飼する等飼育法は山陽地域と異る。鳥取縣にては東伯郡の田代牧場及び大山裾野の西伯・日野兩郡を主とす。島根縣にては仁多郡の八川牧場は出雲牛の產地として聞え、性質順良にて體軀强健よく力作に堪へ、制御し易きを以て重用さる。飯石郡の南部山間にも荒野に放牧されて良牛を產す。また隱岐は地形上古くより獨得の輸換牧畑と稱して山腹の傾斜地域の相當に廣き面積を有する耕地に放牧し、農業用の肥料を高所に運搬する勞作の代りに牛に依り耕作の輸換をなす。卽ち各村廣れ耕地を四區に分ち、一區に牛を放牧すれば二區には麥を作り、三區には稗または蕎麥を播き、四區に大豆または小豆を植う。兩して各區四年を以て一期とし、初年に牛を放てるものは次年に麥を作り、初めに麥を植ゑしものは次年に稗・蕎麥を播き、各區各年に循環使用す、また時には五區に區劃することありて第一區を他村との入會

として兩村の牛馬を交通させ相互の便利を圖る。牧畑の總面積は約二八〇〇ヘクタール、飼養牛數三〇〇〇餘頭にて牛の移出先は鳥取・岡山・山口・廣島の諸縣及び京阪神地方なり。工業は特記すべきものの尠きも、鳥取縣の蠶糸・製織・機織、島根縣の蠶糸・醬造・製紙・雜詰製造等あり。山陰本線は京都より鳥取・倉吉・米子・松江・峯市・濱田・津和野を經て小郡に向ひ鑛買線としての役目をなし、また陰陽連絡線なる播但線・伯備線・山口線等は表中國の山陽線と連絡す。山陰街道は但馬の竹田より蒲生峠を越えて鳥取市に入り、米子・松江の二市・濱田町を經て益田に達す。ここにて二派に分れ一は隱岐谷に渡り津和野より山口に至り小郡にて山陰街道と相會す。他は須佐・萩市を經て下關市に達し山陽街道と合す。和船時代の好寄港地美保關は島根半島尖端の一小灣入口なるも、今の問港場は境・濱田・萩にて特に境は重要なる港なり。冬季氣海の不便なる點は奥羽地方の西海岸及び北陸地方と類似す。內國商業は松江が中心にして、鳥取・倉吉・米子・濱田等もそれぞれ地方的中心をなせど總じて阪神の商圈に屬す。この地方、殊に出雲地方は古代に於ては我國の他の地方に先んじて所謂出雲文明の發達せしところなりしも、關西・關東の兩中心より交通不便にて隔絶せしためそのの文化後れ、山陰線の問題と陰陽連絡線の增加とはその間發達を助長しつつあり。地理的見地よりすれば山陰はその環境として山陽に及ばざりし點の多きは已むを得ざりしことなるべし。

【山陰道】　畿內八道の一。中國山脈の北面をいふ。蓋し山の北面はこれを陰といひ、南面はこれを陽といふ。本道の位置は畿內の西に接し、北は日本海に面し、南は山陽道に接す。本道は往昔の丹波道にして、崇神天皇の朝、四道將軍の丹波道主命が命を奉じ鎭撫せられた地方にて、今日の山陰道の大部を含み、西は出雲に接せしものなるべし。文武天皇の朝全國を分ちて五十八國三島とせし時、山陰道は丹波・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見及び海上の隱岐を合して七國なりしが後に元明天皇の和銅六年、丹波の北部を割きて丹後を置き、ここに八國となりて今日に至り、行政上京都・兵庫・鳥取・島根の一府三縣の管下に置く。維新の初め本道に鹽山(後、鹽岡と改む)・岡部・山家・綾部・福知山・淀山・柏原(以上丹波)、田邊(後、舞鶴と改む)・宮津・峯山(以上丹後)、豐岡・村岡・出石(以上但馬)、鳥取(若櫻・鹿奴を含む)(因幡)・松江・廣瀨・母里(以上出雲)、津和野・濱田(以上石見)の諸藩ありしが、濱田藩は美作國に轉封せしをもつて、その後には濱田縣を置き、津和野藩は知藩事の辭職により藩を廢し、これを濱田縣に合し、その他の諸藩は明治四年七月の廢藩置縣令により悉くいづれも一時は縣となれりッしかるに同年十一月に至り大いに縣を廢合し、丹波の東部三郡(桑田・船井・何鹿)は京都府に屬し、西部の三郡(天田・多紀・氷上)及び丹後一圓は但馬の豐岡に置かれし豐岡縣に入りしが、明治九年八月天田郡及び丹後一圓は京都府の管下に移り、氷上・多紀二郡と但馬一圓とは兵庫縣の管下となりて今日に至る。因幡・伯耆・隱岐の三國は、明治四年十一月縣の大廢合の際、鳥取に置かれし鳥取縣これを管し、出雲は松江に置かれし島根縣に配屬し、石見は濱田にありし濱田縣これを管せしが、明治九年八月に至り、鳥取・濱田二縣を廢してこれを島根縣に合併せるにより、ここに島根縣は因幡以西の五箇國を管することとなれり。後、明治十四年九月に至り鳥取縣を復活し、因幡・伯耆二國を管轄するに及び、今日の治域となれり。いま京都を起點として本道を横斷し、小郡にて山陽線に合する鐵道を山陰線といふは本道名に因む。

【山陰線】　省線の一。山陰本線・鮮鶴線・宮津線・因美線・若櫻線・倉吉線・境線・木次線・大社線及び三江線の總稱。主として中國地方の裏日本即ち日本海斜面なる山陰方面に通ず。

【山陰本線】　省線山陰線の幹線。主として中國地方山陰方面の日本海岸に沿うて東西に通ず。東海道本線京都驛に起り西北の國部・福知山・豐岡等の諸驛を經て日本海岸に出で、それより海岸に沿うて鳥取・米子・松江・濱田・萩・正明市・阿川等の驛を過ぎ下關市の山陽本線幡生驛に至る。全長六七五・四粁及び正明市驛(山口縣大津郡深川町)より仙崎町の仙崎驛に至る二・二粁、馬湯驛(島根縣八東郡竹矢村)より同村馬湯の馬湯港に至る一粁の線を分岐す。この線は裏日本交通の要部をなすを以て大阪市及び京都市より下關市に至る直通列車運轉され、また大阪市より福知山線經由大社行の直通列車あり。主要接續線は京都驛にて東海道本線・奈良線・私線奈良電鐵・綾部驛にて鮮鶴線、福知山驛にて福知山線・社線北丹鐵道、和田山驛にて播但線、江原驛にて社線出石線、豐岡驛にて宮津線、岩美驛にて岩井町營軌道、鳥取線にて因美線、上井驛にて倉吉線、伯耆大山驛にて伯備線、米子驛にて境線、粟島驛にて社線廣瀨鐵道、宍道驛にて木次線、出雲今市驛にて大社線・社線大社宮島鐵道、石見江津驛にて三江線、石見益田驛にて山口線、正明市驛にて美祢線、幡生驛にて山陽本線。

サンカ　三嘉面　朝鮮慶尙南道陜川郡の南部。東及び北に雙栢面、西は佳會面及び山淸郡新等面、南は同郡生比良面及び宜寧郡大義面にそれぞれ隣接す。地形は老年期の丘陵性地域を成し黃川其中央を南流し其盆に猪廣き低地橫ほる。住民は農を主業とし米・大麥・大豆等を產し

また紙・麻布等の工産及び金鑛あり。北方陝川より來る二等道路は西の略中央を南北に縱走し南方晋州に通ずる外、三嘉より西方居昌に至るものありて交通比較的便なり。集落は面の略中央に位し面政の中心たるのみならず南部陝川の中心をなし、大正三年府郡併合までは三嘉郡政の中心たりし地にして警察署・郵便所・金融組合・小學校等あり。又陰曆二・七の日に開く市場ありて麻布・米・牛等の販引行はる。

サンガ　三箇村　埼玉縣武藏國南埼玉郡の北部。菖蒲町の東南隣にて、西南は見沼代用水を界に大山村、東南は江面村、東北は清久村と隣る。面積六・八八平方粁。關東平野内の一部を占め、土地概ね平坦、北半には水田多く、南半は低き畑地にて稗んど畑地をなす。純農村にて米を主とし蔬・麥等の農産を出す。道路は南部の畑地上を斜に走りて菖蒲町に通ず。本村は近世埼玉郡菖蒲領（大字河原井・三箇は此の領に屬す）・騎西領（大字畑は往古は松平伊豆守の所領なりしが、のち幕領となり、延享四年一橋領となりしが、後に幕領となり、延享四年一橋領となりし地なり。大字三箇は菖蒲庄と稱せられ、明應の頃に辻・寺中・大藏と稱せし三箇所を一村となせし故に三箇の名生じたりといふ。大字畑も松平伊豆守の領地なりし地なり。大字畑は菖蒲庄（大字河原井・三箇は之に屬す）に分屬す。大字河原井は幕領となり、延享四年一橋領となりし地なり。

サンガ　參賀　新潟縣中頸城郡にありし村。明治四十年八月新井町と合併し新たに新井町を置く。

サンカイ　三海面　朝鮮咸鏡北道富寧郡の東南部。東は梨津灣、北は鏡海面、西は富居面及び鳥潭灣、南は沙津灣及び直接日本海に相面す。西北境には登水劍山屹立しその餘脈域内に達し、山地帶を成せども東南に向つて漸次低夷す。東南部の海岸地帶は沈降して美事なるリヤス式海岸の形成に頗る肢節に富める海岸地形を成し前記の如き諸灣を初め幾多の彎入あり。住民は主として農業に從事し、海岸地帶の慶倉洞・南浪洞等にては漁業に從事する者多く、東部素清川口の砂嶺地帶にては製鹽に從事する者あり。農産物は粟を主とし稗・大豆・小豆・燕麥等之に亞ぐ。鑛産物に銅・砂金・砂鐵等あり、水産物には明太魚・鰯・食鹽等あり。一等道路輪城より來り域内の中部を横斷して北方雄基に通じ、支線域内に普及して交通便なり。產業は多くは海岸地帶の灣頭に位置し、面邑水坪洞亦灣頭に近くあり。

サンガイ　山外（サンゲ）**【山外面】**　朝鮮黃海道金川郡の西端。東は西北面、北は平山郡古之面、西は同積岩面、南は延白郡の金山面及び雲山面に各隣接す。四面山を繞らし珠に北境の天地山（三七二米）・佛乏山（三四一米）、東南境の石勝山（三六〇米）等聳ほる。其他に一般に低く中央部を古之川北西流す。產物は大豆を主とし雜穀・薪炭及び人蔘等之に次ぐ。總督府鐵道京義線金川驛に東方約一五粁にありて三等道路を通じ、乘合自動車の便あり。面邑新明里ほこの道路に沿ひ、警察官駐在所、及び陰曆二・七の日に開く市場ありて穀類・薪炭等の販引行はる。

【山外面】　朝鮮忠清北道報恩郡の北端部。東に俗離面及び慶尙北道尙州郡化北面、北は槐山郡青川面及び清川郡來院面、西は內北面、南は報恩面に各隣接す。小白山脈東境を南走し東北境に檢丹山（七六七米）・昆盧峯（八七三米）等聳え、東部は山岳重疊すれど西部は漸次低夷し、珠に達川中央を流れ其流域には河成段丘よく發達し灌漑の便と相俟つて耕地よく發達す。昆盧峯一帶は東方の俗離山と共に全山鬱蒼たる森林を成す。住民は農を主とし、副業として綿絲・明紬・莞蓆等の製造に從事する者少からず。產物には米・大豆・大麥・棉花・麻・煙草等あり。道路未だ改修十分ならず峻坂多く俱峴峠を擁するを以て交通便ならず。面事務所を九峙里に置く。

【山外面】　朝鮮慶尙南道密陽郡の中央より稍北東部。郡邑密陽の東北に隣接し、東は清道郡の支流丹場川を隔てて丹場面に對し、北は山內面及び上東面に各相隣接す。東北境に近く正巢山（八五九米）・北境に落花山（六二五米）聳立し、南部の丹場川沿岸に稍廣き平地を見る。丹場川は江水清洌、その質良好にして今尙多く飲料水として使用さる。また鮎・鯉・鰻等を產し、特に鮎に名產として廣く其名を知らる。河岸の低平地は地味肥え、水利よく米・麥・煙草・果實・蔬菜等を產す。總督府鐵道京釜線密陽驛（密陽邑）よりは二等道路を通じ自動車の便あり。集落は主に河岸に集り、上流より希谷里・金谷里・茶竹里・琴川里・南浜里等あり、山地內に巖光里ありて面事務所を茶竹里に置く。

【山外面】　朝鮮全羅北道井邑郡の東北端。東は任實郡雲岩面及び完州郡九耳面、北は金堤郡金山面、西は瓮東面・七寶面、南は山內面に各隣接す。東境には花崗岩より成る墨方山（五四二米）聳え、其他周囲何れも山地を以て圍繞し中央低く小盆地を形成す。周囲山地に發源せる諸流は盆地底に集り東津江となり杏壇里の峽谷によりて排水す。地味肥沃にして農業盛に行はれ、米を初め粟・大豆・玉蜀黍・棉花・煙草等の栽培行はる。集落は盆地の周囲に分布し、花竹里・良良里・東谷里・五公里・杏壇里・平沛里等あり。平沛里は面の略中央に位置し、面事務所を置く。

サンカイセキ　三塊厝（サンクワイ）**【三塊厝】**　潮州線の一驛（明治四十一年設置）。臺灣高雄州高雄市高雄街三塊厝にあり。

【三塊厝】　↓龍井庄（臺灣臺中州大甲郡）

【三塊厝】　↓清水街（臺灣臺中州大甲郡）

サンカク　三角山　札幌市の西郊、石狩支廳札幌郡琴似村に聳ゆ。標高三一二米。我國國際スキー場として名高く、全日本的スキー競技も多くはこの地にて行はる。またスキーゲレンデとしても知らる。山麓一體に各種スロープ作られ、大倉ジャンプェ及び記念ジャンプェ等名ある。前者には日本一のウヤンプ臺あり、又後者は昭和四年の高松宮御台臨を記念して大倉喜七郎男の寄贈せしものなり。南方に圓山温泉あり、南東に札幌神社鎭座す。札幌市よりスキー場行の自動車を通ず。

サンカク・ショク　三角蠲（サンカクショク）**庄**（臺灣）　↓三峽庄（臺灣）

サンガクニ　三國山　中國山脈の一峯。鳥取縣仁多郡八川村、廣島縣比婆郡八鉾村、鳥取縣日野郡多里村との境界に跨る。伯耆・備後・出雲の三國境上に屹つ故に山名出つ。山體石英斑岩より成る。

サンカクホ　三角埔（サンカクホ）****　↓土林街（臺灣北州七星郡）

サンカクユー　三角湧（サンカクユウ）****　↓三峽庄（臺灣）

サンガショ　三ケ所

【三ヶ所村】　宮崎縣日向國西臼杵郡の西部。九州山脈中部の山村にて、東は高千穗町、東南は諸塚村、南は椎葉村、西は鞍岡村、西北は五ヶ瀬川上流によりて熊本縣阿蘇郡馬見原町・菅尾村と界す。四周山岳を繞らし、東境に二上山・赤土岸山（一一六九米）・大仁田山（一三一六米）等連り、山嶺西に續りて南境を限り、西境にも祇園山（一三〇七米）・鍛山（九一七米）等の山脈南北に續き、中部の谷地を五ヶ瀬川の支流西北流し、西北隅にて北西隣馬見原町との界をなして東北に流る。全村略ど山地にして山林・原野廣く田地一六二町歩、畑地八一八町歩に過ぎず、米・麥・粟等の農產の外に、木材・薪炭・椎茸等の林產あり。また本村は三ヶ所鑛山の一部を占め銅鑛の產多し。北部を東方の高千穗村字三田井方面より西方の馬見原町方面に至る道路通じ、之より分岐し川の谷に沿ひて南方に延ぶる山道は南境にて小原井越を通過し諸塚村に入り、途中東に走るものに大仁田山と赤土岸山との間の假千峠を越ゆるものと、赤土岸山と其北二上山との間にて笹ノ越（一〇二八米）・杉ヶ越を過ぐるもの等あるも交通いづれも便利ならず。古くは阿蘇郡の內に入り、和名抄、阿蘇郡知保郷に屬せしものなり。大字三ヶ所に岡瀧關址あり、熊本街道に當る。藩治の時、延岡藩主內藤氏關吏を置きて往來の行旅を譏察し商稅を收めし所なり、縣治以來廢し今は畦圃となる。また大字桑野內に吐ノ瀨關址あり。岡瀧關址と同じく行旅を譏察し商稅を收めし所なり。今は宅地となる。尙ほ村內に奇勝蘇陽溪あり。五ヶ瀨川の本流と支流三ヶ所川との會點以下八粁の間にして飛瀑・急湍・深淵あり、紅葉の秋は眺望頗る佳なり。（三ヶ所神社）大字三ヶ所に鎭座。郷社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命。創建年代不詳。元亀二年三田井越前守親武再興すといふ。例祭、九月二十九日。

【三ヶ所鑛山】　宮崎縣西臼杵郡三ヶ所・鞍岡二村に跨る。五箇瀨川上流の山中に位す、現に日窒鑛業株式會社の經營に屬する銅山にして、その產額昭和十年銅鑛一、二二二瓲、九・八萬圓に達す。鑛床は古生層粘板岩中の含銅硫化鐵床にて尙ほ開發の途中にあり、そのうち稻荷鑛床は延長一二〇米、上下一六〇米以上、幅最大二〇米のレンズ狀を成し、含銅品位は一・五乃至二・〇に達す。これを西方約一〇粁の熊本縣馬見原町を經て、熊延鐵道の終點砥用驛に出しつつあり。

サンガマキ　三箇牧村　大阪府摂津國三島郡の東部。淀川の右岸に沿ひ、北は高槻町、西は茨木町・鳥本村、南は鳥飼村に接き、東は淀川を隔てて北河內郡枚方町・樟葉村を望む。淀川沖積平野の一部を占め土地極めて平坦にて田地よく發達し良質米を產す。村の戶數五四三戶（昭和十二年六月現在）の內三九七戶まで農を主生業となす。府道北部と東部に通じ茨木町・高槻町方面に至り、交通便利なり。古への三島江なり、三十石船の上下せし頃は河港として繁榮せしものなるべし。萬葉集に「三島江の入江のこもをかりにこそわれかど君は思ひたりけれ」とあり、村に延喜式三島鴨神社あり。中世はこの邊御料の牧なりしといふ。また日本六玉川の一なる郤の花玉川あり。「郤の花に夜の光を照らさせて月にかはらぬ玉川の里」とて千古詩歌の好資料たりしが、今は水潤れ花散り割鍬の間後かにその名を留むるのみ。藪中に一四石あり觀月臺と云ひ、仲秋三五の夜、明月四囲の水に宿りて三尊の姿を現ずと傳ふ。

〔三島鴨神社〕　大字三島江に鎭座。郷社。祭神、大山祇神・事代主神。大山祇神は仁德天皇御宇に百濟國より渡來せられ、三島に座すと傳ふれば當社の創建はそれ以前なるべし。延喜の制に小社に列し島下郡（いま三島郡に入る）十七座の一。神位從五位下。往昔は淀川堤防の邊（今の淀川川床上）にありしが、文祿五年淀川修築の際に現在地に遷座す。治革その他に就き屢々の水害に社記流失して詳かにし難し。境內の瑞垣內には年々片藜の蘆生ずと云ふ。例祭、十月二十日。

サンカワ　參川村（サンカワ）　愛媛縣伊豫國上浮穴郡の西部。久万町の南方にてこの間に矢ノ峰村を隔て、西北は小田町村に、西南は浮穴村、東は柳谷村・弘形村と界す。石灰山脈の西端部にして有名なるカルスト臺地なす大野ヶ原の北方に聳き、東境には笠取山（一五六二米）・犬川嶽（一五二六米）・狼ヶ城（一三八〇米）等南北に連立し、村の中央には雨霧山（一

二四六米）聳立す。村の南半は高原をなし、北半は雨霧山の北斜面に屬し、北部の谷を小田川の上流西に流れ幅狹き谷地をつくる。この谷地の斜面には畑地よく開け、平地には田地も多少ありて耕作行はれ米・麥・玉蜀黍・大豆等を產す、また三極・楮・繊等の栽培行はれ大洲半紙の原料に供せらる。小田川の谷に沿ひて村道東西に通じ女二峠村に出で土佐街道に連る。交通なほ便利ならず。此地は古文獻の徵すべきものなく史蹟詳ならず。大字本川に鄕社廣瀬神社鎭座、天御中主尊・高皇產靈命・神皇產靈命を祀る（例祭十月二日）。村社三島神社の境內に大公孫樹あり。根廻り約一三米、樹齡約一千年と稱ふ。樹勢なほ旺盛にて樹幹所々に乳枝を生じ奇形を呈す。地方遠近の者この乳枝を乳の神として信仰し寒客頗る多し。

サンガワ　三川村　千葉縣下總國海上郡の南部。東は飯岡町、北は鶴巻村・嚶鳴村、西は矢指村に接し、南は太平洋に面す。面積六・七三平方粁の小村。九十九里濱沿岸平地の東北端を占め、海岸には砂丘ありて所々に松林・畑地あり。村の北半は土地低平にして田地多し。農產に米・麥を出し、また發蘚・養蘭行はる。縣道飯岡町を經て銚子市に通じ、北隣嚶鳴村の省線總武本線飯岡驛よりバスの便あり、交通便利なり。寛文九年、椿新開墾の時、三川溝に排水路を造る計畫ありしも、中途にして改變せりと。

サンガワ　寒川　【寒川】→千葉市【寒川（郡）】讃岐國（香川縣）の古郡名。續日本紀和銅六年紀に郡名見え、和名抄佐無加波と訓じ、雜賦・石田・長尾・造田・鴨部・神崎・多和の七郷を置く。また寒河（拾芥抄）にも作る。後世サムカワをサンガワに訛る。明治三十二年東方の大內郡と合併して大川郡を建つ。

【寒川村】愛媛縣伊豫國宇摩郡の中部。東は中之庄村、南東は金砂村、南西及び西は富郷村と界し、北は燧灘に臨む。面積九・九方粁。東西に走る高さ一〇〇〇米餘の石鎚山脈の北斜面に當り、僅に其の斷層崖下に狹き帶狀の海岸平野あり。生業は農四二%、商二〇%、工一九%、漁一四%、其他五%の狀より成る。農業は米・裸麥・甘藷等を栽培しまた生糸・梨瓜等の特產あり、山地は傾斜緩かにて櫨樹繁茂し、三極・楮等の栽培盛んにして障子紙製造は重要なる主產業たり。水產物も豐にして鯛・鰯等の漁獲あり、又近年は阪津工業の勃興をうけて綿糸紡績工業も盛んになりつつあり。村の東部にある大字東寒川は主邑にして郵便局設置さる、その他大會・大西等の村落は何れも平野を東西に通過する四國街道に沿うて起れる街村式發落發達せしもの、東寒川より山麓に至る縣道の終點に西寒川の村落あり、省線豫讃本線は東方三島町より來り海岸に並行して走り村內に伊豫寒川驛（昭和八年設置）を置く。村名はもとサムカハと稱せしも近時はサンガハといふ。此地古くは和名抄、宇摩郡御井郷に屬せしか。德川中期頃より松平氏の所領となり三島代官所の管轄に屬す。明治二十二年獨立し本村を置く。（石戸八幡神社）大字寒川に鎭座。郷社。祭神、中津彦命・品陀別命・息長足姫命。嵯峨天皇弘仁元年海中に神像を得て創建奉祀すといふ。例祭、十月二日。（新長谷寺）長谷川にあり。眞言宗高野派。元正天皇、德道上人並に薦原房前朝臣に勅して大和國に泊瀬寺を建立せしめらる。愛老五年勅して觀音像を泊瀬寺に安置せんとす。上人手づから六寸二分の小像を刻み、之に倣ひて丈六の巨像を作らしむ、今の泊瀬寺の本尊これなり。天皇、行基を招して開眼供養せしむ。行基、前の小像を小舟に安じてその行く所に任せしに當國江の浦に漂著す。漁人奉じ歸りて之を祀る。のち一宇を營み此像を安置して新長谷寺と號す。寛治元年、本村地頭薦原祐長再興す。讃州和田城主大平伊賀守此像に祈願する所ありしが成就せず、遂に怒りて火を放ち燒却す。寶永十二年再建成る。

サンカン　三韓　古代朝鮮の三國。正しくは前漢の頃、朝鮮半島の南半を三分し居りし馬韓・辰韓・弁韓の三を指す稱呼。その中、馬韓は西にありて最も大、辰韓は東にありてこれに次ぎ、弁韓は兩者の中間南方にありて最小なりき。然るに前漢の末頃、即ち西暦前數十年の間に辰韓の地に新羅起り、馬韓の地に百濟起り、濟洲の南部に起れる高句麗は半島北半を侵略して新たにこの三國對立し、前の三韓はこれ等に併呑せらる。我國にてはこの三國をも三韓と稱することあり、神功皇后の新羅征討を三韓征伐とよぶが如きこれなり。蓋し古稱の轉用による。

サンガン　三貫島　岩手縣上閉伊郡にあり、釜石灣の北、兩石灣の東方鵜住居半島の南約一粁にあり。鵜住居村に屬する無人島。周圍五粁餘、面積約三方粁、最高三角點は一〇二米。海岸は絶壁の岩にして訪ふ人更に無し。この島は海鳥の樂土にして、オホミヅナギドリ・ヒメクロウミツバメ多く、兩島は天然記念物に指定せらる。島類は人を見れば頭を土の中に入れてかくるを以て容易に捕へらる。巢は別になく土を掘りてその中に棲む全く珍らしき景觀の地なり。釜石市より便船あり、鵜住居村の海岸部落よりも渡航するを得。

サンカンポ　三澗堡　關東州旅順民政署管內の北部。南は旅順市との間に水師子營會を挾み、東は營城子會・玉家店會に、西は山頭會に隣り、北は關東灣に面し、その西部は支灣大湖口灣に臨む。北部・東部及び南境には高度二〇〇米內外の丘陵性あるも中部より西北部には平坦地ありて農業行はれ、高粱・大豆・雜等を產す。旅順市・水師子營會より來る道路は中部より東北部に走り、蘇家屯・順線は東部を南北に貫き長嶺子驛（昭和五年設置）を設き交通不便ならず。

サンキ　三岐面　朝鮮全羅南道谷城郡の西南端。東は竹谷面及び稻谷面、北は谷城面及び立面、西は兼面、西南は和順郡北面、南は石谷面に各隣接す。北境に兄弟峰（七五六米）の聳立する外は著しきものなきも域內花崗岩質の一年期丘陵性地帶にして平地極めて乏しく、蟾津江の支谷玉果川上流兩岸に稍低地を見る。住民は農業を主とし副業として發蘚に從事する者多し。產物は米・大麥・大豆・棉花・生牛・馬鈴薯等を產す。郡邑谷城より來る三等道路は面の東部を南北に縱貫し、金盤里に於て更に西方玉果に分岐し各乘合自動車の便あり。聚落は之等の諸路線に沿ひて分布し、敬佑里・金鶴里・慶洞里・水山里・根村里・清溪里・金盤里・儀岩里・院里鄕等ありて面事務所を院邊里に置く。

サンキ　三箕面　全羅北道益山郡の略中央。東は金馬面、北は朗山面、西は黃登面、南は八峰面に各相隣接す。東境には彌勒山（四三〇米）聳え郡內の最高峰として著はるるも概して土地低平なり、殊に西南部は饒橋湖に臨み沿岸耕地よく發達す。住民は專ら農業に從事し、勤勉質朴にして概ね富裕なり。產物は米を第一位とし、大麥・大豆・雜穀・大麻・苧・棉花等あり。總督府鐵道湖南線、西の西方近く南走し黃登驛（黃登面）あれども、連絡は道路の關係上成悅驛（成悅西）より乘合自動車により連絡す。聚落の主なるものに西豆里・石佛里・箕山里・間村里・葛山里等ありて面事務所を間村里に置く。東境彌勒山中に有名なる彌勒寺あり、馬韓の武康王、知命法師と共に建立したるものにして高さ數丈の五重塔あり。其他崇林寺も亦古刹として有名なり。

サンキ　三岐鐵道　私設鐵道。三重縣にあり。三重郡富田町にある關西本線富田驛より北北西に向ひて員弗郡に入り町屋川の河谷に沿うて西藤原村の西藤原驛に通ず。全長二六・五米、昭和六年に開通、軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸。

サンキョー　三峽庄　臺灣臺北州海山郡の最南部。位置は東經一二一度二〇分、北緯二四度五六分、臺北市の東南方約二〇粁。東は文山郡新店庄、西は新竹州大溪郡大溪街、南は本郡蕃地を隔てて新竹州大溪郡の蕃地に、北は本郡下の鶯歌庄及び土城庄にそれぞれ隣接す。庄治一帶は山地多く、其の西北部卽ち鶯歌庄との境界を北流する大嵙崁溪の河岸及び庄下を流るる同溪の二支流の河岸に若干の平地を見る。地勢は庄東部に北挿天山・ロッヘイ山・カボ山・加九峯山・獅子頭山等の峻峯聳え、南部に東眼山屹立し、西部に大嵙崁溪北流し、概ね東南部高くして西北部開く。廣袤面積一二・四方里餘、庄治一帶は平地少く、山麓は重疊として散在する部落は農村多く、山地には樹木繁茂し、また三井合名會社・三峽興殖公司等の手により盛々に樟樹の造林行はる。耕地は庄總面積の約二割に過ぎずして水利の便未だ良好とは云へざるも、庄下住民の生業は農にして、米・蔬菜・甘藷・茶等を主として產す。特に茶は其栽培の歷史古く、我が領臺後は三井合名會社の紅茶製造工場の建設を見、其他個人經營に係る六箇の茶業公司ありて製茶並に販賣を行ひ、其產額も大なり。杏產は主として各農家に於て副業的に行はるる所にして、水牛・黃牛・豚等の飼育盛なり。其他、山地よりは木材・竹材・薪炭材を產出す。庄下の工業は多種多樣にして何れも其規模大ならず、製材・竹細工・籐細工・麵類・下駄等の製造は其主なるものなり。また山地には處々に石炭山存し、礦區數は六にして、何れも小規模に採掘しつつあり。庄役場は公館後に位置し、近くの三峽は往昔より山紫水明の地として知られ、郵便局（三等）・小公學校其他の文化機關はり、庄下の一中心地をなす。初等教育機關としては、庄下に一小學校、四公學校あり、大小の國語講習所・青年團等は殆ど各部落に備はり、大正十四年以來は小規模ながらも圖書館の設けさへ見らるるに到れり。庄下の交通は比較的便利良く、海山輕鐵株式會社の經營に係る軌道は縱橫に庄內を走り、近年は自動車の運行も盛にして、近來臺北市と海山郡とを界する淡水河に昭和橋の架設せられしより州指定道路は、土城庄を經て本庄に達し、物資の運搬等に重大なる役割を演じつつあり。本庄の地は清の乾隆以前は全く未開にして、其西北部地方は大嵙崁溪の汎濫により一大湖水を現出し、湖岸には蕃族出沒せり。乾隆二十年より四十年代にかけ湖水潰湯して陳地をなすや初めて碩溪・三峽・公館後の附近開け、此方面に割據せし蕃人は、一部は大嵙崁溪を遡上して福德坑附近に、一部は成福附近に退き、初めて三峽の市街を形成するに至れり。三峽はもと三角湧と稱し、大嵙崁溪及び其支流の合流するところにありて地形三角形をなす。依りて清の乾隆末年一庄の建てらるるに及びて三角湧と名付けらる。次でなほ慶の初年三角湧と改稱す。此地に在る福安宮は乾隆五十年の創建に係り今尙信奉する者多し。降りて同治三年英國人ジョン・ドッド此地方に來り、地の茶樹栽培に適するを見るや大いに之を奬勵し、併せて此地の粗製樟腦を買收せしにより一時此地頗る繁昌せり。我が領臺に當りては土匪の巢窟となり、我軍の進擊を阻み我軍爲に苦戰せし古戰場なり。我が領臺後、その行政組織の變改に伴ひ、本庄治は或は臺北縣・廳、桃園廳の管下に屬せしも、大正九年十月全島的地方制度の改

正に際して、富峰桃園廳の管轄に屬せし海山堡中の十八庄を割きて三峽庄とし、臺北州海山郡下の一庄として現在に到れり。其際三角湧の名は三峽と改變されたり。其十八庄たる鶯子岡・陳恩埔・劉厝埔・公館後・三角湧・八張・穗溪・十三張・福國・中埔・高山・福德坑・大埔・山員潭子・茅埔・成福・横溪・挖子は庄下の大字となる。大正十一年に隣接番地より白鷺・竹崙・大嵙の編入あり、昭和七年更に五寮・挿角・東眼の三大字の編入ありて、現在は二十四大字を以て本庄の區域となす。〔高山〕三峽の西約七百米の地點にあり。大嵙崁溪の沿岸に屹立し、其山容全く飛ぶ鳶に酷似せるを以て名あり。眺望頗る佳にして山紫水明の地なり。往昔鄭氏の軍此處に來り、雲霧の爲に路に迷ひ、鷲歌山の頂部を斷つと共に、此山の頂角を砲擊し、彈痕高に似たるを以て此の名出でたりとも云ふ。淡水廳志〔同治十年刊〕に「高山御飛高山、在三角湧、鄭部赤嘴擊其尖、斷痕宛然」と記す。〔三峽戰蹟〕明治二十八年帝國領臺の際、此地は土匪の巢窟となり、大に皇軍に抗拒せり。坊城支隊の大嵙崁鎮定に向ひ其糧食を大嵙崁溪に依り運搬する事となり、櫻井特務曹長以下三十五名は糧食運搬の任持を帶び、河舟十八隻に乘百十餘・梅干三十樽をなを分載して七月十一日萬華臺北を出發、大嵙崁溪を遡行、翌十二日午後三時三角湧に到着、一日分の糧食を本隊に引渡し同地に假泊す。翌十三日拂曉大隊先づ進發すれば糧食隊は約二時間後午前六時糧を解き溪を五〇〇—六〇〇米遡行するや、俄然左岸堤防上に一群の土匪現れ、我に對し小銃を亂射す。時に糧食隊の一部は舟中にありて朝食準備中の者あり、一部は河中に入りて舟を押上げつつありし際なりしが直に之に應戰す。然るに右岸高地に更に優勢なる敵現れ我を急射す。我惡戰苦鬪數刻に及びしも、刻々として我が兵の死傷數を增し、遂に指揮官櫻井特務曹長も敵彈を胸部に受け壯烈なる戰死を遂ぐ。江橋軍曹直に之に代りて指揮し、大に反擊せしも萬策盡きて一方に血路を開くに如かずとなし自ら先頭に立ちて中央突破を敢行し苦戰の末之を全うしたるも生存せる者僅に九名、内四五名は重傷を負ひたれば軍曹は健全なる四名に命じ萬難を排し本隊に急報の重任を與へ、他は悉く悲壯なる自刎を遂げたりと云ふ。爾來數十年武勳赫々たる諸勇士の忠勇義烈を永遠に世に傳へん爲、大正十二年十一月、時の臺灣軍司令官福田雅太郎大將撰文揮毫に成る碑を三峽の西方市街と接續する丘上に建て、同月廿五日除幕式を行ひ、毎年七月十三日を卜して盛大なる祭典を擧行する事となれり。〔三井製茶工場〕三峽の南方約一〇粁餘、大豹にあり。主として紅茶を製す。三井開發部八工場中の首位を占め、年六十五萬封度を產する紅茶製造工場を有す。

サンキョー　三橋川　朝鮮平安北道西部を流るる川。鴨綠江の一支。上支に二あり、一は龜城郡の西部、佳人峯の北麓面に發し西北流して義州郡に入り、一は義州郡の東境、天摩山（一一六九米）の西に發す、兩川は古寧朝面永山市の西方にて合し、これより西に蛇曲流して義州・龍川兩郡の境を成し、柳草島の南に於て鴨綠江に注ぐ、流程一三〇粁。沿岸に沃野を拓き、米・麥・大豆・大麻及び棉花を產すること多きも、その曲流するを以て雨季氾濫の害あり、總督府直轄河川として改修工事を施行せらる。河口より二〇粁餘まで舟楫の便あり。

サンキョー　三卿　湖南東線の一驛（大正二年設置）。朝鮮全羅南道務安郡一老面にあり。

サンギョーセメント　産業セメント鐵道　私設鐵道。福岡縣の中部、筑豐炭田地帶にあり。省線伊田線の金田驛（田川郡金田町）と省線宮床線の宮床驛（糸田村）とを結ぶ四・一粁の線、及び省線田川線の後藤寺驛（後藤寺町）と省線添生線の赤坂驛（嘉穗郡庄内村）とを結ぶ八・四粁の線より成る。添生・宮床及び本線の三線を連絡して運轉す。

サングー　三宮　→畑野村（新潟縣）

サングー　參宮　【參宮線】省線關西線の一。三重縣の東邊伊勢海岸に沿ふ。關西本線龜山驛（鈴鹿郡龜山町）より分れ津・松阪・山田等の諸驛を經て志摩郡鳥羽町の鳥羽驛に至る。全長七一・六粁。宇治山田市内に僅座まします伊勢大神宮參拜者の利便の爲に東京・京都・大阪等の諸都市より直通列車を運轉し東京・鳥羽間約十一時間、京都・鳥羽間約三時間、大阪・鳥羽間約四時間、濱町・鳥羽間約三時間半にて達す。主要接續線は龜山驛にて關西本線、津・松阪・山田の三驛にて社線參宮急行電鐵、松阪驛にて名松線、相可口驛にて紀勢東線、鳥羽驛にて社線志摩電鐵等。【參宮急行電鐵】社線。三重・奈良二縣に通ず。その本線は大阪市の上本町驛を起點とする大阪電氣軌道線の終點櫻井驛（省線櫻井線の櫻井驛にも構内連絡）に連絡して起り、三重縣伊賀國を經て伊勢に入り、松阪市を經て宇治山田市岩淵町の宇治山田驛に達する九七・五粁、此線は常に大阪電軌と連絡運輸す。而して之の參宮中川驛（一志郡中川村）より分岐して津驛（省線）に至る一二・三粁の津線、三重縣阿山郡三田村にある省線關西本線の伊賀上野驛より起り、伊賀神戸驛にて本線と交叉し名賀郡名張町の西名張驛に至る二六・三粁の伊賀線と、三重縣桑名

市大字東方にある關西本線の桑名驛より發し四日市市・津市・松阪市を經て宇治山田市八日市場町の大神宮前驛に至る八二・七粁の伊勢線、この線の伊勢若松驛（三重縣河曲郡若松村）より岐れて同郡神戸町の伊勢神戸驛に至る支線三・九粁、合計二二二・七粁を含む。

サングン　三郡山　筑紫山脈の一峯。福岡市の南東方一七粁前後、福岡縣糟屋郡須惠村、嘉穗郡穗波・大分二村と筑紫郡御笠村の三郡に峙つ。山名これより出づ。標高五三七米。最高點を狐巾山と云ふ。山體花崗岩より成る。山中に山毛欅林多し。福岡市より一日行程の登山に適す。山麓まで自動車通ず。

サンケー　三溪面　朝鮮全羅北道任實郡の南端。南に南原郡大山面、東は同已梅面及び屯南・任實の兩面に、西は青雄面及び德峙面、西南は淳昌郡東溪面に相隣接す。西北境には芝草峰（五六三米）聳えて西北部は高地を成せども、東南部は蟾津江の支流葵樹川流域して比較的沃野を成す。住民の多くは農業に從事し質朴勤勉にして一般に裕なり、產物に薪炭・米・大麥・大豆・其他の雜穀・煙草・綿花・蚕繭・紙等あり。道路網は比較的發達せるも改修未だ進まず、往來一般に不便なり。聚落は多く東南の低地に集まり其主なるものに稽枝里・斗月里・三陽里・江谷里・洗心里・鶴亭里・後川里・三溪里等あり。三溪里は面の略中央に位置し、南方後川里には除厲四・九の日に開く市ありて、薪炭・雜穀・果物・布帛類の取引に特色あり。

サンゲンドー　三間堂　江戸時代の地名。今の東京市深川區數矢町の俗稱。もと京都の三十三間堂に模し、淺草に建立し、のち深川に移せしもの、富岡八幡宮の東に在り。天保四年に倒壞。淺草の舊地は之に對し愛宕前と稱し區別す、共に江戸四場所の地。辰巳之圖・序「吉原に畫三あれば伸丁土橋あり、打囃有は檜下個鳥あり、壺分貳人六すには新地入船石場三間堂を譬て、愛に樂む」

サンゲンヤ　三軒屋　大阪の地名。もと木津川口の船著場。今は埋立のため河口を距ること遠し、いま大正區に屬し大正橋の南方。江戸時代の初期頃には澁女町ありき。もと大阪府西成郡の村なりしが、明治三十年大阪市に編入す。色里三所世帶・大阪卷・夏海靜かに盧の青葉に風通ひ、三軒屋口の舟涼み、ここも天下の町人なればこそ、世間を恐れず、思ひ思ひの色盛ぎ、遠國にてなるべき事か」

サンゲンヤ　三間屋社　臺灣臺東廳新港郡にある蕃社。行政區域内の海岸近くにあり、パンツア族（アミ族）の中で海岸アミ族に屬する高砂族の部落。戶數三六、人口四七五。

サンコ　三湖　【三湖】朝鮮咸鏡南道洪原郡甫青面の主邑。咸鏡本線の三湖驛（大正十三年設置）を置く。

【三湖面】朝鮮全羅南道寶城郡の西端半島部に位置す。東は美岩面及び西湖面に隣接し、北は榮山江を隔てて務安郡三鄕面及び木浦府に相對し、西南は水道を隔てて海南郡花源面、南は同山二面及び馬山面に各相對す。域内は花崗岩質の丘陵起伏し低平地少なければも緩傾斜地に富み、饒地よく發達するも灌漑に乏し。產物は大麥・甘藷・棉花・煙草等にして、副業として蚕繭を行ふ者多し。東方の郡邑雲巖より來る道路は半島の軸に沿ひ西方に通じ、その終點龍塘里と木浦府とは僅に榮山江を隔てて指呼の間にありて渡船によつて連絡し、木浦との關係緊密なり。面邑西倉里は半島の頸部にあり。其他、主要聚落に東より鳥伏里・望山里・東湖里・西湖里・山湖里・龍仰里・蘭田里等あり。

サンコー　三江　【三江線】省線山陰線の一。島根縣中部にあり。山陰本線石見江津驛（那賀郡江津町）より分れ、江川に沿うて濱原驛（邑智郡濱原村）に至る五〇・一粁。將來は更に南方に延び省線藝備線の備後十日市驛（廣島縣雙三郡十日市町）を經て山陽本線の三原驛に接續の豫定。

【三江面】朝鮮黃海道載寧郡の東北端。東は鳳山郡楚隊面に接し、北は大同江の支流銀波川を隔てて西鐘面に相對し、西は載寧面、南は清川面及び銀龍面に各相隣接す。東南境及び西境に丘陵あれども載寧川は中央を北流し所謂載寧の沃野を成し灌漑頗る便にして、本道中、主要米產地の一部を成品し質亦優良にして價高し、其他、麥・大豆・棉花等の產あり。總督府鐵道黃海線は北方沙里院に於て京義線と分岐し面の略中央を横斷して西方載寧に通じ、域内に上海驛（大正九年設置）を置く。上海驛よりは更に南方海州に支線を分ち、上海南方六粁に廣灘驛（大正八年設置）ありて最も鐵道便に惠まれ、また載寧江は水深甚だ大にして三四百石積帆船上下し交通頗る便なり。面事務所を青龍里に置く。

サンコー　三興面　朝鮮平安南道成川郡の西南端。東は大谷面、北は陵中面、西は江東郡三登面に各相隣接し、南は南江を隔てて黃海道遂安郡公浦面及び道所面に相對す。狼林山脈の餘脈域内に及び北境に角屹山（六三二米）、西境に楓於山（七六五米）、東境に寺山（六八一米）等を起し、域内山岳重疊し低平地極めて乏し、住民は農を本業とするも未だ幼稚にして生產程度低く一般に糧衣糧食に甘んじ生計緩して裕ならず、產物に葉煙草・米炭・大豆・馬鈴薯・玉蜀黍等あり。道路の改修未だ行はれずして峻坂多く交通便ならず。聚落の主なるものに卵山里・南倉・昌平里・杏壇里・西尾洞・九寶里等あり。九寶里附近に金を產す。面事務所を卵山里に置く。

サンゴー　三河村　福岡縣筑後國八女郡の西部。矢部川の右岸に沿ひ福島町の南にて西南は山門郡に接す。筑紫平野東南部の沖積低地を占め地形平坦にして、東方より來る矢部川は東及び南境を西流す。筑後米の産地にして其他に麥・菜種・棉を産す。北隣福島町より西西南方瀦高町に通ずる道路は中央を南北に走る。西方を南北に通ずる省線鹿兒島本線の羽犬塚驛（羽犬塚町）及び船小屋驛（水田村）は約五粁の地點にあり。此地古くは和名抄、上妻郡三宅郷の内に屬せしものならん。元弘の亂に、官軍に屬し筑後前少貳貞經の麾下たりし宮野四郎入道教信は此地の人。また久留米藩の儒者にて贈從五位穂日甚藏も此地の人なり。

サンゴー　三郷村　【三郷村】樟太大泊支廳管内留多加郡の中部。留多加町の南に隣り、西は本斗支廳に界し、東は亞庭灣に臨む。西境に西樟太山脈の主分水嶺南北に走り牛荷山（五八九米）聳え、前山に多蘭内山（五一八米）・雙子山（四七二米）等ありて東に緩傾斜し、多蘭内川・鮫内保川等は深く山地を侵蝕して東流して亞庭灣に注ぎ、下流にはやや廣き沖積地あり。地味肥沃にして農耕に適し畑作を主とし、牧畜も行はる。また鰊・鮭・鱈の漁獲も多し。留多加町に至る街道は海岸沿ひに通じ、この街道に沿うて留多加町に經便船道を通ず。

【三郷村】新潟縣越後國中頸城郡の中部。荒川を距てて高田市と相對す。本村は頸城平野の中部に位し土地低平、西南境より西境を荒川流れ、北境及び東境を荒川の支流西に流れ灌漑の利多く、水田よく拓け米を主産し、上越米として知らる。東部の南北に縣道通じ、これに高田市に至る街道中部をほぼ東西に走りて交錯しバスの便あり。此地古くは和名抄、頸城郡物部郷の地、近世は武士郷と稱す。

【三郷村】富山縣越中國中新川郡の西北部。常願寺川の右岸に沿ひ、富山市の東北約八粁。西は常願寺川により上新川郡に界す。富山平野の略東北部に位し、用水の便よく、水田廣く開け、米を主産物とし、果實・蔬菜を出し、多少の賣藥製造行はる。省線北陸本線は村の北部を掠め水橋驛（明治四十一年設置）を設き、南部には富山市より上市町町を經て三日市町に至る縣道及び社線富山電氣鐵道通じ、前者にはバスの便あり、後者は越中三郷驛（昭和六年開業）を設け交通の便よし。本村は大正十五年東三郷村・西三郷村を合して設きしもの。西三郷村は古く市田村と稱し、三州志に市田城として天正五年合戦の由見ゆ。

【三郷町】大阪府河内國北河内郡の西南部。淀川の東南岸に位し、西は大阪市旭區に接し、北に守口町に隣る。淀川沖積平野の一部を占めて土地極めて平坦にして耕地よく拓け河内米なる良米を主とし麥・蔬菜等を産し、大阪市に近く各種の工業行はれ、人口密度稠密にして平均一方粁に二、二四二人を數ふ。京阪國道西北部に通じ、社線京阪電鐵は京阪線國道の東方を走り、交通便利なり。守口町と共に古くは和名抄茨田郡高瀬郷の内にして、いま高瀬の大字殘り、延喜式高瀬神社あり。昭和十一年町制施行。

【三郷面】朝鮮全羅南道務安郡の東部。鹿嶺山脈の末端部に位置し域内丘陵起伏すれども、一般に緩傾斜にて斜面よく開墾し耕地よく發達す。時に氣候温和にして寒暑の差小にして農業に適す。住民は勤勉にして主農業に從事し、産物に米・麥・大豆・其他の雜穀類、棉花等を産す。總督府鐵道湖南線東境を南北に通じ、隣村一老面に三郷驛ありて木浦へ四・一粁、北方榮山浦へ五七・一粁ありて交通に便なり。一方一等道路京本街道は南方木浦より來り面の中央を南北に縱貫し自動車の便あり。驛の北方八粁の僧達山中腹に牧牛庵あり、元朝の頃、牧の地臨水寺の僧圓明なる者渡海して來山、この地に草庵を結び佛法を傳道せりと傳ふ。

サンゴー　山郷村　福島縣岩代國耶麻郡の西南部。阿賀野川に沿ふ。西北は新郷村に、東北は木幡村に、東は山都村に隣接し、南は阿賀野川を距てて河沼郡新郷村・登世島村に相對す。西部に風越山（四二八米）、東部に鳥屋峰山（五六三米）聳立し、南境を曲流して西流する阿賀野川岸及びこれに合する支流大谷川の沿岸に僅に低地あり、低地には田・畑拓け米穀を主産し薪炭も少からず。また利田石と稱する帶緑白色、粗鬆なる凝灰岩を産す。者線磐越西線は阿賀野川に沿うて通じ荻野驛（大正三年設置）を設き、街道は喜多方町に達す。この地ほぼと山三郷中の大谷組に屬す。いま本村は山都村・小川村・木幡村と共に組合町村をなし、役場は山都村にあり。

サンコーリ　三郡山　サンゲンザンとも云ふ。中國山脈の一峯。島根縣能義郡・大原郡・仁多郡の三境界に峙つ。標高八〇六米。山體は花崗岩より成る。三郡境上にある故に山名出づ。

サンコク　山谷面　朝鮮成境南道高原郡の西南部。東は文川郡雲林面及び郡草面、北は水洞面、西は雲谷面及び平安南道陽德郡温泉面、南は同陽德面及び大倫面に相隣接す。狼林山脈西境を割し、飛雨峰（一一四〇米）・松魚直山（一〇一六米）・角高山（一〇八八米）・蓋雲山（一二〇八米）、東北境には八峯山、東南境には鶴嶺山・燕登山、何れも一千米以上の高峰相連なり域内山岳重巒し、殆ど平地なく德他江の流域に稍低地を見る。産物は粟・稗・大豆・玉蜀黍・馬鈴薯等にして僅かに其需要を充たすに過ぎず、道路は郡邑高原より三等道路を通ずるも途中嶺峴・峻坂多く、其他は未改修にて何れも嶮路なるを以て交通便ならず。住民は一般に質朴にして粗食に甘んじ、文化未だ發達せず。森林密度極めて稀薄にして面事務所を北端の城内里に置く。

サンゴノツジ　三郷ノ辻山・三五ノ辻山　愛媛縣上浮穴郡久二峰村・田渡村と、伊豫郡廣田村との三村境上に位し、標高九三三米。山體は結晶片岩より成る如し。

サンコノムロ　三鈷室山　阿武隈山脈に屬する一峯。福島縣東白川郡棚倉村と茨城縣久慈郡小里村との境上に位し標高約一千米。山體は片麻岩より成る。傳說に、上古この地に狼棲み人を害せしが、寶龜年中、一僧登山して壇を三所に構へ佛像を安置し、三鈷を据ゑて祕法を修めしかば、その後、狼は出没せざりしと云ふ。山頂に大已貴神祠あり。

サンサ　三叉庄　臺灣新竹州苗栗郡の南端。南は大安溪を隔てて臺中州と境し、北は銅鑼庄、東は大湖郡大湖庄及び卓蘭庄に、西は苑裡庄に各相接す。管内一帶は山岳郷巒として連續し、西部苑裡庄との境には火炎山、大湖庄との境界には關刀山を屹立す。平地は僅に南部大安溪河岸にあり。庄内を流るる主なる河川は、本庄と臺中州との境界をなす大安溪及び同溪の一支流その北部をこれに並行して西流するのみにて、水利の便は良好とは云ひ難し。管内總面積は四・四九五九方里にして、其内、耕地面積はその二五%に達せず。水田面積は耕地面積の約三分の一に過ぎず、米産僅少にして漸く庄下住民の需要を滿たすの程度なり。茶・蔗・木工品は當庄の特産物にして、特に茶は臺灣拓殖會社の依託なる三井物産の製茶（烏龍茶・紅茶）の外、地方製茶業者によりては、緑茶の製造も行はれ、何れも品質良好にして管外に搬出さるるもの多し。木炭も郡下通管庄に次ぐ産額を示し、山地に産する樟樹を材料とする木工品も著名にして近時益々發展の傾向を示す。畜産業は庄下に於ける主なる産業の一にして、郡當局の積極的指導及び畜産組合等の活動に依り、品質の改良、増産等が行はれ、殊に牛畜は其肉質の優良なる事を以て全島に名あり。管内の山手方面にては自然生の山桑或は栽培せる桑園を利用して養蠶を營む者近年は著しく増加しつつある事は注目すべき現象なり。三叉は庄下産業・交通の中心地をなし、臺灣鐵道線の三叉驛（明治三十六年設置）の所在地なり。また本島鐵道沿線中、最高地點なる十六份驛（昭和五年設置）は三叉驛の南方六粁の本庄管内に在り。本庄の地は往時山蕃の住地にして、其間拓は歴史淺く漸く嘉慶の初年の事に屬す。三叉（碧三叉河）はその中心地にして、東なる大湖方面への一要衝となる。古記に據れば乾隆五十三年に、民隊を設けて山蕃を防ぎたる記錄あるも、本庄の屬する竹南二堡なる一堡を建てられたるは漸く光緒元年の頃なり。本堡は光緒十四年に到りて苗栗一堡と改稱されて、我領臺に及ぶ。苗栗一堡の名稱は我領臺の後も、其管轄を改めらるるのみにて其名稱は存續せり。領臺當初は臺北縣苗栗支廳の管轄する所なりしも、明治三十年に到り新竹縣苗栗辨務署の管下に入り、同三十一年には新竹縣の廢止と共に臺中縣に屬し、同三十三年には辨務署廢止せられ、翌三十四年には全島二十廳の制布かるると共に苗栗廳の管下に入る。然るに同四十二年には更に新竹・苗栗の二廳を合して新竹廳と稱せらるるや之に屬して大正九年十月の全面的地方制度改正に及ぶ。本改正施さるるや苗栗一堡中の三叉河・雙草湖・魚藤坪・鯉魚潭・拐仔湖・雙逃潭の各店は割かれて三叉庄の管轄する所となり、新竹州苗栗郡の管轄下に入る。同時に三叉河・拐仔湖は三叉・拐子湖と改稱せらる。然して前記苗栗一堡下の六庄は三叉庄下の大字名として其名稱を存續す。大字三叉の舊稱三叉河の名稱は同地が溪流の三叉をなす處に位置せるにより生ぜりと云ふ。附近一帶は土地高燥にして往時より茶を産す、その氣候・地味も茶樹の栽培に好適す。臺灣鐵道線開通して三叉驛の此地に設けられしより以來、製茶の中心市場たる臺北市に該産茶の搬出せらるるもの多し。この地は清の嘉慶初年以來、粵人に依つて開拓せらる。一小市街を形成し、大湖地方への一要衝をなす。

サンザイ　三才・三在　【三才】→鹿初村（茨城縣久慈郡）

【三在橋・三才橋】東京市向島區隅田町なる綾瀬川に架せる橋名。江戸時代、郊外南葛飾郡隅田村字三才にあり、納涼船などの繫がれし所。八笑人・五上「今年は向島に狸囃子といふ事があると言つて夏中すゝみ船が綾瀬のほうや三在橋の邊へ、たいそう船ではやしを聞きに行つたぜ」

サンザイ　三財村　宮崎縣日向國兒湯郡の南部。一ノ瀬川支流三財川上流の地を占め地は西北より東南に延び、東南は都於郡村に、東北は三納村に、西北は西米良村に隣り、西南は東諸縣郡八代村に界す。長さ約一八粁、幅約五粁、面積八五・一一方粁。北境に國見山（一〇三六米）あり、西北隅に狗部嶽（一二二三米）あり。それ等の山地は全體に東南方に次第に傾斜し三財川中央を屈曲しつつ東南流す。村の東南部は山地低夷して低き臺地となり、其臺地の南及び東に低地開けて三財川はこの低地を東南流し臺地を東北に迂回して東北隅より都於郡村に出づ。東南部の低地には田畑よく拓け米産豊かに、温暖多濕なるため多樣なる農業地をなし南瓜・西瓜・胡瓜・茄子・トマト・里芋・甘藷・豌豆・蠶豆等を産し養蠶も行はれ又良質の竹材を産す。大字止三財より妻町方面へバスを通ずれども交通なほ便ならず。此地或は和名抄、兒湯郡平群郷の内に屬せしものか。舊幕時代は佐土原藩の領地たりしも、廢藩置縣の直後に美々津

に屬し、明治六年宮崎縣に入る。

サンサカイ 三境山 關東山脈丹澤山塊の主峯丹澤山の別名。三境峯とも云ふ。神奈川縣津久井・愛甲・足柄の三郡に跨るに因り山名出づ。

サンサキ 三﨑 【三﨑】 江戸時代、下谷谷中に在りし岡場所の一。いま谷中三崎町・三崎北町・三崎南町に分る、特に三遊亭圓朝の「怪談牡丹燈籠」に依り有名となる。好色一代男・二「品川の連飛、白山、さん崎の、得しれぬもの、淺草橋の内にて、うなづく事迄を、合點して後は物饑の小宿、板橋のたばれ女も見のこさず」

【三﨑山】 關東州金州城の北門外にある小山。山上の東端に山崎・鐘崎・藤崎の三烈士の石碑あるに因り名づけらる。これ等三烈士は日清戰役に際し我が第二軍の通譯となり、明治二十七年十月二十三日花園口に上陸し、金州及び復州の敵情を探るため變裝して碧流河畔に出でしが悉く清兵に捕へられ、同月三十日黄昏、金州西門外刑場の露と消ゆ。翌二十八年二月その遺骸を發き、この丘陵上に三基の石碑を建て、遼東還附の事あるに及び碑を東京泉岳寺に移し、のち大正二年、改めて今の殉節三烈士碑建設さる。

サンサン ——社 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。隘寮溪の南岸にあり、北部のパイワン族の中ブツル系統に屬する高砂族の部落。蕃稱は Sansangar

サンザン 三山 【三山電氣鐵道】 私設鐵道。山形縣西村山郡にあり。高松村にある省線左澤線の羽前高松驛より北方の白岩町に出でて、それより寒河江川の河谷に沿うて西方の西山村大字間澤の間澤驛に通ず。全長一一・四粁。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸す、羽前高松驛より西山村の海味驛に至る八・八粁間は大正十五年に開通し、間澤驛に至る二・六粁は昭和三年に全通す。

【三山面】 朝鮮京畿道江華郡の西部。江華島の西方海上に横たはれる席毛島を主島とし、その周圍なる彌法島・飯下島・西檢島・納島・小松島・大松島・黍島・鮮毛島・石島・竹島等の諸屬島を包括する地區を占めて、東は席毛水道を距てて下道面・良道面・内可面・河岾面等に相對し、北は喬桐水道を隔てて喬桐島（喬桐面）に、西は寿音島、南は注文島に各相對す。主島席毛は東南端に海眞山（三二七米）、中央に上峰山（三一六米）等ありて南半部は大部分山地を成せども北半部は土地頗る低平にして北端の上柱山（二五六米）その單調を破る。農產物は麥最も多く大小豆・粟・蜀黍、其他に棉花あれども產額大ならず。沿岸に蝦・石首魚最も多く鮑・鹽等を產す。對岸江華島との間に渡船場四ありて各路線と連絡し、北方喬桐島へは下里との間に渡船連絡あり。陸上は道路未だ改修せず便ならず。面邑席毛里は中央東岸にあり。

【三山面】 朝鮮慶尚南道固城郡の南端。東は固城灣を距てて固城面及び統營郡道山面に相對し、北は大可面、西は上里面及び下一面、南は海に面す。全域殆んど山岳重疊し平野極めて乏し、海岸地帶も概して遠淺にして漁業・交通共に天惠を受くること少なし。產物は大麥・大豆・雜穀・生牛・牛皮・鰮等あり。二等道路は東の固城より來り面の北部を過ぎ西方泗川に通ずるも北偏せるため恩惠に浴すること少く、其他は一般に等外路線にして交通便ならず。聚落は海岸地帶に偏在し、板谷里・歸山里・來龍里・豆布里・三峰里等は皆この地區にあり。面事務所を來龍里に置く。

【三山面】 朝鮮全羅南道海南郡の略中央。東は玉泉面、北は海南面、西は花山面、南は縣山面、東南は北平面に相隣接す。東南境には大屯山（六七二米）・頭崙峰（七〇三米）等峨々たる山骨を露はし、東南地域一帶は山岳重疊蜿蜒を繞むれども漸次西方に低移し、中央部を流るる三山川流域には稍廣き平地ありて耕地よく發達す。產物は米を主とし、大麥・大豆・棉花・生牛・莞席等あり。道路は北方海南邑より二等道路を通じ西部を南北に縱貫する外は何れも等外路線にして交通便ならず。面事務所を東北部なる新興里に置く。西部の院津里には陰曆二・七の日に開く市場ありて穀類・海產物の取引行はる。頭崙山中腹の大興寺は今を距る凡そ千四百年前、新羅眞興王の時の開基なる巨刹にして、結構を極めし堂宇三十餘あり。春秋の候は來山者にて賑ふ。

【三山面】 朝鮮全羅南道麗水郡の最南端。高興半島の南方、濟州島の北々東海上に碁布する大小二十有餘の島嶼より成る。そのうち著しきものは巨文島・草島群島及び巽竹列島にして、其他、巨文島の東に大三夫島、北に赤萬島・平島・廣島等あり。巨文島は最大にして、高興半島の南端より南方約二十三浬、濟州島の北東端より三〇度約三六浬にあり、一に三島と稱し西島・東島及び兩島の各南東角の間にある古島とより成る。西島最も大にして島頂二三一米、東島は二三七米にして灌木叢生し、二島は南東方より望む時の外は全く一島の如く見ゆ。この二島と古島の間は島内海にして諸風を遮ぎり水深くして最良の避泊港なり。巨文里・東島里・西島里・德村里等の聚落ありて、巨文里に面事務所を置く。西島の最南角に三島燈臺あり、閃紅白互光燈にして毎三〇秒に紅白各一閃光と二回の暗黑とを顯はす、光達距離二二浬、霧砲を備ふ。朝鮮郵船會社の外廳定期船往復寄港し、また濟州島城山里より海底電線通じ、更に北方の高興郡道化面に至る。三島に於ける農產物は麥を主とし人力の及ぶ處は皆耕作せらる。三島のうち内地人は殆ど皆古島に住し漁業及び雜貨商を營む。巽竹島（猶竹島）は島頂二三八米、北岸の一灣は良錨泊場にして、灣首に巽竹里の聚落あり。草島群島は巽竹島の西にあり、主島は草島にして島頂三三六米、島岸屈曲して數小灣をなし避泊に適し、灣首に草島里の聚落あり。

サンシ 三芝庄 臺灣臺北州淡水郡の北部。郡下石門庄に次いで本島の北端に位し、卽ち東北は石門庄に續き、東南は大屯山彙の分水嶺を以て七星郡北投庄に界し、西南は淡水街に接し、西北は大海に面す。面積四・二五方里、その最も廣き處東西四里十八町、南北三里四町なり。東南に大屯山系相連りて起伏重疊せるため、管内は概ね山地にして、平地は僅かに西北海岸地帶に展開するのみなるも、大屯溪・八連溪を始め數多の小河川貫流し水利の便よく、平地は水田として耕作せられ、山地丘陵地帶は茶樹其他の農作物の栽培に適するを以て、畑として廣く開墾せらる。海岸線は二里六町の長きに及ぶも、沿海遠淺にして、且つ灣曲乏しきため港灣なし。耕地面積は田一千七百餘甲、畑二千餘甲、合計三千七百餘甲に上り、農業は本庄唯一の生產業にして、農業者は住民（人口一萬六百餘）の大部分を占め、主要農產物は米・茶・甘藷・柑橘類なり。なほ海岸の砂地は西瓜の栽培に適し、逐年品質收量は向上しつゝあり。家畜家禽の飼育殊に養豚・養鷄は農家随一の副業にして、當局の努力に依り品種及び種々の施設著しく改善せられ、甚だ盛況を呈す。山林面積二千四百餘甲に上り、相思樹の民行造林を奬勵せる結果、漸次相思樹林造成せられ、木炭・薪材・竹材等の林產物を產出す。教育狀況を見るに公學校二あるも、住民は一般に文化低く、向學心乏しきため、教育の普及遲々として進まず、近年時勢の進運に伴ひ、就學兒童甚だ增加したるも、本島人兒童の就學歩合はなほ男女平均四〇%に達せざる狀況なり。社會教化施設として不就學者に國語を普及する爲の國語講習所二十四、同分場七十二及び公學校卒業者の指導を目的とする青年教習所一を設置し、社會教育の振興に依り民心の啓發に努む。金融機關としては小基隆信用販賣購買利用組合あり。大正七年設立以來頗る順調なる發達を遂げ、よくその機能を發揮して地方產業經濟に寄與する所尠からず。州指定道路たる淡水金山道路は海岸方面に通じ、三和自動車會社經營の乘合自動車（淡水金山間）の便ありて、本庄の主要交通路をなす。他に部落道路多數あるも、地勢上到る所に急坂・深谷ありて交通概ね不便なり。本庄はもと芝蘭三堡の内に包含せられ、管内に六つの地名を有せり。卽ち小鷄籠舊庄・小鷄籠新庄・錫板庄・後厝庄・土地公埔庄・新庄仔庄これなり。明治二十八年帝國の領有となるや、臺北縣淡水支廳の管下に屬し、同三十年地方制度改正に依り臺北縣滬尾辨務署（淡水）の管轄となり、同時に舊慣に依る街庄制度の制定ありて、小鷄籠舊庄・小鷄籠新庄・錫板庄・後厝庄を同辨務署第六區とし、土地公埔庄・新庄仔庄を同辨務署七區とせり。三十四年廢縣置廳の結果、臺北廳小基隆支廳の管轄に移り、前記二區は夫々臺北廳第三十區、同第三十一區となり、且つ小鷄籠舊庄・同新庄を小基隆舊庄・小基隆新庄に、新庄仔庄を北新庄仔庄に改め、四十二年區長制度施行され、臺北廳第三十區を小基隆區、同三十一區を北新庄仔區と改稱す。大正九年十月一日地方制度の改正に依り堡は撤廢せられ、本庄はもと芝蘭三堡の内に含まれたる前記二區を合併し、同時に小基隆舊庄を舊小基隆に、小基隆新庄を新小基隆に、錫板庄を錫板に、後厝庄を後厝に、土地公埔庄を土地公埔に、北新庄仔庄を北新庄子に改めて計六大字となし、之を一括して三芝庄と稱し、臺北州淡水郡の管轄となりて庄役場を舊小基隆字埔頭に置く。かくして行政區劃名としての「小基隆」は消えたるも、「小基隆」なる稱呼は今なほ普通に用ひられ、小基隆公學校・小基隆信用組合等これが稱呼を冠す。而してこの普通稱呼に該當する地は、主として舊小基隆字埔頭の部落なり。〔北新庄子の櫻〕 庄役場南方二里、北新庄子公學校および同派出所の庭にあり。約二十餘年前當地の山奥に野生せるを移植せしものにして、數百本を算へ、春三月には爛漫と咲き亂れ、名物として知らる。淡水より平坦なる道路を通じ、一日の行樂に適す。〔智成忠義宮〕 埔頭にあり、關聖帝君（關羽・關公）を祀る。後に大海を控へ、前に青田數百畝を隔てて遙かに大屯の連峯を仰ぎ、眺望甚だ雄大なり。〔三板橋〕 北新庄子字菜公坑と土地公埔字三板橋の境界なる大屯溪にあり。道光年間、篤志家林永の架設せる石橋にて、長さ六丈、幅四尺、天然の大巖を橋脚とし、石造の橋臺に石の欄干を附し、その堅牢にして古雅なる、通行人をして古人を思はしむ。〔民主公王廟〕 新小基隆字新庄子に在り。約三百餘年前、卽ち乾隆八年當地方を初めて開墾せし者（姓名不詳）を祭神となす。地方民はその恩惠に浴するを喜び、その德を永く子孫に傳へ、且つ福利享受を祈願するために祀りしものにして、始め約四尺四方の些やかなる祠を建立し、土地公廟と稱せり。然るに道光二年、支那より翰林巫宜福なる者來臺し、各地を旅行し偶々同地に來り休憩中、本廟所在地の山林風光佳なるを嘆賞し、地元住民に對し、爾後本廟を民主公王廟と改稱すべき旨を命じたるより、地方民は喜び、直ちに改築して民主公王廟と稱するに至る。四月八日（舊曆）を例祭日となし、祭典を擧行す。

サンシカ 贊子河會 關東州貔子窩民政署管内の中部。土地南北に長く約一

○軒、東西約四粁、東は崔家屯會・爽心子會、南は鑾子窩會、西は楊樹底會・鄭家屯會に隣り、北は遼洲國奉天省復縣に界す。西半部には低き丘陵起伏するも、東半部は鑾子河の流域にて、東隣の崔家屯會・爽心子會の西部につづく平坦地に屬し耕地拓け、高粱・大豆・粟・蓼等の農産あり。道路は東南部に通じ交通不便ならず。

サンジキ　棧敷　【棧敷ヶ岳】京都市の北西方約一六粁、京都府愛宕郡雲ヶ畑村と葛野郡小野郷村との境界に位する一峯。標高八九六米。南東方には鞍馬山（五七〇米）・貴船山（七〇〇米）等峙ち、西麓には飯森山（七八九米）連る。北麓は西流する大堰川に洗はれ、南斜面より賀茂川發源して南東に流る。昔、惟喬親王山上に高樓を築き登臨せられしより山名出づと云ふ。山頂に小池あり、池畔より土器・金具を掘出せしが、これに手を觸るれば災禍ありと傳ふ。今は痕跡もなし。

【棧敷峠】創山山脈西方の一支脈を乘越す峠。最高點は德島縣美馬郡東祖谷山村と三好郡三庄村との郡境に位し、標高一〇二一米。南方なる祖谷地方よりこの峠を越えて北降すれば、吉野川に沿ふ伊豫街道江口に至る。ここに德島本線江口驛あり。

サンシキャク　山子脚　臺灣臺北州海山郡碧家庄の北部に在る一小部落。もと山仔脚に作る。龜崙山の東部に位置し大斜炭溪の清流に臨みて山紫水明の地なり。附近に石炭鑛山ありて小規模に採掘せらる。炭質中等なり。臺灣殖産銀山子脚驛（明治三十六年設置）は此地にあり、四時、大斜炭溪に釣する太公望の乘降者多し。

サンジツ　三日　【三日浦】朝鮮江原道の東北部、高城郡にある湖。新北面の東部、日本海に近く位し、西に國枝峠を負ひ周囲四・五粁、面積七六ヘクタール。東北岸は屈曲多く小灣岬を成し湖中に數個の小嶼散布す。往古、新羅の仙人、永郎・述郎・南郎・安郎の四人湖上に舟を泛べて清遊し家を忘るること三日なりしとの故事に名づくといふ。四仙亭・夢泉庵等の址あり、水色清澄、奇岩屏岳相映じ、古來關東八景の一として世に著はる。現在は高城水利組合の貯水池たり。東、高城邑及び海金剛に近く、自動車の便あり。

【三日浦】朝鮮全羅南道麗水郡麗水半島の東北端。東は水道を隔て、慶尙南道南海島の西面に相對し、北は光陽灣を隔て光陽郡骨若面・津月面に相對し、西は雙鳳面、南は麗水邑に各相隣接す。小白山脈の西南に孤び沈降の結果半島部を成せる地域にして、南境には郡中の最高峰虎狼山（五〇〇米）屹立し、北方に向つて漸次高度を減じ、北岸にはやゝ低地横はる。光陽灣上の猫島は本面に屬し、所屬島中最も著はる。東部海岸は山脚直ちに海に浸して岩石海岸を成せども北岸は砂濱海岸相連なる。氣候頗る溫暖にして三寒四溫の變化顯著ならず。住民は農業を主とし漁業これに亞ぐ。産物は米・麥・綿花等にして、水産物には食鹽・蝦・鰹等あり。面邑中興里より慶全西部線德陽驛（召羅面）に乘合自動車を通ず。其他の道路は未だ改修を見ず、交通便ならず。中興里南方の興國寺は八百三十餘年前の創建にて、德建坪六二六坪の瓦刹にして二〇有餘の堂宇幽谷に散見し、無光絶佳にして參拜者四時絶えず。

サンシャ　三社面　朝鮮咸鏡北道茂山郡の西南端。半島に稀なる大面にして南北凡そ九〇粁、東西三〇乃至四五粁を有する矩形の地區を占め、北は三長面、東は延社面・鏡城郡朱南面、南は吉州郡鳴社面、西は咸鏡南道甲山郡普天面及び雲興面に相隣接す。東境は小長白山脈南北に走りて冠帽山・雪嶽（二一七五米）・嶺床峰（二三三三米）・掛上峰（二一三九米）等、二〇〇〇米内外の高峰相連なる。西境は白頭山より東南に展びる厚天嶺山脈重疊して北駱拾山（二二八九米）・白沙峰（二一五七米）・阿武山（一八〇三米）・黄峰（二〇四七米）・白沙峰（二〇九九米）・雪嶺峰（一八三六米）・高頭山（一九六八米）等聳立す。而して兩山脈の間を豆滿江上流の西頭水は此等兩山地の水を集め略平行して北流す。即ち南部に於ては西境摩天嶺山地に發源せる博川水を、また東境山地小長白に發源せる兄弟水・東義水等を併せて峽谷を成して北流し、北部に至つて見事なる嵌入蛇曲流を成し、德立洞水・昭洞水を合せて域外に北流す。流域は茂山營林廠所管に屬する森林地帶にして、その林相の美なる豆滿江針葉面積一萬餘に達し頗る重要なる森林區を成す。産物は林産物を第一とし穀類には大麥・燕麥・黍・粟・稗・馬鈴薯等あり。聚落は散村型に其特色あり。面事務所は北部の檢坪洞に置く。道路は吉州・茂山を結ぶ一等幹線道路は西頭水河谷に沿ひて南北に縱貫するも、峻坂峠多く物資の運搬極めて困難なり。

サンシュー　三州　【三州】參州とも書く。三河國の略稱。

【三州街道】中山道下諏訪驛より岐れ、長野縣の伊那谷を通り飯田市を經て遠州街道を分ち、寒原峠・治部坂峠を經て根羽に至り、一は分れて愛知縣三河國北設樂郡田口町方面へ通じ、一は同じく三河國東加茂郡足助町に通ずる街道。信濃國と三河國とを結ぶ重要道路なり。

サンシュー　山州　山城國の略稱。

サンジュー　三重瀧　紀伊國熊野の那智瀧をいふ。最下の大瀧を一ノ瀧とし、その上流に二ノ瀧、三ノ瀧あり、何れも其の高さ一ノ瀧には及ばず、これを總稱して三重瀧といふ。太平記・五・大塔宮熊野落「摩を高らかにあげて、是は三重の瀧に七日うたれ、都智に千日こもりて」山家集「身につもることばの罪も洗はれて心すみわる三ちゆうの瀧　西行」

サンジューコー　三十甲　→大安庄（臺灣臺中州大甲郡）

サンジューサンゲン　三十三間山　滋賀縣高島郡三谷村と福井縣三方郡十村との境界に跨り標高八四二米。小濱線十村驛より南東登二時間にして達す。近時スキー・ゲレンデとして用ひられ、又スキー登山も試みらる。

サンジューリホ　三十里堡會　臨東州菅廟店民政署管内の西南部。菅廟店の西南約二〇粁を隔て、北は老蛇廟會東は西道河子會に接し、東南は金州民政署管下の盆山會、南は同二十里堡會・大魏家屯會、西は老虎山會に隣り、西北の一部は海に面す。東境より南境には高さ二〇〇米以下の丘陵つづきその一支は中部に延ぶるも、其他は概ね平坦にて三十里堡河と其支流これを西北流す。平地には農業行はれ高粱・大豆・麥等を産す。滿鐵遼京線中部を略南北に走り三十里堡驛（明治三十八年設置）を置く。

サンショー　三升面　朝鮮忠清北道報恩郡の南端。東は馬老面、北は炭釜面及び報恩面、西は水汗面及び沃川郡安內面、南は岡安南面・青城面及び青山面に相隣接す。小白山脈の餘脈域内に及び、西南境に金積山（六五二米）、東南境に三升山（五六七米）聳え、其間を錦江の支流なる報青川貫流し、沿岸一帶沃野を成す。氣候は寒暑とも穩溫ならず、殊に冬は京城地方に比し約一〇度高し、産物には米・馬鈴薯・大麥・大豆・麻・煙草・綿花等あり、また明礬を産す。北方報恩より南方青山に至る三等道路は面の中央を縱貫し、總督府鐵道京釜線沃川驛よりは東北二五粁、乘合自動車を通じ交通便利なり。聚落密度も亦大にして亀德里・松竹里・仙谷里・上可里・遠山里・西原里・彈琴里・元南里・内望里等、その主なるものにして、彈琴里には略ぼ報青川の左岸に位置し面事務所を置く。

サンショー　三庄村　德島縣阿波國三好郡の東端。吉野川の右岸に沿ふ。北は吉野川を隔てて三野町に、西は加茂・井内谷二村に、南は美馬郡西祖谷山村・東祖谷山村・八千代村に、東は同半田町に界す。石鎚山脈東部の北斜面を占め、南境に風呂塔（一四〇二米）・日ノ丸山（一二四一米）等聳え、その山脚北に延び吉野川の南側を東西に走る斷層により陥れ急に低下す。然し斷層線は吉野川左岸の如く明瞭ならず。村内には大部分山林なるも大字西庄・中庄の吉野川沿ひには稍々廣き低地あり、大字毛田は吉野川の攻撃斜面に當り結晶片岩系の岩石は屋となりて用に臨むも、一段高き所に平坦地あり、河成段丘面なるべし。平坦地は地味肥沃また灌漑の便よく水田・桑畑愛蚕し、山地斜面には畑作行はれ、葉煙草を産し、薪炭を出し、また三好郡鑛山あり。なほ養蜂行はれ蜜の産多く、大字毛田に製絲工場あり。省線德島本線は北部山麓下を東西に走り大字毛田に江口驛（大正三年設置）を置き、伊豫街道また縱道の北方を通じ池田町—川島町（麻植郡）間を結ぶバスの便あり。對岸三野町とは江口の渡船渡船による。聚落は中谷・黒長谷・泉野等の山地中の谷頭聚落、穀治屋散の渓口聚落等あるも、一般に山地北麓の飲料水の得易き所に最初立地せしも北方の吉野川に近く氾濫過ぜられるに及び、山麓より街道沿ひに漸次移る傾向を示す。此地古くは和名抄、三好郡三野郷に屬し、中世には金丸莊と稱す。金丸莊は中莊・西莊（共に大字）・東莊（大字毛田）に分れ醍醐三寶院領なり。西莊は延元元年文書に、中莊は正平十一年文書に、東莊は永德元年文書に見ゆ。村名は蓋しこの中・西・東の三莊より成る故に名づけしものなるべし。大字毛田字江口は吉野川の南岸に臨み交通の專ら吉野川によりし時代河港として榮え、いま江口驛前に當時の金庫が殘り昔日の面影を留め、なほ對岸三野町に渡る渡船場となる。大字中庄の八幡神社附近はいま金丸公園となり櫻の名所として著はる。〔三好鑛山〕本邦重要鑛山の一。日本鑛業株式會社の經營に屬し、含銅硫化鐵鑛を産す、その産額昭和十年四、四五一瓩に達す。鑛床は三波川系に屬する結晶片岩中に挾まれるレンズ狀含銅硫化鐵鑛床にて、黄銅鑛・黄鐵鑛の外、多少の斑銅鑛・磁鐵鑛・硫鐵鑛・赤鐵鑛を伴ひ、硫黄四二%、銅一・七%内外を含む。〔舞寺〕大字毛田字鳥木にあり。真言宗。聖觀音菩薩を安置す。弘法大師四國靈場巡錫の際に、この嶺にて七日間の修法を修し、滿日の曉寅中に紫雲たなびき、觀音の尊像の中堂と稱する地に降下したれば、大師これを安置して堂舍一宇を建立し、雲木を以て一夜に七尺五寸の聖觀音を即刻し胸裡に尊像を納むと傳ふ。舞寺の稱はこの奇蹟によると云ふ。〔長善寺〕大字中庄にあり。真言宗。もと長圓寺と稱す。蜂須賀蓬庵公は諸寺を建立盛營せしに止まらずこれ等佛寺を利用し濟民の策を講ず。即ち往還旅人の宿舍として各郡に驛路寺を設け、堪忍分とし寺廻り各拾石を給せり當寺は即ち其の一なり。寶物中、紺本着色般若菩薩は國寶に指定さる。

サンショー　三省　京釜本線の一驛（大正十五年設置）。朝鮮慶尙北道慶山郡南川面にあり。

サンショー　三椒村　兵庫縣但馬國城崎郡の中部。豐岡町の西方約一〇粁、北は奥佐津村・奥竹野町に、東は奈佐村に、南は八代村・清瀧村・西氣村に、西は美方郡射添村に各々接す。中國山脈

に屬する山地重疊し、西北境には三州山（八八七米）ありて、山地は第三紀層より成る。竹野川の上流にて僅かに水田あるも、林業を主とす。聚落は全く山村形態をなし戸數も多からず。交通は不便にして鷄谷を下り山陰本線竹野驛（中竹野村）に出づるを便とす。此地はもと椒と云はれ、和名抄には奈留波之加美と訓み、土俗も波之加美と稱す。延喜式獨椒神社はここにあり、此地には獨椒を產したるもの丶如し。

サンジョー　三條

【三條市】　新潟縣中部の商工都市。信濃川下流の右岸に沿ひ支流五十嵐川の會流點に跨る。東は南蒲原郡井栗村・大崎村に接し、南は本成寺村に界し、西は信濃川を隔てて大島村に對す。市域面積一二・五八平方粁。蒲原平野の南部に位し土地平坦にして南より北に向ひて緩傾斜をなし、最高地點も海拔約一〇米に過ぎず、市街地を除けば大部分田地をなし殆んど山林原野を見ず。米の產多し。市はもと

職業別戸口（昭和十年）

	戸數	人口	人口（百分比）
農業	四五二	二、九五八	八・三
商業	一、七八〇	八、九六八	二八・一
工業	二、五五〇	一三、七七〇	三八・九
その他	一、五五六	八、七二七	二四・七
總數	六、三三八	三四、四〇三	一〇〇・〇

北陸商業の一中心として榮えし地にて、三條商人の名は夙く近江商人の名と共に業界に聞えしが、近時工業に異常なる發展を遂げ、新興工業都市として勃興するに至る。卽ち市の總人口の三八・九%は工業に、二八・一%は商業に從事するを見ても、商工業の繁榮を卜知し得べし。また市の生產について見るも工產品は六二六萬圓を超えて實に總生產額の九四・二%に當り、金屬製品（四七〇萬圓を）第一とし、酒類・染物・足袋・織物・木竹製品・履物等をその主要なるものとす。

生產價額（昭和十年）

工產	六、二六七、〇七四	九四・二%
農產	三四三、三三九	五・一
畜產	二五、八九七	〇・四
水產	一七、七二〇	〇・三
總額	六、六五〇、九三五	一〇〇・〇

而してその金屬製品には家庭用大小鋏・ナイフ・爪切・洋食用スプーン・フォーク・庖丁・刃物等を出すを以て著はる。省線信越本線は市の東南部を横ぎり西新保に三條驛、田島に東三條驛（以上二驛共に明治三十一年設置）を置き、彌彥線は市の中部を東西に貫きて日吉町に北三條驛（大正十四年設置）を設け、東三條驛にて信越本線と交はりて東南方の長澤村に向ひ、道路には新潟より來る三國街道は西部を南北に通じて長岡市方面に、中遍街道は東方加茂町より來り南方見附町を經て長岡市に連り、何れもバスの往來あり、市はその交通の一中心をなす。市内に八幡宮・神山神社・法華宗總本山本成寺・眞宗大谷派三條別院・眞宗本派西別院・來泉寺大地藏尊等の社寺、八幡公園・三條グラウンド等あり。此地、往昔は大槻庄といひ院の御領たり、仁和三年既に一部落をなし源平時代は城氏の治むる所。戰國時代に長尾氏の一族據有し、爲景三條城に據りて中越を制してより上杉家は常に重臣をして城代たらしむ。慶長三年堀秀治代りて家老堀雅樂助直清の居城たり。慶長十五年松平忠輝代りて家老松平大隅守重勝の守る。元和二年、市橋下總守長勝代り封四萬石、のち稻垣平右衛門長茂これに代りて二萬五千石を食む。慶安四年稻垣氏三州刈谷城へ移封せられ、村上の領主松平直矩に屬してより廢城となる。爾後領主は榊原式部大輔・本多吉十郎・松平右京大夫・間部越前守・内藤豐前守と代るも、常に村上御陣屋の治下たり。明治維新、民政局を置かれ町會所の支配となり廢藩置縣の行はるるや新潟縣管轄となり戸長役場を置く。同二十二年市町村制の施行せらるるに當り三條及び一ノ木戸に町役場を置く。同三十四年これを合併し、次で大正九年に隣村裏館村を、同十年に大島村大字島田を、同十三年に本成寺村大字四日町・新保・曲畫・西本成寺の四ヶ大字を、昭和二年十月に栗林村の内、石上栗林を合併し、次で同九年一月一日を以て市制を施行し以て現今に至る。文政十一年十一月十二日の三條地震の際には當市殆ど全潰し、燒死者四千人を出し、地震後に發せし猛火は翌朝までに全町を燒拂ふ等の慘狀を呈したり。明治十一年明治大帝北陸地方御巡幸の砌、九月二十一日大谷派東別院に鳳輦を止めさせらる。今その行在所址は指定史蹟たり。〔三條別院〕眞宗本願寺派。天保三年西本願寺二十世廣如の創建。現に崇敬門末として新潟市他四郡に亙りて寺院六十四を有す。〔三條別院〕眞宗大谷派。元祿三年、東本願寺十六世一如、宗義紛擾統一のために本院を創建。爾來逐年發展し寺觀盛大となり、輪奐の美を極め、明治十一年、明治天皇北陸巡幸の際行在所に充てらる。〔寶塔院〕新義眞言宗智山派。醫王山と號す。古は西蒲原郡須頃島にありし草庵なりしが、村上藩主三條町を領するに及びて此地に移る。中興は元祿十六年良忠和尚にして、寛永元年、常法談林二色衣の寺格を許さる。明治十三年當町の大火に燒失し、のち再建成る。〔本成寺〕西本成寺にあり。法華宗總本山。長久山と號し、永仁五年日印の開創に係る。日印は當地の出にして日朗の高弟なり。依りて日朗を開山とし自らを二世とす。嘉曆二年本寺を以て本門三大秘密の根本道場となす。光明院より勅願所の綸旨を賜はり、爾後皇室と

の庇保淺からず。また國守長尾・上杉・溝口氏歷代の歸依厚かりき。本寺もと蒲曾根の地にありて、二十五間四方の本堂を構へ、塔頭百六十餘坊を有せしが、文安中、兵火に罹りて一山焦土と化す。のち七世日暮の代に至りて漸次復興し稍舊觀に復す。天文年間再び兵火の犯すところとなり、文祿中、水害を避けて寺基を現地に移す。最も隆盛を極めし時には寺領千三百石、末寺七百を有せしが、德川氏の代に至りて朱印三百石に減じ、加ふるに日陣の代、本成寺（勝劣派）・本圀寺（一致派）の二派に宗門分裂し、末寺の過半を失ひしに依り寺運著しく衰ふ。明治九年に獨立して日蓮宗本成寺派と稱せしが、同三十一年法華宗を公稱し其總本山となる。現に末寺二百餘箇寺を統ぶ。

【三條】　愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、他の一町二村と共に廢し、新たに起町を置く。

【三條通】　京都市の横の大通の一。東は東山區の日岡町に起り、三條大橋を以て賀茂川を渡りて中京區に入り、更に西に進み、西ノ京を經て右京區の太秦町に至る。中京區の寺町通以西は往古の三條大路に當る。天正年間に開通せしものにて東國に至る重要の交通路たり。東山區に屬する三條大橋東畔は社線京阪電鐵の京阪線の終點にして、更に京津線此處に發して本通に沿ひて大津方面に至る。沿道には粟田神社・青蓮院・南禪寺・市電發電所・インクライン等あり。

【三條大路】　平安京の横の大路の一。姉小路（幅四丈）と六角小路（幅四丈）との中間に位す。今日の京都市の三條通は凡そ此の大路に通ず。

【三條大橋】　三條通賀茂川に架せらるる橋。古來四條・五條の大橋と共に賀茂川三大橋の一たり。創設年代不明なるも、室町時代既に架橋されしこと諸書に散見す。天正十七年豐臣秀吉、增田長盛をして改造せしめたる事あり。其後、明治十四年に至り改造、同二十七年修理す。今の橋は市區改正道路擴築の方針に基き、同四十五年三月新たに築造に着手し、大正元年十月竣工せしもの。木造にして長さ一〇一米、幅七米。形式舊に倣ふも、幅員著しく擴大せしため天正の石柱は撤去され新橋柱を用ひ、舊石柱は市中の神社・公園等に配布し、西詰にも記念物として保存さる。欄干を飾る青銅の擬寶珠十八箇は天正年中の作にて大正改造のものと混用す。この橋古來、東海・東山・北陸等の諸街道の起點となり、西詰に里程元標建てられ行客絡繹たり。いま東袂に京阪線及び京津線の始發驛あり。交通益々頻繁となる。橋の東詰南側に高山彥九郎の銅像あり。昭和三年御大典記念に際し建てられしものにて、寛政三奇人の一人、上野の人高山正之、皇陵巡拜に西上し三條大橋に至りて蹲坐し、遙に皇居を拜し「草莽の臣高山彥九郎云々」と言上せる姿を表はせしもの。高さ一八〇糎、基壇五五糎、臺石四・五米。正面の高山彥九郎正之の題字は東郷平八郎の書。

【三條小橋】　京都市三條通、賀茂川に並行して流るる高瀨川に架せる小橋。三條大橋に對してかくいふ。長町女腹切・上「三條小橋の下細工、菖蒲作りの箸へも、五月からの誂へ、何として出來ぬぞ」

サンジョー　山上ヶ岳　大峯山脈の主峯。吉野山の奥、奈良縣吉野郡天川村に屬す。近畿地方の名山にして修驗道の一道場として知らる。標高約一七一九米。山體は秩父古生層にて構成せられ、頂上附近は角岩及び硅岩より成る。南東方に龍ヶ岳（一五八一米）・大普賢岳（一七八〇米）續き、南西方に稻村ヶ岳（一七二六米）連り、北東方に勝負塚山（一二四六米）、北西方に大天井ヶ岳（一四三九米）起る。南斜面は天ノ川支流川迫川の水源地たり。此山、古來金岳（金ノ御岳）又は單に御岳とも金峯山とも呼ばる。役小角が山上に修驗道場を開きてより、一般都人士の間に有數の靈區として信仰の的となる。冷泉・白河・堀河の三帝行幸せられし由の記錄も見え、また諸帝王・皇族・公卿の參詣も少なからず。この山は修驗者の登山は勿論なれど、近畿の地方にては男子と生るれば一度この山に登り、始めて成年となる資格を得るとせらる。なほこの山は珍らしく現代に於ても絶對に女人禁制が嚴守せられあり。登山口は北方の吉野口と、西方の洞川口の二あり。昔時、修驗者は南方の熊野より入り吉野に出づるを順路とし、吉野藏王堂に參拜し、大願成就すとなし、之を順の峯入と稱し、吉野より入るを逆の峯入と云ふ。現在は吉野口より入る者多し。以下吉野口に就きて記さんに、先づ和歌山線吉野口驛にて大軌電車に乘換へ、吉野驛にて下車、これより吉野山まで四粁、自動車あり。吉野より山上ヶ岳の頂まで二四粁なり。先づ吉野の町を離れ、水分神社を過ぐる頃より、杉・檜の森林帶となり、次第に登高し、金峯神社に着す。奥の千本と稱する櫻の名所はこの附近なり。それより足摺り茶屋を經て百町茶屋に至る。吉野より此處まで百町、また山上ヶ岳の頂まで百町と云ふ所よりこの名稱出でしと云ふ、但し實際は百町に達せず。それより道は大天井岳の東側を經て御（五）番關茶屋を過ぎ、大鞍掛・小鞍掛の岩梯を攀ぢ、洞辻茶屋に至る。ここにて洞川よりの登山道と合す。それより山頂まで四・五町は尾根傳ひの難路なり。卽ち、表の行場と稱する險路にして、嚮導案内者を雇ふ。岩壁に梯子を取付けし「油ながし」の險坂を過ぐれば、行場の一なる鐘掛岩峙つ。之も鐵鎖にすがりて攀づ。この右側をからむ道もあり。更に行けば御龜石に達す。役行者の母行者に會はんとて此山に登りしが女人禁制なりしため龜の姿になりて行者に對面せりとの傳說

あり。それより等覺門に至り、西ノ覗の行場に着す。ここは溪谷に面して突出せる一大岩壁より谷を覗く所にして、ここにて先達は登山者に非行を改め、善根を積むべきを訓戒する習あり。「有難や西の覗きに懺悔して彌陀の淨土に入るぞうれしき」の歌あり。これより寂滅院・竹林院・龍泉寺の宿坊を過ぐれば頂上本堂に至る。この本堂は役行者の開創に成り山上藏王權現を祀る。この權現は役行者の祈り出したるものと稱せらる。本堂の東裏手よりは東方一帶の山川を見渡し、飯る壯觀なり。本堂の北東裏の鳴川に面したる岩場には裏の行場あり。本堂の前より西方に登れば廣漠たる高原地帶に出づ。お花畑と稱されど芝草と小笹のみなり。山頂に湧出ノ岩といふ岩塊蟠り三角體あり、これ山上ヶ岳の最高點なり。次に洞川口は下市口とも云ひ、吉野鐵道下市口驛下車、洞川まで二八粁、自動車の便あり。更に進みて洞辻茶屋に至り、ここにて吉野口道に合す。山上ヶ岳開山期は五月初旬より九月下旬までなり。山上ヶ岳より南方大峯山脈の連嶺を縱走するを峯入り或は奥駈けと稱し、信仰又はスポーツよりして登山する者尠から寸。

サンジョー　山城（さんじょう）【山城面】朝鮮慶尙北道軍威郡の東南端。北は義興面、西は友保面及び缶溪面、東は古巻面及び永川郡新寧面にそれぞれ隣接す。南境に近く八公山（一一九二米）聳え、東境にまた山地相連るも西部は稍低平なり。農産物は大麥を第一とし大豆・棉花の他に、菟草・蔬菜等を産す。北方義城より來る二等道路は域内を横斷して東南新寧に通じ乘合自動車の便あり。聚落は主として道路の沿線に多く分布す。其主なるものに花本洞・武岩洞・鳳林洞・三山洞・白鶴洞等ありて、面事務所を武岩洞に置く。

【山城】全羅線の一驛（昭和六年設置）。朝鮮全羅北道南原郡王峙面にあり。

サンジョー　蓋上面（さんじょう）朝鮮平安南道德川郡の西南端。東は鎭烏面、北は日下面に接し、西は倫川郡に、西南は順川郡に境す。東北境には妙香山脈に屬する長安山（一二四八米）屹立し、其餘脈域内に及びて北半部は山岳重疊し、南境も一千米前後の山地相連りて山地帶を成し、南北兩山地の裾合ひな大同江東西に流れ其麓に稍々低地を見る。地味痩せ灌漑に乏しく生産物は僅かに住民の需要を充たすに過ぎず、産物は雜穀・薪炭・馬鈴薯・木履・煙草等を出すに過ぎず。土地僻遠、加ふるに道路險惡にして運輸交通便ならず。聚落は火田部落の名殘りと見るべき散村式のもの多く、密度極めて疎なり。西端陶令里に面事務所を置く。

サンジョーシュー　三條圳（さんじょうしゅう）↓淡州庄（臺灣臺中州北斗郡）

サンジョーノメ　三城目（さんじょうのめ）↓三神村（島根縣）

サンショーレー　三貂嶺（さんちょうれい）宜蘭線の一驛（大正十一年設置）にして、平溪線の接續點。臺灣臺北州基隆郡瑞芳庄にあり。

サンシン　三信鐵道　私設鐵道。愛知・靜岡・長野三縣に跨る（電車）。走行區域は南は愛知縣北設樂郡三輪村にある社線鳳來寺鐵道の三河川合驛より起り、北東に向ひ靜岡縣磐田郡を經て周智郡に入り、天龍川を越えて水窪町に入り、長野縣下伊那郡下川路村にある社線伊那電氣の天龍峽驛に至る。全長六七粁。本電車は社線の豐川鐵道、鳳來寺鐵道及び伊那電鐵と連絡運輸を行ひて東海道本線の豐橋驛と中央本線の辰野驛とを結ぶ。沿線佳景に富む。

サンシン　三神線　岡山縣阿哲郡・廣島縣比婆郡にありし省線。昭和十二年省線庄原線と共に藝備線となる。

サンジン　山仁面　朝鮮慶尙南道成安郡の東南部。北は代山面、西は伽耶面及び成安面、南は檜城面、東は淳原・淑西兩面及び昌原郡内西面に相隣接す。一般に花崗岩性丘陵地帶を成し灌漑不便の爲め畑作農業卓越す。住民は農を主とし米・大麥・大豆・麻・果實等の産あり。又金銅等を産す。總督府鐵道慶全南部線は面の略ぼ中央を東西に横斷し、中央より稍西寄りに山仁驛（大正十二年設置）あり。道路は馬山・晉州街道面の中部を横斷しまた大邱に通ずる二等道路を北東に岐ち乘合自動車の便あり。聚落は普遍的に分布し、北より雲谷里・釜峰里・內仁里・松汀里・茅谷里・新山里・入谷里等あり、茅谷里に面事務所を置く。

サンスイ　三水（さんすい）【山水郡】朝鮮咸鏡南道二府十六郡の一。道の北端に位す。北は鴨綠江を隔てて滿洲國に對し、東は甲山郡、南は豐山・長津の二郡に、西は平安北道に境す。面積一九一二平方粁。東西に狹長なり。域內概ね高地にして蓋馬高原の北緣を占め、一般に南部に高く北部に向ひて傾斜し、南境に臨鵝山（一九三六米）・青山嶺（最高點一七八二米）・孝悌嶺（一六二五米）等あり、西境にも臥碣峯山脈延び來り稀寒峰（二一八五米）・南社山（一七八七米）・衝天山等連り、また域內の高地中部には東西に二杜陵峰聳え、東は一六一二米、西は一九二五米の高度を保つ。河川は此等山地の影響を受けて何れも北流し、東部に虛狗江、中部に仲坪江、西部に長津江ありて、何れも鴨綠江に注ぐ。氣候は高地なるが故に冬季は寒氣嚴しく積雪一米餘に及び、零下十六、七度に達することも珍らしからず。人口約六・二萬、人口密度は一平方粁三二人を算するのみ。住民の七五%は農業に從事し、耕地面積二二〇〇〇ヘクタール、うち田は五八〇ヘクタールに過ぎず、火田多く、燕麥（四・一萬石）・粟（一・五萬石）・大麥（一・五萬石）・蕎麥等を主産し米は〇・四萬石に

過ぎず。其他馬鈴薯（四一五萬貫）、亞麻を産し、副業に豚・牛多く飼養せられ養蚕また盛なり。林野面積約五萬ヘクタールにして、その約五分の三は森林をなし薪材（二七萬圓）・用材を多く出し、其他穀粉・荏油・麻布の産やや多く、自生面には金を産す。道路は北部を惠山鎭・厚州間二等道路東西に横斷し、三水よりは東方吉州へ、また南方仲坪場を經て北青方面に通ずる路線ありて自動車を通ずる外は、概ね未改修にして交通便ならず。行政上三南面ほか七面に分ち、郡廳を三南面仲坪場里に置く。郡邑は東南境の仲坪場のほか、鴨綠江岸の新乭坡に交通の要衝に當りやや繁華なり。本郡は往古、扶餘國の一地方にして、のち西蓋馬縣となり玄菟郡に屬し、高句麗に入り卒本界となり女眞の據りし所といふ。高句麗末葉に三水堡と稱し、甲山郡に屬し李朝世宗二十三年に萬戸を置きて胡に備へ、世祖の時郡護府を置き、幾許もなく郡に改め今日に及ぶ。而して郡衙は初め新乭坡にありしも胡族の脅威を受くるを恐れて今の禮水面城內里に移し、後歷元年洪範道等の蜂起に遭ひ郡衙及び邑內悉く兵燹に罹りしを以て明治四十五年仲坪場に郡廳を移して今に至る。郡名の由來は郡衙の新乭坡にありし際、同地に鴨綠・長津・十三道溝の三江合するを以て三江郡と稱せしを、郡衙を城內里に移すに及び、三水郡と改めしといふ。

サンセ　三西面（さんせい）【山水面】朝鮮黃海道風山郡の北部。西は洞仙面・土城面、南は德在面、東は瑞興郡龍坪面・末甘面、北は同所沙面及び黃州郡鳳溪・郡峰兩面に隣接す。北境には慈悲山・保命山（五八四米）・高麗王山（五七一米）等突兀たる山膚を露はし山岳重疊すれども南部に至るに從つて漸次低下す。地味肥沃なるも灌漑不便にして主として畑作農業行はる。産物には大麥・大豆・粟・米綿・梨・人蔘等あり。道路は西方沙里院驛より東方瑞興に通ずる二等道路面の南部を通じ其南方に鐵道京義線ありて東南境に近く興水驛、南方に清溪驛（二者共に鳳潭面）、西南方に馬洞驛（土城面）ありて頗る便なり。面事務所を龍峴里に置く。

サンゼ　三瀨　山形縣西田川郡豐浦村の大字。羽越本線の三瀨驛（大正十一年設置）あり。

サンセー　三西面（さんせい）朝鮮咸鏡南道三水郡の西南部。東は館興面及び自西面、南は長津郡北面及び東下面、北及び西は平安北道厚昌郡東興面に隣接す。周緣は山地を以て圍繞され西境には狼林山脈ありて柴芝嶺（一六一一九米）・田地山（一六二三米）・南莊山（一七八七米）・黃野峰（一八七四米）・稀寒峰（二一八五米）等相連なる。南境には直洞嶺（一六二二米）・高嶺城山（一七六六米）あり、東境には杜陵峰（一九二五米）等聳え、山岳重疊し土地頗る高峻を極む。南方山地より來る長津江は域內に入り、新昌洞川を合せ流路を東に轉じ峽谷を成して東流し見事なる嶽入蛇曲流を成し魚面堡・沙坪里の間に於て河成段丘の顯著なる發達を見る。氣候は高地なるを以て冱寒冬季積雪一米餘に及び嚴寒の候は攝氏零下一七度乃至二〇度に下ることあり。住民は農業運輸業に從事し又狩獵に從事する者少からず。産物は大麥・燕麥・豆類・粟・玉蜀黍・蕎麥・馬鈴薯・蜂蜜・牛・豚・毛皮類等なり。道路は西南方長津より來る二等道路、域內を横斷して東北方惠山鎭に通ずる外は、何れも等外路線にて改修未だ行はれず、加ふるに何れも途中險坂多く來往不便なり。聚落は殆ど長津江沿岸の段丘上に位し、其主なるものに江隱界里・上貂木里・龍岩里・長在基里・韓項里・上泥龜里・下貂木里・芝野德里・堡城里・魚面堡・金川浦里・圃坪里・間浦里・洞洞里・城基里・沙坪里等あり。面事務所を魚面堡に置く。

サンセー　三成面（さんせい）朝鮮忠淸北道欣城郡の西北端。東は金旺面、南は大所面及び鶴川郡蒐升面、西は京畿道安城郡二竹面、北は利川郡栗面に相隣接す。北境に馬耳山（四七二米）、西境に白雲山（三四五米）の聳立する外は概して著しきものなきも、域內は花崗岩性の老年期の丘陵性地域を成し、平地極めて乏し。灌漑また不便なるを以て畑作農業卓越す。産物は米・大麥・大豆・荏・粟・蕎麥等を主とし黃色煙草また品質優良にして共に著はる。道路改修未だ成らずして車を通ずるものなく、運輸交通共に便ならず。聚落普遍的に分布し、其主なるものに陸井里・大寺里・良德里・龍城里・清龍里・仙坪里・仙井里等あり。面事務所を陸井里に置く。

サンセー　三星庄（さんせい）臺灣臺北州羅東郡の西部。宜蘭灣水溪の中流（特に叭哩沙溪と稱し、もと叭哩沙哺溪と云ひしを我が領臺後「哺」の字を削る）域に跨れる平野（叭哩沙平野とも稱せられ、宜蘭平野の一部なり）及び北・西・南の三方より之を圍み山岳地帶の一部分を占む。卽ち東は五結庄及び羅東街に、東南は冬山庄に、北は宜蘭郡員山庄に夫々隣接し、西及び南は共に蓉地に連る。廣袤東西五里、南北三里、總面積九・九方里。宜蘭灣水溪（叭哩沙溪）は源を西南なる中部山地に發し本庄の西南隅に出で、それより大小數條に分岐して共に管內平野（叭哩沙平野）を西流し、途中幾多の大小洲嶋を形成す。其の幹流は二派に別れ、一は宜蘭河（冷水溪）となり、一は中央山脈より發源する清水溪を庄の東北隅に於て合流し、それより流れて宜蘭・羅東兩郡界となり、終に東港口にて海に注ぐ。此等の溪流は一朝暴風雨に際會すれば、氾濫して田園・家屋を流失すること珍しからざりしも、現在その沿岸には各々防水堤を施し水害より免るるに至る。諸堤防中

丸芎湖堤防は最も有名にして、溪の左岸大湖桶山麓より起り、延長約六〇〇米、工費、十萬圓を要せしものなり。平野の北・西・南の三方は山地に依りて圍繞せられ、北方員山庄との界には三針後山（約八三〇米）・紅柴山（約一一四〇米）、南方多山庄との界には大湖桶山（約七二〇米）聳ゆ。過半數は農業を生業となす。地勢上天惠に浴すること多く、甚だ水利の便に惠まれ且つ耕地面積廣く、田園合計三千四百餘甲に上り、農産物豐富にして、米・甘藷・蔬菜類・苧麻・落花生・果物類・葉煙草・黄麻等の産出多し。農家副業としての養豚・養鶏亦盛にして、其年生産は相當の巨額に上り、庄舊産組合及び家畜市場設置せられて、斯業の奬勵・賣買の衝に當る。林産物としては竹材・薪・木炭・筍等あり、造林地域廣し。庄役場所在地三星字月眉は庄の中心地にして三星公園・三星郵便局・警察課分室・派出所・小學校・公學校・三星信用販賣購買利用組合・食料品小賣市場等あり。三星公園は御大典記念事業として昭和五年完成しプール・濾過池等の設備あり。濾過池に登れば瀑布の壯觀を展望することを得。公園の三面は山水老樹等自然の風光を備へ、當地方の一名所たり。三星字灰盆埔には發電所ありて蘭陽三郡下及び臺北方面に電力を供給す。本發電所は大正十年臺南製熊株式會社事業の一部を繼承し、臺灣電氣興業株式會社にて經營し來りしが、昭和四年、臺灣電力株式會社に合併せられ現在に至る。將來更に擴張の計畫あり、附近の景趣と共に一名所たるを失はず。教育狀況を見るに、尋常高等小學校一、公學校二、同分教場一ありて、本島人兒童の就學歩合は三〇%程度なり。社會教化施設として庄教化聯合會・男女青年團（各二）及び諸主要部落に國語講習所を設置し、社會教育の振興に努む。衛生狀態比較的良好にして、水道の設備あるも、地方病マラリヤは未だ絶滅せず。本庄は諸種の生産能力豐富にして、庄勢益々發展の傾向にあり。交通便利にして、總督府殖産局主管の森林鐵道（羅東—蕃地土場間）を始め、州指定道路（羅東三星道路）・産業道路・部落道路よりく佛はり、羅東・宜蘭との二街との間には乘合自動車の便を有す。本庄はもと叭哩沙地方と稱せられ、幾多のデルタに因りて形成せらる。往古は蘆葦の叢生せる沼澤地帶にして、蕃人の跳梁に委せられたり。叭哩沙なる地名はもと平埔蕃族の地名バツリイサラムより出でしもの、近音譯字を宛てて叭哩沙哺と書きしが、我が領臺後「哺」の字を削除せり。西曆一六三二年に成りし西班牙宣教師ハヒント・エスキベルの東部臺灣地名表にParuasarumと記すものの亦是なり。現大字阿里史（もと阿里史庄）は、清の嘉慶十四年新に西部地方より移來せる平埔番族阿里史等の社番が、羅東地方より漢族のために驅逐せられ、乃ち退きて部落を建てたる所。次いで道光五年叭哩沙哺醒（隊は防番部隊の屯所）の設あり。爾來久しく荒蕪に委せしが、光緒十二年撫墾局を設けしより僅かに開拓の緒に就きたり。大字三星は現行制度施行前まで叭哩沙庄と稱せられ、古來より當地方の中心地を爲し叭哩沙撫墾署、次いで叭哩沙支廳の所在地たり。本庄は三星・阿里史・大洲・中溪洲・紅柴林・粗坑・尾壓の七大字より成り、もと、粗坑（番地に屬せり）を除き、其他は總て浮洲堡（初め溪洲堡と稱し、光緒元年改稱）に屬し、帝國領臺前までは臺北府宜蘭縣の管轄たり。明治二十八年本島が我が領有となるや、臺北縣宜蘭支廳の管下に屬し、同二十九年叭哩沙撫墾署（理蕃官廳）を置かる。同三十年地方制度改正に依りて宜蘭廳の新設を見、その下に羅東辨務署を置かれ、本庄これに屬し、同三十四年辨務署の一齊廢止と共に、宜蘭廳の下に新に叭哩沙支廳を置かれ、本庄は全部同支廳の管轄となる。大正九年地方制度の大變革に依り、堡を廢せられ、もとの庄は各々大字に改められ、新に番地より粗坑を管内に編入して三星庄と稱し、臺北州羅東郡の管轄に編入せられ現在に至る。

サンセー　山西面（さん）　朝鮮全羅北道長水郡の西南部。東は長水面、北は任實郡聖壽面、西は同じく只沙面、南は南原郡德果面及び寶鶴面に各相隣接す。東北境には小白山脈に屬する八公山（一一三一米）、西北境には鷹峰（四三〇米）聳え、其餘脈漸次域内に及びて北半部は山地を成すも、西南奏樹川流域には稍廣大なる低地ありて地味肥え、灌漑の便よく農業盛んに行はる。農産物には米・大麥・大小豆・蜂蜜・楮・漆・柿等あり、殊に米産額頗る大なり。道路未だ改修行はれず車を通ずるものなく交通微ね不便なり。聚落は多く西部奏樹川低地に集り其主なるものに桐花里・鶴仙里・五山里・新昌里・二龍里・社桂里・下月里・社上里・玉堂里等あり。桐花里は道路網の核心に位置し陰曆二・七の日に開く市ありて開市日には活氣を呈す。

サンセー　山清（さん）　【山清路】信濃國の名勝。信濃川の一支犀川が松本平の東北部の第三紀層の山地を破り、善光寺平に出る間にある奇勝。主として長野縣東筑摩郡生坂村と北安曇郡廣津村との間にあり。兩側は奇岩峙ち初夏の候には躑躅・杜鵑花の咲き亂れたる眺は頗る佳なり。

【山清郡】朝鮮慶尙南道の西部。道管内二府一九郡の一。東は陜川郡、北は居昌郡、西は咸陽郡、南は河東・晉州の兩郡にそれぞれ隣接す。郡の西より南へ亘り小白山脈の一支、智異山脈連り高峰重疊し、西南境咸陽郡界に智異山（一九一五米）聳え、また北より東へ亘り居昌・陜川兩郡より分水嶺みなり山嶺より、三郡境に

黄梅山（一一〇四米）屹立し、東南晉州郡と接する一部を除きては全部山嶺に圍まる。河流は咸陽郡より流下するもの本郡に入りて鏡湖江となり、郡の中央部盆地を東南に流れ、その他、智異山脈に發源する德川江、北部山地に發する鹽川江等ありて何れも鏡湖江に合し南江となる。これ等諸川の流域は稍々平坦にして、地味の肥沃と灌漑の便と相俟ちて農業行はる。耕地面積は田七九七三ヘクタール、畑三二〇九ヘクタールにて、農業戸數實に九〇%を占め、米（九・八萬石）・麥（七・三萬石）・大豆・棉花（一二〇萬斤）を主産し、副業として養蠶行はる。其の他、生牛・竹材・木炭・椎茸・果實・荏種子等を産し、工産には朝鮮紙・竹製品・酒類等最も著れ、また棉布・麻布等を産す。鑛産は三壯面の大浦鑛山に黑鉛を、生比良面・新安面に亙る集賢金鑛に金銀の産あり。交通は二等道路、郡中央を鏡湖江に沿ひ南北に貫走し、北居昌・南晉州に通じ、また丹城を中心に道路網やや發達せるを見るも概して便ならず。行政上、十一面に分ち、山清面玉洞に郡廳を置く。郡邑は鏡湖江に臨む山清・丹城を主要なるものとす。本郡は新羅の知品川縣に始まり、景德王に至り山陰縣と改め、圓城郡（丹城郡の前身）に屬し、高麗顯宗王の時、陜州（いま陜川）に移屬し、高麗恭愍王の時、陜州（いま陜川）に移屬し、恭讓王の時、鹽海を置き、のち山清郡と改め、併合後、三壯・矢川ほか四面を晉州郡より分屬移管せしめ、大正三年三月丹城郡を合併して今日に至る。

【山清面】朝鮮慶尙南道山清郡の略ぼ中央。東は新等面、北は車黄面及び梧釜面、西は今西面、南は三壯面及び丹城面に各相隣接す。南境に熊石峰（一〇九九米）、東南境に屯嶽山（八一二米）等聳立し、其中央部を南江貫流し兩岸狹廣き低地を見る。産物には米・大豆・雑穀・麻布・紙・生牛・竹器等あり。道路は晉州・尙州間の二等道路南江に沿ひて縱走し乘合自動車の便あり。其他山清邑を中心として道路網四通八達せるも何れも未改修にして車を通ぜず。聚落は郡邑山清を始め東瀛里・義古里・内水里・釜里・拜亭里・正谷里・内里等あり。山清には郡廳を始め面事務所・警察署・郵便所・地方法院出張所・學校組合・小學校等あり。又陰曆二・七の日に開く市場ありて米・新炭・織物等の取引行はる。邑内、南江（鏡湖江）岸の絶壁上に、奏雲亭の勝景あり。

サンセキ　山尺面　朝鮮忠清北道忠州郡の東北部。西は嚴政面、南は東良面、東は堤川郡水山面、北は同白雲面に各相隣接す。東部には天登山（八〇七米）・人登山（六六七米）等聳立し徐凱城内に蟠踞して山岳地帶を成すも、西半部は比較的低平にして耕地よく發達す。住民は農業を主とし、副業として養蠶業を營む者多し。産物には米・麥・大豆其他の雑穀・煙草を主とし又綿花・大麻・荏等あり。道路は忠州より堤川に至る二等道路西部低地を南北に縱貫し、乘合自動車を運轉し交通便なり。聚落は主として此地域に分布し東半部は殆んど聚落の發達を見ず。松江里は西部の中心を成し面事務所・警察官駐在所等あり。

サンセン　山川面（さん）　朝鮮黄海道信川郡の東北境。西は用珍面及び文武面、南は文化面及び北部面、東は盧月面及び安岳郡龍順・安岳兩面に各隣接す。北境及西境に小丘陵あるも、一般に土地低平にして所謂安信平野の一部を成し、其中央部を載寧江の支流西江灌漑し、地味肥沃にして米産地として知らる。住民の多數は農業に從事し、米の外大麥・大豆・綿花等を産す。道路網比較的密に發達すれども改修未だ行はれず車を通ずるもの少し。聚落は普遍的に分布し、龍亭里・長山里・龍月里・柳川里・江村里・龍東里・東屯里・四山里・松塲里・月松里・川内里・沙邑里等あり。

サンゼンポ　三千浦邑　朝鮮慶尙南道泗川郡の南端。北は泗南面及び南陽面、西は水道を隔てて南海郡昌善面、東は固城郡下二面と相對す。北境には郡中の最高峰臥龍山（七九九米）聳え、其山麓南方に延びて海に浸し三千浦の良港を成し、更に其前面に新樹島・勒島・馬島等の諸島を形成す。三千浦は水深大にして大船の繫留に適し商港として又漁港として共に隆盛なり。陸路は二等道路北方三叉路の慶全南線部晉州驛に連絡して乘合自動車を通じ、水運は三千浦より釜山・麗水に各往復する定期汽船ありて交通便なり。また貿易盛にして鮮魚・鹽魚・乾魚・穀物等を移出し、穀物・鐵製品・漁網・石炭・木材等を移入し、貿易年額七〇〇萬圓を超ゆ。また棉花・鹽・生牛等の集散行はれ、殊に牛最も多し。又漁期には北九州・西四國地方より出漁する者多く頗る賑ふ。邑内には警察署・郵便所・小學校・學校組合・漁業組合・水産市場・金融組合等あり。三千浦漁業組合の漁獲高約二四萬圓に達す。

サンソー　三壯面（さん）　朝鮮慶尙南道山清郡の西南部。北は今西面、東は丹城面及び山清面、南は矢川面、西は咸陽郡馬川面に各相隣接す。小白山脈中に位置し、智異山（一九一五米）西境に屹立し東北境には熊石峰（一〇九九米）、南境には九谷山（九六一米）聳え、餘脈域内に及びて山岳重疊し殆ど平地を見ず。南江の支流德川江智異山中に發源して東流し、のち東部を南に流る。此溪谷に僅に耕地及び聚落の發達を見る。産物には大豆・大麥・馬鈴薯・雑穀・蕎麥・麻布等あり。山岳地帶にして且つ僻遠に偏在せるを以て人口稀薄、人智亦遅まず、從つて道路の如きも極めて險阻にして峻坂多く交通運輸は徒歩又は馬背に據る。聚落は洪界里・坪村里・石南里・德橋里・大浦里等

を數ふるに過ぎず。大浦里に面事務所を設く。

サンソー　三瀦ケ浦　横濱市磯子區（もと久良岐郡六浦荘村）侍從川の吐口南岸の邊をいふ。永祿九年春唐船三艘此浦に著岸せし故の稱。近世は干潟・鹽田となりて往時港泊の形狀を存せず。

サンダ　三田　【三田村】神奈川縣相模國愛甲郡の東部。相模川の支流中津川の右岸に沿ひ、南方厚木町との間に妻田村を挾み、西は荻野村、北は下川入村、東は依知村と隣る。面積四・一二方粁の小村。相模川流域平野の一部を占め、全村平地にして中部は水田、他は桑畑その他は畑地なり。農は村の主業にて、米・麥・甘藷・馬鈴薯等を產す。厚木町より西北方津久井郡與瀬町に出で甲州街道に達る縣道村の中部を横ぎりてバスの便あり、また厚木町にも近く交通不便ならず。此地は和名抄、愛甲郡印山郷の内にして、近世は毛利庄に屬す。もと散田と書きしといふ。建久の頃は安達藤九郎盛長領主たりしと。文和の頃は鎌倉圓覺寺領たり、天文の頃は越智彈正忠の知行地たりしこと小田原役帳に見ゆ。のち德川氏の屬東入國後幕領或は知行所と幾變遷あり、享保三年大久保長門守教起賜はり子孫相繼いで領す。【三田町】兵庫縣福津國有馬郡の中央部。神戸市の北方約一四粁。北より西にかけては三輪町に接し、南は道場村及び長尾村に、西は貴志村に隣接す。此地は六甲山塊の北に接する丹波高原の邊緣部に屬し、三國岳に源を發する武庫川は本町の西境を西北—南東の方向に流れ、三田盆地を作る。山地は何れも二〇〇米位の高度を示し、武庫川の流路の方向はこの地方の斷層に沿うて侵蝕行はれしために生ぜし流路なることを示す。この侵蝕は基盤の南東部が隆起し北西に傾く運動の進行中もよく始めの流れの方向を保ち今日に至る。今日の三田盆地が山間に廣き堆積谷として存在する事は一面に侵蝕作用の弱き事を示すものにて、この爲に豪雨の場合は直に洪水となる。丘陵地より盆地面には水田多く、丘陵地には溜池灌漑行はる。園作として麥栽培され、また養蠶業も盛にして煙草栽培も相當行はる。工業としては僅に酒造業が見られ、また青磁に似たる三田燒を產す。これは當城主九鬼侯の趣味によりて起されしものなれど產額多からず。今日は僅かに地方的中心として農村とあ物資の交換の行はるるのみなり。本町は九鬼氏三萬六千石の城下町なりしな以て道路はよく發達するも武庫川（三田川）の右岸の丘陵地に近きため省線福知山線は對岸三輪町に通じ、三田驛を置く。また有馬線は三田驛に分岐し南方有馬町に至り、神有電車終點も爰に達す。本町は和名抄、有馬郡大神郷に屬せしものの如し。三田城は元和七年松平丹波守康長居城し、寛永十一年には九鬼大和守久隆これに代り、三萬六千石を領し明治維新に至る。大字車瀬には有馬氏の館址あり。有馬氏は赤松氏と同族にて則景此地に住す。のち孫親則は豐臣氏に仕へて遠州横須賀三萬五千石を食めり。當藩には元祿七年九鬼副隆の創立に係る、もと藩校造士館（舊國光館）あり。もと郡役所の所在地なりしも、いま警察署・中學校・女學校・農林學校・博物館等あり。また東光山菩提寺には花山院の御廟あり。（三田藩）元和七年松平康長ここを領し寛永十一年より九鬼嘉隆の孫久隆ここに封ぜられ、子孫相承け以て明治維新に至る。明治四年七月藩を廢し縣とせしも幾何もなくこれを廢して兵庫縣に入る。（天滿神社）縣社。祭神、菅原道眞・應神天皇・大己貴命外四神。後奈良天皇天文十四年の創建と云ふも沿革は詳かならず。明治四十二年六月村社山王神社を合祀す。例祭十月一日。（金心寺）古義眞言宗。如意山と號し仁和寺末。孝德天皇朝、僧定慧の開創。天正中兵火に罹りしが、寛永年中高野山新別所の末儀來りて再興す。寺寶中本尊木造彌勒菩薩坐像一軀（藤原末期作）・同不動明王立像一軀（鎌倉末期作）・紙本着色十一面觀音像（鎌倉末期の作）は何れも國寶に指定せらる。【三田村】和歌山縣紀伊國海草郡の中部。和歌山市の東南に隣り、西南は紀三井寺町に、南は安原村に、東北は岡崎村に界す。面積二・八八方粁の小村。南部と東北部に低き丘陵あり、和歌川の支流中部を西流し、紀三井寺町に出で南方に折れ和歌川に合す。村の大部分は低地にて耕地よく拓け米麥を產し養蠶も行はれ、蜜柑の產もあり。和歌山市より來る縣道中部を東南へ過ぎ、紀線和歌山線道線は東北部をかすめて過ぎ鷺山驛（大正五年開業）を置き、交通便利なり。和田・坂田・田尻の三部落を併せ三田村と名付く。村内の鷺山神社は神武天皇及び其皇兄彥五瀨命を祀る官幣大社なり。（鷺山神社）大宇和田に鎮座。官幣大社。祭神、彥五瀨命・神武天皇・稚根津彥命。創建年代詳かならざるも延喜式に其名見え、本國神名帳に從四位下とあり。天正年間まで社領八町八段ありしと。今もなほ御領田・御子田・御節旬田の名遺る。戰亂の世を經て久しく社頓衰微せしも德川氏の入國後、社殿を再興しやや舊觀を備ふるに至る。祭神の彥五瀨命は神武天皇の皇兄に在しまして、命は皇軍を率ゐ浪速の渡より大和に入らんとする時、長髓彥の大軍と孔舍衞坂に戰ひ、御肱脛に流矢を射させ給ひ、御ち軍を返して血沼の海より紀國雄水門に著き鷺山の地に至りて遂に薨去さる。現社地はその遺蹟にして、社に近く命の御墓あり。或は云ふ、彥髓は鷺山に葬りしもその薨去の地たる雄水門、卽ち今の和歌山港惠比須の地に一旦社を建てたりしも、其後神託に依りて現社地に遷座すと。

サンタイミョージン　三體明神山　三體山とも云ふ。阿武隈山脈の一峯。福島縣石城郡箕輪・永戸・入遠野・上遠野の四村境上に位す。標高約七〇〇米。北西麓に二ツ石山（七五一米）・鶴石山（七六八米）續き、南東麓に天狗山（六三一米）連る。

サンタロー　三太郎越　熊本縣の南西端、葦北郡の八代海に面する海岸地域に南北に通ずる鹿兒島街道に鉛ぶ太郎の名稱を有する三峠の總稱。古より三太郎の險と稱され、肥薩の國境を扼する要害地たり。地域は九州山脈が海に沒する所謂リヤス式海岸をなす臺地にして山脈は分岐してそれぞれ峠をなし、また各々溪谷を有し、その溪谷の川口には彎入あり、其處に小中心部落あり。北方にあるを赤松太郎峠と稱し、葦北郡二見村・田浦村に跨り、最高點一四七米。南麓に田浦部落あり。中間なるを佐敷太郎峠と稱し、田浦村と佐敷町との境界を最高點とす。南麓に佐敷部落あり。南端なるを津奈木太郎峠と稱し、湯浦村・津奈木村との境界最高點たり。各峠上よりは八代海・天草諸島を俯瞰し、眺望佳なるを以て旅人を賞ぜず。赤松太郎峠は鹿兒島街道に當るも、他の二峠路は鹿兒島街道の間道をなし、同街道はおのおの最高點の近くを隧道を穿ちて通ず。鹿兒島本線も街道とほぼ並行して峠下をトンネルを穿ちて走る。

サンタンダン　三段山　【三段山】十勝山脈の主峯十勝岳（二〇七七米）の南西方約三粁に峙つ一峯。北海道上川支廳空知郡上富良野村に屬す。標高一七二〇米。

【三段峽】廣島縣山縣郡太田川上流の溪谷。指定名勝。地籍は戸河内・八幡の二村に亘る。太田川の上支柴木川八幡高原の水を集め、字樽床盆地に至り三ツ瀧に墜かる所より始まり、川は花崗岩中を流れ直立節理、兩岸に絶壁を作る。ここに龍門・出合瀑・鯉潤・三段瀧等の名勝あり。田代川・横川の水を集むる支流との合流點より一層侯入曲流をなし、大潤・燕潤・天狗岳・五立等の景勝地ありて龍ノ口にて峽谷を終ふ。この間約一〇粁を三段峽と稱し、大正六年頃より探勝道路設けられ、一般に紹介さる。

サンタンダ　三反田　小海線の一驛（大正四年設置）。長野縣南佐久郡田口村にあり。

サンチ　三池淵　朝鮮咸鏡北道の西北端にある湖。茂山郡の西境、咸鏡南道境に近く、白頭山の東南二八粁。海拔一三九五米の高處にあり、二等道路は東方會寧より來り湖畔を過ぎ、湖南の峠、虛頂嶺（一四〇一米）を越えて咸南甲山方面に至り、また正北の神武城へは此處より一五粁餘、間道を通ず。

サンチ　山地　→濟州邑（朝鮮全羅南道）

サンチク　三竹面　朝鮮京畿道安城郡の東北端。東は除城郡二竹面、北は龍仁郡外四面及び遠三面、西は同二東面及び陽城面に相隣接す。北境に九峰山（四六九米）、東境に飛鳳山（三七二米）、東南境に七長山（四九一米）等聳え、中央には國師峰（四三六米）ありて殆ど山地を成し、ただ東部の清美川流域に狹長なる低地ありて耕地の發達を見る。農產物は大麥・大豆類を主とし粟・黍・馬鈴薯等あり。工產品には紙・織物器具類等あり、織器は朝鮮各道に其名を知られたりしも近年その製造衰ふ。朝鮮京南鐵道京畿線は面の東南部を清美川に沿ひて走り、三竹（昭和二年設置）・龍月（同九年設置）の二驛ありて安城邑へ一二粁、東方長湖院へ二二粁、總督府鐵道京釜線天安驛に四〇粁餘の距離にあり。道路は安城・長湖院間の三等道路南部を通過する外は、何れも等外路線にして北部は交通樞して便ならず。聚落は南部に多く、其主なるものに貫村里・基寧里・麻田里・龍月里等ありて面事務所を貫村里に置く。

サンチョー　三町村　山梨縣甲斐國中巨摩郡の東南部。甲府市の西南方約六粁、笛吹川の右岸に沿ふ。東北は稻積村、西北は常永村、西は小井川・花輪の兩村、南は笛吹川を境に東八代郡豐富村に隣る。面積三・四七方粁。甲府盆地の南部を占め土地平坦にして、水利もよく田地最も多く畑地これに次ぎ、殆ど山林・原野を認めず。農を主業とし、米麥の產あり、また養蠶・養鷄を副業とす。社線富士身延鐵道は村の西北境を通りて大宇河原に小井川驛（昭和四年開業）を設く。此地は和名抄、巨摩郡市川郷の内なるべく、近世は河東郷に屬せしものなるべし。本村は三條村と曝村とを合併せしものにして、合併の際に三條村より三をとり、曝村の大宇一丁畑・町之田より各各丁と田を取りて三町村と稱すと云ふ。（水源寺）曹洞宗。豐田山と號す。河東覺見の開基に係り、良顯禪師の開山と傳へ天正中愚安これを再興す。聖觀音像一軀（木造）は國寶たり。（觀盛院）大宇三條にあり。曹洞宗。創建年次沿革等不詳。寺寶、藥師如來坐像一軀（木造）は藤原初期の作と推せられ、後世の修補多きも、優作として現に國寶たり。

サンチョー　三長面　朝鮮咸鏡北道茂山郡の西北端。鮮滿國境に聳ゆる繁峰白頭山の東南斜面に展開する一大地區を占め、東は西下面及び延社面、南は茂山郡三社面に、北は豆滿江を隔てて滿洲國間島省に、西は白頭山及び咸鏡南道甲山郡普天面に各隣接す。南境は白頭山より派生せる山脈嶺々として東南に展び大鑑脂峰・小鑑脂峰・間白山・小白山・北鑑脂山（二二八九米）等聳え、また城內西部には無頭峰・神武城・間三峰等の諸峰あるも、これ等は主峰白頭山の玄武岩の大フロー及び浮石より成る緩斜面上に比高僅

に頭を抜き一帶原生林帶を成す。無頭峰以西は密林漸く疎となり樹木は烈風のため上方に伸び得ずして縮に枝を張り玄武岩のフロー平坦面には矮小なる高山植物の繁茂を見る。豆滿江上流も此地域に於ては多く空谷を成し、赤峰附近より漸く流水を見る。耕地は面の東北部江岸に近き地域に於て開墾畑を見、燕麥・麥を主とし黍・玉蜀黍・稗等を產し、また木材の產あり。住民は近時、間島方面に出稼または移住する者多し。東方茂山鎭より二等道路は面の中央を西走し西南境の三池淵に至りて南方に轉じ虛頂嶺(一四〇一米)の峠を越えて南方惠山鎭に通ずるも峻坂險路多く交通不便なり。聚落は主として前記道路に沿ひて分布し、面事務所は東端に近き東二所に置く。

サンチョー　三朓山　北海道網走支廳網走町にある山。標高一二一米。南西方より北西方にかけ、網走湖・能取湖・オホーツク海を俯瞰し得るにより山名出で形勢地として知らる。

サンチョー　山朝　【山朝】→三貂【山朝山】→三貂嶺

サンチョー　三貂　【三貂】臺灣北部の地名。三貂の稱呼は西班牙人の北部臺灣に據りし時、初めて發見したる東北角(卽ち今の三貂角)を、サンチアゴ(San tiago)と命名したるに基づきたるものにして、明末の沈宏光光の「平臺灣序」には三朝と記し、黃叔璥の「臺海使槎錄」及び「臺灣府志」は山朝に作る。共にサンチアゴの近音譯字なり。卽ち一岬角(三貂角)に與へられたる稱呼より轉じて山河(三貂嶺・三貂溪)及び蕃社(三貂四社)等の名に冠せられ、更に堡名(三貂堡)となるに到る。

【三貂角】臺灣臺北州基隆郡にある岬。本島の東北端、三貂灣の南方に突出す。西班牙人の北部臺灣に據りし當初、始めて之を發見し、サンチアゴ(San tiago)と命名せり。いま貢寮庄の管轄に屬す。

【三貂溪】→雙溪(臺灣)

【三貂堡】臺灣臺北州基隆郡の古地名。三貂嶺界限一帶の區域之に屬す、卽ちいま基隆郡の內、貢寮庄全部及び雙溪庄の大部(雙溪・魚行・武丹坑・石壁坑・三叉港・石笋・蜜光寮・三叉坑・平林・柑脚・丁子蘭坑の十一大字)を包括す。此の地方はもと平埔蕃族のキヴアノヅン社と稱する一群の所在に屬し、清の乾隆の中葉、漢人の初めて入りし當時は舊社・遠望坑・圓隆・南子吝の四舊所に部落を分ちて占居し、後に三貂四社の稱を與へられたり。この地方は宜蘭平野に入る北方の要害を爲す、蓋し漢人にして最初にこの地に入りしは、宜蘭地方開拓の祖たる福建の漳州人吳沙にして、基隆より海岸に沿ひて深澳に至り、更に山を經て澳底に入り、舊社の蕃人と和を約して此處を根據の地となし、翌に同五十二年宜蘭地方に進入せり。その頃一方には白蘭といふ者、嘎々(七堵庄)方面より山を開きて行路を通じ、漢人の三貂地方に入る者漸く多く、當時今の雙溪地方は樟林密叢の區に屬し、その西界には兇悍なる山蕃(アタイヤル族)の出沒するあり、屢々相互の衝突を來せしより、同五十三年十份墾民隘(淡水廳志に內山叉路口とあり)・三貂嶺民隘(淡水廳志に三貂社民蕃交界處とあり)を設けて防護する事とせり。されど當時は地勢上、土地の開墾狀態なほ甚だ微々たるものにして、嘉慶の初年頃に、雙溪流域の一帶漸く田園を慨し、頂雙溪(今の雙溪)の小街肆を形づくられたり。大正九年地方制度改正に依り廢止され、舊區域內の地は、前記の二庄に分割せられたり。

【三貂嶺】臺灣臺北州基隆郡にある峠。草嶺と共に臺灣本島の東北方に連亙する群峯に屬し、相對峙して基隆方面より宜蘭地方に達する要道に當る。清の乾隆二十九年に成りし臺灣府志(採訪)に、山朝山自雞籠山分岐、双峯盡峙、高不可攀、山南爲蛤仔難三十六社、生蕃所居、人跡罕到」と見ゆ。その「双峯盡峙」と云へるは、當時地理の明ならざるより、三貂嶺と草嶺(一名雞々嶺)とを併せ指せしものにして、山朝は三貂の同音異字なり。(貴雞籠山は基隆山、蛤仔難は後に噶瑪蘭と改められ、宜蘭地方の舊稱なり。)咸豐九年に成りし噶瑪蘭廳志に、「三貂大山、以地得名、山路崎嶇、谿澗叢雜、雖行旅維艱、而實入蘭孔道」と云ひ、「雞々嶺、以高得名、石磴如梯、烟雨鎖樹、爲從前入蘭孔道」と云へるは、その嶺路を開きたる後、二山の狀を分ち記したるものなり。蓋し嶺路の始めて開かれしは、乾隆の中葉にありて、最初の路徑は基隆より海岸に沿ひて東し、深澳(基隆市)より三貂嶺に出でしものにして、甚だ迂遠を極めたりしが、次いで土人の自蘭なる者、嘎々(七堵庄)より直ちに山に入り、十分寮(平溪庄)・瓢子瀨を經て雙溪地方に達する嶺路を開く。而して嘉慶の初年頃までは、三貂嶺路の開かれしに止り、他は僅かに往來の及ぶに過ぎざる所なりしが、同十二年臺灣知府楊廷理の蛤仔難蕃地に入るや、更に從前の嶺路の東方をトし、西興亭・蛇子形(共に瑞芳庄)を經て雙溪(雙溪庄)に達し、且つ草嶺を越ゆる路徑をも改修したり。楊廷理の道中詩の註に「嘎卻(いま基北市萬華)・錫口(いま松山庄松山)より蛤仔難に到るに、中に蛇仔形・三貂・雞々の三大嶺を經、谿を過ぐる三十六里、危險異常、生蕃出沒、人多く之を畏る」と云へるは是なり。而して其の三貂嶺の新路は實際通行者少かりしものの如く、道光元年に成りし噶瑪蘭通判徳瑩の臺北道里記に、「楊廷理新に路の東に開けるも、其の路迂遠なるに由り、人育て行かず、多くは舊路に由る」と記し、後の經過せしも舊路なりしが、同治年中に、三貂嶺の實況を敍して曰く、「盤石鳥道尚上、凡八里。至其巔、嶺路初開、窄徑懸磴其險、屑輿不能進、草樹蒙翳、仰不見日色、下臨深澗、不見水流、惟聞琴淙々、終日如雷、古樹怪鳥、士人所不能名、猿鹿之所遊也」と。以て其の險峻に、加ふるに幽邃を極めし光景を想ふべし。更に草嶺以東の形を記して曰く「下嶺(三貂)牡丹坑、有民壯寮守險、於此講行旅、以防生蕃也、頂雙溪下雙溪過渡爲遠望坑民壯寮、施北轉東草嶺、下嶺至大里簡民壯寮、則山後矣、自比以下、皆東面海、爲蘭北境、沿海南行、蕃寮寮、大澳、礁坊皆有隘、設丁防護生蕃」と。卽ち此頃迄も、嶺路に於て蕃害を伴ひしを知らる。道光三年に及び、新庄(いま新莊街新莊)の紳士林平侯は自費を投じて先に楊廷理の開ける三貂嶺路を補修し、次いで咸豐六年平侯の子國華また父の志を繼ぎ、基隆より瑞芳を經過する三貂嶺路を開鑿せしが、この新開路は比較的行程の便易なるを以て通行人多く、同治十三年臺灣總兵劉明燈は此の嶺路を過ぎて噶瑪蘭(宜蘭)に入りし時、三貂嶺頂に近き所、自然の岩壁に高さ丈餘、幅五尺の輪郭を鑿し、旌旗遙向滬關來。此日登臨眼界開。大小雞籠明積雪。高低雉堞接奔雷。寒雲十里迷蒼靄。夾道千章蔭古槐。海上鯨鯢今息波。勒修武備拔英才」の詩を題刻し、また草嶺の頂上に近き所の岩面に、一は「虎」(草書)の大字、一は「雄偉壓懸」の四字を刻して、記念と爲す。我が領臺後明治二十八年六月二日、近衛師團は基隆を攻撃する目的を以て、澳底(貢寮庄)より三貂嶺路を前進せしが、行軍最も困難を極めたり。其後、守備工兵隊によつて嶺路を補修し、山腹を繞りて勾配を緩くし、容易に馬輜を通じ得るに到れり。

【三貂嶺】臺灣總督府廳道宜蘭線の一部(大正十一年設置)。之より平溪線を分岐す。臺北州基隆郡瑞芳庄三爪子にあり。

【三貂灣】臺灣臺北州基隆郡にあり。臺灣本島の東北端にて、澳底灣とも稱す。遠く海中に突出せる鼻頭角(北)及び三貂角(南)の兩岬に依りて形成せらる。

サンチョク　三陟　【三陟郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の東南部。北は江陵郡に、西は旌善・寧越の二郡、南は蔚珍郡及び慶尙北道奉化郡にそれぞれ隣接し、東は日本海に面す。面積一六八五平方粁。道中の大郡なり。地勢、西部は大白山脈及びその支脈逶迤し急傾斜をなして海岸に迫り頗る平地に乏し。卽ち主要なる山嶺は西南境の大白山(一五四九米)、その東方に聳ゆる錦山(一二四五米)、西境の大德山(一三五四米)・○七米)及び北部の頭陀山(一三五四米)等なり。河川は東流して日本海に朝するものに大なるほ殆どなく、大德山に發し西北流する漢江、南流する洛東江の何れも上流をなすものにして、地形上著しき現象の一なり。海岸線の延長六〇粁に亞きも、北部を除くほか概ね輪崖にして波浪岩を噛み良泊に乏し。產業は水產業を第一とし、蝦・鰕・蟹・鮮・鮑・海鼠・和布等の漁獲多く、鰯油製造などの水產加工また盛なり。其他、農產に麥・米・大豆・大麻等あり、牧牛盛んにして牛の賣買多く、工產には麻布・木製品・陶器等あり。近時コルク工業勃興して注目せらる。域內は林野多く、アカマツ林は全鮮稱なる美林を形成し、特に三芳山・宮房山の如きはその雄たるものにて、大白山の森林また著名なり。鑛業は瑞洞鑛山・屯田金山等により金・銀を產するほか良質の石炭を埋藏し、近時三陟炭田に於て三陟開發株式會社が內地の發電所燃料及び地元の石灰窯業・セメント工場等の工業用炭とする目的を以て大規模の採炭に着手せり。交通、東部海岸線に沿うて三等道路走り、北部の北坪里よりは旌善方面に通ずる三等道路を岐つ外、陸上交通見るべきものなく、海岸は汀瀾・莊湖・臨院・湖山の諸港あるも多くは漁港たるに過ぎず。そのうち汀瀾港(三陟港)のみは築港完成し、沿海航路の定期寄港地たり。行政上、三陟・近德・遠德・上長・下長・所達・盧谷・未老・北三の九面に分ち、郡廳を三陟面城內里に置く。三陟は古來關東の名邑にして、關東八景の一たる竹西樓の勝景あり。本郡は古の悉直國にして新羅婆娑王これを併合し、悉直州と稱し、景德王に至りて三陟郡と改む。郡邑の古名か悉直・悉珠・陟州等と稱す。また郡邑の東方汀瀾(汀下里)はもと三陟浦鎭水軍僉制使營を置きし處にして、江原道嶺東九郡(いま六郡)の水軍を支配したりといふ。

【三陟炭田】朝鮮江原道三陟郡にある無煙炭田。埋藏區域廣大にして、炭田の大部分は三陟郡上長・所達・遠德の三面に屬して、延長四〇粁、幅八—一六粁に達す。夾炭層は二疊石炭紀に屬し、炭層は大小を合して四—五層あるも、主要層は六米內外に達する一層にして、比較的變化少なく長く連亙し、その一部分なる敢岩・黔川區域のみにても埋藏炭量六千萬噸に達するといはる。炭質は平壤炭田と同じく無煙炭なるも、塊炭歩合多く尙も硫黃分及び揮發分少なく木炭代用として臭氣少なく火持良好なり。近年に至り三陟開發株式會社の手により大規模の採炭に着手せられ、一部は內地の發電所燃料として、一部は地元に建設せらるる石灰窯業・セメント其他の工業用炭として消費されつつあり、炭田は從來交通頗る不便なりしも、昭和十一年八月三陟鐵道會社によりて汀瀾より所達面に至る三五・七粁の炭礦線建設に着手したるにより、東海岸線の全通を見る曉は炭田の開發大なるものあるべし。なほ附近には外に旌善・江陵・平昌・寧越の四大炭田あり、江陵炭田の大半は土狀黑鉛に變質し、平

蠶・麥越には有望なるものなく、直善は良炭出なる如きも未開發に屬す。

【三陟面】 朝鮮江原道三陟郡の東部。東は日本海に臨み、北は北三面、西は未老面、南は近德面及び蘆谷面に隣接す。西嶺の近山(五〇四米)を除いては顯著なるものなきも、大白山脈の東斜面を受けて域内一般に丘陵起伏し、中央を貫流する五十川沿岸を除きては殆ど平地を缺く。海岸は五十川河口を除きては何れも岩石海岸を成し良泊に乏し。產物は米・麥・大豆・馬鈴薯のほか煙草あり。河口は改修されて漁港を成し魚期には漁船の來集するもの多く、鰯最も著はれ其他に鄙・鯖・鮭等あり。この地は恭讓王桑去せし所にて高麗滅亡史上に有名なり。王は李朝太祖の開城に都するや原州・江陵と遠く離され、遂にこの地を最期とせられしなり。三陟は郡政の中心にして郡内九面を管轄し、また三陟面事務所あり。道路は三陟を中心とし二等道路を北方四八粁の江陵、南方六〇粁の蔚珍邑に通ず。其間、途上平坦ならざるも郡中主要の道路たり。市場は陰曆二・七日の日に開き、米・牛・雜貨・生魚・薪炭等を取引し年額數萬圓に上る。邑の南端に竹西樓の勝地あり。關東八景の一に數へられ、五十川に臨み絶壁千仞奇景叢列、竹西の飛樓ありて風光絶佳を以て知らる。

サンテーモン ——社 臺灣高雄州屏東郡にある著社。陸家溪の流域の山地にて、北部パイワン族中のアクル系統に屬す。高砂族の部落。比較的平地に接近するため見學の人々の杖を引く者多し。この社は古く山猪門と記され、淡蕃にも記されし有名なる著社なり。

サンテン 三田面 朝鮮黃海道黃州郡の西部。大同江左岸に位置し、東は青龍・永豐の兩面に、北は黃州川を距てて九聖面及び兼二浦邑に相對し、西は大同江を距てて平安南道德岡郡多美面、南は載寧江を距てて安岳郡安谷面に相對す。北部の黃州川沿岸は小丘陵起伏し流路赤これに從つて蛇曲流を成せるも、南部は大同江及び載寧江の洪涵地にて土地絲めて低平且つ地味肥沃にて本道中重要なる農業地域の一部を形成す。大豆は最も代表的農產物にて、其他に米・大麥・粟・黍・馬鈴薯あり。交通は北方兼二浦驛(兼二浦邑)に近く、總督府鐵道兼二浦線及び京義線に連絡す。域内道路は何れも等外路線にして未だ改修行はれず。四面河川を以て間隔せる爲に渡船よく發達す。面事務所は東部の注洞にあり。

サントー 三東面 朝鮮慶尙南道南海郡南海島の東端部。東及び南は海に面し、北は水道を距てて昌善島に、西は二東面に相隣接し、北部は江津灣に面す。西境に錦山(八六六米)の聳立する外域内概多の丘陵起伏し平地頗る乏し。北部海岸は岩石海岸を成し出入比較的乏しきも、南部は出入に富み沖に馬鞍島・豆島・彌勒島・蛇島・鳥島・虎島・鮫島・艾島・茅島等無數の島嶼非布し多島海を成す。住民は一般に勤儉にて殊に女子の野外勞働に從事する者多きは陸地方面にては他に其比を見ず。生業は農業・牧畜・漁業等に從事し、また江津海沿岸の者は製鹽業に從事する者あり。產物は麥・粟を主とし其他は麻・牛等にて殊に麻は良質を以て著はる。水產物には蟹・石首魚・鰆・太刀魚・鰒・鯛・海鼠あり。郡邑の南海より來る三等道路は南部海岸を經て最南端の彌勒里に通ずる外に見るべき道路なく水路に依るもの多し。聚落は多く沿岸地帶に發達し其主なるものに北より知足里・金松里・洞天里・鳳花里・勿巾里・大地洞・草田・松亭里・彌勒里等あり。彌勒里は南海島最南端の良港にして水深く、附近一帶好漁場を成すために漁船の出入頗る多し。

サントー 三島郡 新潟縣四市十六郡の一。越後國中部の沿海に位し、土地南北に長く、北は西蒲原郡、東はほぼ信濃川によりて南蒲原郡及び古志郡、南は北魚沼郡、南西は刈羽郡に接し、西北は日本海に面す。面積三三五平方粁にして縣下の最小郡なり。西山丘陵刈羽郡北部より郡の中部を東北方に連り、郡境附近に於て高さ約三百米を示し北するに伴ひ漸次低夷し、郡を略東南部の平地と西北部の丘陵地に分つ。東南部は卽ち信濃川左岸の沖積地にて土地低平、溢海川はその南部を、黑川はその北部を、いづれも東北に流れて信濃川に注ぎ、水田よく發達す。西北部は西山丘陵北半部の西北面にて緩やかに日本海岸に傾斜し、多くは高度百米以下の臺地狀をなし、その中部には島崎川東北流してまた狹長なる沖積地をつくる。郡の北境には彌彥火山(五八六米)聳え西岸に急斜面をつくる。郡の東北部にて信濃川の右折部に位する大河津より、西北は日本海岸の寺泊町に至る全長約一〇粁の信濃川分水路あり。信濃川下流の氾濫と土砂堆積の害を除かんため、大正十一年開鑿完成せしものなり。郡内は農業よく行はれ、米を多產し麥・大豆・蕎麥・甘藷・馬鈴薯等を出し、また繭を產し沿岸は漁獲物少からず。沿岸南部の地は謂はゆる西山油田の一部にて、東山油田と共に縣下重要の石油產出地たり。中にも尼瀨はいま產油額多からざるも米國式採鑿法を用ひし最初の地として、我國產油史上忘るべからざる處なり。北陸道は刈羽郡より日本海岸に沿ひて北上し出雲崎町・寺泊町を經て西蒲原郡に出で、縣道は出雲崎町より東方與板町に、寺泊町より大河津に出で、東南部平地の中部と西部を南北に通ずるものと交叉す。また省線信越本線は溢海川の谷によりて郡の南部を掠めて、來迎寺驛を設き、小千谷町に至る魚沼線を岐ち、越後線は丘陵地中部の島崎川の平地を南北に走り、社線長岡鐵道は寺泊に起り、大河津を經て南下して來迎寺驛に達し、郡内の交通不便ならず。いま國原・脇野・與板・出雲崎・寺泊の五町の外十六ヶ村に分かる。本郡は古の古志國の一部にして建郡の期は不詳なるも室町・戰國の頃の古文書に三島或は山東の郡名見ゆ。これ大化改新の際設置されし古志郡の信濃川以西を割きて私に設きしものにして、いま三島郡に作る。本郡は往々にして古の三島郡と混同するも、三島郡はもと古志國の一部にして大化改新の時の建郡となし、のち室町時代に私に刈羽郡と改めしものなれば全く別地を指す。

サントー 三登面 朝鮮平安南道江東郡の東南端。北は江東面、西は曉達面、東は成川郡三興面・陵中面に接し、南は南江を隔てて黃海道鎭安郡会浦面と相對す。東境には楓於山(七六五米)、西境には祭窟山(四九七米)及び棕山(三〇二米)等聳え、域内概ね山地にして平地乏しく、南江は峽谷を成すため風光美なるも耕地の發達殆ど見ず。產物は粟・大豆を主とし大麥・小豆・米これに次ぐ。他に炭・薪を產す。道路は平壤より面邑三登に至る間は道路改修成り三等道路通ずるも、其他は未だ改修成らず坂路多く車を通ぜず交通運輸共に不便なり。聚落は多く傾斜地に發達し其主なるものに古樽里・生金里・玉井里・松街里・石原里・古鳳里・祭窟里・三登里等あり。三登里は南江右岸に位置し、警察官駐在所及び陸屬三・八の日に開かるゝ市場ありて薪炭・雜穀・布帛・日用品等の取引行はる。

サントー 三頭山 北海道千島列島得撫島の北東端に位する活火山。二峯より成り、大三頭山(八六六米)の北東に小三頭山起る。小三頭山の北東麓は急崖をなして海に沒し、大三頭山の西麓は北流して兒島灣に注ぐ海面川に洗はる。

サントー 山東 【山東村】 福井縣若狹國三方郡の北端。敦賀町の西方約五粁。南は耳村に西方は若狹灣に臨む。面積五〇・四四粁。東境に北より榮螺ヶ嶽(六八六米)・西方ヶ嶽(七六四米)・三内山(五二二米)聳立し、山麓は西方海岸に迫り北方に文鰩魚越の岬、南方に黑崎の小突出ありて各小支灣を擁す。海岸低地に乏しく僅に南の黑崎・苔濱の抱く灣入の奥に低地ありて耕地拓く。生業は半農半漁の形態を示し漁村は比較的北部海岸に、農村は南方に發達す。農產は米・繭を主とし他に蓙製品あり。漁族も少からず。東南境關峠(一〇〇米)越えの縣道は南部をほぼ東西に通じ敦賀市にバスの便あり。この地は和名抄、三方郡彌美郷の内にして、中世以降は織田庄・山東庄と稱せられし地なり、蓋し山東とは彌美の東郷の意にて村名は此の遺稱なり。大字佐田の海岸を黑濱又は織田濱と稱し郷社織田神社あり、佐田より東敦賀に通ずる山路を關峠(一に梅峠)と稱し、若狹兩國を隔界し密接の地にして古來兵戰に利用されたり。大字丹生は西方遙かに常神岬(西田村の北端)に對しこの間を古へ渟田門と稱せり。(織田神社)大字佐田に鎭座。郷社。祭神、國常立命。社記に據るに、景行天皇六年五月鎭座せられたりと云ふ。例祭、五月十三日。

【山東村】 熊本縣肥後國鹿本郡の南部。熊本市の北方約一一粁。植木町の北に隣り、西は田原村・山本村に接し北は吉松村に界し東は菊池郡西合志村に續く。面積九・一八粁。中部南北に豪地性丘陵連り。所々に二〇〇—二五〇米の丘陵あり低地は西部と東部にあり。烟最も多く田これに次ぎ、農產に米・麥・粟・甘藷等あり、また燒鹽行はれ繭を產す。外に仔馬の產額多く且つ馬質優秀なるによりその名聲高し。鹿兒島街道西部の低地を北方山鹿町方面より南方熊本市方面に通じ、其西に社線鹿本磯道南下し、その山本橋驛(山本村)へは西北一粁餘、長浦驛(櫻井村)へは西南約二粁にして交通不便ならず。村名は西北端なる岩野山(二一八米)の東といふ意ならんもいつの頃より出でたるか詳かならず。字小野に小野良實の墓といふあり、永和四年小野篁、遣唐使の勅命ありしとき、藤原常嗣の讒により罪せられ、その子良眞は肥後國山本郡に配流されし時に講居せる館跡あり。

【山東面】 朝鮮慶尙北道善山郡の東部。東は長川面及び軍威郡召保面、西は海平面及び高斗面、南は漆谷郡仁同面及び軍山面に相隣接す。西境に機山(五六九米)の聳ゆる外は概して低山性丘陵地帶を成し、耕地は丘陵の緩斜面を利用して發達し、灌漑の便に惠まれざるを以て畑作行はる。產物は麥・大豆・綿花・大麻・煙草・莞草・麻布等なり。京釜街道は面の南部を横斷し乘合自動車を通ずるも、其他は等外道路にして車を通ずるものなく北半部は交通運輸便ならず。面事務所は東谷洞に置く。

【山東面】 朝鮮全羅北道南原郡の北東部。東は雲峰面及び南は王峰面及び二白面に各相隣接す。小白山脈の餘脈域内に及び西境に天摩山・青龍山(六七六米)等聳立し、域内は始ど山地なるも蓋川が中央を流れ其沿岸に稍廣き平地を成し、耕地發達するも地味肥沃ならずして生產力薄弱なり。產物は大麥を第一とし大豆・煙草・荏・綿花等あり。西南方の南原より來る二等道路は面の略中央を横斷し北方の長水に通ず。この外は何れも等外線にて馬背により僅かに往來運輸するに過ぎず。聚落密度極めて疎にして中央低地の周緣に本洞里・太平里・大基里・節飾里等、北方山間に大上里・上天里等あるに過ぎず。面事務所を節飾里に置く。

サントー 山頭會 關東州旅順民政署管内の西北端。東は三淵堡會、東南は方家屯會に接し、牛島狀をなして西

方に突出し、南は雙頭灣、北は關東灣に面し、東北岸には關東灣の支灣大湖口灣あり。平山・尖山等の高度一五〇米內外の丘陵性山地は中部を東南より西北に延び、東北岸と南岸に小低地開け、南岸(雙島灣北岸)には鹽田發達す。道路は水師營會方面より南岸に來り、中部丘陵地を横ぎり、東北部より三澗堡會方面に通ずるも交通なほ便利ならず。

サントー 蠶島面 朝鮮平安南道德川郡の南部。東は大同江を隔てて孟山郡玉泉面に相對し、北は德川面、西は蠶上面、南は孟山郡封仁面に各相隣接す。北境には、妙香山脈に屬する長安山(一二四八米)、南部には白雲山(五〇九米)聳え中央部を大同江、東西に流れ面內に入るや流路を西に轉じ、其處に見事なる嵌入メアンダーを成し、兩岸數段の河成段丘の形成を見る。耕地は主として此段丘上及び緩斜面を開墾し畑作を主とす。農產物は粟・稗・蜀黍・大豆・馬鈴薯・煙草等にして薪炭・麻布等の產あり。西南方平壤より來る二等道路は面の東部を縱走して東北方孟山に通ずる外は未だ改修行はれず、土地の僻遠と坂路のため交通概して便ならず。聚落は主として河岸段丘上に位置し、陽村・大坪里・蘆花洞・龍坪里等を其主なるものとす。面邑大坪里は大同江左岸海拔一〇一米に位置し面事務所・警察官駐在所等あり。

サンドー 三道

【三道】 →吉田村(石川縣能美郡)

【三道面】 朝鮮全羅南道羅州郡の北部。東は平洞面及び光山郡松汀面、北は本良面、西は咸平郡月也面及び羅山面、南は文平面及び老安面に各相隣接す。南部は花崗岩の低山性山地を成せども、北半部は土地低平にて榮山江の支流黃龍江これを灌漑し、地味肥沃なれば農業に適し氣候の溫和と相俟ち農產豐富なり。產物は米・大麥を主とし・豆類・棉花・紬布・諸種の竹細工品あり。最近果樹の栽培漸く盛となり梨・苹果等の特產あり。光州・靈光を結ぶ二等道路は北部低地を東西に横斷し乘合自動車を通じ、總督府鐵道湖南線松汀里驛(松汀面)は東方數粁の地點にありて交通便なり。面事務所は面の中央なる大山里にあり。

サンドー 山洞面 朝鮮全羅南道求禮郡の北部。東は全羅北道南原郡山內面、北は同朱川面、西は同水旨面、南は龍方・光義及び馬山・土旨の諸面に各相隣接す。小白山脈中に位置し、東境には般若峰(一七五一米)、北境には萬福臺(一四三七米)、西境には天馬山(六五八米)、南境には老姑山(一五〇七米)等相聳立し、域內山岳重疊しただ僅かに西施川の溪谷の間に狹長なる低地を見るに過ぎず。產物には大麥・蕪菁・棉花・麻・煙草等あり。また明紬・麻布等を產す。僻遠に位置するを以て道路の改修未だ行はれず、車を通ずるもののなく交通運輸極めて不便なり。面事務所を外山里に置く。本面はもと內山面・外山面なりしも最近合併し現在に至る。

サントク 三德面 朝鮮平安南道成川郡の北部。東は四佳面、北は雙龍面、西は順川郡新倉面、南は通僊面及び成川面に各相隣接す。狼林山脈の餘脈延びて四境山を繞らす。卽ち東境には四道山(八九一米)・梅花山(六七七米)等、北境には鷄頭山(五二一米)、西境には五峰山等各聳立す。而して中央を南流する沸流江沿岸に僅かに低地を見出す。住民は生活程度概して低く粗衣粗食に甘んじ生計一般に裕ならず。產物は葉煙草・絹布・木炭・大豆・玉蜀黍等にて、栗の產額は頗る多く平壤栗として他地方に移出す。道路は成川邑より三等道路を通ずる他は何れも等外線にして交通便ならず。聚落は主として沸流江沿岸に分布し、上流より雙林里・下林里・新德里・岐倉・蘆洞里・文源里・大洞里等あり。岐倉は中央に位置し面事務所あり。

サンドゴヤ 三斗小屋 (栃木縣) →高林村

サントマリ 三泊 北海道天鹽國留萌郡留萌町の大字。省線羽幌線の三泊驛(昭和二年設置)あり。三泊はもと村名に呼び留萌郡三泊村と云ひしが、明治四十年留萌村(明治四十一年町制施行)に編入せり。

サンナ 山南村 廣島縣備後國沼隈郡の南部。北東は熊野村、南は千年村、西は壺江村・金江村に界し、東南の鞆町に近し。沼隈半島の中央部を占め、高さ二〇〇米內外の丘陵性山地廣く分布し、山林地多きも、中部には東北より西南に延びし低地ありて田地拓け、丘陵地の斜面にも畑地營まれ、米・麥・藺草・蕃藷等の農產あり、また工產に疊表・花莚・蓙等あり、備後表として名高き疊表の本場の一たり。北方福山市より來る縣道は中部の低地に沿ひて南隣千年村に出で、バス通じて交通不便ならず。中世は山南庄といふ。元和六年これを上・中・下山南村の三箇村に分ちしも、再び合して山南村とす。〔寶光寺〕大字下山南にあり。眞宗本願寺派。明石山と號し、大同元年傳教大師の創建に係る。舊寺領三百七十五石を有す。もと天台宗なりしを貞應の頃現宗に改む。開基傳教大師の像を安置す。〔光照寺〕大字中山南にあり。眞宗本願寺派。金明山と號す。元應二年、關東六老僧の一たる明光房了圓の開創に係る。江戶時代には寺運隆昌を極め、國內を初めとし備中・石見・出雲・安藝・長門に亙り數百の末寺を有せりと。

サンナイ 山內

【山內村】 秋田縣羽後國平鹿郡の東部。郡の主邑横手町の東に接し、東は岩手縣和賀郡に界す。面積二一六・〇一方粁。一村にて平鹿郡面積の半に達する大村なり。東は奧羽山脈により岩手縣に界す。其間に一通谷ありて、横手町及び和賀郡黑澤尻町間の交通に便す。往昔は白木峠(六〇一米)を通りしも漸次その南方の通谷を通りて往來せり。現に省線横黑線この通谷中を通る。北部・南部・西部全て山地を以て他に隣り僅かに西北部横手町に連なる處に平地を見るのみ。北に御嶽山(七四四米)あり、南に南郷嶽(六八一米)・三森山(一一〇二米)等の山嶺あり。旭川は之等山地の水を集めて松川・黑澤川・武道川等と合し西北流す。耕地は此の河谷中にありて道路亦河道と並行して通ず。横黑線・平和街道は黑澤川と並行し東隣岩手縣に入る。村落また此の河谷中に分布す。林野面積甚だ大にして純然たる山村を形成す。農業戶數四八四中自作農三〇二に達す。冷害を受け易きと農業經營の小規模なること等により農民の生活窮迫し、農民の外に出稼する風は古くより盛なり。殊に冬季は杜氏として遠く滿洲・朝鮮より內地各地に及び數百人に達す。亦其他の職業に從ふ出稼者も相當多し。なほこの外に冬季は附近農村に出稼するものあり。農產物は米を初め、横手町に出荷する野菜を主とし大字相野々より横手町に至る畑作景觀は、これ等換金野菜により特殊なる狀態を示し、養蠶も盛にしてその飼育戶數約四〇〇に及び、その賣上價格約五萬圓に達す。また紬織行はれてその堅牢なるを誇りとす。木炭製造また甚だ盛にしてその額一一萬圓に及ぶ。旭岡に旭岡明神あり、近郷の崇敬大なり。小松川は古來交通の要地にして、郡邑記に「小松川村白木峠南部領この街道にして御境に番所あり。此の村は南部領よりの商物駄賃を以て得益とす。牛を以て駄送し來る。されど御國よりは出荷物なし。」〔鹽湯彥神社〕大字大松川に鎭座。鄉社。祭神、鹽湯彥神(一に熊野速玉神といふ)。大山祇命を合祀す。創立年代詳かならざれども、式內の鹽湯彥神社これなりとせられ、弘安年中一遍上人此地に來りて、源時直をして再建せしむといふ。其後兵亂の爲め荒廢せしを、江戶時代正德四年藩主佐竹義格命じて再興せしむ。爾來佐竹氏の崇敬篤く、黑印領三十石を寄せらるといふ。舊稱熊野堂又は御嶽權現。例祭、陰曆六月二十日。

【山內面】 朝鮮江原道伊川郡の西北部。東は板橋面、南は鶴鳳面、西は學壤面及び黃海道新溪郡古面に、北は黃海道谷山郡東村面・雲中面に各相隣接す。東境に石峰(八〇九米)・杜霧山(五四六米)、南境に三無山(五九一米)、西境に長在德山(七五二米)・栗木山(五九一米)・華蓋山(七五九米)等聳立して周緣を劃し、餘脈域內に及び山地丘陵横はり其間を臨津江の支流山內川南流し、沿岸河岸段丘による猫額の低地を見るに過ぎず。住民の多くは農を生業とし傍ら養蠶を行ふ者少なからず。物產には大豆・粟・大麥・米・麻・煙草・明紬等あり。道路は東南の伊川より三等道路を通じ面の略中央を横斷し西方新溪に通ずるものあれど、途中發銀峠(四九〇米)の險坂あり、其他、面邑松亭里を中心とし道路網四通すれども車を通ずるものなく交通概して不便なり。松亭里は面の略中央に位し、面事務所・警察官駐在所等あり。

【山內面】 朝鮮忠淸南道大德郡の南端。東は忠淸北道沃川郡の郡西面、北は外南面及び柳川面、西及び西南は全羅北道錦山郡福壽面、東南は同秋富面に各相隣接す。東北には食藏山(五九八米)、南境には萬仞山(五三七米)ありて各相對峙し、域內一帶に丘陵性山地を成し平地極めて乏しく耕地は緩斜面または臺地面を開拓し、從つて灌漑不便にて主に畑作農業行はる。產物には米・大麥・大豆・棉花・煙草・生牛等あり。北方大田府より來る三等道路、面の東部を南北に縱貫し乘合自動車の便ある外は、等外路線にして車を通ぜず。聚落は普遍的に分布し面事務所を北端の大別里に置く。

【山內面】 朝鮮慶尙北道慶州郡の西南端。南北に狹長なる地區を占め、東は西面・內南面及び慶尙南道蔚山郡斗西面、北は永川郡北安面、西は淸道郡雲門面、南は蔚山郡上北面に各相隣接す。東境に斷石山(八二七米)、南境に高巘山(一〇三三米)・文福山(一〇一四米)等聳立し域內山岳重疊し、中央部を西流する洛東江一支東倉川流域に僅かに平地を見る。產物は米・大豆・大麥・小麥等あり。工產品には紙・木棉・莚蓆等あり、殊に紙は良質を以て著はる。僻遠山間に位置せるため道路の改修未だ行はれず運輸交通不便なり。面邑義谷里は面の略中央に位置し、警察官駐在所あり。また陰曆三・八の日に開く市場ありて、穀類・日用品・紙等の取引行はる。

【山內面】 朝鮮慶尙南道密陽郡の東北端。東は蔚山郡上北面、北は慶尙北道淸道郡雲門面・錦川面及び梅田面、西は密陽郡上東面、南は山外面及び丹場面に各隣接す。北境には雲門山(一二〇〇米)・億山(九六〇米)・九萬山(七八五米)等相連なり、東及び南境には、陵洞山(九九二米)・天皇山(一一八九米)・正覺山(八五九米)等聳立し、何れも突兀たる山膚を現はし峻嶮なり。而してこの南北兩山地の間を丹場川西流し、西部に至り流路を南方に轉じ南流し、此附近に至り稍平地を見る。住民は概して質朴、古來頑固の氣風存せしが近時大いに改まれり。產物には米・大麥・大豆その他雜穀を產し、また煙草・茬等の產あり。道路は總督府鐵道京釜本線密陽驛(密陽邑)より三等道路を通じ、面內を東西に横斷し彥陽に通じ、また慶州に連なる。聚落密度小にて、その主なるものに臨皐里・松柏里・佳仁里・院西里・三陽里・南明里等あり。面事務所を臨皐里に置く。

【山內面】 朝鮮全羅北道扶安郡の西端。